

AC 145 G855 1939 v•2 Gunsho ruijų

East Asia

PLEASE DO NOT REMOVE CARDS OR SLIPS FROM THIS DCKET

UNIVERSITY OF TORONTO LIBRARY











第

貮

輯

續 群 書 類 從 完 成

會

東

京







AC 145 G855 1939

神祇部二

群書類從第貳輯目次終	
	竹生嶋緑起
春日社參記····································	参第二十四 参第二十五 参第二十五 参第二十五

神 祇部 十六

第一 春日權現驗記繪目錄 承平詫宣事 卷 詞 前關 白

第二卷 竹林殿事

詞 同 前

寬治御幸事 條關白事

詞 同 前

第三卷 堀川左府事

第四卷 信 經 事 詞

天狗參入東三條事 同前 永久春日詣時神託

庭 鴻和 歌

事

永久衆徒鬪亂事

金峯山御幸事 第六卷 第五 俊成

卿事

攝条

政

第七卷 經通 蛇吞心經事 狛行光事 卿事 詞 同

前

第八卷 清凉寺本尊事 近眞陵王事 詞 同前

事

撿 挍

保

己

集

條內府事

後德 普賢

大寺 一寺攝

左府 同

政

事 事

卷

詞

前

季能 卿 事

親宗卿 非

開 蓮 是房夢事

依唯識論功能遁病 隆季卿家女房夢事 難 1

卷第十六

春日權現驗記

第十卷 第十一 第 第十三卷 第十二卷 九光卷 教圓座 恩覺事 藏俊贈僧正 惠曉法印 林懷僧都 祈親持經事 法藏信都 利 卷 僧都 卷第十六 生事 詞同 詞關 事 事 謞 事 詞同 事 詞 同 事 同 前 白 前 前 前 教懷上人事 離寺僧蒙神託事 壹和僧都事 惠珍夢事 永萬夢相事 永超僧都事 第十九卷 第 第十七卷 第 第十五卷 十八卷 解脫上人事 清 唐院得業事 顿 正安神鏡事 同 明惠上 ·六卷 增事 乘院僧正 、覺房 事 八事 詞冬基 詞 詞 詞 詞 前 同前 同前 良信僧正 關白 卿 唯識論安置屋遁火灾事 乘院 璋圓事 紀伊寺主事 教英得業事

權大納言冬基卿 隆 覺僧正事

晴

師

事

勝詮僧都事

第二十卷

詞

同

前

慶事 雅律

应

彩

詞

識論道火難事

詞 繪 嘉元神火事 前關白父子四人。敬神之志懇切之餘。為結 右近大夫將監高階隆氣

繪所預

目者覺圓法印注。出之。且相。談兩前大僧正,綠,不,可,交,他筆,之由。所,被,約諾,也。出篇

有"吉祥。爱知 磋,重可,書加 之怨志。爲增,諸人之仰信。大概類集之。 予禀,藤門之末葉。專仰 範憲。訖。 相計叶神々之冥慮」軟。後輩彌可」抽 - 者 也 .凡企,此怨志,之後。家門 當社之擁護。不一耐 逐 一觸,事 猶 敬 切 神

敬信之精誠,而已。

左大臣判

第一卷

ば。天より寶釼 中國 の安寧 夫春 ひ の影を か 1 b 日 をま 大 か をやはらげ。法雲等覺の薩埵。 明 < 給 す。 神 もり給 し時。 は。滿 専一 をな 邪 朝の忠神として。 月圓 ゖ 天 神 T 津 2 明の如來。久遠 き天 せぎ これ 皇は 12 を誅。大汝命。事 τ まつ 、內證 鎮 め りし T E 成 葦 本 道 匹 原 海 地

神靈 九五 萬民 をし 代主 或 て都鄙やすからざりしかば。武甕槌の n 兒屋根尊。合躰 二年春 0 あはれみて。陸奥國鹽竈浦に 1 によりて おなじく第四御殿にあとをたれたまふ。こ 神 經津主香取。武甕槌命塵鳴。等追 ば。む は ば 社 3 L 威 の位 一命。天照太神をあやぶめた ょ ひて博陸 のうれへをやすめ給。 ひらきては六合のとこやみ りし 法相 E り鹿 12 かっ 御裳濯 から おそれ お 時國をおさむる矛を奉る。天岩戸を し我朝惡鬼邪神 擁 72 嶋 V 護 13 0 P tz 御製ふかくして。伊勢大神 のな よせ かに。 河の流千 う たてまつりて。 てまつる。 0 B め おもし。 御 せ 笠山 秋の 御笠山 給 すな 2 あ あまくだり給。 H 0 2 0 かげをうか 討使として。 或 は てまつり 0 わ 0 < 嵐 13 ち神館常 をて らし 源 は ち天照 萬 12 う 歲 12 聖 命是 陸國 げ 12 0 謹 1 大 3 かっ 名 b 景 神 7 跡 h 邪 Z 0 n 多 n B 兩

験とし 承集は び 赤 は に候。 殿守ならび 風 お H 0) つしみおそれて候。又今月廿三日より 御讀 をよぶところ。前後をたじさず。聊後素 いにしへより今にいたるまで。しるし 秋月 なじ たま 吹。子時 して。 日野に勝 けれども。 七年二月廿五 、與福寺僧 菩薩 ٤ をあ ふりて へと香取 娴 五 中丹をはげまさんとなり。 重 に橘氏女御賓前 に預などをめしあつむれば。已 0 72 ざけ 月光も三笠山にしかず。 0 利 るは 成 冬影向 春 勝圓をめす。 平岡 益 りた 1= 0) 日亥時ばか 72 H なし。この花月をもてあそ 花をも の雨 きる。 あらたなり。 し給てよりこのかた。 b. 神 秋津 てあ にて聲をは か 即御託 に申されしか り神殿 るを公家い そび。 洲 しか 0 宣云。 鳴動 花 中 八 なつ。 あれば。 に をき見 Ш 門 0 あら 我 包 ま 野 L ば 神 Ť 霊 悟 經 ક お 智 かっ

公卿 名のらせ給。太政大臣 せ事ども ば 天 もわがことはる Ç 台 か Ш ありけり。 7, 修 申侍覽と申せば。 行 0 僧 T 所也など。さまべく 良 及左右大臣 申 17 3 慈悲 は 万行菩 菩薩 もろく 0) おほ 御 لح 0 名

繪

來給にか 所 ٤ き所なりとの b. 大 允藤原 あり。 和 號す。春日 大和河 國 平奉郡 貴女この 光弘廣瀨郡吉南殿 .と光 の北 大明 い給。 夜摩鄉 弘申けれ 0 神御 所 邊を見れ かっ 1= に一の 影向 なる人い お ば は して とい 0 ばよる 所 震 子孫繁昌 也 地 ふ所にす あり。 n 1 (0 カコ 所より 竹林 す か 3 右 3 17 馬

をおほせられて見え給はず。 三笠の山のうき雲のみや 我宿はみやこのみなみしかのすむ

繪

の號を得し

めざるやとおほせらる。こく

梁園にことならずとなん。 請 くさ 12 春 三年のころ。 年六月十六日 光 つりて。 と見けり。 0 め 似 を 日 3 弘 て土木 かっ 大明 へに 夢想 か TZ 3 b きけ な をか 神也 W 貴女飛來 によりて。天唇二年二月廿 ならば から やが 藤原吉銀が夢に。家の < にこ まへて。村上天皇に奏聞し 家た より此ところにすむ。 て社をたて神をあが 神 汝が子孫繁昌すべ 竹をきる まに修竹 の所に來宿 カコ ての給 く竹しげくし やう。 ~ b からざ よく す。もし竹し 我 は 西 て。竹林 汝 。其後 3 しと被 五 め 南 か口し 日 から ょ たてま 0 竹林 は U 氏 IE W 仰 T 起 げ 蒙

b 寬滑 りておほせら りける 人々色をうし 六年七月 御山 3 太上天皇白河 にて俄 なふほ 8 う。 10 3 例 春 院。金峯 H ならぬ 山 龍 顏 邊 山に御立 逆 御 12 鱗 V 侍 L 0 幸 氣 3 お

> せ事 て。此たびの御願はたしとげられにけり。 0 きかなどさた 0) 12 n 雅實など候 せたまは な るべきよし也。 か まつらる。 0 事 せらる。大部 むねありて。 19 12 13 ちさりに ふかく耻 あ よりになどか b ししく りけ わざとの ぬと仰られて。大納言師忠。中宮大 叉左 けり。 れば。 3 はれ かっ ありけれども。 思食ければ。路より 大辨匡 其後御 大 すなは へ給へる源氏たちかなと けるを御覽じまはして。 乘 さて御氣 をの 臨幸までこそなか 幽閑 經 房卿 ち く、恐をなして をぐし 心神本に のすみ 春 13 色さめさせ給て。 日 仰 て當社 社 ことさら かをもとぶ て御 Z 神 還御 くせさ 5 願 馬 め 御 、御幸 書 を 御 あ 前 반 18 12 浙 3 お đ) 5 御 あ Mi 13 夫 路

第二卷繪

ああ

あ

| 去年の御願によりて。寛治七年三月舞人一員

春日權現驗記

切經論 をめ から 育門にうたれて今に現在せりとなん。 りける。御託宣ありてめしいだされて。經藏 りて。御經藏とい ることな 代御敬神 おそれを謝申されけり。それよりこのかた代 をながく供料に寄進せらる。かたべ~先日の 口 舞にたつ。左大臣陪從の列に加立。 ゆくしき 儀式をつく されけり。内大臣以下片 たく。 の僧ををかれて しぐして春 を ·神威 他にことに。 ינל 叉伊房卿 も掲焉なりけん。其後康 せら 日社 کم 轉讀せらる。越前國河 れて。社頭 額をひそかにか きをきた に御幸あり。事にふれ の北 臨幸も連綿として 0 かみ 1: 經藏 響先 例 夢のつば をた 和 年 B たり 口庄 T あ の á T h

永久元 H 興福寺の りて。 年 衆徒發向せしかば。公家官兵をつかは 延 末寺たるによて本寺おほきにいきど 唇 寺の 衆徒清水寺をやきはらふ。

> 給べきと申。何事にかと仰あれは。君いとけな 御報賽尤あるべきかと 申ければ。さして勅答 る。是春日の大明神也とおほせられき。さの 宮のすくめによりて 玉躰 あ く御座せし時。御殿の天井に震動事侍き。大 大明神の冥助也。いかでか神徳をわすれさせ が。恐ながら奏申けるは。我君 その時修理大夫顯季卿仙洞の近臣にて候 鱗ありて。南都を追討せらるべき由沙汰 駒山にて 官兵と合戰をいたす。上皇ことに 逆 してこれ はなけれども。つゐに征罸をやめられにけり。 やし みをなすところに。聲あ をふせがる。なを朝威には をま の聖運は専 りて もりたてま 伊勢の からず 春 け 神 3 栗 H

ければ。關白殿もとのごとくおはしまして。剱 るに。女房かへり入て とりてまいら せんとし 一條關白殿出仕の時劔をわすれさせ給繼 たりけ

れば。まづ子細をたづねきかせ給てのちぞ御 をあがむる御心ざしふかくて。寺より使まい げのごとくしたがひまもり給て。かやうに現 5 房 膳などもまいりける。 じ給とぞ時 ちょり。など劔をもちてまいらぬぞとおほせ を御ひざの vさきのごとし。これは春日の れければ。 おどろき したにをきてほくえみ。給はず。女 あやしみて歸まいれば。御車のう 。あさましと思ひてかへり入ば。又 の人申ける。おほかた此殿は寺社 大明 神の か

繪

とにてありけるに。たい 方事の ほかに御年 まさりて おはしければに 時。堀川の左大臣のむこになりたまひけり。北 知足院の關白殿いまだわかくおはしましける や。いと御心ざしもなかりければ。 ならずなり 給たりと 本意なきこ

まふべからず。氏をつぎ給べき人はおはすめ 物の子をとりて御子と申也。さらにもち しきありて。春日大明神つかせ給にける。さて こなはんとし給に。左府にはかに例 りとおほせられけるは。法性寺殿 やおぼしめす。ゆめくなき事也。 このむまれたりとて むこの大將殿に見参せんと申されければ。お まれたる法師の子をとりて御子のごとくに にけり。この事ほいなさに、左府にはかくし てひしめきける。むまれたまへる御子うせ給 て。左府もよろこびおぼしけるほどに。 人のむすめのはらにむ べし。これは左府の もひもよらで對面し給に。左府 てなしけり。夜々の儀などうる はしくとり てまつりて。女房たち申あはせて。そのころ おとしに かっ しづかる まれ給たりける也 右大臣 のたまふやう。 ノ子 そべろなる 御 は 顯 ならぬ 。御産 房 4 我 と中 子と 12 け お b 10 12

のよしを 返々の給て後さ めにけり。左府かくる事をいひつるもつやく おぼし給はざりけるに。よその人あ りつるしだいをかた り申ければ。老の後にうき耻かき ぬる事 くちおしとれば。老の後にうき耻かき ねる事 くちおしと も。大將殿さして御心ざしもなかりければ。お しましよ らずなりにけり。あさま しくめづらかなる大明神の御託宣とぞ世の人中おもひらかなる大明神の御託宣とぞ世の人中おもひける。

繪

れしさに哥をよみてたてまつりけり。女房う覧じて御扇をかの 女房に給はせけり。女房 うの女房のもとへ つかはした りければ。殿下御の女房のもとへ つかはした りければ。殿下御の女房のもとへ つかはした りければ。殿下御の足院殿長者にておは しける時。永久 二年十年

三笠山まつふく風ものとけくて

みかさ山さして頼める君なれはかく申たりければ。

へて。屯島の宮こででまつりけり。とおほせ られけり。國司これをみて一首をそとおほせ られけり。國司これをみて一首をそとおほせの陰を長閑くやみん

千とせまてかけてそまもる氏人のへて。鹿嶋の宮にたてまつりけり。

三笠山かせきの嶋にすまねして中臣則助示現にかふりける御哥。中臣則助示現にかふりける御哥。 その夜大禰宜かみへといます君のたまつさ

繪

かくめつらしき跡をみる哉

はじめはおこり心地のやうに日ませにおこらをよびけり。かくるほどに殿下御惱の事あり。へ御勘氣によりてめしこめらるくこと數日に春日正預信經は 秀行六代の 孫なり。知足院殿

53

n つる。大聖たすけ給 摩を修せし功をばひとへに君にゆづ 日 正 0 난 やがて ようの 僧ど 給 のあいだこもりて。滅罪のた 增譽加持 とて僧正 け おこらせ給ければ。僧正那智瀧 3 72 かず ち 30 も確など給ていでぬ しまいらせられ なをらせ給 め 後 L 1-あ は 0 日 へとせ めら R ぬ。いまは 1-8) 弘 發 H し中に。 けるに。 5 しか せ めに 給 おち 智瀧に三千 ば 不動 け h b. させ給 乘寺僧 御氣 12 の護 T 有 色 ま 驗

給

數 みえさせ 3 次 ざきよりもこ とにせ H り。なを増譽僧正をめさるれば か つも 30 よひ。御 た例 b 給へば。殿中のさはぎこともをろ b D 御 0 つめ 氣力 ときに發らせ給。 ちり の色などもか もよは か めふせて くまいりよりて らせ はりて。今は 給 御惱 御 12 b 面白な るに。 3 すで 御眼 さき 13 V ٤ 0 カコ 日

> き大神 靈の たくりをも見。大神少神の 色を見 なはざるにやとて信經をめす。 て加持したてまつり まへてこそ加持護念すべきに。おろかに にこそ。信經めしこめたること。 申。この さとらざりけり。返々あさましきことや。 りなし。験者とうはまづ病相を かしこ たて 0) まり 時たかき大神とは か まつりて。 V て中やうは。 b 給 なるべし。 it とを る引 増譽の 春日 < B つた 0) つと 所為 しる也。 Z 3 0 to なき身 かっ T 大 も恐 をも 冥慮 < 神 お 生 申 13 0 か L 御 70 12 b ば b 3 当 ŧ 3 か かっ T 死 かっ

繪

有餘 見 むかしのお たる淨衣を着してよろ ぼひい 信 經め るより 0) しに 老翁 かうべ より ż の鬢眉皓白 かげもか てまいる。腰ふ く物 < にして。し さび やとおばえて。 でたる。商 たるさまな たへ b な よら 3 うち Щ \$2 -

法性 たまへば。御ことばいまだをはらざるに。涙に 神の御まへにまいりて。いがきのもとをあた なりてはまた病をうけざるほかは毎日に大明 れば。いとと涙せき あへずしばらく ありて申 ほど心のうちになに事をか思ふとおほせらる むせびかうべをたれて。やくひさしくして。け とめらるく事けふはいくかになるぞととはせ **徐の老のなみに たゞよひて。大明神にわ かれ** ろより きみの御いま しめをかうぶりて。七十 12 いだかせて みやまを ふますと申候き。ひとと る。 むまれてのち 日々にめのとのふ ところに なむぢを具してまいると思て大明神へまい しは。胎内にやど りしより 七月以前は日々に やう。まつたく別のおもひなし。我父母かたり ふはすでに百卅日になり候ぬと申せば。この めずと どの 直 Z 事なし。こくに今年 に御對面 ありて。そもし、めし のはるのこ

たてまつる事すでに一百三十日になりぬ。され させたまへと。涙をながしていのり申せば。こ をいやし奉りて。ふたくびわれを御山へむけ ちこのよしをおほするに。やがて南にむ り申ていやすべしとおほせらるれば。すなは る事なり。さらば今度の御惱を大明神にい 下に申させたまへば。まことにいとあはれ をきかせ たまひて。なくしくことのよしを殿 たへ。聲をたてくなきのたれば。法性寺殿これ てもなげくことたどこればかり也と申てうつ らざらむと。あまり心うく侍ればねてもさめ らずして。ふたくび大明神をおがみたてまつ にて無常にしたがひなば。ながく舊里にか がごとし。力なくしてたゆべくもなし。みやこ をまつほど也。いはんやこの夏の天炎暑むす ば老耄の身は病なくともいづるいきいるいき て手をすりて。ねがはくば我大明神。君の御惱

摩國の大郷をたまはりけりとなん。 手をひ かれてまかりいづ。又御祈の 料所に播さる。北政所は御衣をたまはる。殿上人二人にぬ。御感のあまり 法性寺殿よりは 御劔をくだるにしたがひてたち どころに 本にふ くし給

| 繪

第四卷

條 狗 その御聲につきて春日神主時盛まいりて候け 明 ずるに。その僧のくちに鳥のはしつきたり。 うちに或たうとき僧をめして密教をうけさせ 知足院殿 り。これをみて 天狗法師ども みなく~にげう 三人すくみまいり てゐたり。なに物ぞと 御覽 たまひけるに。そのかたはらにしらぬ法し二 が神は にこそあ の中などに 東三條に はせ侍ぬか りけれと 思食て。いかにこの東三 かやうの物はまいるぞ。角振の おはしましける比。御夢の と仰せられたりければ。

御眷屬にて御祉におはします也。せにけり。つのふりはやぶさの明神

は春日

0

新

知足院殿天下の 執抦として。生前の 榮花をき きざし給へるうれしさに。隨喜の涙のところ ことにうれしく侍り。そのゆ 0 ならずおぼしてかしこまり給へるに。この童 境生故。あなおもしろやといふに。殿下たぐ 理一皆不、雕、識。然此內識有、境有、心。心起必託內 童にはかにけだかきすがたになりて。雖、觀 にまいらせ給たりけるに。十一二ばか ば。出家のいとま 功成ぬれば 身しり ぞかんと おぼした たづらに九枚のやみをまつことをおそれ はめ給しかば。すでに四旬の齢をすぐして。い とを おぼしめして。かざりをおろ さむと思ひ 中樣。 我は是春日第三神也。 を申さむとて春 この へはつ ねなきこ たび H 0 りなる兒 りけれ 見参は B t,

の妙理 なれずして。境界ほかにあらはさる。唯識甚深 て。人の善惡をはかり知ことたな心を指すが 賴長は はせねば。 手跡うつくしく。詩歌管絃たくみにおはしま 子をもち給へば。二人ながら氏長者につらな 文は慈思大師の 給てあが をなやま るべけれども。神事佛 ごとし。されば宋代に はありが たき人にてあ せばよによき人と申べし。しかれど道心のお り給べし。 忠通公世の まつりごと すなをにて ぞ我は せきを もしらせ たてまつら むとて 託宣し侍 り。相構てわすれず無常を心にかけ給 也 全經を業として 政務き りと うれしとお もふべき。さても二人の男 らせ給 我心にはいたくもかなはず。 き人なれば。我ともな 唯識章にあり。萬法一心には にける。そもく難、觀事理 事におろかにして。氏寺 はずとの お L おとし にし それ

ひ給 の繁していば神人みえず。又御車をすくむれば 躰の曼陀羅も。この御夢におがませ 給たりけ ね かへされけるを。とがむる 人なかりける かこみたる武士のなかをわけて。御車をや て。轅を北にしてとゞまり給にけり。前後う 日大明候おぼしめす様あるに こそと きごとく。かくする事二三度になりけれ の神人まねきたてまつると御覽じて御車 邊まで行幸供奉し 給けるに。 うしろより 黄衣 おなじく 關西の道におぼしたちて。 五條大宮 かば。壽永に宗盛公以下西海に 普賢寺攝政殿は平家とひとつにおはしましく ると申つたへたり うぎの ぶ ける りけり。又世中にひろまりた 事になむ。すべてこの殿 1: や。春日 の寳前 にては おもむきし時。 は 神慮 鹿御 垂跡 おぼ カコ をと ほ カコ 御 な کہ 春 'n

後德大 子公守ときこえし人祭の使にて春日にまい 寺の左大臣そのか お は する 事十二三年に み大納言を辭退 およびけ Ď. して b 御

給

ぬと申けり。

洛するに、京の使は道に あひてすでに 事きれ

はりねといふ。兩人あやしみなが

ず。尤遺恨也。

しか

あればこの

たび

め

L

將

になり給に

けり。

後程なく大 その人の事也とおほせられけり。 申ければ。大納言かくれておはするをさし るしあらせんとの給に。これは誰人の事ぞと まいりたる事返々本意なり。かならずこの 樂 か 給ける。人にもしられ給 けるに。父卿し 0) はしけるを。 ほどなりけるに 納言に 若宮 のびて車 成 0 御託宣 御前 カコ ~ はで。侍どもの (= b (= 0) し給 みこども りぐしてま その年の T, さて -還 4 0) 候 な 向 72 かっ 7 大 神 5

繪

らその曉 命を

£ 多

づ使者のすが 0) 1: そのうれへにたえず。ねてもさめ 冠者義仲遊亂に よりて 大臣をとじめられ か 僧來 祈 くて内 申けり。 て。たと今陳に 大臣左大將にておはしける時。 或 たをあやしみて。なに人ぞと尋 時 夢に 参せさせ給べしと中。 うへ 0) きぬ ても きた 大明神 る 人

使者にあたはず。かたべくまいりがたしとこ 仕の事外記もよをすは例也。與福寺の下所司 太皇太后宮へまいり給。つゐでに 下諸卿みな たへ給に。さきの使者又歸來て申やう。大臣以 なり。左右なく仗座にまいりがたく。又大臣出 はたして兩三日をへて內大臣に還任せられけ れければ。御還任あらんかとおほせられけり。 めて後。ことのおもむきたと事ならねは。翌日 あり。たく今いそぎまいらせ給べしと申。夢さ り。いとふしぎなりし事になん。 興 御參内ありて。天下の事ども 福 寺の下所司なりと申。 此事語 我 は前 沙汰 中さ 官

繪

第五 卷

大宮權大夫俊成卿は父にをくれてみなし子に たつべきとお て人しく みた もひける程に。春日神主時盛が りけるが。いかいして身 多

> うでをして祈禱し給へかしとはからひ申けれ 來 ば。其後月ごとにまいりけり 72 りけるにい ひあ はせ ければ。 當社 月ま

繪

明神に ほかに世おぼえある人に成にけり。これ 年預に補せられにければ。家中もみてことの 人々しく なりて院にもちかく めしつかはれ さぬるほどに。讃岐守になりにけり。やうし かくて月ごとにまいることをこれらで年 へに神恩とおもひて。いよし つかうまつりけり ふた 心なく大 ひと をか

繪

0 なさよとおも ひついけ 4 T ある時社壇にまうで侍けるに。夜雨蕭 かたにけだかき御聲にて、菩提の道 つとなく 社壇寂 々たりければ、つねよりも心すみて。 此 世 のために神詣することのは くるに.神 も我 なとし 御 殿

0 お 道ときこえけ ક ひ やる袖さ 6. へとも 隨喜 10 の涙いか しほれ侍り。 ばか b

兒あ 見とみえけるは。三年ありて 徃生す べきゆ りて なび まで かっ 1= 5 に三位入 ひとす b 門前零落 か 神人 りけ みえ て盛 くて年月へて後やうし、家中もおとろへ。 大明 きて蓮臺家より出けり。其蓮臺に三蔵 三位入道 聲 りける。黄衣 り。夢のつげども あ あ 衰 けるに口。 5 りて。 道往生のよし聞てみければ。紫雲た 神 V 時 して 12 そ 0) 後 ţ, 72 まことに往生しにける。三歳 加 ふなり 世 鞍馬ま 春 護 る に心をか 去年終焉 日 の神人あひぐしたり。 非 12 0 あづ 多 とい 12 大 お \ あ なりけ 明 けて。 か B ひけり。其後 神御 のときも Ç りけり。或人の夢 りけるとかや。 れば。築枯分あ 最後 しりてしか 沙 汰 瑞相お あ 臨終の 3 か 三年 たは 100 ば。 ほ 小 時 あ 0)

カコ

3

せ給 きた 明 をしらず。三位あせをながして驚て。 て僧のかほの色變じてにげさりぬ。 Ļ ごとにぞまいりける。

或夜夢に僧一人來。 正三位季能卿は 俊成卿弟子也。 父能 さまを人 るに。使春日のやしろよりとこたふ。此 んとするほどに身の毛い くろく 神 かくる程に人のをとするを家の U をあふ ぎたてまつる ことあさ b V け おそろ 12 るなるべし。い 3 智。 か 大明 12 しげなり。其僧すで b けり。 神 0 御 う とあ よだちてせ 12 じて 力多 らたなるり V 多 13 からず 0 夢 K) < ち 人 h より きが 0) 歷 かっ 天 12 カコ 训 狗 あ 72 1 づ 3 0 b 12 開 Da

j

也

第六 狛 行 卷 光 は 興福

寺の舞

人なり。

生

年

十六歲

1=

十五

汝もし 給。くるしみの 志いまだかはらず。ねがはくは。我にゆるすべ 専饗應の氣色あり。王にの給やう。この男われ を奏すること 年月に成にける。 あるとき 重病 て後。よりく一社頭に参りてひそかにこの舞 て父に はしますにかと申せば。我は春日大明神なり。 に忠節ふかし。生年十六歳 よりこの かたその りぬ。こくに気だ をうけて息たえにける程に。閻魔の廳に あらず。一々にみてのちにいかなる方便にて て行光を具して地 りのこ るさるく たまふ。 したが とくこひねが 地獄や見たきとおほせられければ。か で給。 おくきみの洪恩なり。抑誰人にてお ひては 王お 行光 やうにすべてい かき人王宮にいた 獄の あ ほせにしたがひぬ。乞得て じめて賀殿の曲をつた ふところなりと申。やが やしみ申けるは。いまゆ ありさまををみせさせ ふべききはこ ら給。 閻王 4 ~

けり。うつと むれば。地獄におちずとをし へたまひきすべし。けうやうは最上の功徳なり。もしよかは此報を まぬかる べきと申せば。父母に孝

繪

禪師つかせ 給ておほせ られけるは。 此病人定 數 がの神人あひまじはりて狼藉なることありけ 中納言親宗卿 りけるをよ ili 正治元年七月中納言おこり心地のやうにて日壽 れども大明神の御心なをゆかずやありけん。 るをながされて図もめ たへ中によりて。平中納言の子 ほどにせめころしにけり。 れば。これをとらへて。すでにまきてせ 僧なりける職者の三位の へてわづらひけり。 びていのらするに。物付に 和泉國知行しけるほどに。か 日をへてまさりけ しはなたれにけり。さ 此 阿闍利 非 國 與 司に とい 福 寺 T ょ あ め 礼 僧あ b 17 b り j す 3

其後病いよく~ まさりて 七月 3 なり。汝祈べからず。はやく一立さるべしとい 明 になり によりて。驗者むやくなりと思て出にけり。 神 13 は 御勘當 あらず。大善は には 病者此世にあら あ あ るによりて。 ながちに たしとげねことあ め んこといま一兩 はや され 廿七日 n め を。 さる うせ 春 in 日大 ~ 12 日 3

H

り。そのとき或人の夢にみる様。

門の

を

春 ま

日

神人三人はしる。なにごとぞといふに。

御たしり 大 人も。い てかならずか の夢にも。神人ひしと聞入とみけり。大明神 る。これ)明神 0 かでか のみならず家のむかへに 平中納 すなはちなどはなけれども。 くぞありける。つかうまつらん つゐにむなしからむ。 言をめす御使なりとい あ りける ほど Ċ

繪

春日の六道とい ふほとりに一の 地ありて心經

> 3 72 の邪執によりて虵道に墮したるを濟度せん せ給てつげさせ給やう。我に値遇せしも 72 其 らる。やがて轉讀すれば平癒しけり。 め なり。 めに心經をのませて惡趣の 中に張行 彩をの んとする るほどに。護法うら 大般若一部を む。こわらんべこれ しける童部たちまち をうち放。返々遺恨なれ よまば をすれば をうち 存 果報をのが 大明 命すべ に重 放 ば 神 病 T ٤ お をうけ け から b b

第 七卷

繪

人 17 0

V 年をふれどもか とて藏 あ 經通卿藏 れば。せめてなげきあまりて。建暦二年正 たり て 重 人頭 人頭 を他人 服 にて になりに へしなさるべき氣色もな 八に改 あ りし時。順 補 け せら n \$2 徳院 お H りふ b. 0

共

後 カコ

h

あ

代始

六日。春日に参籠して。夜は樓門の下に候て。

どかく經通をば頭にはかへしなさせ給はぬ どに五月十日のよ上皇御夢に御覽せらるくや 卿二位に 經通はあるかと 御尋あり。久くみえ と申と御覽ぜられけり。うちおどろかせ給 う。誰ともしらぬ人のかたはらにまいりて。な 灰をお もとにて。寺僧たちきこしめせ。忽に神恩をか めして。哀明神の御はから ひは凡夫には 似ざ れば。この程春日に籠たるよしを申。院きこし と仰あ もりて ぬよし申さる。あはれこの俗は 賀茂などにこ いりて このよしをいふ。そのとき 經通樓門の べきよし仰 りけりと仰 りて さへてまかりいづ。 樓門の 左右の人々 りければ。二品たづねつ かはしたりけ 祈禱するやら むとおぼ くるよろこ びをこそして候 神樂をうたひ笛をふく。かいるほ くださる。十一日つかひ 春日にま ごとあ りて。次の日か しめして。尋よ へしなさる へとて。 T ぞ

> 位大納言までなりて臨終のときもかはらざり 寺僧までも。 けり。さだめて後生も引導ありけんかし。 さめても 南無大明神とのみ となへけり。正二 たとびけりとなん。此後は何ごとにもねても 大明神の御利生た めし なき由

大なりと云と見けり。 は。ひろく五所の勝利をあらはす故に。利益莫 す。南無大明神といふ 眞言一反と なふるとき の眞言にはわづかに一の佛菩薩の德をあらは 汝南無大明神といふ眞言をとなふべし。自餘 比丘尼侍けり。かの尼の夢に。ある人つげて云。 興福寺に尊遍侍從といふ僧の母に開蓮房 と申

繪

もとに侍て。御殿の方を拜すれば。なべてなら 時の夢に。春日社 與福寺綱所範顯寺主。建保五年 正月十二日 寅 に参詣 して幣殿

12 2 とも近真承引し候はじと申せば。俗かさねて。 沂 え よ ゆれば。 か ~" かしこまりて。承候の。たべしこのよしを仰候 ~ よし仰たまへば。家につたふる桴の候は せらるしやう。近真に陵王つかうまつるべき ちのもとにあ ŧ ず つるほ 御 ほ しと仰 の條は 真 まる。 きょし仰つ ばず。けい 0 す。 せか 1: かふまつらじと申 12 どに。 たびて。 け この 御こゑみやまにひいきて 5 もし うぶ 12 0 3 か かも 瑞維 おほ したにた れば。樓門にたくせ給わかぎみ。 難
進
し
申
さ
ば
別
し
て
御
さ
た
あ
る き若 くべ 御前 ゆみ b n んをいでぬとおもひてゆ 0) せのうへはしさ きなりと仰らるれば。範題 君の にて よりたまひて。範顯におほ 西 いそぎまか 0 十七八 くせ給とみ 也。 は n う王つ 陵王の桴つく しより東帶 ばか b 72 いを申 r かふまつ やり りに か で 0 < ねとの 72 お b 1 \$2 俗 は T ば る 7 2 L

さめね。

其まくに作て。錦 曲をつくしけり。笛景基笙忠秋大鼓景賢とぞきこ ひぐしてつかはしたりければ。同年二月十六 範 えし。いとあらたなりしことなり。 て古の 桴をもて 日近真樂人どもをかたらひて。社壇の實前 顯 やが て禪定院に侍け 0 袋に入て本 る桴の 幷 本 夢 樣 を中 狀 など秘 出

繪

太宰帥隆季卿の家の女房に。五條局といふ人の夢に。大河のほとりに奉都婆あり。其銘に・若有重業障。御笠大菩薩。 きなむかきたりと見けり。

第八卷

提山 て其所 建保 ま か ō, 0 いりて とたうときこ ておはしますといふことすでに符合 祈請をいた すとい ひけり。權現御本地釋迦に をのづから春日まうでかなはぬことをなげき 申けり ji. はるとみ 5 たる ほどに。夢のうちに 大明神しめし給や おこりを に。緑につきて一在京の後。ほどとをけれ 我はすなは 0) H かなれ の邊にすみ ころ 釋迦堂にて仁雅法眼笠置解脱房にかた の別當仁雅法眼をもて導師とす。こと 3 る。これによりてことに参詣 ばわがもとへまいるべしとうけた かた 京 1 かっ 1-とな ち嵯峨の釋迦堂に 侍し程に。 るやう。 啓白することありけり。 あ り。この事建保六年十二月 る尼公。 。わが身はもと南京菩 。嵯峨 つねに 0 あり。は 釋迦堂 春日社に参 しぬ。い やが して 12 P t ま

繪

b

下に疫病はやりて 家ごとに やみけるに。この 禪南院範雅僧都が養父大舍人入道 朋どもなど取落けるにぞと。 ろう人
るの
棚 をつたへきくてくはしくその家をみるに。ま 京してかの家に同宿し たりければ。このよし 識論とは が家にき やがてみな退出しぬ。夢さ は唯識論おはします。狼藉あるべからずとて いれて。かぶとをぬぎて拜していはく。此所に ちいらん 入道が郎等男。ゆめに數多の は。そのころ人にしられたる侍也。あるとし めいだし なに てけ とするに。先陣 72 b 0 b. 物ぞやといふ。範雅 て此 お 此僧都つね くより唯識 よしを 0 か めて ともがらうち 72 に宿 武士この家 論第 る。 後翌朝に入道 お ٤ そも L 九窓をもと b 区 5 Z to S ば同 をみ にう B 在 唯

"寺僧利" 僧都は。紀伊國名草郡の人な ь. 戒

安置 な顯 貴 ちに降臨し給て。まづ眞言の壇場を拜しては。 行珠をみがき恵學燈をかしぐ。 て决せむとおもふ。しかるあひだ神人室のう たつの道場をまうけて。 T い かな密教。法相の學窓を拜しては。ふか ・維摩會探題も此人のとき よりはじまれ 致 まだ権實をわきまへず。上階の して。春日の との たまふ。誠に 大明神を勘請したてまつり とり おの べなるらん (聖教道具を 顯密を兼學 東西 きか にふ h カコ は が

となん。

與福 Ш 0 そとは思ひのどむれども。そのうらみしのび にこされにけり。なにごとも前世の宿業にこ をのぞみ 里 語寺の壹 かり にすみ 申 和僧 わた 後に けるに。思ひの外に祥延 都は修學あひかね りけり。その は世 その が n かみ て。外山とい 維摩の て才智たぐ といふ人 講 師 š

> となればゆくさきいづくとだにさだめず。な れぬる友もすてがたけれども。思たちぬるこ るべし。さすがにすみこし寺もはなれ。き の法施をたてまつりけ でて四所の靈社にまうでて。なくくく今は 弟子どもにもかくともしらせず。本尊持經ば かり竹の負に入て。ひそかに三面の僧坊を にとなくあづまのかたにおもむくほどに たくお りを解して。斗藪修行の身とならむと思て。 ぼえければ。なが ん心の く本寺論談 中た ソな 3 うな ひや 限

繪

尾張の 13 りて本寺をはなれてまどへり。人の習うら 施をたむくる程に。けしかる聖來て壹和 うかどひて していふやう。なんぢ うらみをふくむこ とあ はたへの物なれば。 なる 熱田 みが 0 たにつきぬ。しほひの 社にまいりて。しば ことは りなれども ひまを 心心に をさ

城へと 乞食修行者 て日來の望をとくべしと仰らるれば。壹和 ば。さていづち くもなきことなり。い うべを か んなぎ大に な は 72 Da n かる は 1-あざけり 7 此 な ر کادی お 世 かおもむかむ。いそぎ本寺に 1 b のともな のうら ひも それ か 12 よら もまた 6. みか侍べき。 かくはと申とき。 n 陸 仰 與國 つら かっ な ゑび き人 あるべ かっ あら すが 1 か 3 かっ 歸

つくめともかくれぬ物は夏虫の

5 きかせ 我をうたが 恨をなすに 記するも 帝释宫 と云哥 祥延壹 の金札に記する也。その うらをいだして。なんぢ心おさな 和喜操觀理とあるなり。帝釋の札 これ昔のしるべなるべし。 汝 身より あらずや。 ひおもふかは。いざさらば 維 摩 あまれる思ひ の講匠 かっ 0) を 講匠 祥 延にこえら 成 とい つつい V h 2 ですなは は į, よな。 n V くも T 7

> 3 は 師をとげて。四人の次第あた ていそぎ歸 3 D したひしめす也。春日山の老骨すでに つといへども。我は汝をすてずして。か 母の愛子のごとし。汝は 名はかはれども。同く衆生をあ は利物のをはりなれば。神といひ佛とい るべき也。和光同塵は結緣のはじめ。八相 とて。 ざりけりとなん 12 10 うとさーか あ らず。とくく あが のぼ らせ給にければ。壹和かた りぬ。その たならず。渇 愁をやすめて本 なさけ Ĺ か ち 仰 も神託に 次の 0) は なくも 淚 tr とし を ぶこと慈 寺 じけ つか くし 我 te 0) 3 を 成 かっ 請 す JĮ. 道

繪

福 義 東 き短冊をは 大寺の 寺春日社にまうです。さるほどに を動仕しけるとき。苦學いとまなくして。與 法藏僧都 さむとて一枚をおりすつ。探題 は 法 相 宗 0) 人也。 塗業 維摩會影

かか 0 10 3 13 すれ 和 きに ば 智 ども とへば。 お とがめて現文の次第を誦すれば。 b すてくよまぬ 所立 立者 の義科にすべてこの文なし。 こたへけるは。章の なりといふ。題者 文を

者 0 ゆめのうち 文 3 げたまひ くことにてなんありけ は塗業の日必ず所立の本文をふところにい 经 勘 \$2 けり。それより後にぞ東大寺竪義 炳 わ 馬 ٤ 32 して 日來かの あ り。後 文をかくし 1= 春 日 一大明神 つと

背與 0) 清 わ 7 め 5 à) N 13 な b 福 けらせ給て。汝は我 b りけ け くともなく大明神けだかき御すがた さまを概念して涙をながしけるに。 僧住 3 れば。心をすまして春日の 寺の あるとき 秋夜耿々として 緣 かっ けて 护 はなるれど あ づまの方に b 御寶前 月 すみ 100 光

> 汝をすてず。我寺にしばしもすむ人にな なじと仰られけり。 れば。貴賤一子のごとくおもふ。後生もまたお 5

D

九卷 繪

者

あ

やし

み

な

カジ

ら問答しけり。歸て本章

0) 现

第

だりつく。興福寺 L から て。八歳の童を具してうはのそら てあんなれ。おなじくは彼寺僧になさんと思 りにけり。さらば興福 の八歳になるを し琰王も隨喜し給よしをとくを聞て。 す。その中に出家受戒の子あれば、三寳 に。導師のいふやう。人は子をもて第一の む ける。 山の 名だかき學生にて かしみやこ にまづしき 女あ ほとりなる寺にて説法を聴聞し 女やどの のに 出 ある 家 おはすると問 L 寺こそ佛法繁昌の所 せさせば 0 御門の りけり。 やと 御 1-邊 へば。喜多 帕 C も納 は やと 初 わ 智 ける h 0 力多 1 < -1-力; 12

て此 徒もおほく世 心ぐるしさに。 は 燈にて。滿 わたりけ よろこびてねんごろ に あたりけり。母も子の < すれ とい 聴敏人にすぐれ 童 多 ٤ Z カコ 所に るほどに。 カコ 寺こぞりてあふぎたてまつれば。 12 0 門室 りければ。そのゆか おぼえもやむごとなき人にてお 。やがて西の御門のほどにすみ 空時僧都 たりければ。僧都も法器を にいれにけり。 と申人こそ一宗の かい りをたづね ぐし 法

繪

ばるとこのならの里まで尋きた り。そのおもひいまだ達せざるに。わが命すで へに汝が出家修學の望をとげさせむがためな やうく覺えければ。子をよびよせてなくし この童十一歳になる時。は、大病をうけてあ つきなんとす。これ生涯の怨なり。かつは臨 ふやう。我すみ なれし故郷をはなれて。は る事は。ひと 3

> せけり。そののちやがて西の御門の母 兒母 なし。今はこの世に へゆきたれば。まちみて よろこぶこと かぎり ければ。ふかくあは 出家のすがたをみせよ。心やすく見をきて身 とのよしをなんちが師範に申て我め 終の まかりなんといきのしたにくどきければ。 いきたえにけり。 のいふまくに僧都のもとにゆ さまたげとも なり おも ふことな しといひて れみてすなはち出 n べし。 ね きて から のまへ は 家 0) < もと 72 せ は 3 1

繪

死骸にむかひて。わか は L 此女やも かっ ゐたるに。

三日をへて 母蘇生して この小 3 たるやう。 われ死して 炎魔 いふか 後の めなる旅人なれば。あとに ひなきよは わざなどよくすべき人もなし。 れの涙にむせびあ ひなれば。たらむな の廳庭にひ はか 小僧 僧に きれ

喜すとて。

手

をすりな

きよろこぶ

4

か

ž

b

ば。 王 子のび 赦 住 6 きて。このうへは子細を中に をひら 6 b お かっ 炎 をけし愁歎 王ゆ |侶十一歳の沙彌とよみあぐ。炎王これ 我 ぼ < 3 てこの所に < 免すべしと申さるへとお は つ な 恐 するも か KD) たて 春 カコ んつらゆ か かすれば。この女人が る 人充 しこまり よりお な 汝すで く見 まつ は 0 0 滿 12 12 也。 のぞめ 大 し獄 ま らて。 1=)明神 たて i 3 10 7 2 我にむ 72 とほる。こくにけだかき童 神虚に 17 卒む 。冥官 ~ き り。この女は 也。 L E る一人きた き也 きな いさ つる程に。 の冠をか れるて。 けてその にお かっ もひてよみ ٤ なひ あたはず。は b 子與福 かか H お せて 12 怖畏たまし b ほ v 72 わが 童子 功な 申 n 3 たまへ せ 寺喜 勘 ż なら け 5 き事 . 寺僧 から 返 錄 3 弘 やく をき 多院 0 る 1= づ h R **b**. h 帳 かっ n ٤ あ 70 あ

> 高野 經 10 げしか のほ 時 0 h b l, 生かぎ 0 を讀誦して がれ。関 5 け これ 人これ 山に う。小 72 ま ば。 北 さんた を聞 すみ ありしほどに。年月 眼 b 僧 居のすみかをしめて。あさゆ 垫 前 あ は 人ほ 先妣 T 祈親持經 りて めに。ながく本寺のま 0 いと 徃生の 無常 め の菩提をとぶらひ つね ご鑚仰 あ 1= さまずといふこと となる 素懷 お 1= どろきて、 0 ナレ づけ をと 70 功をつみて 品品 へて 0) 1 げけ 0 b ľ 後 ぞみ 0) は 後 ż to 3 0) 法革 をと とな 1b 14. 引 碩

第十卷

所 後 林 一條院 お 0 春 小寰 りふ 論 日 僧都と申人 社 義 0) 御 を心のうちに暗 13 し。宮人皷をならし 參詣 時 Ш あ L 階 Ī h 寺 V 0) 若 b. 别 誦 當 維 經 鈴 摩 真壹 所 7 をふ 0 法 7 僧 味 りて JE. にそ 我 66 0) から 30 念誦 逐 得 弟

と本意 神社 眞 は 1 0) りとなさじと心底におもひて即下向す。 いたらば。この事ながく停止して。法施の 法 な 味 げし たがふ。我若前途を達て 六字の長官 をそなふる所に。如此障礙をなすこ 5 ひ かば。 とい ひ 林 な 懷 がら。信心をおこして 心 のうちに 思ふやう。 3

坳 諸 其後多年を ふといへども この事さらに忘 事とげた 權 きはまりぬ。 のこゑ とひ前業つ さるほどに いは 人をそ 加護にあづかりて出離の道をえんと ざるほどに。宿願ありて七ケ日社頭 をとい 晝夜 ること 3 先途時いたりて 當水の おもひけれども。權威 0 ずして。順 む。その 祈請 な 迎接あやまつことなく。 他にあらず。今生の祭花 れば。社 0 ち社 次の往生かたくとも の司にお 寺務 頭 冷然 になりぬ。思 1 おそれ なること ほ せて す 皷 72 は

ば。神慮にかなふべしとこそ心をやり侍に。 くして。今はたしなく 無上菩提をい のり中 林 悲の御めぐみ もらした まふ事 がつしつの女がふしむ懈怠なるをだに廣大慈 はいかにと思ひて恐み 申やう。あやしの な て。林懐を御覽じて。御けしきあらく 殿のまへのはし二こし三こしおり のたもとをうるほす。其時權現 満足すとおもふより渇仰 の人いでたまふをすでに權現納受し給 たるに。第二御殿より東帯に 笏もち たる高 耐念するに。

二七日に すぎぬ。今七日をのべて ことに な 時の貫主にいたるまで。あやまてることな 懷 じりい とはげしく てうちそむき給へ 3/ いやしくも 祈 申 1= 三十頭の その 満ずる曉う ちまどろ L るしな ひも の返さきだちて なし。 をときしより。 信心をこら くして よそくへに かに御 くだり 七日 b 7 やま 我 隨 ま 御

繪

て出にけりとなん。

康平元年 會の聴衆 そか き給に。西むろのある坊にて笏をたぐし て。勅使左中弁資仲朝臣ちとね入たりける。夢 て。暮座をまつほどうちやすむ事もなく。法服 てみたび拜し給。夢さめて大にあやしみて。 に長者殿下扈從濟々として三面僧房におもむ 彼 永超得業あさ座の後しばらく退下し 維摩會の初座夜に 房の うちをう かじ 入てことをは ひみけ れば。大 < V b

> けり はな かし 聞しければ。やがて明年の講師 させ給けるまことにゆ をきながらわづ げて ぐしくして。歸洛の後この 書籍に かに袈裟ばか むかひけり。大明 へあ b りをぬ V の請を給 b 神 よし ぎて 隨喜 0) 拜威 を奏 はせ の思 於 ig

新

は 春 佛の時 僧都おろくあひ のことども へをうけ給はりて其方法をしらむとおもふ。 しらず。上綱は當代の法將也。ねが 俱留孫佛 すみ侍け 同 らの 人僧都 B 帳の 大明 より 0 3 ٤ 中に神人の に。異形の僧きた 神 伽 申 よより魔界におちて。 ひける。 籃い をね けるころ。洛陽法 ŧ しらへば。當所勝地 んじたてまつる程に。か 72 か けありて、うへのきぬ そろし た口ずなど。さま りて < 成 出 お いふやう。 寺の はくは ぼ 離の ゆれば。 僧房 として 圳 我

卷第十六 春日權現驗記

垂纓のもんに率川の大明神の銘ありと申説もれとおほせ られけ れば他所へかへりにけり。の袖を ふるをときこゆ。さるほどに 異僧おど

縮

侍にや。

寺のうちに永超ををきてたれか權現を拜し 聖教にたづさはりて。嚴功やうやぐつもる。當 或時僧都大明神の御うしろを拜したてまつる も遺恨也と申ければ。こたへおほせられける も。神にむかひたてまつることを得ざる返 てまつらむ哉 ことあ とめず。是によりて汝にまみえざる也と。此御 **ぢわがところにていまだ真實** は。中ところまことなり。深く隨喜す。但な ことばをうけたまはりて。僧都なく~一所資 りけるに。申されけるは。永超ひさしく と尊神 にちかづきたてまつれ の出離の道をも む 72 R

ふふみに心をとめけるとなん。 申て漠恩の 室に皈て。勸發菩提心集な どとい

繪

明神にてぞおはしましける。の松上にて 萬歲樂をまひ たまふ。これ春日大轉讀せしかば。老翁一人隨喜をいたして。庭前天台座主 教圓叡山の窓にして。早旦に 唯識論

繪

じたて まつりて。このやまひい やさせ給 どに腰の病をこりて たちあがる ことか 座して極樂をねがひて。依正を觀す。かくるほ 後には高野の山に住す。三年が程よるひる端 南都に教懐上人といふ僧ありけり。わか は我を拾つれどもわれは汝をすてず。我家は ね ず。この り道心あり て小田原といふ 所にこもりゐ んごろに祈ける程に。夢に貴女おはして汝 時むかしを思いでて。春日 大 明 神 なは を念 へと

等救世 僧正藏俊はことに隨喜申けり。 申 り出てことに歌舞し給とみけり。 紫雲たなびき。樂のこゑ空にきこえて。往生を 御た かならそのしるしあるべきなり。後の世までもれば病あらむ人も大明神を念じたてまつらば るに。權 其後腰には とけにけり。 一面観音にて貴女のかたちをあら ある人の夢に敦懐上人しやう衆の さきよ すけ tz 0 ありとて。空をとびてさり給 現の今の 願 72 あ あり、 かにたちて起居やすらかなり。 3 b おなじき山維範阿闍梨入滅のよ け 彼聖徳太子入胎の るにや。この上人をは 我家 御告かはらずとて。 は西 方に 南 ئة りとの は 四 ねとみる。 か 菩提院贈 御 L 給 殿 りの 給 も我 は十 とぞ 時

第 十一卷

修南 院惠曉法印 は 二明 0 淵 源 をきは めて 一寺

> 長官にいたりにけり。 承とみて。後 う。なんぢは られしかば。 夜より次日 思に。などか 思あり。 とありて。ほ おりけるとき所領につきていさくか ひ侍つれば。 へをと たえい 師範 へば。 b たり。稽古 その 12 の日時までふしたり。 るさまなり。 少事 權別 とき 炎王法華經 なが いなかりければ。 よみたりつとかたられ 我炎魔王宮 くそ 當 0 夢に大明神 10 功先賢にはぢず。 にな よりて の心をやめてつるに をよ してめ より よみ 離寺 請 むべ がへ お ひそ ぜら L せんと は L b 2 せ 0 カコ けり。 とお 和論 S 1= ì か 7 0 あ け 雕 3 す は 3 7 0 寺の 13 わが ئة to L 時 3 h くや 權 4 W 前 ٤ ٤ カコ 3

0

繪

け かう 思 n 3 0 ども n ほ it か 恩免なければ。思あまりて 鳥 書 羽 寫 院 Щ 0 1-勅 すみ 勘 E 侍てとし より て播 大 10 牌國 阴 お にな 神 < b ig

して五年ありて歸寺して維摩會の一問をつとる。御託宣のやう隨喜の涙をさへがたし。はた給て。五ケ年ありて本寺に歸住すべしと仰ら給て。五ケ年ありて本寺に歸住すべしと仰ら納て。五ケ年ありて本寺に歸住すべしと仰ら

兮五廻還暗,二則之月。 草庵結,露而多日獨拾,一乘之珠。 松門埋,煙 め

ける

。自識

の句に。

す。の悲喜あ ひまじ はりて涙をな がし けりとなくとなへら れければ。聽聞のともが らをのを

繪

四所の寳殿の北のはしらの戸開たり。內に寺中の大衆蜂起不,知。何事。然間參詣御社。だをたてたり。その狀にいはく。

自 がせんずなどいふ。夢中このこと 云て。寳殿よりあしをさしおろして御座す。 御すと云々。其雲聳て本宮の南より往。辰巳 神令、還、本社、御むかへの人也。根本の御送に 人に誰人ぞととへば人答云。彼は春日大明 方。本宮の邊に山と等しき長けあ 有,人音,而。寳殿のうちより雲聳きて徃。 の告有。其由。仍注狀如、件。世四日 此とき御寺の 人愁歎して。或流涙し 或いか しきに云く。希有なる の方。其中尤あをき榊の枝みゆ。三宮とお も他も流灰無限。此事方々雖有恐。 幼き人に 世を預てと る人 かた あり。 神明 る 南

とかきたり

繪

廿八日にい たるまで。十ケ日のあいだ 春日社滿寺衆徒此事を なげきて。八月十九日 より同

にし 少僧 その その御形は 弘等也。談義をはじめて後廿三日に至りて。菩 聽衆長賀。濟秀。覺尊。携覺。懃慶。定勝。惠範。聖 擬講覺憲。已講 なりけりとぞ 三宮かへ 外人々夢想ひ 住侶印慶が夢想に。或人きたりて。春日の 都 て心經 敦覺。 一卷を講じけり。講義者權僧正尋範 らせ給ひて。一の鳥井におは 地藏菩薩也 。權律師玄緣。讀師連尊。擬講教 幽賛の談義 心曉。已講玄綠。得業藏俊。得業 とつに かをは と告ぐる あらずして。甚嚴重 じめて。ならびに とみてけり。 します。

繪

第十二卷

に入と見ては 明にた 與福寺權 り。慈母 L 別當贈僧正 Ĭ, らみければ。二親寵愛して 中 の夢に 古 より 一藏俊は。學三藏を兼。道二 この 春 日赫奕 か 12 ٤ 12 ぐひ して やが 口 な 中

6 藏俊 御心 問つかまつ るはおなじ ことにや候と申せ をいとしもおぼしめさずと承れば。申やう。學 給はず。徐 まいらせながら。 ろしまいでらせたれば。やがておがみたてまつ 御こしにてこの門より いらせ給。こくにてお けずの門のまへにて一見れば。鳥居より大明神 ょ その道 たまはず。一宮の る。一宮はあらは U はちず。ひととなりて顔回をなむともせざ て童名を春日といひけり。幼智ありて Ø かば。日新能才いとい名だかくして。まこと の夢に ゆか を恐れ思て禮 心 0 0 宗匠 j 與福寺の東門を 南さまに の三所は ち 御氣 にお たりき。保延六年五 色ながらう なづ 仰に。御社へすべてまい 御 におはします御かほをば した もは 御與 かっ ほの ۲. てまつる。 のうちにてみえ 無下に やうは かっ 御社 月 お せた 100 十九九 ばえ 御前をば 计維 へまい 、まふ。 3 3 H 4 せ 見 b あ 0)

釋迦。二御前をば彌勒 をばなにともしらずして夢さめにけり。 几 御前 をば護法。三御前

けり。 保元年中 かへらず。聞法 ば。影向 たらず。か 0 當寺長講會に因 くりしかば。見人あやしみのくしり 戶 0 の志ありとみゆる。ことに まへに鹿な 明大疏 れきた をよ b T Z 4 をこ して ĺ か

東大寺 春日 るは まつれば けり。彼の人夢に一の鳥居のにしのほ 心聴珍照をまばらんがためにその所にむ て車にのる人にあひぬ。物見をあけたれ づから の社にまうづることをつねのつとめとし 東南院に惠珍といふ學生あり。毎日に 地藏菩薩なり。恵珍につげての給 目を見合。つらく 面謁これにてたりぬべし。けふは その形を 見た とりに ば かふ V を

カコ

なりとつげ おは りて後東 方 10 うしろにし お B عه 3 たま

菩薩 t 寺になにがしの入寺とかや中ける社 報 ざりならずあたりけるほどに。む れは うちになければ。三衣よろづに似ず。一鉢つ 與福寺恩覺法明房 房主この をはな にむなし 上古にはぢず。學をこ ふ。黄衣神人山鹿濟々御車の おろそ ひたてまつるとみけり てすみ侍ける のつ もことに法相をまもらせ給によりて。 一宗の奥義 繪 れて流浪せしに。思のほかに八幡の たなきことを か 思覺 かりし程に。かつは なることをうらみ。 にきえして。ことに ふれてな ほどに。思見もとよ などあきら といひし人は稽古 かへりみて。本 たらざりしほ かに中 かっ 大明神の冥助 つは ければ。大 ど緑 b 寺の 我身 一僧に同 0 し南都 ほ たが ま 多 宿 宿 12 まし

L

カコ

繪

けり。

は御 あの僧をばめしをかれて候や覽。我もと 歸もあるべきほどにやなりぬらむとおぼ 或夜寶前 ば。宗教をまもる しごろ 侍て修學稽古の 道も 投群して 侍 に。この客人きと思覺かたを御覽じて。い きて御對 くゆくしげなる俗。扈從の人濟々として社壇 へまい 評 定 らせ給へば。大菩薩御殿の御戸をひら 面 にまどろみたる夢のうちに。けだか あ b あ b てやくひさ けり。朝家の大事どもさまざ 心には返 しくなれば。今は御 Z ·不便 13 お ばえ侍 W か Ũ にと 10 3

> にして音樂空にきこえ。異香室にみちて。 すび。たじなく出 ず。やがて寳前 きことも今更おもひしられて。悲喜相 分を あたへ侍ざりしに。いま衣食の資線 上生のさまたげあるべきによりて。 内院に生べき 者にて侍が。富貴 の望をとげにけり。 のほとり。やけけ春 けるあまり。入寺にかくとだに申にも ける事もくやしく。又利生方便 めに く。不便にも侍ことか からひあれば。順生はあく道の報 ども。浄業すでに純熟 V れば。日 よりすぐに南都へ歸て。春日 水をろ 離 の行業を修 日 とい か なと中 1: 心して順 Z 所にい 沛 Ĺ 0 明 3 の報を て。臨終 3 をうら 次 カコ とみ わざと H のか 12 をよ 得 5 车 10 都 上生 F 2 AL な 10 1= け 7 70 继 念 ĺ 夢 御 山 から 是 な 福 ば

3 72 は

第十三卷 繪

春日權現驗記

卷第十六

から 物詣もとげず。又京へものばらずして。三十日 薦のため長谷寺に まいりけり。路のた の母子なきことをなげきて神 勸 に鳥居のまへ にて男子を うみにけり。其上 月やうやくみちて産期ちかづきければ。母祈 1-は待賢門院 へて。誕生無爲 るによりて。春日 ほど南都に經廻してのち都に歸にけり。 修 懷妊 等晴 しければ父母ともによろこび思 雅 の堀川ときこえし哥人養女也。 律 師 のよしを祈念しけるほ は の一鳥居の 左衞 門大夫 前 佛にいのり申程 平正弘が子。 1: 輿を どに。 より カコ けり。 3 母 は 忽 す

繪

۲ らし à たてまつり の子 て物 17 3 漸 より 程 成 あ 人して十四 あ V b あ 6 て青蓮院の る有験 ね そのの は 歲 病 0 にな にし 僧を請 ちこの 座主宮鳥羽院の りにけるに。 づ 3 小童 7 護身など あ ことに カコ

> 12 信 72 か L 3 は せ まい りおぼしめす也との給。この時父母ことに 也 榎本の明神也。 ちどころに 仰して。 るに今他門にうつる。御本意 かば。其後大明神 させけるに。家 らすべきよし 童は當社 5 まは いえぬ 山 春日大明神 中 仕 0 0 かっ の 少女に 者をつけ ぼ 為居 け 申 るべからず。大明神 i 0 神 0 て守護 6 託 にあらず。仍 前 御使に あり。 1 その T し給。 きた 誕 其 0 ち 生 趣 病 せ

繪

9 8 聊 72 ٤ かっ なく ゆか づらに いまり くて父ほどなく逝去して後。母一人の 大明神 さて母 りあ ては て。思ながら南都 南 あ にまい 他 りて。この小童をこひうけたれ かっ 所 しくらすに。勸修寺の 4 へつ らせた て南都 か は るものなれ の下 L ま カジ 向も 72 りにけれ 3 ば 雅寶僧 御 W تح

扳 < せらる。此童もとより野曲譜代をうけて藝能 夜仕者をつ ð, りたる次に。哥うた ひて我にきか なく 奉するによりてなり。 温宮の 御前にて大明神俄に託し 三和 小童一鳥居 30 けて守護する所 すくむ。 0) まへにて誕 此 時 母こし 小童靈 也。 たまく Ū) てし 生の Ш うちょ せよとおほ 0 め し給 御 0 まい b Ш ち 盐 か g 0)

> 佛 即 b 3 號をとなへて。端座して眠が が。寛喜二年のころ。手に定印 護念房。 けりとなん。 。と號して。忍辱山天王寺などにすみ ごとく終をと をむすび。口に け

繪

誰人にかと問 に一人の小兒き たりて かたに手をふるく 使房番論義せんとて。隨分學問して る を見んと まばら 師 興福寺の 時。盛恩得業もとより西室にすみけるが。勅 をつと 10 8) てきたれ とて 角院 20 から へは。 降臨 勝詮僧都 12 8 るな する 我は に。中室 小。安元マ りとおはせ 春日 0 わ T 四 年中護摩會 Š 0 $i_{l-1}^{\lambda_{l}}$ 汝が 5 h 11 n ねたる楽 3 學問所 7 勝詮を 0)

女叉云。 五葉松

0

b 申

事あり。このたびはさら

とい

2

今樣

を兩三反

うたふ。こ

1

1

巫

12

りり

おはしますまじきなり。とくく一本意

繪

とあ ぞいひ

b

3

に。唯識論

一萬書寫

して。範信

法

即

權律師 をまなび。

に任

T 家

後

年病を て名をば

うく

3

出

l

晴雅

ئے 13

つけて

て。めんく一涙をなが

しけり。其後雅質僧

都

をとぐへし。此事をきく諸人奇異の思

をな

を導師

として當社にて供養をとげければ。病

えにけり。彼律師後は遁世して空

えやみをし、けるをわみて、 け 興福寺別院菩提院に增慶越泉房。 り。文治五年の夏のすゑつかた。 わに ٤ とい 住房に ふ僧すみ S 3 下僧 かっ

をたすけてゆきたれば。御社の一切經よみた だしくせめけり。さるほどに 訓慶得業 とい 人。ならより使をつかはしてこひければ。病身 3 けぼのまでやみあかしつ。次日ひつじの時ば して心もとまりければ。先師の十三年までこ にしばしす みわたるほどに。かの所の どかに 6 らず。菩提院の すくべき よしをいへば。 領狀して 里へもかへ さねども けしからず ゑひ。わびしく暮よりあ 同朋の僧き たりて 酒をすくむるに。度をすぐ の所に すまんと 思なりにけり。同年秋のころ り。酒をのまね のやうにおこりけり。 かくて二日まで 住房へ行ぬ。うしの時より又れ どもまた昨日のやうにおこ おなじやうに 温氣 おびた

カコ へ行て後もは くておこり心地 や五日になりぬ。苦痛たゆべ のやうに日々におこる。な

> 上に笛拍子をうつこゑまづ三度きこゆ。つぎ こゑにて琴をひきて に又二度うつ。其後やがて 女なのうつ くしき のの色みな 黄いろなり。かくる ほどに天非 れども戸をあくるにおよばず。みまはせば。 れば。ちからなくして一間ばかりはひよりた ひて。住房のひんがしむきへはひいでんとす しぬとも御笠山をおがみたてまつらむとおも まつる事。年序ひさしくつもりにたり。されば を念じたてまつりて。さまべ~の法施をた 十二歳のときより寺にすみて。ことに くもなければ。心のうちにおもふやう。我 大明 0

とうたひて後又さしごゑにて やへ代てには初中後をはりぬされはよな。

と誦す。これは唯識論の文也。大明神の べしといとたうく覺て。此事を かきつけ むと 曲不放逸。捨復合心。先除雜染。寂靜而

心本に きに春日四宮 おりさせ給て 仰らるくやう。我きつ。さて事のやう なを不審なれば 護法勸請し 事をおこな L ち翌日 ごとくみゆ。やがてこの事もし誠に大明神 すなはち眼をひらきてみれば物色よのつねの 0 つ。もとよりいのちをうばふ心なし。たど ちに離寺するや。されば八ヶ日その をあたへつ。なをいとまを申さずして。たちま よりふか すでに 房主ちかく きたれば よびて やがて しるさせ すれども 所爲なりとのたまふ。かの御音を承てのち。 めをくは かち もとのごとくに ふくせし く我をた 筆硯なければ人おとをまつほどに。 めならば。明日 ฆู はせつと。日來現のことも ふる計也。 われすでにか め のむによりて。常住の資緣 給 。われ水屋 へと耐念するに。すなは よくなりにけり。 のうちに ちぬ。この僧少年 にお かならず身 13 身をせめ 即水屋 せて此 b さて 0) 去

など常のことなるべし。
がはれば。かやうのことは、文の上下断たへたがはねば。かやうのことは、文の上下も唯識論のみ文は。由不放逸。先除雜染と侍る

第十四卷

上觀の抄物みな灰燼となりの。其外唯識論ばか 刀を持てこの火けつ人の手を切る。おそれを すれば。大なる手のしろくこえたるをだして。 やく。か ゆめに。はからざる に火いできて 皮子にいれて 棚のうへに 置てけり。ある夜 にふれて、天台上觀を學して。要文を抄して小 或寺僧一念發心によりて南都をさりて後。 り殘て有ると見えけり。後に彼僧人に なしてけちやみぬ。皮子やけはてく後見れば。 を忌てかれにつく。冥慮にかなはざるにや けるは。改宗の心なか たはらなる人水に 12 ども てこれ 0 ž か け カコ の皮子を かっ さんと 12 12

其緣 きにこそといひける。 b むな ら しからず。 2 O) カコ 2 b つねに出離の づ かり (= 讀誦 せし唯 縁になるべ 識 論

繪

5 廊に参籠する人の夢に見けるは。第四の ば。寺中の騒動やむ事なかりき。其比御社 る 御簾にたちそはせ給て。隆覺がいたく我に威 ば。いきどをりふかくして 濫吹を結構 なくて。 密嚴院僧正 つれば。微妙の御服の うらに 大般若經の一々 きせた いかでか人力をもちて神威にきほひたてまつ をきさふをばいかじすべきとおほせらるれば。 の御戸自然に を見せさせ給。おそれながらおがみたてま べきと中せば。されども 。衆徒蜂 ばとお 隆覺與福寺の別當にな ひらけて。貴女の御すがたに 起して 本寺をお ほせられて。やが それ S も我 て御 は りてい 5 にこれ せし ひけ 衣 御殿 く程 の廻 のう を

法施にたてまつりけるとなん。聞ば。僧正無言にて如法に大般若を轉讀して。の文。明々としてありと見えけり。後につたへ

繪

とへ申せば。此事まことなりとて。只修學の 正ならびに自身平安に本寺にかへるべきよ なしみけり。 を資て。ながく財施をわすれける事をくひ ると見て。文にていそぎ このよしを 僧正 枚をもいまだ我にあたへぬ人なりとおほ て。なんちが主は昔より今にいたるまで。昏 師堂の邊より百日毎夜に か の僧正の房人の なかに 當 堂衆なりけ 社にまいりて。 る僧。 せ 0 功 3

繪

ざまくどき中けり。寺中に 我ばかり なる寺僧かくる程に僧正ひそかに夜中に參社してさま

祈願 3 此 て少生をあ tz 12 とせめ申ば。示現をかふりけるやうは。まこと 130 此事不當 汝 Ū めて後我還着せばやがて長講に罷入べしと 有がたく侍。思食 が申やうによき寺僧なり。はなは していでぬ。其後いくほどなく還着して。 りな におぼ は カゞ n B しめす也と仰られけり。 ま 寺務する程 ねもの はなつ事こそ口をし やは 0 あるべき。返 物 0 長講 19 に入 有 け Ŕ カジ n R

繪

よろづの長講に入けり。

を愁歎 11 4 3 b 7 5 11: 忍辱山頓覺房 ごろの か やうに 引 に春日社 L 部 事 て。大明 あ 沙 にや。與福寺に九十人惡徒を りけ 百日 暗誦 にまうでて。 といふ久住者あり。弟子が るに。其隨一なる 僧の師 神に申うけ さない して。曉になれば b W るに。満 んと思て。山寺 رن د きの ずる日。經 うち 山 にか 1 匠 お 事 7 j 1 7

> こたへさせたまひけるは。汝が法 に。御 なり。但唯識論をよまくしかば。これよりはた 何ゆへに くしき 若君おはしてひざの うへに あそび ぼしめし いねては これより 後は うとく覺なん。餘に るきはにて。とうとけ によみ くたびれてまどろ みたるゆめに。うつ ぐし 汝が 定たるなりと仰らると見けり 御ぐしぬ n れた 1|1 いか गुः り。この僧問 きの n は ちかくてよむがわろきぞ。 かっ させ給やと申せば 12 な 內 と隨喜涙にぬれ をば ふまじき也。能 12 いづ てまつるやう。 華經轉讀 ~ きな 。若君 te 17 b. \$5

繪

その るな 同比。京に大焼亡有けり。四方みなやけうせけ かかっ とな かに。一字の 時人々未 ゆめを見しやうは。黄衣の神 b な 3 曾有 人亦て 屋やけずして煙をまぬ 0 事 語 な V るは、 りと この焼亡 U. 人數売 3 カ ぐ程 U 上 h

け 唯識論一窓あり。これを 大明神擁護し 給てや かっ h 不思議なり。か て其所より火を打けつと見き。然るに きてこの家のやくるをみて。なげしをさぐり h といふ時に。人々よりかのなげしを見れば。 ざりけ h b といまりて。火の難をのが といひて。見聞人ほめあざみけり。 のなげしにいかなる事か侍ら n 此 72 る事 家

繪

第十五 け 唐院得業といふ人。御社 しと思へどちからなくてふしたりけり。 にてか らざりけれ 3 に。修學者 しらをけ ば。 やすからず覺て。いでさま 0 て出たりければ。此僧あさま š したり の東廊に入て居 け 3 から おきも に足 たり あ から

綸

此 びて大明神おろしたてまつりければ。このみ 得業病 をうけて 大事なりける時。 みこをよ

> このいひけるは。なんぢ奇恠の いだしける。 論によみくたびれて。小生の て。 こは 何事 事 12 ありし 俠 らん 和 ٤

やう。そへ年頭に御助成有べしと仰られ つかはすべしとおぼしめさねば。かさなり 御ゆめさめて おぼしめしま はすに。只今何 宮 り被物といふもの事かけてわび居たるに。 宰相得業教英といふ人。春日八講の年頭に。 りしを たうとしと おもひしをけたりし。返 ければ。唯識 る御衣一領を丹波入道淨惠といふ きと思 奇怪也と仰られ けるにぞ。まことに さる事有 つやく一思わすれ つとむるにか。かくる御ゆめを 御覽じたれば 一切に たすけ おはしま すまじき也といふ かはして。副 の御夢に束帶にて氣だかき人來てのたまふ 年頭とは 何 事を 人 かなる 0) もと ける。 To

ら皮勿こしするとなん。 はからひ かたじけなく うれしくて。其衣をとて教英得業がも とへや りてけり。大明神の御かしこへつ かはすべしと 仰られければ。やが

元仁元年十一月廿七日菩提山本願り被物にしけるとなん。

がうしろの前栽に庭一頭縁に頭をかけて。我 3 りて。 法 れしほどに。十二月廿六日殊につくろひた 菩提山にうつりて。中院の事をとりをこなは なくして脇足に が。おどろきて前にはべる賴憲と中僧に。汝 事を修せられしに。まへのよ 入滅のあひだ。大乘院 カコ あすの佛事も不定なれば。 ひて立とみてさめぬ。不思議のことな 和憲 をの بح 13 か ふほ 肺 くりながら聊まどろみ給 阴 35 0) 加護なるら 僧正 僧正 實質附弟 持病喘息 遺恨きは 願前大僧正信 の持病よく h として とお 3 おこ 3 1) る h

> に符合しぬ。大明神和尚 きあ 然とし 侍ける夢にも。房中を見あぐるに。あるところ り。 其時尊遍得業といふ 僧おなじく 菩提山に いとたうとかりし事也 にたれぬのの一間 りて。翌日の け T 7 12 見 to てりと 佛事。 その 思ひのごとくとげられ かけたるところ , ひけり。 うちに大な できば 2 りたまひける。 12 る庭 0 0 0) à) 4 3 すすで VII を 默 17

繪

賤おは 寺主と しゆ 室 用もやとて。人にもしらせず下人一人によね 中 をすこし預置て天井の上にをさめさせつ。中 て弟子ども の法泉房 の僧正實尊寺務の < 者 く餓死しけるに。かの寺の主寺家 いふも お とい うへなん 13 < 0 有。 とり ふが 、そのころ 時。 とし < をきた 修理 しやう有 ければ。 3 の。目代にて 天下飢 ける。 館 141 兒 L 煙 紀伊 0) 御 貴

け 唯識論一窓あり。これを 大明神擁護し 給てや カコ んといふ時に。人々よりかのなげしを見れば。 不思議なり。か て其所より火を打けつと見き。然るに きてこの家のやくるをみて。なげしをさぐり ざり b け りとどまりて。火の難をのが りといひて。見聞人ほめあざみけり。 のなげしにいかなる事か侍ら n 此 72 る事 家

繪

第十五 け 唐院得業といふ人。御社 しと思へどちからなくてふしたりけり。 にてか らざりけれ 3 に。修學者 しらをけ ば。 やすからず覺て。い 0 て出たりければ。此僧あさま 2 したり の東廊に入て居 け るが でさま おきも に足 たり あ から

繪

此 びて大明神おろしたてまつりければ。このみ 得業病 をうけて 大事なりける時。 みこをよ

> このいひけるは。なんぢ奇恠の いだしける。 て。 こは くたびれて。小生の 何事 事 1= ありし 候 らん ね ٤

やう。そへ年頭に御助成有べしと仰られける。 つかはすべしとおぼしめさねば。かさなり 宮 り被物といふもの事かけてわび居たるに。 宰相得業教英といふ人。春日八講の年頭に。 りしを たうとしと おもひしをけたりし。返 ければ。唯識論によみ つとむるにか。かくる御ゆめを 御覽じたれば る御衣一領を丹波入道淨惠といふ 御ゆめさめて おぼしめしま はすに。只今何 きと思 奇怪也と仰られ けるにぞ。まことに さる事 つやく一思わすれ つかはして。副 一切に たすけ おはしま すまじき也といふ の御夢に束帶にて氣だかき人來てのたまふ 年頭とは 何 事を 人 かなる 0 もと ip

は り被物にしけるとなん。 て教英得業 かしこ からひ 2 かた から ינל B は すべ けなくうれしくて。其衣をと とへや しと りてけり。 仰 5 れけれ 。大明神 は。 やが 0 御

繪

菩提山 元仁元年十一月廿七日菩提山本 ひて。威涙 がうしろの前栽に庭一頭縁に頭をかけて。我 るが。おどろきて前にはべる賴憲と中僧に。汝 b 法 なくして脇足に れしほどに。 入滅の 事を修せられしに。まへのよ かひて立 あすの にう あ 賴 をの ひだ。 十二月廿六日殊につくろひた つりて。中院 佛事も不定なれば。 憲 とみてさ ئح は か 大乘院 ふほ 前巾 くりながら聊まどろみ給 明 35 0) める。 僧正 加護なるら の事をとりをこなは 僧 實質附 Ï 不思議のことな 持病喘息 願前 の持 遺恨きは 弟 病 h 大僧正信 として よく F おこ お \$ 台 17 h

> b 然とし に符合しぬ。大明神和尚 きあ りて。 侍ける夢にも。房中を見あぐるに。あるところ いとたうとかりし事 にたれぬ 江 け 翌日 時尊遍得業といふ 僧おなじく 菩提山 T T のの一間 12 見 0) to 7 佛 りと 当 その 思ひの かけたるところ 1 也 S うち けり。 をまば ごとくとげられ 2 大なる庭 りたまひける 72 2 0 0) あ 4 3 ŪŪ す を -7: 默 V

繪

賤おほ 寺主と 室 用もやとて。人にもしらせず下人一人によね 中 L をすこし預置て天井の上にをさめさせつ。中 て弟子ども W の法泉房 の僧正實尊寺務の < < い 者 餓死しけるに。かの寺の 主寺家 お ふも とい うへなん 13 < 0) とり ふが 有。 2 時。 ٤ をき < のころ Ù 修理 やう有 ければ。 の目 天下飢 3 け 10 この 3 にて 健 r i 兒 L 煙 紀 0) 7 御 貴

す。返事に。ずいぶむ寺僧の御事は忠を存侍 きの寺主の御房よりといふ。 其時よろこびて 居 心身きはまりなくして同朋も諸ともにうれ 1= 託宣をか そのゆへは寺僧の依怙となれど。大明神の御 極のとか tr 主來て。夜部 せてをのく S をこそひごろ よちからなくて。くちおしき事や。これば かっ ころのう 覺侍れば。いそぎまいりたるなりといへば。 したる 下法しをおこして。やがて 飯にせさ たる。草房のとをたくきてよねをもて來て。 ちから にもとは ちに ふりき。 依 をよばねといひければ。房主いよい りやに 怙 げみ の御返事あしく申たる。返々おそ は をこな となる お して。このよしをいひつかは b たのもしく おもへども。只今このてうこ 3 ひま れば心のをよぶところい ひとなれとおもひて。 ひてけり。 は すに、 おもひつれとて。 修理 次日早旦に の寺主こ かり 至

> 歸給ぬと見たるが。あまりに恐おぼ 僧一人來て 仰らるくやう。なんむが おしむよ を貴房におしみたてまつりつ。其後ゆめに 房主をこそ御よろこびにまい b の事を謝したてまつらんとて。まい ねすべきやう有とて。さんべくには こそいでくれとて。かくしをきたりつ ひけるは。もし僧正の 御房のにはかの大 ふに。御渡返々恐ありといふ。寺主か とぞいひける。 3 べきよ b さね ねすて ゆればこ るよ 0 L るなな 事 T お 老 3 to

繪

かに餘社へむかはず。一 病者は不用の人なり。 さはあ 三綱清増法橋その 法うらをとひけるに。物つきに託し給やう。此 なりしかば。大明神 へ。すべて心操とくのほりてあれば。 かみ重病をうけて万死ー をおろしたてまつりて 向我をたのみた れども我よりほ あは 3 生

か

繪

第十六卷

託宣 眼目 うしなふべきに。さもなきこそうたがはしけ 中に 笠置 n 年九月の 明をは いでに大明神御託宣 よかりしかば。神明光をかよはし給き。建久六つゐに閑居の素意を とげてけり。信水いさ ぎ と聊不信 あ もし大明神まことにつかせ給はで本心を 12 の解脱上人は二明の棟梁として。一寺の りしが。ふかく交衆の囂諠をいとひて。 りて。汝は うたがふも 比 大和國 1 覺えける。さる程に やがて又御 きは 一字陀郡 0 の事 かは。 めた ありけるを。病者心の 佛 にて。上人病惱 る不信の者なり。 0 加 護に より 0) つ

> をきかんやとの給けり。 汝もし法師にしたがはずばいかでかは我こゑ ひて。我昔靈山にして釋迦如來の說法を閉 よりてなりなど仰られて。對揚 幽賛をよみし時 らむ。なんちが發心せし事も我身なり。心經 り。臨終正念なりといふともなんぞ加護 がたし。また汝は我に 人天に生ず。順次生々には人天の 12 12 迦葉善現等甚深の法をときし時是をしらざる なり。又含利を 信ぜし ひは二三ねんある あり。末世の僧名利の執心によりて。順 お はく魔道に堕す。除執をつぐのふ 瑜伽 ひは五六年なり。 論の 事も をきて宿縁 此即 文をひけ 無漏 0) 小 南 勝報をう その 3 界 もの をみ 21 にも の文 0 次 な 生 カコ it

笠置 ま つら 般若 んがために 臺の鎮守 に春 小社 日大明神 を一 宇造營す。姓人 を物請 L 12 七 7

す。返事に。ずいぶむ寺僧の御事は忠を存侍 きの寺主の御房よりといふ。 其時よろこびて 居 心身きはまりなくして同朋も諸ともにうれ そのゆへは寺僧の依怙となれど。大明神の御 22 主來て。夜部 せてをのく S をこそひごろ よちからなくて。くちおしき事や。これば 1 カコ 託宣をか 極のとか ころのうちに 覺侍れば。いそぎまいりたるなりといへば。 したる下法しをおこして。やがて 飯にせさ たる。草房のとをたくきてよねをもて來て。 ちから にもとは ふりき。 依 をよばねといひければ。房主いよい りやに げみ 怙となる の御返事あしく申たる。返々おそ は お をこな ひてけり。 して。このよしをいひつかは おもへども。只今このてうこ たのもしく 3 もひま れば ひとなれとおもひて。 心のをよぶところい は すに。 おもひつれとて。 修理 次日早旦に の寺 から 主こ 至

> 0) ねすべきやう有とて。さんべくにはねすて 僧一人來て 仰らるくやう。 なんぢが おしむよ 房主をこそ御よろこびにまい h 歸給ぬと見たるが。あまりに恐おぼ を貴房におしみたてまつりつ。其後 こそいでくれとて。かくしをきたりつ ひけるは。もし僧正の 御房のにはかの大 ふに。御渡返々恐ありといふ。寺主か 事を謝したてまつらんとて。まい とぞいひける。 3 べきよ いゆめ b ゆればこ さね るよ つるな 事 7 お 老 3 B

繪

へ。すべて心操とくのほりてあれば。あはれになりしかば。大明神をおろしたてまつりて。 遊なりしかば。大明神をおろしたてまつりて。 護なりしかば。大明神をおろしたてまつりて。 護三綱清増法橋そのかみ重病をうけて万死一生

か

繪

第十六卷

託宣 眼目 中に よか 笠置 n うしなふべきに。さもなきこそうたがはしけ 年九月の 明をは いでに大明神御託宣の事 つねに関居の素意をとげてけり。信水いさぎ と聊 あ もし大明神まことにつかせ給はで本心を りし たりしが。ふかく交衆の囂諠をいとひて。 の解脱上人は二明の棟梁として。一寺の うたがふも りて。汝は 不信に覺えける。さる程にやがて又御 北 かば。神明光をかよはし給き。建久六 大和國 きは 一字陀郡 のかは。 めた ありけるを。病者心の 佛 にて。上人病惱 る不信の者なり。 0 加 護に 0) つ

> 汝もし法師にしたがはずばいかでかは我こゑ ひて。我昔靈山にして釋迦如來の說法を閉 幽賛をよみし時 らむ。なんちが發心せし事も我身なり。心經 り。臨終正念なりといふともなんぞ加護 がたし。また汝は我に 人天に生ず。順次生々 12 12 迦葉善現等甚深の法をときし時是をしらざる をきかんやとの給けり。 よりてなりなど仰られて。對揚 なり。又含利を信ぜし ひは二三ねんある あり。末世の僧名利の執心によりて。順 おほく魔道に墮す。除執をつぐのふ 瑜伽 ひは五六年なり。 論の には人天の 事も をきて宿縁 此即 文をひける 無漏 0) 小 か 勝 その るもの 報をう 界 をみ 21 にも の文 0) 次 生 カコ it

笠置 まつら 般若 んがために 臺の鎮守 に春日大明神 小社 を一字造營す。姓久 を物詩 L 12 七 7

卷第十六

春日權現驗記

より

年九月廿七日の夜間朋等を引率して営社に参年九月廿七日の夜間朋等を引率して営社に参れた。正預等おりふし從候せざりければ。営番の氏人におほせて。神」の御榊の枝五六尺ばの氏人におほせて。神」の御榊の枝五六尺ばありきらせて。一御殿の寳前にて祝を申させてのも。上人御榊をうけとりて。南門の櫻の外の西ち。上人御榊をうけとりて。南門の櫻かの神神の枝をおきられば。営番に貴に侍ほどに心中に心ならず歌を記せられば。営番年九月廿七日の夜間朋等を引率して営社に参

きえて。頂上兩所ゆ かに物のうちおほふ やうに覺えて。目くれ心 人下向せらるくに。拜殿の北のほどにて。には とてしば し。又さきのやうに 我 ゆか し有て又。盤若經。とい んゆきて あ をのづ びにて さすやう に甚おも か め から。 ひつ。かくて上

と詠せらるれば。たち歸て 若宮の御殿を 再拜釋迦の御のりのあらんかきりは。

後上人夢想に。春日の 御供預觀弘い できて中 して又大宮の 御前へまいりて。後同朋眞惠房 上人夢想に。天の中に御聲ありて。和歌を詠せ り。つのの長さ五尺ばかりなりと見けり。或時 房が夢に。新造の社 さきべは七八度やすみてぞのぼりける。其 たてまつりて。笠置の 八町坂を 身もすぐしく 上はかろぐしとなりぬ。さて真恵房是をもち る。御榊にとびうつらせ給ぬと覺て。上人の頭 御榊を あらごも につくみて いだき させ玉ふ。 けるは。これに大明神のおはしますなるは。い かろべくとして。一度もやすまずのぼりけ 二頭あり。ながさ一丈ばかり。たかさ七尺ばか づれの所に やと申と見ら れけり。又同朋真惠 のうしろ の山 に大なる庭 たてま

さやけき月のよを照すとは我をしれ釋迦牟尼佛の世に出て

鹿嶋 T しら ねこし。 の宮 to よ D 。昔の心もいまこそは。人には n りかせ木にて。春日の

しめ

となん見

給

けり。

正治元年の秋。 盤のうへに錦の切をしきて。同朋どもに灑水 b して香呂 して。大明神 人をあつめ かっ b Š 1: な らやみ b を取。 は つね 7 給 の御座とおぼしくて。俄 いそぎ居所をさうぢ 威儀をとくのへて惣禮あり。 ならぬ けるほどに。八月廿二日 解 脫 上人に けしきいできて。 笠置 0 草 し浄 に堂 庵 衣 房 酉 13 を着 0 時 T # 2 禮

世に住し給。靈山 其 なじ。本師は圓寂 0 て。又御音た 事を御讃 後 香爐をさくげて。 嘆 かっ あり。 < 朗 知 0 2 足 0 詠 は 0 などの ちすなはち 釋迦彌勒 御 其所 詞 1= やうに詠 不二なり 云 は 其外 彌勒 との とし 中宗 32 給 7 お

甚深也。深にしていよく一深

妙也微妙也。妙にし

て更に妙なる

ית

深

也

玄弉は をは 13 覺の形を 晨旦に化す。し にしてはじ 叉 親は加行 で かども あ 13 あ おは ړ な b. りて。如來 ちからなし。其も宿縁 n 常啼の跡 せられて云。我宗法相中宗は 72 の大士。千佛 1. めて演 時 ちを法燈といはざら 我 我 寺に 滅 5 を東方に重れ。供道 出 度九百除年 といまる我寺の學徒者 L ばりお 給 の其一。戒賢は當代法 。無着 かっ る しが のひ に法 0 は のち b 彩 んや。 く所なれ 和宗 l 地 慈氏 傳來 12 大 の著 汝 は他 ß 除 てら は 踰 0 師 1 3 所 图

第十 春日權 现驗記 典成 南

謡

南

無護

法等

+ 來。

大菩薩

戒 深

供導高

祖

大師

無

恩德 唯

廣

大

釋迦牟尼如

南

無甚

妙

中古以來の學。或は法慳により、或は嫉妬によ る。ゆききたる事は改ざれども。本意をば猶 珠護命の がくうせなまし。なんぢ抄出いそぎ功をへよ。 を記しといむ。もししからざりせば我宗はな にうせぬ。藏俊大徳宿世の願力によりて ず。其身おのしへかく りて。身づから しる所あれども 他にものいは していたづらに苦海のそこにしづめんとす。 てす。しかるをいまむなしく正法の金をくだ されどもふたくび本寺にかへれどもまたきた てよ。同法等の行業はたい心にまかせよ。汝に おはす。さきにい ひしやうに念佛は 一萬反に くやは行ずる。いはんや末代の事をや。但よも あやまりありて徳なからん事をおそれ疑軟。善 てありなん。四萬反を ばひとへに こと人のしたるにはにじ。口稱念佛の行は汝に 製作とてもかならずしも諸人あまね れにしかば其法もとも 學問等に 義法 す

ず。これ學界をしりぞくる方便なり。太神宮 事かつは宿習のもよをすところ。なかばは魔 が眼もきはめがたし。たいし日本 寳號毎日五萬反申べきよし しりて身づからまどへり。今度の病は 法をまもる。かやうの子細汝みなしりながら。 釋四王天龍八部は佛の教勅をうけてふか 佛法をまもり給事我にもすぎましませり。 界の所為なり。魔界は念佛をすくむる縁 神にまうでて念佛のことを申むねあり。その 慈尊をおがみたてまつる。十六由 内院ととなへよ。我兜率にまうで てより の給けり。抑去七月太神宮にまる る所也。この次第はやく大師權僧正に申せと をきては本師の名號を念じて。臨終 天照太神に申むねありきとはこのことなるべ 啓白 自妙相 皇主天照太 りて釋迦 正念 我 1= けり。 上生 南 は 焚

卷第十六

尼などを唱て 聞せ給こと 日々にをこた の水罪 散 な て。すこし正念に住する時。大乘經 13 L B 遇 明 人 南 答など人間 し。この方便に 7 · 碩學 たに T b. 校 他 神 12 都 方 をそ 12 0 0) 學生ども 御 地獄をかまへてとり入つく。毎日 T 人 0) 御 きて のきこえ 137 (明神 地 ま 0 ~ 殿 方 輔 て水をそくぎた より地藏菩薩 獄 つる 口に 便 种 僧 般 たが へはつかは 0) N 都 は 若 よりて漸々 入て。苦患 0 あ 璋 人をは。 い をとき給 春 事 はず。昔學生な 3 b 圓とて。 日 ども じきこと。 しが。魔 Ш b 0 0 さずとて。春 を聴聞 申 東 1-解 しば かなる罪人 灑水器に水を入 まへば。一し うかび V 脱上人 道 13 3 香 らく i 1: 中 して。 b Ш 3 0) お たす 要文 1 5 0) で 弟 12 な は 日 かっ b 7 b 晨 カラ 3 義 2 7 陀 か 1 野 n b 或 子 7 。朝 所 侍 羅 h h 0 3 值 大 女 第十七次

也。 當所第 るこそか すると中 本地 なり。 三の 垂 な たじ 跡い まの 御本 3 づれ C けなく あ 地なり。 たり。 12 もた b は 無佛 大 殊 0 ~ IIII B n 利 疝 0 是語 益 しく 道 0) め 御 ĠĠ で け 說 付 3 感 12 法 0) < 地 15/6 \$2 滅 開 かっ は は す

繪

の建仁二年正日まちに渡海の 漿 7 不 L りき。そ な を 栂尾の明恵上 りし は をた 紀 12 食 がはず。 伊國 3 0 ひ。六 P 5 か 卷 0) τ 白上といふ所に ば。 ŧ かっ 食 7 國家 み高 相 月十 人 願 か 事 ね 圓 は。 あ 1 13 尾 融 よりも肥滿 0) 九 らし程 とう 牢籠 お 福 十玄緣記 0 日より八 ょ 田 月 ばす。 とし 12 0 觀 おは に。橘氏女とい から 4 念 して ふ程 侍 T 0 0 家 ケ しけるに。 りしかば。 衆 窓 風 H 0) 3 煩 生 1: う 0 えけり。 0 13 惱 顏 5 あ 依 カラ 0 色す 0 0 8 13 S 72 估 6 to 毎 水 ば 12 B かっ h

まつ はめ 是春日大明神なり。御房 なにごとも思 T ばみな たまふ。懐姙の人なれど。おりのぼりいさ たじけなくこの もきたら 午時 うちかけて其にのぼりてのたまふ様。われは b W べしと中さる。その時かも カコ 70 3 7 T の初をふるふがごとし、 世 あたらしきむしろを障子のかもの な あ なげ 我守護するなり。時々は南都の vo h b 法心にそまずといひけり。かくて 3 43 へなり。御房を信じたて まつる人を から 事 T か たまふべしと仰らるれば。 12 はず。たど三寳の境界のみ心 讀 めに しく侍れば。この事を制 その御威儀ども 411 かと問ばこたふるやう。わ 經 をか 念佛 参たるなり。

御房智恵人に ふり侍れば渡海 の唐へ御わたりの事き しけり。諸人あやし **ゐよりおり させ** も寂然に 住所 Ŀ をとど 一十六 トか たて 人 上 2 カコ

稍

同廿九日酉時 所 禮 音をいだしてのたまはく。たかき 禮したて まつる。時に天非より 柔軟微妙 まされり。上人以下集會して南 ば。天井の 子をたて給べしと おほせら るれば ひきたて にのぼりたければ天井へのぼるべし。この障 ばしく 覺て見参のし と問中せば。何ともしらず。わらはも身 あげてほくゑみたり。上人此異香はなに事 ほにおほひてふしけり。上人を見てかほをひ りて障子をあ て。一重上人同朋あ つ。やがて 天井に か あれば。 れども 板 我等が 一枚あきて。異香にほ つくべき物を引あぐるなり。 けて見ば。 かの のぼりね。この時 とも 女人さき のやうに また具して。かしこへ たく侍 ימי 女房とのゐ 5 つる也。た は 本 無 より 所に侍る 春 ふり もの あけて見 日 加行 72 權 カコ 0) を 0) 3 かっ 所 無 御 Š カコ

たり。 御修行をいたみ中なり。われは 其中にわれ並に住吉の大明神とは隨從し 御房 りに きの きなり。さきの見参御不審のこりなけれ すびたてまつるべき事を悦おもへば。とをき てまつ まつる。 おほせらるれども。 おほせて後うるはしくしもへをりて見参す たてまつるなりとお 人を皆変す。その れどもこの なり。此三人 いれるなり。この 無禮 。三人と申 を守護したてまつらずといふことなし。 るまじ 中に 3 0 12 國におはしませば。諸人善縁 よしを被仰 は御渡海 も我はことに腹中よりそひ ければくる 0 は 御房 中にこと に三人に 思をかけ 猾 御拜をとどめら ほせらる の時も我等は 拜したてまつれば。 と解 御 てのた 房 しみあるまじ。 脱な にことに心をか まふ様。神明 بح 佛法を信ずる 叉京に はな 3 しと は又 をむ 72 たて 一人 n しき 皆 け カコ 12 7

> ざやかに白して水精のごとし。すべて御形 ねぶ 凡類にあらず。御目まじろがず。御眼廣 數 諸人感悦にたへず。御手足をねぶり しげにもおばしめさず。御身うごかず。色相 まつりて ればあまきこと甘葛などのごとし。 でこく深きにほひ。すべて人間の香にあらず。 よにほふ ごとくをともせず。 さて天井 日 れども。慈愍の御氣色にてさらに 納 のうちをい よりおりさせたまふ時。 。その香沈麝などのたぐひには たちまちに たむ人ありけ 御音に rs え てけり。 つきて る。 人々 妙 to 12 その たてまつ 否 3: 0 きは 5 b < あら ع 1 3 72 1 13 3 躰 かず

なし。後にもまたあるべからず。これ だか様に真形をあらはして人の前

はきは くだ よ

3

をな く黑眼

がさずと

いふことなし。

わ

n 見

b

はすく

なく

白眼

はおほ

3

į,

0)

顶 きな

して見参する也。ともしては邊土山林に思ひ て御房を尊重したてまつるにより形をあらは をかけてましますは。御自分の修行 戀慕の思をはこび まします事。この世に 居の事我等うけずかくと申と御物語候べしと はれに候人なりと四五度おほせられても。 同齢としたまふべし。解脱御房は不思議にあ やらぬと仰られて。御手を合て上人を拜し おほせられて。今は時刻ひさしく成ね。かへり れらは其事を歎なりなど。さまべつの事ども けれども。 てまつる也。又われ御房を愛念したて まつる のごとくなる人もなし。此事ことに 隨喜 のたまふ。又釋尊の御もとにしてねんごろに させたまふ。又おほせらるく様。解脱房をもて むとするに。此見参うれしければまかり 有緣の衆生結緣の便宜なければ には 御房 目 tz わ 出

智恵は最上品の人に らず。勤學して聖教の深意を得給べし。御房 世末代にして佛道修行に真實に志をはこぶ人 らるくやう。かやうに悲泣したまふ事なか にしておはしますべきなり。時刻すでにひさし。 ひたてまつるべし。その心をえて心をしづか りあるべし。その時われ 形は見ずともいであ はまかり歸なん。かならずく~春日山へ御渡 善知識の善財の發心を 哀愍せしに 事。世間の人の一子を思にこえたり。又善財 に眼をさらさせたまはど。漸々に佛意をえた し。かならずん~徒に時刻をすごさせ給べ なし。人皆非法をこのめば正法は なき かなしむ 事はなはだしければ。又おほせ にひきよせさせたまふ。異香ことに包て諸 まかりさりなむと被仰て。上人の雨手を いまだ熟し給はず。志々の絲務をやめて聖 ておは しませども。學 おこりが おなじ。 御 敦 身 今

事見聞 思議 ż す 0) 72 to h b_o ひは上人 の身に 微妙の 異香をかぐ 人ありけ 大明神の かっ 1-時に膝を折て一面にふす。其程又異香空 れける時。 國をたちて。同七日 建仁三年二月 の後紀州 てまつる 眠。 匂けり。同十一日 夢に靈鷲山 下向 御眷屬たちそひたまふと見る。あ とみ 東大寺中御門の邊にて。庭州 0 る事五六度ば 明 あひだ。或はよなくの夢 惠上人 1= 東大寺 参社の時。

変前に まうで釋迦大師 春 日詣 尊勝院に かり 0

なり

V 本

b 住

3

1= ていさ

12

72

めに。

五

H

お

ち

頭

同

0 徐

143

繪

其後 させたまひける。しきりに H 思 づねし 72 さきの ちて 御形 めたま 像の事なを祈請の 女房れいのやうにして。大明神 一十二日 へば。共事 國をた 申 くんとする程に。 さん b 72 が影像の め 72 に。春 め 4 來 te お -||-た b を

第十八卷

繪

除あが 緣。心於十方所作已解。將是最後涅槃之相の涅 とさにたへずして。おり降て板敷にて 槃經の文を誦して。 釋せさせ 給し時こそ た 河にて二月十五日涅槃會はまいりて ちて御迎に まいりて 侍ししるしなり。又今出 たみや候べき。又我 りけり。上人御かたみに 御哥一首を たまはら し哉と。すべてさまべへの密事數刻御物 て。禮盤 門にて庭 んと思と申さるれば。この見参にすぎたる とてく ふべし。 りて 侍し也。如來光明出已遂入非無 は より され 0 膝 左の方すこし佛前によりて。三 智 ども仰らる めし おりし事は。われ三日さきだ 影像をかたみとせさせ たまひけり。又東大寺中 く事なればとて。 - 聴聞 聽聞 語 尺 j 72 かっ あ 4 天 L

カコ < おほせられ たみに かっ かきにまとわせ めくみたるくとをしれ けり。

> 山に詣して釋迦大師に奉仕したてまつるとみ 廿三日國を出 られけり。又廿六日參社して 御前 頭へまいりてかへりふしたまへる夢に。靈鷲 ごとくして おはすれば。手に二の て廿五日南都 りて。 にし 白みがきの 戌 て眼 刻 か 社

そくの舎利たてまつらんとで。紙につ 八日寺を出て歸らんとしたまふ時。夜部やく 後見参すべしとて。眼を閉て 影向あると覺るなり。しばし法施ま 匂あり。これ大明神御出と つれまいら ひけるに。解脱房中されけるは。只今不 廿七日解脱上人對面のために笠置寺に 鐵鎚をなんもつとおもはれけり。 の舎利わたしたてまつるべしと被申けり。计 る。其後數刻對 たしたまふ。明惠房これをとりて。やが 繪 面ありて 今日見参の 法施をたて いら 悦に秘藏 思議 参に せ まつ で經 て御 ま

繪

大明神左の脇にちかくたちそひて立たまへり 申て。眼をふさぎて一心に祈請し申さるれば。 らず權現の御身此舎利にいりゐさせたまへと 大明 開てみれば。二粒の含利あり。不思議に覺て。ま か 3 13 12 ば。上人はじめておどろきて。寳前 まつりて。眠れるがごとくにしておはすれば。 やがて参社 と見ゆ。これ さきのこの鐵鎚はこの二粒の含利なりと覺れ あ もとのやうにつくみて經袋に入て。左の脇 かけて
新請申さるく様。このたびめされ れば 神 0) 御 今より 舎利たまはせんがためなるべし。し して御前にて眼を閉て法施をたて 身とた ŹĒ. の勝に 後此 のみ 舍利 か たてまつるべし。かな けたてまつる To 釋算 の御か にてやが 御 たみ。 含利 7

い。 に大明神の 御身いら せたま ふしるし なるべ

繪

第十九卷

ちか 池尻若王左衞門尉家政といふもの。戰場 とするに。大に合戰するほどに。惡黨交名 がて廿八日衆徒軍兵をひきゐて 宮六面。合て十四面の神鏡を盗取たてまつ 有しほどに。正安三年 面取かへし奉りぬ うたるく程に。かの男もちたてまつる て。當國高尾の別野といふ所にひき籠りぬ。 を先かへり取 きころ 與福 て。流罪 寺の學侶 の御躰をのく二面。 十月 せらる 蜂起 北五 ~ して。大和 H きよ からめ 子初惡魔 神 派 とら 惡黨 にて うち b 加

繪

同十一月八日天こくろよくはれたるに。當國

卷第十六 春日權現驗記

五十三

5 たてまつる。そのほど二上の嶽より 黑雲そび 頭いそぎ土民をもよをして。金勝寺に うつし b をうかゞひ みれば。神鏡三面しろき 布袋にい 虹のごとし。行客土民あやし みをなして 堂内 かくる。 き。霰しきりに れて佛前に にあ 事のよしを平田庄の 拜見の緇素感涙を催さず といふ事な š 良福 かけたてまつる。落書一通かた 所 0) 寺の政康冠者 ふりて。 五色の 雲春 堂にには 地頭につげければ。 か に瑞 所持 光 0 あり。 日山 分なり に立 其臭 地 v は

繪

朝 次日午時神鏡一面地より堀いだしたてまつり えけり。いとたうとく覺て其所をもとむるに。 同 やが 册 のぼらずしてはるかにるをみれば。瑞口み 日 寅 刻春 尾 日 山 15 神人康景夢の お もむくに。いまだかの 告有ければ。 Ш 其

したてまつりぬ。鏡七面かつ~~威儀をとゝのへて本社へわたて。まづ金勝寺にうつしたてまつり。前後の神

繪

佛 侶にたづねれば。惡黨亂入の後。 に昇て後。山のうちしきりに鳴動しければ。 同 あるといひけり。いとゞ信 つは おそれかつは あやしみて。事のよしを まつらむとて。高尾の別野にむかひね。か 十二月十三日當社神人守職神鏡をもとめ てまつるに。花形の御正躰五面。しもの堂の本 十五日やがて本社にわたしたてまつりぬ の御身の中よりもとめいだしたてまつる。 おこりてもとめ 連 A か くな 12 住 山

繪

分なりけり。廿五日本社に渡したてまつりぬ。たもと めいだし たてまつる。これ遠春法師が同廿三日 當國布陀山の 岑にて。御正躰二面ま

起請 なりし < 0 出 残とじまりて。 この震験 5 2 御正 るが ても 本 社 文にのせて學侶のなかへ申け ح کے 事なり。 13 躰ことゆ 花 を申 かっ 形 ば 0) ^ 神鏡五面 b ありのまくに中よし。遠春法 つたへんとて。ひとり 其うち少々光 あ へなく三月のうちに い せ らせ 多 な を他所へ たまふ事。い がさせ をは 給 1, な 耳 れたて 5. たせ 身をすて 水 と不思議 こと + 0 給 Į. わき まつ 四 300 H 師

繪

第二十卷

追 7 嘉元二年與 みな逐霓せしほどに。七月のはじめつ 頭をを 1 12 、衆徒 ると 山の木いまだ黄落の期をむかへ侍らぬ かる 神 人な 福寺 がら 1 4 どどお 一侍き。 の寺僧の中に大和 有 ほ かっ く召 一寺なげき ば。 3 關 東 \$2 大 て。 12 か 國 なし 當 ٤ 0) か か 地 國 12 2 頭 1: め 有 を ょ 7 地

> の城に 四方の雲の らん時樹木 たちまちに 氏繁昌法相護持のた 々星のごとくとびあるきて 社々にいらせ 凉風ゆるく はげば。人々 としもなく。 都へもきこえぬに。九月十八日の夜たが 驚て地頭 1= ば。今にあたりて りて天城にかへりましますとしるべしと 1= します。 さびゆ 72 か ちまち やうの事ど きし かへらせ 末代にをよびて神事違例し政かけ を かば。神護景雲二年の 1-たてられにけり。この 色炎上の餘氣 m 大明神 みどり N 微 12 給 **運跡のとぼそをとぢて。** も關 雨 ち かへりいらせ 1: のい めに御笠山 やと い まへそくぐ。遠近の火濟 東へきこえて。 かるべし。我常山 で ろを變 のやうに て見た な げき じて に跡をた 給 御 てまつ 引 あ ひか とい 6 託 お ^ 宣 まだ ほ h す h 3 水 pir をさ きに L あ 3 神 2, 前 型 藤 程

大方目もあやなり。社

頭にてまた

御歸座

繪

儀 現ま ずるに。釋尊の一代すでにすぎて。慈氏 なるに 凡 やうきに見 これ勁松 思議どもいまだ見も聞もをよばず。まことに るもの。今世後世 我朝 をしめし給なるべし。つらし、事の心を案 なは は より 神 は かっ る事 霜 國として 宗廟社稷 Is て。不信の衆生の れば。 の後にあらはれ。忠臣は國の なれ とりくなれども。 前佛 ば。時末 後 をうしなは 健の ため 代に属 三千餘座。各記 中間 に掲焉 かしる し人 ん事 むまる の三會 詔 をあ あ

化導に なか Po 涙もとゞまらず。 されば 現世の官祿 をさづけ あ ば我神すでに諸佛也。社壇あに 所現は専雑類機に對すれば。うれしきかなや。 給も。更に一旦の名利のためにはあらず。和 もがらをすくひ給。大悲のふかき御志 は 道としめし たまひしこのこ とはりなりけん。 にいたら しめんと也。これすな はち成事智の びをきて。八相成道 同塵は結縁の の塵にまじはり。くらきよりくらきに かども。鷲岑の月の光をや はらげて 刧濁 **b** n しかれば浄瑠璃震鷲山やがて 瑞籬の 〈 流轉 みて。鶴林 補陀落清凉山なんぞ雲海の あへることを。隨心淨處 上人の の凡夫として。いま はじめなれば。この 0 襲山とをが けぶりのうちに 利 物 のをは 2 俊 **b**. 浄土に 成 卽 外に 一線をむ 或現除身 かっ 卿 淨 つね 土所な < お b あ 1= n もへ 中に لح 5 菩提 見 3 光 ば 濁

右春日權現驗記以屋代弘賢本校合

前 うに お \$2 にてなん有 明神いでさせ給 の~~見さはぎけり。 L の燈爐の火一度にきえてけり。さきく一大 りふしなりしかば。陪從近衞召人など 明二行に見えけり。又人もけた けり。長者より 時もいらせ給時も火をけつ事 御神樂ををこなは n 寳

繪

なる ずるに。釋尊の一代すでにすぎて。慈氏 儀 現まちく やうきに見 これ勁松 思議どもいまだ 凡 るもの。今世後世 我朝 をしめし給なるべし。つらし、事の心を案 たは は神 より は る事なれ 霜 國として宗廟社稷三千餘座。各記 て。不信の衆生の な れば。 の後にあらはれ。忠臣は 見も聞もをよばず。まことに とりんしなれども。 0) 利益 前佛 ば。 後 時末代に属 をうしな はん事 佛の ため 中間 かしる 揭 し人 國 焉 むまる の三會 をあ 紹 0) あ

なか Po ば我神すでに諸佛也。社壇あに 化導にあへることを。隨心淨處 涙もとどまらず。されば 現世の官祿 をさづけ 道としめし たまひしこのこ とはりなりけん。 あ 所現は専雑類機に對すれば。うれしきかなや。 給も。更に一旦の名利のためにはあらず。和 b は にいたら しめんと也。これすな はち成事智の びをきて。八和成道 同塵は結縁の の塵にまじはり。くらきよりくらきに かども。鷲岑の月の光をや はらげて 却濁 5. n がらをすくひ給。大悲のふかき御志 しかれば浄瑠璃震鷲山やがて 瑞籬の 〈 流轉 みて。鶴林 悪上人の 補陀落清凉山なんぞ雲海の の凡夫として。いま はじめなれば。この 0 靈山とをが けぶりのうちに 利 物 のをは 2 俊成 **b**. 淨 即 外に 一線をむ 土に 或現除身 かっ 卿 净 つね 土所な < お 8 あ \$2 もへ 中に ع 6 菩提 ると 見 光 ば 濁

のは 本地。法身の化用として變現したまふ地獄の 又罪業もしおもくして。 獄鬼畜生も曼陀羅の聖衆とならへるもよくよ 尊神の引導にもるべからず。かの密教の心。地 くるとも。 て隨類應現の引接難思なれば。六趣四生にか 僧都人につきて申ける。まことなるにや。すべ なかにおちて。つねに出離の緑たるべし。璋圓 内證法性の土。浄穢をわ 一たび縁をむすびたてまつりなば。 因果 か L からし n は 大明 む 神 3

右春日權現驗記以屋代弘賢本校合

く思あはすべきことなり。

群 書 類 從 卷 第

神 祇 部

春 沚: 記

御殿。 御 殿 武 甕槌 主 命 。香取。 命 鹿

一御殿 殿 天兒屋 太神。 。太神宮。 根命。平岡

四 =

御

姬

幣

[10]

前

伊 泂 勢國 內 國

下 常

總 陸

圆 國

鹿嶋 宣 一命黄紙。 大 川神

模 若 本 宫 殿 殿 巨 勢 姬 大明 神。

水屋 册 八 前神。 所 金峰 4: 山 頭 天王。 藏王 權現。 稻 田 姬

南海天女

紀 诚 戸 伊 社 赤穂 道 明 神 神

> 風 御 宮 御 神 殿。內二觀 風 神 世音。弘法大師作。 申

三枝明神 主宮。內二不動明王。 率川大明神 也

氷室 明 神 內二陳那菩薩。

愛宕權現。

。內二三所辨才天

勝 軍 地藏

天神

上 高 水 山 屋五 五 社。 社 。內二善如龍王。 長尾大明 神

住 多賀社。內二 吉 明神 金剛童子。

重塔。內二浮雲明神。

栋 本 角 振 阿神 。戶口。

起 御 Ш 殿 神護 御 以城 造 垂 一里。 跡 景雲二年 木枝 自 同 常常 年 十一 為御 陸 正 國 月九日 月九 鞭 御影向。 日 大和 寅 御 日 國派 乘物 寅 時 上郡 以應 宮柱 三笠 立 為

延喜式 御 笠 天 Ш 皇神護景雲二年正 殿 被 御 垂跡。 造了 日。大和 同 十一月九日寅日寅時宮柱立 國添上郡春日祭神四座 一月九日大和 國添上郡三 稱德

城 等爾燒 之始號中 鄕 付。 神 上郡安部 二仕 護景雲元 自、其後御同國薦生中山數月。 瀬河軍 N 栗各 臣殖 、栗殖 Ш 一賜天宣云。汝等子孫無, 斷絕 御 年六月廿一日 御坐。同二年 沐浴。 栗連, ヘンニ必 以鞭為 同年十二月七日 可,生付。即生付了 伊 三笠 賀國名張 驗 立 山 御 給。 御垂跡也 時 成 大和 風 郡 秀 樹 夏身 因 可 4

> 月正一位。 御位記日。人皇五十四代仁明天皇嘉祥三年九

風同秀行等奉行。 御造營。 神護景雲二年預』神官中臣殖栗連時

御遷宮。 同 一季御八講 行日 H 修之。長者貞信公忠平。別當 被始行。 明 後 天皇御 光仁 條御字寬仁元年二月廿日 一天皇 村 Ŀ 字 一天皇御 嘉 御 祥 字 寶龜 年年 宇 天曆元年五始 年 始 ф 平源 行 始 十月十 ili 被

夕御 本 御 驷 社 神 廻廊。 廊 供備進。 同 時始作之 同 高 御 倉院 鳥羽 字三 治承 院 月 御 + 四 時永久二年年定。 亥年二月廿六日三 日始 被行

7

臨時祭。 伏見院正應三年二月九日始。使頭中

卷第十

t

將伊定朝臣。

藤原朝臣貞信舎。御參修宮[____]記曰。延喜十六年 二月十日 長者右大臣正三位

爾告御託宣。慈悲滿行菩薩成給。 朱雀院承平七年町十一月廿五日 與福寺勝圓

後之行幸,代々御帝記有之。故不裁。 一條院永祚元年已三月廿二日行幸始之。

其

當社春日御殿內若宮起。後之行幸。代々御帝記有、之。故不、載

本 明神 龍神是也。 太刀辛雄明神。 佐 軍神。 栗辛 天夜义神是也 明 飛來天神。 神 隼明 神是也。 海 本 朗

十六會講。

崇德院大治五年十一

月廿七日始

行之。于、社院內、而修之。

r 神。 是也。 椿明神。 金剛 風 御子明神。 童子明神 角振 明 前 是也 金命是 岩本明 青柳 神 也 明神。

巨勢大明神也 屋 丽 神 主明 祓戶明神。 DO 神 天 是也 舟戶明神 即 加 榎 本 明 神 道

拜殿井經所。 近衞院康治三年五月始建立。 被行之。 该一點。神主祐房奉、移之。通合明神登波是也。

右以元本再校了天保十五年十一月廿三日忠實

津磐根 笠山 當神 安 在 伊 賀 部 渡御 山 本 國名張郡夏身鄉 護景雲元 仁渡 酮 宫 m 鎮 仁 數月御居住。 御座 遷 御 御 垂 年十六月廿一日,從,常陸國庭嶋宮 跡。 。同二年正月九 同 仁渡御座。自是同 年 同 年十一月七日 申戊 + 日 一月九日 同 國 添 國 上郡 寅日 大和國 医薦山 下 仁

辛 後。 明 神 栫 所謂 本明 集 神。 朋 亦者 前 海 本ト E 申 ス。 共 北

义神是也。 四御殿。 後。相本明神。其北。佐軍神·所謂天夜

E 3 四 院 座 忠 方脇戶 其 金剛 西 本。 方。 童子 風御 明神 本 子 明 明神。 是也 か神。 亦角振 金命 是也。 明 神 是也 其西

> 外院。 內 舞 殿 青 神。 東 楠 坤 次ニ井 明神。 方 水 座。 屋 前神 栗明 神宮 次 岩 = 神。此 三所。 辛 本 座 阴 榊 所謂 神。 明 所 मिप् 神 小神 謂 任 4= 上。巴 吉 不 頭天王是也。自,本 新 鎮 開 明神 初 座 殿 請也 是也。 是 次二次果 也 其 次 11)]

福摊 自 社 主 本 乾 社 一町去御 榎 抽 本 巫 明 加 座 所謂 女神。 號 E 上勢大明 咖

西。 亦岐神。所謂道 祖神。自,本社,

MI

廻廊西籠殿。

外院。 若宮 三所。 内院 以 兵主明 Ŀ 自本社北 四 十三所。 太 神 玉明神。 次南 座 自 宮明神。 手 本 刀辛 社一 订 加 町 次一童子明神。 明 西 神。 座 所

卷

懸橋 卅八所明神 乃 石吸明 明神 赤穂 現 神 鬼子 誇社 自本 明神。嶋田明 南裡左良氣明神。其南一町去。所 引 神 社 所謂辨才天也 內在。 與方御座 。自"本 神。御前 社 石 立 當 明 神 式

率川明神 言主明 主 $\overline{f_{\mathbf{i}}}$ 三所。 神 一町去座。 自本社 三枝 明神。正一位也。自 一十八町去座。

穴栗明 誇社。二社亦乳明神。 井栗 明神。 神 此 自 本 兩社奉 社 白乳明神是也。自,本社、北十 , 南十町去座 渡 **滿房中院** 也

魏 丸 命

MI

去座。

御 神甕九連日 神

舍人

小水權

明

此 軍 所自,水屋社 辨才 天 女。 西 町 去。 天 神 忠隆宮內座。

> 同 社 壇 右九萬八千夜义神也。 左方三寶荒神 右 方愛染明 市中

北向荒神 退 轉 也 日月星三光也。 社壇毛三所。今二社

柏子神 酒殿。 本地 修圓大威德明王之化現也 不動 明王也。十三重塔座。自,本社

坤方建。

一言

大鳥 野神。 居。 牽 發心門。歌曰 4 織 女 也。率牛者彦星男也 榊葉仁夕四 手付天打拂

一鳥居。 身仁者穢乃雲霧茂那之。 禮波集利 修行門。歌曰。鳥居 賜倍四方乃 神 神 立 左右高天乃原那

藤鳥居。 入者萬乃罪毛消字勢爾慶 菩提門。歌曰。 千盤屋振 理 神乃鳥居於出

大宮御前 仁波息災壽命福德乃道 御橋。歌曰。祈禮 人浮世之中乃榮花

車馬屋殿下橋 五位乃橋登名。歌曰。 字 智 和 多

鹿道石橋 加心與利成須和佐於伊津禮乃 善趣乃橋登名。 歌日。知和屋 神加除所二見 一不留我

瀧本南橋。 伊乃橋。 目 何事毛 語羅伊橋。上細道在。願成就道也。 叶三笠乃中間道 相乃知志夜語羅 歌

榎本殿。 大鳥居。 乃黑駒引與世天乘天意佐無留春 於通利志神水於宇氣與呂古布屋即心成 東橋。 下橋。 馬出橋。歌曰。千和及不留甲斐 瀧本橋。 四位。歌曰。 旧野 心成佛。 乃乃原。

南門。赤童子御影岩座。石橋下六 西屋堂。 地藏菩薩御座

御社記終 記。愚不」可,他見 右一卷之記。神社傳井諸舊文拔出。為當社秘

> 于時長承二年二月十四日。 神宮預 中臣滿

名判

历

右御社記。 加、注清書畢 文明九年九月十六日隱密焉。《本請移之如能 末代役輩可、相。傳御神恩可、仰

11

右以元本再按合了天保十五年十一月廿三日忠寶

可秘

春 神 木 御 入洛 見聞 略 記

引之故 許。兩 之由。訴訟篇 其外三實院僧正 主沒落入洛云云。急可、被、處,流刑 等蜂起。押寄一 自 義 安 加 四 寺 大乘院同之。但 路御 可 也云 年 被改 (加)治 + 入洛云云。傳 _ 目 月 数十 影。此 乘院 門主 一并覺王院僧 日 奉 箇條 合戰。 之由云云。同 上者不,及,豫 不,及,燒拂,云云。已 聞訴 振 云云。兩 寄 訟 卽 神 ĪE. 肝要者。 燒拂之間 等。同 木 僧 於六 日 正 - 之由 議 者一 可有。遠流 败 南 條 福 奏聞 不一待。我 門主 BH 殿 乘 而 寺 跡 方 今 院 兩 议 門 忽 飛

T 同五 之間。 任中 人忽沒落晦 詩之旨。一 猶御 在 跡。其上自 洛 乘院 五 五 大 乘院 除訴 訟 被 數 罪名 箇 條

一樹了 同六年九 普永 月一 亦 風 H 宋,可,及,今度,云云。 自 西 刻 至 土。寅 刻。 大 神 風 木 穿 御 在 Ш

> 中 常 儀 歟。 不 可 說 R K 々。

殊神 諸社 凡 世 今 同 年流 翰 Ŀ -1 墨 木御在洛中。恐怖多端之處。果而 之恠異勘文等繼、跡了。 之 年甲 布 難 重 寅 事 及 何 自正 者 # 事如之。 也 日 月 崩 rþi 御 旬 自,去年 新 天 而遂不 下 院 御 諒 以 影 來大 御 儀 有 也。 此御 拖 變 御 澹 也 祈 七御 妖。 111

訟 同 年 刊, 月。赤 。於,攝州,神人打擲 松 、、二人 被 事云云。 遠 流。今 ·度依 南 都 之訴

此 同 + 兩 箇 月五 條 于今 日 兩 延 僧正 引 云 配 流事 被 宣下。御歸 座 依

日

下

云

篠 同廿 殿二條 與 同 十二月 影 村 + 可」有"逗留 白 日。 殿 **宰萬**相里 御同 法 覺王院 七 身院 繼小 房路。新 日。 云 云。即 神木 僧 僧 分 卿 Ī JF. 和 終六條殿 播磨國 播 備 雲客。 御 磨 1 3 歸 國 國 座 其 下 一給。但被路 數 其 向。但今暫 回 水寺隱 出 儀 仕云云。太 如常 居了。 關 次之 升· 閣 白 州

先依,內々仰,上洛云云。 同廿五日。法身院僧正上洛。自,武家,執申之間。

下云云。同廿八日 覺王院僧正 同上洛。內々仰如前云云。同廿八日 覺王院僧正 同上洛。內々仰如前云云。

康曆元年己未八月十四日。

十二月十□日。神木御歸座。寺家方衆等大略離同二年庚申。自,八月比,大名少々發向。宇治邊取同二年庚申。自,八月比,大名少々發向。宇治邊取

武 迄神幸。翌日南都御歸座云云。是今月廿五日。 大將家御着陣之問。藤家出仕之料。御歸座事。 下卿相雲客供奉。洛中雨。當山今夜大雪也。宇治 去間。大衆不、及,上洛,但一 今度上洛云云。三百餘人數云云。二條殿下 而 被 勸申之。 乘院門主今度 乘院 方御門徒 御還 大略 住 右 以 有

心之間。自,武家,軍兵押,下之。奉,守護神社,云至也。御忠節如、此雖,其沙汰。惣寺衆徒悉雕散。野

さか き葉の日記

後普光園院攝政良基公

き頭。六條殿の庭にもいづくよりともなく現 鹿の頭など 道大路にちろぼひ。又目も鼻もな 心有たぐひは此御た b せぶ水の聲までも。今年は恨がほなるも。聞な にしむ心地 神だにすませ おふ故郷は。さらぬだに物さびたるに。おとく こき代々をなむへたりける。奈良の都 のむよす L 奈良の京春日の里。 さほのわ たりにしるよし つら てとし からにや。此春 の冬つかた ひて。 から 經 して。林にたどずむ鹿のね。苔にむ 12 たる翁侍り。當初 人の夢見もさはがしかりしか 給 より御榊都にわた て。北の は の比は。世のなかの人おほ n 御山 くり にやとぞ歎き侍 藤なみか の秋の月。 より三笠山 けまくも らせ給へば。 b 真治三名 į い身 か をた ば <

すまわ

おもひつどけ侍りしに。さらに涙

3

どし給事はなけれども。昔より 神 程なくして其験も侍りけるとかや。今も りて。不思議の御歌などありしにや。げにも幾 春日御神は。い は思ひより侍きや。いかにもわた とかや。されば徳治にも n 比長講堂へまうでたりしに。ならは 此翁も老の坂く るしき道に たち出て。さい きあひたれば。げにもさもやとぞおぼえ侍る。 かくる難にもあひ侍にやと世がたりに に。道朝禪門が事。今日明日かくる事有 なる事 ふせぎたてまつれと仰られしに。直 マの るものの。 などせ 御 か 事 あら 心 。つねに損ぜぬ も人にたがは むずら ちはやくたち所に罸をあて 誠 に不思議なりし んなど 大覺寺の Ø は 事に 世の人は なき事 神慮に 事 て侍とぞ。 法皇御 くしあり E の御旅 の託宣 P たが 申侍 7 ~ L 桐 あ ひ な 此 7 かっ あ To 方

まら ば 本 れわ 民 此 b 所にむれゐて。 心ちぞし侍 L 所にきこえ は くろげに申 たつ物など 尊な かい るも のこくろ 三年叶事なし。まして人の歎いつの世にか 寺 か 41 12 D る庭 のきの な かくこそは つとなき御旅所かな。神の ゝか 御誓な やう B 0) 0 りき。 付 たるも。彼野宮の秋の 合た みたてまつ 内に 板 あさぢ ひらけ侍 7 しこやぶ あ か 間 りしが。 はた b は は 72 さしも本 神 りけり。 に。忍草 0 ょ の様 n と所がらさへあはれそふ 司の ふ。なきよは b b やうく 12 b 申 べき。此ほど南圓 あら なるかり屋きりか 四 生しげ くづ した。 されども一夜の中。 事 祉 五人十人ば 待し。 して C 12 12 あれ など 夜さむに ていとにぎ らて。 る虫の 7 口うらもむ 御愁 夕の物か 3 さへ やう 月だ 果てた いかり所 うら だに 音。 は b な 堂 10 け。 な 所 から 6 0 B 73 72 は 都 T

徒どもは六條院を集會所にしてあつまり。 目出 を開 侍し。公卿着座して装束もうる まで。あしをそらにて。六條殿へ さこそあらむすら にもか より雨ふ ふるひ人。おさめ。 の中ゆすりみちて。物みる る。道もさりあへぬほど也。其日 ほどは。衆徒神人一二万人も布引に上あ る葎ものこりなき心ちし侍也。 らにたど いふ事もなくて。ならの訴訟も今は は のさはぎ もしづまり。い 度事 72 3 くこそあ よふ との りていかじとおばえしに。弘安正 にて。八月十二日の歸 めで 雲霧 くしり侍に りし 12 みか めとぞ もはれ。胸 くこそ晴 かっ は。 ئے こそ。 もの。 たび さしか 誠 12 の中に 座 ほ 1-まへ二三日 ろ あ 神 ٤ とて。 L ま U) 2 成 やし あ ינל は 残な は 觸 Va. ば 3 0) は 111-期 Ŏ 12 Vi 天 今 6 カコ 1 つま に臨 など ば く眉 b 2 H など b 都 8 11 0)

b. 納言殿 りし 事 東 をつかはさる。午時ばかりに左大臣殿。 Ŀ 補 脏 權 はひしと 衆徒やう 13 Ł など皆門前 たり。 に神 なりぬ 0 の北 僧正を初として。僧綱三四十人参りて。 réi へのぼらせ給。嗣房召て 大乘院 庭の 曹弁 殿に の方にさぶらふ。衆徒は東の方に 巳の時ばか れば 南 〈 参集て。六條 嗣房寺へは参て。事ども奉行す。神 條大納言殿。 なみ 0 僧都御房を そしとして たび は へ参合。い 22 わ 關白 方の公卿 とたうとくぞ覺え侍し、辰 ず に下て其禮 たり。日の して 一殿座 りに關白殿參給。 以下の まだ 雨 '別當 など 次第 0 につか 0) 座 をい 殿 時に 事 P 座は只高 條々御下知 1: 0 具 弘 たす。 、せ給。 つく。 つせずして 權 12 庭より六七 0 b 別當 奈良 '神司 麗 やうく に終 九條大 T 1 to 0 b 先 東 一懷 時 の僧 事 0) £ T 立 Ď 堂 蜚 0 雅 町

運も 大臣 けぢ ごる L て先布留を出したて まつる。布留 北の方よりすくみて亂聲あり。 1= 神訴悉く眉を開く。上關白 しく 其後大乘院 帖 7 0 てみなひざまづく。 はしを下給ほど。關白以下の人々座 ある事い て持奉る。此時樂人還城樂を奏す。警蹕のこゑ 平伏す。 御榊。五所の L 也 たが にて か 長人なるべき趣也。みな一 みゆ。出 めに 執 柄 ふ。吾神 とありがたしとぞ衣かつき中侍し。 供奉せらる。又今度當職 中門の やとぞ見え侍し。 0 0 一御の 御 し。關白以下僧綱まで首を地 僧都參せ給。上童 御正 座 邊 期に臨て衆徒僉議 0 は 一躰出 威よにことなり。 布留すぎさせ いら 舋 させ給。 せ給時。 12 。此殿 以下氏の *b* . 同 神人 などきら これ は 給給 す。 0) にて申沙汰 曆 て後。 の事 の前 神寶 人々 數 其後 朝家 應 3 百 あ 神 東 本 人 樂 j b 者 内 0)

人道 人榊 人は 十人 侍 行 見 川釜臣 神行に恐たてまつらせ給故也。 下襲に絲鞋 b 人數百人相從 かう 坊 て持たて ら供 え 殿。 h 莂 座 城 大 次御正 白杖 すが の枝 は 中納言 侍り。 御裾をもつ。 L につきて。 衞府長殿 やう 0 3 まつる。 官人などゆ をも 躰。 をも 次花 次九 を着し給。隨身十人御さきをはす。 を 樂を奏して供奉す。關 次 神司ども束帶 ふ。次に 叉黄衣の 进 つ。次布留 て前行 35 次第 山院大納言。 上人一人前 四 條 前駈 13 L 神人數百 條 大 申 中納言。 納 す。 13 こと くしき 神 四人御後に 言殿。 h 行 次に の大明神 脈二人 13 1= 人隨たてまつ 先赤 を着 行 次別當 L さまに 12 白 粧 條 殿上人二人。一 た ٤ 衣 往 神 から し覆 大 な あ から 0 O) 人 丁二行に 此 白殿柳の御 みゆ。 5 納言殿。 b 例 神人 製百 神寶 面 度 次今出 次右 をた 御 2 る。 事 八數百 に神 次西 人 及 道 大 辫 13 次 \$2 あ 0 <

だまれ 後は む沙汰 を L 吹連て充滿 粧 下。 九條大納言 納言殿御供。 臣 うち破たりと聞えしは。 ろしく とる。季 あしく車二三雨た b Ō を。石にてさじきをうちなど。いとおどろお 끆 D 關白殿 けん。いと不便なる 僧綱。 づ くしくぞみえ侍し。 殿 中納 有て。 から 上人 3 む 村 大乘院 0 言。 振 < 朝 たり。 殿 侍 御 0 宣方。資康。仲光。宗顯。 ども 舞 Ĕ 今度も使廳 次 けし。 御 供。 \$2 13 左大臣殿 四 僧都 供 3 なり。 ども。 さしたる 條 嗣房朝臣。非信 10 てた 1= 2 字 御房 あ P b L in 忠賴 相。 。次衆徒 b 3 b 13 の御 į, 車 ども カコ b 次 仰られたるに。 事もなき物とが な け 次聖僧。 か は 朝 3 此 洞 b. 供に 3 ~ 12 臣關 13 これ 院 内に 多。 一二万人。螺を かっ 7 3 供 朝臣。 宰相 あり。親忠 。飛徒 6 白 1 は 次權 本 人 步給。 爲有 殿 D 2 釈 0 1= 1/1 3 散 ai. 徒 御 公 別當 T 條 御行 今日 [5] 福 ž か 12 0 時 侍 3 8 已 朝 b 此 4-门

化 み 12 拜たて まつるに。これは そことなく青みわた 御輿などのあざや は 人數など し。御みちすがらの樂の聲々。あやしのしづの よりそらも晴て。榊にうつる夕日影。香來山 to か めまでもなみだをおとし。手を額にあてく。ゑ るとぞ。 る榊 は院 りし のまゆをひらきてぞ今日は拜み奉し。時の むかたな 白大臣 の鏡も さながら あらはれ給。 たうとさもい けうとく。身のけもよだつやうにぞみ もあ に。鴻軍六條わたりに 棧敷を構て 見物 の。梢はるべくとみかさの杜の心ちし 例 もよくぞ りけ などの 御さじきもなくて。いとさうべくし 前々よりも すくなく 0 物み 神人共の警蹕 かやうに大路 る者どもは申 此比の公家の かなるをこそ祭などの時は とありがたきことにや。 の聲かうべし。 をさなが し。申時は みえ侍しかど 人 R 出 ら多 立. え侍 かっ 給 此 せ 0 b 13

ば。當社の御事 勢大神宮。正八幡,春日大明神。此三社 をば當社の御成敗ある事にて侍り。其故 事と心得た 申樣。此春日 侍ざりしかども。おろく一書付侍也。寺官の僧 かたり侍し。みくもおぼろに てさだかに 師 る神人。又寺官などにもやあらんとみゆる法 に。とし九十ばかり にもや成ねらんと おぼ いとくるしくて。後月の方にしばし息み侍し る道しのぎて。今朝卯刻に六條殿に參たれ のきねかねき事どもにはし侍し。此翁も遙な せらる、事。武運なをたのもしく侍などぞ。例 か し給しかば。人々もこくろ しらひしてぞ りし。物のはへある心ちして。いよく~目 らし事共也今日かやうに事ゆへなく申沙 の是も八十あまりなるが るこそ返々 大明神の の告よりた 御事を 無念 物語 うとき に侍れ。此 只神 をし侍し 事 13 何 さとも も同 H 聞 わ 本 を承 は 出 國 W 12

八咫鏡。 **天**兒 紫 葦原中 此 1: は 天 上に 天照 13 國 3 事 幡 種 王 H T 步 は 大 カコ は 人 心は海の を授申 給 讨 根 间 5 へは 高 苦 臣 侍是は 3 伊 神賢 國高 U せ 國 命 カコ 薩 8 所也。八坂瓊曲玉。籍なり。葦薙釼。 皇產 勢 30 時 3 0 給 は 申 < 春 後に神 < されて。天兒屋根 T 主 神 だり 霊 應 器 神に 2 L ごとし 天 日 ・穂峯に 12 神 量 誓てのたまは K 照 \$2 也 尊 0) るべ ほ と申 天皇にて をえ 三種 太神 御 共 給 Ł め末 、其德 沙 此 裥 は 天 神 らば B 冰 0) 天 給 あ で。只天 < T 實 八照太神 わた 汝 其 L は 此 7: せ を授 -[わ 0 地 其 時 は 葦原 b 命 6 あ 給 子 12 形 は 0 6 を副 せ給 給 1 上にて b 6 事 孫 我 2 天 は 0) 0 中 され L せ 1= L 上に 御孫皇 は 子 H 3 Ł 奉 な T 孫 0 代 國 劔なは資 け 有 To 13 萬 其 ま 天 N 70 此 を立 b 也 此 炕 U < 神 此 故 Ł 事 孫 侍 78

せ給 をも。 は F 1= 12 3 國 D 0 1= 12 魚 Ł 柄 人 位 じま b b B b 民 0 な Ł 神 如 退 1, ぞ 違 Ł t 0 1-2 約 執 b 水 國 とり ぞ承 2 執 12 事 \pm て。床 刨 12 あ か Ar Ł 執 を守り君 位 Ü 事 \$2 は 柄 5 b かっ わきめぐみ給 柄 き験 及 1= 12 は لخ 30 な をなら るべ 異 à 達 則今 釽 侍 刨 成 ŧ, ならず。 0) 其 倉右 度 き也。 3 1-事 侍 まし (j) 御 70 よ 偏 0 to ~ ては侍れ。 b 1= 勢太神 先祖 ょ b 赤 大 輔 なし。 殿を等くし Po な 0 君 T 將 春 3 H 佐 風 3 2 神 2 臣 0 今も 壽 de と雲 H 0 L 非 叉 宫 かっ 0 7 ね 木 大明 永 lí 13 なり。 赤 契 神 宗 0) し 御 唐國 13 我 0) 3 7 不 12 F 皇孫 人 1; 0 寶 加 國 ij 1. 3 殿 7 から 0) 0 思 0 0 0) 帝 _ 助 剱 22 1= は 旭 誓約 は 約 亿. \$2 神 13 は代 けま 卻 議 \$2 4 T 西 47 か Ç 1 採 游 3 0) 1) D に似 نخ かっ た ŧ t 12 8 0 は 沈 li 地 7: 3 门 神 6 人 末 B b \$2

神と成て廣く衆生を導くべしと經文にも侍と れば釋迦の所説にも。我滅度の 給て諸衆生を 3 志深からむには。 事はなきにや。人を先として己を後にし給 人などいはれ給ほどの人の、我名利を先とする 人などいはるく分際は中々申にをよばず。賢 どらんとちかひ給へば。よく國をしづめられ れけるなるべし。八幡も春日も正直 ら地頭をだにすへずして春日社に寄進せられ り。其後所願成就のため。大和國一國をさな 兵をあげられしきざみ。神宮に御厨 ん人をぞ。行末とをく守り申さるべき。大方聖 其心。神代の事をわきまへ。行末をかべみら 有まじ 彼替におほやけのたみの御守と成 きに められし初にも。先治承四年に義 あは こそ侍れ。たとへば佛の 立所に國もおさまり。民の愁 \$2 み給も同 後閻浮提の大 事なる の頭に をよせ奉 出世 p 2 國

ら此神の神虚にかなひて。天下をも草創 立出侍しかば。なをのこりおほく侍るべし。 せしかば。らうがはし 人の雑人をはらひのくしりて。うちは がちにて。もれたる事も多侍らん。 と。さまべくくどき侍しかど。老の心物わ 信心ふかく。日ごとにかくれけるも、をのづ け給ふ御慈悲も深かるべし。故贈左大臣殿 は本地地蔵ばさつにてわたらせ給へば。人 古き人のか たり侍しなり。ことに けるにやとおもひ かや。しらぬ事を申 あはせ は かたはらいたく侍ども。 くおそろ B れて しくて。やが 赤日 あま 不思議 ģ ららに 大 明 市市 侍 助 加

右さかき葉の日記以扶桑拾葉集按合了

神祇部十八

大三輪神三社鎮座次第

都社 给命 古 主 來 命。 寶 中 津 倉。 磐座 磐座大己貴命。邊 邊津 而 已。 磐 座 奥 少静津

以天 大己貴神 盖語名 一題矛 神 聞 女奇 叢雲。 素 T-百 7 公盞鳥 - 戈神。亦 稻田 + 劒 亦名 乃獻 斯 神 神。 4 自 娅 上於 神寶 天 國 。大國玉 生大 岐 而 行 主 大神 大 降 到 王神。 神。 己 蛇。 到 貴神。 亦 其尾 也。 於 號 出 然後素蓋烏神 日 逐就"於 r 雲國 靠 一籔之川 原 大己貴立 靈剱。 醜 根 國 亦 北 凡 市中

神。故遺庙 不知 為二衣 見。 不順 爾 卽 羽 愛 雖問 而養 取置,掌中,而 為 飲味 吾 頃 、衣。 服 多週 食。 敦 所 時 有,依來者。 養 使使 其名 有,一箇小男。 產 萬有 是 兒。 白 答 且 時 自 此 一不、答。 人人曰。 海 卽 指 於 凡 、即之。則 上 。此者高皇產[靈經日。此者人延彥必 少彦 有 天 間 忽有"人 男。 以 神。 隨潮 且 漏 天蘿 名 7 墮 于 雖 跳 命 時 五 自 者 水 是也。 問 陽 摩船。而 聲。 百 高 其類.乃 必 以浮 所 75 彼 座 皮 皇產靈質問 必 從 此 格 美 **館之子**。 到。 知之。 之諮 故 内 mi 1 3 船 爲兄弟 刻 称 恠 求 JĘ. 神。 少彦名 eji Z 粮 以 兒最 貴 之 33 帅 皮 動 事: 亩 6 館 M mi

攘。鳥獸昆蟲之災異。則定,其禁厭 復為"顯見蒼生及畜產。則定" 天 一貴命與"少彥名命。戮力一 地 加 國 也 故號曰。國造大己貴命。 因以稱 及處 初伊弉諾 々小嶋。而 伊 弉 地 册 稚 一心。強生蘆葦。固語如水母,浮漂之時。 神 也 其 共為" 療 、病之方。 。 之法。 .浮漂之時。大 夫 日 婦 業 是故百 原 生 叉 二造 國 為

暴。 于 世鄉,矣,亦曰。 謂 嘗大己貴命謂。少彥名命,曰。 曰。夫葦原中 命獨能巡 歪。常世 脉 善成 一大己貴命謂, 少彥名命, 曰。 然吾已摧 身而 神 光 之乎。少產名 鄉 少彦名命 照海。 造。 E 伏莫 共 國 **遂到"出雲國五** 至。淡嶋 東常海世 忽以 可"與、吾 本 不 中。自後 自 行至熊野 踊出 元芒。 和 命 一而絲 對 順 共理。天下 日 逐 波浪末。為"素裝束"持 至及 一十狭 或有 所未 之御 因言。今理 粟莖 吾等所,造 磐 K 崎。 所 者盖有之乎 小 者 成者。 草 成。 逐適. 木 汀 則彈 之國。 此 乃 或有、不 咸 大己 國 於 能 與言 渡 唯 彊 貴 豊 M.

神 長隱 當 青垣 於日 天 順 天 是汝之幸魂奇魂也。 國 以 奉 造 大 命之幸 是吾幸魂奇 大己貴命問 避。 八物 主神 荻 者仍加,褒美,是時歸順之首渠者 "平安"今我當"隱去 "此矛,卒有"治功。 乎。 彦火 山 本 於百不足之八十隈 .鄉導。周流削平。 仍以,平,國時 國青 使 魂奇魂。鎮座于當山。是神代也。此大三 主神 無我 瓊 是也。 就 K 垣 魂矣。今欲,住,何處 日。汝命 武 地山。故即營, 來 杵 魏槌 天照大神 者 質。 何 F 所杖 皇孫 神。駈除平定。於是大己貴 欲 大己貴命日 是誰 敢 矣。 如 有。逆命者。即 得 降寫 御室山。或作三 吾 造造 - 者矣。 卽 岩川 之廣矛 授。二神 耶。 高皇產靈 御室於大 不。在 躬 堅建 曹冕葦 放經 被端之八坂瓊 此矛 那。 唯。 云何。對日。 大造 汝能 原 尊崇養 人倭國 大物 對日。 治國 加 然廼知。 中國 完整電域縣 主神 之績 斬戮 得治 欲住 加 皇 吾 採 īlii 必 亦中 此

大物主神器養養養 姓。 室山。 其風姿威儀 縣 兒。 而 人 大 綜。貫針刺 來耶。 物主神化為美麗壯 陶邑。彼 爾父 名 貫針之糸控通 護。乃使還降之。 卽 卽 到 之櫛 知為 媛答曰。每夜 母疑。佐姓懷。 隨 乘 處 糸尋行。 無此 共 時父母欲,知,其壯夫。 大陶祇 天羽車 日 大物 方命 衣 襴焉。媛如、教爲之。而 者。不、知,其 主 經,茅渟山,入, 吉野 戶 女活玉依媛。容姿端 一大鷲 畝 半到來 問 , 鑰穴。而綜麻遺只有,三勾 夫。娶。活 神之子。 傍檀 , 媛曰。汝爲 ılıi, 原 姓 美麗 霓 然後 宮 名 E 御宇 妻下行 致 、伦未 依 壯 活 姬。即 懷姓也。 夫,共覆 媛績 天 王 山至 皇殊 曙 Ī 依 於茅 朋 有 於 去。 麻 姬 日 倒 為 御 觀 曾 生 作

> 傍橿 鈴媛 夫。乃 井 蹈 川 爾 時 大 綜 申 八神山。 鞴五十鈴媛 井川。之邊是國色之秀者也。天皇悦 輪神之女媛蹈鞴五十鈴姬命。宅。居于春日 食 命 媛 媛爲"大便 麻 神 原宮。欲立正妃。廣 命。 熊 國 所,遺三勾。號,麻勾山。 於 乃將來其矢。置於床 "。○復三嶋溝橛耳大女蹈 政 奇御 淳名川 於是天孫 大夫。是賀茂大三 二之節。 万 命。一納、宮爲。皇后。生 耳 為 天皇。 大物 起 神 H m 此天皇即位于 本磐余彦天 生女。 求 主神化,丹塗矢。突。陰元。 4 輪 今謂 門。時 邊。忽化 君 名 等遠 鞴媛為,美人 大二 日 一見二 有 皇即 媛 一輪 祖 為美麗 A 之。喚 為 蹈 也 刃。神 Ш 付 城 鞴 或 依 子 Hi. 媛 旅 批 丘

備 鏡。名曰 吾 腋藍宮 國造大己貴命 云云。合 上池心宮御 倭大物 造 瑞 宇 鯔 主櫛 也 天皇御世。神 本 大初己命之和 少齊 镺 E 馬 命。 隨 明憑 鎖 神 坐 #E 魂。取 大 足日 31 三輪神 能記八 瑞 命 細 咫 於 尔

治天下

座次第

卷

主命。詔 輪 Щ 造。 日命。自、今已後可、為。宮能賣。是神 吉足 日命。合、崇濟齊大己貴命大物

發城瑞羅宮御心 富部造先祖也。 皇。勅,大伴室屋大連。奉,幣帛於大三輪神社。所 漸謐。五穀旣成。 平金,合,敬祭。定,神 勅,大田々根子,為祭,大物主神,之主。以,天八十 告天下。"求"大田々根子。即於"茅渟縣陶邑。天皇 矣。亦有。海外之國。自當歸伏矣。天皇得。夢醉。布 必當自平矣。隨致祭祀無驗。天皇沐浴齋戒而 ,是天皇請, 罪神祇。 時大物主 之。何非絕 稿無。皇子之儀。 起,于此時 命,曰。天皇憂。國不,治是吾心也。能敬,祭吾,者 一矣。群在。日本紀。磐余甕栗宮御宇天 天津 字天皇御世。 百姓 大田々根子, 合、祭、吾者則 日嗣 一神明憑。宮能賣,日。天皇勿 地神戶。一於是疾病始息。國 (饒之。每年首夏仲冬卯 一哉。上古吾與 起,疾 神憑,倭迹 病 有 少彦名命 死亡。 々日 H 70 於 內 平 祈 媛

> 戮力 第如、件。十一月十六日夜勘。作之。 名命。于時天皇元年冬十月乙卯日 守,皇孫,濟,人民,矣。於,是起;立磐境。崇,祭少彥 命。來臨 一、心。所以 吾邊津磐座。與一吾及和魂, 共能可,敬祭。 灣天下。 其所 以而 也。仍鎮座次 今少 彥

物主神從一位。同二月朔日。大物主神奉、授。正 貞觀元年正月廿七 位。

日。奉、授、大己貴命正一位。大

,之。○鎮華祭者。式三月擇、日於,神祇官 、行,夏冬雨 寅日有。勅使。是冬夕祭、之也。有。官幣 卯日祭者。夏四月冬十二月上卯日。 時。中卯日 八年始,行之。爲,中絕,及,宇多天皇御世。再 飾"神酒甕"以"八十平瓮」祭,之。瑞籬宮御宇天皇 祭禮之事 行之。夏丑日有,勅使。是曉祭之也 祭。于時寬平十年也。爾來 岩有"三 爲 以三枝華。 二奉。敬 毎 脚

別宮小社之事。

之荒玉也。

葛城 耳 立 天皇御世。 五十鈴依 子。 賀茂君 小女王 社於葛城邑賀茂地。奉、齊, 母日,神楯媛。化為,八尋熊鰐。通二鳥 氏 神 櫛 媛 大田 命。葛城高丘宮御宇天皇皇恭離宮御宇殿。生二男一女。是天日方命。舜茂言 八重 々根子命孫大賀茂祇 事 代主 命 也 事代主命。仍 大己貴命 命 派動 賜

春 宮 日邑 御 大物 一枝神社。 之相殿為 宇 一率川 天皇 主命」也。 坂 御 岡 世 媛 三座。又始,行三枝祭。是大三 平城 兩處。奉 大三輪 蹈 鞴 宮御宇天皇御世。益造 五 齊 君 + 鈴媛 白從 媛蹈鞴 承 命 也。 勅 Ŧī. 立 + 小學 鈴 計 墾 媛 於 田

輪氏長奉,仕之。

大 命。武甕依命。武御氣立命。一櫛日方命。武飯勝命。武甑縣命。武 宮若 其子孫永仕 美 天皇 人良媛。 輪 君 七年十二月勅為。神主。賜、大三 土左賀茂部臣之女也。 大友主命依, 靈夢, 立, 社奉、齊,之。俗 ,其職。志賀穴穗宮御宇天皇御世。 大田 N 根 孫。 子 命 武 也 飯 片 儀城瑞 大都 隅命之子。 物 主 输 羅宮 命五 君 IC 御 陆

曾富 五 一府神 壽 高皇產 根靈 社 命 靈尊之子。 天 天龍 風表通精命。 H 事振 主五臟肝心脾 魂 命 天 天人 道 體 本 五穴具等 振 聖 魂 性 命 命 記之 也 氣

嘉祿丙戌之歲仲冬十九日

此書有。他家、採、納家。然後北畠大納言殿。今出

河宰相殿詣參之時。此書ヲ御覽アリテ 也。然而家傳有,相違,也。 テ。肩書被 、爲歟。大納言殿其出書ヲ被、仰ラ。宰相殿取、筆 解等ヲ引テ 云フ。日 本紀。舊事本紀。古語拾遺。延喜式。 成被下ヲ以テ。家ノ秘書トナル者 勘作スル。若大三輪氏博學之人所 被、仰テ 。冷義

真和二年十二月朔日

出雲掾大三輪君判

右大三輪三社鎮座次第以平高潔本書寫了

大倭神社註進狀

家。因以號曰,倭大國魂神。亦曰,大地主神。以,八 邑。蓋出雲杵築大社之別宮也。傳聞。倭大國魂神 尺瓊為神外,奉、齊焉。 下之地。建。得大造之績。在,大倭豐秋津國,守,國 者。大己貴神之荒魂。與,和魂,戮力一,於。經,營天 謹考, 舊記, 曰。大倭神社在, 大和國山邊郡大倭

對,立殿戶,自稱,大己貴命,曰。我和魂自,神代,鎮 家牒曰。腋上遠心宮御字天皇略元年秋七月 倭大國魂神。 並祭,於天皇大殿之內 殿內。而爲,實基之衞護,即得,神致而 寅朔。遷』都 三諸山。而助,神器之昌建,也。荒魂服。王身,在 於倭國葛城。丁卯。天皇夢有,一貴人。 。天照大神。 审

磯城瑞籬宮御宇天皇蔣六年。百姓流離云云。共 入姬命。祭,於倭國笠縫邑。仍立, 發城神籬。 不、安。秋九月已酉朔乙丑。天照大神託。 = 豐鋤 亦倭

观 神託 淳名城 城入 入 姬髮落 姬 命 體 祭二 瘦而 於 同 不 國 ili 碳 邑。 類 言 聚國 已說 史 馬 日

武

七年秋八月癸卯大倭邑。 然淳名時 所 大國魂神 使 平矣。天皇得,夢辭。 市磯長尾 稱等。共同夢而奏言。昨夜夢有,一貴人。海曰。以, 一月辛丑的 年秋八月癸卯 物部 作 祭 神之物即 連祖 五穀旣成。 (市, 為, 祭, 倭大國魂神, 之主, 必天下太 之主。定 朔丁卯。 伊 香色雄 以 朔己酉。穂積臣遠祖 命即香色雄而 神 益歡,於心。朕當, 榮樂。乃 地神戶。於是疫病始息。 大倭直祖長 姓饒之。 為神班物 尾市 以物部八 者 吉之。 大水 - 為 祭 冬十 7 倭 手 宿 國 1

內漸溫。 纒 太 焉。是時倭大國 隨 以。皇女倭姬 初之時 向殊 一神海 葦原中國之八 城宮御宇天皇母廿七年 立 期日。天照大神悉治。高天原。皇御孫尊 宮於伊勢國渡遇五十鈴 命為御杖代言真 魂神。着,大水口宿 百 + 魂神。 我親治,大地官, 夫 儿 (照大 月 編 戊 JII 神 而誨之 申 倭 朔 奉 姬 111 命 遷 子

> 午 和 位 朔甲 國 大 Hi. 國 云云。 魂 神 階 大 祥 大和國從二位大和 授 地 從 年 主 二位。 久 神 一十月 之 號 直 起于 乙巳朔 觀 DC 是 國 年春 辛亥。進 時 大魂神從 夫 正 月戊 大

座。日名 神 和 Ŧî. 新 名帳 國 畿 國 大 史 七 甞神 古。新 宗 新 宗 。 方 。 月 次 。 和 日 道 大國 諸 寬 大和 神 25 魂 三百 九 國 神 年 山 本 四 冬十二月 邊那 + 授 社各 Ē 一大和坐大國魂 位 士: 位。 寅 階。 朔 Щ 官符云。大 辰。 神社 。本、授

千戈神。御歲神二座。

八

撥不 孫 杖之廣矛 八千戈神。神代卷曰。大己貴命即以,平國 傳 岩 聞 用此 八千 一
贈
豆
茸 [矛,治,國者。必當,不安,今我當於 一獻, 皇孫,曰。吾以 原 戈 中國 神 之邪鬼。是時大己貴命 大己贵 命以 此矛,有,治功。 质 矛為杖 號 胩 皇 所

稔故 獻白 神 御歲 神 坂瓊 户 外。古 皇大殿之內。其藏務 - [1] 之八 神 猪 至今天 自 新 而 十隈 A. 拾遺 守護禾穀二神 白 子以" 鷄。奉謝無 日 將 常世 一、大地主 隱 白猪白馬白雞,每年祭,歲 去 鄉 為八八 _ 矣。 者矣。 也。 神 蝗 千戈神之神躰 言 營、田 是以八 蟲之災 訖 此 乏日 矛 卽 八提嚴稻 躬 亦上 年穀豐 1。御年 被 古 瑞 為 在 神 之

別社。

狹井神社。在1大和國城上郡。

情間。 狹井神者。 大己貴命之荒魂大國魂神。 即

值 狭井 궲 本 長尾 書 紀 社 地是也 市 日。 宿 倭大 介、祭矣。 神 著 穂積 所 臣 PH 云云。 大市 長 命 大 [治] 岬 倭

社五社。 大和國城上郡 狹井坐大 神荒魂神

大物主神。

諸 此大三輪之神也。 傳 神 幸 名 Щ 魂。 帳 問答言語也。 其 大 貴神 坳 主 和 問 神 國 者 目 此神之子。姬蹈 故 城 大己貴 汝是 大己貴 卽 上郡 營,宮彼處 誰 命之和 大神大物 耶 神 日 對 輔五 唯 魂 使 伙 也 吾是 主神社 + 就 云云 神 鈴命。 而 汝 代 居。

姬蹈韛五十鈴命。 座。名神大。月次。

勢夜多良比賣。

大物 天 古 須 國鳴下郡溝咋神社一座。 津國三嶋之人。神名帳。攝津 北賣 R 余理 主 記 之家。 神。娶其人,生子。名謂 。三嶋隍 一比賣。故謂,大神御子,也。其伊 在一种井川之上。神 昨 之女。 其容姿麗美。 名勢夜多良 宿御寢 倭伊 比 坐 曹 後參入 波 多 故 比 須 賣。 禮 N 美 毘 K 良 和 姬溝 古 余 伊

II.

10

沛

也。 延喜式 鎮遏 狹大 等 散 井 命 前巾 井神祝祝 之時。二 是 嶋 令,供祭。又 在,春華飛 一處祭。 足為!神 卷 部部 大者 E 概 百 倭直等 一一一一一一一一 神共散而 此 季 三月鎮花 H 事 春鎮 祭。故 本 櫛或云玉 代 日 散之時。疫神分散而 也君等 者大神之麁御 盤 不、定、日 華祭。義 一余意天皇神 二神。大己貴 也 日。鎮華祭。 īfii 行、疫已為 祭 生 尔二座。大神社 兒 解謂。 者 化 姬 臨 為 心心。 集解 大神 蹈 也。此 八 鞴 此 擇 也 尋熊 日 故 狹 Ŧi. 寒寒 日 病 祭 祭之。 井 + 之。 付 鰐。通 神 鈴 華 狹 姬

丹 此 生 社 111 神 前 名 神 帳。 雨 社 師 神 和 座。在同 也 國 吉 祈 野 國 雨 郡 吉 止霖。 野 升 郡 牛 11 奉 上 幣 神 不 剂 週

類聚國史曰。天平賓字

to

年

夏五

月

庚

4

旱也 額正 授 於丹 帛 新 辰。授,從三位 酉 下。以耐雨 國史日 于 遣使 五 /生川 。寶龜 四畿 和 位。授 畿七道 國 大 <u>F</u>: 內 丹生 六年 寬 也云云。 和 神。依 群 短 4 諸 丹 國 神]1] 秋 年 九年冬十二 生 神 吉 共 上 九月 禄 月 亓 三百 野 元 雨 丹 未 雨 Ŀ 郡 慶元 辛亥 生河 沙考 師 雨 也 四 雨 亦中 + ß 弘仁 師 年 本 £ 月壬寅 遣 祉 神 神。 夏 湔巾 授 各 Œ 他 二八 九 本 者 從 位 奉。白 13 年 前甲 加黑 位 庚 夏 階。官 位 從 JI; 4 M 辰 毛 训 11 及 Hi. 位 你 Ĭ

延喜 随使 别 式 也 向 日。凡奉幣 社 奉之。 是丹生 升 生 川 川上 上 神 神 者 社 為 和 當 耐 社 胂 主

述 依 國 者 守 也 貴 攝 命 祉 而 末 古 社 來 祭 秘 禮 傳 次第 参考 別 或 記 史 腿 家 牃

進

狀

座

仍註進狀如,件。

祝部大倭直歲繁謹書

獻上

率川神社。

禮。今三 皇推御世。建 焉 神 守。 或日。鳥羽。華。飾。酒鶴佐韋草一也。華。飾。酒鶴 大神御子神授。從五位下。 11 之女玉櫛! 義解謂。率川社祭也。以二一枝和名佐井草。古事 類 聚國 一枝祭是也。 建。大神御 神 大神 姬溝 大 神 史云。 。概耳 和 氏 國 氏宗定 家 | 狹井神。大已貴命荒 白 添 仁壽二年冬十月 養老 堤 牃 子神 祭。故 Ŀ 日。 那 而 小治 祭 十鈴蹈鞴五 李 日 養老合曰。 三枝 崩 不,足 左大 田 坐 管 豐浦 宮於春 大 臣 辛 兩 神 年 藤 神 集解 1 中 孟 御 史 率 社 始行 御 子 日 奉 Jil 率 字 神 云記 齍 祭 坐 11 天 社

> 社。川又日。 神 祭。春二月。 云。庭靈和 擇 神 冬十一月。 靈 也。 日 付記輪。 祭。 延喜式 一枝花 上酉 等,令, 嚴 日 曰。四月二 供 而 之。 叉曰。 枝 春 神 祭 日 率川 使 座 供。

別社

三枝 下。即 壽二年冬十一 聞。 御 上 子社 當 狹 一郡率川 武武焉。 并神之子。 座。 月辛丑 河 立南 波 当。率川社。即當計 門家口傳云。藤原 神 社 代 率川 主 座。 神。 當社歟。 阿 波 類 神 神授 聚 名 國 帳 史曰。 目。 Ïī. 大 位 和

園韓神社三座。

管次。 新 大 素戔鳥尊 大己貴命 神 齊 園神 氏家牒 馬 之子 之和 社 神名帳云。 E 座。 「養老 採 魂 韓神 大物 守 泛疫 年 宮內省坐神 中。藤 社 主 邢 神 也 一座。舊記云。 111 史 亦 時案 傳 建 三座。 聞 疫神 園 病菌 韓 喜 件 大並。名 三護之一飛散之 神 神 加 月神

廣瀬 社 緣 起

第。如此。少靈尊曰。少 以號…兩神 為 靈祭云,,當社之事。又大物主裥可用止之。仍云,,喝神,敷。園確,,艸木 』顯見蒼生。則定。其療病之方。或抄云。大己貴命。 神者。大己贵命。少產名命也。兩神 此。少彦名命可謂n素戔嗚尊子。紫野今宮三座·少彦名命。與n大已貴命一為n兒 中國一說。去從一東海。今爲」至上韓也。亦案。神皇產中國一說。去從一東海。今爲」濟一民吏一亦來歸。因 了謂言素小人之處。 m素戔嗚尊之孫 處也。集解所謂 一枝

云。 或 右 人需 率川 神社記 勘 述 者也 獻上 。神秘口 一於注 傳 到 進 狀 其 之節。 地 可、尋 應

社

家者流如、右。

+ · 月 廿 日

押

右大倭神社註進狀以平高潔本書寫了 花

夫當 義。可 人着 郡河 單 連大盖。大山 日。天武天皇四 神末社二十一所。又造立之。已上社家但 仰,諸司百官。 陸 立社壇。異 祉 厚八億由 託 …里長 地。 擅、云云。藤時答言。 水 同十三年 冠 社 奏聞 合村出 其時 足 東帶 者。 目。 ~池成 句也。其底下龍宮城 人皇十 化 可 現給 ilii 汝家北 中 人神妙 秋七月四 造立七字社。號,水足明 化來。 陸地。里長達。天聽。則 建立。 曾 年四 日。汝所謂 禰 所 化 有 連韓犬。祭。大忌 景神 共 IJ 月十日癸未 々有訖忽不見。 里長 冷水八 容 者 H 龍池。是號,水 貌端 天 何。彼里長 答云。 癸丑。始行幸。每 有其理。吾宜龍池 皇 百會也。 也。是池 I 御 小。遣 小 20 此 字。 段非 香 藤 心神於廣 被立 大 神。 何為可姓 。其明日 上可、造立 定 其 時 錦 H 和 此外答 池 燕 111 郭 1 1 本 國 真深 勅 外。異 書 然而 月 常 廣 潮 H 人 紀 रेगा

記宣云。 扉。鍵 生元 此 滿 歲 之時。八大龍 分身也。是則水門神也。以"一水之德、養, 萬品 產館。此 日 神孫乎。地下之後胤平。于時尊神以上言四句文 女躰之尊形。行者謂 宮殿樓閣。 七寶。四面 二 而 大忌廣瀬社 。伊弉 一出出。 入。箕面 一穀靈神 小精之壁。一 則 風 Ī. 吹撥之息成 諾 禮奠。 立四四 於三國風 神 尊曰 三位,云云。尤可、為。正 流。又入,水足池。忽到,龍宮城。地 也 龍 E 也。又曰。若宇加乃賣命。伊 超一于除社。貞 田 化 加 龍王之所變也。釋尊大乘經說 。我所,生之國。唯有。 檀 元 旗排 現而擁護。伏羲 々莊嚴 之柱题。金銀之椽 也。又飢時生兒日 "鈴神」言。 神。號,級長戶邊 , 威力, 者也。 役優婆塞 "四門。行者入"於南門。有 如諸 觀 此倉神 元 說 、枕天。 年 周易六龍 矣。 Œ 倉稻 朝霧 竊 者。天上 尊。 其中 開 月二 珊璃 。級長 Ü 勢外宮 魂 神 司一十 一十九 十七七 而 敷 命 Ż 法 之 津 薰 代

子。震旦 夫 社 平 佛 根 之花 神 降臨已來。自,上一人,至,下萬民,皆 法華經。以,其因緣一可,聽聞,云云。抑吾朝者。天 經 經 行 年。爱推古天皇御宇。上宮太子密奏言 者頓首 我是天 本。以 立。本迹之二門。併以, 花實, 國之遺法、遂不、甞,外國之儒教。而 乎。神 卷 **迦等也。 將**又件龍 本地大宮聖觀音。若宮 年 法 三界衆 中。眞言密致 東漸矣。已上自、爾以 實。震旦 捧 ... 枝葉 顯,枝葉、天竺開,華實。 勅宣。往昔釋尊說法之時。 法 八照連枝 生 再拜白。 味。 故。 一為。萬法之枝葉。 花質、顯其根元。 。尊神者五時之敎法之內 族 示 流 現明 切神明。佛 池變陸地 此土。後為 本 降。佛 地 樂師。 神度 神道者為" 故佛經 悲 花落歸、根之故。今 顯 閣 此外阿 法 之砌。 軦 修 經 根 現龍 世 神孫也。 傳來以來。 切 敎 元之謂 吾 供養法。 者。為 一。 日 經 車 枳 彌 可調 王守 興隆 <u>-</u> 千 本 萬 木 陀不動 故 萬 法之 Ť. 也 萬 顫 種

果而 岸。汝 之砌。 天 rþ 此 乎。深 解 通達之途。爰河 柑 吾爲,度, 隱 天皇御宇 餘 宣 皇知"當 。田氏 111 本 。爱明神鑒,無二丹誠。答,一心懇念。結 深山。 Ē 可 则 11 河 則 い相談待 此 神 女躰。 到 妻子啼 。持統天皇行幸之時 社之崇,令。 切衆 丈 之 池邊 明奉 mi 天 餘 起 皇自 彼 有 上有 生垂 乎。 互欲,渡 開 右 殖 則蒙此 所言訖 龍 泣而三七日 神 校 自 于 H 遊告言。 出 一迹於 派 殿 爾以 山 時河水太湛。 ili 垂 深則 生。是 請。忽犬平 其河 問 而託 神之利生。途 郡 則 迹 降 此 藤 御 垂 H 奉恨 影 只可 叁 籠當 地。何 日。 君 。枳實 戶。則 4 原宮遷都 加護。 介到此 [间] 瀬 汝愁歎無此 之奇 有行幸 波濤 **飑**。畜 帝 Ŀ 不,叶 犬 而 妻女從。神 文已。上 下奉苑 王。捨 補 社。祈 相 喰之惱 特 北 是 合。故 益 類 神 於奈 原願之 盖 也 カ 漲 不 主 願 河 此 請 舒 食 良 名 望 類 无 亂 託 妕 河 不 朋

> 甲 殊 五 云。于 寅 敬 神 時 威。 水 行 幸 及 丈 度 诉 不 12 流 天 光 皇 州 天 感 B 奇 資船 瑞 Fi. 王 MI 年

我是本

til

大悲館。

娑婆

利

生

能

化

無邊

杰

衆生 陪。倾 行之 哉。 難 其念稔云云。被 祇令曰。大忌神 生焉 10 也。生其地 兩 衆生濟 家 生長。 N 續氣血 修 亂 帝 而 之生命。出 人者為 莫。总 力莫 逆 王諸臣 何 之時 度故 況於 骨 者 非 萬物 肉 "平其國 寄 不 介 生 有 此 於 附 然 人倫 ili 假 倉 加 神 之長。 退 加 示 水變成廿 稻 思可仰 其 明 轉 地 訓 乎。靈氣之所 土。不貴其主靈 魂 神 之地 受所 伊弉諾 尊。是則 Ш 祁 者。 受一 数 可信 爭食 生養 矣 Ti 水 约 百 五穀 天 浸潤苗 為 竹 训 餘 能 地 る後 於當 町 思暗。 國 1 成 分 者。 也 之 耐 就 IIIi 稼 其 1: 也 訓: 萬 源 地 地 得 萬 切 物 45

記之。於,外題一者 天文二十四年九月吉曜 神 祇道管領長上卜部朝臣兼右 為後鑒被染

右廣瀨社緣起以村井敬義本書寫按合了

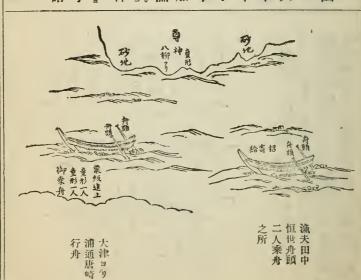
日吉社神道秘密記 爾宜正四位上大藏卿祝部宿禰行丸撰條

嶋郡 社務上祖琴御館宇志丸宿禰。自, 本國常州鹿 十五代舒明天皇御字五年頃。 唐崎。於。庭前,殖、松。名。之軒端之松。 時代第三 ,上洛,江州志賀郡三津濱居住之所。號,之

祝部氏系圖

記錄 五丁丑年三月中旬。於"伊香立鄉, 記,之。社 燒滅之事。元龜二辛未年九月十三日辛未。 炎上之間。以,新調,末代宜,備,龜鏡。於,是社 志丸。記錄之初。當 。社中之記錄紛失也。然後七箇年以 常立奪。 。依,放言火織田彈正忠信長山上坂本,破 新調之事。行九再"調者。所謂前代之抄 神皇產靈尊。 裔孫行丸行廣。相傳三十董塵寶。 活魂命。和部氏 後。天正 滅 早

早速御 可泛 再造 **添過** 孫可 日。恒 舟 中 時 主 H 報謝。每年卯月 之間。 海上之漁舟。田中 月 時代。第三十九代天智天皇御宇白 比 本 仰 叡大明 御影響 缚 分也必可 刻 江 世 神。 恒世畏而 以 已 州志賀 船漕着唐崎之浙。尊神 乘舟 好物無之。於是粟飯有。 我祭季之可備 速可 又大國 天降袖句製了。 刑: 之送。粟御料之怨志 VI 致 都 中 河介演說, 時 作倉 申 大己貴尊。 與大崎 代 日。 恒世召之。教 /津。恒 则 可、有、神、幸此處。傳 ·御料。恒 同 八柳濱 叉顯國玉 津 世 可 八柳濱 館して 尊號數々有 畏而 乘 於 也 世答中 言上御 舟上陸: 奉獻 我唐崎 有 漁 至也。 拿 皈 鳳 里 於 汝 臨 叉 西癸 漁 下 于 國 年 幸



進。每日捧,生魚,役者田中恒世。天智天皇大津宮御宇。第三十九代。 自鳳禁裡調

章神沖ョリ還御詠歌。 大津與大崎八柳濱。御臨着所。 大津與大崎八柳濱。御臨着所。

いつとなくわしの高ねに澄月のいつとなくわしの高ねに澄月の

古の鷲のみ山の法の花

光をやとすしかのから崎野神者。唐崎琴御舘宇志九,同座,於石上。神言下在,臨着。尊神與,宇志九,同座,於石上。神言下在,臨着。尊神與,宇志九,同座,於石上。神言下在,臨着。尊神與,宇志九,同座,於石上。神言下在,臨着。尊神與,宇志九,同座,於石上。神言下在,臨着。尊神,求,與勝地,云。季和常生悉有佛性。如來常住無有變易。如,是有,響。早可,有,御覽,如來常住無有變易。如,是有,響。早可,有,御覽,如來常住無有變易。如,是有,響。早可,有,御覽,如來常住無有變易。如,是有,響。早可,有,御覽,如來常住無有變易。如,是有,響。早可,介,給。

名何與問給。尊神答曰。我者是和州三輪ョマ御舘承。御詠歌。又白言。君從。何方,御來臨。御出館承。御詠歌。又白言。君從。何方,御來臨。御大伴の三津の浦はを打さらし



地。在 成 至 訓 時字志九觀 遷 此 幸。我又追 處可、現,神妙之相。教,御 一申給。 尊神忽然去給 河神 御跡葬上。建 戀 船 神 山下 £ 有勝 松

> 衆生 語曰。 詫宣以後。波止土濃臨幸之御迹。 之波音同前。依之尊神於。 葉 成過 杖桂青葉依 御館葬上 否。女人占 前巾 云 悉有佛性。 十生付為 和州三輪之杉ョリ 此 遷宮。其時御 谷川五色之波流台。其響經文也。一 女 石 波止土濃。觀之給。 現形。建立實殿。尊像有」起彫 處 祝 從 問 如來常住無有 此當 日。水、我鎮 木。青葉萌 水,洗,尊神之御足 詠歌 山下有 於此 。携持給御杖式 唐崎之松 座之勝 此 出タ 處 處 杉葉結置之。 y 女 勝 任 地河 地 人 又結, 杉之 桁移 蒯 此 少神。 通 文店 T 力 此 天 地 御 神 临 切 ,前中

此山すへにとまる松かせ 果より琴の御館にさそはれて

卷

双移住 崎 也 內-於 之樹 之。有造 古 宮聖眞子八王子。皆宇志九御造立之處。於,唐 日 如 文字現形。 日 。店崎 有。大文字。依、之奉、稱。 志 "微塵 本社建立事。琴御館宇志丸御 代社 也。唐崎者卯月祭禮之宿院定之。小 神 九承。知 夜空中。如明日 "御神幸之砌。 恒 田 宮權現景之給。 作。名。此處一曰,小唐崎。植,八柳。 等同前也。 例 中恒世依,御神 放號,大宮。本 也。於,唐崎琴御館住宅富 之。 I 而 輪 カタ 有 光 御形 カタチノミヤ 、チ車輪如。微塵如讀・文日。大如,車輪。文大 怨祈 世以,粟御供,參勤。上 託。每年卯 大宫。就, 再拜 神 號 祈 懇祈 御形。 所。次 日輪之 月第二申 m 津濱 H 唐崎 庭前 輪之 R 其 引 大 肼

卯月祭禮 事 言。於 第 唐崎 卅 神 九 幸者。琴御館以,大榊,奏,神 栗御 代 天 智 供 天 備 皇白鳳年中 進。 恒世之子 3 孫 1) 参向 以 幸 之 來 如

> 籠。增倍依, 神輿在之。其後 巨 曆 此 細 前申 猶 主 奥記之。 未 御 勅 造 卯月 願 進 者。 。御輿御造進之事。大宮二宮兩 時 第二ノ 々殘五社之神輿御造進 第 五 十代 申日ョリ 桓 武天皇行 七ヶ日 上二御形 幸 御 也 參 延

濱 中 所 K 前申 社 之 次 刻彫 本社

。如,大人之長。口傳。 俗形。於,唐崎,琴御館

巨細

神前 同

叁向之段記

御

座石

形

唐 崎 女 舠 當 口 傳 婦女或 松之精 神祝 或

自,此小唐崎,祭禮七社御寒御館種々相傳有,之。 柳 之濱有之。小唐 崎 叉 八柳 船 也 有 出 御。大津

之祭禮 崎 箇度。 御船龍 御船祭之事。慈惠 浦 水 御 船祭无之。近 込陸地无之。其 頭 鑑首 大 御座 師 代延 之時 分。 時 莊 御船 文年中。大洪水。唐 代。 嚴結 臨 祭有。 時 構有 之祭禮 如

神幸宿院建立之

客聖大二 真 王禪 子宮宮子師

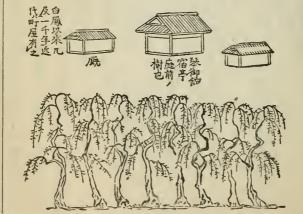
小唐崎八柳

卯月申日七社神幸宿院

唐崎

松





九十一

,此。近年者一圓御船祭也。上古無之。新儀也。 若宮俗形。上之大將軍勸請之。

|若宮|女形。富津之南若宮勸|請之。

四

屋中程「有。

岩宮 大明神 若宮 井垣 本地千手 面 神 大宮之御分登町 磊石形 神門有 神門有 住神假 之人屋 住神假 言語道

北昔酒井町。酒之泉涌出タリ。故號,酒井町 泉之精神崇之建、社。以,石形 為 神躰 此

> 津南若宮客人明神也。 勸請之。客人宮者。日本開闢之明神是也。然富 勸詩之。女形之御神躰。 宮。南若宮大明神。是穴太村 禪納之社。客人宮ョ 3 Ŋ 禪 納 大明 神 1)

興成 多江間町。僧俗心形。

礒成 行言生源寺上初。上坂本中處々住處也 悉社家中之住居此處也。成仲宿禰樹下上初。 富崎町 富崎町。僧俗心形。 河崎町。 和田小崎。 社家之神位祝之。 江津等已下。

| 騎兵 比叡辻橋詰。 比叡辻町 信用祭禮神人住 若宮小比叡 處出之。 大明神勸請。依之號 比叡让。 僧

若宮和 田町。俗形

形。本地樂師

遠社頭之氏永社是也。 御供所俗形。數多鎮座。衣冠成遠神位祝之。希

社務

中

系圖

六代孫行丸行廣相。傳之。 一三琴御館宇志丸ョリ 第二十一代。希遠ョリ 十

社頭再造立願歌。

字志 龙 絶た の造 3 時 b 代た 初 1 T L h ひえの 行 丸 祉

先達之剋如,此也。唐崎『『御供所社』マテー 右記錄分於』石占非社前,口傳。社務參社當今方仁皇帝御宇天正五年丁丑年彌生頃。

山王御影嚮之次第。本國和州三輪社。如右讀:渡之。

波 州 第 止 琴御館庭 大津八柳濱臨幸。田中恒世。 一。三輪山 正士濃御着坐。故號 二十濃御着坐。故號 二十濃御着坐。故號 上。記古 .第十代崇神御宇在社也 第四。石占非。 波止土濃大明 第三。 第 。 唐崎松弘 一种。同時。 第五。

山之鎮守山王權現。无熱池。大唐天台山之鎮山王者三國名山之守護。故號。山王、天竺靈鷲

大神門出道通。大神門出道通。

一御影響初中後ァッ。初。〇二宮小 比叡山 大明神。日本 以前ョッ波母山來至シ玉ヘッ。次。〇八王子者八十萬神引率而天。降金大巖。時代第十代崇神天皇御宇也。是マテハ社頭建立无」之。第三度目。〇大宮建立。此社頭之最初也。二宮一八王子早ケン共。社无」之。琴御館 社頭建立之八王子早ケン共。社无」之。琴御館 社頭建立之八王子早ケン共。社无」之。琴御館 社頭建立之八王子早ケン共。社无」之。等海の一個影響初中後ァッ。初。〇二宮小 比叡山 大明中第五十代桓武御宇始也。大宮ョッ百二十年後也。

第四。○學與子大宮ョッ十年後也。

第六。○三宮同三年御影嚮。

處。已上神幸次第如,此。 第七。○客人宮。天安二年,建立。相應和尙。祈

○地主大明神。天神第一尊神。天地初之神

是也。

第十代崇神天皇御宇也。
○八王子。 天神第二ョノ八神天降玉フ。時代

〇大宮。 日本大國主神。 又大己貴命。王代の大宮。 日本大國主神。 又大己貴命。王代

天皇御宇御影嚮。〇聖真子宮。 地神第二是也。第四十代天武》。主上加護。故號"比叡神。

○十禪師宮。 地神第三是也。第五十代桓武

〇客人宮。 天神第七神。日本開闢是也。第五十六代清和天皇御宇建立。天安三年。十六代清和天皇御宇建立。天安三年。



金剛界。

中神

門

生源寺辻有之。

大神門。 胎 藏界。 馬 場末有之。

內 御 號,惣合神門。文有之。最澄 神門。 作也。 , 惣合神門。 兩部合, 之。故 塔下之南有之。

栗御 小 日吉社祭禮。 唐 通行アリ。古里井明良上作道出給。長辻 崎 河 供 大 備 原 道 進。 ョリ富津登下。 祝 酒 此, 井絕間富崎比 祠 三神門為通行 之。以 後唐崎 大道 叡 3 之。大神門 크 辻登 Ŋ ŋ 還 唐 H H 崎 御 神 四 大 町 屋 乘 3

> 神幸 輿。 此 例 寺。上 神秘是 神門 右三 生源寺辻ョッ作道入給。長辻 八條橫小路ョリ馬場 |ナレトモ。大神門迄下給事。三神門 也 之事也。大神門迄 神門之中為 ,神幸,也。神道之本意者。 大宮橋。 无用ナラハ。七社 河原口可方 上下還御 専用 加 如

事。天照太神正 也 於 大神門大明 此 於 社 此神 御 對面 門 神者。 直, 之宿 天照太神每 依為 俗僧形僧形。三聖御鎮座 院是也。 』御本意,立,之。唐 日御影嚮所。 神門笠木直 崎 乏社 立 = 聖 之



社頭塔下南岩神邊在之。外神門 有之。 社物神 笠木一尺ソル。唐崎 門也。 祭禮七社 神

宿院

門

是也 內

神

門

唐崎

五

物合神門、

客人御分

下云心也。後此字也。後云人無之。下ッシリン云鳥居人無之。下ッシリン云鳥居 之。 · 町 大

大宮御分。

富津登兩社

沖門町云也。 大神門。馬場後有、之。町 一宮御分。

聖眞子御分。 中神門。生源寺辻之中。

> 神道神門大事。 已上七處。

口傳種々事

。八箇

所神門加,唐崎

也

小神門。馬ョリ最祠通口也。 八王子御分。

四

七 六

昔夷之前有之。後下下八王 大政所。王子宮前 子夢妙幢前 禪師 御 分

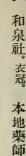
宮御分。 之由也。非一 神門秘密。 叡御分。 由也。又馬場 口傳。又三聖 物合神門。中 八王子三宮小比叡之內二 聖真子客人大宮之內二テ。神門 於太 神門。大神門。皆大宮之御分之由 一說。種 小神門又下八王子邊 御分之由。 八神門社 N П 庭上,諸人示,之。 傳有之。 口傳。 叉三 神 テ。 神 PH 門皆 神 无 小比 之 大



大 神門社。 三聖臨幸之事



大神門邊 地藏斡像有之。役行者作也。





古里井。 同上。

福大夫。烏帽子。 乘寺之町之社 也。藥師堂之前也 本地毘沙門



井神。衣冠。 奏,祝言。三町御 也。三町 御田植 御田 御田 植 田 輪番之使者。代 御 一奉行之明神 供於 日。曉 此 備 是

> 供奏 藏是本地五穀成就之神德有之。 也。於,大唐,三皇之內。神農皇帝是也云々。 、之觸ァリ。輪番役人所。祝儀有」之。物社 三人番年如、此。坂下中之田畠。此 祝言。六月土用間 々有」之。 日鍬鋤不,下, 中參會 地



成務天皇御倉神明也。後如此現。之時。社建立之事。本地毘沙門。是一大有、之。江州此神出現。元三大師 形神德 守社。第十三代成務天皇王宮 郡園社中八條町鎮守是也。 倉園大明神。衣冠帶,太刀,八條 事 於 井

南蓮華園有、寺。號,安養寺。傳教大師御父母石 躰之有。五輪。行諸人致之。 普賢菩薩。三宮御一 躰

上辻」如、此演也。女躰御裝束。本

地

源

寺

子 給 朝 立 굸 所。 木數多有之。石像 な。 福 此 茶實從 師 卯 處。 三宮 月 其後 祭禮 大 御 唐 茶調 Ш 未 城 佛外有 大 日 國字 進之。 師 大 八政 所 神 求 治郡 持シ玉 之 。社務當參之役 傳教 栂 ヒデ。 尾 二宮 大師 所 K 植一御弘,飯 御 八 处

祝 會 刻。 爲以,淨 內 京方内渡アリ。 渡為 水。 此茶 園 之與有 大寺。

有之。昔其邊者北 一月會 蓮 菲 一。昔五月五 園 田 舍方內渡 H 辻子地德 每年有之。 アリ。近 诗迄 代妙 內渡 觀 寺 7

傳 人惠慶。作 許 源 致 作之。 大 師 本尊千手。 御 御入唐之間 誕 生 有 處 摩 傳教 也 頂 故 樹 御 大 杉 弟 師 也 子 御

御父二 御抄 妙 津 h 傳 致 大 師高麗 函 佛 王 法也

東漸

厉

夫

第 + 六 10 應 前 天 皇 加 宫 是 也

生 源 寺 與 染禪 \equiv 泪: 枝 御 持 佛 堂 也

御 本 地 次 第化 身。

小

五

藥王 傳 菲 敘 德 大 Ξ 師 泪: 生 百 給 枝。 第第三二 者殿社。 アカ ブクラ 慈寂 光 藥 妙 音 Ŀ 義 妙德 真 夫 和

倘

有見 レンシーン社 也

芸

法 菲 經第 廿 七 品 在

妙莊 樂 嚴 淨 Ŧ 藏 生。 書 薩 生 妙 音 淨 樂 德 Ŀ 夫 淨 人 1 生。 菩薩 生

並

德,

妙 德 津 夫 百 人 枝

石

像 佛 躰

石 像 佛 躰

1) 西 有 燈 阴 備 之

堂

3



大將 沙 門。 軍 耐。 師御誕生、産神也。大將軍、東「在」之。 本 大 地 万八

山電市 祇謀殿 神 后 御夏樂 也。 姬。 師 **彦火々出見尊之御母也** 木華開耶姬。妹 坂本 中為,惣社。 地 神第三尊





横 妙見 小 路 社 3 。大師御 1) 東下 母 ·細道 アリ。

大師

淨處瑞籬| 角 ナリ。 ルアリ。コラクラノ 磊 - 妙見ノ道

大師臍緒奉納之處也。 辨財 天

冠 一者殿。 虚アリ 。赤洞町也。 大師之御

父母

神門。 妙 鑁字門。三之內先演之。 見 ~ ^ 參 ルの 冠者殿事 於此演之。

EF3



小五月會。 大風倒。 七社 御 供。 神輿宿院。於」唐 爾宜國 假 屋。 忠拜 社 家 領 崎 假 七 也 屋 等 間 永正 同 有 前 +

百

六卯歲

灵石 北设法石 較喜石

御出 生 時 胞衣奉、納處 也

祭禮。 宣 大宮 三十九代 天智天皇白鳳年中ョリ神 小五月會始行。 左方。 代嵯峨天皇御字。 」始行。每年無, 懈怠。 所、所現世之冥加是也。大師御存生時也。御入波 一權現神 社務琴御館字志丸。以₁大榊 京方差定。 大師 弘仁十年五月五 佛 近代斷絕 法 右方。 來 朝 為 五日始。依.御云·報謝·也。 田 時代第五 與御 執行事。第 方差定。 造 進

法師

賴豪靈神

由申非說。

自、昔在、之社

也

第 Fi. 一十代桓 武天皇御字延曆十年

峨 小五月會始行 天皇弘仁十年。 社 一務廣繼宿禰。第五十二代嵯



條院御字。 講始行事。 萬壽二年三月十二 社務 希 遠宿 禰有』御託宣。後 H 也。

禮



渡

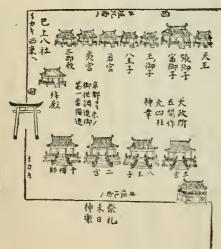
騎鈴社。 馬。 祭禮-神人以,鉾 馬場

騎平社。 之。近年比叡辻河端北際有之。神 人代木守兵也。 祭禮 神 人以。弓箭 同

已上馬場面如此 本彼岸所以下倒在此間今随便宜移置以

神也。 鼠 面。俗形 祠。是王子宮末社之內也。子之 仕者鼠本地大日也。御神躰 烏帽子狩衣 是三井寺

> 竹墨慈党宝藏彼岸处元慈党大師御 杜頭最初泰向 王子宫童形青符 後年川 竹林宫引北 放在 衣表 将围 2 鄉 迈 待柄



位號,彼岸所,乘,獅子,臨幸ァリ。其足跡一ッ殘。信敬。所以文殊菩薩納受ナリ。故有,現形。里房表也。 此處慈覺大師之里房也。 慈覺大師佛法 鼠祠 豪奏、望。可、造,戒壇院、之由言上。 叡慮以外 師有"勅定"百日耐,之。王子御誕生ァリ。其大宮化現之由也。帝王子御誕生之事。賴 也 賴豪者為"三千鼠。山門登聖教噉破云々。號"之 天下之動亂如何非, 勅許。賴豪失, 面目。干 也。第五十六代清和天皇御宇貞觀七乙酉年。 而王子奉,取殺。敦文親王 御行幸事。傳教大師御弟子慈覺大師。慈覺大 也。 御弟子相應和 院建立。慈覺大師 。於、立, 戒壇。山門憤山與、寺可、及, 合 子宮神門ョリ二間許北石ァリ。獅子足跡 之由非說也。十二支內。子丑寅初。子神 大師 本國 尚依, 奏聞。兩大師一度大師 帝王子御誕 下野國也。委有 入唐時。海上風波 是也。御四歲時也。 生之事。 座主 起時。 時 記 死 法

> 御祈念有。 仰 見よもろこし船 移しとくむる山川 歸 朝時横 11 の面影を 御建 の水 立 御 詠 歌

號前 唐院。後入唐智證大師御歌

法のためさして行身をもろし、

向也。二十八品初後信心是也。故結願參下始也。故初度也。勸發品普賢末也。故結願參下 王子宮初參事。以"法華大意」如此。序品、神も佛も我をみそなへ 文殊

〇王子宮 文殊 三世 L諸佛智!

〇大宮 中 釋迦 從,東方,來云々。文殊 故序品文殊也。普賢 法華正 躰自 在 神

利法王子經文也。

經處々 文殊爲,第一菩薩。天竺青凉山之文殊弘 普賢 女文殊致化也。法華 故號,王子宮。八歲龍

力餘御納 法 大 所 師 々神變事。 與有。偶過。日 東塔戒壇院文殊處々不可 ili 門橫川 本 丹後九世渡 文殊塔 。勝計 文殊。六十 奇妙之神

早是社大公形 私 津街 長山 一童社 上社會教育 殿 纬 昔ハ此處皆安置 六地藏 慈覺大師六處五御遷所。 作 地藏 穴太。 九條。一 第 一明良。 苗鹿。 傳教 大師御 比叡。

> 此 三上社手摩乳。脚摩乳。 神 E : 此 堂建立時。 林入給。 故建。社壇。 毎 日 稻田姬是也 御影 俗形。 嚮。 大師 本 內八社 地 見送添 不動。

事。 歸洛云々。業平御下向也。號三關 使御參向處也 尾 外八社有之云 州熱田之宮內。源 坂ョッ鈴庭關 。勅使 。伊勢尾張通。不破 大夫殿是也。 伊勢熱田 原大 源 夫殿 大 關 夫殿~ 御 御御 刺 祈

素蓋鳥尊 大己貴質

稻田 手 摩乳 姬 文殊。 源大夫殿 早尾 御 躰

左 大行事 毘沙 門天王

右 早尾 不動 別王

社

兩

神威專

也

所宮 朋 巨上 Ē 惡魔降伏。早尾馬場 是 也。 岩瀧 次有、社。五 I 大算之 H 鎭 護 中算 耐

是

九

不

動

卷第

百二

儀也。 依號,彼岸所。乘,獅子, 臨幸ァリ。其足跡一ッ殘 信敬。所以文殊菩薩納受ナリ。故有,現形。里房 是也。 此處慈覺大師之里房也。 慈覺大師佛法 鼠洞 豪奏、望。可、造,戒壇院,之由言上。 叡慮以外 師有"勅定。百日耐,之。王子御誕生ァリ。其時大宮化現之由也。帝王子御誕生之事。 賴豪 也。 賴豪者為"三千鼠。山門登聖教噉破云々。號,之 天下之動亂如何非, 勅許。賴豪失, 面目。干 也。第五十六代清和天皇御宇貞觀七乙酉年。 而王子奉,取殺。敦文親王是也。御四歲時也。 號アリ。慈見 御行幸事。傳致大師御弟子慈覺大師。慈覺大 御弟子相應和 王子宮神門ョリ二間許北石ァリ。獅子足跡 院建立。慈覺大師入唐時。海上風波 。於、立, 戒壇。山門憤山與、寺可、及。合 之由非說也。 大師 本國 尚依, 奏聞。兩大師一度大師 帝王子御誕 十二支內。子丑寅初。子神 下野國也。委有 生之事。 1. 座主 賴豪 起時。 記。 死 法

> 御祈念有。 仰 見よもろこし船 歸 朝 時横 Ш の面影を 御建 立。 御 詠 歌

移しとくむる山川 の水

號前 唐院。後入唐智證大師御歌

法 のためさして行身をもろし、

王子宮初參事。以』法華大意一如、此。序品、神も佛も我をみそなへ 向也。二十八品初後信心是也。故結願參下始也。故初度也。勸發品普賢末也。故結願參下 文殊

文殊三世諸佛智

〇王子宮 故序品文殊也。普賢 法華正 躰自 在神通

〇大宮 中 釋迦 從,東方,來云々。文殊 故號,王子宮。八歲龍 師 利法王子經文也。

經處々 文殊爲,第一菩薩。天竺青凉山之文殊弘 普賢 女文殊致化也。法華

力餘御納 法 大 所々神變事。 師 與有。偶遏。日 東塔戒壇院文殊處々不可 ılı 門横川 本 丹後九世渡文殊。六十 文殊塔 。勝計 奇妙之神

早是社大配 私 長山 一童社 上社學教科 殿 絲 六地藏 慈覺大師六處五御遷所。 昔ハ此處皆安置 作 地藏 九條。一 穴太。 第 一明良。 苗鹿。 傳教 大師御 比叡。

> 此神 三上社手摩乳。脚摩乳。稻田姬是也 中堂建立時。 此 林入給。 故建。社壇。 毎 日 御影 俗形。 嚮。 大師 本 內八社。 地 見途 不動。 添

外八社有之云

歸洛云《。業平御下向也。號三關 事。 使御參向處也 尾 州熱田之宮內。源 坂ョリ鈴庭關 一。勅使 。伊勢尾張通。不破關 大夫殿是也。 伊勢熱田 源大夫殿 源 大 夫殿~ 御 御御 刺 祈

素諡鳥尊

稻田 。姬 大己貴尊

手摩乳 文殊。 源大夫殿 早尾 御 躰

左 大行事 毘沙 門天王

右 早尾 不動

社

已上是也。 岩瀧 次有、社。五 別班王 大算之 中绅

兩

神威專

心

Ē 惡魔降伏。早尾馬場 M H 鎚 護 社 是

不 九 所宮

動

朋

也。 八雲たつ出雲八重垣つまこめに 。東西之坂口諸人。加護 **姬御事。三十一字始** やへかきつくるその八重垣を 之神德之事

大師堂 手摩乳ョリ因緣日本紀有之。 師 後作之。此大師西向。十禪 大師堂慈惠大師 安置之。慈惠大 東向給也。此所安惠和 御初登山之時。於,此處,休給。 。慈覺大師御弟子。安惠惠亮相 師前 尚里 坊 大 故

之。 此水調蓮之。淨水故也。二宮十禪師之供華水 以之調。大宮之供華水波止土濃水也。坂本中 應也。 也。汚穢祓女人月水之淨水是也。參社諸人用 諸家內 波之利祓殿 元 淨事ハシリ水也。竈洗湯 三大師北郡ョリ御上洛云々。 傳有。源ハ本社之勝地ナリ。清淨水流出。以」之誠也。口 立等悉此 日御供以

> 、託,寄妓,御歌 於「橋上」神輿止給。成「不思議之覺悟」之時。令 也。昔祭禮日。此橋下希遠重服之時。忍祗候有。 長廣 寸法前後有以,一千貫用途,造立 事

こくにきてこくにありとは思へとも めにみぬ程そ戀しかりける

及調 『神門邊休處妻戶口可,參召給。則昇,大床,妻戶 可。参。本社,有。御聲。畏申以,淨水,御祓。本 雜談 也 前参懃ァリ。其時則有, 出御。唐崎神幸 依,之希遠波之利以, 淨水, 御祓而。神 社 希遠宿所王子宮南有之。夜半計彼宿人數 [候給。 申 可,執行。依,御神託。社家中重服五十一日參 也 砌。希遠々々三度召。第三度目御諧 意。不,可,忌,重服。至,子孫,早爲,參勤。神 自,內陳,仰宣。汝久不,參。所,為神 **M與之御** 之御事 役 東

トノ猿 當社之仕 果タ ル姿為見付 者奇妙働。古今 者

多質塔建立 田 原藤太與副將軍 頭如此。於山上,四天王調伏所 動詩之。塔下社 本惣社者。依。宣 兩 Ä 來至給。將 將門口傳。塔婆供養。 者調伏祈 門計手 下。六十餘 處 念所 [70] 大 11 將、天

铃

出現也。 成就之砌。天竺靈山淨土之一會之躰。於本下 云。 所之始是也 之初是也。 貴僧高僧數 此 塔 大宮釋迦如來神通力是也。社頭彼岸 炎 故號,根本塔。社名號之。 上以後。 多云 々。 七重再造事アリ。 西 方院院 源座 主 明達 社 一者導 頭 法力 、塔婆 師

可,有,信用,事 猿行事大行 事 御一躰祈念 成就。 御神力尤

祈念。 〇子安子立者。 此御社也。諸國有之。 子々孫々長久祈之。男女出生

々。口傳 歸 於此 神道胎金合躰。依之號,物合。 惣合神門。先記 東諸國 內 東向。兩大神宮拜念 諸神祈念處。西向 之。吽字門

祈念同之。種



岩神

付,童名,可,凝,懇祈,御社是也 久耐之。子誕生百一日初參社。於,此 社。子安是也。圍 遠此社子

孫

長

柘木客人。權現御影嚮神木是也。御託宣 有"樹下」未"安居 護法石。 大宮彼岸所之方有

一我久

春日岡。 、添,長柄。結,付本社。 御影向之靈地也。祭禮 笛 和琴。篳篥。歌。 護法石と上九 冻. 長柄 出 。七社神輿 木共アリ。春日 來奏、樂。 此 處异 大明 奉 庙巾

君か爲日吉の御

神

君

カコ

72

め

歌畢七社神幸。於「春日岡」奏「妓樂」事。神代昔。 H 神月神天岩戶 春日大 あ はれ 神奏 むやこ 祝詞 引籠給時。八 ζ 故事日 ζ ζ 百萬神等奏,神 图 前 テ

氏

神

也

立之。 行。 番 亥子谷大衆號之。 中 人アリ。 アリ。 僧調 十二人 祉 。 十 二 之。彼岸所上座二宮 十禪師宮夏堂 有 祈 鐘法 念處。客人宮夏堂 人僧聖 夏 此 法事商谷 大 堂勤行アリ。大宮夏堂 宮宮 內 螺 彼岸 夏 非衆徒 真子 堂 八王子夏堂。供 干二 アリ。 上中下僧 所 念佛堂ナリ。十二時勤 雜 人。樹 非 九 含迄 夏堂別有。拜殿 旬 彼岸 中 供 兩 僧 下僧號 悉叁籠 所內 4 棟アリ。二季 華 香華 堂衆 十二人結 三院 ニテ 事 燈 也 行 東

谷

度也。於社 度模之。 有之。於 之前有 於山 彼 岸 Ŀ

靈山二度說法 切經 所 含利 四 曾 ナ 何 y

與 於

空中 灌頂

處

度

也

此

此 常住 山 祇 3 五 水)) 園石 無有 切衆 洗 色之水落 派 目 變 生悉 4 好 〇中 Si 程 7

冰

引 如

ヨリー 流。〇楞嚴院 如法水 9 Ŋ 合 な。 谷 有 川アッ。 堂剧 流 也。 一波 JII 佛 波 性 伽 神宮報 如 波 井 -11

也。 第六 波 母 H 面 山 本 足 小 未開 尊之時代ョ 比 叡 共 杣 以 前 一切衆生經 IJ 波 1); 付 th Ill T 1) 文 7 1) 天 過 神 初

アリ。非

儀

寺一流。

〇香

1爐間

9

y

流

但

處

17

傳

秱

12

卷第十八 日吉社神道秘密記 切

經

會之時。

神樂屋是也。廣三

間_

長五

間

樓

去拘

留

孫

佛

在

111:

天竺南海一切衆

生之經

寺傳教大師開闢之處也。神宮寺登。岩阿橋登。 濃ョリ東塔坂登。又補渡解谷登。神宮寺登。此衆寶參社此床体。曉又參社登山ァリ。波止土 館也。 樹下ョリ 向諸 通也。參詣諸人於,此床,休息。山上ョッ隔夜 故 止 濃 汝響乘給。齊神 シ。ソリ橋カク 第三唐崎之濱也。於,唐崎,一 り。一切衆生之文。第一波母山。第二波止土濃 |土濃大明神。橋屋根。宮同前造,之。有,貸神,|一切衆生文。權現聽給有。御垂跡。故號。波 也。 川登奥護因參。飯室上 仰木通葛川此道也。〇八王子ョョ神宮寺道アリ。〇夏堂東ョリ北 K 道アリ。社頭參入道七道有。〇大橋ョリ參 人祈念所。〇波止土濃ョッ上下山上道ア 。其以後尊神御影向之時教之給。波止 表,九品,燈明九燈昔有之。近代屋根 **叁向之道。社家中是『り也。小走井口** ル皆新儀也。橋東西床アリ。 來到之所號,波母山。口 切衆生聞給琴御 傳 中
ナ 大 土

> ·之。 道ナリ。社頭七道已上 七道天下諸國七道ョ表道ナリ。社頭七道已上 七道天下諸國七道ョ表梅辻八條ョリ參向上下。〇二橋參社諸人下向

あ ひにあひ 撰 七 集 の道 歌 の國 て守る日吉の さかふらし 祝 か 部 す 行 親宿 禰

枝宛冠角差之。禁裡進獻。座主進上。七社 始 桂木ァリ。神木之隨一也。御杖差置給。御 當 以是莊嚴。諸人頂,載之。 社七 也。故祭禮 明神依護持 申日。內陳桂進上。則社 諸國七道アリ。 家 垂 神 rj. 跡 輿



近代處々植之。

榊木諸木祖木是也。 草祖 萱姬也。 神前有之。

杉。御垂跡初結,之給。以,御印

建

社

號,牛拿石。近代失無之。樓門之

東竹林。

住吉明神御勸請。

傳教

大師住吉御

乻

依,之如此



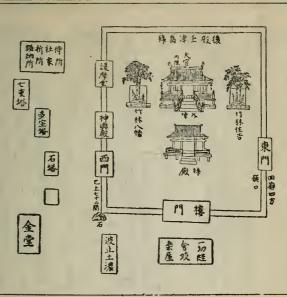
拿同作也。 堂 也。此堂行基菩薩之造立云。。本 章同作也。

多賓塔婆。 昔有,建立,炎上畢。人壽,

坤,回 郎 也 11 之也。祭禮之時 社家中着,坐回廊。 口有。於 酒肴料座主ョリ御下行也。 四方 都合七十二間造之。 回廊內自然汚穢之者巽口 東門 西 門 日 크 賽 巽人 ŋ 時 出

官 THE 若宫 大宫京夜 全事後發 賀宝 彼岸所 新社 禅師見官 古庙津营 雜舎 翻 鐘禮 三宮 种與選章造 氣比彼學 七社選御道 所岸彼 雜 內种門 6

百十



也。口傳。 傳教御祖父八幡 大菩薩 御約 妣妙德夫人申。妙德夫人御子大師御出生ァッ。釋言,袈裟大師與之宝々。八幡應神天皇也。御 。八十餘社之內是也。竹天上ョ,天降 生付 字佐八幡宮。百日大師御参籠砌。大菩 東東竹臺西

服兩色 大宮大國主神。又大國作神。又大己貴尊。數 御冠,如,實冠,御笏持。左右御手合給。笏御袍有,御名。本地釋迦如來。俗形着,冠。但非,普通 御字天智天皇 外諸社奉納之尊像。宇志丸彫刻。第三十九代 於,唐崎,琴御館禮拜之給御形作、之給。人長 薄朱衣 表袴。御鬚面方撫給。御齡 口傳。神代昔御兒一百八十一御神。口傳。神資神 ,爾以來。凡及,一千年,神宮是也。宇志九御遷 依神 俗衣法服 感 -御詠歌 白鳳二年三月上巳御影向。 有之。實撿帳有之。七社 一但非,普通 四十歲 自

東向社成。後北引上南向建立也。根本林寺依,有之。山末社下引之。下八王 立之。 正 宫,依 在之。大宮最初方丈造立之所。宇志丸之 面 東脇建之。然後大宮寶殿時々為大社。東 御 三間建立。 詠 慈惠大師御祈所。依之三聖皆五間之面 歌。琴御館 相 應和尚祈處。次正 神位號。山末 大明神。社 面 九間建 本 本一子西 壇、 次 東方上竹

我可处 也 大比叡大明神 ョリ御臨幸。御託宣 。鷲峰之雲。暫馬臺同、塵。早知小比叡社。 寳殿。是為,靈山嚴土。 三輪『リ御臨幸。御本地天 。我為守,圓宗 永止,和光基 之教 法。假二鷲 為

古のわしの 匂ひをうつすし み山 0 法 ゕ 0 0 は カコ 5 崎

遷宮有之。和州三輪是

Гi

一御字ョ

ュ

Ŀ

一加護 也

之御

本

誓是也。

つとなくわし をやとすしか 0 12 カコ 0 から 12 に流 論 月 0

大宮 權 現日本國之御主。故號、大國主神。日

國

御受禪

次第

受禪 伊弉諾 受禪 绅 素盞鳥 大國 给 B 本 國 主尊 中

出雲大 多賀 大宮權 大社 现 社

記之。 禮拜講 御託宣 始 行 事 数 依 度 有之。 御託宣。 希遠祈事。 奥-委 細

アリ。 明神 御 於。御殿後。 同殿加護所。第十代御宇別宮御建立有。 天子護持放號之。第一ョリ至。第十御 事。人王第一神武 E 津 嶋 明 神 天皇王宮ョリ同座 亦 歌道。 傳 稱 大 鎮 字。 座 大

神是也。 安城 開 新社 七所御前。 闢以來。 號 聖眞子之竈殿。信形。 比叡社 是、七社祈念 成就 之鎮守大明 本 砌建立也 地 胎藏

是也 大年神御兒也。 諸 人家々竈殿神是也

大宮竈殿。大日金剛界。

俗形。

奥津彦神

界大

日。

大國主 杵春 大明神

神

聖真子。僧形傳教大師之御時御法躰。正哉吾勝 大年 肺 奥津彦神 竈是也

形給。 勝早日天忍穗耳尊是也。天照太神第一御子。 年御影向。尊神御出生。 應神天皇。後八幡宮現 神第 實檢帳在之。第四十代天武帝御宇白鳳十 二番尊神。僧形。御齡五十歲 法服黄

> 七代伊弉諾尊 素盞烏尊 天照太神 開日日本 聖眞子ケハタチ、姫 天津彥々尊 İ 一哉吾

尊

惡業煩惱之病。我導,十惡五逆者。可如 大宮權現者。調,皆成佛之機。二宮 放號,聖眞子,也。聖眞子御訛宣。本地阿 大宮二宮為,陰陽之神明,於其中,我爲,出 十禪師宮 火々出見尊 葺不合尊 彌陀佛。 權現者止 人王第 九品 生

淨刹。 千早振玉の簾を捴 念佛堂參籠之者示給。二人眠。 あけて

千 はやふる玉 念佛 念佛の聲を聞そうれ の聲を聞 の枕 そ嬉 をそはた τ

3

也 第 Ŧi. 代 神 功 皇后御子八 本開 幡 闢 批 神 111

アッ。

我子

排

應和尚

於 也

社

御

本

地

八

幡

大

苦

御

しへの我

御臨幸故如此申。宇佐宮 第三十代 欽明天皇 御宇 第五 佛 を人の題 宇佐宮百日 とい 詠 十六代清 歌 ふそ嬉 は L | 叁龍 和 天 3 皇 7 3 1) ŋ 御字。 テ 石 出 現 相木上有。 尊是也。白· 建 横 泖 日有調御 人宮 計 坂 女形 御 遷宮。小白山 御影響。 對 Ш 本 面。依之处社。天安二年六月 大妙理權現 御影向 地 + 但 画日 社壇无之。和 一大己貴兩神有。同

給。 豐前

國字佐宮

.73

79

あ

3

陀 名 薩

水八幡宮御影嚮。

般若經信 男山遷給。

讀アリ。下

向袖移御影嚮

也

行教和

倘

劔宮 童形 本 地 不動。 瓊々杵尊是也

若宮 毘沙門。

賀寶 禪師 三宮 兒 主 大己 小 白 貴 Ш

靈石。 降 白 妙吉祥神。十萬 山 歡喜 크 1) 出 天 現驗 石 也。天 金剛 也。 -安御遷宮 童子。 萬三千采 之 女神。五 刻 此 石 長多 萬

之。

結神皆无,之。何頃",

安置哉。

記

錄

客人下有之。聖女彼岸 所 東 四 辻 ナ y

勸 氣比社。 為 何。 下山アリ 當 傳 Ш 護持 教大 童形 テ御 女人 世, 禁制 垂跡。聖眞子之東社壇建之。 師 。本地聖觀音。越州敦賀郡ョリ 御時也。 禁下衆徒 也 聖女答曰。 第十四代仲哀天皇是 洗濯可、守云々。則 我非常 女 御 御

御 照 也

登

Ш

之刻。

法

性房

1

ガ

z 娘 皇后 如意輪。

テ日。 也。山

登

如

姬是也。大己貴尊之御

荷大明神是也。

神

功

心御本地。

神

代

神功皇后

是

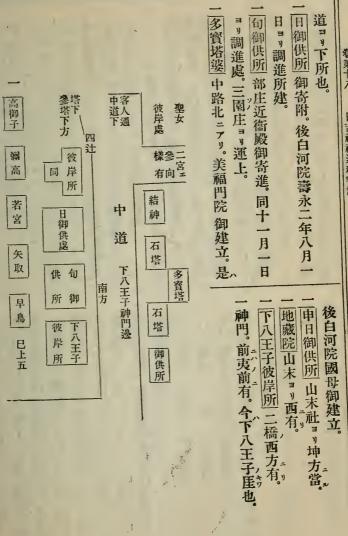
上 女人

含利

會 Ш

砌

聖女宮。女形本地



善

夢

成就惡夢消滅唱之。獲食,惡夢。

神第 下八 E 是也。 子 宮 是明口俗也是冠形。本山 拜殿 地 虚 祭禮 空藏 七社外當社神 天御中主 尊。 馬 天

王郎永社 丸神位是也。 山末。 俗形。衣冠。摩利支貸天。 上古大宮廻廊 内 拜殿 御 氏永左方始。 殿 琴御館 東建 社。 宇 志

遠宿禰 神位 也

同社。

永澤社同前事。

俗形。

|廣田社||東京で 立之初。祭禮之始當社ョリ 東向西方立之。 摩利支天法樂中。本 起 山 也。 末 神 前 三郎殿俗形。 ニテ 社建 申 之

內王 子童(命人)形。

北アリ。 夢妙 夷三郎殿 幢 耐 俗 俗形。竪烏帽子。 形。 已上兩東向立之山末 是 也

也。小走井。明 有之。東方石 有。 號 天盤船。明神 乘 之御臨

> 別,義力 九所宮 三郎 殿 七社二 俗 形。 大行事早尾加之。 神功 皇后 御 子 也 岩瀧南二 夷三 郎 殿各

岩瀧 社 女形 。竹生嶋辨財天是也。夕

田グの社 俗形。 岩瀧 北有。

希

生

嶋

1)

御

影響アリ。

也。事代主神

御娘。大己貴。御子。神武后也。竹

ヲ

姬是

有,

悪び 王 童形 邊 マテ 瑞籬 愛染明王 有。 下八 ALP HH 社 王子神門東 後 ョリ下八 王子 西 非

「新本二ノ経等四在此間今随便宜移置」

御

齡

七十有

垣

有。

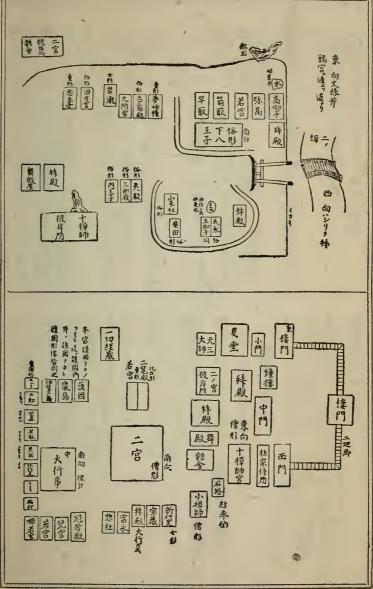
山

末西又瑞籬有

岩瀧之西拜殿有之。

天神第 加 地 二宮。僧形。堅實合掌。 主權 惣 大祖 現 神是也。 國常 小比 立 叡 绅 大 明神。天地開 法 樂 服黄 師 菲 關之神。諸

菩薩。



國常立 或曰天御中主尊 算 神 津速日命 高 皇產 皇產 靈尊 靈尊 内八是大 々神也行 裏殿ノ之 事此

裔孫春日社

琴御 活 魂 舘 命 部祝氏祝祖部

行丸部 行廣 部祝

本社 給 實殿建立。宮初者。琴御館宇志九造之

第六面 佛 之在世云 足尊之時代『『當山來至。天竺狗留孫

波 母山 波 母 やお も寒 山 小 し問 ひえ 比 叡 私植鎮座 0 杉 0 御 ひとりる 詠歌。 巳日前本 也開

卷第十八

日吉社神道秘密記

嵐

人

もな

大? 祖,此。 * 御 何 事 かっ 北 返事 お 叡 一高皇產靈尊 國常立尊 は 大 明神 成 しますら 波母山之御歌也 D 波母山江臨幸御歌 見たてまつらて ん瑞館 0 千 五百座

一御母一 杤梯 楊幡 天津彥々穂瓊 Ŧ R 姬 一々杵 國御御子 國 绉

一伊弉諾尊-孫 正 天照太神 二哉吾勝

+

禪

師宮御父方

御彦

祉 頭者 上 雨祖之神 威之事

社。諸祖公子 大橋 御田 一社職 禰宜 祝 神

主有、之。

兩神輿初者大宮二宮兩神也。申日祭禮。 早尾迄也 。上通

小比叡社。諸祖(社人) 神主有之。 二橋御田社職云々。禰宜

山 酉日神事皆以雨社計也。下通王子宮迄也 。 東塔 大宮。

玉z。凡百七十萬餘歲也。號,皇御孫尊,中臣祓 兒形=>傳敎大師御拜敬。則建,寶殿,給天降 黃被。天津產々穗瓊々杵奪。地神第三尊神。延 曆二年御影向。同四年七月廿四日。於山上 十禪師。 。御神力現形。古今種々事。童形ニテ慈鎮 御齡二十有餘。僧形。團持、之給。法服 御

和尚通給時御歌 ほとくしとたくつま戸はさもなくて 思は ぬ方に明る東雲

慈鎮御歌

非一御返歌

我ならて誰にもかくや契らんと 御託宣御詠歌 思ふにかはるむねそこかるし

、願悉圓滿。 度唱,名號,功德如,虚空,我誓無盡願。

所

おもふこと祈るにつけてなひかすは 白木綿かけて誰か頼ん

明雲座主御流罪之時。無動寺 慈悲正直可,專之旨有之。 童子鶴丸依"

〇二條關白師通公以,身吉、給、託事。樹下和光 御託宣,明雲飯山之事。

依之日神二度出現。高天照之給,中臣祓神漏 國當立。高皇產靈尊。日神月神岩戶問籠給時。 猿行事同之。 大行事權現。僧等心形。猿面。 同塵 以, 當尊神之智力, 八百萬神集之奏, 神樂給。 猿田彥大士。 毘沙門彌行事。 天上第一智神。

之。八百萬 大行 事 神 漏美者。天照太神。 此兩神 力以

外戚大行事御娘栲幡千々姬 神達集。皇御孫尊天降給。

皇御孫尊御誕 生

內 威天照太神御子正哉吾 勝尊

一神皇御孫之御供 春 日。 庭嶋

香取。 皆以此 御時 也

新行事。 護世四王多聞天。 女形。吉祥 須彌山 興津嶋姬。 北方宮殿有。 三女之第一

小 第四尊神云《。太一定分也。本地兜率天上之尊 禪 師 天照太神五男三女之御事 僧形。 團持之給。 彌勒尊。一說地神

像。二 二宮竈殿。 一會曉出生 比丘形。 若宫、

光菩薩。 月光菩薩 樂師脇 士八萬四千之內 童形。

> 如此 之護因北谷川大洪水之時。流大行事 辻護因房跡也。 庄三 也 護因社。 上首是也。 。行力巨多也。後身誕生,後三條院勅附,愛智 千石所內陳御供料。當社神位崇敬之計。 給處建、社。 僧形。 國常立尊之御子等是也 奥護因廟 有一點。 號流護因是也 所淨之勝地也。內非 樹下僧夏堂衆圣聖 內非迄

嚴嶋 社 女形。 安藝國 ョリ御影響

止

貴布爾。 鞍馬ョ リ影響。

石動。能 伊豆宮三嶋 登國ョリ來 明 神。本地大通智勝 Phi 佛 稻荷 社

IlI

城

國

稻村社。

中

部

山崎ヨリカ

筆。 十禪師夏 御本尊童形繪像 慈鎮 和 倘 御

記之。 一切經驗。 十禪師權現御所望之給也。

委細

與二

二宮權 現依 "御託宣 平 清 盛 御 建立

夏堂東靈石ァリ。樹下下道下平石云々。 廻廓。 五條大納言國綱卿御建立

夢妙幢前靈石ァリ。象之形也。護法石也。 上總社ョ 四五間 東烏帽子石ァリ。象石奥 男

女由

Ш [末前石坤ニアリ。氏永靈石也。(由也。

八王子伏拜 二宮彼岸所岩 瀧東有。 拜殿アリ。靈石則八王子御神。

十禪 師 彼岸所 。岩瀧 西方有。

ılı 一末彼岸所社 西有。 東門又東 同地藏院 アリ・

新行 事彼岸所。 十禪師宮上通。大行事宮後參

師二旋ぎ道 值遇。 臺 子細與有之。 御飯朝之時。 殿慈覺大師御建立。 於,此處,再會》玉へり。崇 於,大唐,白犬大

> 石介 道 3 ¥ 西 有

講結願所。 小谷祓。 通,此道,有,靈石。以,此水,祓,之。 禮 拜

輪藏」近年有之。昔无之。行丸若歲時知之。 僧初後擣之云々。 夏堂之地有。此間 建竟之。佛頂尾。圓定房造之。昔經藏 二輪藏之地告鐘樓有。夏堂下 アリ。此間

塔引倒事。上坂本惡人等業也。土臺二富津 石塔 桓武天皇勅願御建立。塔前五間廣 躰顛之。桓武天皇佛法護持之勅願是也。 道之磊。南北角石也。 有。堂僧領所過分勅附之事。天正三乙亥年。 上道石壇道有。下供僧堂。十二人晝夜 、九輪打折。笠木打倒。 勤 拜 此

八町坂九箇處休所。號,和老堂。表,九品之佛 閣,

アマ

ナミ坂。午神事社司中順之。口傳。

八王子登坂。

念之小堂ァリ。三院行者衆參向

アリ

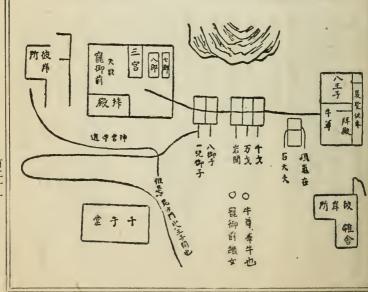
祈

位評 復。為。御施物,伊香立庄御寄附所 柿本紀僧正失,本意,干死而 清和天皇御國母是也。 含,遺恨,成,御惱。相應和 為胸願 亮和尚碎 千手堂 惟仁御勝。 成就。千手堂是也。惟高御祈禱 染殿后御願所御建立事。第五 腦燒 文德。御即位。清和帝是也。 護摩火擅。依之惟仁御 御兄惟高。惟仁 尚依 御前 成"天狗" 念 御弟。御 染 者 十六代 企 殿 后 - 都 即也。 御 本

古今集春歌。

のの御事あり。御ことなり。皇太后宮是也。伊勢物語も染どおほきさいの宮の御うたとあるは染どのく

牛尊石。御殿之下牛尊石上安之。 護法石。道東有。千手道與八王子間也



卷第十八 日吉社神道秘密記

百二十一

金大殿。 兩 社 御間 是也。 奥江長石 也。 巖

撿帳七社 幸云々。神寶神服奉、納,三躰御分。三箱納、之。寶 傳教大師 在 字ョリ鎮 奪。八十萬神引率而天降。第十代崇神天 八王子。 之影響。奉、稱, 柄。御齡州有餘也 々所々御影嚮。 **非**冊 女略也。 本 俗形。 座 有之。昔廿一社奉納有之。妙法華 御對 誓御。天神第 。右手笏持,之給。以,御左手,添,太刀御影嚮。悉號,八王子。以,御神力,諸 。三躰御質女唐 所。 。東帶赤袍帶,太刀。千手國 神寶神 三宮。 也 千手堂上 ")神宮寺道有。 面云々。延曆三甲子年陽春 尊號日 乘"紫雲,自"東方,來 服悉八色奉前納之。 六尊惶根尊是也。 本紀 女持。 數多。御三女宮 團 子。依"三女 臨給。 此 比 諸 皇御 狹 御 I 臨 國 槌

> 誥 石 ۲ テ 自是不 動 瀧 拜。

靈石ァ 妙幢象石 Ŋ 惣 祉 男天女天 ッ東五六 間 也 程 ナ

子

惣社。日本國大小神祇鎮座。御神躰。山王七 社

神宮寺。 東妻戶 庭前 本尊 二石ァリ。大宮御座 十一面。 西大黑天神 。二宮御 御 座

時

伊勢八幡

春日社井諸神勸,請之。傳教大師御

堂西藥師淨一御髮奉、納云 石塔有塚アリ。 40 御首塚。二宮聖眞子御髮刺

也 不 動堂アリ。其西妙見尊御庵室アリ。 近年斷 淨土有云 絕畢 ₹ 0

御住

111

所

山 有 神宮寺傳教大 。廿四日童形、貧躰御對面。稱。明開。延曆四乙丑年七月十七 於。定心院,貴形尊大師御對面 師 御 住山始之所 也 日 。大師問 禪師。 自 。從是御 是 ili XF

人答曰。竪三點橫 給。 諸佛教 點。橫三點 世者。 住。於 竪 瀧 JL. 號 有 形 龍 池 動 義

如

何

化

式 給。 為演說 神通。 則山王覺給。大師唱 廿一社 山門記有之云々。社中者 爲悦衆生故。 百八社記錄為" 現 无量神力。 本意。 神 他事 道 如此 秘 粗 密 可 本 派

神宮寺軒下大師 含利 堀 給 事 有

靈石有云々。

供華閼伽名 閼伽名 西岸六月七ケ 水也 日涌 水 有。 於 小神宮 寺

神 道ヨリ南 瀧 寺ョリ岩阿行道天人飛來 風紙 展風石 有。毘沙門 石有 也

鬼石 岩阿橋真中穴ョ 又 ク 也 有 橋下桓武 自人樹 少上也。昔鬼神休也。 天皇成、龍住給。永 代 + 佛 法 物 加 7

云なっ

神藏之瀧 號,玄龍 池。雨請有,此處。第

> 石也。屏風石同 眞 和 尚 龍 池 示 前

香 不 動龍 爐 ,石 阎 アリ。淨名居士居 则 明王之形有

ホ給 灰 等爾一个有云

石

處

也

大

Billi

護摩修

補 度 解谷。 大 ß 護摩 所

香 爐 岡 ョリ流 水有。 Ti. 水,內 也 也

波 神 母 藏 寺ョリ 山、谷里、流水。五水、第 流水。 Fi. 水 内 也 也。

北 横 谷 111 中堂陽 如 法水。五水 伽井。五水,內 內內 也。

上是

也

此 Ti

波 + 濃 一落台 4 以

-1 洲 位階。

位。位。 最 初正 绿 追 位 110 III

位位 神大表小 神祇 千一百卅 菲 T

百二十

七十卷可、調、之。

客人。 正 位。位。

十禪師。 三宮。 正 正 位。

已上。 後白川院御宇皆同勅裁

有之。 山 宋社。 正 位。 中七。 下七。 位階

明。於,耀中,有,大字。御質祈念之刻, 〇大宮。 社號。於,御祈念所。闇夜於,虚空,如,日輪,有 稱號琴御館御崇敬所。 御遷 宮砌 光

大宮。依,日輪,日吉大宮崇給

社一二六七五 經日大如,車輪。 一二六七无沙汰。秘密也 神殿。二神殿。三 大如,微塵。 四ナド

二宮者天與地二儀主神神。天始地始。 現給。故天地主權現號。天字略號,地 主 其中 權

> 現。天 地 陰陽 兩儀。 加 護 大 明 神

〇聖眞子宮御託 宣

生。故號 。故號, 聖眞子, 聖兩神也。眞子名字玉7。比叡。小比叡。爲陰陽之兩神。於其中,我 聖眞子。有二口傳。

法

宿華臺。 二ョリ次第尊神。有』 〇八王子列降玉刀。八十萬 口傳。神寶神服八具奉 神有。引率,天神

事。 〇客人宮。 北陸白山ョ,來臨所。 女體 登山

體登何不審之御返答。客人御名乘故也。 砌。於,横川坂布袋邊。相應和尚御對談之刻。女

也。十善天子加護義アリ。讓『天下』義也。 國母云。國師)十禪師。 禪、師讀。有,口傳。師云、國 同前 ヨミ・十字、天神七二地ノニョ合 一。帝御 母

雲,自,東方,降臨御。 已上七社次第如斯。 三質神降臨。故號,三宮。乘 尚以口傳有。

〇三宮女體。

加清書,者也。 亂之刻紛失畢。此分新調也。追以, 鳥子紙, 可 元龜二辛未年 九月十二日 放火。上古記錄大

天正十壬午年十一月万吉 九記。 社務上祖 宇志丸三十七世 裔孫。 社務行 相傳行廣授。

日于時寬永十四丁丑年 十二月十日寫 山門西塔南谷 觀泉坊乘盛

呈上 天海大僧正

正。期,於後見之發智,而已。 以"寫本,一按畢。倘文字誤以, 愚見,難,訂

世山王記雖、有。少々。如。今記,委細記、之書未 右行九記一卷者。以,雞頭院嚴覺本,令,染筆

> 拜。 實以可,自 愛。

文字轉誤頗多。 後賢可

<u>訂正之</u>而已

維時天和第二載在。壬戌、冬極 日。於。都率谷雞足院南軒一燈下書 月佛涅槃

蘭若沙門權律師堅者惠覺稽首九拜即 比叡山延曆寺楞嚴三昧院香芳谷養壽

大僧正筆本校正 右日吉社神道秘密記以東叡山曹門院本書寫以天海

第十

日吉神輿御入洛見聞畧記

云々。赤 長 威 忽 應 老去蹟時 馬 安 者 猶 傳 山 家猶 之云 ग A 不 向 TC 徒 胃 日。奉入" 今夜同 門里內邊,云々。所志 退散。 年 被)應,勅宣 猶 今 被下 而 抱 戊 就一首於 IZ. 撤 度 條邊。但 含 件 申 樓 訴 却。 所 之故 。遠流之宣 門 訟之篇 社北野。御輿等任 神 陶 奉振寄之神 敷。 於 月 地。敢 與於祇 敷 一神幸 歟 殊驚 長 # 重 **发大**衆奉 地 不 八 老 F 心有」之歟。『方 目者。近 爲 無 正 思食之間。月 旨。被移 者 近御之時分者 園 • 山 防戰之儀。 可 Ill 樓 振 社 被被 門管領 興 門大 阿撒 曾 畢 振寄神 神與 例 凡 有論 護 處 尾張國 四 衆 是亦為,先 奉振出 之武 却 基。十禪 之内。 流 頂 之沙 日 是 輿 禪 戴 於北 武 偏 南 寺 冰 如 恐 神 樓 耀 仍 。師 + 例 神 輿 由 雲 然 睄 陣 各 寺

聞,云々。

角判官 が振う 邊。但 幸 陣 神 相 云 引退之間。 就 存。 內裏之門內」之由。 東 同 な。 A 戰。 當當 法 頭 西 帶 衆 以 身院。 等之所行歟。 南 年己 職 押 堅閉 大衆雲霞之上。 徒 門內。爰守 面 武 北 入 大衆退散了。 侍所 馳違。 間 土 四 道。 土長 門戶 兩 大衆自元 頂囊 猥雜 一御門一個 四 奉、守 於 東 士 月 於一个度 萬里小路。住地 之間 陣 武 門 岐 神 上下 # 神 1: 宮内 護 兼日有,其聞, 頭 輿 恐神 黑田 瞳 日 如如 不」借 隕 此 入 内 人消 御 不及奉、振汉神 甲 小 裏 時 命 洛 坎 相 善 判 入洛 申 威歟 輔 認可 企 命 之 武 官 西 肝 西 李 防戰。 間。 之時 迷魂云 警過 士 北 奉 刻 條邊 之後。 之間。不 を振 軍 之間。 兩 貴 振 Ш 人方手角 兵 分 之云 神 賊 PH 放 陣 。宸儀 秘 る。数 馳 佐 武家 大 輿。振 及 頭 者。討 な。 F 向 前申 飛 4 K 裢 刻 欲 [1] 鼓 與 木 共 殊 數 五 रेगा 臨 動 40 死 疵 水 原

幷黑田 傳聞。 可被 是叉 事 護 而 度 入 同 非 # 馴 道云 忽可以成 拒 叉 間 间 月 日 向 時不運 處 、今度守 神輿放矢之條。 河 叙 一判官。 廿八日。南 々。南禪 賀茂 流刑 原 謂 六角判 御 無 無力之 兖 門武 歸 應 祭有之。 之由 似 曾 他 寺住 座 武 官 無 輕 一之由 祠 命 自 次 入 度 持 武 相 寺樓門途壞 近江 道中沙 抱動 。夜陰云 申 第 僧自 R 依武 命 Wij 申 也 也 被下論旨云 之儀。 一數之由 行 佐 1,兼日 定。 所詮早 此 궆 命 沈 々木六角判 々。 Ŀ 不、惜 な。 之由 恐神 應 者 悉退散云 有。謗 始之。奉 於 勅宣 阜 有 身 自 興 撒 口々。侍 難 命 之條。 二之故 共 却 行 官 云 聞 奉"防 者 K 樓 所 安 な。 門 今 先 也 此 威 雖 雖 道

計 神 同 也 與 八月三日。 是又為 座 。但大 樓門 * 先規 衆 破 不 却 介供 事 洛 畢。 中 奉。一 自 **殘**云々。 京 向宮 極 申 北 仕 刻 行 駕 至 輿 七 祉

> 無 能 條。 궄 云 る。神 なっ 登 左右 其間 左衞 彼駕 如此之類多之。雖而 興自 奉,拜見之條 路 門 娚。。 輿丁等 沛艾之故 次 一吉良 見物 忽合。宮仕,失命了 K 衆 坂 11 可 御 蒙 彩 加 疵 後 歟 山 叫 失 Z 共 酌 沛中 な。 命 MI 1 1 颇 者數 御師 宮仕 花 之 山 111 座之 又 院 上下 3 情 侍 N

御 規 自 勸 傳 歸 歟 武 聞。 還幸 座 家問答之間 。可。对之。 今度 哉 於 御 御輿 歸 凡者於京都 座 者。 事 卽 有調御 於城 訴 認 之篇 Sit 本 造替 座 11] ス 水 云 「々。定 服 2/1: 11 1 之 可奉物 又 桲 1 有 H 先

假屋 葺 共 同 後篇 天 也 於 座數十間 年春 坂 每 替 目 百有 之用 本 相 بالر 可有 新造。一條萬里於是名 改 於 御幸 意 歟。 京 也 共 可尋之。院廳 都 之故也。今度假 或云。 沙 可 冰 有 之由 造替 神 輿 所 狼 為 造 者 集 風 巷 諸 本 聞 μj 略 之由 道 行 虚 الا 儀 訟 紃 淵 T 映 有 J. 歟 柏 替 7 皮 所

話

七

儀歟。今度但為,古輿、之間。不、奉、移、御神體、云 Ш 造替,之分間。舊與奉,返入,之由云 備,神供云 同夜奉、入,祇園社。神儀無,御入洛,之間。不及 同 御輿 年甲 寅 《。傳聞。去年造替所雖、有,建立。未、及, 六 出雲邊奉、振高之。兼日無其 月 出日 酉 刻 日吉御輿 なっ 七基 聞。俄 并 赤 なっ

徒分持而。雖,杜一本,未,及,造營,之上者。先返 講堂料所數箇所。任"申請"雖,有"御寄進。衆徒 後。可,有,其沙汰,之由。自,武家,問答云《。 別大略運上。然而為,當山門之非義,如、此問答 ·被』返付,之由問答云々。但神輿御造替料。諸國 後料所者。先可分造替神輿。造替以後者。即 又聞。造替未事行之故者。山門張本任 訴 又者 召 出 進 等 大 領 可

同二年丙辰。

同三年丁巳六月下旬。山僧明院等諸大名。十人出。

又聞。造替未,事行,之故者。山門張本任,訴召,出

同四年戊午。

下 時 此間之舊好也云々。是則日吉神輿。數年雖、有 之。依,諸大名訴訟,自,大樹,被,立, 御使,之間。 康曆元己未閏 在 沒落四國 之由 知 。大樹對面。 口」歟。仍同五月比。山門使節宿老數輩列參之 「洛。造替事一切無,沙汰,之間。爲, 神罸,之由 一之間。山僧等開,眉頭。先於,神輿 申之。云々。 一了。於,不。落命,之條。偏大樹之芳恩。 造替事 四月十四日。武家執事 指定。 奉行 日 時等。 者 武藏 可奉歸 嚴 密

六月。

崎可,着,之。於彼奉,莊,之云々。 日坂本奉,送,之。人夫千餘人。自,松本,載,升。唐康曆二年庚申六月晦。七社御輿造營事畢。即今康曆、日吉神輿悉奉,歸。入之,云々。

神 祇 心部十九

北 野緣起 野天滿 綠 起 自在天神宮

創

建山城國

葛野上林

鎮國之思。須、早進。發彼處。聊結。構我禿倉。令、 響。彼馬場,之時。胸炎頗有、薄。既得,天神之號。有 心結。恨之報。還作,焦肝之燼。得,歸京 虚横之過。被左降鎮西之後。遠雖思, 場,多年。城邊閑朦之地。何如, 彼塲 右 得潜寄使者。為 子 日。於。右京七條二坊十三町。而 一給。御託宣云。 天神最初以 去天慶五年歲次壬寅七月十二 、畏,託宣。搆,其禿倉。 我昔在 一世之時。屢遊覽右 相。記多治比奇 哉。 無期。適潜 安置柴犀 宿報。 因,兹 近 遇 中 馬

明經 影像。并奉高為法樂增長。奉高法花經 且依, 御託宣。建立三間 庇檜皮葺也。所用 改造御殿五筒度。 後。于今十四箇年之間。奉為天神,所濟之雜事 小木之地俄繁。今則大陵之庭既暗。建立造宮之 隨天 之邊。五 生。成,數步之林。神妙在、眼。如。萬人之殖。彼 元年歲次丁未六月九日,奉、移 菩薩像一軀。其外雜事累年多端矣。敢非 一部。仁王般若經二部。奉、立。 神御宣、人蒙、託淄 簡年之間。雖,有,崇營。憚,賤 之色不可。盡 最後所 ·途不、勝。堪 四面堂一字。安置觀世 構造立。是三間三面 。件處。 雏 率都婆四本。 端。本造 思。以去天曆 妾之不重 、其後松種 十部。

卷第十九

帳也 後代一勒,綠起之旨,而請,隨,近在地證判,如,件。 偏黨之判者。强好以望天神之幽罸,乎。仍今為 領之旨。就之不,可,失。若或所司存,阿容之情,施 之子々孫々。可、隨,其進止。况於,大小所司,平。傳 花實之榮。絕、源者何繼,宗海之流。後代若旋 金鼓二面。經八寸之中。一面紛失。具注疏資財 於此宮邊」之輩。不、擇,僧俗,不、論,貴賤。觸,奇子 字在,庇三面。鐘 記。就中 。由,是言,之。萬物必有,根源。弄,根 五間僧房二字之中。一字在。庇壹面。 一口長一尺六寸。禮盤一具二基 者何得 - 踵

右一帖以邑井敬義本書寫於杏花園遂一校畢

北 野緣起上

たくみ也き。されば現當をいのらむ人。い ず。外現を思へば人臣の大祖なり。風月の 生望のごとし。名稱異域にきこえ、震験 ゆみにしたがひ。片時擁護をねがふたぐひ。 れましますにや。一念欽仰をいたす輩。得益 の望をみて給 かむなしからん。仍寬弘元年始て 行幸なりき。 を尋ねれば観音の垂跡也。慈悲の し。或は天上に日月として國土を照臨す。 ことならず。或天下に鹽梅として 帝圖を輔 秋の月の水 にうかび。曉の鐘の霜に 和するに に秀たり。たくけば則こたへ。あふげば必望む。 をたすけて。二世の所求をみて絡ふ事。 いへども。北野天滿大自在天神は。 日本我朝は神明の御めぐみまさかりなり。人 ふ事。いづれも おとり給はずと 弘誓淺 末代の衆生 世に から 本 本朝 till 道 利 勝 あ

給ひない 月耀 如晴 むやと。相公中させ給ひけ 梅花似照 れば

天下にならぶ人なくおはしける。 とぞ作りましく一ける。十三四に成玉ひて。殆 可、憐金鏡轉 庭上 王房

抑昔菅相公是善。 菅原院と 申家に 住給

ひ

ける

承久の今に

至る迄。聖王十九代。いづれ

0

御代

にか天神をあが

め奉らせ給はぬ

は なし

これぞ十四にてつくらせ給ひける。 惠和 も論者たがひに鉾楯せしかば。慈覺大 よらずして。同十三年六月十一日。叡山に ゆるさどりしかば。大師顯戒論三卷 へて。叡山に戒壇をたてむとせし時。諸宗 傳教大師大唐に渡りて。圓頓菩薩 いたみて。顯揚大戒論をゑらび給 氷封,水面,聞無,浪 雪點,林頭,看 ひし 0 をつ 大戒 師

業を學せさせ奉らせ給ふに。相公の才智にも 過てぞおはしける。世につかへて右大臣の大 り給ふぞと問給ふに。見の玉ふやう。我さだま きにたえずして。つねに悪じ給ひて天神とぞ いだきとりて。御子のごとく鍾愛し玉ひて。儒 もひ侍ると仰られければ。相公よろこびて り給ひしかども。不慮の無實に 母だもなし。相公を親とせんと うつり玉ひしかば。御なげ 三際に傳て十方にひろめんと覺して。くびに を建立すべきよし宣旨を下されにき。され て。弘仁天皇に奉り給しかば。諸宗のうれへに 尚先師の一言を

感じて八卷となし。是を 飛啦 是を を傳 くり 处

將迄なり の

ぼ

よりて。

太宰權

帥

13

n

る居所なし。

して。君はいづれの家の子男ぞ。何によりて來 けるを相公見給て。容顔たど人にあらずと覺 に。家の庭に五六歳ばかりなる兒あそび給ひ

らせたまひける

2 は 所々申侍べし。 年廿一二にて。官位もいまだ淺く。文章生に ければ。貞觀八年十一月の事なれば。天神は御 にこそかくせ奉らめと 覺して。かくと申給 ひなむやとの玉ひしに。相公思食けるやう。文 おはしたれども。書せ給ひたりける序の文こ 朝家のたか て菅相 天台宗第一の寳にて侍るとぞ申傳へたれ。 公 0 ら衆 もとへ 生の燈也。子なりとも此君 お は して。 此文の 序書 王

為"沙彌宗、貶"三聚教,以為" 律儀。後研、精者更傳,圓戒。猶如,前途覆 之膏肓。新增,一質之脂粉。 未、飯。晚進指、南而必達。乃至殊恨保執者自 我本朝馳 一一而未、知、其二。乃至我大師圓仁。博窺、三權 除非小律儀。更無,大乘戒。途毀,梵網宗以 "神眞際。宋』法道邦。先請、業者 非僧教。悲哉知其 偏 車

とぞかしせ給けれ。

廿三日にや。叡束しましくくけるとかや。 ひとつもはづれざりければ。都良香より始て。 せ給 本末も知給はじとおもひて。心みに御弓射さ 出ずして。學問のこうをこそつみ給へば。弓 貞觀十二年の事にもや。 人々おどろきあざみ申けり。やがて 奉りける。御すがたのみならず。はなち給ふに 由がひぢつき斯や有けむと。めもあ に矢をさしはげて。引わたし給ひたる御質。養 人思ひけるは。此君は戸ばそをとち。しきみ 人々弓射ける てんやと申玉ひければ。弓塲に立出て。 所へ行あひ 春 王 の頃。都良香の家 ひたり 其年三月 やにぞ見

其年の春。都良香羅生門を通りけるに。春風 に麹塵糸を聞せる柳の家々の垣根 り大にしはがれたる聲にて。水消浪洗。舊苔鬚 次の句をば、案じ煩たりけるに。羅生門の ければ。氣霽風梳 *新柳髮」と詠 じたりけれ ごとに

我物が れば。 L 10 哉。 L ば。菅丞相うち笑せ給ひて。あはれ人 **参て良香** の燃出たる も覺ゆれ。下の句においては。鬼神 かりけれ てぞ。菅丞相は神に通じ給へりとは人しり で付付 げにおはするかな。 7 とのは賢才の士にはおはせず。 お 良香 は ほに ども b しけるこそあさましけ こそ 除に心うくは ける。 氷消 やうにこそ おばえけれ。それ 羅 さすがに嬉しくて。急ぎ菅家に 0 生門にて詩作りたれと申て。 良香身の毛も立ておそろし 句 そも 上の句こそ良香 づ かしくて。 申 うじ n 矯傍 H と仰 の次た 顔よ 12 の 0 b 物 3 あ より る者 詞 はほ n 讨 b 3 火 V 人 ع 12

ぐつは 寬 元子六年 に集 8) V b じき したるが。 長 月 $\overline{\mathcal{H}}$ 法會 0 + 頃。 Ó の庭の 門徒 御 願 年 の人々 0 文に砂金をとり お よろこび もてに。 貴 रे 0 翁 賤 會臨 0 B Z わら 吉 せ 祥

12

b

け

ひらきたりければ。て。いふ事もなく急ぎさりぬ。あやしと思ひてて。やう~~あゆみ よりて堂前の案上に をき

人間 南 人。可、求、其志。遠居、北闕之以北。遙贈、南山 中誠之不,輕。 彼義。欲、能不、能。故福田地捨,此沙金,金以 之過。古人無言。無德 傳聞。菅家門客共賀。 無名世上。尚數 沙以前 記 知命之年。弟 不報。無言 上壽之無涯 淳教之風。多 不一門。 子雖 英疑 削 表 眯

の勝事とぞ。 造歎しき。忝も天子の修し給ひけるにや。希代とこそかくれたりけれ。少僧都勝延。 導師にて

月廿 富樓那の辞 日に百首の 詩を作 3 1= 日日 合旨を 下され 0 舌 事 を 1= P 0 ~ りたる人有。 延喜 て曰。我きく。店 給 ひける 聖王東 にや。 汝才智並び 1: 同 お 七 は 年 15 V

作り奉り給ひし。 に十首の 詩をつくら せらるべしとて。題をつくして 七歩の跡をつげり。しからば 一時の内

万機を攝 にぞ延喜 せ給ひしかども。ゆるされざりき。其年の七月 やがて 大將の宣旨下りしを。三度迄 辭し申さ る。又同九年六月かとよ。大納言になり給ひ。 ば。昔も今も 時の内に計首の詩を作りてまいらせ給ひけれ 是も其內の句也。又次の年同く合旨を承て。二 若使。韶 不,用,動,升車。 鍬し給ひけるとかや。 のみ 光知,我意。 かくる事なしとのくしりあ かど御位につかせ給ひしかば。 今宵旅宿在,詩家。 唯別,殘鶯與,落 ひけ

集弁に我文章廿卷もらさず天覽にそなへ給ひかとよ。祖父三位清公。親父相公是善などの家昌泰二年 二月に 右大臣にならせ給よ。同三年

給ふに。此史文刺に文さして。いらなく振舞 にがしの史が。事にも侍らず。かまへて彼御 みれど。いかとすべきとなげき給ひけるを。 けるに。左のおとい。文もえとらず。手わな 此おとぐに奉るとて。たかやかに とて。座につきて かにしてなどの給はせけるを。 をとどめ侍らんと申ければ。いと有問數事 して。此おといのし給ふ事なれば。不便な ふ間。 非道なる事を仰られければ。 さすがに んごとなくて。切にし 給ふ事をいかど は 或時陣座にて左のおと、世をまつりごた 琢磨 唯詠一聯和氣味。 門風自、古是儒林 更有"营家勝"白樣。 叡感 寒玉聲々麗 の餘 りに詩をぞ 事きびしくさだめ 裁製 從 况連二代,他清吟 今日 文華 皆悉 つくらせ給 妓 抛 餘 霞句々侵 却 たど御覽せよ 匣 ならし 7 のくし ける て侍 と覺 せ給 りと B

ち n 2 かせ申 T H 給 n 3 1= 0 が Ē け す 7 そ右 n かっ 笑 P U 0 て。け さてこそかや T おとゞ御 B 72 5 2 1 せ給 は V やり 無術 心の n うな \$2 給 きまん 右 ば は 0 b ざり 頗 12 お け 事 ま ٤ け 0 1. 8 和 3 b 1= ば 12 وح \$

年卅 水 徳を貴 h T 臣 かっ 臣 Ł 同 せうとと 7 など Ó 給 は b 敖 الح الح 御 三年正月三日。朱雀院に行 物語 流 大 Ø2 12 緘 72 ~ は。執政此 b. 0 L 事 右 冠 天下のまつりごとをするこそさ のつ < 菅丞 へは。 とて。 Ė 九代 あ 臣 5 いでに。密事どもあり 72 相 には h_{\circ} h 重代攝政高貴の人なれど。 叡慮 の孫。昭宣 人に當 Ш は 給 一人をとじ 0 重 及 はず。 風 代 をめぐら ぶ り給 をあ 執 べくも 政 身のざえ心の 公の一男 幸有 ふべ。 12 ^ め b し給 あ られ おはせずをと らね て。御門法皇 賢をえら 胡 き。左 ふに。左 后宮の 廣累世之 72 ども 5 をき ば 73 右 御 御 大 大 ょ め

れけれ 寮の 菅根 れて。 き給 大臣 執行 りと 衣を させ ね の氣色例 給 しつべきとて。 度動。名京師。かるが故に右大臣を御前農夫也。伯始致。位公和。黄憲牛醫之胤ヱ b ひしが。 h 皇域 此氣 官 朝 いへ ā 給 ひしに。唯 ~ 頃 召 ば。左 3 L 人に Hi 1: ひ 0 の八方に山 ども。 て。 色を 1= H 無 其日 むね 始致。位公相。黄憲牛醫之胤子也。 和 種 仰 實 12 右 大 ども。 見給 下さ の讒 世に から 春生 N 大臣 今の とも 例 臣 是也。 0 ひてぞ侍け 禄 8 一柳眼中 n 珍 て。 野を 奏 B 1 召こそ 3 0 かっ 各詩を奉るべ H 資 か 偽 智 れきこえ侍りき。 うへに。 座 6 n り参りて つ を T かっ せきを立て ځ 勅 と云詩 臣下 O め あ ŧ V 既 õ 給 3 57 定 しきり 兩 0 3 E 格此事 皇幷后 あ 光卿。 狮 けり。 稱 1 冥衆 やし 0 しと仰下さ して 題 1-Bili 雜資 定國 it に構 智 孙 箭羊 左 座 18 衛 官 大臣 Ш 召 陰陽 をな 儀 0 L 1 叔 13 御 7

本り給ひけり。されども 菅丞相咒咀 さらにお つみ給ひけり。されども 衛門御年 十六七ばかり した。 計算の外。恵茂。筑波山之陰。紫霄之上星位静也。 蒼海之中浪聲和也。思はざりき。同四年正月廿九日。 左大臣讒言によりて。 太宰權帥に正月廿九日。 左大臣讒言によりて。 太宰權帥に正月廿九日。 左大臣讒言によりて。 太宰權帥に たへずして。 卅一字をつらねて 法皇にぞ ちに たへずして。 卅一字をつらねて 法皇にぞ ちに たへずして。 卅一字をつらねて 法皇にぞ あらんひし。

なかれ行我身みくつとなりぬとも

昔庚申の御遊につらをうたれまいらせける恨きて。かくと申せと 仰られけ れども。 菅根卿。 も我子也。 申さんに などか かなはざらんと思も我子也。 申さんに などか かなはざらんと思いませい。 中さんになどか かなはざらんと思いました。 一種の御節じて。 御涙にむせびつく。 御門法皇此哥を御覽じて。 御涙にむせびつく。 御門法皇此哥を御覽して。 御涙にむせびつく。 御門

御寛じて。

梅のはなぬしをわすれぬ物ならはあるしなしとて春を忘るな

生涯はさだまれる地なし。運命は皇天にあり。侍めれば。此間の哀さ。かき壺すべからず。此御歌故にや。梅は筑紫へ飛て参り けると申かやうの 御歌ぞ おほく かきとくめ給ひける。吹こん風そことつてもせん

作

王

V

W

3

#

.韻 恣

0 三友の

詩

を聞

にぞ。

御心

さりか。 。生死無常まの なき名を 一明文德 波 前 15 0 おもむき給ひてん。い 御さきにうち給 h 胤 浪 1: 上 ひ 五. Kul 1= 膽 0 カコ 大臣 10 衡 0 そへ。一 坐猶 n 風 0 な 御 0 景 T 御門 貴名 がすべ 0 学 灰 旅 12 あた 大 の空に 12 舟 獨 將 1 あ は くもる。 心 ひし 0 しと りにさとられ 5 2 より 6 愁吟によす。 をすまし。吳坂 カコ 72 とき 12 15 は。 め かっ 太宰 L 7. て。 ば 騄 な 承 あ よひ。 か かっ 權 3 卙 < 和 配 b 帥 n 四 流 0 お て。 かっ 掌 40 2 馬 は 年 左 10 楚 峽 泪 覺 £ か j を 10 遷 ころ 是其 うち 申 え させ給 平到 n 古 山 重 東 自 ば べ 河 關 行 從 內 2 < 0 警固 能 刺 邈 西 謫 < Ł U 行 使 處 ij 韶 P

1=

西都

乘。

興 朝礼 生 0 つさ お

れ。仁

真

よ

0

輔

L

けむ。

を万里の

宿

業 浪

之三友一生 ぞ覺 矣隨 誰 雲 駈 织 る。 ゆる。 初 にて 行 聞 與 沙 1 3 ぼ 樂 12 食 隔 斷 侍 L 初 b め B 生 風 俯 しけむ。北 とを 廿八 月 及 仰 睛然 秋 天 辛 3 、韻は 神 胩 酸 風 月 成 在 定 Ti. 夢 H 0 無 H 路 見 进 地 方 稀 ば 斯ぞ \$ 12

から こそ これ ね 君 0 か こと 18 聞 御覽 すむやとの えければ。斯ぞつ カコ は じて。 くるくまて りと お Í 木すゑをゆ ぼ 0 的礼 淚 にか 18 くら なが 叉茅 ^ b < せ給 3 14 みし 4 0 0 給 か iz to 0 け 雅 3

厭離

せ

には

0

諸佛

あは

みをたれ。

乘

妙

.III.

後

世

to

12 =

す 世

け給

へとぞ

仰 n

5

礼

け

る。

宿

0

樂

天

北

詩

To

お

b

ひ

7

緒

Fi. な

0

合

せ 0 湖 3

7 月

佛 0

道

歸依し。心

をめぐらして 罪業

智

百三十八

叉御心のうちにおもはせ給ける。 敬、枕思量皈去日。 我知何歲汝明春。 我為,遷客,汝來賓。 共是蕭々旅漂身。

万事皆如,夢。 時々仰,彼蒼。離,家三四月。 落,淚百千行。

土にきこえ人々詠じもてあそばりけれ出にきこえ人々詠じもてあそびけるこそ不思議に侍れ。又筑紫にて。中一年おはしましけるに。折につけ物にそへつく。あはれなる事のみらがにもいは野にも山にもたつけるをの唐此御作は 御口の外へ出し 給はざりけるを。唐此御作は 御口の外へ出し 給はざりけるを。唐

北野緣起中

正三位右大臣の大將にて。榮家は菊と共にぞさても去年の九月十日。禁中にて宴ありしに。

みえし。

御 か 哀 の今日おぼし出てつくらせ給ひける御作こと と作らせ給ひしかば。叡威のあまりに。御 1= づけさせ給ひしを。筑紫までもた 君富.春秋 かたみに御覽じける。次の年九月十日。 おぼゆれ。 臣浉老。 恩無涯岸,報猶 せ王 遲 ひて 。去年 衣を

申あひ侍。 思賜御衣今在,此。 捧持毎日拜,除香,思賜御衣今在,此。 捧持毎日拜,除香,

といふ御詩は。白居易が遺愛寺鐘欹、枕聽とい都府樓纔看"瓦色。。觀音寺只聽。鐘聲。

雨のふりけるに。

きてしぬれ衣ひるよしもなきあめのしたのかる、人のなけれはや

-1

んとぞ覺し。

天道に訴

那

昇 日

4 ょ

文 西 隨

へを作

6 申

鎮

お

は

と讃 天 丈夫牛王大沙門。 歎 地 此 L 界多 給 U 聞 L 宝 カコ ば。 逝 尋 九刧を 宮 地 天 ılı 處 林 巡 通 て開動 無等 AILE.

御詩

をあ 四 ふ詩

3

3

٤

ぞ申

侍

る

泰

年 は

八 ŧ

月

よ h

b 12

西

V

72

りけ

U 時。

けり。

月 し給

ば 1= T

あらたに

天滿大自在天神とぞ

な

5 給

せ給 U 成道し

給

ひしぞかし。菅丞相

-1

H

-1

夜芥

天

先

あふぎて。

。身をくだ

き心をつくし

L

か

贵菱

顏

色

皓

月

13

昔被" 榮花

月光似、鏡

見隨

聞

率らむと 格筑前國四堂 32 非 日 十二類血 3. 72 延喜三年二月廿五日にぞ十二因縁 ける。 b ば。づ 减 る五陰の 0 告釋尊入滅二月十 現滅 は 別には。 72 1= の涙 3 L にお は閣 すが カコ 。六十餘 ける程 ず。是によりて のほとりに御墓所を點じ をなが さめ 維 12 0 を 州愁 奉らんとぞしける。 烟 L 五日のかなしみには。 すてつとしめし 御車 にも 个宰府薨 歎をそふ。 12 せばせ 其所 ち まちに 逝 をし 給 にや ----二月 U 號 給 بخ 8 7 L 世 お -[]-7 3 3 11: 竹 7) 3 御 Ti. 17 \$ 3 Ti. \$2 8

其後いくほどをへずして。 延暦寺 第十三座 墓所 反の妻戸をほとくくと たくく音のしければ。 前に親月をすましおはしけるに。思ひかけず の床 まり 法性房尊意贈僧正。其時御年四十ば づき。愁をものべ。あだをも報せむとおもふに。 何事にか候と申させ給へば。菅丞相仰られけ しける也。うやまひ畏りて持佛堂へ入奉りて。 おはしけん。月 せ玉ふ事あるべからず。年來師擅の 禪室ばかりぞ法驗をもほどこしておさえ給 るは。我すで おしあけて見給ふに。菅丞相の化來してましま り。四明の山 とす。 のほとりに智水をたくへて。三密の頃の たとひ宣旨なりとも。 B 今の安樂寺これな あるまじ。花洛へ入て鳳城に に梵釋のゆるされを蒙りて。神 日 のうへ。九識の窓のうち。 は慥に覺えず。夜 あな בנל ふけ人し 契り是に こ詩 カコ 9 5 十乘 申 13 か 3 3 主

しに

まどひけり。清凉殿のうちには

本院

ひけり。

斯で御門おそれ思食で。法性房僧正

などか我にところをき給はざら

h

とて立

ふとも。

わがつぎにこそ おはせしか。神と成給

とい一人太刀をぬきて。朝につかへ給ひしに・

其後やがて 雷電霹靂して。世中くれ 性房灑水をせられければ火消にけり。其妻戸其柘榴ほむらと成てもえつきたりけるを。法 もぞかはかせ 給とて・すくめ まいらせ られた (編纂を) ひ眼 ていい いまだ本房にあり。世の末の不思議なり。 b は皆王土也。此地にすみながら。宣旨三度に及 師壇のむつびは一世のちぎりにあらず。た あ ける りと仰られけるに。法性房中させ給 をぬ かづちの聲におほくの 柘 かるとも。なんぞいた 榴を妻戶に 吐か けて出させ給 人膽心 まんや。但 をくだ Z たが やう。 ふに。 3 天 b

しとて、

四月

四

日にや

師 3

の弟子。

善相 法驗

公の かっ

浄蔵こそ

たちに

もたらねども。験徳

顯密修學群にこえ。種々の 才藝世に ならびな りて。しばしはしづまり給ひしかども。つゐに そろしく侍しか。斯てやうしくにこしらへ かなはざりけり。延喜八年十月の頃にや。 安賀二家の 秘術いたづらに 祭物を費 神もすて給ひけるかとぞ覺え給 の御靈仇なりとさとり 請じよせて 方薬なむれども いたりてとうとく。 け給とて。 ふ。さま でたく王位 のごと 3. ば。 年い いのらせ玉 些 4 同 まだ 玄昭 < h 九 しる 給 の御 年三 B 1: n は 律 菅 奉 成 お 2 それ 臣 絕 淨 我 龍 ひ U b 忠も若て失給にけり。それぞかし病 ø, よと示 てよみ て。驗者樂師經の ぬ。御孫の春宮も失給ひにき。一男八條大將保 T b とお 出 | 顯忠のみぞ 二位大臣まで ならせ玉ひ 入給にき。三男敦 滅た を蒙りて 中文をさくげて。帝釋に新申に。早くことは 頭をさし出 12 V 御年三十九 る。 は 參給 給 し給 ける ちま b 菅丞相の御 10 その ひけ v ひて。臆病 を開給 り。其時 کم 怨敵を報ぜんとするに。尊閣 ちに我を降伏せんとす。 H るに。 して。善相 恐畏 午 とぞ承る。 0 所謂 事をふかく恐給ひて。 忠中 て。我をく 本院 時 て此 12 お ع ば 叉 宮里 納言 山 公に 7 かっ 0 目 。御娘 0 維大 を作 b をだ お 吉示し 又 7 Ċ 失給 0 滅 將 右 5 善 女御 12 B h とうち 顺 0 相 告 にき。右 T 制 4 公 2 つき給ひ とよ も失給 To 態じ より青 あ せら ٤ 1) げ あ p 3: から 給

月

本院

0

お 12

といなやみ給

根 は

卿は 12

あ

5

1=

け

ころさ

n

1=

v

E.

北

てとをり

給ひしこそ法験もめ

L

鴨川の洪水去のきて

地

もとへ宣旨三度までくだ

b 陸

L

か

祈

もしるしなし。

耆域が

しなし。

す。

。春日

大明

け

3

n

ば

菅丞相

け

ば

b 胤子

P

12

す

に。奏し は。御門おどろか 敦忠三男兵衞佐佐理。一家のありさまを思ひ 藏の文慶などなり。又此末のいみじかりしは。 も成給ひける。三井寺の心譽。與福寺の快公。石 と葉ねんごろなりければ。子息信明信孝二人 人々ものにくるふと思ひけり。されども其こ 忠と申人おはしけり。延喜廿年四月の頃頓死 小松天皇御孫延喜御門には御從弟にて右大弁 L なれど。佛道に入給ふのみぞ僧都 りて。門前にて、み候しほどに。たけ壹丈あまり たすけられ つどけて。世中あ ける て三日といふによみがへり給て人々に告示 て往生し給けるこそかしこくおぼえ侍れ。 は 給ふやう。公忠頓死して炎魔 我を具して内裏へ参れと申ければ。 らせ 7 内裏へ参り此由 てぞ ぢきなくおぼして。

出家入道 せ給ひて。出 おは しける。 むか を奏し申けれ 法印 は か の家 せ玉 僧 に参 IE の人 ひ 1:

> うくに言葉を盛して祈給ふにぞ。菅丞相と らためて延長となされき。 やきすてられにけり。五月廿五日に延喜を まひけり。其日昌泰四年正月廿五日の宣旨を・ 右大臣として。一階をくはへて正二位 ばいかにと申され候しなりと奏し申て出 人ばかり 並び居た は悟侍りし。其時あけや紫まつひたる冥官州 かば。延喜の御門のしわざ尤やすからずと。や て
> 祈申さる
> ト事を
> 耳を
> そばだて
> くうけ給 なる人。束帶うるはしくさうぞきて。 なし。さて四月廿一日。菅丞相 にき。御門是をきこしめして。おそれ思食事 し笑て。延喜帝こそ頗荒凉なれ。もし るが。第二座に居 をもとの 。申文 改元 72 で贈 نح る人 りし 給 を 南 捧

門おそれ給ひてこしらへ申給ふ事ども有けて。あやまたざるよしをのべ申給ひける時。御又菅丞相淸凉殿に化現して龍顔にまみえ奉り

延長八年

六月

#

六日

清凉 ^

殿 3

0

火出

其頃ほひ 年四月十六日より笙の岩屋にこもりて 導にて 三界六道み 金峯山 に日藏上 Ø2 人と申人。 所もなか りけり。 金剛 藏

承

か 地 Ŀ

お

平

0

給

ひけ 年 کم

b

御

四

十六にて

御出家侍

らて。

5 九

せ

給

朱雀院天皇の御事な

6

3 りま

て九 則崩御な

月

#

日

やうく

例に たがひ ましく

ければ。

九月廿

いらせさせ

王 < け 國 ば

二日御位を第十一皇子にゆづ

b のうち

とぞ。共日毒氣始

元の御門 火雷

の御 風毒 十六

身に入て。

王

躰 な

の。第

三使者

火

王

0

わ 0

3

悶

絶す。

是天滿大自

在天神

万八

F ほ

眷屬

れふし。是茂朝

Ē 弁 卿

取て

行

立所

1= Z 2 來

しまろび。右

111 貫

希 は弓を

世朝臣、

は

か D

はや

V

7

12

て。大納言

清

のう

0

10 坤

火 1=

つ 雷

きて

剛

けころさる。

近衞

忠包紀

陸連等。

はの ほどに

に咽

7

樂國 彌陀 さま。 六道を 見廻るに。地獄と兜率との はします て 莊嚴美麗にして H 0 王 なひ 1: すべからず。或金剛 7 太政威德天とぞ申 滅王の 0 蓮花 たり。其北一里ばかりをさりて大城 法花 經 土の莊嚴の 如く。或夜叉羅刹 お 10 聖教に説く所露もたがはず。天滿 三日 2 b V れあ 經 有 とけるに 勝 所より始て。 善行方便にて。 る にぞよみ 和 ほ まします。 花 b_o どに。 12 0 如し。 光明照曜す。是太政 b. 待從眷屬·異類 上に資塔 ことなら から 御すがたな 八月 ける。 池。の中如 力士 東西 兜率 h 天滿 朔日 を安 の如 給 < に兩 1= 3 內院炎魔 す。 な 嶋 大自 0 19 午の刻 ぜり。 嶋 り。御住所 く け 部の 有 È 異 ع 1 花 在 形 苦樂の 或は雷 1|1 曼陀 か 王宮 天 威德天 其內 鳥樹 よそ 共 3 垧 神 2 天神 13 顿 h あ 紹 ほ 木 は 前中 か LI 0 3 死 聖 洪 Bul 桐 18 金 鬼 5 F お

百

づ

は。我なをとどめがたき也。日藏此事 やすまりぬ。其上に往古如來法身大士悲願力 建立して我住家とせんとおもひしかども。 思ひき。流れしなみだをた 仰られけるは。 うとく 畏て申やう。 千の惡神等。所にしたがひて損害をいたす事 るが。各智 の故に。名を明神にかはりて。國々にみち給 **穀ひろまれる國** ぞりて我怨敵 住 仍顯 て大海となして。八十年を經て後。 所 也。 お 密聖 はしますべきと申給へば。太政威德 É ij W 日 h H を邀 | 教の 力にて昔の怨心十分が 藏 なり。 たれ をめ 本 72 なり。我教法を愛する 本 2 2 國土には して我を して仰 佛にならざらんほどは、い 人か我を算重せんや。國こ 3 事十 3 也。 號世 火雷 すか くへて。日本國を 6 但 和 我 ける 尊の如し。な 天神 眷屬 しなだ は と申 十六万八 を承りて 心ふ 國土を 我始 め てた 12 か Ū ま は 佛 は

はだか て承け は延喜 き炭 無質によりて 菅丞相を流し侍りし。かの 苦を請給ふ也。御門日藏をまねき給ふ。 泣嗚咽せり。王使をしていはく。肩をか といふ所あり。それに四人の罪人あり。其形 諸の大地獄をみる。一の地獄 祈こふ事あらば。我威應をたれん事。響の て我形像をあらはし。我名號をとなへて。態 よりて此苦 やまふ 叉日藏閻羅王界にい n 苦をたすけ たがふごとくならんとぞしめし給 0 の如し。 事な れば。冥途には の帝。今三人は臣下也。君も臣も にてあ 時 カコ かれ。我は父法皇の御心をたが をうく。汝娑婆に歸りて 我皇子に 一人は肩に物をおほへり。 此 かっ 給へと申べしとぞ仰られける。 恨 き灰の上にうづくまり を忘るべきや。 たる。王の使 罪なきを主 0 中に 但 とす。 を 人信 相 ひ。け 日藏 我 三人 心 訪 2 窟 < 罪に な 聲に せ 3 あ 7 苦 悲 畏 は 黑 所 C 3 h

此

御門に

し申ければ。種

々の善根

をいとな

れける。日藏上人よみがへりて此よしを委

おは

しましけ

お

よそ

國

土

の災變はみな

をつ

くの

ひて後。化樂天に生ずべしとぞ仰ら

か

<

のごとし。又善を修する事多か

りき。彼苦

害せし事。是等

の罪によりて 先苦をうく

3

事

事。五には我

身の

怨敵の故に他

0

衆

生を

損 L 賢臣を 罪なきに 罪をあたへし事。四には久し

安座して法皇を地にすへ奉し事。

三には

く國位をむさぼりてあまたの佛法をほろぼ

殿 奉

1= T 我

Ŧī. 0

罪あ

b.

皆是太政

微徳天の

よ り出 生前

72 神

b.

には

父法皇 申

を峻

路 威

あ

W 我

ま 御

困苦

にせしめ

たりし事。二には

高 4 事

3 神

。上人は穢惡の住居をすてく。浄土の蓮に

の御眷屬の

御 3

しわざ也とぞ藏王は仰

5

ñ

2 け 天 2 <

生れ給ひける。

北 野緣

北 間 り奉らで。柴の廬に のほどのいやしさにはどか たよりをえせしめよと 託宣 こし心もなぐさめ。ほこらを 4 罪 とりの閑勝 有し時。右近の馬塲に 子といひける者に託宣ましくして。我告世 天慶五年七月。西京七條に住 野には を蒙 あ か が 1= め かっ りて j 奉 の所にゆきてあそぶ時ばか b 西 0 つし奉りける。 けるに。天慶九年六月九 地此所にしくはなし、 海 0 波にし いがきをむすびて 五年 あそぶ事多年也。 つむとい りて。社をもつ ありけれども。 かまへて立よる せし賤 へども。 我非道 りこそす H 都 あ

な男子七歳なるに

託宣 同 九年近江 始に置ける也。佛 國 比 Ŗ 宮にして。禰宜 含利玉帶 ありき。 我物具は 銀つくり 和 よし 劍

北野綠起下

給ふ。露命省なば、當上しまではじ。我筑紫にありし時。佛天に仰ぎてちかはじ。我筑紫にありし時。佛天に仰ぎてちか がらをたすけ 災にあたらん人。 すべて わびかなしま むとも 茂八幡とのみいひて。我をば物ともせずお 滿て。諸鬼神十万五 みしは。流さるべ 大臣たりしとき。夢に松三本生て則おれ 所には。老松して松の種をまかするなり。我昔 しなせそ。我居たる左右にある也。我居たくん 供に來れ さても右近の馬塲こそ興宴の地なれ。我かの す身とならむと誓つく。思ひのごとく成給ふ。 正直ならん 者をば 護あはれむべし。みな人加 な是等が所爲也。不信ならむ者をば蹴ころし。 笏鏡。老松 ふ。露命消なば當生に我ごとく思ざる外に いづれ る也。此二人は甚不調の者ぞ。心ゆる 福部 すくひ。人を損ぜん者をば 0 に持せたる。是等は筑紫 き相 神々も我をばえをし 干よろづの災變をなす。み 也。我嗔恚のほむら天に ふせ給 より我 ない 'n ٤ B

ほとりにうつるべし。そのほとりに松をうふべしとぞ仰られける。又此界に有しとき、公事をつとめて一佛法を申といめ」たる事ありき。懺をつとめて一佛法を申といめ」たる事ありき。懺をつとめて一佛法を申といめ」たる事ありき。懺ががにうれしからんとて、此句を誦せん輩が疑い。

良種右 驗殊勝に 賞罸揭焉也。天曆元年より 天徳に みがき。松壇の風をあふぎけるとかや。其後靈 寺主滿増星河秋長と力を合せて。 人涙をながす。僧嵌鎮と狩弘宗と。文子が伴 き。忽に林をなす。神靈眼前にあらはれ。み 鎮法儀鎮世等に 此託宣の旨を 相議する程に。一夜のうちに 近 の馬場にゆきむかひ。朝日寺住僧 松數千本 生侍 かた 叢祠 の路 子細 h を 菆

第 十九日太宰府に下り着て。次日 か あ 7 條院 げけるに。一 の位記 一の不思 御位記の箱を案上にをきて。 0 記書等 御字 む 42 議 に侍る 13 0 の絶句の 勑 從 72 他 二位 まの 菅原幹正。 左大臣を 詩化現 D は 正曆 して 安樂寺に 再拜してよみ カコ 贈 हे りた 14 h あ 年 b 然り B

錄

もたゆ

る事なく。

皇胤も盡給はぬは。菅丞相

筑紫

くだり給

ひしとき。貞信公は本

院

0

٢ お 0)

0 とと

かっ

2 消

謀

計 弟

1-1=

b T

とも

な

はず。

相 お

息

か

ょ

は

して。

隔

る 御心 菅丞

は とひと 御

右

大弁に

てお

はしけ

から

資物を備 ケ度

られ

けり。其故にや。九條殿御子孫

德三

年 0

1=

九

條 殿

右

大臣房舍をつくり。

3 也

迄

四

年

間。

御

18

作

b

改らる

事

度勅 風が 此 託 Ŧi. と示 相 神 年正 は 正文は外記局におさめられて今に侍り。 雖 忽驚 慮 達世の身也。 答 ふでに一少も遠ふ事なし。 、悦,仁恩覃 L 二位 なを 給 朝使披,荆棘。 0 it 太 神慮心よか け 政 3 遂窟。 大 8 小 臣を贈り奉 是 けるにや。一の絶 野道 1= 官品高 但羞。存沒。左 らずと群議 てぞ一誠 風 は 我 弘法 加拜。威 ٤ られける。 順 是 大師 111 何の あ え 遷名 0) 侍 りて 0 成 身 る。 菅丞 共 な

h

1 度

圓融院 と虫のくひたる跡有。是をみれば卅一字あり。 きて、 V 3 まで くるとも又 七ケ 0 御字。真元元 あした参り見けれは。上にあさく の時。番匠うら板にか 年 のうち もやけなん菅原や に。三度 年 より 天元 つまで んなか 内裏 五 年 交燒亡有 きみ 1: b 72

給 B

ふとぞ

覺侍

さず。斯念頃

に契 智

をむすびて。殊に

御

一家

をま しま

りはごくみ給ふゆへに。

かの御子孫繁昌

昨為"北闕被,悲士。 今作"西都雪,耻尸。 生恨 死歡 其我奈。 今須"望足護"皇基。 とぞちかひまし (~) けるとうけ給はる。 女長門院の 后宮にて おはしましけるとき。女とぞちかひまし (~) けるを あしざまに いは れける。 女房北野の社に こもりて歌を よみてまいる。女房北野の社に こもりて歌を よみてまいる。女房北野の社に こもりて歌を よみてまいる。女房北野の社に こもりて歌を よみてまいる。

て鳥羽院の御前にてくるひける。 おもひきやなき名たつりむが。手づからいだきとよみたり ければ。其日 やがてしきしまといあら人神になりしむかしを

らずおもひて。北野の社に籠て斯ぞ讀ける。

うとき人おはしき。ある女房。

かの僧は女心有

を鳥

羽院

讒言中たりけるを。

阿闍

梨安

の祭も村上の御時より初りて。公家の

治部卿通俊

の子に世尊寺の阿闍梨仁俊とてた

申などして命いきたりけり。か ら御前を通りける程に。其牛俄にたふ むひかれ。其上に種々の祿をぞたまひける。 て参たりければ。護身をしたまふ程にやが ければ。院宣にて北野へ一仁俊を、召につか そら言いひつ けたる むくひよ といひくるひ とよみたりけるとき。かの女房くれなる かずへつくすべからず。只少を書願す つきて一二年なやみけり。さて北野にたい状 て死ぬ。阿闍梨かちより迯にけれども。頓 西京の旅所におはしましける時。車に乘 仁和寺に阿闍梨何某といふもの有けり。 さめにけり。仁俊にはうす墨とい かまばかりをきて。手に錫杖をふりて。仁俊に あは れとも神かみならは 人こそ人のみちはたつとも おもふらん やうの ふ御馬をな 也。八 \$2 北野 ふし は 行病 なが のは T

骸式希代なり。 として大藏省のつとめとせり。神威嚴重なり。

延人二 うつ 程 ひ きび L 生極 此 , (な 終 西 を蒙りて 5 夜祈請 念と 式希 が 3 申 H تع 正 樂の定 ける b 月熊野名智山 ٤ 12 お 此曉 l. 申者 年 < 申 S ·九月 侍 夜の夢に。 は 曉。 す 12 北 汝 まどろみ 年 日 3 b 0) 西念すでに年來の・望 3 野 から 師 4 Ŧi. L 霜 13 事 0) カコ 申 0 匠 十計 づ 有 頃。 ず。 かば。 宮 所 さえ P と賴 \$2 1= ٤ 1= け T 0 仁和 御 御 参て 0 にて て。 b 侍 徃 申 參 72 戶 殿 頓 日 生の らてが あ 2 け を 3 7 人 寺 ょ 北 Ł 百日 參詣 だか ひ 3 僧をよび h Þ 1= 野 1= 日。我心 けるほどに。 あ اتا 池上と云所 直 籠 B して 申べ 夢 百 衣 臨 かっ L 日 0) しと示 終 3 なひて候 祈 には てなく 籠 袖 B T Œ ば あ b T 念徃 侍 九 終 B かっ 無 か 1= B す 現 仰 波 13 + 3 曾 H 僧 h

> りるみち ば徃 ども。 く出 n H 3 てとぐ なく念佛 ば の朝を待べし。 T にけり。 生 出 思 50 して。 は 紫雲空に V でし念頃也。來年二月の 事 すべ B 0 難 此 す 汝が望申 ごとく し き事 しと仰 僧次の į, 4 なな か 臨 かっ 0 られ b 終正 年の ほ 成 び 共 人 72 3 きて 0 念に É 伴 とか 臨 お P 終 心 B 徃 0) L H 3 生を U 彼 からず 12 て。 尋 雁 L 岸 b b 行 緣 智 こぞ途 R 7 す 0) T 3 香 な 結 Ł 3 2 H 12 主 < 願 け 1: H な 43 2);

ば 人 F 承 見 か b の家保有記二 か せ L お りに 給 2/ L とこ契 一年の頃 < けり。女子二人持 £ て同 思 な ٤ 7 此 b にや。 煩 夫 置 な 子 V 共 15 L < けるに。 西 4 0) 返 を忌 七 す あ 1 て侍 條 申 6 此 1= \$2 T 0 T 申 b まづ は か 子 。幾程な 置 けり。 共を念頃 カコ 也 H L 程 る様。 < 3 -|-\$ 成 銅 < 几 母 1-あ + 細 17 10 な J.

られける。凡天神に心ざしをいたし。歩をはこ 聞て。頓てとりておきて妻にしてけり。妹は宮 磨守有忠おどろきて。姉を呼寄て 此故をとひ 養報恩をもせぬ身ならば。命をめせと申けり。 妹北野に参りて籠りけり。晝夜涙をながして。 3 のならひにて。此娘をあながちににくみけり。 ばんともがらは。いか成のぞ みかむなしかる 天神たすけさせ給へと愁申て。 失にし 毋に孝 四五日物もくはせずして命をたくんとぞしけ なんまう けたりけり。今もむかしも なさぬ中 りて。感應ありて。我守りはぐくむべしとぞ仰 づかへせさせ けるほどに。宮うはまい らせて 去程に御託宣 あらたにて。参籠し たりける播 ける。御託宣にも孝養の心ざしふかきに でたくさかへて。父母の 孝養思ふ さまにぞ 此機母がけしきをうらめしくおもひて。姉

> けり。 一次の個別生によりて。往生の素懐をとばに ないのおもひに住して。往生の素懐をとばに ないのおもひに住して。後は出家し侍り。 で思ひのおもひに住して。後は出家し侍り。 で思ひのおもひに住して。後は出家し侍り。

「初ニ清凉殿ニ落雷ノ圖アリ 忠韶明治十八年一月十六日以青木万藏藏本一校了中卷ノ椴城錄比挍了

まね 受衣 の比 神 ことをしらず。 ほ 霜 はりすべて有べからずといはむ事。その しとさだめむ事はどかりおほし。又このこと ろかなる 身の たにつけて かひを ことにせること。 はるかなる 八重 まともろこしの 日無進和 ある 給けむこと。 ぢを へだて 多 きぬ かっ まで しましく を半ば さね ~ 尚徑山に 住し給ける時。 を し。聖神仙昇 うたが 72 か かり また く。雲の濤煙 り。またから國わが あさき心にては。さること有べ 凡 ぞふるに。一も 傳記にかきのせぬ事なるを。を けるよし申傳 情 日日 ひ か 15 ā) T しこに 本の菅丞相と名の おし b 0 ねべき事ぞかし。 後 の浪いく 千里と云 は かた よ くち b かっ たり。此事 らば。 北野 to 無準の 日 あまりの星 を :の本 天滿 かたが あ りて。 谷を のし 在 6 0) は 3 世 R 天

なづけて。光かくれさせ給し もさらなり。 て。少林のおく曹溪の源まで深くたづね 蘿の洞に住かへさせまします事 くら 有べからず。たとひ慥なる記文なくとも。 有べからず。たとひ慥なる記文なくとも。したらざらむ。不生不滅のうちに。又古往今來の別 り。普門示現の應化いづくか 聖神は觀 たてられてうつり住ましくし に異竹のふしみの里とかや。代 てうたがひをなすべからざることにや。 をやはらげてしばらく閻浮の塵に 万刧の轉變又即今のうちをいです。 めさせ給ふふた代 ね。ちか比又字多花山の ふかき御跡 は あを あ れど。一心法界に遠近のへだ 自 さらせ給て。紫の雲 在の 靈應にまし かの 仙 0) 洞 御事 1= ひきはなれ 0 カ・ ませば。本覺 圓通 後より 0 なの 12 じけ 1: たび 所を滅 18 の境界 変り 御 て。 てなし。 にも いはむ 御 Ti 門お かっ 2 阿徒 الح 12 光 3 3 守を こえ りの の光 花 きは 13 13 き む 1) 1 む

卷第十九 兩聖記

記

過て。 天神に 塔 夢に露かはる事なし。其後應永元年の 書にくは なひて にまみえたてまつりけり。時"天神道賢を 5 お りて芳野 道賢とい に。虚空に聲ありて。是なむ北野 なる貴人立給へり。誰ならんとお になむお おこなひ給 門 に義冠盛服して、繪にかける あ はきなる 宿 0 り。塔に法 わが お 僧忠菴のかたより天神無準に受衣し 自 ふ僧。行力勇猛の 功によ はしますといふとみえけ はす。明徳の比。同伴の僧月溪の夢に。 の藏王權現ならびに北野の天滿天神 しくのせたり。其所の莊嚴 馬に めり。 嶋 すみ のみことの のせ給て。飛が 一華の の中に一 か 今の 所をみせさせ給 妙 幽林主翁 典を安置 の壇あり。 h をた でとく す。 唐人の ごとく から すなはち共 の天滿大自 り。天 b もふところ その 壇の上に寳 へず。まも ける事。古 の有様 數 冥助をか 慶 百 かっ 附 の昔 12 里 給 月 0 to 3 在 は 人 h

人々。此事どもを傳きして。 誠をつくされけ の土地神に勸請し奉りて。朝夕の燒香供養。 溪は夢にみる。塔婆法華これをなし。又もとめ 華を安じて 本尊とす。 道賢はうつ 林 みえ奉る 事日淺 のべてあつめて一軸をなせり。 しけるに。近邊閑居の僧どももをの こそと。信心いよく~深きによりて。當菴永代 とへに祖宗をまもり れけるは。 がふことなし。いと不思議なることになん。幽 月 べき神慮にや。縁遇時 ざるに彼眞影 こくに 降臨 け 感歎の 溪これをみるに夢に見奉りし儀貌 3 御姿 ž あまり。つらく、是を思ひ 此菴もとより實塔をたて 圖 ·L ·b しといへども。 たる形象とて カコ いたり。 法道 0 仙 しまします。これ を 洞 和 1= 歌 機感相應す たすけまし 级 年を忘る を詠 つかふまつ 林 幽 めぐら 衣冠に 〈志 じて法 本 林 拜し 中 12 ま 3 á, 劉 78 月 0 法

き。無事とやいはむ。なんぞたゞ此兩聖相見の 色々様々にかきをき言傳へたる事。たべ名字 端しるしつけむやとの嚴命のがれがたきによ 準いかなる人ぞ。聖神いづくにかいます。おな 事につきて。はじめて具偽の蹤迹を論ぜむ。 のみ有て實躰なし。はたして有こととやすべ 川草木もみな 是幻化なり。九流百家 四章五明 につきてみれば。佛なし衆生なし。天地日月 歴然として目前をはなるく事なし。無といふ はり。蓋をかたぶけてふかきがごとし。歌をゑ し。若しからずば祖師をそしり。神明を慢ずる の落處をしらば。すなはち兩聖の眞躰を知べ じとやいはむ。ことなりとやいはむ。もし有無 りみれば。古あり今あり。我あり人あり。万象 のことはり有無のふたつをいでず。有と云よ りて。蕪詞をつらねてやむことをえず。抑天下 いじたまふ。しかのみ ならず事の おこりを一 山 無

> 答。いかでかこれをまぬかるべきにや。 **靈意に冥合して。又は幽林皈敬の** きかむ人こくにおきて旨を得ば。聖神傳衣 する事なるべしといふことしかり。 神よなを法をまもりて傳へけり ねかふへき佛の道 うき世のみとや人のみ 三の衣の恨み残すな もすつる 身 るらん To 本意 に辜節 此 리 0 空

神もなを天滿光さしそへて こくに北野の影うつすらん こくに北野の影うつすらん

右兩聖記以扶桑拾葉集按合了

菅神 宋授衣記

天 神 護 滿 Ш 天 光 神 以 明藏神 徑山傳授之僧伽梨,安置 寺.流記 西 都靈岩

訴。 七 慧 見。聖一 Ш 歸 見 同 禎 伽 福 湛 朝。 年 徑 日 年臘月十八 元年乙 卽 梨云 惠禪 ılı 禪 四十。是年 ili 以一仁治二年辛丑四 以其夜 寺 東 佛 國 之額。 師 福 鑑禪 々。 師 往 四月。當。于宋 寺第 日 問 H 七月 師 與,,聖一國師,之眞蹟也。額者即佛鑑禪師自書。以屬 之約一遷,宰府。橫嶽 親 禪。尊神昇天後三百卅九 徑山。參得佛鑑禪 世聖 旦達。 天滿天神新入,崇 侍巾 博多。 月廿日。 瓶是 國 理宗端 師 十師 則 同 四歲三 平 日 餅 月 据 二年 本 不違。 師 入大宋 開堂演 福方丈。 動賜 佛鑑禪 四 國師屢示 親傳東 條院 也 横 萬 法 師 國 因 岳 後 年. 嘉

密記云。 特 佛 杭 鑑圓 州 臨 照 安 禪 府 師 徑 Ш 諱 興 師 聖 範 萬壽禪寺 字無準。 第卅 朝天 兀

> 枝梅於禪師 是何人乎。神人無語。唯指』庭上 未,明。 人。隻手擎。一枝梅花。 之夕無,此草。今之旦爲,甚極,生之平。 日。茆者菅也 見,丈室庭上。有一 前 即知扶桑菅姓之神也。 胡胡 跪有一 神 突然出 首和 叢之茆 來矣。 歌。 草。禪 日 **茆草。禪** 禪 神 師 于 師 問 時 師忽謂 自 是 有 謂 汝 神 昨

忽謂。 普。 天下 紋 僧 梅花 伽梨,示一 禀,禪師之密旨。觀 主 扶桑文字祖。這箇 偈。偈 日 M 悟解。 正 禪 法眼。雲門 師 即付 梅 花 日

唐衣。不、織

而

北

野之。

也

袖

爾

為

持

核

枝

神人 是則 十月 親傳 手 裡 授。何 日 宋 梅 親 望 也 淳 花 頂拜 頂 祐 用 奪 伽 上囊。 元 神 僧伽梨幷證 梨傳 時 年。 現 R 』承天禪寺丈室裡。拈出 授 仰 而 不,雕,安樂,現,南方。 之後。 日 被 本 偈了 仁治 龜山 、又獻 院文 年 永 辛 偈,曰 11: 徑山 年 + 徑 Ш 衣 辛 法 月 未

偶 按 罅隙 矣。 存 矣。 燭 士。遠 數 爲 下 欽 念 夢 爾 願 現 子 於四 應 大和 赴 衣 也。不可 謝 珠 重 世 形 卽 卽 袋 永 得 擇 唱龍 T 於 佐 和 日 Ŋ 共 門設 百串 + 尙 mi 此 為 部 和 世 再 神 尚 〈夕天神 N 七年庚 淨 像 課 木 尚 復 設 見 峰 昨 和 覺後 敢 記。云。 課。富家自 室 前 特坐於中央。一 京 矣。 夢 तिति 之頂宗。求之必得,所謀 1 尙 中。裏巾 大 謝 極 隆 日 叉夢 M 巡 目。 子 im 則指 賀州 富家之法 子。 之福 符而 宋。 流 求 蓋 我 儞 E 11: 遠 齋 此 親 深 居 옏 所 思 奇幅 本 昌 :::第 近 像 入 惟 極 法 參 求 相 禪刹 請 佛 記 子之 詩 馬 施 H 非 國 佛 îllî 施 惟 1 鑑之室 和 미 武 東 胃 淵 船 難也。 近 那 袖 純 世 TIES ! 省 尚 之底 華岳之所 THE STATE OF 藏 指 H 圖 而 IIII 和 和 之日 抓 11: 入夏後 師 illi 承 III 尙 當 也。 馬 尚 则。 法 人 ÉVE 油巾 天 自 今 一岩石 求 自 JĮ. 700 12 何! 梅 137 指 以 歸 可 如 76 水 老 万 Ifri 林 也 杂 部 也 服 上 nill1 H Gifi 前 此 H 源

賛。故 傳衣。 邂逅。 像 間。翌 宣主。 來請。佛光。 雲庵。話次及天神事跡。愚極細說、來由。 光院故一色七周忌辰齋。愚極亦來。煎點 心椿庭和 也。宣鷲曰。昨日得,天神像。便命,侍僧一取來展 疑 有道之士也。 所載。又曰。 肘懸,小袋,曰。 與江 心。文安三年丙寅五月十五日。予赴。 則圖 H . 肖翁有"此論。又先、是人傳。天龍冉山徒 蓋此時甲斐武田圖, 天神像。水, 洛下 因說 自,筑紫,送,天神畫像,未,遑,披見,投,之壁 或以爲。妄誕。然佛 醫僧真知客 西等諸老|對談。 「樣如」真所,說。 尙 作、賛、 逐來,于此 此事云々。 福聖乃石屋 行化到。勢州。 我参無準 因述 冰話。 方。由來天神參、無準。 。二人稱歎不足。 之或 。肖目。 此事焉。 道場也。 光 受衣云々。 某夢。天神 使"人畫"其像"自筆項目。無準禪師與"管神 興 遍 北 師 吾同門禮 室 野 爾來人多設此 石屋弟 中 天 袖插 不知何謂 神參無準 旣而 長藏 如此 龍憩 子鑑 南 梅 禪慈 諸 叉 神君 上村費見 語 瑞 普 師 何 即

神祇部二十

は毛此仁來住し始皆納置 給不。良種等申久。何處が候以常答仰給久。我物日像サメ作なる労は我か昔持以有り。其な合」取と仰留童仁託天宣久。我レ可」云事有り。良種等聞か。我 是皆筑紫與我力共爾來的者とこれ若宮ノ前 人有り。 刀尺鏡なと有り。我力從者爾老松 富部と云っ者 天曆元 支所爾地下三尺許入天有り。此二人乃やつと 國比 甚不調乃者と『心つかひせよ。我力居な左 宮託宣記 笏者老 良宮仁禰宜神良種か男太郎 年十三月十二日酉時天滿天神託 等申久。何處爾候良幸答仰 松爾持也。佛舍利者富部爾合、持 1) 佛舍利玉帶銀造ノ太 九年七歲 爾小 宣記。 物具 t か 3/

行る。 右 令」踏殺一年。惡瘡不吉物は有る。汝等毛我力為爾 り。疫癘之事於行心宣は。此我類なな所々二使爾 帝釋毛一向爾任給け。其故は。不信乃者世爾多り成 五 天爾滿け。諸乃雷神鬼以皆我加從類と成天。物十 松、我像の物也。我心瞋恚乃身と成け。其瞋恚の畑 に。夢爾。松身爾生天。即折ねを見る。流へき相り。 也。是茶至所にと松乃種は蒔久。我昔大臣と在し 無久有けい不と告に有いる老松は人我に隨天成 に置れ。不言と思毛笏七依 千爾成け。只我所行乃事は 今は只不信爾有牟人な雷公電公等爾 天云フ。此 世界乃災難乃事 年來者像 るか it

独にっる 紫爾 **悲**彌 シ。此所 界 花 ılı 歸 ケ救比。 生 論 y A 依はれ 議を 有 所也 はな 15 9 伊 侘 散 如 有 1) 敵 と善し。 風 2 0 槐 3/ 介為 3 我 人 我 は漸 悲不 前 暫 林乃枝 久慮 何 宮 賀 於 は開 之地 0 刀 仁。 天 の無々成け。今 沈 乃體 茂 大 発 朝 自 入濱。 カ 常 外 災サ 損 八 りた 生 餘 我 P 九 乃災 葉 1= った なな 11 At 幡 加 ル天 攀天 背 乃 近 佛 與 青 者 南 9 見 、年と須 比叡 神 爾遇年 邊 天 ٤ 落 Ш 我 松 大 ハた 者。 一韻を作 達 、糺ス身 加 は開更ニ > 宮 思 る 納 垣 雷 毛 毛な か 秋 仰 少の有 何 心 回 白 常來 ٤ 人。 青 今年 天願 0 起ル 天教を耳ッ 常爾坐 乃 砂 波 一宍鳥 ャナ 夕。 山 ٤ 惣 尚 禮 加 坐り。か久禮 生 =/ 。皆人ハ 造 る。 齒 地 天 > 月 靈 加 樣者。 殺 と願 侘 L 其は我 我 會 ソゥ = 久云 1 地 倉爾音の 敷 給 iv 悲牟 明 我 ٤ 喜き。 たし 命終 り。背 ソフ めな n 可 如思 計 賀茂 思 3 ッせっし 者 月 風 加 云 ヤツ フ。 無 天 甚 凉 はか Lite 樂と y バニ 切 也 為 高 當 筑 世 嗔 毛 便 成 助 面 個 *

毎 むたな 勤天。 天 有 出 茂 送 心 幡 ナ っ ル 事 利太 右 燒 0 角乃邊和。ま 時 ル人 拂 天 耳 下 者を 但 近 八 事 シタッリ 彼 か 4天 祈 幡 吹世。佐良波。 し。津 0 至 0 云。 八代仁此 事 叉 馬 爾 願 云 留禮 ミとソノ 小童 被 天。 庭ソコ し人乃 ソヲコ 天 所 むなな多 事 良 其罪 **心障天還** 祈 バに 下 事べと 支 我 可 若、坊城 部 邊爾 可 るめ 钢 興宴乃地 有 等 人一人ツ有 思叶 惣 毛 申 व 何 生 立 ハた 天深 法 云へ。 D 何爾喜るのカラ 世 止 有 0 不 田中め 松。 花 間 神 的云 來 るた 屑 テシ 事 0 りな 30 毛。我な 我 れなな 良 共 A 邊 °vj 1 毛。近 りさ 昧 自 000 此 去 や。筑 仰 種 我 仍天 中 b れ爾 堂 ず立依 在 界 1: 汝 彼乃 3/ 我 申 4 チ n 0 給 月 衣 天 可 = 等 久。 紫爾 有 身た成 立 有 大事 合了 申 此 押 慿 馬 とへ 己か ,, 毛と 1 3 乃堂 L 何 ヤ天 し伏 我 4 庭 若 事 不 ٨ 間 乃邊 ス。 0 申 = 身 居 毛と 向 はか 因緣 法の とまし 給 我 乃 事 所 10 守 酮 公 ハカ 9 Ŀ 世 V 有 宣 事 灯 移 蠳 焼 V 何 24 = 天ム 居 分 回 思 毛と N ŀ 加

童覺か。仍見聞ノ人々相共爾記、之。 聞 人六人皆在"署名" 禰宜 神 主章 神 浦 良 行 種

見

永觀 脩 念佛讀經。 子 一託宣目 可、求、賢不、用, 善 ĺЦ 二年申 二件僧 。遞以 此 年六 等一个。5 天動地 出 我此 六 月 、無法威。仍以 月 计 。黄昏 砌下。 计 本心 九 感。 述陳之。而 九 H 日中戊 何况 錫杖之音。 御託 月來之間。 之故 辰時。 我 宣。 三摩耶 及眷屬。 愚昧女,輕々分言 以 H 兩 夜 三僧侶 禰 形是皆 九有其 懺 宜 旅 取筆 釋 和 原 益 長

是依。 然而 多送 朝臣。 外 等。 放 時 世 當 存 有 成 次 思,家文殿書等被,空 人。皆以短 寶。今光明 之間 無隔 後世之大 任。暫停。 々在 我 信 妙 丽 切々祈念云。子々孫々家業 我 之日。 乎。 偽 心 目 H 厭 不可 廻 依 躬輔 、大貮 月。 術 稱 漸 為公無 ·於三界。常住 也。 命。 大臣 經 、願皆 發造塔寫經 皇城 我幷子孫 他 勅宣。召。陰陽 Œ 、絕之術。 朝臣 數 事 又次々孫 朝家豈可、然乎。故高视淳茂 介 時 八方。 成 代 -早 憲法。 兼 相 4 生 逐 遞難 相 永絕 一般事 卿 續 随分相 式 占 所 々世々之因 此 之大 大瓜 事 光卿 部 々不、高 者濟 願。致 介途 Ш 不可 相 察官人。宛 大 知數。 願 朝臣 野 小。納言 輔 構 间 度 。合力之人 我 不 。官位。家貧才乏。 這淳茂 衆 2]; 我 厭 被 内 昔日 深 果 加 續 1: 又 が 定 指 断云々。 外 廻 全熟 護 界 希 之山 登省 坝 給種 國卿。菅根 洪末 依 謀 也 有 11 姓 沿 名 389 介 神 為 毎 及 我 (朝臣 雜 我 採 此 12 1 3 現 第 珍 為

注之。我欲示一

事云

々。我家子孫。遠近有人員。

也

寺家別當

何

皇城幷 家定 賤靈 之甚 文書皆燒失。不可,傳,後代,之詔明白。 其譴。改,元為,延 被勘 執。常 昔自,少年時,有,入唐之心。出身之後 唐長安城弁 相 依 隨 往詣帝 座. 我 所也 語。遲怠之間。昇,大臣官。已以不、遂。依,彼 」有"本意"早欲"渡海"而副使長谷雄 身伴黨十六万八千八 憲。 界皆悉集來。但無,理含,恨之輩。專不,相共。 不得其 別組之。 在 當 』唐家。抑我是蒙攝政之詔。成功之身。 釋 何無其賞。只贈,一階,大山之上。如,加 已負"無實事,之後。帝釋宮召"鎭國 彼韶作人事旨不、快。仍又天罸畢。思、人 觀 宮 府及諸 隨 音 西明寺。青龍寺。新羅國祥武城 心 閻羅王 卽 批 長之日。授,右大臣官、彼左 種 被贈、太政大臣 國。 藏 々災變面々 74 所 宮。自在天宮。 躰 々歸依 百餘人。惣含、恨背 菩薩 源 出來。 占別宮等, E 來 五天竺國 化度。 一位。今為 朝 被,任,大 公家 是依 臣。 我每 不堪 、世。貴 也 聊 朋 神。 有 使 朝 本

其勤。 異。 事 宮 卽 别 、去,帝釋宮,愁緒難、斷。 昌泰二年正月三日。行 後 下畢。是極 大臣見"氣色。出 Þ 朱雀院。太上 層。而伴類 云々。仍所、示也。我每 可、無例賞、云~。依、有,先蹤,也。已無, 糺、事 日。 事。人成,奇性,歟。可,上,詩。題以, 被,仰,天下之政 各給。御 被下畢。俄獻詩。 々叉不 。成人之後奉、授、諱名敦仁兩字。爲,皇太子 帝初 依,有,次第。任,權 m 南 衣。 產 不便有,大怨,軟云《議定云。有 中所成。 讓位之後。 Ш 生給 皇與,今上,合、额言談。召、我甚密 乘 隱者等皆大恠各云々。定無罪 · 陣外。我 A 時。一 汝獨可 驚性。 此日例祿之上。 爲 向。皇城。 、公常以嘲弄。令、致、大 大夫。然而 時不、去。 返奏曰。上在,左臣,先詔 向叉同。 榮耀 ',奏下,改,先詔 無 焼亡度々。 延喜 بالأ 男女之役 有別朝。 春生柳眼 左臣 兩帝皇幷后 御後皇胤 如 。 我 氯 召 何。左 獨 16

喜之由。 歡悅。 依一 云 而 用心。不到慎 、告,大貳。 年來法花 今不,怠。子孫不,絕只依,此誠, 力得。改作,乎。氏中可,有,定。十月十七日 早 A 所 臣 兵 可諷諫 な。 無益。 名美。 行 舘 1: 可』紀行。是大府不」可。緩怠。吉祥院事。誰人 云 中所集之凶黨惡群。不可。勝計。件不善輩 國圖 多介 味 涓 安 行 々。甚可』恐怖。似、無、惣府。何不。礼行, 乎。達 是已犯人也。 也。若不、隨制 又々仰云。不,他筆,自書。可,告。大貳 不可被露 十講會。先祖代々思所。 一昨日 成。他境務。各所謀 成 門只以信為 公損。 大功人也。彼後胤尤可、賞之由 夕 大性 郁 此 得。住國之身。作成長之 ir 聞 勤 本者 修諸僧。 國 早可言上也。忠信 此 Til Hi 計。已 也。 1 Ϊij 路 恢 皆以隨喜。三寶 可介 至。于公 此寺傳。彼 似 國 謀反。所 又 々不 府何 知我歌 悔過 111 風 前。 मि 于 批 便。

本。延久六年二月一日。以。安樂寺別當閣梨

卷

筆本也。 寫 畢 茂才公輔本也 本 燒 、失之故 也 坊 門大 輔 殿 御 自

乃戶 爾。雷公大鳴天。降雨 前 禰 正曆三年 雷乃響振地布。 洞 H 以天御託宣乃旨ゅ分、記年。其仰爾。我家之末 燈等、戶外御簾乃前爾合、奉、供。同三日乃夜牛 以汝傳仰作事有八不,罷 宜藤 法 朝臣乃大貳 開 師 行奈。其間 2 尹仰 爾仰 原 須。今曉 寅時計乃夢中仁。廟君乃仰 宮 十二月四 寺司等可、召者。 示法。是《吾心非》 爾 師 子。今月 解任シャ 天 等 奇恠饰畏不,可,勝計。 御殿、不開 如仰 **懲**奇布。其後 日御託 時爾。公家為一分,申爾。種 如、泛志。其間 早旦七申云。 爾 御殿を不り開 去、天可、候志。但 宣 即大宮司安倍近 天可、候者。仍宮師 一。山々乃隱者賢 寅 (時計 依例 電光如日爾 天例御供 然問 爾 天昨夜 爾 我 爾御 仁云。 宜長 孫 忠 輔 御 殿 チ 志

遙界なけ 等乃 信なるな 想像 出 在一厨 輔 後毛猶有,其志。仍天有,加護。此人乃作詩乃中 意。玉井名合志乃庄等事と。其志有者だり。又歸門生也。肥後國乃司と有志問爾。爲、寺爾頓有。 塔ヶ造立天。千部 而 朱雀院乃行幸乃日事等系 所、示乃隱者等乃所 乃時爾奉幣志。東舞等习奉供以。尤有。信心 彼朝臣乃不 善無量也。 :左右爾思慮天。遂爾不,奏聞,是八彼朝臣乃己 E 天。御前爾進留。 一子中 朝臣乃寺 別當松壽爾寄於以八韻乃詩ノ和 所,申之事并爾 志。 詞尤可、憐志。何况皆乃事,有、心矣人,可 然而為 我常爾昔,思仁。其心不、安寸。抑先年爾 Ŋ 國 信 土ヲ鎮護志。砂界 可。永進,志者。仍天忽爾分,手天搜 不、勘也。右 乃法花 刨 大寬 申い。昌泰三年乃事 冷,讀天聞食天。父子相分テ隔 封戶 等事し。其志有者より。又歸京 經尹書寫天安置 志時爾。我 年分 大 辨惟 →利益寸。此仁依天 可 寺 被被 仲朝臣 爾一基乃多 加 木事 供養ル 乃元首 小我家乃 11 用 求 其 Ħ

左右

兩大臣ヲ以テ共の

智量

省

能 書

Til Port. 7 ブ 詩題サ

可

進者。

群臣 チ

酮

被 用と奏

爾奏爾。

猶 奏云。

1

藺

可被

畢

旨

是なり臣下七分知墨。

仍

仰

留。即

極天不便留事的。

出 天。 主 時

ツ。氣色チ

見爾太

留

似け。余 召天

西行 15 チ

75

左

[II]

通

75 政

上下密談 乃政ラ分、知

給

天。一人ラ欲

が。世

人乃云々

忽余サ召天。

依

世乃政

サ行 有。

テ。官 改

外記

0

遷

乃事 彼 依

天下

騷動寸。左遷

而

事

毛誰

知

乎。

我 悉 IE.

入波

乃後爾。

程 旨

ラ不

亡志。子 畢

孫各

毀。舊

天

皆 死

> 其 雜

> 事 事

爾

同

對

面

天。具古

事ヲ奏する

事き被ら宣

韶

而

彼隱者等

申

答

國

乃

風

た誰

天滿宮託宣記

HE

12 水

细

版印 給

都

主大

聖

有志者。 ショ時ニ 由サ可 致京文管國 捨失り、大不、足、言ふ。自爾天譴軍當留。是不信乃所 爾示寸。家門一問幾風煙。筆硯拋來九十年。我仰, 有志。向後在必出來歟。我致"助成」之。某朝臣 に難、會志。我家 蒼天,懷,古事。朝々暮々 淚連 政乃 在所。申 然而 反反 進 拭淚。又 」告示,者等。寺僧等毛此心ラ 時爾在國朝 爾 彼 。他乃善事,先營志間爾。任秩已暮,不、成 一木事原。各所,訴 御託宣乃旨如此。仍注記 誦留 請 朝臣大貳乃有、闕牟時爾。 乃司等乃所 一乃條々乃雜事言上。府解文等。 事有り。我今懐一 一切經論欲。今。書寫 末葉乃 臣爾付多。而其心爾不入多 い。府國 此願,可、途木人。 - 愁歎 一个。每年爾給米 々。寺僧等拳之。 万煩 絕 必望サ可 句 可 一爾。道心乃人 存志。 天。寺僧等 此 忽以難 事 ル成 入 爾 叉 下 等 道 此 向 口 木

四

年

御

託 宣

宮 師 司安倍 法 師 淨 洞 忠

> 此 通 又大輔殿御自筆也 生土大

別當

大 大

法 法 法 法 法 那

師 飾 師 師 師

松壽

校 座

昇

上

大

廉 運

我他 雜 仍參上。卽被如云。 所 正。同 本意。依非" 香麗 之 子丑 答云 非,可,仰者。同十六日夜。座主松壽大法 行之由。左右不可,相定。佐、無面 四時 間。子時許夢。御前へ召。故撿挍鎮延大 年八月 十五 一時計夢。 誰人仰事乎。 例。更不可,承引。件使來者。 。見不、知之人來告 依,贈官事,勅使下向者。 日。宮師 家主達 淨 被 洞 夢。 云 可參順 夜候! 目 所 世 分知 種 法 御 師

下 官 參入中 也 艺艺 向。其事 在躬朝臣。 三位 々。仍着 門 非 時 着座 一般沒 山城守雅規朝臣等也。告示云。公使 御 本意,寺司等不,可,承引,云々。然 左近 一经進。 四 位 中將 五位 廊內 英明朝臣。 數多也 外 有一十人。自西 其 勘 中 解 知 由 m 戶 之

御位記 勅弁答.勅使 御作,詩二首。 間

覺畢

正 位。

右 可贈正 位

主者 中 天督標秀。 之葉、乎。人文振、芳。雖、無、埋。英聲於龍門之土。 務 施行 。性比,柳下,位登 人名也 宜追責殊禮於鶴塚之塵。可依前件。 ,槐端。開,廊廟之華。累,儒 雅

IE 曆 四 年 五 月七日

沒 故右 夏、賢之義 大臣 贈正一位 無渝 平始終。倘 菅原朝臣。才高,冊 德之規已 貫手 府 効 存

> 事而 著順 分,思淚於 之仁,以厚。 於戲。 墓。布」告遐邇」俾、知"肸意。主者 **猶新** 堂。把 象品 之蹤隔 北關之宸波。將、照。寵光於西鎮之幽 追、遠之典。可、贈、從一位左大臣。焦 **股嗣膺資曆** ナレ 流 以涉 清海歷 信律。 而雖迫。 一 祗奉。容圖。 登三旌 施 华山 欲施 以 之灰 助 銀 育 想 往 道

官乎贈賜此崇賜布勅命た。差、使天中賜 は 天 食 皇 國 我 IE 勅 **企典於。故是以追天** 暦 命を聞坐と宣。 [][年 主 A 追往鈴 増一位ノ階左大臣

賢比。

11

は久宣。

示動 同 年同月廿日 使 被返去 大 臣 盲

命

同

74

SF.

思

忽驚 厚。邃 風手,云々。或本有1此詞等是件正文詩。今在1外記局。非 此 御作 朝使排荆棘。 窟。但羞 有』青紙書,隨風出矣。 勅 使幹正 存沒左遷名 官品 朝臣 高書寫本無之。 高 讀 加 宣宣 拜 即一絕。 命 威 之間 成 道 雖 自 悅 云フ。 珠

雅

大宰府解申言。上奇異事。

臣幹正。 青色紙 行事 者 倍近忠。件以位記,步進廟 函 1: 右 不知其所出。 一件宿 謹檢 置 ,刺使答云。 一權少監正六位上源朝臣兼政。少典正 樂寺菅丞相 ,案上,再拜。讀,宣命,畢。 爱彼廟院大宮司 仍記 書。 褲 。今月十九日到府 , 案內。贈官位勅使散位 而寺司及 如武等。 近忠申云。此書在 在 本自無,青紙書,者。物似, 狀 謹須。如此神異之文任、格密封言 言上 廟 相共參詣彼寺。 勅使持,位 勅使祗候 前案上詩 如、件。 同廿日未 前之間。案上函 謹解 宮人等。衆人 函外。是若漏 從五 枚暗 時。勅 位下萱 出來狀。 神 使 作詩。 共所 外 并 落 原 有 安 朝 歟

正曆四年八月廿八日

正六位上行大典刑部宿禰

中

飨

四

從五 正三 位上行少貮無筑前守 一位行皇后 宮 權 大 夫 兼 藤 大 原 貳 藤 原 朝 臣 佐 理

少貳以下府官等皆連署之。不、書、之。

候御 正曆四年 昨 切經 隱者等所、告。頗以相應。 別當相共可、參。其時驚恠召,所司等。參 他行、閉可、候者。仍所、候也。而今朝託 向 生 H , 合, 知, 其由。示, 絕句, 也。 被仰云。先日勅 為 勅 告壓主別當 北 贈 使 之願。我 :前,彼日申云。今曉示現始。自, 今日, 是壓主別當.云。禰宜藤原長子。自,去十 可讀 闕 歡 太政大 十一月 其 被悲 宣 玄孫等早申,公家。可 臣 命。唯以 使。 十六日卯時。 之後託宣。同五年十二月 依有所思。 今作,西都雪,耻尸。 此 。定者所、聞哉 至于此 詩 足 可答,動 廟院 度勒使,者。 我已 逐 宮 不快 宣云。 。彼書 使 本 帥 河向 淨 寫 專 廟 南 洞 不 削 來

七度分。守護、誓給云々。

少權學生 權府掌依末

被奉 位之使。十六日可。到來一之由南山隱等有、被告 六日。刺使參到讀 、之。其間依、有、可。仰云。所、介、候也告。 原長子於廟內殿中。曾不,令、出,戶外。令、仰云。 後有。託宣一矣。先是同年月十二日。召入禰宜 正曆四年十二月。朝家差。使散位菅原朝臣 介書詞 "安樂寺" 是贈"靈廟於太政大臣,也" 宣命之 也 ,宣命,之間。以,別當僧松壽 于時 及 為理。 所 -|-旅

昨為北闕被悉士。見上。

卷

菅家御傳記

見宿 野見宿 慕 是時古風尚 御字崇神天皇御世。 滅 鳥 上出雲上部人等。取,埴以 地。悉賜之。仍留住焉。 學足相蹶。則野見宿禰蹈穀蹶速。 百此 夷鳥命十二世孫 于 在 命 埋立生人。是不良也。 照命。出 ,杵築神 神 殉奈之為,行。 天照大神 存。喪葬無節。 當麻蹶速, 令, 捅, 力。二人相對立。 散 向 天降 位 珠城宮御宇垂仁。 從 鴻漏 于出 之子天穂 Ŧī. 勅定,出雲國造, 位 野見宿 於是皇后日 雲國 **渟命**。 Ŀ 豈得,傳,後葉,乎。願喚 造作人形。以是土 一菅原 天皇神 H 矣。從、天將來神 命飯 稱奏曰。 命。 陣 子入 天皇御世。 °根 經謹 故奪, 蹶速之 帥 襟有。悲 葉酢 磯 · 其子天夷 夫君 城 勘 媛 瑞 作 傷 命 喚 子 王 籬 物 野 日 陵 各 宮

也。 稱主,喪葬之事。 皇太子天皇。詔充,陵戶。雜守之城宮。葬,菅原伏見山陵。今菅原御立、土部臣野見 世。 見宿 土部 焉 下 葉酢媛命狹城墓。今狹城盾列是 喜 更 之日。 一个日 改』土部臣,賜 爾冰上部 福三世 生 職。因改 天皇厚賞,野見宿 。自一个以後。陵墓必樹,是土 人。 汝便儀寔洽" 朕心。 樹 孫 氏 本氏 身臣。 萬葉居 ("謂"土部臣"其後天皇崩" 部連 難波高 爾之功。 姓 菅原伏見邑, 津 則 葉之法 宮 以上 其 亦賜殿 御字 土 一物始 物謂 物。無 則 仁德 士 地 埴 立 部 天皇 天 即 傷 輪。 于 于 皇 珠 御 179 罕 日 大

宮御字 土部宿! 部 御 土部連身 字天武。 連 賜 光仁。天皇天應元年六月上狀。 禰甥 姓日 天皇。天下萬姓 臣七世孫。 四 世孫 宿禰。 遠江 大唐學生甥。 介從五位 改定八等 飛鳥淨御 下 之日 望請 古人。 改 4 原 城 抽

名。改。土部

為。菅原姓。

錄。 右 菅原本系帳 H 本書 紀 所 續 日 木 紀。 氏 族 志 抄。 新 撰 姓 氏

授 伴 刑 贈 [ii] 貞 和 部 ĪE 九 日 觀 歌 氏 JF. 卿是善古 及 六位 79 也 年 位菅原 IE 第 年 月 四 下。家記 文章 £ 月 好學。 |從三位。清公長男曰;是善。 太政 日 + 此 生 為 四 H 0 Ш 大臣 H 博涉,經史。及,壯 補 文章得業生。 П 文章生 定 達 部 諱道 音 省 門弟之中已為 至二文章博 家 試 賦 参議從一 賛 江文。 三男。 月 Ĭ. 廿 "貫首" 飨 位 月 母 九 詠 + 日 行

> 同 月 + 奪 74 情 11. Ŧi. H 年 起之。 九 親 Ė 母 日 未 月 介作 七 伴 幾遷。任民 日 氏 授從 答為 心 海客王 Fi. 部 文章。 位下 137 輔 逻 Fi. 勅 兵 小事。少內記 如上元。 月 -11-少輔

位 同用兀 同 慶 膝 -原 年 九 兀 基 + 年 年 經 正 月 月 月 餇 + + 1 文德 八 H H П 任 實錄 依家沿 氽 定 部 文章 序 少 致 輔 博 -1: 化 如式部分 右 大臣 小 啪 IF.

年 同 同 同 六 $\overline{\mathcal{H}}$ 年 年 年 烮 Ťi. E 憂 Œ 月 月 月 解 + 卅日 七 職 H 授從 今 H 親父是善 以 兼 本 Ŧi. 加 位、 官 智 些 起 權 之。 分。 博式 一士部

如少

元文

柳

TE

ラ同 首。文章載紀。 同 和 是時 年 年 秋 年 四 道 乞眼 正 月 使 眞 月 1 與 稱 一十六 入。京 E 渤 日 日 綠 道 海 任 具 大使斐文籍 響 談 文 剂 雏 岐 有名 似 守 章能 百 權行 ·博士二官。 《武部少輔· III 肥 冶 公 部 文 詩 大 軸,

卷 第二十 菅家御 傳

Fi 丽 七 F

四

F

月 月

六 二日

H

為

存

問

渤

海

客

使,三代實

錄

4

Ξ 及第

年

為

少內

記。文章。家記。

H

此

日

授正六位

上。家

十二

年三月十

 \equiv

日

式部

省

試

對

策

Ŧ.

月

+

城 同 ili DU 神 年 祭之請 更 间 是時授。正 卽 H 降 雨 五位 也 下。〇五 月六 H

式部 同字寬 # 4 Ŧi. 少輔。 年 B 年 Ŀ 月 春 廿 罷 四 九 請 秩 月 H 歸 解 十一 補 - 藏 藏 H 頭。 又 人 (兼)左 頭 勅許 中辨。藏 月 日 輔人 如い元。 任

凤 同 一百卷 史 79 年 上。先是道真 月七 一卷。帝王系圖 日授。 奉 從 74 位 勅 三卷。 下。 修 撰 Ŧi. 至是功 万十 H 成 類 史 聚

た 辨如 \mathcal{T}_{i} 廿三日 年 二月 春 宫 轉 十六日為, 參議。 為 整議左 が大辨式 部 兀 遷 月三 式 日 部 任 權 大 勘 輔 解 由 中左

亮如5元。 朝臣長谷 同 造 他 雄紀 月廿一 進 JE 九 月 H 十 + 為 四 二月十 日 遣唐 J. 五 狀 大 H 使。 請 兼 少副 侍從。 辨使 兼從 諸 行五 - 辨式部權 公 式位 聊

同 Ti 月 Ti H 勅 止 遣 唐 使 進 Ł 月

> 六 宮 П 權 爲 位。十一月十三日公子, 從如」元。 4 日 授 從三 位。 # 日 兼

從系 年正 月 七 H 授正 兼爲 春中 行宮權大夫。即日 位 授

同

大 同 將。七 九 年六月 月廿 一十九 B 日 叉 任權 (兼,中宮 天 納 權 言 大 夫。 同 H 右 近

泰 元 年 月 # 日氣,民 部 卿。 | 精大納 權言 大夫 如衛 元大

卿。九年七月 系圖。寬平八 7十三日 叙八年八月廿二 公正三位。 部

同 日三上表醉,大 年 月 T 四 日 臣。 為 詔不 右大臣。 小許之。 將右近 が元。]]

十卷。道真菅家文章十二卷。集六卷。親父是善菅相公集 同 月十 六日 獻 上 一月十 家集合二 日 十八 址 上 卷。 表解 公祖菅父

將。優韶

延喜元年 男從 帥。近罷 原 五 朝 造 衛大將。 作 指 大臣右 位 時 平 行 依"左大臣 右 授。從 讒 137 /辨高 世 正 位。〇 視 月二 次從 位銀行 11 日 五 如 筑 H 位 任 紫 式部 衞 國

之。 又三代實 司 三年以至 九。道眞 年二月廿 公所、詠 錄 神 預 退。所 五日 歌 述詩 修不 集 薨. 于太宰 日 逐 文日 『菅家御集。有』 其業。 菅家後集。有 府。于 則 時 大 八藏善行 春 卷。昌 秋 五. 卷 泰

姪。輔正子也。 膏原為理。幹 亭茂孫也。 幹政。在躬子。 延 兀 元 年 年 Ti. 四 °政 同 月十 月 閨 出 + 日 月 _ 日 贈 7 贈 Ē 九 _ H IE 位 贈 位 復 太 本 左 政 大 大 位 臣臣從勅權勅 右 大 五使守使位散藤武 下位原藏

本系帳。 右 據一首 家文草。後集。 家記等,記之。 \equiv

代

實錄。

公卿

補

任。

嘗

原

記

H

記

日

條

延

元

年

八月五日

始

安樂寺 神 國 託 應 菅原道真 心之處 立 學頭 神 也。 殿和 公 修奏狀云 延喜五 喪葬之地。 E 天滿 年八 太宰 月 大 + + 自 府 在 九 安樂寺者。 面 天 日 觀 味 神 世音 酒 北 安 大菩 野 贈 行 社 大 依 相

> 邊 場。可 者 坊 婢 說 造神 文子。託曰。 天 慶五 殿 也。 年七 我营 其女贱而 月 丞相 十 $\dot{=}$ 之靈也 H 不能。營作 前 降 欲居古近 着 本 石 京 馬 條

種子年 藤原 野 子 千 以 身 一談 故 天 神 本 _ (11) 師 殿 生 曆 我 便 IJ 輔 九 七歲。託 欲 折是以我知,昇三公官,又逢,左遷。既 北 一、心造工工 业 年 天德 野。 通增神 居 $\dot{\equiv}$ 之地必當生松也 於是朝 月 日 三年 十 殿屋 我告任。 神 月 日。 殿。 含。獻 H 寺 亦着 1 僧最 右 Fi. 六 -大 月 H 神 近 臣先夢 珍。 九 雪 右 YI. H 夜之中 數 與 JŁ 大 本 R 臣 R 松 遷 和 JE: 神 生 松數 ٨ 妙 位 我 良

+ 神 北 外 H 野 嘉 E 承 な。 聖 +11-廓 元 天 年 日 THY 祭 祀 十二月十八 天 始 神 宣 有 之勅 命云。掛 天皇永 幸奉幣 號 H 始 畏支 起 島 11 此 里子 哉 湘 坐天 寬 弘 滿 作押 13 TO 天

陳經

記

日記之趣是非不、測矣。
日記之趣是非不、測矣。
日記之趣是非不、測矣。

元永元年八月七日。

最鎭記文貞元二年

î	守	哭		pt	硽		尹	K	比	北	
•	家	IJ'r		 北宣文一通,因, 技驚恐初	此	1 1		不。右近馬庭興宴地也。為,移,坐我彼馬庭之邊	比良	野	
	た	以		40	th	1 1	朝	1	鄉	-E	
î	烷	插	1	X	声	+1	H	近	旭	可	
		133			ولا,	1 1	±.	馬	居	僧	
•	•	R		涌	~		17	14.	4:	最	
	氏	3	-144	2. 3	間		住	姓	= th	会	
•	٨		官	田	۰		朝日寺住僧也。	興	住神良種來着申云。火雷天神	寺僧最鎮記文云。當宮者。是近江國高嶋	
1	<i>(</i> +	זעוו	家	V	•	1 1	111	宜	艮	記	
ς	北	稿	1	14	14	良	#14	1111	秿	*	
٠	僧		八	松	1	TE.	<u> </u>	TU	135	<u>-</u>	
	笙	Dilli XIX	R	环	M	程2	2000年	也	來	Z,	
:	42	驗	~	107	數	조	長	ASS	差	225	
í	温:	F255	兩	初	+	T.	1	杨	111	EB	
L	上世	日	部	1		H L	6	表	中	宮	
Ž	排	新	F		4	旦	4	73	云	老	
î	3712		بل		松	云:	3	坐		713	
	750	獑	下		23.	- 0	2000年	FU	火	旦	
ì	工	4775	盐		生.	El.		クセ	重	先	
	殿	WI.	33)	11	也	ŁĮ.		仪	HH	近	
	- 0	在	仕		•	生		馬	大	II.	
0	如	150			卽	k/\		Tr. F.	肺	岡	
	L.F.	厅	-	1	DES.	14		人	Zion	昌	
	议	يا.	学		1317	La Fe		4	御	回	
÷	欽	1	之		身	΄,		邊	託	嶋	
The state of the s	守家燒亡。氏人住僧等。僅搆:造玉殿。如、故欽仰	異致種々之祈禱:靈驗日新。惭經,年序,之間。]菅家人々。雨部上下勤:仕二季之禮		由,之間。一夜內數十本松生也。即隨身其	良種云託宣云。可、生、松云々。相		乾	託宣	郡	
	15.13	0	11.67	1 1	>7:	1	1	74	₽.	VIIIs	

今。跡乎垂、天。普祈禱叶天。一天下之尊卑乎護持給海內之舟機天。》綱紀平意七任世給文。夜臺之後公。天神、朝庭之間は。古名乎揚天高崇班爾昇給天。四

物。其祭文云。

天德三年

九條在大臣展造。华屋舍,奉,但,管

跡乎 度無極。 品々 天不之衰 姓 七。及太子乃祖と成 幸賜へ恐見恐見中。 自在 仁。男な國家乃棟梁とシ 須。三光仁伴天有、慶留氏度。夜乃守日乃守仁 夜乃守日 乃氏と千世之世 天神乃此 四方 妓 いっ。女は國 乃守七守幸へ給 地 師 仁鎮 輔 力乎竭 仁 リマ 萬 御坐七隨 名乎傳倍。 母皇后 機 =/ 乃 天 誠 攝籙 帝 乎 天。 男女乃子 萬孫之家 王 至 二儀 一乃母留多 チ 一天奉 意 仁 仁 比 我 孫 任 仁

此諍 增日 後代記之。 安樂寺例 氏 又屬守 增 長 H 貞 依請者 一者出 論 者 元 陳 元 式 者。 以 部 年 .持、印之由。蒙·官 來 權大輔 權大納言正三位 稱 氏 十一月 因 、兹以"最鎮一个知"寺務"最鎮等 寺司 人可 文 七 一分领 . 評論。 爱最 時 日 太 朝 裁領 臣奏狀 政官 知 源朝臣 北 下山 知 鎮稱 野寺。是則 寺家,永 造立立 准 雅信宣。 城 國 稱 -符 絕 之 玄 云 被 奉 僧 府

官符

太 政 官 III 城 國 司

大 宰府安樂寺 例 以此 何 知

北

TF

弘宗造 之後。 盛 寺。味酒安行去延喜年中始所。建立也 朝臣文時等去六月十日 納 知 立 秋 年 天 任寺司。年序漸 右 承 件 之功。增日者 忽有 延元 得 永之手 知。依宣行之 望請殊 正三位 始,自,天德三年。以氏 Œ ,稱 立 年彼寺燒亡。撿技僧最 將 兀 僧增 傳 次復 位 蒙 制 源 下行 消得 天 朝 久。今件 僧 陳,持、印之由。分成二二類。評論 日 裁。被下一宣旨。准 寺印。自 臣雅 、符到 彼 補 者 式部權大 部 增修治。弘宗滿 信 論 出來。從 奉行。 北 |奏狀 宣 本 稱 野 命學 "寺司。发最珍者稱 奉助。依 輔兼 寺者 從五位下 人解言上於官。補 一何。謹 珍重 。滿增異父兄星 。初則 護 安樂寺 华 以造立矣。 地 國家 請者。國 事 。安行 守左 死 僧最 博 去之 情 -1: 例 者 少辨 珍 处 沙 쑵 间 後。 宜 狩 方 111 去 原

真元元年十一月七日正六位上行左少史御船宿禰平朝臣

梅城錄

天神聖德讃。

賀江

除饉男呆菴述

大哉 威 極。調 德 自 在 皇基 神 如日 億 萬 麗天 春 光 常 新 冥 扶 佛 連

麗也。 萬物 一薨之先。 月。雖 大政威德天。我主。闽土一切疾病災難 是上人本國管丞 賢見, 威德城。其嚴 左僕射藤 金峯山金剛藏王菩薩。 誓,遺 神 大自 日。智 勤 也。天慶四 終古 北 日 在 始。 "本邦。上人傳之。 尊重我 月 老人所著元亨釋 自 時平之讒。左遷大宰府都 天神者。菅丞相之靈也 無思而 雪寶 麗 裁 苸 、疏訴,天帝。故其靈奮激爲 必 語曰。廣一大門風。威 年八月。有"沙門道賢"借 天。李德祐文章論 m 和也。 擁 知 光景常新。左 護。 麗 萬有一號之為 不可言也。語質 因 忉利天帝字、我 周 頭 書 易文言曰 若人作。 ,大政威德天。天 神仙 氏 昌 傳 我形 傳曰。 神。易 目 德 督 大哉乾 泰 日 譬」路 自在 事 _ [[]] 呼 四 北 今 日 遊 冥見 日 柳 威 年 野 J. 知 將 丛 我 本 我 德 未 並 H 兀

> 護 紀 萬春 極。 漢 周 证 詩 侯 目 傳 億 日 邁斯斯 調 年。 護 杜詩 太子。 E it 是是 調 够 纳 過 當

花似,星。五字初詩早驚,世。惟昔化,兒菅氏家。朱顏紺髮鳩車歲。月如。晴雪,

六歲 髮兒,弄,花 位 桓 和 原 所 公 文集云。 E 院 大 武 諱是善。 菅原朝 四 [m] 傳 天 年生。又云貞觀八年年 呼小 南 自語 聖 相 皇延 庭。 剛 會 抱 公熊 字 臣 記 春 于庭。肌肉 文章雅典。為,時儒宗。居 入 無 相違之難。 曆廿三年。 清公克家。翰 撫育 異問日。 晨景淑。 兒化现。 及菅家書本。亡。作 姓無家 之。天才艷逸 如 王雲。 君家 獨 年總 唯欲父事 造 憑 扶 店 林學 何 育輯 -11-桑略記 福絲芳蓀。 五六歲 使 左 1: 遊目 者 異 姓 狼 京 相 許。 证 常 名 K 任 北 大 似 欲 爲 山 神 童。凡 夫 年幾 叉云承 州 M Z 君 41 從 111

T 公試 天王 勒論 係 推 出 車 歘 慶四年庚子八月壬午朔。 見 引以為。 哉。真觀八 人。清公。是善。天神 大師所撰顯揚 年。 之戲。神 然化出。續博物志。王元長云。小兒五 國 庭上 河 H 問 衆 目。 史或御記 本 內 則仁明天 則 月 天。 左證 紀。又系圖云。菅原朝臣 國 王 本 輝 **沿甫七齡。春宵快霽。** 人土師 詩料滿前。兒能賦否。神 於"父母肩上 切欲界衆天。 年丙戌。年廿三。代,相公,作,慈 房馨 命甲子也。今從,俗好,以,化 如 Z, 晴雪。 必不誤矣。 大戒論序。至一个國家講 皇嘉祥元年戊辰拾五 相公絕嘆日。蘭生而芳。 宿禰清 和漢年代記云。 ,扶桑略記 梅花 或懷 無,有,處女胎 H 真 似 自 有 中。如 其 照星。 賜 云 蝕。 。梅月爭 任 本姓土師。 姓菅 卅 延曆 陽成天皇元 二大臣 五. 可、憐 君 日辛亥。经 藏 生 原朝 衝口 歲 歲 嵗 -11 妍。 者 矣 年 E 小 年 金 臣 鳩 辛 必 覺 矣 鏡 誦 相 兒 74 彌 ച

末年 天性 卿。近 學頭。 第四 議 華瞻。 二補 章博士。以其爲。儒門之領袖一也 唐 生。 九。父清公學藝博通。 大江音人。在 拜』參議。式部大輔尚兼之。 從三 使。復命之後累歷 尋舉,秀才。對策高 前十一。侍殿上。常於。帝前,讀書 所 少 。文章得業生。其後文章博士。東宮學 之子也。 。聲價 江守如故。三年十一月授、從三位。 式 位 事。 編緝 ŽE 部大輔。 行 尤高。小野篁詩家之宗匠。春澄 樂吟詩。 朝之通 是善幼而聰穎。才學日新。弘仁之 刑 父菅相公文集有、言。舊簡,倘 君家 欲記,家門 部 相次 卿 。最宗,佛道。仁,愛人物,云 儒 顯要。 菅原朝臣是善薨。年六 第登 才德 補 也。並以,文章, 相許 任。 相接密 我兒道真。 甚高。 爵 科。 。元慶元 貞觀 至。三位。 延 有四 曆 弱冠為" 道 + 年遷 年 四 俱 真公幹 賦詩。 ~ 猶為 L) 年 是前 子。是善 為造 善 刑 繩 書 思

君門 射策穿.楊 仙 歌頌未 葉。海 神 內文章 得 埀 公逸 少禊帖 猶

衣。凡 辰閏 臣 扈 權 日 章鉅公。 內 中 真 時平 菜 從 IE 守菅原朝臣某為。讃岐守。又曰。 丙 觀十二年庚寅三月廿三日。 文。翰林公李賀高軒過 焉 中從五 IF. 此 見"于菅家畫本。 之風。退之詩云。 可謂語動 位 月六日有。子 方俗。每、至。正 皇太子 君 中納言 扶桑略記曰。仁和二年丙午正 書學,蘭亭。 源朝臣能 一位上行式部少輔兼文章博士加 及一 從三位 矣。 有。 日宴。行 品式商 義之俗書趂姿娟。萬常之 稱 遒勁過,之。 漢 月子日。有,游,野外,探, 中納 菅原朝臣。皆著, 直 巨。 書曰。楊葉之大加 題東坡墨竹曰。 卿 幸 言 **Y**"是東京 本康 對策高第。 從三位 北 寛平 野雲林院 東宮 親王。 藤 亢 月十 才子 日 麰 原 大 年 聲 納 共 文 賀 海 華 朝 丙

> 試 ·殆不 題 · 及 詩。弱、冠管即 也 成。 太白 沈香亭清 河泊調

醍醐 紫庭鳳。人瑞鍾美 聖曆堯莫紀。 名 太 躍 平 金甌 辰 秉 國鈞。 游房

儿

355

禪。 善之一 凋祭。 大 略記 琳 琳 望 子 平 未二月十四日。大納言 十 多天皇太子。寬平九年 等名。覆以,金甌。 傳 後 臣 也 任。左大 年戊午八月十六日改爲。 生年十三。同十五 日 E H 三男也。帝王世紀日 同 年五十六。學行才名鼓 曆得,其分度 日。 人王六十一代醍 初玄宗每、命、相 一爽落。杜詩曰。 臣。年廿九。太政大臣基經 大納言右近大將管 會太子入。 」則莫爽生 日 左近大將 闪 T 鳳歷 。皆先書其 。莫茨堯時 醐 已七 戊於 。昌泰元年。二年 天 省 邨 皇。御 朔後 動 月三 原 轅紀。 謂 京 大 朝 藤原 名 瑞 E fili 極 H 15 H 朝臣 請 片。 殿 一炭 某 參議 敦 J.J. 朝臣 此 闪 随 H 書 1E 卽 第 7 福 右 位 時 5:

名。若自意。之誰,乎。即中且賜,酒。太子曰。非。 展齋房中,乃作,芝房之歌,蔡邕琴操曰。周成王 殿齋房中,乃作,芝房之歌,蔡邕琴操曰。周成王 殿齋房中,乃作,芝房之歌,蔡邕琴操曰。周成王 殿齋房中,乃作,芝房之歌,蔡邕琴操曰。周成王 殿齊房中,乃作,芝房之歌,蔡邕琴操曰。周成王 殿齊房中,乃作,芝房之歌,蔡邕琴操曰。周成王 殿齊房中,乃作,芝房之歌,蔡邕琴操曰。周成王

摸,床稜。霹靂敏手快,人意。 左相謾調金鼎元。總有,笑端,不,理,事。我公那肯 具美。甞曰。天瑞有,五色雲,人瑞有,鄭仁表。

> 琰之命,書吏數人,連、紙進、筆。斯須部 翰俱美。號為,霹靂手,東漢書吳漢傳。帝嘆曰。 道、無答。但以,手摸,床稜。唐裴琰之傳曰。永 登切。朝野僉載云。味道爲、相。或問,其變和 與王沂 吳公差强"人意"。 中為同 人號為"蘇摸稜。通鑑釋文曰。摸未若切。稜盧 不、理問,伯始。唐蘇味道傳曰。甞謂、人曰。處 曾相繼。 、不、欲,決斷明白。但摸稜以持,兩端,可 公繼 州司戶參軍。州中有,積年舊案數百通 金鼎調元亦屢更。後漢胡廣傳曰。萬 秉鈞。 軸王公寄、詩 曰。錦標 並星。 事 事 雋

浪洗, 苔鬚, 知, 鬼語。春生,柳眼,悦, 皇情。才高見浪洗, 苔鬚,知, 鬼語。春生,柳眼,悦, 皇情。才高見

消浪洗舊苔鬚。良香私喜曰。奇哉。所謂神助也。 霽風梳新柳髮。沈吟久,之。空中有,聲。續曰。永 瓊,羅城門。見,陌頭楊柳散,麴廛絲,得,句曰。氣 聖廟記云。寬平八年初春。大內記都朝臣良香

詩 行誰 暴公為 院 暗 過 左遷事。 E 用 行 辺 爲 幸 蘇 成 萋兮斐兮。 H Ī 杜 卿 於罪 韓文曰。 4 句 禍 1: 也。 法 杜 丽 狮 詩日 其事 譜 111, 成。是具錦 事修而謗 女工之集。采 蘇 II 漏 公。 北京 錦 蘇公作 無停織。 则 年 喻了認 内 14 德 成 詩 以 高 謀 今云。誰 E 成 人 III 缩 集作。 毁 [1]] 來 文 鉅 人 有 從

行 元 龜 淚 已 口 卜變 語 心 革 時 運。延喜辛 傳 大 H 四 遷 "紫陽" 雕 家 洒 112

T

年五 美。 槐位 建卯。 次。偷 # 相 略 五 記 伏冀知,其止 十八。枪 日 。朝之寵榮。道之光華。 將,動干戈。伏惟。 習,術數。伏見。 日。文章 昌 大臣 泰 朴子。 博 ----菅原朝臣。 年 1: 足。察 1 十月 三善清行言。某背 明年辛酉。運當 E 其祭分。 質問挺,自,翰林。 十一日 先 任 知 。吉備 大 蓝 惟 Y: 四 公 机 夫 棉 年 外 16 者 公 帥 平 無 个 游 相 14 復 超 公先 學 īF. 與 11. 月 H が

夢。時時 之心可、見矣。 放云,延喜辛酉也。 東行西 知 非國 仰。彼蒼。詩成未、寫。大唐國裏喧傳。不 雕、家三四 行雲渺 。昌泰 兀 龜 渺。二月三月日遅遅 四 月。落淚 माडु 年 聖廟記云。西征旅懷有 即延喜之元。 且 勸 百千行。萬事皆如 使 "勇退"则 。追而 又有" 忠

安遠。 西 都 亦異、乎。樂天哭、友詩曰。悲哉 僻在滄瀛曲 怕惹 』閑愁、不、倚、樓 。古寺鐘聲山 更幽。浮雲蔽日長 口語心。

造畢。又曰。聖武天皇天平十五年。始置 鎮西府。菅家畫本云。菅公旣到、任。 筑紫朝倉宮。秋七月天皇崩。 年。都,大和 宮。又曰。齊明天皇元年 門。有詩曰。都府樓總看,瓦色。觀音寺只聽,鐘 二年已酉。大宰觀音寺天智天皇御 本紀曰。人王十四 國高市郡。辛酉五月 代仲哀天 乙卯。 叉曰 當大 皇都, 筑紫橿 1。安陪天空 天皇遷居于 、閑居 八唐高 願 不出 统 皇和

> ,刀不,破,愁。聞者無,不,咸激,焉。瀛怡成切 也 集。其秋懷一聯曰。月輝似、鏡無明、罪。風氣如 聲。類篇云。李白 蔽日。長安不見使。人愁。菅公謫居編 金陵 鳳凰臺詩 撼 為 名目 浮 後

難消 平 生久要唯清客。千里飛來相慰藉。 。憶昔清凉侍、宴夜。 恩袍餘馥藹

凍蓄才開。清 謂 謫 殖者。世目 風 東皈、曰。日本會聞北野君。愛、梅瀟洒又能、 燕脂雪縞中 勿心。春。西府荒凉元无,嘉饒。一夕冷香暗度。 或說曰。菅公平日癖,于愛 坊。五條號。置』別 居西府三千里。一夜飛香度,海雲。宋張祠 爲。清客。虚堂三友軒 東風有、便爲、我送、香。雖、無,主管。 庭。 飛 玩終日。雅詠 從而視之。乃別殿紅豔。 梅云。大明初詩人洪恕。 殿 純 栽梅。一 甚彩。其醉京 梅 頌曰。清客蒼官會。 īfii 中 分,紅 第在"長 也。潜 岩,封 送 汝 然

詩篇 詩 獻詩 香。論 此 隨。 遲。 如 以正 此 君 安慰而 圖,曰。平生久要劉文叔。 帝謝 獨斷膓 話 丽 恩袍草色動 注云。 三位 鑑 香 懐舊 賞賜 君富, 春秋 薦之 相 释 右 文。 思賜御 "御衣。公蹈舞捧歸。珍藏巾笥 慰 久要。 作 詩曰。去年今夜侍 世。 。慰藉。 臣 聖廟 。元歐陽玄君復愛,梅。 。舊約 大將 衣 . 臣漸老。思無 。藉慈夜切。 今在此。捧持每 ac. 也 一侍。宴於清 曰。昌泰三年菊 又宋仁宗 陪 翁 安也 題 清凉。 涯 , 嚴 凉殿 賜進 岸 H 子陵 薦 邦餘 秋 川 月 釣 自 思

助天監。天时七字年所釘。惟足無害歲又三。箋天危立寳峯尖。賴有,精誠

有,味 良 菅公後集。 宮詫宣記曰。 鑑。天封 憶還 外 之味。子美詩云。 詠、雪詩 七字拜,新 .盖用。 我家後集二句。如,離家三四 E 蘇卿 一。雁足 街 北 燕丹 書不、至雁無、情。 粘 將 故 疑係 事。清熟 悲 鳥 比 健 頭

詩云 露香 程 天 矣歟。 妃 亥 謂 拜岩。元人陸雪樵游,紫陽 九顿首而退 三字。黄金寶 自 帝錫也。公慊然曰。是特表』內證德 線章、昇、天。久、之天滿天神四字證降。 荷 興 危立 公人 之歲 周 此 在 雁 七日。 不赐 五 神力。以"脚尖,踢"回之。少選。 也。韻 上首。誰 或說 足 日 老鮫 色賦 值 粘 出,扶桑、輝、牛夜。山開 "堯水滔,天。宋萧東 《書。箋或作、牋。 緯畧日。 吾劉謐之與 **鬚髮蓝白。期滿之日。雲葉** 云 書辛酉之際。遭湯 將 翘立 篆 寫 疑 西 自 會稽志 德動 现 雪冤。途三沐裁,疏 係 料 都 之跡 島。若人誦 。於容中。於是公意充然。 有。巨岳。名云。資幔焉 一。人衆勝、天。天定勝、 天點。韶 Ē 印 管 洛人。 于盤陀。 ili 之則 旱流烟。今子縣設 夫古 寶幔,倚屋 他 又加,大自 爾。未足得 南范之能 他 梅詩 ili 今間 之 。官吏階位 忽來。 到活 雁 盖忉 有 拟 尖 天 HI 便 1E 利

舊官銜。樂天詩云。獨有"詠、詩張太祝。十年不、改。

雷神。未、免,撩它六丁怒。 佳城埋、玉仲春抄。霧若花蔫安樂樹。思追徒稱火

藏、曰。卅三天呼、我。字。日本大政威德天。我 詔。成 泰四 大臣 扶桑略記曰。延喜三年癸亥二月廿日。權帥 禁。况除神乎。火雷火氣毒王 筑紫榎寺。今安樂寺也。日藏夢記曰。菅公語 如 大臣位。又安樂寺詫宣記曰。抑我是蒙攝政之 雷天神。一云。延長元年 閨四月十一日。贈, 原朝臣於,大宰府,薨。年六十。四月廿日 公大山 十六萬八千惡神等。隨處致,損害。我尚 年正月廿五日宣命, 令、燒。却之。 勅號。 菅原朝臣。詔賜,本職。兼增, 功之身。朝家定憲何無其賞。只賜,一階 之上加,一塵,也。或記曰。菅丞相薨,于 。佳城。字書云。蔫萋也。僧寶傳 第三使者也。 一階。並 奔,昌 前 日 本 難 火 右 嘗

韓詩曰。天官叱,六丁。雷電下取將。知嗔。注。撩蓮條切。取也。噴怒也。言取、怒也。挽歌曰。恩追歿後榮。通鑑玄宗紀。能撩,李日臣。雲居有、神號,安樂樹神。今借,其字。竇遺直曰。雲居有、神號,安樂樹神。今借,其字。竇遺直

復讐。三詔入山師勿、起。

濱。潋浪止、流水不、濕、輪。 漲 其火卽滅。燒痕尚在焉。已而雷雨狹句。鴨河 皇詔。何所、避乎。菅作、色 適薦, 柘 \拒\我也。意曰然。 然率土者皆王民 法于增全。蘇悉地于玄昭。一日菅丞相化來語 年上,台 釋書曰。釋尊意。姓丹生氏。平安城人。 而起。化作、煝。坊戶烟騰。意結。 日。吾已得,梵釋許與、欲、償,夙懟。願師道力無 主圓珍,受戒。一紀之間究,台敎。又禀, 八馬不、通。 山。智學有、聲。 於是乎。記意赴、宮。意車到,河 十七落髮。 - 瀉水印,擬,之。 也 榴。菅吐 我岩承 兩 元慶三 一禮 部 _座

儀 秋 觀 天恩愍哀。 度 甚 偉 然 三帝釋 肇論 漢書 宫 日 愁訴 釋 匈 奴 处 之。後 傳 絕 。襄公 驰 ithi 得 自 雨 復 在 九 花 世 韓 後 之雕。 集 漢 書 日

實珠。吐成,活火,燎,屏障。答云率土奈,王臣。公便投,袂色甚壯。盤飣唱殘榴

ン袂而 尚 人 香 九 田 泣。 園 州 有一天 梅聖 詩 日 起。 尚 (神養 書 一愈安 率土 注 Ē 莫噴老婦無盤町 振也, 之濱。 目。 榴詩日。 若。火之燎,于原。前南 榴實化成二二昧 韻 莫非王 書 割 曰。 之珠 飣 臣。左 、吟指 置 滿盤。 火。梅花 食 傳 也 灰 禪投老 日 4 范 楚 飛 芋 石 子 度 和 鮫 栗 湖 投

黑雲壓城掛龍雨。象駕還呈,截流機。帝改,元年

昌 **"長久"。**假 霎掛 賀詩曰。 龍 臣 雨。詩 震 黑雲 死雷霽 話 壓 日。 城 威 掛龍 々欲推 方言 廿 露 궲 集 師 迎 日 日 已 象 収

年癸未 形。 大臣 大臣 星頻 代記 之日。授 種種 為 駕 平 大 下 罪 m 五 朝 於清 之後 過 咿 納 日 學世日 延長 制止 本職 際設 入月 讓 言 災變而 藤 扶 兼 春三月廿二日。皇太子保明 原 粱. 凉 。帝釋 位 延 ,大臣官。贈,正一位。今為,我無,益云 兀 及加 淨 進 R 略 殿。黑暗 夏六月 長八 時 於皇太子。遷 年。 而出來 藏 途 管帥靈 記 部 4 宫 安 階 加持。和漢年 日。 衛二 卿 召 記 致 年庚寅。 樂寺能宣 等。 膝 廿六日未 1 3 無 延喜 魂宿 年卅 鎮國 。不,堪,其證,改,元為 贈當 人等。秋 原 日 見 朝臣 九年己 天下疾疫。 忿所 明 بال 香 右 唯 原朝臣 象 市市 記 近 視炎 病胸 清 剋 代記 九月 渡 E 爲也。夏四 衞 介 世 ili 巴 शंग H.f. 勘 我 光。雷 之間。 E 某卿 [74 天 左近 'lli 已得 徹 虹暖选 親王 島 私之。隨 延喜 13 同 Dhi 此 音彙 庇 11. 不 公 吴 74 德 延 4116 议 九 4ne -11-年 15 H H 卽 右 疾 现 लंद

神色不、移。上亦霽、威。胡三省曰。人主之威重 所、震。主上惶怖。玉躰不念。遷」幸常寧殿。座 內藏頭平希世。及近衞二人。於, 清凉殿,為 請天 親王。通鑑唐紀曰。巍徵苦諫。或逢,上怒,甚。徵 月廿二日壬午。天皇年卅六。禪,位皇太子寬明 不動明王火炬赫奕。威猛厲聲。加詩聖躬。夢內 尊意依、勅候、於禁中。每夜獻, 于加持。皇帝夢。 大納言民部卿藤原清貫。年六十四。并右 於雷霆。霽威。言猶,雨霽。則雷霆亦収、威 登遐。略記 。覺後聞』陀羅尼聲。則天台座主尊意也。 台 座 日 主尊意爲師。出家受,菩薩戒。不久 。延長八年庚寅六月廿六日未時 中辨 儿

屈"忠直。化樂天宮空隔生。 苦行賢師夢入、冥。先皇囚在" 黑金城。 砥緣徃日

天慶四年秋八月一日午時。忽舌燥氣絕。怳至,浴入,金峯山,薙髮。時年十二。久,之辟,穀精修。日藏夢記曰。弟子道賢。以,延喜十六年二月,去

我造" 受善法。故當、生化樂天。向者誤謫,無。辜賢臣。 善。造,種種惡。惡果先熟受, 鐵窟苦。苦報盡後 形如、炭。一人衣覆、肩者。 德和 地獄梵名泥黎耶。 途記云。弟子道賢今名,日藏。立世 日。朱雀天皇天慶四年辛丑八月。道賢上人 今隨, 苦所。上人還,本國。首奏,國王 本金剛覺 大王之子也。我居,位尚矣。修, 種種 修品藏法。也 又見,地獄一鐵窟中有,四 及"早修善。因賜"名日藏。言宜、歸"大日如來 照映。和尚坐,**七**寳床。告曰。我乃牟尼應化 神日。我取,雪山八功德水,以救,師渴,耳。 王菩薩也。此處曰"金峯山淨土。汝餘筭亡、幾。 |為||下劣。名曰||非道。婆娑論曰。地獄名||不自 窟 倘 前。 一萬率堵婆。金剛覺 來執,賢手,上,西岩。純金為地。光明 執金剛神傾,金紙 以無,戲樂,故。此道於,欲界 招。日藏、云。我是日 水,與、賢。飲 即寬平法諱。略記 一阿毘曇論云。 一及大臣。為 味 人。其 # 美。

生 樹 慈 聖 身。 以 化 菲 城 求 在 果,日 氏 嚴疏云。 白 自娛樂。正法念經 除爲足。又云。化樂天樂自 多說 唐書處 則 化樂天。大乘菩薩 故 謂 \pm 嚴 質 善八 言 \mathcal{F}_{i} 彼 於 無 藏夢 罪 戒
兜率天 兜 門 齊生天 瑕 六 分 111 八 人 足之行。故得,少意悅,為喜。 關 記 率 類 齊 散 育 爲 何人住處。 天女珠 王 和 日 陀此 者 有五 戒 予試 玷 獄 尙 報。 道 率阿 所 不 鐵 云"喜足。後 行 日 賢借" 瓔 絕。一 能 受"具足 戒 解 由 初 壁 被禮。 傍 受世 人ス 第 持 序 īm 之 え 頌 之所 芸。 生 不 門也 ---藏 、梵網 E 日 人留 天女以 戒。得 變化。 德 犯 也 王 間 三歸 來迎稱 身菩 拘 苦薩 戒。信 行。 故 以 樓 門 制 作諸 が 五. 云 帮 陡 個 [in] 神 和 讃 戒 奉 於 座 潔 北 I 日 羅漢 也 歌 得 重 樂 更 忠 翑 佛 得 如 破 彼 禮 戒 具 不 值 寶 意 安 毅 朋

無站人入來之門耶

從 嗣 前 王 恨 降 永 勅 矢 加 函 读 活籌 贈 四七 域 民 Fire 珠 謝 便 Į. 新 聯 料

寺詫宣 恨 詩 訖。 屋 造 年 事 閉 卽 天 正 日 JE. 死 也 計 內裡之柱。 改 幾 荷 皇 記 朝 瑞 位太 南莞 歡 完 風 太子。寬 曆 朝 云 大 昨 石 其奈 記 烟 五 應 暮 極 忽 為 曰。我 政 原 年天 殿。正 北 和 幕灰連連 筆砚 公王六 現如 大臣 。以,天德是 和 出:食卅一字。其歌 闕 一个有 皇 棟 二年 八十六代 抛 今須。望 被 王 曆三年壬 之板 大 遣 來 板。 悲 勅 相 叉村 九十年。 丙 1: 戌 有 絕句。示 或 間 使 今 火 足 於 茅 1: 生 條 勅 神 辰 作 合 祭 天 统 天 年 號 便 -|-我 柴 皇紀 皇 外 息 西 奴" 也 調 仰 沙 限 [-] 城 北 都 11 光流 計 廟 樂寺。特 者 世 受 等。家 恢 作 [17] 勅 加口 FI 天 兴县 MIT. Til 天德 H 君 聖 偷 他 党 壹// [1] ĺij 1/2 訓 쎼 又 JUS 恩 記 排 5019 月 di.

永矢不一該。注矢誓也。 。驟珠 漢書曰。騙"一世之民。濟"之仁壽之域 散 之內 五彩。作.湖 庫 云 元結 釋春 Ш 珍 晴雨。盖謂 藏 磨崖碑曰。 風 叟疏曰 無限 恨。 西湖七言 蘇 周詩 涵濡 仙 19 天

治馨。詔鈞九奏春秋節。一宵擢秀北野松。廟食千齡著,威烈。黍稷非、馨至

北 ,能,營搆,緩祠,家侧,天曆元年六月九日。始移 七 释書天神 條坊婢文子。欲栖。 便折。是以我知,上,三公、又逢,貶竄,以故 年七歲詫日。我昔任,僕射,先。夢松生,我驅 野。其制 居之地。必當、生、松。不、幾一夜間 野。於 造 自 傳 猶 、爾靈威日新。略記曰。朱雀天皇天 靈洞。 , 是朝日寺沙門 最珍 印 天慶三年七 九年三月。近州 天德三年。 右近馬場。其女甚賤 月十六日。詫上右 右丞相 北 與 良神官良種 一数千株 右京婢 藤 師 輔 我 京

末云 序曰。 于 神 鏘然而韶鈞鳴 史記趙世家曰。鈞天 廟 我從者曰"老松富部,者二人。是皆筑紫來。 慶九年乙卯 三月十一 萬舞。慈氏空華翁住,相 咸一种明。黍稷非、馨。 曰。能信,於南海之民。廟食百世。北史隱逸傳 也。為我設會。當、作,音樂與,論 每時,松種,我遷,右近馬場,必可,生,松。松我像 个,老松持。舍利令,富部持。而 記曰。近江國比良宮 呼有、願必從。無、到不、現、悲技、慈。予今正時 西都。神君甞有,誓,于八神 文,曰。威靈旣顯。 一月八日 。以,斯善 望古獨適。求,友千齡。尚書曰。 祭祀惟謹。東坡潮州韓文公 。我告有, 所,持笏。又有,佛舍利。 自他同教。扬二二界,後趣。空寂。 神化旁敷。松上十北野。 禰宜 日酉時。天滿 明德惟 州黃梅院日。 良種男 節。酒食之文。其 老松隨 我到處 馨。 義 李韓 太郎九年七 也。今北 至治 天 廣樂儿 神 集序 廟 詫宣 野

也。 民。而 也 眞 難 記 雅。是所謂 m 不 吐 差為" 以激揚。 孝。兄弟 』心慮 不、日乎。 袋和尙偈曰。 夫樂者 計 我 予愚管 非 是知此義 可 神 必 即此 . 以 護之。 賢行 以 君 傳云 類。或云。 日 夫法 能懷。 發心 乃謂。 滌 聖人之所以感,天地 眞道 之言 趣 為我設會。必當,奏,音樂 趍 警 邪 然則 。十方世界最靈物。 釦 前 華開權顯實心法之微妙者也 也 日 薩。乎。昔人云。菩提心即萬 導和矣。論義者 便名爲行。 忠孝文雅之道。且約1 朋 者人欲,得,我神之慈護。則 砌 凡君 聰 心能合 予日 友有、信。或行,義方、嗜, 姦 右 明 我 卯鮮 而仁。臣而忠。父而慈。子 IE 遶 神 似矣。近猶未 直 F 所 而壹者也。又云 匝。 仁而 眞道 法句經云。人壽百 調勝 香 ,通,鬼神,安 汲汲於 何。盖主客論 雲彌 義添真實 切不如心 論 雖、日、不 也。詫宣 世俗 空 法 神 開 可 道 諦 神 文 其 名

> 遺 未 文 歲 晚 復 情 醉吟且 見 欣 元 放 和 逸 作 體 不 THE ili 如 恐 仙 前身是樂天。兜率 日 皈 心 空版 飯期

外

有。仙龕 白 咏風 唐 相 指。之無二字,能不、慢。又曰。其詩牛童馬 尤精,於詩筆,元稱為,集序,曰。 晚 山 口無、不、道。雞林賈人求、市 士子。至。閭 E 云 居 年結, 彌勒上生業,故云。 每以"一金,換"一篇。白 不。是吾皈處。皈 近有,人從,海上 吾學。空門。非 古所謂得 元 易 態物色。當時言、詩者。 福 傳 虚一室。多 日 傳曰。與"白 閣下俚。悉傳諷 。居易字樂天。襟懷宏放 吟於酒 學 即 傳此 ılı, 應飯 回。海 居 者 易 馮君 氏長慶 放 待 之。 稱元 友善。 叉著。 ,兜率天,自註云。 颇 Ill 自 樂天來。 إرا 此 深 號為 樂天 集日。 處見 白焉。自表 說是虚傳 工為詩 白云。本 醉 醉吟先 未,始言。武 元 吟 文 答 客有 樓臺 野富 化 和 Y 國 走 說 狀 記 游 ·Y. 他 rþ

梅。 異器而日 彼談小 於戲妙年之作。咄咄逼。白傳。奇矣哉。張芸叟 遮那佛傳,之於前。文殊師利弘,之於後。故 得度,者。莫、先,於金剛般若波羅密經凡五千 經碑文略曰。攝,四生九類,入無餘。涅槃實無 大戒論序曰。夫菩薩戒者。流傳不滅之敎也 灰纈 頂尊勝 八十七言。壞罪集福。淨一切惡道。莫急,於 事皆如、夢。 胎妙也。 頭 喜年年作。花主。 同響。 林寒有、葉。又 見有、花。又詠、霰云。麞牙米簸聲聲脆。 乘者。 取,諸此,矣歟。白傳。蘇州法華院 陀羅尼經凡 三千二十言。 菅公顯 ",律儀。後研、精者更得,圓戒,云云。 「靈」 我 都 白 又云。鳥頭點著憶、還、家。又云雪 付遊。 本朝馳 一道而二門。與此說,聲聞,者 傳。 花前難曰。南州桃李 日 菅公和 叉目 禄米麞牙稻 |神真際。求法道邦。 鳥 歌有 頭因 |威白 梅花 。菅公詩 無主 北州 叉 與 揚 壁 E

> 於今日·予於。菅公·亦云。 跋"黃孝先詩後,日。不、期元和長慶之風。復見。

生天。看來長袖解,妙舞。 世言圓通大士變。左遷捐舘日五々。更分胎獄與』

王佛 應作 衡。 中見,天神,排 周父也。 矣。我是本地觀音也。按「系圖」云。大江 抑日,月於天上之句。 翰林之人。 於天上、照臨万民。就中文道大祖。 自在天神。 記 釋書天神 E 面 式部 叉 」焉。又楞嚴會上二十五聖者。各說。圓通。 大江 "神咒"以,十一俱胝諸佛所說,故名 十一面觀音經曰。昔為、大仙 法華文句曰。實光天子。是日天 大輔 傳 **尤可** 或鹽梅於天下,輔導一 匡衡齊居致祭。 乃配 』質閱,宣曰。汝文高妙。能感,我 。世稱。十一 夙夜勤勞,者也。其夜匡衡 醐藏人維時孫。一 非 神巨測。則汝固通 面 共 觀 文 自 E 在 人。或日 從功德 風月本 靈應應 條藏 右 朝臣 物 天 聖 111 市中 小 I 廟

暂 似

聞

嚴

士 則

號 流

威 晋

德。衆

色蓮

開

八德池。孤

嶋中間

安

矣。 遷捐 源 行 林 之與者域。金寶之與泥沙。胎獄之望華池。 也 等事。所圖 心 淨 日 泰 行 濁 開 之 耳。 內起 土矣。 記記 四 殊 割 子 若以 比 善 年 奉 舘 放有 音 古德 皆 Ė 悲心。現。宰官身,現自 佛 悪 尚 法 並 表 月 樹誠 勅。 為 何 觀 欲 一出。史記。天台無量壽疏 偈云。 妙 界 11 之狀 鐵 舞之喻。韓 介。毛道 海 擇圓 通 Ti. 坤 窟化樂之足,分哉 一方之麗 惠照了。諸相則 Īi. 日 良哉 心分,垢淨。見 灭 々之數。可謂 謫 根 凡夫知因 觀世 因 im 以延 妙。 非子曰。 以 音。全身 喻 擅 此 喜三年二月 在 稱 於形 力 識 身。 地獄。 焉 致 長袖善舞。 兩 然大 藏 果發 日。夫樂 體 入。荒草 端 身 土之 及 嘗 在 則 示 露影 公 1: 天宮 影 昇 天 以 音 書 4IIE +11-是 面 沉 棘 邦 定 提 獄 皆 \mathcal{F}_{i} 為 也

宗之 等一 有。大 を言 寶花 客 疏 廿 +: 也。圭峯金剛 內 有 際。微妙 日 美。 安措 云 藏 八 聯 佛攝受經)所。石 切禍忠。八飲已定能長養諸 夢 何 馥 鳩。廣 肘 塔者 也 四輕軟。五潤 E 烈 記 妙法 方 連 大 掉。 E 門文字禪 4 訛 嶋 # 崩 政天語 運華 經 有八 弄 紛 也。正云。紫塔波。 增 百 注 政 瑶 八 Ħ, 披 心有一遊遊。上有 天 日 經。金裝玉 功 瑶 、峯。七寶宮 佛 白 澤。六安和。 異 E 威 徳水。一 菩薩 水 禽 珊 子旦。 德 吳江 璐 ¥31 北 皆 集。 為 有 軸也。 一澄淨 、是我 嚴 殿 此 地 皆 -1 10 1: 八 高 根 王: 企 大 軟 飲 化 11 自 1 illi 池 顶 四 時除 樹 16 H 生。稱 道 徐 開 清清 塔。資塔 大 行 也 亦 浩 瑶 特 嚴 戶 冽 凱 14: 飾 भी। 念 饭 嚴 處 泅 们 雜 沙沙 内 1 :

圍 塔 秘 經 \pm 芬 何 陀 所形。五 利 身 成 猫 現 内有 佛 细 見。返 和! 辨

肉

洪字苑 日 路佛堂也。 音 他 台 反 瑜 伽 說 1-1

心。即 肉 衆經之王。又曰。如來出,現於世。爲、欲、今,衆生 塔婆者諸佛三摩耶 宗鑑錄曰。妙法蓮華經者。妙法即是絕待真心。 界性論曰。佛成道後四十二年。說,法華經,永明 敷榮時也。大教王聖觀自在 利花敷。榮水中。疏曰。芬陀 也。爲,君王之官,神明出焉。唐譯華嚴曰。 敷蓮華。中有。九空。以導引天真之氣。神之字 逼知海。淸凉華嚴鈔。梵語紇利陀耶。謂。 悟 頌曰。三世諸衆生悉在,五薀中。法華曰。法華 曰。譬如,清淨妙色蓮。雖、生,泥中,不、可、染。 [有,八瓣,似,牛黄,也。和合成,莲華,此莲華 衆生處煩惱。悉得,淨清於三界。菩提流支法 佛知見 五藏中心藏也。黄帝素問經曰。心形如,未 1、妙。 蓮華以,出水無著,爲、義。即喻,心 一故。秘密義記曰。一切衆生自心處。 凡而不 形。衆生五 返、流出、塵而不,着 軌經說,譬喻伽陀 利即白蓮華。 取 薀體 也 芬陀 肉 亦 1 華 屢 Œ 嚴

> 大千界。卷、之不、盈。方寸地。 事因緣不可思議也哉。盖謂、此爾。 事因緣不可思議也哉。盖謂、此爾。

書。寫三千大千世界中事。一 華嚴曰。譬如、有。大經卷。量等。三千大千世界。 應、云,八万四千。,若,法華疏云。佛地三百五 八万,說,八万法藥。且學,大數,故云,八万。具足 藏。如是至,八万。有云。一座說法以 乘薩婆多論曰。佛為,衆生,始終說,法以為, 弘决曰。明。四諦境。八万四千不出。一心者。 經日。摠持無文字。云云顯。摠持。止 法華曰。此經開,方便門一示,真實相。 見。破、塵出,經卷、普能益,衆生。天台三大部 全在。一微塵中。頌言有。一 一一皆有"十善。對"四分六根,故成" 云。佛自說,六万六千偈,爲,一藏,有云。塵勞有, 切皆盡。 聰慧人。淨眼 爲一藏。有 八万四千。 天王 此大經 觀輔行 般 悉 明 傳

注 矣。 法念經云。 皆肉 画 方 心如道 寸 之心也。 者。 俗 華開 列 書 子 說 合。 Ė 人心 提 見。于方寸 謂 藏 經日 唯 ż 心 如如 4 地

人 人 性 虚 直 如 日 詩 能 横。 耀 但 本 存力 地 風 寸地 光書不 留留 與 成 + 子 孫 世 古 耕 今 唯

始終 外 而 師 敬之。 覺焉。 神 傳日 訥 何 栢大士 僧誠 含識之流物,法 也 禪 不,雖,於當 風 見教。 師 翌旦 入一徑 敬 數 流 華嚴論 不,敢 年 唇 濕 容 後 四 乃告。藏 Ш 洒 궲 問 年 念。 於 室。 問 自 削 序日 E 應 曰。一枝梅。 身 焉 在 西蜀僧祖秀撰歐 傳 文忠公於 默通佛理 光 派利甲 道遙。殆非人世 。有情之本依 而 無準 傍有、人言。 主 為體。 翁普 戌。 衣。 佐忠 青條 廬 。又曰 寬禪 使 欲 Ili 是北 阊 不姚其 菴 紫 調 十一世 智 俪 陽文 所由。 持 之所 www.白 師 野天 海 聖 悠 忠 古 以 通 42 滿 11 被 為 加

豊不. 觀 使 官 月 多天 外 詣 來。 却 食號。天 世 釋 世 於 I. 云云。 有 紀 當 -11-頂 海壽書。又少林肖翁 丈 稱。園照之董徑 人。乃现,天 今。 圖 果 皇寬平 自 强分 年 朝 原 何 室。受。金縷伽 而 叉有 符所 日 申 朝 H 神。龍 信 水、登。 標勝而 H 申 長 E 塵 插,被 養詞,日 WE. 某。生 惑 六年甲 谷 六月 淵室 人 赞曰。 新。 遣 臆 著 不 梅 云云。 唐 塢也。 + 年 不雕凡 4: 内 ili 共迹. 梨以 可 使參議 寅 花 北 五 菅氏 儿 年 经 III 北 Ti 野萱 测 十一 不 日 禪 應泳 几 和 13 些产 飯。 乎。 也。 安樂寺院宣 -1-去 相 夕 倡 尚 意。深明 左大辨 木。 也 店客合、韶 Ju 夢 公元 滅 in 闪 蝶 好 天 意 扶桑略 正 手: 子重陽 光 同 夢 il: min 尚 生 叉 酮 化人。至 携 H 身 床 X :11 兼 。理意。不如 Bli 納 置 前 称 里产 替 11: 勘 融 傳 造 臣 解由 納 以 天 題 175 花 削 天 企 似 邦 今廟 mili 销 11 命 店 ifi 枝 - It 德

覺樹-我祖 類。以 有相 常腦, 麗國 之神,也 彼本執,常在,唐家,由,是觀之。 梨。慈氏成佛留以傳 淨 於雙徑,也必矣。抑無準夢。烈大夫獻,明珠 海眼經 少年 禪源寺化綠疏云。爐鄉不、珍於芥城。鼓唄 我 者。若、合, 符節。顧弗、偉歟。松雪居 語。遲怠之間。昇,大臣官。已以不、遂。 志,八人入,市之日。而 "本意。早欲" 渡海。而副使長谷雄朝臣 將 於桑域。華嚴舛須彌山頂品疏云。 m 神 。且神自 時 好,釋殿。譬犹 涅槃。告, 曰。觀自在證圓照三昧。則今我神 |有"入唐之心"出 ,耶。何以言、之者。盖珠以表,其東海 稱能主,一切灾異。故獻,廿一 迦葉, 付 』明月流影徧 一日。姨母所、獻金縷伽 身之後 我祖 。神君頂謁 得恬然耳。 被任 應 高僧傳 士高 無準 依 見 使 清 聊

梅花海。

探得

·風第

一枝。

』便宜。恰似擔泉帶,月飯。

江南是處

晚召 泥世 氏不 俗諺 吐墙東。謂 質。生死本空。 空自心。靈明如,精金,躍,治百鍊,益聖凡平等之心。一悟一切。悟身世幻 敢不。盡以告。若要默識佛理。即是禪宗。便是 以失念生。中華。爲、名臣、爲,鉅儒。於、道問斷。偏 有,習性。而此習性謂,之種性。亦謂,之道 下百世大儒。學行冠。 見,梅 之。臨終得力。永出 皈。越使諸發執,一 刀說苑。大庾嶺 二大顛。遂通 有討 芳。西湖處 師曰。日 教。所以忘佛 語先生宋景文公詩云。江南寒意薄。末 日 便宜 THI 也 士云。 佛 心體獨露。 上梅。南枝落北枝開。出,于白 .禪理。居訥 神君 之語。 月 枝梅。以 m "輪廻。文忠聞之。密契, 面佛。山谷六言曰。金鉦 佛之道以。悟心、為 1910 本朝。皆累世生體。道 省有,觀音講式。 祖 師 悟身世幻假悟之 旦 不敏。仰承下問言 遺,梁王。見,于 尼。昔退之亦如此。 偈云。 古長存。 擔 真。外診無 今此一 泉 若能 種。今 本 卯 帶 方 臘 金 月

绿

章 竊効其 八體。必 凌宵峯頂唱。祖 有,辨,之者 機。神人未

圓 離桑域

照

七世世

上善知

識

始

一入、室親傳,金縷

衣

遷,徑 慈。謁 參學。 師 道 以則珠二十一 阴 師 明 旨 釋氏稽古略曰。宋光宗甲寅紹 殿陸 如 月 -。 後 出 日也。 師範。 池 山。召 無事 建 生 來机 鄙 破卷先 *接 高 明 山 破 州清 時。 待 入對。脩政殿。 生 卷祖先禪師。符業 膀 座 師逆知其數。不 州 目 -說 年寺燬。先是師夢有。烈丈夫 是年七 御 禪師 見。松 蜀郡梓橦雍氏,是年 颗。莫知謂何。及。寺焚則 凉移。焦山、遷。雪豆。詔住。育 法 退耕乞子。朝入寂。 書 。帝垂 賜 於 源 月 平江 額 岳 有 簾 賜」金襴僧衣。宣詣、慈 於靈隱肯堂 E 動 万 西華秀峯。 旨 而 粲無文所撰行 聽 入內 容 年 凞 纋 İ 五. 賜 年。 -續。又樂。空 塔,全身于 號佛鑑 Ŀ 色 月。 頓 充 無準 御 安 悟 於淨 彩 修 M. 王 狀 禪 戒 月

峯再世。 殿]1] 之父。有。如此之父兄。所以凌、今震,古。 拙和尚養,無準頂 昧。 眼。 明 峻。 師。 凌霄最上頭。白日青天撒 矩。万鍛洪鑪。乃文乃武。石田師之兄。破 梅 曩 道 花 服 德年中 僧夢見。 師號。又結。花 林 本色。蘿苴 佛祖 冬御 濟濟兒孫 大覺璉乞還 不,妨袖,手看,風烟。悟心和尚天神費 海 総 架 見。 半 沒之靈。 宗派 破菴 十里 = 日 師 樹。 舒 奏對 水 一納。七世衲子生冤。万 香 編。寰宇。南 服 嫡傳。宗通眼活。 圖 不一物。 山 邊籬落忽橫 挂 跋 詳 (相)日。 背於凌霄之西 如 有人 日 。平半 明 É 為飯 予住 Ŀ. 左經臣探梅云。 六載皇都 獨立 師 肩.叉.雙手 為 堂和尚 É 何以無準繩有 山 藏所。 之動 枝。陸渭 H 之 龍鳳 鑑 . 七世人天 窓。入監匪 三年。 賜扁 4 無準費日 地 唱和機。清 仍龍門饒 之姿。 痼 何 袖 则 天。 試 抓 寺 序 照無 摇 111 大 兵 灾 布 215 金 規 裸 城 岭 四 1/1 道 4 ßfi 稍 冠

梅 城

小調云。流水冷冷。斷橋斜路梅枝亞。太史公 至"初夏、有"二十四風信。梅花風最先。朱新仲 上雪。恐有。夜來花。東阜雜錄云。江南自。初春

梅城錄畢

占。百花之魁。我神君所、鍾愛。故卒章用、之云。 論。屈平,曰。其志潔故其稱,物芳。盖孤芳皎潔。

這一卷。以

東都秘書監小野求藏書寫之。

天明二年壬寅秋八月

塙先生刻,類書,也。屬、余校,此篇,乃照,弘文院秘 本一響對。 傍注補闕者四十一所。正誤者一百八十 伊勢介藤原長桓

四字。

天明丁未三月

昌平啓事河世寧識

百九十四

群 類 從 卷第二十

神 祇部廿一

伊勢事

廿二社本緣

勅爾 非內 を內宮乃支申す 毛皇乃字平可 湯殺,加之由。外宮連々申 波皇太神宮。外沙豐受太神宮登奉"號志、豐受乃宮 仁入給之時。為一在所謝乃,造一登日形乃鏡乎,云。 稱前內登。豐受波遠宮仁坐寸。依遠津宮平稱一對外 ·s。先內宮波神鏡大坐也。昔天照太神天乃石窟 可 神宮七內外宮 一縁起せ志 夕 登被,加申請留。 義爾。皇太神波宇治仁坐寸。仍宇治乃宮乎 式條仁在。其乃法。末代乃今皇乃字 事 座 也 可也。 神慮難、測事也。又內外宮波 大方多外宮乃鎮座依T 仍二所太神宮 1登申寸。 之。 然而 天神 內

寶乃鏡。 別記 大神 威仁畏給天。 初民渡。同殿仁坐給。 同,床共,殿以為,齋乃鏡,登勅シ給幾。 日久。吾兒視,此乃寶鏡乎。當之猶照視,被吾子。可是 瓊々杵尊天降給》時。太神持天此寶鏡子 乎奉,摸意也。其後太神此鏡乎實送給天。天孫 其狀美麗仁座寸。仍此鏡乎真賢木乃上沙枝 乃意仁不、合。是紀 石凝姥云神乃造給 仁。以來 七奉、寶登。天太玉乃命乃稱 明仁麗天恰毛如澄汝命乃云。 神代三代。人皇第十代 石凝始乃裔 伊國日 此乃御 之也。 召 前旬 時 天 仁坐寸。次乃度比鑄波 初乃度比鑄志波 神代乎 大和 福司 毛仁 國 一崇神 去 神勅等具在 H 宇 吾之所。捧 神乃 漸遠 天靈 FE 乃御字乃 仁懸豆。 郡 一
祀
之 御形 湾火 留神 施

Ŧi.

神疾禮其裔 原 此 坐 河 皇 如 神 别 神 劔 所化崇 仁 須摩 1 11 頂 代 有景能宣。 沙 李 E 田 六年即 劒 同 年 仁 垂 仁 此 天 波 久鑄 前 座 鎮 平 天 禮世 目 素 乎此之景 豐受乃神 天。皇女豐鍬 座 里與 シ類 天 流鳥 乎 拾 也。 給 祭主 皇 神 召 筃 彼乃皇女頂 无 宇 月 免 不い記り 也。 行 詫 乃 。是波 波 神 甲 皇太 御 護 乃間 和 乃御 平 前 右天 浩天 子 乃 宇。 奉 姬 之繁 + 身 獻 天 入姬 仁 宇利與 留和 神 17 皇女大 等 乃 種 命 神 =/ 內 宮 伊 仁 戴天 目 給 H 乃 シ登 乃命乎之 迎惠。此年人皇第廿 代乃與 天仁。シ 宮 尾 登崇 勢 猶 職 丹後 =/ 給 張 國平 平 國 國 剱 簡 利 雜乃 倭 乃 任 天 波奈禮 此 座 N 寶鏡 神 度 國 姬乃命天。 遍 乃 乃 圆 給 乎 無幾 乃裔 令 无奉 會 刀 與佐 巡 由 時 後 歷 幾 仁 郡 登 斧等乎 來 給我。 天 移 給 乃 柿 靈剱 Æ. 乃聚 乃眞井 不 宇。 造 3 劔 天 + 齊。 給 可 也 四 第 同 ÷ 鈴 先 造 廟 雲 波登 知 今 + 太 百 同 天 此 0平 乃 天仁 乃 仁 75

> 登云 原廣 幸云 坐 乃 尊 天仁 姓 月 告 代 太 仁度會 豆阿 乃人乎 毛七 御 坐 雄 也。 。登 王 °利 靈天仁 々。 已上。 繼 略 內 惣天伊 一方命 仍 謀 聖 天 為 外 朗 部 反乃聞 坐寸。天 武 皇 乃制 毛。 年 使。 山 勢 天 卽 此 午戊 H 皇乃御字 度皆計 太 其 秋 志阿利 位 相 乃原 孫 神宮登 禮 殿 七 11 瓊 時爾。 王 月 爾 乃 _ N 氏 定 坐 新 年 差」メ 杵奪。 申 天 大 之也 也。 宮 已了 為一个祈禱乃一初天在 也。 平 中 仁 仁 是利與 勅 年中 鎮 臣 當 奉 神 天 使 坐寸。 齋 ·
> 幣乃 利禮 乃見 波 平 七大 部 天 所 天 屋 奉 1 時 젪 大 乃 皇 宰 迎。 部 波 太 國 倭 根 毛 大 以 平 神 乃常 娅 御 命 貮 四 "天 宮氏 同 乃 夢 行 藤 姓 匹 立 命 九 乃

石 清 水 事

仁始 宮登號寸是也。 八 代 幡 天化 譽 宮 田 現シ 本宮 天 皇乃 給字。 波 此天 豐 御 前 垂 皇乃 國 跡 批 字 地 御案波胎 第 佐 册 宫 代 仁 所仁。 座 欽 內爾 寸 阴 11 天 식소 人 无. 皇 皂 處乃 乃 御 第 與 别 字

告。帝 摩宇。其 僧行 示智禮世 譽 仁シ 幡 國 內 后 異 H 御 新 我 測 時。 施 敎 尾 和 羅 坐 波 IE 平 73 往 容詣 利 薩 57 仁近 道 光 大 云 昔 75 書 濟高 未計 H 依 云 明 武 ग 苦 垂 所 乃八 今乃 久 磷 天シ \$ 治 御 豆 行 薩 天爾之 可 彼 化 麗 留 權 住 清 皇 致 男 感 現メ 幡 給 乃宮 等 達 跡 乃 和 發 乃 應天 山 守 儿 宇 乃 te 袈 乃 御 仁。一 天 皆 登奈 デシ 幡 國 天 石 日 國 朋 護 裟 子 皇 [In] 誓 得 久 和 平 聽 清 也 神 --仁 御字 勅 彌 夏 開 45 願 和 33 解 上。天皇乃御 水 映 得 75 な。 陀 之給 平 成 # 光 乃峯仁 九 敎 道 徹 給 脫 行 皇子 乃 貞 乃 旬 大 幾 爾 1 以 苦 利志與 幾 = 御 敎 觀 乃 般 神 來 有 御 奪 衆 稱 然禮 1 件 間 年 詫 若 八幡 不 美 Ш 部 生。 也 夢仁。 乃 73 比菴 亚 町 形 經 家 乃 袈 和 動 此 故 跡 嚀 和登 平 娑乎 神 豆仁 天志 國 N 平利 號 法 FI 仁奉 男 安 書 化 攝 功 乃 波平 性 也 初 山 勤 頂 現 寫 津 胎 皇

机。 有之。 乃 是 御 波。 佐 議 院 追 使 留 勅 利與 仁計 。留 は、七 御 等 7E 討 中 和 殿 中 P 乃 天之諸 代 天 事 海 下 御 乃 縮 之 和 和 和 行 R 官 朱 乃 神 光 和 法 御 時 不 平 報 參 司 绮 神 致 帶 作 HH 近 飾 殿 世聖 向 謝 造造立 依 乃女天 崇 心照登宮 1 ブ 天 和 天志 院 平 巷 7 也 寺 御裝 乃禮 字 皇 大菩 乃 供 御 武 又 遇 御 云 乃 本 任 留も 願 加 坐寸。定天有。 天 亦 な。 宇 束。 御 融 ラ 乃 行 -1 平 皇 E 3 幸 異 宫 泇 院 钢 引 西原所 _ 致 SP Ŀ 乃 每 東 始 殿 四 ガ K 途 具. 此 他 儀 卿 年 御 平 見 大 乃 天 遠 細 仁 栩 波爾 加 Pin 御 行 乃 毛 寺 胩 給 自 奏 12 波奈 女體 放 [1] 也 大 战 ¥: 時 。迎 利與 建立 75 是擬 聞 殿 臣 33 生 絡。 波 仁 ブ 在 抑 施 連之計 ア 浦中 比 會 代 经 华 プ 御 行 間も T. 之 Di 仁 0 市沿 和 ° 7 時 幸。 太 被行 波仁 宗席 造 時 併 度 1. 度 記 II. 獻 測 后 乃 後 當 H 公 官 府 所 12 仁 於 勅 神 宫 宇 將 11: 卵 YX ア 乃 幾阿 他 刨 將 條 例 处 11 天仁 75

由詫給 和武 天假爾 乎石清 肺 校 仁 也。 祠 敦實親王 彼 備 坐寸。 申 乃 官 百十歲。治天四十一年。仲哀第四乃王子。十六代。 大菩薩。 波仁 仁計 °留 內 御 弟 寺 留左 和仁 後 乃 和 被 或時。 平 IF 紀 水 又和平岡仁。稱德天皇乃比和和氣 次爾今乃男山 和 大臣 圓 いた安置。 巡 乃外 氏 平 專棟 撿 校 如在 男體 初和筑紫宇 被 城 禮 輩 僧形乃御體箸 皇常元天。 殿仁 寺乃益 =/ 補 補一寸之仁。行教毛俗 別當 乃儀平 梁 給 僧形乃二像平造天。每、日 任: 不及 乃 安置禮後の 別當 臣爱之補佐 及俗官。皆 信 子角 卽 被 乃御字。 佐 行則到緣 僧 改 此 幡 和 仁下 宿 IE 安宗 乃 大菩薩 造 平分立給 保 也 禰 御寸。 乃 奈良乃 延乃 3 紀 天仁 乃後 大 沙 仍 申 氏波於 姓 起 可 法 當 汰 回 和 其後 計左留禮 胤 紀 也。 師 利。仍此 改 仁 禄 出 火以岐亡移 補 氏 也 種 家 是毛 乃 仁 御供乎 叉 和 可。紀 叉當 也。 因也。 氏安、寺 燒 一乎給幾。 神 聖 式 得 初 給 武 部 功 紀 行 御 度 乃氏 乃 宮 氏 皇 應 撿 體 被 卿 寸 敎 依 75

> 也 自 時。 姬。 八 借 幡三所登云事。 稱 云 飛鳥 御 龍 Þ 德 母 王 天 乃大明 和 仁 加 皇 給 || | 海 功 曾。安久平計給之。譬□智 皇后。 神乎使登之自龍 時 御 物 身 和 毛 不 和 應 神 被 天皇。仲哀。后 仰 宮 元 干珠滿 な。 責,新 羅 珠 和 ゥ 給 依是 乃王 玉麗

爾 若 明 天仁 三人共七申登 本 若宮登 坐寸也 神 宮 地 也。 事 巴上。 币 應 行教 出 和男子 神 家 云想。若宮 乃袂 毛仁 幡 釋 天坐寸也。 御 迦三 移 姬 1) 和仁德天皇也。 约云 給 Z 若 々。真 時 男子 宮四 和 言 「所登云 30 愛染云 人 彌 卽 坐 陀 4 7 乃 和 ---TF 其 姬 大 4 尊

賀 主 別 乃 茂 之 神 神 社 登一人。 也。 賀茂 葛木乃賀 賀茂家乃陰陽道 和 山 城 茂 之 賀 波鳴 茂。 登書里計 葛 乃 木 補 乃賀 神天都 茂 八 天登坐 齍 重 也 寸。 事 此 14 各

武津等 來 道 歟。 仁 以 波 胆島 國 地 云 何 天 通 黑 和 天 乃 75 浦的 仁 本和 賀 無仁 乃 中 神 45 御 也 デニ 平 乃 茂 伊 州 加 46 毛登 嵯 失比 祠 70 同 咫烏 勢 所 寸。 仁 云字。 云 為本 登上 乃官 波 月 궲 此 達 由 35 見 給 1 伊 乃 乃 也 詑 乃 F 3/ ス。 所 御 化 利惠 和 宣天。 1 57 祭 [m] 神。 號 昔 賀 但 見 天シ 各 時 國 禮 羅 此 波 皇褒。天其 ス 大 茂 神 => 不 同 利與 别 稱 1 外 賀茂 賀 時 下 烏留都 乃 准 武 證 彼 近 用 茂 神 ŀ 此 縣 天仁 衞 天 乃 之。 乃祭 郡 代 乃 登 今 。奈 4 皇 乃 齋 苗 府 別 仁 御 翔 魂 主 云 下 登寸 宮 裔 功 東 鴨 已 震 雷 坐 事 事 里 命 J. 云 智 仁 平 征 留寸 此 下 下 4: 都 利惠 自 飛 和 乃 沙 茂 乃 耐 厚 和乃 依 天 孫 時 天 雖 崲 利 1 使 77 良 鴄 本 貴 々世 前前 75 乃 平 各 山 鴨 賀 御 建 縣 神 留留 給 社 和都 立 死 别 賀 平 類 加 津 73 申 仕 宇。 13 奉 登奈 岭 茂 伊 主 乃 乃 下 手世 命 被 鸦 由 是 絕 事 儀 普 豫 波平 1

> 條乃 幸。必 利阿 圆 領 以 院 毛 73 有 前 ス 惣 餘 行 當 乃與 由 幸 加 社 利 耐 絡 41 餌 天仁 乃 爾 不 45 時 也 有 H 准 ス 行 融 Ш 也。 寬 幸 院 城 崇 凡 乃 以 平 179 I 付 國 來 乃 禮 天 111 御 行 SP 兩 異 勢 杏 時 計 * 他 八 利奥 利阿 留奈 哪 3 ¥ 八 智 給 也 仁学 月 没 惠有 173 波乎 爾 750 臨 上 後 今 波顺 社 時 者 行 乃 天都

都

松 尾 引 神 當

大歲 常 神 不 松 不 波爾賀 尾 同 見 聊 體 乃志 社 4 事 個 神 茂 野 煦饮 羅奈 和 TE 乃 都 共 41 跡 偏 别 見 御 也 爾 社 乃 里多人 彩 子 難 都 舊 75 113 起 用 乃 41 143 不 利奈 之。 本 鑪 此 然 知 紀 序 市市 ŀ 乃 乃 1 乃 1 胩 H 御 1 10 木 菜 73 III 見 ti 第 秘 盗鳥 船 Fil. 舊 74 12 败 1/2 不 12 7 能 北 水 C 御 給 羅力 寂 紀 E 2 仁

德 45 75 野 御 73 弟 計 毛登 常 云 波仁 利惠 舊 記 天 不 詳 75 TE 跡 丽 利 Y2. 1 1 源 if 氏 乃長 顶 和

卷

思 膝 領 坐。 天皇乃然 氏 仁之乎。源氏乃 若 E 隼總 統 御高 サ是 ブ 别 乃皇子 表 궲 也主 H 父 等乃祠 氏 等乃 也 前市 歟。 猶 也 祠 是波 官 可 官 然 毛 勘 毛 應 而 如シ 知 神 者 寸。己上。 一德毛 第八乃御 乃宣 被 加補。 祖皇和 豆仁 補 1 IJ 之。 之 繼 不

稻荷事。

天志稻乎荷二 ト世テ與 給登尋 此 當 僧 此 招 寺爾 , 檜尾 神 都 計 茄 成天 波平 F 志 佛 酮 當 乃 此 申 法子 天遠與 乃說 僧都 人乎 奇 老 利羅都留 連左 異 波連 守 波爾 %嫗乃異 實惠登 乃思 中 ·計 休息世羅 勝 給 弘 門 北 波計。連 地 登~ 法 叡 乃 於告 五宣波計 平 F 云人。 大 體 乃 彼 擇 Sn 1 師 我。數多乃男子 事乃體。 禮 波仁 天 大師 閣 物 東寺 承 彼 比 今乃 利 語 諾 乃寺乃 叡 師事也。 志給里 仁 申 坐 所 神 直 住 寸。 爾 ス。 車 也 給 南 鎮 我 鎮 大 人 173 何 留計 44 眷屬 大門 師 守 登 乃 時。 平 天仁 出 所 不 削 師 仁 守 御 华 惠向 給 見。 與 被 垄 天。 護 天

荷 寸 中 寺 是 參 事。 僧 山 何。 IE 社 行 御 仁 助 之。大 污神 門乃 也 乃守 I 無其憚 日 為 平 歌 山 貴女對 後三 勒詩 與 [久。當· 仁茅 官 王 惣 無上 遊登成 號 曾 供 師 孵 之行 持 條 机 仁 破 御 乃 山 稻 身 神 日 院 次 天。 寺家 見 神 屋 マ云 時 和大 荷 宇多 久。 一々。法 也 化 徘 摩 布 行 乃舊儀云。初乃體。 坐 中古 明 煙 平。自 徊 幸 吾禮非,凡女仁。是聖女也 師 志 留 歟。 且 神。崇法宿 也。 天志 原郎 性 結 也 是乎供 和 神 以來烈表官 春 本 羅 為禮 房 乃數 毎 川之 日 地 其 稻 家 夢 年 上 事 荷 翌 平 毛仁 記 寸。 乃 。舍萬之會場乎。且 淨 來。 夜。 猶 目 入 禮 云。 權 又太摩 留於羅 砌 行 可。尋之。稻 攀 帝 禮 現東頭 容 拜 社 稻 也。 革 和仁 乎荷克 臭 御夢云。 此 寸 仁 稻 女人 舍 否 加惠上 我 乃嶝 波 東 荷 一个聖 利 里豆登 妙 希 給 社。 仁 彩 會 貴 荷行 惠 稻 有 利シ 女 共 按 山 女 -1 仍 與 和 乃 荷 僧 後 爲 登 如 幸 社 乃

緣

卷

第

留奈 志奈爾加 乎利 仁 夺 各 和仁 天 降 代 筝 44 此 神 平 别 天仁 里 乃 乃 市市 也里 坐寸 本 給 往 乃自 也。 淡海 初 궲 $\overline{\mathcal{H}}$ 乃 計 耐 和 3/ 咖 耐 仁 加 遙 部 兒 日 時 登都 坐 彼 神 波 也 應 公 乃 73 本 寸 嶋 屋 天 7] 帰 諺 中 75 嶋 八 見 紀 本 兒 神 根 五 毛尔第 景 胩 和 12 遷 百 天 里多 等 祉 魏 曾古 命 屋 本 雲 勅。 年 宁 給登 萬 仁 但 和 彼 乃 槌 根 Ш 乃 月 年 異 神 見 र्गा 所 里與 神 背 天仁 神 命 平。 平 1 乃 利惠 內 云 N 遷 他 殊 姬 乃山 天仁 首 城 景 香 傳 政 天仁 里 大 爾_ 七天 仁遷 天仁 事 坐 事 志 取 里多 雲 平 給 科 開 寸。 卅 多 奈 也 四 仁 īfii 1 3 活 毛宇 里二 孫 幾左 。連 神 ---ハケ 坐寸 所 。都 留 藤 幾阿 爾留 仁 今 也 波乎 v 里登 神。 御 坐 遷 原 天 春 ं [जा 其 大 和 77 不 齊 此 事 歟 =/ 氏 兒 伙 其 H 興 織 翼 時 主 給 也。仁 前巾 屋 雁 祭 福 th 大 冠 シ 波 神 也。 御 當 給 根 本 乃 刨 寺 猶 天 中 乃 崲 事 宣 处 神 耐 勸 乃 社 由 $\exists i$ 孫 臣 平 和仁 其 皆 J. 鑓 平 命 請 鎭 部 天 神 氏 和仁

社

有

C)

共

類

者

也

事 氏 事 嶋 社 加 仁 依 坐 神 有 1 乃 各 天 諸 遷 給 궲 和仁 毛幾 市市 N 登 給 不 4 和 10 也 仁 X 有 4 乃 坐 秘社 大 也 幽 囧 云 之家 秘 織 契 仁 モ惠。登 縱 香 說 冠 仁 坐 依 取 誕 也 所 寄 寸。 和仁 毛都 4 N 宿 四 下 餘 此 乃 天仁 所 志 野 乃一 說 初 給 乃 各 73 H 此 歟 御 朴 所 宿 如 神 殿 图 和 就 化 分 答 給 仁 1 1 前 嗯 现 明 留計 宿 姬 給 天志 也 11 舳 大 和1 震 我計 天仁 如 神 然 留 旅 乃 살 又 相 此 K 告 也 心 殿 旅 75 ガ ブケ

盚 應 逆 也 伊 士 驿 势 嶋 叉 和 也 也 几 to 應 所 月 然 香 嶋 事 + 波 取 73 當 第 妹 和 王 H 也 +) 菩 庭 六大 神 际 嶋 也 第 凿 新 陸 雁 香 雞 仁 山 取 h 之 本 第 湾 抽 時 T. 和 ハ 被 4 不 庭 貴 国 心 H 紹 第 和 也 索 爱 几

寸 皇 香 御 取 孫 於 照 經 太 津: 市市 主 降 皇太 33. 云 神 筎 4 紫 皇 天 御 H 11: 孫 向 彦 乃內 國 12 高 侍 火 F 到 所 種 神 17 想 杵 押 觸 資 乃约 坐 劒 1 御

中 性 般 華 後 天毛 世 後 天毛 天照太 取乃津 神乃政 立天被 仍天飛 申 三國 五 種 寸王 乃 神寶 於 主 四 1 に仁付ル 都申 所天仁 持給 子丸請 子 也登 神問 N 平御使登志 平 1 越經於出 御寸之間多。天竺晨旦本 持 也云 云 云 不達不、絕樣乃 也。 F 事 自 取 久 尊 此 御 之庭 ァ乞奉 然ル間。 今日 可 所仁御寸也。鹿 不 天志 筑紫 秘 留左 合葺尊。 嶋 和可一登 此乃故 々々。 n 立 香取乃明神乃 詞 H 八 和 仁云。 向 請取 三代 万 千手 始 行久 爾經 國 留摩 歲 嶋 也。 伞 乃婆蘇 於 此後無任持來天 里奥 在 津 兀 香取波天照太 朝乃年貢平香 百 可、給之由 波計 主波登 + 天 貢乎奉 歲 禮 飛子 照 仁 仰。庭 申寸 万八 仙 太 至 人理 也 九登 神 天ル 也 嶋 °糜 平 波

神 II:

同 此 神 也 和三輪乃神 出雲乃神 豆腐 ,御名多々也。大己貴瑶大國主 坐也。 本 和 出雲乃大己貴乃神 登

牟在 乃孫。 汝八出 居。三輪之神也。本紀。此神昔娶天三嶋乃 H 幸 也 久。則汝是レ 得 神 已美。其可,與吾此 莫不習和 久。大己貴神 母后 毛都 大物 本 魂 光 独 <u>人</u>哥哥 至及上盤 者。 照海 國 奇魂。 稻 或 雲天稱之。 主 H 之三諸山仁。故即營, 宮乎彼處仁 汝 毛卜 六世 姬 其 平忽然登志 順。途七因言。今理此國乎唯吾一 能 云 今欲 神 誰 興 大造 也 乃日 4 " 石 邓 程云。 天志 车 或說爾 草 + 今 此 之績爭 言 久。 對 此 木に。 理"天下平 大 何處仁住登。對日。吾欲 乃大 天日 唯然ご 共二 國 E 物 有 平 大汝 咸能 夫章 市中 主 浮 久。 H 矣。 哉 和 乃 本 吾是汝 來者。 廼智知 z。汝刊是吾之 素盞烏 御 是時 强暴。 由 者盖有之乎。 原乃中 紀 神 名 我留 仁 和 波平 曰久。 見里。 大己貴 吾 然吾已 素瓷 當 幸魂 國 尊乃御 在爾留 社 如 日 高乃无 本 仁 使 清 語連 故 神 本 號 奇 容 就就 爾 身 問 摧 紀 志。 魂 而 汝 就 御 世

登可下成

見利。然者崇

難シ給ニ。

倭迹々

H

百 若

想テ

ク。

天

乃初。

國內

仁

何憂。國之不。治

也

能 襲 神天皇

々祭: 姬乃

我乎者。

必當言仁

宜 有小

久 領 疏

天

八十

-万乃神

乎。

永久為一爾皇孫乃

奉 平

高

然い

一十万

神乃

統

領 御字 命生

iĽ

間

故

爾今

吾女配

姬

國眞穗御諸山。還天視一等乃遺乎。 天國家擁護乃神 **一河神台。這八十万** 神乃御魂耳坐禮 吾猶汝乎 皇產靈 妻金世 護 加克 所 朝 是神 農之能。 見悪多 告給 等歌 祭日 給 佐 弟氏 活 麗乎攻給登。筑紫石 禰 瀰 平 階、獅 日 枳 和能等能 一神氏仁 五穀 破。 矣。 神乎祭給用。 4 由 ŀ 日 酒 活 云 坐也 和 介 。宇麻 介瀰 其後猶 平 和 H 人 旣 加里之。 耶 能 濉 餓 神 有 仁成。 巴上 渡 等能 國家 和 佐 之獅 潮 酒 潮 り。此乃人天志 (l) 塢 ŀ 天皇及三人乃臣。 開 积 和 乎奉天獻二天皇仁。歌出 百姓 祭 云 於是疫神 根 乃 17 那 諸國 卽 能 瀰 也 崇 災難平 羅孺 。伊句臂佐 神 [Su] 等 和 饒 給 宮乃 珥 能 能 又 75 足上 乎。 毛 渡 等 兵平 柳 沛 大神 始 兵革乃時七殊七可。 共 111 々 严 塢 能 云利思 功 天息美。 後 於開 召 於。於舒 等 皇 々。阿 。伊句臂 天 乃 仁 同 諸 那 皇歌 学 卽 五幸 國 夜 須 佐 新 酒 國 73 夢乃威 佐 Ē 維 寐 妍 於明 行 Ė スト 内 兵參 橋 云机。自 羅 川 計 Ti 11 此 ブリ 洲 守麻 此 濟 邑仁 大 华 神

夫 能

伊

乃神子。

誠數数乃 汝若シ

至乎陳給點。天神高

天 界ラテ天

日

久

以

國

神平為妻。 天三穂津

乃쎈

海 和。

中仁隱給字。其後

大物主

臣也。

本云,大三縈都,又大物主波大汝

別

名

扎 神

唯有二二一祭。已上姓氏錄說也

此神之苗裔

卽

知

大

以宣三輪乃神

大物主登。

彼

相

違。

昔

大 平

汝 - 為

神

此

國

チ

奉避。

吾顯露

皇御孫

當治。

吾 旣

和將治

<u>-</u> 図

豆都。路豆

績、学

衣

明

隨 去。

苧尋霓仁經=テ於茅渟

之女玉

姬

於 至

未

曙 仁

未

曾曾

畫到。

於是玉

櫛

依

ブケ

陶邑。直

大和

倭事

神登 波大地 尊崇。 髮落體瘦不能 殿乃內 人平志大國 時。 此 社 和 他爾異奈 神毛仁 ₹/ 主都 爾 歟 大國 加温料簡 景給。 出 崇神 一雲乃神 大國 現乃神乎祭神主 登寸 魂 神 神 此 皇女渟名城 祭登古 天 主き 仁 時 仁坐寸也。已上。 息 乃 乎 坐 乃 天 叉 事 顯 出 ス。 記阿里 御 大 宝罗乃神 照太神平 國 此神 代章 和 玉 」其後 乃國 毛都 云利惠 乃 姬 仁 見里。多 坐留可 市磯 天照 一个座 御事。 命 别 所 亡 玉波 志給 歟 長尾 一院給 爾 太 是叉上 諸 遷之 神 大汝 則 平 說 iji 総 登 大 魂 下云 。皇女 給之 古乃 同 乃神 和 乃儀 同 大 73

都云。 盞鳥 都 此 云利惠 社 约 波又布 乃蛇乎 語拾遺乃說。古 話 和仁 留 大蛇乎 斷剱 社 都 或 波平 云。 日 33 蛇 此神 久。 R 麁 都云。 劒 Ĩ. 乃 和 1 御 吉備 云。 此 事 劒 叉 乃 有 和 石 神 兩 天 Ŀ 部 說 75 一乃社 乃登毛 333 波爾素 所 七坐 R 斷

> 十種ノ 彼字 天神 坐寸。 本紀爾見里。世俗乃說爾。 之運魂鎮。 彼乃命乃裔平石 登傳天獻,心天皇仁,天皇悅 神 舊事本紀乃咒文二布昭都書聞。已上。 不。依三天流速留庫留一布留 一次稱 志名乎, 咒文志布留也。 武 麻 饒 爾授十 出 名咒文秘說 速 志 雲乃 間 H 身體之中府一之儀 見乃 種乃瑞寶手 尊 簸乃川 兄也。先天降 上乃朝臣下云。 命平志齊祭志。 也。 上乃 更可。 給。 毛云事門。是極留非說數 告布乃依司·流計留。布 Ш 天鎮ツ。 是 共孫古字麻 時。外祖高 П 鎮魂都 也。此乃十種乃實乎 也登云。 仍布留 傳 石 上 魂寶志都 此事體仁舊事 仁 云 一說也。 乃神花都 安 皇產靈神。 和使 志間 置 給 見命 等。即 號寸。 流都 離 游 仍

廣 潮 計 事

乃瓊 都 此 云 耐 御 和 和。 名 風 19. 普伊 。天齊道矛 神 引仁 坐寸。龍 弉 毛云。 諾 神 伊 毛都 弉 歌 X 冊 馭 缚 廬 此 乃 嶋 关 神 仁 天津 祖 持 里東 F 柱 傳 給 給 國 马。 津 志 此 柱 天

緣

云里惠 也 嶋 更 乃 在 神 可。尋之。巴上。 處 等乃事 御名乎 和 天柱國 深 秘 乃 柱都云惠留 說 利阿 此 神 可有 彼 矛 預 深秘爾 里給 毛都

"

祖 H 社

同 風 前巾 大 原 天仁 坐 社 也 事 風 神 乃 祭 都云和。此 神 乃祭也。

吉 H 社

祭 歟 此 相 事 被祭本 同哉。 社 无 者 其謂 春 氏后 싎 日 き上 乎 歟。 和奈度 勸 和。 請 大原 然 乃社: 而 後 野七行啓寸。 藤 代 也。 氏 勸 依 乃繁昌 請 乃神 所 仁 乃後。 天爾 稱 同 彼 風 時 事 名於 儀 仁 也 算 被

住 吉 社

宇。 弉諾 底 筒 日 向 質 乃 乃小 神 4 生 筒 卢 乃檍 男。 軻 。黃泉摩追給志 俱突 。表筒 原星 智呼 男豆仁 祓除志給 時。 坐 有 被 小 焦焦 弖種 天登 此 海底 而 神 終 和 乃 仁 里 伊 誓 坐寸。 洗 弉 歸 t # 濯 給 伊 乃

> 給幾。併 能製。 給 坐。 住 給 筒男登云。 志給乎中筒 社 功皇后 哀天皇為 利。筑紫毛 時 和 吉 韓 仁 此 仁化 四 乃 平 前 1 四 處 征伐 郡 此 仁詫且 乃神 不 所 4 天仁 。是則 仁 咖 成崩悉。皇后 仁 1 男登云。潮乃上仁 給 [1] 坐 豆シ 乃 Mi 能製 本 祭 住 告申 市市 大 須 功 天 都 給 住 SP. 也 功 官 也 住 三韓 宇。 衛平 吉 底筒 給 連ィ波計 乎立 吉里都 E 11] 住 事與『天皇不』用給。 **本記** さ記 大神 男登云。 津 乎可。平之狀乎 。今乃津 吉 天。 怨 鎮 坐 嶋乃 和。 愤給天更 也 座 胎 筑紫仁 一浮濯 也。 古 1 3 HH 守 所呼尋給 潮 利與和 力天 H 前巾 浦 時仁生志 1 本 幸仁世 -0 仁 143 皇乃 歌 仁濟龍神 告申問定 紀 鉱 占 乃 祭進給。 里計 リケ 見里多 清 道 國 衣 雄 此 遂 給平 平護 11.车 1 咖 通 1 小成 途 الأرا 1 攻 國 4: 如它 常 伸 表 Hill 111 仁 3

H 社 計

五. 本 社 和 大 和 後 比 代 叡 乃 小 勸 北 請 叡 此 内 神 毛仁 坐 聖 J) 真 -3-宁 和 和 -1 ili 社 [11] 11 岸 號小。 創 1

第

比

社 本

百

毛都可 申也 鳥館 受戒 被請 大小 乃神豆仁 大比 同體 子平 見天 社) = 波可 申 乃御 和後乃 坐寸。三輪乃明 聞 剂 得 叡 申志七大小比 坐可都云 爱仁 勸 見惠多 州三 度テシ 仁 給 歟 叡 和 地 請 孫 異 也 三輪乃 聖眞子 主乃號 舊 刻 申 輪 也 菩薩 輪和 大 人 事 連志
波計 請。 乘 也上 利惠而 182 不 本 小 神 船 無具儀 號 相 和 本 知 紀 書 唐 神 比 志浮 仁澄憲: 似黑。然者 平 叡 傳教 出 小比 說 何哉 乃化 崎 叡 4 得給 ·後神乃御為登阿。而也致大師乃時與見多。而也 輪毛都 雲 乃濱 和。 遊話計 也 乃 乃 現都奈 叡 御 是何 近江 或說 申 Ħ 和シ 法 神 仁 事 和 一三所坐也。 歟 印 豆仁 船 地主社 里 祝部 和聖眞子沙 哉 秘 坐寸。 乃比叡乃神 其 宮 云 加 平 若 K 付 證 山 非无 A 和 叉 乃氏 々。 Ŧ 給 坐 大 不 地 都云 里計 城 此 地 乃 同 111 示 主 式 是則 先祖 神素 神 主 也 豆登 仁彼 度者乎 力。 平 其 和 審 云 乃子 松尾 乃 \equiv 幡登 一。常 本 餘 也 輪 神 聖 來 大 昔 73 奉 渡天志 也。 胤 僧 異 叡 波 其 山 天

四

毛寸登云幾 叉取ī 乃三諦。王 二宮 (乃由。愚 乃名 繁昌 乃 朝 上云 比 皇 决 皇城 衣乎造 日留登 乃 叡 傳 和 事 æ 寸都 此 芜 事 之 大 乃御字。始天祭禮 =/ 教 山 乃在实 也。 和阿 無 台 分 轉 大 地 和横乃二部 案雖,有 王乃名三 當社 天着 件 後 明留奈 疑。 Ш 山 主 話 師 神 乃 王 乃 世 無二乃師 仁有中云馬 无世。シ 仍愚案平加 艮爾-云 故 條院 神 肺 憚。 此說 坐留故 也。 な。 今乃猴 獮 也 天台宗乃三 也云 止 猴 以猿 在 傳 社家乃說澄憲我式 親 觀擁 毛 形 壇 乃時。 坊乃時。 敎 仁。 虚 な。 。又以,神 族 衣乃 也。 豆仁 載里。 皈 使者 乃 事 比 坐 護乃神都 凡 朝乃時。一 天 神 叡 ス。 也。 初 諦 山 卿 御 台 留登 且比 豆仁 万神 此 也 乃字 7 坐波寸 已下 台 舊 章跳 願 高京 其義 11: 事 釋 4 天仁 彼 登號 報慮 叡 也 チ 毛 。禮 寸 乃礪 乃 始 狮 本 乃 相違。 山 非無行 八桓武 口 紀 寸。 諸 天行 r‡1 艮 Ш 猴 仁 相 傳 仁 H 乃 乃後 司 和 猴平 仁 依 傳 幸 堅 기 1 比 吉 平 合 方 肺 ゔ

廣 H 耐:

意珠 廢 筑紫 坐 曲 見 廟 市中 黑。左 心不、准。 毛部 朝 功皇 右 中傳也。已上。 等リア 里阿此 神 仁 Ŧi. 也 右 后 所乃別宮郡坐寸。 石不不 毛八幡 此 社 委可、尋之。 若志八幡 仁皇后一 資珠 龍 同 波 和 三韓征 體 事 海 同體 中天仁之 毛都 又攝 也 申 火事 毛天坐勢宗廟仁 如 也 伐 社 何 得給惠 乃 旧 仁夷都 時乃 等波阿 樣 示 战兵皇后 留留 御甲 膻 由 號 進ラ宗廟 慥 和寸。留 日 御 胄 可 故 本 蛭 并 事 准 也。仁 子天仁 立其 爾 紀 也 仁 如 仁

梅宮 事

長 此 者管領京問 社 井手左 第8日上。 大臣 橘諸兄乃靈 也 仍至、今橋家乃

祇 薗 耐 事

此 云 耐 院 播 摩 乃廣峯 里奥 遷 坐 寸。 4 项 天 皇都 號

> 烈乎被 河院 也 人 幾 。 里 B 此 融 獻 社 院 時 乃人 御 已仁 與 時里與 隆 派 流例 志給 薗 祭 心思 75 也。 。其後與 女 仁預 御 都 給 號 字。白 行 李 里阿又院 此 शा 人 院 歸 御 依 時 中里奥 天仁。 泉 能 自 Y.

北 社

書里。後 常乃社 樂寺 廟 朝 右 座 此 登云 万次第 行 丞 神 里部阿 幸 相 和 乃體 大字府 字有 字多 親 始天作 X 仍 造 口里。阿 此 憚 院 天。次第平 乃天 北 相似 放 御 文 野 幸阿里 也。 裏阿 仍不、注 滿 毛手 有误 也 宮天仁 宮寺都號寸。 取置 作 代 坐 沙 文 K 之。 天 冰 方作 被 被 鎮 彼 新 北 造進 座 文和仁 依 乃額 正脚 野 乃初 如 75 天 七天 北 **油** 里。其 此 神 免 417 YX V 能附 鎮 滿 īńi 儿 里 被出。 放 條乃 宫 SP. 廟 先 也仁 沙 都

丹 生社 事

祈 大 和 酮 國仁 平山上 坐留 和相 丹 晋一别志當 生 लिं Ŀ 乃 社 加加 仁不 是 幣 也 1|1 144 間左 fali 毛管 J; 11

.j.

仍

第二十

社

りの此外皇都乃近國毛式內式外乃神多久坐寸。 物時國津神王敬上。神乃次第平辨。 齊祭證過也。 坐寸。式文披見、常仁念申給護也。且 之。况十諸國乃神和異,他爾,神靈毛有,功之廟 定乃義難。測里。然而已仁數代乃風儀 仁取豆。別违宗敬乃神乎被、定。細々仁臨 幣留。仍當社→加豆廿二社下號也 此 一中下乃品於被定事。中古已來事 市中 波賀茂攝社也 。所雨止雨乃時和丹生都同久奉 也。皇城乃近境 。此廿二社 也。 波此 時乃奉幣ア 仍大概注 國仁 一种仁 臨 撰 波天美乃

波伊勢仁同

乃神香取乃

神波天孫光臨乃前使都志葦原乃中津

神仁不。相交。出雲神、我國乃大地主天坐寸。鹿 熊野乃神靈驗新爾座寸。又有清天子細。宣命等手

嶋 餘

石清水乃本宮也。

香椎

和神

功皇后乃御靈。筥崎等

國平論給幾。熱田乃大神和天聚雲乃正體仁坐寸。昔

坐給井。尤可、奉、崇神也。筑紫乃宇佐

者也。 登申和天照太神乃荒魂也。如此事能々可。尋知 巴上。

乃別宮。又宗廟仁被准。

の伊勢に

神 直

日大直

日 乃神

廿二

右二十二社本緣以印本校合了

神祇部二十二

二十二社註式二十二社主式

官幣於十六社,止心雨。
南經,月。九天覆,雲。依,之閨八月廿一日被,奉。獻兩經,月。九天覆,雲。依,之閨八月廿一日被,奉。獻人皇六十二代村上天皇治十九年康保二年五霖

廣瀨。龍田。住吉。丹生。木船等。荷。春日。大原野。太神。石上。大和。伊勢。石清水。賀茂宁。松尾。平野。稻

吉田。廣田。北野。次第事。可,為,住吉次丹生之田。廣田。北野。以上三社,被,奉,獻官幣,為,十九社。萬物變,色。依,之。六月廿四日祈雨奉幣時。加,吉第六十六代一條院治五年正曆二年呼炎天送,日。廣瀬 龍田 住吉 丹生 木船等

上,由宣下。

官幣。為二十社。

秦。献官幣,之日。加"日吉社,為"廿二社。第六十九代後朱雀院長曆三年呢八月十八日。被第六十九代後朱雀院長曆三年呢八月十八日。被第六十九代後朱雀院是曆三年呢八月十八日。被第六十九代一條院治十年長德元年表二月廿五

二本。平埜。四本。稻荷。三本。春日。四本。上七社。 伊勢。 石清水。三本。賀茂。二本。松尾。二十二社次第幣數。

目吉祉事。可為"住吉之次梅宮上」由宣下。

卷第二十二 二十二社註式

本。廣瀬。 긆 大 原。 本。 74 本。 龍 H 大 神。 二本。 住吉。 本。 石 ٠ 四本。 本。 和

園 北 野 日 古。 丹 生。 梅宮。 木船。 吉 Щ 本。 四 本。 廣 H 祇

以上廿二社。

太神宮。臣下奉幣不,容易。

皇太子。若有,應,供者,臨時奏聞。

一本。前雨十一社。

天雷。 坐 内 恩智。 水 垂 水。 主 同。 木嶋。 應和三年癸亥七月 攝津 山城。 一十五日之例。 乙訓 同 同。 平 長 岡 田 河

同方 震 角事。 田 巽。伊勢。 傳 云 近社。 稻荷 自 當當 時 大春和日。 在所成之 廣大瀬。 龍石田神。 云

住吉。人皇六十一代、朱雀院治十五年、天慶八但春日一社之外不、卜、之。龍田。先例入,坤方。丹生。

六月 虚 年 韓 神。 炎干 月 御 日 四代 入,離方。 1 鳥羽院 全入"坤方"。 治十年永久五年 此 外 例

中。石清水。大原野。 坎。賴。或艮。 艮。 田吉。 地方。 草 北野。 坎。賀茂。 貴布 艮。鴨。 地方。 文。平野。 坎。賀茂。 貴布 艮。鴨。 但松尾, 一种。 石清水。 大原野。 石清水。 兄。松尾。 梅宮。

上 頁。智茂。 是 T。伊勢。 稻荷。 上或本云。先例。

未申

梅宮 高水。

大原野。 戌亥。平野。 松尾。 戌亥。平野。 稲

二十二社。

遷大和國字 神 延 皇太神宮 相 天照太神 一喜式 武天 殿 神 皇以後 座。 多郡 以前统紫日 儿代 坐宮 中。第 向 國 十代崇神天皇。幸ī 天降座。 人皇

宮。同天皇廿六年四十月尹遷。度會宮。第十一代垂仁天皇廿五年辰鎮。坐伊勢。是謂。 磯

左

齊

也 Ŧi. 同 --天 皇 鈴 Ш # Ŧi. بلي 年 是謂 辰丙 倭 碳 姬 宮 命 文 祭 號 天 照 渡 太神 遇 立濟 今 內 宮是 宮

皇城迟下。 + 九 代 龜 Ш 院 治 + $\dot{\Xi}$ 年 文永 九 年 申壬 愷 子 嵯後

武 第 九 元 华 + 戌甲 五 雖 10 後 有 醌 醐 天 皇治 了宮。無過 + 群 年元 行。 德 年

伊 荒 宮 座

月 佐 讀 原 宫 奈 宮 伎 座。 座。 。太神荒魂。去』太神宫,北世见文。 一座。伊非群一座。 月夜见一座。荒魂命一座。去』太神宫,北三里。 大神勢奥』志摩,現山中。 大神。西九十里。

瀧 原 並 宮 座。

雑 座 伊志 射摩 波國 神答 社志 也郡

伊 內 宮 所 攝 廿 四 座 神

朝熊 社 社 鵬 配 崑 相 社 士 御 湯 加 社 H 社。 國 津 Н 乃家 御 궲 社 社 栝 蚊 羅 野

朝

夕

御

饌

自

外宮

賽

经

內

m

X

皇

四

社 人 比 社 具 賣 都 坂手 元 伊 北 住 賣 國 II. 奈 配 美 神 4 脏 社 社 佘 良 狹 神 津 比 H 長 前 良 國 耐 社 祉 1: 社 果 大 捧層皇 った 多 原 -1-脏 伎 社: 献 原 孫素 形: Y 议 御 船 E

Ш 原 祉

會 今 宫 [74 此 座 末 而!· 也在 依 去度 五二太神宮 木 姬 獅 行 木 西鄉 七川 計門 里田 也 原

午庚

建

相 度 受太 殿 神 三座。 神 右左 前大 ___ 座座。天天 見津 屋彦 E根尊。太玉命 八々火瓊々杵 命

迎。 傾。 之 人 每最四月影四 伊 同 皇世 勢 11 時 我御 彼 國 百 神 度會 年戊午戊 八 可 食 我 代 + 津 秋 奉 朝 雄略 郡 几 神。 祭 御 山 年鎮 月。 食 三脚5万 自 天 田 夕御 皇十 原。 從 受神,也 丹後 坐 內 颠 也 食 宮 國 佐 可 年巴丁 鎖 那 云 調備。 與佐 座 贞 A, 天照太神 名 那 具 非 叉 名 祭 原 經 非 我 逻 御託 原 --木 坐于 10 水 宣 供

御饌 汚穢。 五代聖武天皇六年也已。今年正月十日。 也 永止,賽參事。於,外宮御氣故,備,進內外宮 於,途中

度會宮所攝十六座

河原社。 等美社。 御 小 月 保社。 神 夜見社。 社 御 河原淵 度會 食社。 111 艸名伎社。 内社 國 祉 玉比賣社 清野井 末社。 大 間 庭社 國 田 生社 上大水社 宇須乃野社。 高河原社 度會 國

祈 年

三千一百卅二座。欲、令,歲災不、起時令順,度。 人皇四十代天武天皇白鳳四年玄二月甲始之。 神 祇官祭

月次。六月。 十七座。案上三百四座。案

案上三百四座。静祇式。

人皇五十六代清和天皇貞觀八年六月。見,國史。

第五 十二代嵯峨天皇弘仁年 r‡3 一。此祭始被、行之。

神今食。

之。天曆勘文云。神今食。月次祭。人皇五 武天皇延曆九年失六月。於一神祇官曹司行一神 人皇四十四代元正天皇靈龜二年六月始被行 十代 桓

也。

人皇二十三代 清寧天皇二年酉 神代。素戔烏尊見、天照太神。當、新甞時。神化 新賞祭。十一月中卯。同"子神今食" + 月始之。

之。 觴見,于右。一代一度云,大甞會。每年云,新甞祭。 人皇三十二代 用則天皇 二年和四月。始此祭行

以上四度祭是也

神 衣祭。神代之滥觴也。九月十四

神祇今日。謂,伊勢神宮祭,也 例 幣。九月十一 B

人皇 四 四代元正天皇治七年養老 五 年 九 月十

,之。天曆勘文云。於,濫觴,者垂仁天皇御宇也 第六十一代朱雀院治九年天慶二年的始被一行

得神語隨 人皇二十四代 。勅使。 臨時祭。 教而 推古天皇廿一年齊有。臨時祭。是 祭 使王一人。 齋部一人。卜部一

行幸。

行啓

第四十五代聖武天皇治十七年天平十二年十月。

第五 第四 上十代桓 十九代 武天皇延曆十年業十月軍太子。

也。鳥羽院。 一十五代崇德院治三年大治元年。 兩院。自河院

神三郡。

度會 多氣 飯埜

卷第一

二十二

二十二城结氏

齎宮式云。 度會川 御裳濯川。見同

職掌人。

柳式。

忌。 御笥作內人物忌。 宮守物忌。 酒造 物忌。 地祭物忌。 ılı 陶器作物 向 物 忌。 御鹽 忌 焼物忌。 土師 木綿 器作 作物忌 物忌 清酒 物

忌鍛冶物忌。

御馬飼物忌。

御笠縫物忌。

H

守內人。 祈物忌。 御鹽湯內人。 人皇七十二代白河院治五年承曆內宮註 陶器 內人。 菅裁物忌。 地祭內人。 鎰取內人。 清酒 御炊物忌。 作內人。 酒作內人。 御巫內人。 ılı 根倉物忌。 瀧原內人。 [1] 内 文。 上師 内

副 清 酒內

內宮子良十人。童三人 外宮子良四 壬 串大內人。 以上。皆內宮人云々。 宮掌大內人

番撫大內人。

百十三

館 母。 宮宮人。

以 上。館 御 母 子 者昇 也殿 °供 奉 者地 也下 ·駈 役

廣 日 近。皇居。當居 Ш 神社 神 功 皇后。 國 御 懸 神 心 天 社 照 名紀 H 太 州伊 神 郡國 Þ 誨 .[隨 肺 我 荒 湖南 鎮 不可 坐。

域 散 在

命雄內 宫 宮 同 躰 社 社 內以 河上。 同 內建 相 殿 高勘 高安郡恩智神。 。式內 手字 力夫

造

替廿

康*康* 元自元章 年。 明^內德 貞外 和 元 0 11世代。 0 貞內 治 二自二自二 世康世康 一層三永

清 水 久山 世城 外郡國

人皇五 和 尚 法師位。奉二 和 宣 所 天 、皇真 內 男躰 參籠字佐宮。 觀 女躰 月 同 玉神 依功 月 五 媛皇 H

> 內奉、安云 跡 殿。隨則安置 良基。造。立御殿 身。爰行教和 教和 到來 14 尙 男山 致 御像 同 誠祈請 之邊。 九 六字。三字禮殿。同二 尙 月十九 袈裟之上 宿之間。更 將拜見權現 FI. 現,三尊。因 使 木 年 大神 辰庚 T. 造立 是 權 祈 允 神 亚

事。准字佐宮 延喜格目 貞 觀 置 十八 件 職 年 申丙 八 月 + Ė 日 官 符 神

使 始 用 納言

雅 盛 H 人 皇七 臨 朝 卿 臣 時廿二社 也 十八代二條院 官 右 小 以 將 奉 公卿 幣 源 也。 國 治 為 雅 石 $\mp i$ 使 但 清 年 定 水 長 文 使 寬 如 權 元 例 43 年 納 未癸 兀 付 言 五 源 4 月

同 社 放生會 事

申庚 舊 豐前 記 閉 守 H 人皇四十 字 向 奴 兩 國 男人 左 四 JU 向。 乎 元 將軍 IE 天皇六年 隼 豆止。志 等 平 御 養 伐 肺 殺 平 老 奉 兀

二十二斌註式

奉、仕留倍 間 柏 原先帝。 遇讓 位 之事。天 即位 以 削 應 二年亦奏之。 詔書普告,天下。至,延曆

國 字 1 建立云 々。

今件放

生

會

與自,字佐

官。傳

於 年

石清 放

水 會

施

語

宣。

此

作

人多殺部。

每

生

人

皇三十代

欽明

天皇廿三年正月。

胍.豐前

御位

卯五 月。 延久二年。 人 皇四 幡詫宣。 日十六代 比咩 第五 始行幸 向、京东。是日奉、授 一神一品。 十五代 孝謙 天 文德天皇 治八年天安二 皇 人皇七十一代 後 天平 大神 勝 管 ヹ in, 年 -j-三條院 北 IIY: 月 年 加口

行幸。

菩薩御影

-事

八 皇 五

十九代字多院御子敦實親王。

奉造立

大

第六十四 日 行幸 代 圓 融院 治 十年 元二年 三川 -11-

放生 會

年 第 放 四 + 4 會 四 本 代 住 元 IE. 天皇養老 四年。 字佐宮詫宣。

毎

第 Ŧi. 十四四 四 代仁 代 . 明天皇承 融 院 治 $\overline{f_i}$ 和 年 --天 年。 延 放 生 一年八 创。 月 -1-

İE

害之徒 佐 月 第 三歸五 一八八 郡馬厩峯 四 十八代稱德天皇治三年神 出來者。 戒。自今以後禁斷殺生。但 H 御詫宣云。 菱潟 非此 池。今宇佐宮是也 明日 限一云々。 辰 時。 沙門與成豆 護景雲元年大 爲 .國家,有,巨 可 Ŧī.

廢之後 也 後光嚴院 。大師 高 雄山 飯朝之後。 御 37 神 坐御影。弘法渡唐之時。 上皇尋召 護 寺八幡御緣 等召行。奉、安·置高雄士。被、奉、安·置高雄士 起 一件寶藏云 自 诗。而 介 奉 彼 寺 圖 荒 給

+ 官符云。 八皇五 年數:奏此事:天皇感歎。親製 十三代淳和天皇天長九年子 從三位行 民部卿清 九。為果神 部 九月 願 未 11-行論實 七 H

放生。 仰雅樂。准點節會

今年。 輿。 第七十一 上卿以下六衞府馬寮。准,行幸儀。 扈。從御 代後三條院延久二年八月十五日 自

臨 時祭。

第六十四代圓 宇佐八幡宮。雙前國宇佐郡。 融院天祿元始之。

國 詫宣云。 大神宮。舊記云。人皇三十代欽明天皇御宇。豐前 年歲 家東馬城峯頂。人皇四十五代 聖武天皇 或書曰。 三所。 國字佐郡廐峯菱潟山 幡麻呂也。我名 々所々跡:垂於神道是初顯御 次 我是日 八幡。二比賣 豐前國字佐郡菱]。就此山,奉,造 百 本人皇十六代譽田 "護國靈驗威 神。 間。 肿 形山 現三歲 三大帶]。因名曰 廣幡 廣幡 公力神通 坐 姬神。神功皇后 小兒。立一竹葉 八 天皇廣幡入 幡宮 大自在王 神 坐 八幡 龜 M 郡

、皇四

十八代

稱德天皇

神護景雲三年。

道

鏡

是也。 古老 位 據,此等文,八幡大神者三所之垂跡。吾朝之宗廟 第五十六清和天皇御代。遷上坐于石 一所。如 事 已上。平野神 和 口傳云。 女神 氣 ,延喜式,者。 清麻呂勤,字佐使,事 應神天皇。 外。大帶姬皇后。并比 主神 三所中。男神 祇 權大副氣前 神功 皇后。 洋神 外。 註進之。 E 清 依 是 應神 フド 姬。 也 一种之

天皇

筥 「崎宮 也

或云 入"石清水 内 應神。 一聖母。 三竈門。 建治 御 勘

戒定惠之筥留置志松原為 # 宮 延喜式神祇云。 欲,移,住筥崎松原,其故昔天下國土乎鎮護始 人皇六十代醍醐天皇治廿四 一座。式內 一日。大菩薩御詫宣云。吾穗波宮柱三惡有之 筑前國那珂郡。 年延喜廿一年六月 八幡大菩薩 筥崎。末世古敵

香椎宮。 功。武內。 八幡。住吉。

謀 在 足 或 比 伐 咩 日 "新羅"從 神 加 神功。 襲宮者。 钢 及大臣 已來便為,廟堂。后宮在 。昔仲比古 武內宿 天 禰 皇 命。今 仲 哀 夜 之后 東 此 。臣廟 行 息 長 宮

奏。訖 奏之之。在 が 辞記借 在 大宰帥位 大宰府例曰。 段退出。時 此廟 飯廟 再拜 宮。謀人人。新羅 姓 神等八 宮云 名等。 同 兩 月。 云。香椎宮者。神 段 | 幸。司仁人生 々。於是再 退。 帥已 更 參入於大臣 筑前 拜 倭根子 恐武 兩 功皇后 段。 國郡 恐典美 帥 天皇大前 殿。 奏日 司以 宿 奏賜 繭 再 大臣。 拜 在帥大不 止波 本 久

> 國 统 或 新 F 前 栗宮。 H 國 大 分 **詫神** 宣外 坐...雙後國大分郡 國 膝 ф 中依一御 崎 隅 國正 院 肥

歷 Pij

八 幡 郡桑原

Œ 宮 已上。 者 始 在 幡 大隅國 大 一書 薩 啊 御 八 TE 流 跡 幡 也 後主 豐富的

区

宇 大 佐 御 前 郡 案之神功歟。 大隅 右 南 面 RO: 神 若 宮

1:

德

西 向 武 M

竈門。 家記 宣。 第 四 十代天武天皇白鳳 Z 筑前國御笠郡。延喜式神祇云。 。人皇三十 [天皇御字為]晨昏武略之健將 化 欽明 天皇五年刊 年 西癸 一月八 Mi H M 高 良能

伯 延 13 喜 心御坐道 年六 月 Ĥ H 御 能宣 云 7 門宮 波

我

高 良。左八幡。三元 所。 。右住 фı 吉殿 高

延喜 祇式云。 筑後國 一井郡 高 R 耐 41 神

粒 第二十二 二十二社註 大 五

所

別宮

石清水。

同

宣勵論 人皇四十代天武天皇白鳳二年二月八日。依, 詫

記云。 垂。 住 高良玉垂命。以乾滿 此說非也。高良者藤大臣連保之御事也 人皇七十四 同記云。江帥云。高良大明神者武內大臣也云々。 吉大明神之化身也 三所內。 代鳥羽院天仁二年起 、比咩大神。應神天皇御 兩珠一分、奉一行之。故奉、號,玉 十一月師 娘云 。神號曰 々。 时 卿

將云々。本宮 叉云。玉垂將軍 下十町計。 右丞相。應神御乳子也。

景行。 武內社。 成務。 因幡國宇陪宮。改。同日同時顯也。 孝德天皇大化 神功。 四年。 應神 造社壇

奉。仕六代。壽量三百八十餘歲

長門國二宮。

天皇之聖母也 解云。 當宮有 "仲哀天皇之后妃神功皇后"應神

> 高良。 三所。 武內。移,繪 神功。 本社 像 - 勸請 仲哀 應神

同國龜山八幡宮

三所。 中間 應神。 左神功。 右 仲哀。

時。行教和尚造,行宫,勸請之。 第五十六代清和天皇貞觀元年。 奉

遷,男山,之

同國阿彌陀寺八幡宮。同』于龜山

又云。龜山之末社也。九月十五日祭禮也 無,朝家之式文。仍年紀不、得、勘。 近代之勸請

應神武

同國豐明宮

中間 從、香椎宮、依 神功。 左仲 神能奉 哀。 遷之。 右應神。

同 國住吉祉

征 此外。諍訪八幡等 底筒男。 朝之後御勸請也 我三韓 給之時。 中筒男。 神功皇后在神詫利。依之。歸 一社。後人勸請 表筒男。

也

永

_

年

申甲

等

持

院

勸

同

守

義

御 年

沙

汰

也

天

喜 賴

元

依

勅

願

清躰

水同

A

之勸

人 Ш 同

周

兀

年

立

行

宮

勸

哀 皇 於 用 由 沙 加 羅 須

比較質 宫 之 仲 生。 拿 御 哀 崩 明河 御 址 此 神內 神氣 御 即位。 **心**。 鼓五 阿鼠 延 皇。 坐白玉。鳥御御 仲哀 王四 大 治世 以 位世務 九 歲四 九四 武 年 也茂 华十 决 道 内宿 。容 申庚 五年 也 入 顏美麗。 一月六日 姬 啊 秘 韓 命。 1/1 足仲 葬 之深 成務 御 卵祭長 河 IJ 内 千九 秘 國 父 國 是 和 年 丈。 於豐油 里产 H TE L 但 陵 御 木 11 THE . FC

六十 神 寅 自 長宿 皇。 應 月 媛。 葬 討 功 時 神 成 御 皇后。 九 瀰 天 狹 新 務 筑 排 年 城 羅 天 前 神 是 御御 盾 高 皇四 開 治御 國 功 四 治世 列 RE 世世 字 皇后 月。 六務 h + 娴 天 -1--濟。 九百 年 息 テニ 大 仲哀 + = 御 年年 和 戌庚 兀 年一大國。年明糟 誕 御延 111 御 國 九 生 静 。神旨 稚 月 御 譚 1/4 凯 生 櫻 採 氣 4: 辰庚 思 1E 宮崩 跋 墨 長 也 141 十二二 Ш 11 m 足 哀 III 17 第 御 立為。皇太子。 姬 御 天 九 月十 日 四 父 皇於筑紫。 年 為 ïï 御 和 JEK. 辰庚 四 仲 殿 城 父 冬十 高 泉 和 H 月。 碧 氣 天 卵辛

神

應

神 坐

天 寸

也

第

御

程 皇

為

應

神

胎

仁

仁 雖

母 第

皇也

此

神

和

應

神 第 坐天。

更仁仁德乃下仁。

仲 御 功 時 天爾

皇后

登然之。

卷

御。 册 佢 胎 百 年 卯辛 嵗 宇佐 故 卽 歲。 號胎 位 也庚 宮 0/5. 御 1 3 旋 + 示現。 天 神 皇。 功 年 皇后 廣幡 春 人皇三十 月 正八 + 韓 Ji. 幡 代 御 日 欽 大 征 神 明 伐 則 宮 天 之 宮 皇 時 崩

皇。 也 月 御 十六日。 母 皇。 仰 她命。五百城入彦。應神二十四歲聲御即位。 一百十年。諱子 孫女也。應神二十 姬 御御 攝津 國 難波 而 崩御 仁德八 一百歲十 + 年度於,備 御父 應 年玄己 神 後

幡 四 所御 事

宇 云。 姊。 一德天 德 天 皇也 主 妹。則別 位 別稱:姬若宮。 姊妹祭。 畢 不」可、有。若 也

稱 欰

私

丹波 國 篠 村 八 幡宮。 清同 水岩

人皇 請 七 副 銀延 代 後 奉示行之。 條 院 延 年 亥辛 依 勅 定 奉

> 伊 豆 國 鶴 岡 幡

兼 第 延 七 奉行之。 + 代 後 Ξ 一條院 延 久 年 中。 源 義 家 勸 請

也

瑞籬 有 與守源朝臣 東鑑云。 丹耐之旨。 於當國 由 賴義 康 比鄉。今號三之 人皇 4 ~奉」勅 一六年八 七 定 干 月潜勸 代 征 後 伐 安倍真 詩 泉院 石 任 御 之 字。 時 伊

奥守 皇 源 七 十二 朝 臣 義家加 代 白 河 修復。 院治 八 今又奉、遷 年 永保元 小 年 林 月。 云 陸

云

高良大 橋 三所。 矢 依 、皇四十 橋 八 奉勒 願 座 明 幡 中 部 代 神 請 山 大 天 聖 栗近 · 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 11 武 Ш Ili 母 Ė 鄉 天 H 大 皇白 清 阴 同 鄉 麻 JE. 肿 H 呂 鳳 鎮 住 幡 四 吉。 座 近 左 年。 宫 iT. 住 高 玄乙 國 吉 栗 大 太那 月 明 所 + 斾 於 IE 口。 矢 右

註

定 丑丁 葛

松尾

神

也

山

兀

化

天 用

武 鳴

天 鏑

白

鳳

六年

月

丙

介

母 問

第 幡 馬 宮 賴 朝 也 וע 鞭指 賴 一洛之 代 朝 後 有 之問 時 鳥 下 羽 院 馬 、矢橋 此 建 神 而 久元 社 拜 油 何哉 有 年 神 戌庚 依 浦 社 此 月 號 答 二浦 日 日 鞭 人。在 。是八 崎 源 朝

同 同 國 四 年 丑癸 赖 式式外內七八 朝 以 五 社社 ፞፟፟፟፟ 部 兼 : 遷宮。兼 藤 奉 再 膝 興 奉行之 計 擅

> 座 茂

岡

幡

先 素 賀 茂社號 戔鳥 耐號 独 角 舊 身 事 别 加 本 命 郡喜 雷 紀云 大己貴 女 神 王 依 座 大 H 神 îli 神咩 一大山咋神。 一大山咋神。 一大山咋神。 昨 别别 神 御御 座 近 淡 。比賀 海 賣古 比 夜 枝

> 夜 時 JĿ.

山 興 鵬 氏 背 人 國 社 為 些 家云。 秦氏之智 賀茂神 梨木 宫 元 心 云 加 N 秦氏 和 縣 為 主 也 変 智

以

肥

賀茂 本 緑 事

H

於玉 議 號 建 其 此 茂 加 H H 而 本 久。川 少也 依 咩 所 厠 75 角 以 夫 大倭乃 日 賀茂 身命 扃 此 ıĿ 紀 女云 女 上二云登 咩 智 Ŀ 云 於娶利。 母豈 取 茂 爾宮 止 處 書日 仁遷幸有 11: 葛木 無 歸 云 1 H 仁 石 |所於定 7 布。 云 1 家 父 意 一个个个 川 坐 無父之兒 所 也 BE 捕 神 乃 H 給 利 H 生子 以 潛牙 建角 H 清 向 給 比 洗 為 山 本 天 幾 1 國 賀 於玉依 Ë, 流 10 45 形 身命。 衣 曾 北 一茂川 也 1 Ш 介 不 胍 而 ili 天业 椰 产 川 彼 文 乃意 女娠 烏見巡 于 日 丹 石川 1 利與 天 降 11.5 波 子 坐 1 শ P 44 產 が利 神 11: 國 11 潮 卻 云。 天紹 久 須 流 男 动 Tik 11th 給 見 Ili Hill 前市 葛 约 時 父 11: 賀 利 小 省 於 背 111 仁 父 卧 11 竹 國 11:

天。別雷神是也 酒 云。置,汝父前。兒云吾父有、天也。 膳 丹塗矢。乙訓社是也 里父 介 。母亦同時上天 兒持。杯。 外 小祖父建 穿屋 成神。御祖 角 一甍,而 身 命 神是 便登 試 告

御位記

位。 十一代平 使源氏四位。幣三所。宣命紙。黃色 城天皇大同 一年亥五 月。下

行幸。

第六十一代朱雀院治十二年天慶五 位始之。 |年四月廿 九

祭。酉四 |行ゝ之。式云。賀茂祭爲II中祀。 | 月中酉日。若朔日當ゝ酉者。下

吹雨 乘馬始。於此,也 以 神祟也 為 零 祭禮 撰四 代欽明天皇御字二十八年了天下 爾時動。命卜部住吉若日子, 令,卜。 能 月中,祀。馬緊,鈴人豪,猪影,而 分.稿 祀 因是五穀成就天下 學 豐年。 國 風

第 四 十三代元明天皇和 銅四年亥四月。詔。 祭 日

> 以。國 百 - 毎 年 駈 於

欽明 **兼敦案之。** 被始 行一飲。賀茂祭日。楓山之葵が」頭。當日 於,造社 者天武六年也。於祭者

臨時祭。

此 衛督藤原朝臣高經。 第五 日 十九代 字多天皇寬平三年十一 於鳴明神 如例 有 率 奉幣并走馬之事。 "遊男廿人" 參 上下社。 月 勅使右 11 四 日 兵午庚

着.□摺.歌舞

御幣六囊。 同 御字 寬平元年。 囊松尾。机二脚。 登爾 前

橋本社者。 河合社者 英明中將。宇多御孫。齊世親 加 別雷神之苗裔

女。御子

齊院

嘉陽 人皇五十 年卜定。以後斷絕 門院。 。 二代嵯峨 第八十三代 天皇弘仁。 土御門院治六年元 有 智 內 親王 久元

理 人 座 延 皇 喜 本 大 潮 四 Ш 神 十二代文武天皇治五 昨 祇 詩松尾。始造立神殿 神。本社 式 ılı 城 國葛 曾 形中初大神。 野郡 年大寶 松 尾 神 素戔鳥御子。 元年。 秦都

第 四 御 位 Fi. 記 代聖武天皇治七年天平二 一年。預 大 社。

第 位. 五 十六 使 代 同 清和 賀 茂。幣二前。 天皇貞觀 宣 八 **户命**。 年 + 黄紙 月卅 日 正

行 幸

月十 人皇六十六代 始 條院治十八年寬弘元年原

四

日

第 鼓。有是□奉幣及鼓 雨。 五 + 四 代 左 相 仁 撲 明 百 天 八皇承和 松尾大神以祈謝 伐 葛 野 + 郡 四 那 年六 家前 月 槻 始 樹 之。 作 禄

平

延喜式 ılı 地 政 高 野 甜 45 整祭 M

第 第 久度神 今 木 神 仲 H 本 哀 天 武 皇。 源 4 家 氏 氏 氏

神

神

縣 相 神 殿 比 賣 菅原。秋练 徐。巳上四 照太 姓氏 **八神。**清 大 I B. 氏

第三。

古開

加

德

天

皇。

高

門

H

)jiip 神

第

四

延喜 定 四 至云 格 云。 12 桓 武天皇延 歷 年 iþ 立。件

社

H

點

御位

記

人 位。 皇五 十六代 你 四 削 清 宣命。 和 天 黄紙。 皇 貞 觀六年七 月十 H 正

行 四 幸

第六十 日 始 代圓 融院治十二 年 天元 四 年 + H

1

第五十六代 清 和 天 皇 H 觀 JÛ 年 + 月 Th H 始

卷第一

云。 十五代文德仁壽元年十月被行之 第五十二代嵯峨弘仁被行 或 說。 第五 + 14 桓 武 延 暦 被始行之。 御 或

臨

時

成為 拜。机御 祭被奉遣使。臨時 位 十五 使。 一脚。 在一宣命 代 使。以近 左大臣 花 山 院 舞人 以下參仕 衞 寬 府官 和 走馬。左衛門權佐 元 年四 人 二為 坐。 月十 自一个年始 "舞人陪從。有 白。 始以, 藤 源雅 事 御 野

稻 荷 社

神名。比咩大明神。伊勢外宮同躰。 喜 神 祇 稻 式 宮宮 倉 琬 女 命。 命 ılı 象女命。水神也。 城 神播 國紀 百谷神也。 那 稻 荷 大和 國廣瀨 大明一名豐字氣姬命。 神三

人皇四 十三代元 猿田 山彦命。三千 例天 是世界 皇和 銅 四 年 亥辛始 源坐 伊 奈

地

等遠祖 的者 利 其 至。其 山 原 秦氏人等為,禰宜祝。供,仕 城 朝臣呼修造件 木蘇者得、殖。 を Ш 國 「苗裔。悔」先過,而拔, 社之木。殖、家禱、祭之。 。臨時御幣。相次延喜八年。故贈太政大臣藤 化成的鳥。 一箇拳平 伊 風 侶 土記云。 具秦公。積,稻梁,有,富祐 處。 木枯者不、移 三箇趾 飛翔居山峯。子生 秤 是秦氏 伊 奈利 者。 者也 祖中家等扬 春秋祭。依,其靈驗 秦。 逐為社 中 木 仍用、餅 殖 家。 蘇 忌 有 也 為

荷社者。秦氏遠祖也云々。 智證大師參。熊野。以顯密法還向之時。 或記曰。 國石田川下 稻羽里, 二人女亦戴稻。 人老翁者上宮。二 。人皇五 十二代嵯峨天皇弘仁十 不知行 之間。一人老翁 人女下 方 中 · 社云 失訖。 多苅 々。今案。稻 其夜大 二年 過紀 稻 師 荷

御位記。

人皇六十一代朱雀院治 年, 八月 11 日 從

位 使 四 位一人。幣三前。 宣 命 黄紙。

此後諸 神一 階度々也。 極位勿論也。

行

天曆勘文云。禰宜祝仕,春秋祭云。 第七十一 祭。四月中卯日。卯有 代後 三條院延 久四 年三月廿六日始

春 日 社

同二 天宣久。汝等子孫無斷色,可,我仕,者。其栗殖薦生中山。數月御宿。時風秀行等年燒栗各一 浴。以鞭爲驗立給。成樹生付。自其復御。 同年十二月七日。大和國城 可。生付。即生付了。因之始號,中臣殖栗連 六月廿一日。伊賀國名張郡 人皇四十八代稱德天皇治三年神護景雲元 延喜式日。 一年正月 大和 九日 國添上郡春日 大 和 國 添 上郡 上郡安部 夏身鄉 祭 神 笠 四 山御 ılı 座 瀬 御 河 坐。 重 年 二賜 同 御 跡 國 冰 未丁

> 年 十月九 日寅日寅時。宮柱立御。殿 被造花

枝為鞭。 殿。 御 影向之次第 五 雷命。魔鳴郡御乘物以、鹿爲。御馬。以、榊

齊主命。下 向

四殿。 已上。春日 天兒屋 比 咩 大 四 神 所 大明神是也。 御影向。 向

人皇五十四代 仁 明天皇治十 七年 嘉祥 年 儿

御位記。

第六十六代一條院治三年永祚元年三月廿 行 幸

三日

月

正一位。

使同上。

幣四前

宣命。

始。

或云。第五十五代文德天皇仁壽 第五十六代清和天皇貞觀 元年 4 年始 月 ナレ П 國 始 史

非 月 祭之濫 日 申庚 停平 歟。 野 春 但 日 同 等 御 宇 治 八 年 文 安二 年

第五十 清 和天 如此等 皇真 14 代 文者。天安 觀 明 八年 天 皇 以 治 往 月 + 被 丙 始 申。 年 行 嘉祥 春 之條 日 祭 年 顯 如 然 九 常 歟 月

臨 時 遣

整議

藤

原

朝

臣

中 第 將 九 伊 + 定 朝 代 臣 伏 見院 後深 正 舺 應 勅 願 年二 也。 月 九 日 始 使 頭

春 日 社 小 神御 在 所

神御 神謂 。 生 殿 暂 殿。 後 共 北 辰 並。 已 梅 本 明 神 本神:"梅 神机 雄 明 神 其 其 北 北 裏。 栗辛 飛 明 來 神

戶乾本。 協 御殿 後 本 明 本 市市 明 是角 神 也振 神 神 北 佐 軍 神 中 院

殿

西

方。

風

御

子

明

共

匹

座

忠

金

剛 明 神

是不開設 殿。坤 方 岩 本 神 是住 也吉神 殿。

神

宫

其 次青 榊 明 胂 次 幸 楠 明 神 Ŀ 鎭 座

自 外 社 祉 院町自 栗明 榎 坤 方。 町 本 神 數去御 西 祉 福 擁 坐乾次 船 町 主複 市井 戶 四 栗 明 本 中。 接田彦明神。 瀬織津姫 中。 道祖神。 瀬織津姫 神。 明 水 市市 屋 明 神。三所 此 兩 神 也。頭 新 勸 請 自 自 次

廻 廊 西竈 · 御垂跡深秘之 上四十三所。 殿。

內 辛 雄 师中 太王 命。 外 院 三首 所本 御 坐社

兵

主

一明神

次

南宮

明

神。

次

童子明

神

次

题

橋

明

神

自 + 八所明 祉 か神。 御 庭 王所 權譜 現藏 明 神

其南 裏 左 祭礼 緑 明 河湖 其 南 MI 去 坐 誇 社

竹左月中。 で「ひ月中是也。 紀御社。神四所之內。 赤穂明神。 嶋田明神。

前立明神。三所。日一言主比「江丁」

位正 率 崩 明 神。 所。 自 言 主 社 π 町 去 坐。 神三 此枝 也明

自 此 兩 本 社 社 十餘町 南 十餘 去。誇二社坐。赤乳明 町去 坐。 穴栗明 神。 神 井栗 白 乳明 明 神 神。

裔 右 件 被 社 此 右大 祭。春 臣 上是公丸孫出 日 祭 翌日 也武 °智 也 建 立。 因 玆。 南 家苗

上說

本社之事。

第七十 自 叉若宮之祭禮者 H 第 H 人 八十六代 皇七十六代近 一个般 天向後亡 祈 預祈 年 $\dot{\overline{E}}$ 年月次新 代崇德院 奉 四 條 宣 衞 至天末 院 當社之壯觀也。殊疑,叡襟天 省。第 一命辭 治 保 院 專 π 延 治六年久安三年 以以公卿、天可、為 別 年 以 _ 第二 後 嘉 云。 加順三年 2。造,神 去三 一相殿。 日 殿 + 無別 神 遷 jĖ 御 勅 木 月 月 使。 歸 御 云 # + 力。 殿 兼 九 九

> 也 庭積 九月 奉 ···官幣。十二月十七 等。昨 依 歌 H 徒 被 事 發遣 延 引 之。春日祭幣四 自 H 一个般 灰子。 被 赤 日岩 獻 内 **分之一用** 宫 藏 祭 、祭官 也 去

行幸。

日 人皇六十六 始 與 四 所 R _ 同 條 H 行 院 治 事 败 Ξ 年 永 祚 元 年 月 -11-

或云。 影 年 事候哉。 四 月同 向 年 神護 也 春 如 四所年紀各別歟承及候。 叉岩宮 H 何。 景雲二年 配 兼滿御返答云。 御 御出 TE 跡 TE. 引 者 月 咖 第 九日 14 四 也 四四 十八 云 所 17 共以 叉若 16 四 称 所 宮 德 同 御 御 天 H 11: 皇 殿 御 生: 御 治

其 日 人 宣 皇 使 旨。 事 八十六代四條院 春 日 别 社 若宮祭。 治四 宜。介。 一年嘉禎 官 幣 年 前 + H 發 月

目。宮秀氏狀云。位階事宣。下之。但本地之號。手第八十九代龜山院治十一年文水七年七月十三

雄 肺 太玉 神 兩 神 云 Þ 秘 說 K K 也

四 座。 原 春本日 品 二 二 郡。式外。 訓

月 國 舊記云。 史云。 二日卯別制 仁壽元年二月二 人皇五 ,大原野祭儀。一 十五 代 一日卯依,太皇太后 天 準,梅宮祭。 仁壽元 年未辛 御祈。

使。 藤氏五位一人。幣四前。 御 位 記 宣命。 黄紙。

加 Ш

賜

城

國

葛

野郡大原野亡宮柱廣知立。春冬乃御祭

七日始 人皇六十六代 條院 治七年正 唇四年十一 月廿

一月中子。

第六 jį 机 十八代後 膳式云。 夫大原 條院治十四 、野祭。 年長元三年二月廿 物 已上 同 春 H

書紀云。大己貴神之幸魂奇魂。

住款

H

日 預 祈 年。 月 次。 新 常祭。 四 度幣

社 顯 H 一云大物 秘 國 云 本 葦 紀 心中之秘 神 王 神。顯露造傳教 原 社。 主神。萬物二云國作大己貴命。而我為」貴。大己貴神有。七名。一云大國主神。世界 醜 曰。大和國城上郡大神大物主神也三輪大明神。神代垂跡。延喜神祇 男。世界荒五云八千戈神。 也 取 批 七 神。以 物詩 之軍神。九万八千 也。式 山 王

此 朝 父母欲,知,之。採,針 者。姬懷妊。父母怪疑問云。 頃者有人自。屋上,夜潜來。于 舊事本紀云。大物主神密通 見被 針可,着,其 耐主。活玉依 四二 絲,自,鈴 太裾。此 Ill 孔 絲綵縮有! 出 與絲授、姬曰。 夜神人 認跳尋之。 誰 活 來臥。 善所. 人 王 來 一輪。故名二 依 欲 會被神 到 過 姬 姬,時 共同寢者 如一父母教。 節 姬 答 無 机 知

神 也 母稻田姬。

兼敦案之。書紀之明 御位 記 文。 。神代之鎮座勿論 也

(皇五· 祭。四月。十一月。各上 十六代清 和天皇貞觀 元年二月正一 位.

抄云。

石上社者。

素戔鳥尊所持之十握劔也。

春 第 秋祭祠之。鎮花。 五. 九代字多天皇寬 大神狹 李 非 九 年 三月七日。 。勅享

使。五位一 神祇令云。花散之時。疫神分散。爲遏有 前。宣命。 黄紙

"此祭"

上 社。 代崇神天皇。 邊延郡喜 石神上祇 坐式 三布都御魂神。 御鎮座。

座。布留神也。常陸國

石 日 Ŀ 本 兼供云。 紀云。 也 + 素戔鳥尊斷 代 꺠 帝 御 蛇剱 宇 鎮 號臼 座 玉 此 神

在

第十一 v副·之也。同八十七年 殺之。則獸腹有,八坂瓊曲玉。 藏一石上神宮。以斷地 。名,甕襲。家有、犬。是犬咋, 代垂仁天皇 四 十九年十月 剱為神外。今所作 非 _ 月。 是今在。石上神宮。 ili 丹波 獣名 作 國 年上那 劔 之剱 H T 那 ilii 木 有

神躰云々。 上云 古語拾遺云。 17 素戔烏以下 十提剱 羽其 斬名 下 今在。石

位 第 五 御位 十六代 清

和 天皇

真觀九年三月十日。正

使同上。幣一 祭禮。 無之。 间

國 大 魂 和 丽中 社 社 邊延郡喜 大式和日 座 坐山 輪 Fi

卷第二十二 二十二班註式

九

二百二十

躰

元

神 次大國御魂。 本紀云 神大也。 素戔烏尊兒大己貴神。 次御 年

-代崇神 天皇六年。 鎮座。

御 位記

第 位 Ŧi. 十六代清 和 天皇 貞觀元年正月廿七日。從

無祭禮。

使同上。幣 前

延喜神 和 加 宇 瀬 加 祇 社 75 式 賣 龍 命 H 大和 神 祉 國 4 郡 龍 神躰瀬云 也坐大 Ш 坐。 和

吉 社

延喜神 本書 筒 男命 紀云 式 云。 第三表筒男命。 伊 排 攝 津 尊所 國 住 吉郡住 生 是即 其 第 住 坐神 吉大明 底筒 当另命 社 神 四 座 此 第

> 之國 住吉大神。 長門國 住吉神社 明 社 珂 神 神。 家說云。 之住吉 四 也 方。 征三韓時。 四位第 第三表筒男。為二一座。第 豐浦郡。三所之垂跡 逐 因 三座者。攝津國 。住吉社 其荒 由 鎮 到 攝 坐其 攝 皇后 顯 魂。在、筑紫之小 州 州 四 地。名 地名一而通呼之。 坐攝州。而託 之地。宣言日 錐 座 E 住吉郡。 所以 "住吉。豐浦之住 四 也上。四 也 天照大神。第 神 戶和 功皇后 "神功皇后。 筑 真住吉真住 前國 魂者 也

那

到

那

宇

佐

而

神 循

功

御位記。

行幸。

使五位一人。幣四前 無祭禮

ili 吉 咋 社。 劥 座 郡延 和日吉。與,三輪,至蘇神祇式云。治 115 近江國滋賀 此 地

大

註

左

葛 先 野 10 那 舊 松 事 尾 本 紀 用 鳴 X 鏑 大 神 ili 咋 机 神 坐 近 淡 海 此 叡 山 亦

撰 當 社 鎖 座 述,子 年 紀 細 不 往 分 音之 明。舊 乖 事 跡 本 紀 天或 智說 天皇御宇。 太 · 大 大 大 代

大寫。 Ξ 輪 同 体 號 大 H 枝。

聖眞子。 國 常 八 幡 立 號 已 J: 小 謂 比 叡

八 (王子。 國 狭槌 奪

客人。 菊 理 媛 白 ılı

+ 禪 師 天 津 彥 R 火瓊 N 杵 稻 荷

ŀ 七

豐樹

渟

扶桑 Ш 家最要 朋 月 略 集 H 月集。沒後改m名明月的江匡房記。匡房在世之 耐 降 臨 亚 跡 月集。 時 代 事

大 北 皇 叡 卽 阴 位 神。翁俗 元 年之間。人 和 皇三十代發 國 城 上 郡 大 城 嶋 輪 金 神 刺 天 宮 降。 欽

> 第 明 前 # 御 九 10 H 天 甘 智 與三輪 天 皇 大 大 71 物 宫 主 É jjill 位 此 兀 圆 年 戌王 地 大 -1: 北 也 叙 大

聖 小 眞 此 叡 111 俗 神 形。 俗 人皇十 形 天 神 -1. 六代 第 應神 國 常 天 T 邻 輕 也 嶋 1111

宇佐 郡 八 幡 題 坐。

代

天

降

第二

一十代

欽

明

天

皇州

年

卯辛

鎮

114

1181

前 宮

國 御

第 119 代天 武 天 島 ÉD 位 白 鳳 JU 年 中王 近 II. 政

郡 亚 跡 今聖 眞子 是 也

天 刨 Ŧ 位 子。 元 俗形。 八人皇子引率天降。 华 申申 近江 神 第 國 144 國 賀 狭 那 槌 放 小 % 間 北 第 叡 東 ---王子 ili 10 企 崇 **一**。 师 1100 巖 天

降 之五男三女等。八王子也。言"八王子」者。天照太神师 、王子麓 女形。 第五 自 山 -1-菊 10 所生 理 柯 比 迅 眸 天 神 皇 也 (1) 位

延

肝季

元

年。天

八

祁 fali 形童 同 桓 江 天 延所 华 玄癸 JE. 月 -1-

六

H

降 地 女 主宮 桓 迅 前。天兒屋 天皇 延 唇六年 胍 御 如了 H 子

百三十

企

大殿

榜

女中。三女也。故名。二宫。 天降。天照太神與。素戔鳥尊,誓給所、生。五男三

康和元年正月十一日 大江匡房謹記

山王號事。

三點加,橫一點,下橫三點加,竪一點,云々。斯時頭,問云。童子是誰耶。童子答曰。吾是天台鎮守頭。問云。童子是誰耶。童子答曰。吾是天台鎮守風。逆浪之至難時心發願祈念。一人童子化,現舶三寶輔行記云。傳敎於,求法歸朝之海中,遇,暴三寶輔行記云。傳敎於,求法歸朝之海中,遇,暴

山王與二輪一躰事。

恭敬合掌。寫,文字,見,之。山王二字也云々。

其本,為,天照太神分身,云々。

東本,為,天照太神分身,云々。

中納言大江匡房宣。奉 、勅。御神者。大八嶋金中納言大江匡房宣。奉 、勅。御神者。大八嶋金中納言大江匡房宣。奉 、勅。御神者。大八嶋金

御位記。

大宮。 人皇五十七代陽正一位。 天皇壽永二年。 正一位。 天皇壽永二年。 正一位。

建長二年。正一位。 代後深艸院正一位。 聖眞子。 八王子。 客人。 十禪師。 三宮。

行幸。

祭禮。第七十一代後三條院延久三年十月廿九日始。

今年,初被,立,官幣。

被,遣,上卿辨外記史諸司等。 自,第六十四代圓融院貞元二年四月廿六日,始或曰。依,為,八王子三宮。遷宮以前。依,別叡願。

| 中申日式日。 | 中申日式日。

次山王號之事。第五十二代 嵯峨天皇 弘仁十年六月八日。被,下,每年立,内藏寮幣,宣旨。

二十二」抵註太

始崇敬之。

坐。住吉次梅 第六十九代 宮 後朱雀院 長曆三年 八月十 __ 日。 始

臨 時

三日辰法皇海。依 第六十六代 日。依』叡願、被、途、行之。使侍 第六十四代 被行之。使左少將源朝 第八十二代 後鳥 一條院 圓 融 院 御 治 治十三年 不豫危急。御願被、行之。 儿 年 | 羽院建久三年 二月 臣方理。已上三 長 從 德 藤 天 原 元 元 年 朝 Ŧi. 臣。 年 八 殿栗 七 月 一ケ度。 。田 # 月 使 7 Ŧi.

王子宫。 行 日 方健靈高 市末 。御。皇 產 名 產 社。 吉 聖 尾 下稻猿一 照荷。高麗秘記。 云 下八 氣比。 仲哀天 、王子。

絕

正三位行左近衞

權中將藤原

朝臣忠經。

此後

中

上 # 七 社

小

禪

師

牛 惡 E 新 行 事 姬瀛 石

瀧

命蹈 。 輔 姬

劔

宮

鳥素

若 宮 護 因

右 山 三十二 上 下 一社 眷屬百八座。 社家註記

進之。

右鎮 延喜 酒 解 式曰。 座 神 年紀不,分明。 大岩 山 城 子 國 神 為 野 郡 小 若 梅 子 宮 加中 坐 神 四 酒 學 解 子 前巾

梅

貞觀式。 人皇五十六代 梅 宮 祭如 。梅宮 恒 神四 清和天皇貞觀元年 座。 至 至 整 祭 料 同 +

月

+

宮 日 本 代實錄。 陽 成 院 元慶三 年 四 月 日

桥

母后。文德天皇祖 同年十一月六日。 壽二代。以爲"官祠。今永停廢焉爲"官 停 排 同祭。 大后橋氏 梅宮 神也。 祠者。 加 歷 承 明 天 阜

者非,大后之垂跡。彼御祖

神

勿 論 敷。嵯

戚

承 和 九

元慶三年 月六日。停之。

間停。祀。今勅始而祭。 同八年四 月七日。始祭,梅宮。是橘氏神。頃年之

第五十八代 光孝天皇仁和元年 四月七日。又始

同一條院治十九年寬弘二年十一月。新依,御願 第六十六代一條院永延以後。亦祭不絕。

以來相續。 如,舊例。今勤。仕祭。自,明年,可、用式日者。一條院 四月十一 日上酉

嵯峨后。 三年五月四日崩。六十五 呂之孫。贈太政大臣清友之子也。此大后者。嘉祥 **今案。仁明母。文德祖母。太皇太后橘嘉智子也。** 左大臣諸兄之會孫。贈太政大臣奈良麻

酒解神從五位上。大若子神。小若子神。並從五位 續日本後紀云。仁明天皇承和三年十一月。奉、授、 下。坐山城國梅宮,神云々。

又案。承和三年者。嵯峨天皇大后。其見在也。 然

> 人皇八十代 高倉院治十二年 治承四年十二月。 年七月崩。七十大后。嘉祥三年五月四日 御位記。 崩

使。橘氏五位一人。幣四前。 IE 一位。

社司之事

往昔今相承而 人皇七十代後冷泉院治十年天喜三年。始補、預。 大副卜部兼親

吉田社

于今相續

延喜神祇式日。山城國愛宕郡 四座。同事鎮座年紀不,分明

納言山蔭卿。始奉、渡、之勸請云々。 或云。人皇五十六代清和天皇真觀年 二八明題集。吉田社止云仁。從三位為實 中鎮座。 式

府

御

所

望

也

元

年

Ŧi.

月

原野。平 御 祠 毛。賴 之鎮護云 白 牟 安城之今吉 御 居 書日 村。 此 成 奈 仁 田 良 鳬 京 社 唯 時 占。帝 ili 春 陸乃。名 H 都之咫尺。 社。 長 死 岡 計 利 有神 脱北字下 時 恋 大

曩 兼俱 祖 兼 日 延 本 一書紀 勸 請 御 抄 云。 當社。 藤氏崇 敬 依 異 他

今 四 第 度幣 、皇六 年 始 祭。四 十六 祭 禮 代 月中中日。 堀 依 川院治二 公誓願 條院 為 泳 干 公公 延 家 年 元 年 御沙汰 嘉 十 承元 年官 云 月 # R 符。 Ŧi. H 預 申甲

御 位 記

日 第 九 Œ 九代 位 後 光 嚴院 治 九 年 延文五 年 六月 卅

使。 藤氏五 位 幣 四

H 第 午丙 九 朝 + 吉 間 五 田 雨 代 小 降。 社 後 醍醐 之事 今 朝 天皇治 註 進了 八 昨 年 H 嘉 內 曆

> 名 中 院 一會祖 之内。 父 御 內院 記 註申 之內。 四 所之 小 社: É 古古 不 知 御

第 員 日 田 數 御 夜自 社 名 四 等。 代 伯 順 可能 大 德院 相殿。或和 納 進 治五 者。 殿 說大井關。 被 年 印 处 之。吉 紙 训 保 註 年 H 田 之內 四 月 1 -1**jiih**

若宮。 吉 殿二 無

所 年 神 見 樂 岡 無 治 社。 之。 元 年 第百 奉,改,御 代 後 在 第 小 所。見。 于 松院治 八 一十六 决 10 + 御 四 記 年 條 院 洪 JHE 以後 治 永

年 Ė 主 月 神。 11 角內 H 院 見 巽 今 東南 脇人 ° Fi

率]1] 此 外 水 四所。 屋 氷室。 仝中 一院東。 自 极本。佐山祖公 古 以此云々。 配父御夢想之 知御

日 本 廣 書 H 紀 社。 郡號 廣西 神 田神一座。大神宮御同躰四宮。延喜神祇式云。攝州 功 皇后 -11-年。伐 維 也武 0 HH 华

木

心廣 田 照 國。隨前 太 而 誨 云 敎 我 以 5鎮坐焉。 荒 魂 不可 近,皇居。當 居 御

或說云。 御同外。 。如"式文'者 廣 田 者 天 座 照太神之荒魂也。 也 現在 五社 也 可謂 神 宮

讀合。 人皇 神 彼卿示書。 流 月 功 四 者 皇后 日 百 廣 子甲 條門弟也。今已授,散書之間。委細演說 田社 一个日。伯三位至忠 代後小松院 也。 如 自餘 事 社官申詞,者。先奉、書,廣田 條々有,不審,雖為,社 之神 治 心. 依 一十三年應 意 心得之勸 招 也 請數 永十 H 本紀 秘。 Ξ 祉 於 第 年 兩 四 九

Ш 幡 南 宮。 宮松尾南 加 神。 山大

神。宗像明神。 嚴嶋明 廣

已上五

火大神。 津社。 戎 社。 次。 武宮。 兒宮。 須川 松 原 御前 鰯

注 傅 也 自 餘 後 世 一之勸 詩。併社官 私之沙

> 汰 乎。

也 右此註文。 伯 三位 忠富御問之宗要。介 從二位 勘 一兼供 時 後 者

祇

園

社。

園神

宕

移 慶 4 年 頭 天 中 白 皇。 河 感 郡延祇喜 東 初 神院 光 垂 **計跡於播磨明石國神社。式外。三座。** 寺。 其後 人皇五 石 浦。 + 七代陽成院 移 "质拳" 共 後 元

東間。本御前。奇稻田媛垂跡。 中間。中旗天皇。姚井。脚摩乳手中間。华旗天皇。姚邦。 脚摩乳手 手 名

般若 檜 士善 愛宕郡八 人皇六十一代朱雀院承 不。應,以" 皮葺 降 像 部六百卷。 間 坂鄉 - 觀慶 躰。 禮 堂 地 寺為定額寺事 觀音 宇。在流 HJ. 柿 像 殿五 檜 4 躰。 二王 皮葺 Ť. 安置 間 年六月 寺。张園 柏皮葺 三間 毘 樂 堂 師 VII 十三 像 廬 在 宇。 字。 山 日 **外**。 躰。 官 四在 城 脇

F. 間 槍皮葺禮堂一字。右 得 īlı 城

原昭宣 十八年 婆利 貞 國解 如 觀 大 年 何 奉、移、山城國愛宕郡八坂鄉樹下。其後 法 $\dot{\mathbf{p}}$ 公。感,威驗。壞運臺字,建,立精舍。今社 故常住寺 師 奉為建立 依』詫宣。第五十六代清 十禪 也。或云。 師傳燈 普 大 法 常 師 住 和 寺 位 天 + 皇 如 貞 禪 壇 藤 觀 去 師

第六十 第六十 符以 愛宕 四 四 代 代 那 圓融院天祿三年。以,祗園 圓 觀慶寺感 融院 治 五年天延二年 神院為延曆寺 三月 社 别 _為 院 被 日 事 吉 官

禮

末社。

同 融院 天 禄 元年六月十 应 日始,御靈會。自,今

時

等。使左 司三年六月 少將 + 膝 五 理 H. 兼 左 始 右 奉 御 走馬。 馬有。五疋。左右 勅樂。東 遊 近官 御

子

止

婦

正侍留

1|1

须。宣久。

茅於以

天為

輪。

腰

1:

仁

人 供 奉

神 風 東遊歌。 州。八坂乃 里 11: 今 日

與里

自っ

君

我

T

The

遊

利

此後 始 1 3 絕。 第七十五代 崇德院 天治

以後何

年

相

留茂

行 幸 續

是也。

奉之為報 使同 兄 屋舍一百在 兄 與 神 第 九蘇民將 蘇民將 比 社 七十一代後三 本緣記 Ŀ 天。彼爾。出 幣二前。 報答。日。 茁 來 來借奉留。 业云。 伎。发亡武塔神借 云。昔北 坐後爾。 坐爾。 汝子孫 條 加八王子八 甚貧窮。 。日暮秋 院 經年 即以"粟 泊 延 坐之武塔 在 **人四年三** 率,八柱子。還來天 弟互旦 哉。 。彼所 柄,爲席。 "宿處」在。情天不 所 蘇民答 石將)[ii] 一將來 月十 怕 水 以。栗飯 游 11: 乃女 云。富 人 H 子 我 1 附 借 將 健 15 加

百三十七

與。隨、詔天着。即夜爾。蘇民之女子止婦止置天。皆悉 茅輪,着、腰有、人波。將、免止詔伎。 也。後世爾疫氣阿羅汝蘇民將來之子孫止云天。以 久許呂志保呂保志侯。 時七韶久。 吾波 速須佐能神

天神 北 三座 野 社。 國葛野郡北野。式外。 山城

東間。 中間 御前。 中將殿 菅丞相。

西間。 吉祥女。

坐北野。 人皇六十二代村上天皇天曆元年六月九日 遷

生松云々。 宴乃地於。我彼馬場乃邊仁移居卒。俱至年所彼可 同九年三月十二日酉時御詫宣。右近乃馬塲乃與

奉1仕實物 同天皇治十年天德三年。 九條右丞相造。增屋舍。

臨

時祭。

百餘人也。摠含人恨背、世貴賤靈鬼。皆悉集來。但 天皈依。占。別宮之處,也。我隨身伴黨十六万八千末皈依。占。別宮之處,也。我隨身伴黨十六万八千 第六十四代圓融院治十五年永觀二年六月廿 無,理含,恨之輩。不,相共云々。 日辰 時御詫宣云。大唐長安幷新羅 及諸國所

R 儿

御位記

第六十代醍醐天皇治廿八年延喜三年二月廿五 日。從二位。

同廿三年四月。贈正二位。

第六十六代一條院治七年正曆四年五月廿日。 贈,左大臣正一 一位。勅使菅

同 年閏十月廿日。贈,太政大臣。

Ti 第七十代後冷泉院永承元年。八月四日被定。依 同 日國忌 一條院永延元年八月五日。始祭預』官幣。 1.母后。也。

始被奉神寶

東遊。走馬。

列。 第 九十一代伏見院正應二年七月十八日。 進

行幸。

條院寬弘元年十月廿一日始

或云。第六十八代後一條院治八年万壽元年十 一月廿二日始

使。 一营家五位一人。幣一前

末

心

宰相 位 殿。 原正輔三 正位管 壽永三年 三月廿七日。 贈。正二

和泉殿。 原定義。同時贈』正二位,從四位下菅同時贈』正二位,

水 神 丹 生社 女神。 女神。伊弉冊尊化生也。和國吉野郡丹生川上神社。 號::雨師社:。延喜神祇式云。大

> 為,大和之別社事見,延喜格。不聞,人聲 人皇四十代 立,我宮柱,以敬禮者。爲,天下,降, 甘雨,止。霖雨 天武天皇 白鳳四 华玄乙 御重 之深 跡 常 社

無祭禮 御位 記 者。

使。 神祇六位官一人。幣一前

貴 原 水 勝 勢人答云。目見耳所、不、聞也。 发老人出來。齡八十。即 H 船 貴布 甲,于天下。建立道場、尤得地。我是王城鎮 堂 朝臣伊勢人奉助 本後紀。 神罔象女神也 大 然間 明 稱。當社與॥丹生,同之之。延喜神祇 神 夢 弘仁十年五 也 浴陽北 雖造 有 月爲。大社。造東寺長官藤 相語云。汝知 深山 東寺。 老人重云。斯 云 私 々。宜、望 願 无

未 逐丰

处

此地

否。 地

地

二十二城註式

卷第二十二

御位記。

人皇五十四代 仁明天皇 承和十年十二月。正五 國史云。弘仁九年六月。奉、授、從五位下。

日。從四位上。 同五十五代文德天皇治八年天安二年正月廿七 位下。

同五十六代清和天皇貞觀十五年五月廿六日。 正四位下。

日。正三位。 同六十六代一條院治十七年長保五年三月廿六

正二位。 同六十八代後一條院寬仁元年十一月廿五日。

從一位。 同七十三代白河院治七年承曆五年二月十日。

日。正一位。 同七十五代 崇德院 治十七年 保延六年 七月十 無祭禮

末社

吸葛

已上二十二社畢

卜部朝臣

右二十二社注式以村井敬義本書寫校合

神祇部二十三

大和豐秋津嶋卜定記

西波長木山 右 陪奉利。 取 神弘尋出之奉利。 隅 禮 平京波未深 八重雲乎稜威乃千別七千別天。武甕槌經津 十萬神等。 日本乃中心。國中乃秀。 仁添奉马。天卸女命波盤樟船弘漕奉利。皇孫弘神 七座寸齊主神弘下之。千早振惡神弘悉皆伏世順 七靈神並 北 波塞利。東波流水有天。福壽延長之謂弘顯之。 遂仁報 山並比連禮。四神相應弘爲寸。然波 天高市仁集玉天。神議仁議給天。可造 御座天。代代乃固仁奈豆氣利。古汝 山乃時與既仁帝都 中壽。 。此國陪 此後 天下無雙之勝地 鹿嶋仁座寸武雷乃神。 皇孫。天石 乃 勢自良備 座放千。天乃 利。南波 支波の利 四方 生主弘左 誠 檝 四 晴

代乃 也 神 陽 立。 利奈 山 此所仁社垂跡之玉門。 麓仁應化之。百王弘守利玉 之三乃神寶弘以且。此國乃主止成典玉此天。北 無之。即今日枝之宮是孫。先大宮波三諸乃 乃真乃 雨神乃其中 有利。神代乃背與天七地 二宮止申奉波天地二儀乃 客人止申奉波伊弉諾尊也。 神皇產靈乃 浦乃浪靜祭 中利與 出 仁 御神也。 出 礒迄送利 玉布故也。 生之玉七依天。聖汝中神 去波。王城乃丑寅仁 聖眞子和吾勝尊於蓋陰 Ŧi. 布。經津主 御座太。仍且天神與 八王子姓國 神此 主神止 十禪師止 山仁 元二二 云事天。國常 影向 1 狭立乃尊 當 神 奉波十 神 之玉波 也 天 母。 ili 业同 乃 兩 同 乃

指 木德弘 重乃榊 德地乃 御柱波 神代乃昔。 有利。 也 天下必危事 陽變通乃 母。彼家仁 天下弘經 F 所 H 師 11 神王。 代 E 本三千 三宮 波止 弘以天 與之。 天 $\overline{\mathcal{H}}$ 天 國 其立玉之浮橋波 E 氣顯 探玉 本 神弘象利。 神 陰陽 沙汰 波 八大龍 也 母常磐堅磐天。 泉出 利阿次 皇化 基。 惶 奉 地 言波 之時。 現 根 節 有事 二神巡利。國 諸 市市 仁歸 乃起利。 生 仁東谷今乃藥師堂乃山 尊 神。 神 留 乃 + 叉五 給。 也。 利。次仁西谷峰上乃柱波。 化 一滴乃疑成留。 天國家弘 是伊 ·善天 常仁 天浮橋乃上七立豆。瓊矛 生乃 此 瓊 萬品惣持 色乃絲弘以天奉、纒利。 外 今乃日枝乃 岩河橋止云 K) 弉諾 子仁 守玉布依天。損失有波。 動 杵。 心基 尊 中乃御柱 事 助 神 伊 師 合 無久。 介。 來 也 弘讓 弉 天之 乃 自疑 故 臨 1111 源利奈 + 都 止云者称 公仁皇帝以 乃 天利 三十六禽。 机 乃鎮座。 合天 嶋 4 加 頂波 天乃四 有 護 瀧 止 是即 心 云波 長母 乃義 数 此 波止 产 雖 乃 天 弘

利之。與 母威 宕 **今**乃吉 Ш 者 今母六一 倉 弃 命於以天體本諄辭竟奉本。并仁天手力雄 等深久哀愁豆。磐戶乃前二 Ш 柿 岳 此 仁隱立天。常 云 万里 波。昔 乃 利奈 玉 樂於奏玉禄。次仁戌亥仁當天。 Щ 也。 比。 再 王 麓 布 諸 此 同 七留 常 比。岩戶 仁高 叉神 H 時落天。今乃 天照大 人 五 如 乃 Ш 喑乃雲晴 此 利。又長 岳與如意寶山 意 野 日 是也 世長鳴鳥於集豆。長鳴世之玉陪利 樂於奏之中 橋 止 每 於細 神。天 江州日枝。 芸所 弘渡 仁。每 彼 奉支利 嗚 目 西石 仁。 磐戶 八十 利阿 鳥 月六度。 爾 必沓 所和裂 於集 天照大神 開 共籠 座 仁入 陪 萬 給波。 间 JE. 神樂於奏之。 神達集會 天介 弘 神 州 和 成 居玉 王 脫 集 H 高 王都 多力 Z 州 利 事 王 鳴 神 T 乃 岩 時 波 其 穗 所 出 玉: 别 雄 此 守 剛 戶 在 10 現天之 片 和 布 宮 護 此 片 天子 故 山。城 神 天。 如 所 闥 也 泽 利奈 引 日本 意 分 於 波 加 神玩 和。 44 峰 奉 今 Ш 八 萬 夫 明 長 天 戶 次 神 座 留。 岩 投 奉 沛申 侧 此 此

卷

其利與 敷 天 殿 乃 給 當 神 當 納 久 乃御饗於調 仁。 宮 小 利與 思 1 玉 時 天 仁 社 如 和仁 刨 靈 到 船 鵬 火 也 當 食 仁龜於 仁又西 天 此京 海 王 於 天歸 御 產 社 非 市市 尙 邊 作 隆 天。 方社 加 震 乃 仁 第 以天使 於保 石吟 深 天。 使 之牟 母此 乃鎮 = 集 於 仁 七 重 。仁 址 年 字奈乃底 神 者 給 置 比 玉 同 陰 帝 玉 乃 樂 座 1F 市市 王 乃 玉 朋 久傍 秘 者 牟 市中 都 時。 乃奏 有 利奈 定 等 鎭 波陪 比 為 乃守 业定 利奈 事 利 也 鹽 1 海 仁 座 仁 留 有波 偏 波奈 火災於 仁深 Ħ 此 禮 士 之 御 11: 符 神 利 T 其 爾 今不 向 王 朋 王 言 仁 大 老 波。 座 那 後 久入 尤 定女 天。 乃 布。 龍 波世 加 都 公初 昔 前 天 永 國 深 、載 利。 仁 禮。 此 帝 其 靜 武 11: 久 火 利與 I 奉 乘 退 गुं 後 神 京 彼 出 相 心 逐龍 酢 天 來 天车。此 73 奉 E 天。 波 共 六 乃 车 何 又 臨之玉 皇 芹 御 北 豆 地 為 乃 津 10 無 命 乃 松 叉 宮 加 神 也 -11 歸 危 國 目 乃 尾 乃 利奈 百 此 御 JE. 天止 幸 第 旬 王 片 布 於 事 寓 11: 耐 王 殊 東 乃 波陪 床 間 易 故 有 几 味 若 波仁 H 母仁 仁 乃 仁 爾 和 仁 介 仁 75

乃后 春 74 天末 也 那 火 前 神 元 百乃災 諸 今乃若了 最 ili 木 向 止车 朋 波 乃 能 姬 17 次仁辰 首 伊 盟 皇后 波奈禮 人哀 恶 省 仁 当 出 天 和 王 之 穀 酒 木 和 島 木 見 於攘 母 子 김류 天兒 誰 於播 [11] 見見 憐 解 花 豐玉 和 75 不 巳乃方仁當 賀 宫 於 利奈 乃御 子. 市市 開 頒 銅 此 玉 E 利奈小 愍玉天。 知 神 次 八 注 邓 降 妃 四 11 神 心深 布 帝 社 禰 剩 姬 F 年辛 乃 只三峯七顯 鎮 故 於 若 利奈 居 命 廟 神 ブ 旗 爾名 1 久。 隨 子 偏 75 時 天 有 女二 守 华久 叉 同 未 省 倉 洲 利與 利 0 11 身 1-Ill 利 介奉 外 父 1 1 也 乃寶 曾占 生乃作 如 次 稻]] Æ 加 祇 戚 火 大 M 仁 1 观 布 彼 之。 Æ 福 此 當 和 高 於安 々出 ili 城 和之 75 河町 教 共 H 人 神 天。 祇 皇牟 天 南 车 TE 之老 解 SP. 中下 久保 10 第 物 見 仁當 孫 护 跡 皇四 症 助 仁 乃当 波 约 巢 常 13 Ť 王 有 111 仁 到 The 小为 75 和人 天仁 御 H 4 1 H 跡 利。 利 計 利與 I H 母 地 伤 75 沙 加 加加 1 12 崖 此 夫 沛中 彼 12 12 小 天仁 111 75 11/1 第 集 作 產 並 此 誠 10 此 3 開 隠

奉牟耳 御座 族。 若叉此國 波 惣 社 E 乃道於 一籬內 乃 踈 本之奉良。 名 有 利 永 此 久 如 神 國 明 中 乃 仁 御心背 成 出 牟

皆古 利。布 太神 瀬見小 奈流理烏 良牟。墨奈 於材 哉 木 理 部遠鳥 乎。 志仁 知 川 知 神 木 羅 乃 利。 彌 代 4 清 乃 清 乃言 津 葉敢 木 跡不、殘 嘉連 流 和井 乃葉於。筆 乃 天志呂 乃水遠杓母。 良末。神垣 御 和。 世 位於後 仁。 誰賀其深 奈良 和 一七木綿 人 留仁寸 寸 良 葉 和 事 和 鳴上母 何 取 於辨 有 仁 和賀 志 车。 成 跡 識 加 出 仁 吁 毛。 智 殘 奉

正元甲 子年五月廿八日。以。御本書寫

> 敢 住

國 吉

市中 神

社

後加…神。

小功皇筒

后男 四表

座 也。三

座

住

天文二十三年甲寅歲 。以,藤 納 言御本,寫之。 藤原朝臣 判

右以山 城名勝志名跡志等所引比校奉

大 日 或 宮記

大 平 賀茂 鴨 輪 鳥 岡 大 神 大 大 大 明 神。 社 朋 明 明 神。 神。 神。 尊日 祖號 ,於一秦良春日第三殿·祭之。 。號"枚閩神"天兒屋命也。又 。號"大神"大物生神。大已貴 。號"大神"大物生神。大已貴 。號"上社"大山咋神也。號"別 也本。武 雷號又下 和 河 大 Ш 泉 內 和 城 愛宕 大 城 河

淺間 己等 砥 道 伊 都 庭 射 墨 波 大 75 大 波 山支 H 明 阴 麻 朋 神 神 神 神。 知 祉 社 社 山號 班命也。金派南宫。金 神猿田。彦 也眞 社。 5、大已 神己 田彦命 此

叁河

資 中

尾

張 學 勢 賀 津

谷

志 嶋

郡 郡 郡 郡 郡

伊 伊 攝

可 回

1 拜 吉 鳥 內 Ŀ

遠江

佐

埜 飯

郡 郡

伊 駿 河 賀茂 富 士 郡 都

A

氣

社 神倉

> 根貴 。第

荒 鋒 方 無 宮 部 崲 取 前

社

代已 高大

主貴

一神。男

大

物

忌 古 Ш 大 刀 神 神

神 和 神

社

也稍

出

羽

飽

海

郡

曲

良 部 扬

神。 神

神經 事大

也津

南 水 南

美 明

> 美大 也命

命已

也。號二數建

訪御

大名 明方 社 社

御大 命金

歲已費

。女

氣 遠 敷 比 神 大 明 祉 神。 代號 仲 笥 天飯 社狹 豐彦 玉神 也人 。皇姬上 干妹社 玉彦 依火

姬々

若 越

狭

H

山 北

現上社

前

敦 遊

咩 神 社。 理下 发。就社伊井 白冊 山尊 権

菊

賀

石

111 智 敷

XX

胜

师中 神 加中 神 吐 祉 日齊靈高神號鳥素也八 三大第武 山輪已一甕彦一貴殿槌 也山輪已 第 一皇

建

鹿 香 玉

> E 下 安 武 總 總 房 香 埴 安 房 N. 取 牛 郡 郡 郡 郡

> > 氣 白

多

祉

安

房

繭

而士 加 瓧

命大

也。明

氷

111

神

寒 淺

]1]

肺 神

間

甲

郡

相

座 代

藏 摸 斐

足 高

常 陸 鹿 崲 郡

美 近 濃 江 不 栗 太 破 郡 郡

融分 信 上 飛 驒 野 濃 甘 諏 大 訪 野 樂 郡 郡 郡

庭

楠

社。

低見。

朝

邲

邮 馬 後

美

部 郡 那 那 那 郡 郡 郡 郡 那 郡

°ф

社

陸 下 凰 野 白 泂 內 四 郡 郡

伊 氣 夜 多 市中 神 H 古 社 社。 貴大 同 上。 香饒 久速 III H 命質

也皇

o-f-

天

後

1 3

波

籠 出 渡 雲 津 神 社 神 社 也。父高皇產品 社 住一 吉名龍 神人 名二大 體守 妻三 也權現 人屋彦神? 簸 穗

> 波 渡

桑 77 浦 儮 37

田

茂 原

郞

訓

宇 杵 倭 倍 築 文 神 宮 神 社 盏已 籠上 下大 臣武 鳥貴 照已 命命 媛貴 也命 。女

比 神 咩 社 社 志速 摩日 勢已貴 干算 媛。后

物

命皇。子 字

 T_{1}

PER.

胺 見

智 北 出

夫

郡 那 郡

出 伯 天 旧 丹 丹 佐 此 越 能 加

雲 老

怎

JII 社:

村

郡

石

the

百 四 +

伊 中 和 Ш 神 加 社。 祉 魂大 上。 也是貴 御

磨完

苦

郡 郡

o-Hi

備 律 備孝 武靈 彦皇 命子 也。備前備中備後三吉備津彥命者非也。 國孝 製 元 元

石凝姥。 一次 高男也。 中筒 入內市杵嶋八素盞鳥 姬一 備 周 安 数 [] 中 也世 佐 佐 賀 伯 波 夜 郡

伊

都

嶋

生天三照

女與

玉

祖

耐;

淡 紀 長 网 波 BE 路 伊 板 名 津 豐 名 油 林 艸 郡 郡 那 郡 郡 郡

> 和 天 和 庭

多

住

社

男底 玉伊

统 筎 伊 後 闸 缭 那 士 越 智 佐 珂 郡 郡 郡

Ш

神 祇 耐 比

社。 神

崎 佐

三八

二竈門。號,,,宮崎八幡。八幡大神。二聖母神后八幡大神。二聖母神后

良

玉

亚

禰武內宿

麻 佐 前

古

神 神

耐 社

神猿賀號 。田社多

彦

奈

岐

國 神 痈 山支

懸

石 天

村

同

上

讃

岐

香

川

郡

與 都 健 西 寒 磐 II: 龍 多 日 神 女 市中 神 社。 社 社 出人 也號 田見。阿曾都彥也。 24年,阿曾都彥也。 24年,阿曾都彥也。 24年,阿州皇后妹也。 44年,阿州皇后妹也。 44年,阿州皇后妹也。 44年,阿州皇后妹也。 44年,阿州皇后妹也。 44年,阿曾都彥也。 現。阿

兒 農 手 多 長 都 嶋 柿 男 美 前申 社 神 亦中 社。 命大 社。 社 右號 表 。幡 一天 男 思 衆 老號 翁。猿聞 神隅 功正 皇八 田神 后性 后也。 后也。 神遊 兼 土

> 大 H

壓 隅 向 後 前

心已貴

肥 肥

佐

兒

豐後 大

右 都 美 諸 國 社。 也八 宮 神 祉 如 此 秘 中 對 馬 秘 Ŀ 批

壹 隡

岐

石 穎 桑

縣 H 娃 原 湯 蘇 嘉 分

那 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡

字 佐 非 郡 郡

宇 高 筥 都 大 H 大 伊

佐

大應

帶神

姬天

吾皇

朝比賣

期神

定品 本 國 中 大 小 神 耐 鎮 座

場所。奉、安。鎮三千一百三十二座之神 六日宣 皇六十代 醍醐 山 天 皇 城國愛宕 治 七年 延 郡如意峰 喜 五 年十二 體 市中 同 祇

授一种號之時 廿八日奉、渡,神體於六十餘州,矣。天下 以"神代正印,被定"神宣事"。 諸 加 延 奉

喜已來聖斷 也

太 右京三條 詔戶命 神 本 社 和州添上郡。 對州下 縣 郡

天兒屋命也

山城 乙訓 郡

葛 间 野坐 訓 神 坐火 社 月讀 素戔烏 賀茂 松尾 孫 大威 內樑谷。 建 角 子 身 也 命 松尾 也 母 須 社 沼 比

女

也

夏冬祭料 坐山 本 解 神從五 城 紀云。 同 梅宫云冬。貞觀式云。 位上。 仁 明 命承和 若子。 小 若 年 子。 + 梅 月一 包 如 神 從五 H 四 位 水

清 郡 和 帝 貞 觀 元 年十一 月十 H. 栫 13 然 如

月 齊 月

愛宕

别 孕生. 天。乃 雷 七夜樂遊。 尋殿。竪,八戶扉。釀,八腹酒 遊 三王 波 塗矢者。 國 神 前 一時 社。 神 因 依 舉 男子。至, 丹塗矢自川 伊 姚 乙訓郡坐。 酒 賀 Ш 然與、子語言。汝父將、思 Œ 杯向天爲祭。 古 城 依 父之名。號 夜 成人時。外祖父建 風 姬。於石 H 士: 上流下。 女 記 生子。 云 賀 ĴΙ 可茂別雷命 分。穿屋甍 îmî 疗 瀬見 茂建 取插置 沛 小川之邊 E 角 角 集 人 依 身 17 身 分 B 命 ilii īlii 命 床邊 所 刊 伙 造 逐 於 此 寫 H

梅宫。

明

帝

母太皇太后橋嘉智子也。

橘妙

神

火雷命。

日女也。 一肚者。大己貴子大山咋神。 一社。玉依

建角身命 也

其後位階及, 度々。人皇七十五代崇德院治十 七年保延六年七月十日。正一位。 國史云。弘仁九年六月奉、授、從五位下。

太田 永三年官符。預,案上官幣。 人皇七十四代 鳥羽院 治十三 年庚子元

角身命。丹波伊可古夜日女。玉依姬也。三神身 坐。故名,三身社。今漸云,三井。 命也。又曰。蓼倉鄉三身社。稱"三身,者。賀茂武 三身社也。 。本緣見,風土記。賀茂 武角身

紀伊郡。

Ш 名, 稻荷, 歟。伊弉諾御女此名有,之。 .祇神女大市姬也。倉稻魂神播。百穀、神也。故 本社。倉稻魂神也。此神素戔烏女也。母大 一座素戔

> 過。而拔,社之木,殖、家。檮、命也 鳥,飛翔居, 山峯,生,子。遂爲,社。其苗裔悔,先 秦公。積,稻梁,有,富祐,乃用、餅爲、的者。化 烏。 云。稱, 伊奈利, 者。秦中家忌寸等遠祖伊侶臣 人皇四十三代元明帝和 日戊午。始顯:座伊奈利山三ヶ峯平處。風土記 座大市姬也。 秘 中 之秘 銅四年辛亥二月十 也。以上三 座

人世郡。

水度神。 由緒,者也 記。天照太神。高皇產靈。 彌牟須比命。 山城風土記云。久世郡水度。名天照高 和多都彌豐玉姬 豐玉姬命三神。尤有 命。先 師案。風

大和添

穴吹。 **宇**奈太理 坐高 御魂。 皇十五代神功皇后御字。武內宿禰勸請之。 六世孫。天八十萬魂尊長男。高皇產靈尊也 猿田 彦命也 天神 第一天御

中主尊第

卷

建 柱。是天並矛守護 絲 也

徃 馬 坐伊 古摩 都比 膽 駒 社 也

廣 瀬 郡

廣瀬 正 皇 社 月 四 者 # 十代天武帝 風 倉 水陰 七 稻 日 魂 陽二 命 正三位。 也 神 白鳳四年 谷 也。 水 並 加 伊 也 四 排 龍 月 諸 Ш 祠 何 風 之。 所 咖 生 jį 也 也 此 机 144

春日。

皇四

一十八 六月廿

代

也。

社

同

在

村。相去不、幾。

世

俗

稱

李 神

社南 也

又有、社。

號"三枝名神。

卽

大

神

御 使

子

川

Jil

坐大

神

御

大

臣

贈從

二位

藤

原

公卿

其

(後每,二季之祭日。有,公家

奉幣

굿

40

其

復

鄕

瀬川御沐浴。

以鞭爲驗立

成、樹生付。

年

J

未

一日。伊賀國名張 稱德天皇治三年

郡

夏

楠

護

栗必生哉

生

因始號,中臣殖栗連己

同

燒

栗各 御同

一宣。汝等子孫無絕 國薦生中山。數月御宿

可社

者 年

時

風 我

秀

行

等 自 身 景

> 葛 J. 郡

葛 木 嵗 下 - 照姬妹 御 神 社 年。 高 舊 照光 事 本 姬大神。 紀 地 神 命。 本 坐 紀 云 倭 國 大 葛 린 Ŀ 晋 那 加 御 女

葛 大倉 高 鴨 郡 比 女 大己 貴命一男也 味耜詫彥根妹下照姬 "又名"捨篠社 也

當 摩山 始之。內 口。 藏式。夏四 人皇 五 --月。冬十一月。 五 15 文德 天 皇 並 Ŀ 1|1 H

年

平 郡

宮 垂

柱 跡 月七日。

立

於大倭

國

添上郡三笠山。同年十月九日

大 卽

倭國城上郡安部山

御

坐。

同

年

龍 田 異名。 或 記 水 云 神 也 伊 勢瀧 故 此 祭神。 姉 名 廣 號 潮 龍 天 田 御 神 柱 國 則 御 同

註

丹生川上。 尊化生也 號雨 座 師 水神罔象女神也。伊弉諾

字 陀 郡

八咫烏。 其八咫烏之後,幸行云云。新撰姓氏錄云。神 咫烏引道。從,其立後,應,幸行,故隨,其發覺。從, 使 涉失路。於是神魂命 本磐余彥天皇。欲向,中州之時。山中嶮絕。 褒貴。八咫烏之號從、此始也 大神命以。覺白之。天神御子自、此於, 奧方,莫 ,翔飛奉,導。途達 "入幸。荒神甚多。今自、天遣,八咫烏。故其 賀茂姓角身命也。古事記云。於、是高 中州。天皇嘉其有 孫鴨建津見命。化 功。 如 特 大 跋 日 八 木

城上郡。 御井。 素戔烏子也。母稻羽八上姬

高

ifi

郡

大神。 人無 舊事 知者。 紀 姬懷姓。父母怪疑問云。誰人來到 云。大物 主神密通 活王 依 姬 時

> 、之。過,強度山吉野山。留,三諸山,其糸繅綰有,姬如,父母敎。朝見,彼糸。自, 鑰穴,出。認跡轉 三輪。故名三輪。 彼神人,以,此針,可、着,其衣裾,此夜神人來臥 同寢也。父母欲、知、之。採,針與、糸授、姬曰。令,乎。姬答云。頃者。人自,屋上,夜潜來,于吾所。共 。頃者。人自,屋上,夜潜來,于吾所

狹井。 註云。狹非者大神之荒魂也 也 為寫。有。鎮花 。宇多帝寬平九年三月七日 疫神也。神祇令曰。花散 祭。舊記云。 。鎮花 之時。 祭祀 。勅享梅。神祇分 大神 疫神 分

城 下 郡

鏡作 鏡作伊多 麻氣 が神。 神 社。 天糠戶命。 石凝姥命

坐。倭國高市郡高市社之甘南備 が代主。 高降 姬 舊事紀云。大己貴神。娶于坐 神生 男。都味 齒八重事 **小代主神**。 邊津 註

牟 形 鳥 社

佐 神 社 生 神

也

飛 鳥 社 賀 伦 奈 流

市 郡

多 坐賴志 理 都 比古。 大或社號

天 香 Ш 命 也

天

香

illi

坐櫛

眞

命

天照大神之孫

饒

速日御

Ш 邊 郡

大 和 比 坐大國 女 代 火 崇神帝六年鎮座。 和 魂。 耐 大歲 者 大國 神子。 \mp 大歲 、大歲者素 五. 須沼 十六代 清和帝貞 **遂子**。 比女三座。 母須 人 沼

觀 元 E 月 # 七日。從一 位。

泂 內高 安郡

思智 御 食 津 神 也 。當國

志紀 郡

當宗神。 Ti 年。改元。己酉四 國史云。人皇五十八 月乙亥。朕之外祖母當宗氏 代光孝 帝仁 和

> 當宗氏 神 平 在 五 河 神 年 內 幣品 四 國。自]] 七 使。當宗 今 日 戊 年 介辰。 始 社 11] 奉遺 天皇 祭之狀 外 河 祖 内 母之氏 國 御 四 志紀 記 郡 Z

攝 律 住 吉郡

住 顯 后 國 + 賊皆伏之故。 一年辛卯。 底。 神 留 攝津 中 住 表筒 國 香 吉 住吉 椎 I 男命 大明 一跳長 郡。今住吉 神 14 神 是也。 豐浦 功 大明神是 皇后 大 皇后 1 [1]] 1E 也 神 饭 也 座

神 皇

神 可 住 社 國 」時。到,於沼名椋之長岡

攝

津國

風土記云。

。住吉

大神

現出

而巡天

下。

前。內神宮

神奉、崇,信濃國

諏

訪

郡。今諏訪

也

生 東 魂 社 郡

比 賣 胡 曾 下 照 姬

河 遲 速 雄 高 鴨 NJ 神 也 味 耜 产 根 命

一成部

沼中 角宿 仍名 禰 。譽田天皇三年十一月。百濟 一祀之。仍爲,住吉第一攝神。 神 功皇后也。凱旋之日於,此所, 羽田矢代宿禰,令,伐,之。即 辰斯王叛。 日於,難波 飲食 遣 也

武庫郡。

廣田 體。如,式文、者一座也。其見在內。八幡。松尾。住 六日。從 吉八祖神。八祖神者。八神殿也。貞觀十二年十月 居。當、居,御心廣田國。隨,神教,以鎮座焉。或說 年春二月。天照大神誨曰。我荒魂不,可,近,皇 云。廣田者天照大神之荒魂也。可聞,神宮御 日本紀云。神功皇后九年。 位。 伐 新羅 之明 同

十月甲子。遷,于度遇宮

廿五年。鎮經伊勢。是謂。礒宮。同廿六年丁巳 崇神天皇奉、遷, 大和宇陀郡,人皇十一代垂仁

八部郡。

生田 天 照 太神 妹稚 日女也

長田。 主 事 海,之日 主命 也。日 酮 吾于 本紀云 御心長 神 功皇后元 田 國。則 年。事 以 棄

> 有馬郡。 Ш 姬之弟長媛,介、祭、之。

湯泉宮。 舊記云。三輪明神 也

賀阿 拜郡

南宮 金山姬命

太神宮。 敢國。 伊勢度遇郡 前筑紫日向天降座。 相殿二座。考五雄。 也。 神武 帝已後 舊記云。太神宮。已 九帝。宮

座。

度遇宮。 原。奉、迎、之。朝夕御饌。自 也 有"汚穢。於,外宮御氣殿,借進,內外宮 四十五代聖武帝神龜六年正月十日。於,途 云。雄略廿一年依 豐受太神也。相殿三座。見屋禰。太 "太神詫。從,丹波與謝郡魚非 外宮 **参。內宮。人** 舊 中 皇 記

信息。又云。大歲即祖神。 神前。元々集云。荒前姬。

大神。 新式。第三。名神经尾張中嶋郡。

年魚市郡。 天照妹稚日女尊

丹羽郡。

南宮寶姬。今氷上明神是也。西伊弉竝。北倉稻日本武。此神垂跡也。大宮日本武。東素戔烏。熱田。 人皇十二代 景行帝十四男小碓尊。後名

得之,即謂,宮簀姬,云。此劔神氣。宜,來、齊,之為,吾形影。因以立,社。熱田鄉爲,名也。先師說云。熱田社者。日本武尊留,其形影。天葵雲劔爲,御神體。可,謂。日本武尊留,其形影。天葵雲劔爲,御神體。可,謂。日本武尊至,其形影。天葵雲劔武姬。 吉備武彥女。

媛。穗積氏。忍山宿禰女。 母就透王也。母弟母孫若御子。 日本武第七男稚武彥王也。母弟母

高座結。日本武第二子仲哀天皇也。

哀母.

火上姊子。

兩道入

姬命也。

日本武姊也。為。仲

參河賀茂

郡

母播磨稻目大郎姬。 猿投。 人皇十二代 景行帝第一皇子大碓命

也

己等乃摩知。

大己貴命也

秦原郡。

砂豆賀茂郡。 公事任大明神。

物忌奈。阿波神御子也。三嶋大社本后也。

武藏足立郡。

入間郡。 日本武東征之時。勸請素戔烏尊,也。

出雲伊波比。 大己貴命也。 男衾郡。 日本武東征之時。 勸訓請稻田姬。

稻乃賣。稻田姬。

安房坐神。 舊事紀云。復天富命於。安房國,安房々々郡。

上總埴生郡。

太玉命社。謂 安房社

也

皇魂弟生產靈子也。號,前玉命。掃部連等祖也。玉前。 高皇產靈孫玉前命也云。不審也。今案高

下總香収郡

神相生神也。兒經津主神。今香取大神是也。名。曰"磐裂神。根裂神。兒磐筒男。磐筒女。二络垂血激越爲、神。走就"湯津磐村, 所,成之神香取。 舊事紀云。伊弉諾以,十握劔,朝,軻遇槌。

常陸鹿嶋郡。

為"八段"。各化為、神。八山祇。復劔及垂血激越為"神"。英速日神。今座"天安河上"。兒建甕槌男神。今常陸國鹿嶋大神是也。即石上布都大神建魄。 舊事紀云。伊弉諾以"十握劔斯"軻遇槌,鹿嶋。 舊事紀云。伊弉諾以"十握劔斯"軻遇槌,

那賀郡。 大己貴命。 大己貴命。

Ĭ

近江國滋賀郡。

酒烈礒前藥師菩薩。

少彦名。

栗太郡。 一名苗庭。

佐久奈度。 名佐久良谷大明神

小津。 兵主。 名 神 祭所不載之。可尋焉

宇賀魂。

蒲生郡。

高嶋郡。 沙々貴。 仁德天皇。一說少彥名。

水尾。 名河 勸請 也 內 耐 郡 內有 河北 天鈿女神也。兩社分 大河。件河南 水尾 猿 田彦 水尾川 神

美濃不破 郡

金山彦。 時。 悶熱懊惱因為,吐。此化神曰,金山彦神,是 風 士 記云。伊弉並奪生此神軻 遇槌 之

飛驒大野郡 也 宮也。

水無。 大己貴命女高照光 娅 命。 母高降姬 大和

> 信濃 國 伊 葛 上郡御 那 郡 歲神社同之。

思銀 命。

諏訪 阿智 郡

更級 南 方刀美。 也 訪上社是也。下社片倉邊命。是天手力雄命男 生。一男兒。建御名方神。坐。信濃國 郡 舊事紀云。大己貴命娶。高

諏訪 思語

那。 \ul 泒 姬

水內郡。 武水別。 名 神祭 所 不 被 之。 可。尋焉

美和。 三輪 大明 神 也。

妻科。 伊豆毛。素戔烏 稻田 姬 命也。 也

上野廿樂郡 之。可。尋焉

健御名方富命。

諏訪

體也。

名神

祭所

不

載

百五十 π

古 威 老

群馬 貫前 郡 名扳鋒大明神

榛名。 其所樣名。

賀茂。 山 田 郡 大 Ш 咋 神

美和。 大己]貴命

大神 河 下 內郡 野都賀郡 三輪 大明

神 也

荒山 事 代 主命

陸 奥白川 郡

伊 都 和止和 々古和介。 介 手 味 相能產根 力雄命。

玉造郡。 温 泉 大己貴。

温泉石 會津郡。 少彦名

> 蠶養國。 伊佐 而。清寧天皇御宇辛酉歲。造、殿奉、遷、之。 沼美。 云。有二 稚產靈。 作、須非。 一神像,不,知,何時畫筆,也。 伊 弉 並伊弉諾! 座 畏神 也

小田 黄金山。 郡 金山彦命也。

若狹遠敷郡

若狹比古。 十五代 當國遠敷郡西鄉內。靈河之源白石上始垂跡。 元正天 火 々出見 皇御 字靈龜元乙卯 一座。豐玉姬一 座。人皇四 九 月十日。

三方郡。 杵又 一 型 々

宇波 西 新式。 名神祭不、载之。

氣比。 越前氣比 者應神天皇之垂跡。氣比明神 風 郡 土記云。氣比神宮者字佐同體也。

仲哀天皇之鎮

八幡

座也。

坂非郡。 伊佐奈彦。 同 Ŀ

枚岡。 比古奈。 天子屋命 少彦名。

氣多。 能登羽咋郡 大己貴命

越中礪浪郡

氣多。 大神 延喜八年 預,官幣。國史云。延曆三年三月三日 八月十六日乙卯。以。越中氣多

佐度羽茂郡。 亥。氣多神正三位。 社記云。天活玉命

度津。 丹波桑田 五十猛命 那

出雲。 作 出芋。 天津彦根一座。三穂津姫

座

神 依 野 可茂縣主等遠 彦玉依 賀茂 姬 烈 母也 何 祖 身命婦伊賀古彌 也 玉依 姬鴨御祖 H 神 Y 也 命 玉依彦 111 E

大井。 松尾 大山 月讀命也。建治乙亥四月。神與依 咋。

yn

村山 大水 而流 山國 內也。 此地。故國民祭之云々。 大山祇也 大井

船井郡。

幡 宣命云。貢氷非。啻暑月貢進。 庶民之豐稔,之嘉瑞也 年 日 佐。 中御影向。 氷大明神。 當時齊衡年中。 神吉 / 氷室。 知 被 件社 授追從 天下之泰平。 解 云。 三位。 和 銅

丹後與謝 神 名籠 郡

籠

守權現

但馬朝來郡

粟庭 下社豐玉姬勸請。女此。又云。伊弉諾伊 一宮。 上社產火々出見。中社籠神。女體 排並 也 相

卷第二十三 延喜式神名帳頭註

二百五十七

古 威 老

群馬 貨前。 郡 名扳鋒大明神

榛名。 山 田 郡 其所榛名。

美和。 賀茂。 大己 大 Ш 貴命 咋 神

下野都賀郡

大神 三輪 大明 神 也

河 內郡

荒山 事 代 主命

陸 奥 台川 郡

伊 都 和止和 々古和介。 介 手 味 相能產根 力雄命。

玉造郡。

温 泉 大己貴。 少彦名

會津郡。 温泉石

> 伊佐 而。清寧天皇御字辛酉歲。造、殿奉、遷、之。 沼美。 云。有二 作 一神像 須非。 不,知,何時畫筆,也。 伊 舞並 伊弉諾一 座 也。 畏神

蠶養國。 稚產靈。

小田 黄金山。 郡

金山彦命也。

若狹遠敷郡

若狹比古。 十五代 國遠敷郡西鄉內。靈河之源白石 元正天 火 々出見一座。豐玉姬一 皇御 字靈龜元乙卯 座。人皇四 上始垂跡。 九 月十日。

杵又 一 で り で り で

三方郡。

宇波 西 新式。 名神祭不、载之。

氣比。 越前氣比 者應神天皇之垂跡。氣比明神 風 郡 土記云。氣比神宮者字佐同體也。

座也。

仲哀天皇之鎮

八幡

神

伊佐奈彦。同上。

坂非郡。

枚岡。 天子屋命。 少彦名。

能登羽咋郡。

氣多。大己貴命。

越中礪浪郡。

亥。氣多神正三位。社記云。天活玉命。大神,預,官幣。國史云。延曆三年三月三日丁氣多。 延喜八年八月十六日乙卯。以,越中氣多

佐度羽茂郡。

度津。 五十猛命

丹波桑田

那

出雲。一作,出芋、天津彦根一座。三穂津姫

座

野 可茂縣主等遠 依 彦玉依 賀茂 姬 外 母也 何 祖 身命婦伊賀 也 E 依 姬鳴御祖 古願 H 神 Y 也 命 玉依彦 也 E

松尾。大山咋。

大水,而流。此地,故國民祭,之云々。

ýn

船井郡。

村山

山國

內也。

大山祇

也

幡 宣命云。貢氷非。啻暑月貢進。 庶民之豐稔,之嘉瑞也 年 日 佐。 中御影向。 氷大明神。 當時齊衡年中。 ·神吉· 1 氷室。 知 被 件 社 授追 天下之泰平。 解 從 云 三位。 和 銅

丹後與謝郡。

但馬朝來郡。 一名籠守權現

下社豐玉姬物請。女此。又云。伊弉諾伊弉竝相粟鹿一宮。 上社彦火々出見。中社籠神。女體也

卷第二十三 延喜式神名帳頃註

也

當 德 國

養父 註 元年歲次戊申八月十三日。筆取神部八嶋勘 郡 言上。正六位上新羅將軍神力直根開 、大日靈神 。月讀。素盞烏。合三神。 和 銅

屋岡。 水谷。 名 諏訪同 神祭所、不、載之。

出石 郡

禮。 邊津鏡。幷八種者。伊豆志之八前太神也 天 阿娶。其姪申良度美。生。子葛城 日矛持來者。玉津寶云而珠二顆。又振浪比 。切浪 宮叉記。 比禮。 古事記云。 振風比禮。切風比禮。又與津 應神天 皇。 高額 多遲 姬 命。故其 摩比

氣多郡。 佐々伎。 須義。 御出 輪同體 名神祭不、载之。

山 山 祇

> 宇陪一宮。 因 治五十五年春三月。御歲三百六十餘歲。 幡 後見也。當國宇陪。大和葛城堺。美濃國不破關 御下向。於、龜金、双履殘。御陰所不、知。六代帝 是三ケ國同日同時顯座。 郡 風土記云。武內宿禰垂跡

出雲意宇郡

熊野。 佐 人人佐。 伊 井 並。 稻田 姬 軻 遇

嶋根郡。 賀

加

山代。

伊

弉諾

也

妖鹿郡。 一穂津 姬 也。 座事

代主

佐陀。 出雲郡 伊 素戔子磐坂彦命 排並 拿 神代岩隱地

宍栗郡

伊 和 也

御碕 飯 石 郡 天照大神

后

神

穗

津

姬

云"須勢利

姬

飯 川須 佐 石 素戔嗚。 脚 摩。 手摩。

石見安濃郡

邊。

八岐蛇。

物 部 味問 乳命。

多鸠。 宮 也

那

賀

隱岐 由 良比 知 咩。 夫 郡 大己貴命 嫡后須勢利姬命。

元名和

播 磨餝 多須 摩 神。 郡

高 自 岳 國 四宮 $\mathcal{F}_{\mathbf{L}}$ 宮 也 也

多可郡。

荒 田 宫 也

高 美 作苦 野 東 宮 郡 也

備前 赤坂 那

中

Щ

宮也。

大己貴命。

鴨 布 都之魂。 山城 同

備中賀夜郡 素戔所持之神 劔 也。 武 雷 命

吉備 如備中國 行天皇御字。彼御子吉備武彥命。 皇子吉備武彦命也。日本紀與風土記,符合 芹彥命。亦名吉備津彥命。此說 此三世王故。之名。宮瀬 津 名。宮瀬 彦。 人皇 第七孝靈天皇 風土記 川。河 西者吉備建 者。賀夜郡 初 司四 华 少勢 非 御 紀 П 也。孝靈 子命之宮 子 未。分明。 罷, 吉備 御社東 彦 \mathcal{H} + 景 國 111-有 狭

註

安藝佐 伯郡。

伊都支嶋 生三女。 共 號 "嚴嶋大明神" 天照 神 市 杵嶋姬也 與 素戔 誓所

周 防佐波郡

玉祖 長門豐浦郡 伊弉諾 男玉屋命

之地 之小戶。和魂者神功皇后征,三韓,時。顯蔣 吉神三座者。攝津國住吉郡。筑前那珂郡。長門 國豐浦郡。 地。名曰。住吉。豐浦之住吉。 州地名|而通|稱之 ,宣言曰。眞住吉々々々之國也。因鎭。 : 詫,神功皇后體。而循:行四方。途到, 神功皇后十一年。垂跡于長門國豐浦,住 三所也。住吉大神。其荒魂在 。那珂之住吉。 筑紫 攝 座 攝 州

紀 伊 伊都郡。

都比女。 天照太神之妹稚日女神 先師說云。 高野 也 山 天野大明神是 高 野 明神

> 州丹生川之裔。故名, 丹生都姬,也。 也 說云。 丹生都 姬天照大神也 後又顯 坐 伊 和

勢國。

名少郡。

日前 矛。此奉造之神像。是即紀伊國所、座 神以,石凝姥,爲。冶工。採,天香山之金。以 一名國懸宮。又名少宮。日本紀 日 云 前 作 神 思 也 田田 兼

石凝姥命也。

伊曾大神。

大己貴子 五十猛命也。多以,木

播 殖 于大八洲之國。為,有、功神

抓津姬。 大屋 姬 同 Ŧī. Ŀ 十猛命妹

靜火。 名紀 右自。伊達之神社 三所社 至一帮火社。

以此

三神

須佐。 有

牟婁郡。 伊曾太神末社也。

熊 天皇五 十八年。 响 天 、皇十六年。始建 建,同新宫。 熊野 本宮。又景行

是神

者。

所

. 顯. 難波

津

宫御宇天皇七德

御

世

御

嶋

坐云本。謂

淤 路津名 郡

伊 佐 一奈伎。 叉曰 。多賀。又天地大明

河 波板野 郡

大麻 彦 猿 田 · 達命。

麻 殖 郡

讃 忌 岐香 部 JII H 郡 寫 命

田 村。 宮也。 名神祭所、不、載之。猿田產。

阿 野 郡

城 山 名 神 祭 所 不載之。

伊 伊 曾 與 新 居郡 名 神 祭所、不、載之。

越智郡 祇 御 座 神 俗 稱三 御名 嶋 大 大明 Ш 積 神。一 神。伊 名和 與 風 多志 土記 云。字 大 神

也 智

> 此神 御 嶋 者 自 名神祭所、不、載之。 百濟 。津國御 國 嶋名也。 度來座。而津 國

多伎

伊 與郡

土佐 伊 り與。 土佐 名神 郡 祭所 不 、載

都佐 茂大社。其神名爲。一言主尊也 風 坐神。 土記云。 土佐 一宮也。俗 郡 那家 號 西 高高 去四里。有土佐高 賀茂 大明 其祖 神。土佐 智 國

朝倉。 社 說云。大穴六道子味耟 之神子也。 。神名天津羽 是名天津羽々神。天石戶別乎。今天石戶土佐風土記云。土佐郡有。朝倉鄉。鄉中 先師云 。天津羽々神者朝倉 高彦根尊也 社

也

5311 有

筑前宗像郡

宗像。 ~奶為 日 本 紀云。天照太 濯 于 天 眞 神 非。 索 収素 点片 然 变 Щ 鳥 嚼 Tri 19 吹 + 握 棄

註

也。田心姬命坐"宗像與津宮。中津姬命坐"中津使,授"之素戔烏尊。此筑紫 胷肩君等所、祭神次市杵嶋姬。凡三女矣。此三女神悉是爾兒。便氣噴之狹霧所,生神。號曰"田心姬。次湍津姬。

那河郡。

郡。山

城

左京者新宮也

宮。邊津

姬命坐"同邊津宮。又在"

大和

國城上

窗上鎮護始之時松原也。 室崎。 一宮。人皇六十代醍醐天皇 治廿四年延 宮崎。 一宮。人皇六十代醍醐天皇 治廿四年延

少童命。 筒男命 **"於海底。因以生神。號曰"底津少童神。次底** 日 之檍原 本紀 又潜。濯於潮中,因以生神。 表津 云。伊弉諾伊弉竝。往 筒 少童命。 一而。祓除將、盪:滌身之所,汚。乃 男命。 又浮濯於潮 次表筒男命。其底筒 至。筑紫 上因 號曰"中津 以 H 生 向 男

> **糟屋郡。** 命。中筒男命。表筒男命。是即住吉大神矣,

志賀。是住吉一體也。底津少童。中津少童。表津

御笠郡。

門宮波我伯母仁御座。 延喜廿年六月廿一日。八幡大神御詫宜。竈

夜須郡。

筑後三非郡。

高良王垂。 字為, 晨昏武略之健將。末世時 白鳳二年二月八日。高良神詫云。譽田 發物質。筥崎松原在建立新宮。可 武內宿禰也。人皇四十代天武 古 降沃新 敵 新 羅 天皇 雞 福 天 告 御

註

天皇治 接境 異 由 字手 賊 神 造 詫 之來寇 不犯云 延長元 廿八年 [i] 云 天 新 吾 る。社 也 临 雞天。 座 年遷 延 下置天。其 不。营我 解 是三年 北 云。三所 望,巨 自然降 御已畢。人皇六十代 朝 2 海 上 德及,遐 伏 中 西西 酉 石居。 八消除车云 殿 五月十八 向 高 絕 柱 良 方。高麗國 域。 平 。左八幡 なっ 立 為 日 醍 天。宮 防 醐 高 新

豐比 咩 天 緣 在 肥 前 圆 佐 嘉 郡 與 止 姬 社 也

右

住

I;

なっ

豐前

4

佐

郡

八幡。 東馬 大 神 神 龜 城 宫 四 國 拳 年 宁 所 佐郡 頂。 者 就 後 此 菱形山 亦 八幡。二比 Ш 人皇四十 奉、造,神宮。名 廣幡 女神。三 八幡 五代聖 大神。 日"廣 武 大 帝 坐 帶 幡 御字 部 姬 家

比 賣 姬 字 佐 計 解 使 時 被 仲 哀 獻 帝 御 后 装 妃。 束 應 神 天 、皇聖 母 神

> 功 皇后 也。 宇 佐 使時。 被獻

辛國 H ĴΪ 鄉 帳 并 息長 郡 施 昔者 風 春 大姬 土記 神 新 安 鄒 也 水之豐州 國 神自 而 削 任 國 度 那 比賣語 風 到 新 來 士 羅 記云。 國 住 曾 和 社 此 11 Ш 示]1[一。辛篇 11 原。 見 那 比 神 (ep 庇 女 名 名 木

豐姬 話 曾 神 註 』肥前佐嘉郡 跡 也 下

豐後 大 野 郡

肥 四 前 寒多。 松 भी 那 名 柞 原 大 原 神 筥 临 同 問

志 田 嶋 也 R 伎。 仲哀 稚 武 帝 王 弟 弟 稚 十城 武 Ŧ 和。 別王也。號 號上 松 下松浦 àlì 阴 前巾 明神

也

佐 與 嘉 申 冬 日 郡 + 女 月 風 朔 + 記 H

X

皇

10 國

欽

HH

百 1六十三

甲 云

子

肥

前 卅

佐

嘉

郡 11

與 \overline{H}

JE: 年

姬 H

神變 域之凶徒於海底。文永弘安之今者。施,風雨之 妹也。三韓征伐之昔者。得,干滿兩顆,而沒,異 有。鎮 , 姬大明神者。 八幡宗廟之叔母。 神功皇后之 而摧,幾多之賊船於波濤,云々。河上大明 座。一名豐姬。一名淀姬 。乾元二年記云

肥後阿蘇郡。

神是也。

健 居。天皇此國有人子。時有。二神。日。阿蘇都彥 一磐龍阿蘇津彥。阿蘇都姬 阿蘇都姬。忽化、人以遊詣之曰。吾二人在。何 帝十八年。巡清符筑紫。到,阿蘇國。曠遠不見,人 無人乎。故名,其國日,阿蘇 人皇十二代景

國造

日向兒湯郡

都農。 一宮也。大己貴命

大隅桑原郡

庭兒嶋 南 丽 應 **神天皇。若宮仁德。大** 御前 大比

> 赠吹郡。 大穴持。 大己貴命。

留女。

兼右案,之。神功乎。欽明五年顯座云

40

薩摩頴娃 郡

枚聞。 壹岐石田 和多都美神 郡

手長男。 思銀命 男也

手長 姬 同子。

對 多都美。 馬上縣 郡 八幡大神也。

和

右一卷。或人拔,上件神,大鳥。 日本後紀作,木。 不、得,默止。摘,先達之秘記 名。乞。本緣之註記

. 註進畢

文龜三年十二月廿六日 神道長上從二位行神祇

卜部朝臣 一無俱

大副

照余侍從

尾 張 國 內 神 名 牒

勢 田 太 正 所 前 月 焚 宮 尊 奉唱王 城京士 讀 比 守諸 叡 山 內 大明神。 神名帳 王三聖 大菩 神

竹 白 金峰 生 Ш 噶 妙 山 大辨 理 金 大 剛 アオ天 權 藏 現 王 女。 熱田 立 熊 野 山 大 滿 一所大 稲 行 大菩 田 大菩薩 權 薩 現

幡

_

所

大

宇

佐

大善

下 Ŀ YuJ 行 行 大菩 大 兩 大 朗 菩 所 薩 神 大 薩 蕃 稻 氣 中 院 荷 比 山 滿 大 滿 氣 明 行 多 行 大菩 大菩 神 兩 所大菩 薩 薩

瀧 春 嶋 藏 H 大 大 大 明 明 明 神 神 神

尾 張 國 内 諸 神 社

從 位 海 部 上 郡 大國 + 王 名

憶

威

名

位 上 宇多須 諸桑 生 廿 樂名 桑 天 天 神 天 神 祌 途 藤 夜 屿 部 檐

IE 四 位 位 上 下 小 馬 大 嶋 井 天 天 神 神 宗形 143 杜 天 天

加

新屋

天

神

天 天 天

神 闸

星 稲 杜 部 大 天 名 天 神 神 神 鳥 河 宷 取 天 天 神 神 神

大 原 晋 野 大 大 明 明 繭

尾張 國 內 神 名喋

卷第二十三

廣

垂

大明

神

神

朋 明 朋

神

葛

木

大 大 大

明

神 神 神

正

四

位 位 位

下 上 下

批

咖

良

大

神 神 神

間 水

明 明

從

IE

四

賀 高

茂

松

尾

大

明

多

信

伊

豆豆 賀

滿

野

木

五

二百六十

石

門 原

治 見

神

市市

耐 神

蕨

前巾 神

神

物

口

裳

咋

從三 從 從 從 正 位。 位 位 位 位。 中 上 嶋 宗形 四 淺 小 淵 酒 國 太 見名 井 塞天 玉名 代名 森 王 神 清 天 天 名 天 名 田 神 神 神 神 神 柳 神 神 大 神 明 神 石 久田 金名 於保 伊奈波名 作 名 名 神 天 名 神 神 姉 神

正 四 位 羽 下

座。

地 地 若 天 天 天 天 神 天 天 天

神

天

鵜

天神。

修 河 賣 小 櫟

理

御

子天 神

長 俣 竹 部 部 野

杜

天

俣

河

下 天 天 天 天 天 早天 天

天

神

夫 盛 江.

神神神

赤 茜

神 神 神

溢

TI. 天 天

神

天 天

神 神

母

JI 鹽

曲 門

從三位上。 栗郡 十二 鈴置 足 近

若 大 石 H 栗 野 作 天 天 天 天 神 神 神

從三位上。

針 千

前

天 天

咖

高

田

波曾岐天

天

神 神

堤治

天

神

原

奴

神

天

神 神

井

天 天

生嶋 河 蘆 嶋 太 入 天 天 天 天 天 神 神

楉

野 宫 田 栗

天 天 天 天 天 天 天 天 天 天 天

杜 屋

天 天 天

山 H

郡

二十四

菅

生 H 栖 賀 Ш 鳩 原

天

神 神 神 天 神 神

H 生

神

神 神 神 位 位 位 位 37 下 上。 郡 伊 成 針 大 比 繩 海 良 懸 福 賀 Ŧi. 名 大 天 利 天 明 神 神 天 神 宇 名 夫 須那 神 神 大

從正

明 天 神 神

> 政 佘

天

鳴 鳥

天 天

良

志

神

從

從 從 從

吾馬

山 JL.

名

神

神

羽 刀

天 天 天 天

伊 丹 前 石

原

天 神 神

神

野

神 神

作

神

桑

位 春 上 日 井

赤

見天

神 师 肿 天

田 王

天

見國 游 杜

H 市市 神

天

市市

郡 多氣 物 舶 備 部 名 天 天 座 神 神 神

H

神

味

鋺

天

神

神

片 內 ili 11 天 天 神 神

高 魚 六 松 原 見 亿. 飾 天 天 天 天 柳 胂 神 神

詫美 鹽道 井出

天 賀

削 虫鹿

神

田

方

天

位

志 外 板 訓 樋

神

神 神 神

稻 工

木

天 神

神

神

小

口

從 正 四 位

上 下

草

天 地 田 天 天 天 天

> 所 地 神

高 蘭 天 꼐

小

一百六十七

正二位。	從一位。	正一位。	愛智郡				-	,							從三位上。
日割名神。	素盞雄名神。	熱田皇太神宮。	愛智郡二十七座。	山口天神。	伊奴天神。	川原天神。	和示天神。	片山天神。	大江天神。	桁幡天神。	大目天神。	深河天神。	金天神。	澁河天神。	羊天神。
乙子名神。	,			質々天神。	牟久杜天神。	夜簷天神。	小口天神。	河嶋天神。	和田天神。	尾張田天神。	石作天神。	大井天神。	尾張戶天神。	大簷天神。	坂庭天神。
	從二位上。	從一位上,	知多那	7				從一位上。			從三位上。			正三位。	正一位。
常石天神。			知多郡十六座。	針名天神。	日置天神。	油江天神。	訓原天神。	從一位上。三田天神。	伊福利天神。	高牟久天神。	從三位上。成海天神。	千竈下名神。	日長名神。	正二位。青衾名神。	正一位。八剱名神。

伊具智天神。 杷 摩加天神

阿奈志天神。 富具天神。

右神名帳所、奉、唱如、件。

奉始武塔天神井八王子。

荒太天神

野間天神

依,文治二年丙午三月日

稿 宣命狀。國中諸神皆增,位階。為。天下安穩御祈

于時貞治三年甲辰正月七日酉剋讀上。 右筆行範

右以熱田座主如法院藏本書寫墨

伊 豆或 一神階 帳

正一位三嶋大明 伊 豆國三ヶ郡内神明帳事 神 品きさきの宮

品當きさの宮

I 正 五位上第三王子井十八所御子達 一位千眼大菩薩

從 從五位上六所王子。 一位やきわらの明神

從 一位廣瀬明神

正五位 正 位天滿天神 上 角 の明 神

從四 從 四 位 位 E 上小河泉明神 工作明 神。

從四位 四位 位 上宮 上高橋の 上たん 王 0 かい 朋 明 の明 神 神

卷第二十三

二百六十九

伊豆國神階帳

正 從 從 從 從 從 從 四 四 74 四 四 四 四 位 位 位 位 位 位 位 上あ 上 上 上 上 上 上 な 河 12 お 3 < 6 は 原 b 1 ゎ 3 ٤ U) 5 あ わ め 0 明 0) 3 5 0 0 明 明 神 明 0 0 明 明 神 明 神 神 神 神

F IE 從 四 四 四 位 位 位 Ŀ 上 上 狩 長 ち 瀨 野 1 な 0 0) L 明 朋 神 0 神 明

正 從

四

位 位

Ŀ 上

瀬

0 か

明 0

神 1

四

明

神

從 從 從 從 從 從 正 從 四 四 四 四 四 四 那 四 位 位 位 位 位 位 位 位 賀 Ŀ Ŀ Ŀ .E 上 上 Ŀ 郡 下 4 お 5 4. 12 か 2 貮 ひ な な 拾 12 \$ 72 L 0 1 ٤ 0 か ひ b 四 の 72 3 所 王 0 L 0 h 明 0) 明 0 神 0 0 朋 朋 朋 朋 明 補 神 神 神 神 神

從 從 四 四 四 位 位 位 位 Ŀ ŀ 上 上 國 わ 浦 72 E 姬 5 谷 0) 朋 0) 40 玉 姬 姬 神 0 0 市市 阴 阴 神 神

從 從 正

12

0 朋 0

朋 神 明

神

高

Ш

0

位

上

胡

谷

神

從 從 從 從

四 四 四 四

位 位 位 位

Ŀ

字

久 胡 10

須 0 P お

0

朋 神 明

神

上

72

0 1

神

Ŀ

な

か

٤

0

明

上

多

明

[74 DU 74 四

位 位 位

Ŀ Ŀ 上

湯

四

Ŀ

多 熱

朋 游 3

神 0 Ш 從

上 下 Ŀ

12

0 2

孟

12 わ

b け

け 0 明 明

0 朋 神 神 神

明

神

IF. 從 從 從

Ti. 几 四 四 四 賀 四 四 四 [79 29 四 四 四 四 四

位 位 位 位 位 茂 位 位 位 位 位 位 位 位

包 13

3

神

從 從 四 四 位 位 上 E いり い は わ よ < 5 姬 0 わ H 朋 0) 前申 朋 神

位 位

上

3

12

0

神

3

明

神 明

姬 0 姬

阴

神

從 從 四 四 位 位 Ŀ Ŀ あ 12 め け L 0 カコ 0 72 刑 姬 前中 0 朋 神

從 從 四 四 位 位 E 上 30 45 わ 1 姬 0 W 0 3 朋 姬 神 0 刚 神

從 從 從 四 四 四 位 位 位 上 上 上 3 お 3 3 かっ b T わ め 3 b い 姬 わ VT かっ 0 0 3 は 2 のみこ

從 四 位 上 月 ま 0 H 神

從 從 IE 四 Ŧī. 四 位 位 位 上 Ŀ Ŀ 政 お 加 D は 茂 40 0) L 0 0 朋 朋 阴 神 神 神

從

上

つ + ち

姬

朋

神

郡

七

上 上

い

b

-

b L

V 姬

0 0) 0)

い な =

2

了

姬 0 所 12 阴 朋 阴

明

從

上う

わ

b

0

明

神

從

上

石

戶 3 T

0 0 0

神

從

上 上

1: L 47 國 青 ٤ も

神 神 姬

從 從 從 從 從 從 從

> Ŀ 上 上 上

姬

0 0 玉 姬 £

朋 朋

神

姬 2

沛 0)

上

13 原 \pm よ ろ カコ

2

P

0

朋

神

IE Ti. 位 Ŀ 船 F 0) HH 神

大 IF. 正 嶋 \mathcal{F}_{i} 位 井 位 嶋 上 上 K 2 12 + ちつ なりま Ŧi. 所 (各 h 2 五 0 0 位 Ш 朋 上 神 市中

百七十

康永二年辛亥十二月廿五日

判

在

廳

正一位。 上埜國。摠五百七十九座。 鎮守十二社。

右伊豆國神階帳一卷以當國在廳伊達某藏本書寫

甲波宿禰大明神。 伊香保大明神。 扳鉾大明神

> 赤城大明 榛名大明神

神

小祝大 文大明神 明神

從一位。

字藝大明神 加茂大明神

美和大明神。 大國玉大明神 火雷大明 神

秋山明神

從三位。

從正

位。位。

宗岐明神 **扳鉾**大神 廿良郡三十三座。

從四位下

扬鲜岩御子明神。

鳥總明 丹生明神。

神

上野國神名帳

二百七十二

從三位。

丹

生

朋

神

綠

埜 餘

郡 社

+ +

七座 七座。

朋

神

從

四

位

小

野

朋

輔

片

岡

郡 社

+ +

四

座 座

餘

從五 從 E Fi. 五 位 位 位 下 上 佐 玉 位 山 津 耐

億 津 宮 明 明 明 神 神 明 神

餘 社 + 朝 Ŧi. 照 座 明 神

荒

垣 船

朋 明

神 神

明

神 明 保

從

垣 賀 屋

神 明

於 縣 高 朝 新

神

朋

神

小

位。 多胡 郡 # 辛 五 科 座

朋 朋 神 神

有 穂 志 子 明

積 明 神 神

從

位 位

上 上

馬 櫛 郡 物

片 子 御 部

山 阴 玉

明 神

神

E 從 從

五 玉

明

神

鳥

總

明

神

三位。

正 從 從 正 Ŧī. 五 四 四 位 位 位 位 上

> th 頭

朋 阴

神

明

神

神

Ŧi. 位 上上 荒 土 水 郡 御 沼 師 御 王 朋 王 明 明 神 明 神 神 神

碓 氷 餘 社 郡 二十五 九 座

座

從 從 從 從 從 從 Ŧi. Ŧī. 四 四 = 位 位 位 位 位。 位 上 上 波古 應 美 下 事 若 嶋 都 田 玉 國 曾明 朋 明 阴 王 澤 神 神 神 朋 阴 神 神 神

> 新 他

> 馬 屋 明 朋 神 鰰

前

二百七十三

從四位下。	從五位下。	正五位上。		0.			從四位上。	正四位下。	正四位上。	從三位。	正三位。	群馬郡	徐社	從五位上。	從四位下。	從四位上。
小津明神。	鏡明神。	伊香保明神。	中山明神。	大御子明神。	嶋名明神。	止々呂明神。	放光明神。	小河原渠口明神。	新屋明神。	大友明神。	温泉明神。	百四十六座。	九座。	唉前明神。	下縣明神。	鎌總明神。
		大國玉明神。	有馬渠口明神。	郡御子明神。	石井明神。	若伊香保明神。	小祝明神。	物部明神。		丹生明神。					榛名木戶明神。	
			14	145												
			從五位上。	從五位。			從五位上。	從五位上。			•	正五位下。		正五位上。	正五位上。	從五位上。
刀部明神。	大友明神。	中家明神。	五位	Ŧī.	大木明神。	息津宮明神。	五位	五位	石內明神。	有馬堰口御鍫明	矢田部明神。	正五位下。有馬堰口明神。	大取明神。	五位	五位	五位

胸

木戶明

神

神 岩 形

明 御 明

埔浦

-f-前申

明 神

二百七十 Ŧi

财

部

11)]

神

持

岩 順島

7 神 浦 加 市中 加

143

御 御 11)] 11/1 M [1]] 朋

子明

神 꺠 大 駒 温

心 形 泉

 \mathbf{H}

1

卷第二十三

上野

國神名帳

佐 一奈明

枾

從五位上。 榛 田 扳 名 本 口 原 大所明 明 明 明 神 神 神 雷 春 若 神 科 御 明 明 子 神

香取 若 若 禰 御子明 "岩御 御子 子 明 神 明 が神。 大石 芳賀 明 神 明 神。 神

水沼 榎本於神 明 神 期

神

餘

四

座。

從

四

利

新

屋

阴

神

桑 大 赤

下 嶋 城

明 明

郡 祉

十二座。 百

白

根 白

明

明 神

神

從五

位

利 根 餘 郡 社 小十二座。 五.

明

神

從從 位。位。 位。 保寶高 小 高 朋 神 明 神

車持

大明

神

新渠明

文岩御子

明

神

桑

上

明

神 神

從

碓

根

明

從 位。 笠科 鬼 坂 明 明 神 神神

從 從 四 四 位 位 位 上 上 國 石 津 油 社 利 明 朋 神 神 神

從五 位 上 飯 小 玉 用 朋 朋 前巾 神机

郡 津

玉 馬

明

神流 朋

山

勢多郡廿三

座

餘

社

亚

座。

從 從 從

淺 小

從 四 位。 位。 位

位 上。

朋 明 根

神 加

> 新 座。

بل 小 渠明 不 多明 神 神

絲 社 井 朋 朋 神 神

利 前 神 朋 朋 疝 神 從

位 佐

國

王

明

神

正

位

長

柄

朋

神

邑

樂

郡 社

+

Fi. 八

餘

+

座

吉

知

肌

神

位

郡 社

十二座。

餘

4.

座。

正 從 從 M 四 位. 位 榛名木戶明 郡 玉 神 明 - [[] 神 市中 伊 香 高 保 井 取 岩 明 御 神 7 明 神

霜 白 川 川 朋 朋 神神 神

Œ

Ŧi.

位

上

井出 若

明

神 神

國

明

小

出

神 神 神 前 朋

十二 石 篠 原 月 明 明 明 神 神 神

布 留 明 繭

從

位

村

朋

神

JII

明 朋 朋

神 神 神

E 從

Ŧi. Ξ

位 位

上。

栗原 國 波

那

+ 九

八 座

座

E

餘

社

赤 榛名

城

若

御 御 神

7

阴 阴

岩 明 上 玉

子

從四 從三

位 位

上。

玉

H

女明

神

山

田

郡

廿三座

賀茂

明

神

從 從 四 位 上。

位 那 Ш E 女明 明 前中 响

餘 社 六 於 座 祁 MI 姉

穂

明 IIII

峭 神

都

奈

新 田 郡 41. Ŧi.

從 從 正 四 = 五 位 位 位 走 下。 宿 新 生 窪明 階 池 朋 明 神 神

大

淮

朋

神

餘 阿 波 11)]

社 十八 座

神神

档 \pm 非 IIII 神

神

礢 部 朋

御 槐 HH 神神

二百七十七

帳

二百七十八

從從四位之。 郡玉明神 八田 母前若御子明神。 火雷明神。 明神

餘社七座。

右上野國神名帳一卷以奈佐勝皋藏本書寫一校舉

坂津明神 子赤城明神。

岡剱明神。

神祇部廿四

藤森社緣起

及一 弓箭.列. 立太子,為"大將軍,可,有"退治,之由 王 于 代光仁天皇第二 城國紀伊 謹 亚 下泰平之瑞相。第三疫病 日御出陣之處。 口祭禮 他 勘 立,太子。今年異國蒙古責來之由 太子大軍 也。爱天應元年四月一日。超 舊記。當社 騎馬事。第一異國降 悉以 神幸之時。在 那 藤尾 令 滅 勝利事被、所申當 大 一皇子 **宣所** 之靈地 風吹 却,畢。以,此因緣。每年五 天 早良親王。年 八而大海 地之神人 王者。 垂跡 消除之祈禱 者 伏之表示。第二天 飜 神護景雲年 也 等。鎧 波 社。同 浪。件 來御崇敬 有 有風聞。以 御兄山部 人皇四十 也自 年五月五 一甲胄一帶. 宣旨。依 蒙 4 爾以 古 異 親 九 Ш 月

說古 降。 為 正 王之御怨靈。有追號 所 奉行粧也。依此等本緣。以當社一被奉、號一弓兵 森 王即』皇位。 桓 刀等。以 点崇道 社 天王敷地之內所望之由被 者 洛 口傳也。 位。七月十五日於當社庭中 請之。自、爾以 神慮之處。可奉、借之由 也 中 一天皇法燈」云々。又說為, 蒙古追 早良 洛 弘仁七年大師稻荷大明神為。物 流戲之。稱 外 至,邊土遠國。 武天皇御事也。為被鎮市 親王延曆四年御早世。御兄山 來號 奉称 當滿 被 点景道 以所於稻 小男童兒帶。作 刀。是則 依有。神託。三山 達。农門。 天皇。後 燈。大立 荷 當社 矣。五 第一云から 被伺 日被 早 然 松 -1-良親 部 禮 太 贈 W 供 刀

卷

是也。 條 住 師。西 隨。奇 以 為 也 兩大師始而被定之矣。 五月五日神 佛 筆。相副 菩薩 御前 訓 同年五月五日。於,當社寶前,空海修,法味 民等。 瑞。初而被、定,中三所天王御本地。本社 、然於,京中氏子,者。被、寄,稻荷之社。依、之 依 將來 為 十一面。東御前文殊。日 称 本尊大日像。 幸奉、成,京中,者也。大師敷地借 悉以 天 本地 佛 王 舍利。三國傳來之旨。被、染,空海 為,當社氏子。稻荷社人等同 敷 引品 地。 真言將來以後。傳致弘法 近鄉井京中自,五 被奉當社宮 |本神 中。舍利 國之 條 _至.九 諸 神 樂 堂 用 前

書籍,注,之。可秘《《。 右當社之本緣。世以不,流布,者也。撰,數百合之

殿被,注遺,之條。見,御奧書。 弘治二十一三。借,用件社緣起,書寫了。神龍院弘治二十一三。借,用件社緣起,書寫了。神龍院

右藤森社緣起以立原萬藏本及諸社根源抄校合畢

尾張國熱田太神宮緣記

丈。力能 所以 懼迷、魂。無賴之責何地逃、之。於、是日本武 皇責日。汝不以 、主。愕然逃亡。匿,於艸莃。 必大確命 詔 [整] 成號,其二子,曰,大碓小碓,也。是小碓箅。亦名 日 太郎姬,爲,皇后,生,二皇子。第一 正二位熱田太神宮者。以, 其薦達」也。 甚, 於倒懸。 日本武尊。幼有,雄略之氣,及,壯容貌魁偉。身長 **雲剱。後改名,草薙剱。其祠** "群卿·曰。 朕聞東夷反逆。 暴神多亂。 國家之 者何也。昔大足產忍代 碓尊。一日同胞 扛、鼎焉。天皇四十年秋七月癸未朔戊 之事矣。時大 日本武 命遺誰人一平其亂。群臣皆未知所 欲,往豈可, 强遣,耶。何未,對,賊 尊奏言。臣先則勞。西征。是役 雙生。天皇異、之。則誥。於 碓 T. 則 命聞 神剱,爲,主。本名 别 遣 天皇。 於是張 ,使者 斯敷奏。五情 E 立播 大: 國愛 確命。第 磨 智郡。 天 稻

第

產與

建稻

夫。冬十

有

服

銊

以

再

拜

否 深

調

之冥助。假,天 來尚矣。 無別 "暴神。振武而攘」姦鬼。 宿怨必 種 學、兵討擊。 月 尊 凌邊 化 探 剞 旣 无 E 。臣謬以。孱劣、奉、命東 皇之明 F 順 数 今朕察,汝 加 前 子 服從 则 伏。 第相 (知, 變。示, 之以, 威。懷, 之以 以 境 朔癸丑。 報 夫 撥理其亂。天皇手持 汝天 所,攻必勝。 Ш 。或伺 九夷之中。 未 威。往 故頭 一疑。 重 日 有 以再 下 本 邿 為人也。身體魁偉。志 間 各貪"土壤"遞以抄 髻藏 也。此皇位 幾 H 武 臨 鬼。郊有暴神。惱 隙 本 拜 年。蝦夷 奪。 ,其境。示以,德 寔知形雖,我子。 (新 大。 衣 中 武 之。天皇勅 以略一平 蝦夷為。暴悍之首, H 亦以,七拳脛,為 绅 本武 征 發 一則汝位 逆 路之。戊 亂 若 约 民 佩 賴 <u>75</u> 源 占 討 致。 神 德 也 略 亂 子野 備 平 實 承 或 五 靈 掉 以 何 之事 打事,道 尊 中而 麋 言辭 日淹留。不、忍、分、手。不思拿數百流電車 身。又 辭。 薙 帥 佳 震 種 武 也 生麗之娘。 問 大 大 日本 忽被 鹿爲群 陽 尊拜 领 公啓曰。 四 倭 從之。 約 霓 賜二 日 面 今奉" 姬 註誤。 束。 之草。 、獣。賊 命 拜 我 當郡 劔 各 御 展 伊 就 向 W. 計 勢

是神

此

謀

遠慮。

雄

僚 车

所

向

民 此一

結びませま

未染。王

授

本

近

日

趾

焉 恩

父 <u>.</u> Н

子

易

問。其姓字。知,稻種公之妹名宮酢 有处。 欺曰。 皇命 工叉開 **養**行。 共 有談殺之意。放火燒 海 武尊咸 前程。 水上邑有,桑梓之地 大神宮。 略 志。授 道 東征 是地也 遊獵。日本武 所 難 。若有 道路到。 公向 娘。合卺之後。 持 旣 施 其怨誠 H 逆城。 爱 而 本武 ··急卒··解·斯囊 神剱 啓 其所 الأ 原野瀬 则 1 3 尾 齊 道。 稻 凯 有 约 傾認思題 張國 111 王 尊信 到 常 和 蹰之間。 任 火 加加 條 一颗 公 韶 曾 変 打 如位 **其野。**日 。伏請 뗈 弘言。 目極 国李四 智 四河 談 自 那 枚 日。日 然 定 侧 坂 本新 其 大 武算 見 抽 東 木 70 Ŧ 時 幣 行 K H 娱 UP 木 於

卷

是小海耳。世 定。 名,其處, 從 媛 贖 欲 浦。 陸 取 於是蝦夷等震慄歸、德。故免,其罪。 弓矢,望拜 和 奥。懸 "其梅·作·墓安置焉。 之地。其蝦夷賊 火。 我 E 相旅拒。遙望 海之後。 妾號弟橋 王 船 向 之命。此 將沒。 公適有 得着、岸。 E 燒 相摸 之日。 鏡 可立跳渡。乃至,于海 姓 燒津 丽 於船首。從一海路 得 媛。應積氏。忍山。啓王 是必海神之心也。 語 欲向 城首嶋津神國津波 「本等議員製工」 「本等議員製工」 「本等議員製工」 那今 免 王對之日。吾是現人神之子 仰視 二部也。建二號二 大 時人號。其海,曰。馳水 未終 上總。望海高 日。御櫛隨、波依,於水 发 君容。秀於 之威勢。 日 衝波沒 学共 本 廻 武 道 面縛 心於葦 神等。屯」竹水 之消 尊自 中。暴風忽起。有 黨。曾 入 願 於於 八人倫。 以幾 目。 二三日·高言。 一二草薙·言·具 三二章薙·草薙此 因以俘 上 首 息。共向 浦 無 今風波激 此風 自 世。 帥 橫 總 送之身. 唯 威 共抛 轉 濱 渡 其魁 類 猛 弟 和 也 玉 著 橘 波

王。 狗自來有,導王之意。 鹿。 、裳。跋涉懸度逮"於山 八」信濃。山高谷幽。人 媛之情。故登,碓 北 _海 賞。 波 玖波塢須 秉燭而 西 帥 耶。端(素子)。此故號 是度,信濃坂者 轉歷 だ道。 虚 南 介從 則 化 秉燭 A 歷 一白鹿 當 本 中 武 能 進 常常 武尊 會,尾張宮酢媛之宅。 眼 擬氏。 用。 者 藏 食此 陸 而 立 續 也 Ŀ 與稻 比 死 至 於 野。 蝦夷既平 珥 王 異 伦 車 **氷嶺**。 王前 坂東諸國 波苔塢伽塢 西逮于確 歌之末 玖 以歌 種公,更議日。我就 斐國。居,于 人馬希通 用加 隨狗 椒。 忽失路。不知 主 im 問 氣。漠 一異之。 進食 東南 禰 四日 吾婦國 日。 待 自 而行之得出 克流。)。日本武 氷 **!**者,日 伽餓 国 望之。歎曰吾嬬老 酒 日本武 日 療 坂。忽有 卽 以一 折 高 褒 飢 諸侍 多 奈倍 珥 宫。 見 所行。 ĪЦ 算杖 秉燭 箇 尊 夜 國 山 比 也。尊 首,甲 赫 道 氏。 者 神 一麼利 死 以 濃。 欲 公 者 却 用 歸 定。 珥 娅

卷

第一

知 流。 禰 何

爾

祁

理

宮

酢 宇

媛 門

奉 爾

和

日

夜

須

美

志

/\t

和

期 紀 祁 與 和 校 卽 媛 媛

志保 富 夜 紀 閇 為 是 良 止 身 樹 光 還 厠 止 日 岐美。 彩教 許 久。 由 邊 乎。 加 放 寢 刨 此 日 和 BOT 有 爾 佐 久 射察 佐 息 本 何 光 風 美 都 由 稱。 北 留 祁 俗 武 和 殿 之狀。答 批 紀 多 鱽 其 知 志 然可與 桑樹。解 歌 良 多 女妓美 尊 禮 伽 授 後 何 名 牟也。 矣。 於 良 流 多。 波 北 知 計 部 麻 北 加 爾 JĿ 意 熊 甲 憚 日本 質 宮 比 牟加毛。奈留美者。是宮酢 所 知 志 流 Bil 派 斐 保 須 寤 加 酢 此 神 持 波 流 佪 比 ~坂折 志 比 帶 欲 茁 比 瓣 媛 樹 此 光。取、剱 3 佐 禮 剱掛 75 尊淹 H 75 售 取掛桑 [sn] 比 劒 爾 Bij 爾 宮。有戀 本 字 美 禰古 無怪異。 3 為 禰 美 我 武 閇 字 古。 於桑枝。 留之間 加 古 我 歸 持 介 個 波 倍 乎 知爾 之剱 [11] 床守。 麻 又 Bul 那 R 自 和 宫 此 歌 知 住 宇 告级 多 出 夜 (4) 西 细 數 補 日 何 倍 C 都 時近 4 一成海 麻 则 許 媛。 佘 颤 多 必 梼 紀 那 75 以 作 歌 酮 迎 光 HK 27 IH 137 75 志 Illi 加 则 共 岐 劔 歌 不) 11]: 都

宅。于

時獻一大饌。

宮酢媛

手捧

"玉蓋」以獻。

着

衣

意須此。"染"於月水。日

本武

尊

覽

之 彼 酢 H

比

那

乎。 曲

麻

禰牟

和例

波母

弊

流

加

比

等美

和

多

流。毘

何波 此

乃波富曾

秘 麻 歌 所

蘇義

乎波理乃

夜麻

許

知

其

知能。

车

止

例 乃

波 岐

母

弊

流 等。

乎。

和

伎毛古。

那

意須

比 和

[m]

佐

都

紀

乃其止

八

都 何

多 西 追 土

風波暴

起

舟船傾

沒。公亦入、海矣。 促駕還着於宮

本

武

奪

吐

准

作が計

悲

慟無已。

天詞

駿

河之海 神。在一春日部郡。其地號一內津。社

々中有

鳥。

鳴聲

可、怜。毛

羽

奇

之

俗。何。覺

駕鳥。

公謂

日

捕此

鳥

獻

君。飛

帆

踰

此

山

嚼蒜

塗人

及

4

馬則

不

中

毒

氣

種 也

公康

從久米八腹。

策,駿足,馳來。

稻

公

尊還

前向

尾張。到。篠城邑。進、食之間

稻

亡沒。

日本

武尊乍聞悲泣

目。

現哉 啓曰。

現哉

哉依 種

今稱

亦公八海之由。

八腹

啓 麗

日 問

氣吹 獻,於太神宮,又遣,吉備武彥,奏,於天皇,曰。臣受。 遠。 波氣麻斯遠。 爾 東之歲。停"此濱邊」而 體 而 得出山脚。失意如、醉。居山下泉侧。乃飲,其水 山谷杳冥。乃接遑不、知,其所。跋涉胃、雨强行。 其使者豈足、愁乎。因超、蛇行數里。暴風吹 神化蛇 到。氣吹 松下。遂忘而去。至,今日,劔循存。故歌曰。遠波理 覺醒。 大伴 中不豫。欲歸尾張一便移一伊勢到尾津濱。昔向 都阿勢遠。 。逮"于能褒野。異、常委惙。仍以,所、俘蝦夷等 多陀爾牟 言曰 illi 有。暴惡神。若 建 山。山神化、大蛇、當、道。日本武尊不、知、主 故號,其泉,日,居醒泉,也。 謂,是大蛇必暴神之使也。若得,殺,主 一。縱有 日 臣 比登都麻都。比 岐奴岐勢麻 迦弊流。 諫 "彼暴神"學足蹴殺。途留、劒 非剱 此 遠津能佐 進食。是時解,一劔,置,於 不 斯遠。比登都 氣 可 登爾阿 留 何除 岐那流。 何 自後 毒害。日 理勢 。承聞 麻 日 波 本武 比 初 淫 本 登 问 前 道。 雨 質 僅

業耶。 之間。條亡。我子。自、今而後。 批也。天皇聞之。寢不、安。食無味。晝夜嗚咽。 能 能。 命天 臣等開,其棺槨,而視之。明衣空留不見,骸骨 是以是昏鶴望。待其凱旋。何 擾。無人征討。忍愛以入,賊境。少選無、不念之。 征伐有、功。又不、離。左右。補、股不、及。今東夷騷 歎曰。我子小碓王。 十。仍號,其瀬,日,能知瀬,能知者。命令改為,長瀬 復命。旣而 天命忽至。隙駒難、停。豊惜,此身之亡。悔不,面 、罪。荒神自調。是以卷、甲戢、戈。凱歌而歸、之。 本武尊化,白鳥。從、陵墓出。指 是馳,使追尋。白鳥集,於大和國琴彈原。 多知波夜。渡、鈴鹿河中瀬。忽隨逝水。時年三 登許能辨 朝。遠征』東夷。則被』神 即勅,群卿百寮。 過,鈴 爾 鹿山。 和賀 昔熊襲叛逆之日。未及,總 於岐 病痛危迫。 仍葬 恩 斯。 伊 與離人,將繼, 與誰 - 賴 大和國 都 勢國 皇威。 故歌曰。遠登賣 留岐能 能 _ m 而叛者 褒野。時 多知。 派去 仍於其 1。喟然 。 院 深 不 鴻 悲 意 於 曾 拜 伏

卷

菱雄

尊

也

不

<u>·</u>敢

素戔

尊勅

徃時

名槌,此

耶。對日

山

一處造

此

少

女

且 有

歲,改,名為,刺難劍。素戔嗚尊曰。是神劔也。 難期。事須 板,所帶 背上。而蔓 於是宮酢 [中]光焔 ...蛇尾 藏乎。獻 不違。平 。靈驗着 定其社 酒氣。八戶分,頭。 到。頭 本 IHI 武尊 之時。剱 所謂叢雲釼也。 十拳剑。 開 不 媛會 集親舊。 、尾各有。八岐。眼 聞 İ 天照太神·故彼太神齋女有。領·神· 之地。 延於八丘 戊辰。 未與之前占社 之約。獨 而已。 戶。 若有』稿請之人。則 一寸斬 及少缺。故割裂其尾,视之。中 水 各置 有。楓 新 H H 羅 本 飲醉而 令: 倘 其蛇。簸河 八壑之間。其腹片爛 村村 樹 沙 H 熱。 相談曰 御 上。常有"雲氣。故以名歟。至本名天叢雲劔。盖大蛇所、居之 盛 14 尊
征忽
仙化
之後 床 如。亦酸醬。松柏生 林。 酒 仍 道 奉遷 睡。 安 號 行 以 自 我 之水 熱田 治 時素 感 盜 神 身衰耄。 IM 间 炎燒。 、支馬 此 刻 同 劒 **礼**天命 時流 神 衆議 於影響。 光 何敢 坟。 劔 倒 平 がた 劔 ML Lik

第二

心作念。 波津 之後。 裟。其難,解脫,于時更民驚怪。東西 着,新羅,初聚,七條袈裟,脫出還,社。 還到。 國者 月己巳朔戊寅。卜。天皇御病。草薤劔爲、祟。即勅。斬刑。天渟中原瀛眞人天皇 朱鳥元年 丙戌夏六 神剱。剱不雕 或人詫宣曰。 守七員。一人為別。並免,係役。凡奉、祀 有司。還置于尾張國熱田社自爾以來。 姓 郡 建 國。竊祈入上于 練 總緣。宮酢媛與建稻 也 氷 宿之間 . 經歸、國。海中失、度。更亦漂。着難波津。乃 心禪禱請。 若 洞崇 上邑 稻種 棄 吾是熱田釼神也。然被、欺。妖僧、 身。道行術盡力窮。拜手自首。遂當 去此剱。則將、免,捉搦之責。乃抛 祭之號 以 公者。火明命十一代之孫。尾 神劔脫,袈裟,還着本社。道 又墨, 袈裟。逃到攝津 海部 ,神祠。 氏,為,神主,海部是尾張。 氷上姊子天神。其洞在 取、剱 種公也。 墨,袈裟。 一認求。 後褁 宮酢 國。自 逃去 紅九條 i媛 下 道 行 行 張 殆 棄 袈 更 伊 中

> 等職 傳 藤原朝臣村相。理劇之隙。 春。神宮別當正六位上尾張連清稻。搜古記之文。 命 造 問,遺老之語。粗加,繕寫。有,脩,緣記。守從五 通留。國衙。 質。略訪,通儒。而筆前之。庶命 一也。即寫。二通。一通進,公家。 也 職,也。但件神社。舊依、無,緣計神。宮酢媛。及建稻種便以,尾張 乎 14 實尾張氏祖 與命之子。 也。 母 舊依、無。綠起。去貞觀十六年 尾 因、兹以。熱田明 張大印岐之女真敷 披閱斯文。嫌 氏人。補,神 神明靈跡萬 通贈。 神為 社家。 締勺 代長 位 刀 婵

寬平二年十月十五 日

右 寫家本,獻上之者也。 大 臣基房公。奉、勅被、尋下當社 終記。 仍

延 久元年八月三日 伊勢守

右熱田宮寬平綠記以一本校 更今以參考熱田綠起按合了標サ者即是」 大宮司從三位 尾張宿

かっ

風月の・ 御宇 王城鎮 給 むけ。 ぎましま 建久の今にいたるまで。聖主十六代。つもると鑑潔 るににた の水にうかぶごとし。あか月の鐘 し。叩ば必こたへ。仰ばかならずのぞむ。秋 らたに ふたうし。或は天上に 日月として 國土 月ふた 寛弘元季きのえたつ 萬民 守神 本主也。或は天下に鹽梅として まします故に。朱の玉 あはれ n *b*. もくとせの春秋をへにけり。その B ね。昔を 0 々多くましませど。當社は たな心 L 世にか かあ めでたくまします權者の化現 n をあは たづぬ は天滿 ば一人もかふべをか 十月廿一日 すめり。爱に一條院 れば。文道の 大自在天神 垣 再 拜せ の霜 を照し 帝圖 13 靈驗 カコ n をあ b 0 人 0 を あ Ē 72 月 な す あ

> ころみに詩作り び給ふぞとのたまふに。このちご答て いづれの家の子男ぞ。なにによてきた さる程に生年十一歳になり給けるに。相 るこちでのあそび給けるを。相公見給て。容顔 いだき給 **負たゞ人にあらずと思して申給樣。** やう。させ もな ゎ せられければ。相公返々 菅原院 かっ L み。 2 けり。これを菅贈大相國 か 中 相公を るさだ 0 給てんやとのた 家の は菅相 まれ おやと 南庭に る居所もなし。 公是善家也。 お 五六歲 よろ もひ 111 まひければ。 は ば 相 智 T 父 0) カコ h きみは ~ b ると あ 41 B 12 カコ か ま 生

<

2

お

H 母 躰

は。相公の才智にも殆すぐれたまひて。天下に とぞつくりましく~ける。十三四にな 可、憐 月 耀如 "晴雪。 庭上 梅花 似 加照星 房

り給

T

詞

B

二百八十七

承り侍りつれ。
|| 氷封『水面』間無、浪。 || 雪點』林頭』見有、花。ならぶ人なくおはしましけり。

ども論者東西に相たがひに鉾楯せしかば。慈 傳教大師大唐に て。此文の序書たまはらんとのたまひしに。相 八卷となして是を三際につたへ十方にひろ **覺大師これをいたみて。 顯揚大戒論をばえら** 壇を建立 もよらず て弘仁天皇に ゆるさいりし つたへて。叡山に戒壇を立んとせしとき。諸宗 んと思して。 首にかけて 菅相公の家 にいたり ひしが。安惠和 して。同十三年六月十一日 すべきよし宣旨くだされにき。され かば。大師顯戒論三卷をつくり 奉り給しか 渡りて。圓頓の菩薩の 尚先 師の一言をかんじて。 ば。諸宗の うれ 叡山に飛 大戒を め

> 生にてましくつけれども。 しぎに申あひけれ。所々中侍べし。 の御筆なればとて。今日いままでめでたきふ 序の文こそ。天台宗の第一の寳にて。 年は廿一二にて。位官もいまだあさく。 ければ。真觀八年十一月の事なれば。天神の そ書せまいらせめとおぼしめしてか b_o みづ からは えか くじ。 子なりとも此 か 1 せ 給 あら人 くと申給 72 文章 りけ 君 神 御 3

實之脂粉。

者の利益なるべし。とこそかくせ給ひたれ。あはれにめでたき權

公思食けるやう。此文は朝家の寳。衆生の燈な

敷義を含して

嚴事か

ぎりなかりけり

やこの 言道問頭の博士にて 二問の うちに句 がて其年の三月廿三日射策しましてくき。み たとへんか たおはしまさず 都良香おどろき

きかず。いまもみず。いきほひたいはい。

あざみて。射策中鵠之嚴なりとぞ相申ける や

おどろくほどに。二度はなち給へばふたくび

つきまのあたりみつるかなと。をのしく目も

て。ひきわたし給たる御すがた。養由がかひな ければ。弓場についたちて。弓に矢をさしはげ ゐて。 こ\ ろみ

に御弓いさせ 給

てんやと申

給 n

もしらせ給はじとおもひて。簾の中にかく して机案にひちをくたしつく。弓のもとする 思ふやう。此君は

生等が弓遊しけるに。行逢給ひたりけり。亭主

とぼそをとぢしきるを出ず

観十二年青陽の春の頃。

都良香が家にて。門

かしも あ

たる

百度は

なち給へばもくたびあたる。む

ば。 わらうづはくきしたる 翁の願文に沙金を 修せしめけるとき。法會の庭のおもを見やれ まとしなせ ぬとうけ給 につたへ申けるこそ。權者のふるまひは計が 13 取そへて漸あゆみよりつく。堂の前の案の上 吉祥院に 寛平六年長月の頃。門徒 君かむがへあたへ。則省門にかへりて。ひそか 隱君子の 御許にまいりて か り。この事をうちみて。馬にむちうち。嵯峨 しらざる気しきにて。しばらく思案しまし じき。されども凡夫に似同せんがために。一事 たくおぼゆれ。それより後こそ。射策の庭には しき。其時橘廣相毛沓さしはき。省門に これをこたへ給に文辭甚美にして義理み しと思ひてひらきみれば、 をきて あつまりて。五十の御としの悦 ふ事もなくしてにげさりの はり侍る。 の人々な くと申ければ。隱 ימ きも暖 ナこ 13 あや ち 通 8

博聞。菅家門客。共賀,知命之年。弟子雖,削,跡人間,無,名世上。而數記,淳教之風。多改,悉昧之過間,無,名世上。而數記,淳教之風。多改,悉昧之過間,無,名世上。而數記,淳教之風。多改,悉昧之過間,無,名世上。而數記,淳教之風。多改,悉昧之過間,無,名世上。而數記,淳教之風。多改,悉昧之過間,無,名世上。而數記,淳教之風。多改,悉昧之過間,無,名世之。

をのべ給ける。 修する所なり。希代の勝事とぞ。ふるなの辯説 の導師にて 讃歎しき。かたじけなくも 天子の

刻より戌の時にぞつくりてたてまつり給けに十首詩を作てんや。則十事の題目を給て。酉ー日に百首の詩を作たる人有。汝が才智双な一日に百首の詩を作たる人有。汝が才智双な一日に百首の詩を作たる人有。汝が才智双な

其としの七月に延喜の御門位につかせ給て萬 ば。三度迄御辭退ありしかどゆるされずして。 にのぼりて。頓て其日。大將の宣旨くだりし かしも今もかくるふしぎなしとぞのくしり に廿首の詩を作て まいらせ さて次年かさねて又合旨を承て。二時のうち ける また寛平九年六月に 中納言より 大納 送春 若 使, 韶光知, 我意。 不用 動舟 車 今宵旅宿在,詩家 唯 別殘 たまひければ。 花

唯詠,一聯,知,氣味。 况連,三代,飽,清吟。門風自,古是儒林。 今日文華皆悉金。

L

合て

密事

ありけり。左右大臣

のともに天

U

72 なら 侍

5

n

せ給 をさ F

扨昌泰三年 正月三日。朱雀院に 行幸 これこそは延喜の御門の御製にては

て。延喜の御門と寛平の法皇と御

名動 夫也 奏 n 山の風をあふぎ。賢をえらび徳をたとぶ人な 代にあらずといへども。渭水のながれを汲で商 0 はしきりに 8 政を 下すべきなりと仰下されぬ。此事を菅丞相 しいだされて。天下のまつりごと一人して ばとて。此人にさだめられぬ。胡廣累世之農 事をい - 京師。か 伯始 すること 0 致,位公相。黄憲牛醫之胤子也。叔度 無實 きどをりて。うらみふか くる故に法皇と御門との御前 をか あしきことなり。菅丞相は重 まへて。光卿。 定國卿。 くな りて

> の宣旨くださるべしと。菅丞相かなしびのの讒奏によりて。太宰權帥にうつされて。流 繁筑波山之陰。紫霄之上星位靜。蒼海之中浪 時御とし十六七ばかりにや。いとけなくお L まで繁昌の門として。儒業絶 皇 まりにたへずして。三十一字を連て。亭子の法 しますべきほどなれど。仁流、秋津 も菅丞相 をしめて をあたへて 冥官をまつり。皇城の八方に 根朝臣。 和。思はざりき。昌泰四年正月十五 じき術を かりといへども。延喜のひじりの にぞ奉り 。もろともに勅宣と稱して。種々の 厭術の雑質をうづみ給 ほどこし給て。此ころ八九代 は。我身も 給 け 3 子孫も 児咀さらに る事 ける。 な 日に左大臣 洲之外。 かり 御門は され 0 あ Ili けり。 市 珍 2 共 あ 惠 简 ŧ

13 か n 行 きみしからみとな 我 は 3 < つとなり b てとしめよ

卷第二十四 在柄天神綠記

宣をもくして。男女の御子廿三人の中に。男子 なれば。中さんになどかかなはざらんと思召 法 おは しまし ける 姫君は 四人はおなじく四方に流されき。 こそ。あはれにも淺ましくおぼゆれ。つゐに勅 のはにかたぶき。 涙にも くれつく 還御なりし 庭のむくの ば。よの中あぢ らせたるうらみ ふかくて。奏申給 はざりけれ し殿上の庚中の夜の御遊につらをうたれまい かくまい 上西門をさし入て。清凉殿に近付ましくして。 御なみだに て。いとけなき君達はぐしまいらせていでさ のときすが つく。十善の御足にきたなき泥をふみつけて。 皇この哥を御覽じて。 りたるよしおほせられけれども。 木に立やすらひたまひて。夕日山 ねの卵。くらんどのとうにて。むか むせびて。さりとも御門も我御子 きなく。うらめしく思食て。大 都の中に かなしびの おと とどめられ あまり なしく 2

> をぞ結び給ける。 梅を御らむじて。こくろなき 草木にも ちぎりなかりけれ。さて紅梅殿に あいせさせ 給けるせ給ける事の あはれ さこそ。たとへんかたも

要はなぬしをわすれぬものならは あるしなしとて春をわするなこちふかは匂ひおこせよ梅花

御代には いとけなく ましく き。 貞観よりつめたに まいりたりと 申はべるめり。 此あひだのあはれさ書つくすべからず。 おもはざりき。 なき名を つくべしとは。朝の露をば 袖のうへにうちはらひ。 よぶこ 鳥のこゑこそ 枕のうへにうちはらひ。 よぶこ 鳥のこゑこそ 枕のうへにうちはらひ。 よぶこ 鳥のこゑこそ 枕のうへにうちはらひ。 よぶこ 鳥のこゑこそ 枕のうへにあとなれ。 承和四年にむまれて。 値機代には いとけなく ましく き。 貞観よりつ

ひむ

ねにみちて。

かならずこれらを思食てつ

まいらんとおもへども。やすからのお

É 極

をあ れば

は 夢

いせて。 1= て後 <

罪業の深き身を懺悔して。

3

る事

なし。いまは

72

7,

たな

カコ

つ。都 楚嶺の

をい よな

7

月

日

か

さな

n ども。

ね

نز

る事

紅

宿

五湖の曉の 浪になみだを もながしそへ。 吳坂

の あらしに 目のみさ まし

0

あ

業にひかれて。旅のそらにたゞよひて。三峽

ちかづき。傳築嚴

邊禍。范舟湖上篇。我身

いか あ 2

成 3 to

古

之三友一生樂。

かぜにまかせて 羊の

19

平到調

所誰與食。

のうらめしさよ。

くひは

づかしくて。こくろにまか

4

n

0

山

河

邈矣隨

0

つみ

0

\$0

て。心ならずこがれ行こそ。むかし

もにして。蘆分小舟にのりて。浪にたぐよひ

とじまら 自 せ給 12 ね。所々 る廿八韻の詩 を か

B

2

かにすべしともおぼえず。生

死

無

きたりて。おつる なみだをと

かま むく事。

つり

あら

n 御幸

すがたに 10

て、西

海 づ

かっ

へて。五

代

0)

帝

Ė 0)

度

もは

n

す お

くら

くこそなみだ

8

常まのあたりに

重關 東行 不能 從動 西行 使 言眼 脈將 雲 眇 11 K 父

天

與

辿 地 處

時 河

五

口

数固 知聞 俯 仰 子

行 斷 隔 單寢 二月 辛酸 三月 夢 H

今之三友一生悲 風景 生及,秋風,定無 暗然在 見

北の方へたてまつらせ給ける御哥をきくこそ 道のとをく なりければ のな は b Ó n 事を 3 には侍れ。都 72 なが お II. L させ給 V には to V 御心ばそくおばえて。 此 るもまこと 御 歌 聖 御 5 to かっ

君 かっ すむ宿 くる の梢 くまて をゆくく 1=

秋ぎりの上にか カコ りがね のきこえけ かへりみし n ば かっ な 40

二百九十三

步 給ける。

我為,遷客,汝來賓

又御心のうちにおもはせ給け 枕思 量歸 去 日。 我知 共是蕭々旅漂身。 何 蒇 汝明春

萬事皆如一夢。 雕。家三四月 落。淚百千行。 時々仰被蒼

れば。 此詩をば御こくろのうちにこめをきて。くち L 人々あまた けてものによそへてあはれなる事のみありけ の外へもいだし給はざりけれども。大唐國に になか一年おはしましける。おりくへにつ 詠じけるこそをそろしけれ。つく

夕されは野にも山にも立けふり のふ りけるに。 なけきよりこそもえ増りけり

め 0) L きてしぬれきぬひるよしもなき 72 か くる 人人 もなけれ は 8

> かし。 は時雨とおなじく下りき。その九日の後朝ぞ 大將にて。榮花は菊とともにひらけたり。叡威 抑昌泰三年長月の十日宴に正三位の右大臣 0)

まで持て。都のかたみには御らんじけり。次 けむこそあはれにはおぼゆれ。 の九月十日。こぞの今日 思食出て つくらせ給 をぬぎてぞかづけ給たりし。此御衣をつ とつくらせ給たりしに。叡威のあまりに御 君富,春秋,臣漸老。 恩無,涯岸,報猶遲 < 年 衣

ずとぞ。博士たちは申侍ける まことに菅家の御草は心もをよぶべきにあら 去年今夜侍,清凉。 恩賜御衣今在 此。 捧持每 秋思詩篇獨斷 日拜 除 膓

峰雪撥、簾看といふ詩にはまさりたりと。博士 といふ詩をば。白居 都府樓纔看, 瓦色: 易 の遺愛寺鐘鼓 枕 聞。香 炒点

觀音寺只聞

鐘

る。 集中に 月に心を すまさせ 給けるとき つくらせ 給け あ たりける詩をあつめて。後集となづけて。延喜 2 ぎ地 月の比。心神漸例にたがひ給しに。箱 あ にふしてなきかなしび給けり。此後 は れに めて中 しき。紀 きこゆるは。九月十三夜の皓 ·納言 納言これ 長谷雄 をひらきて。天に 0 卿 の許 を 0

ケ日 きよ 鎮西におはしましける あひだ。御身につみな 文漸飛 隨 書 0 被繁 しの祭文をつくりて。高山にのぼりて七 光似鏡無 見隨間皆慘慄。 のほ 天 花 道に りて、雲をわ 籍 り明、罪。 組 うたへ中させ id 此然獨: 今為, 貶 てい 如刀不破愁 給けるとき。 りにけり。 作,我身秋 調草萊 上枕

な 號 佛 讃歎せしかば。九刧をこえて。彌勒 處十方無。丈夫牛王大沙門。尋地山林逼無等 8 扨 五十二類血の 3 たる五陰の すがた をすて つとは しめし給 る。延喜三年癸亥二月にぞ。十二縁にやどさ 夜蒼天に仰て。身をくだき心をつくし のゆびをつまだてく。天地此界多聞室。逝宮天 薩は。徃刧に底沙佛 の別には。六十よ州身の おそろし。天滿大自在天神とぞ ならせ 給ひ 天までも 统前 72 れば。おさめまいらせん事をさだめける。 の世尊も非滅現滅には開維の煙にむせぶ にはなり給しぞかし。菅丞相は現身に七日 ・昔釋尊入滅の二月十五日のかなしび てまつらんとしける 國四堂のほとりに御墓所を點じて たり 灰を流 n 3 の御もとにて。七日七夜足 し。今宰府 むとぞおぼえ 毛こそよだちけれ。 御車忽に 0) 二月十 にさき立 し 路 T 零 1 3 à Ti 训 H VJ 13 T

卷

れなし。 御は一天に雨の ごとくふり。四海に 浪聲 さだめ ては て。今の安樂寺と申なり。菅丞相 たらか ず。 。其所を ば L め 7 御 かく の薨 墓所

其後い 0 0) け 丞相の 化來して おはしましけるなり。うや ほとくへとなりければ。をしあけて見給に。菅 夜五更いまだいたらず。人しづかなるに。四明 はしけん。月日はたしかにおぼえず。三伏の夏。 主法性房尊意贈僧正。其時御年四十計にやお ておはしましけるに。思ひがけず坊のつま戸の に智水たくへ。三密之壇の前に觀月をすまし ゆるされを蒙り。神祇のいさめあるまじ。花 れば。菅丞相おほせられける様。我梵天帝釋 畏たてまつりて持佛堂へいれまいらせて有 都にいたりつく。 龍顔に ちかづきうれへを 山の上。九識の窓のうち。十乘の床のほとり くばく をへずして。延暦寺の 第十三座

こしかはらせ給て。御 らず。眼をぬくともなにかはいたらん。但天 給ける樣。師壇 のべ 其時をそろしき 雷電しきりにして。世中 くれ 本房に有。よのすゑのふしぎ也 水の印を結びて かけられたりけ がりて。妻戶にもえつきたりければ。贈僧正 きかけていでさせ給に。その柘榴ほ は皆王土なり。此地にすみながら。宣旨三度に させ給事あるべからず。年來の どひ宣旨なりといふとも。あなかしこ。うけ きえにけり。こがれたりけるつま戸は。いまだ てすくめまいらせたりける。柘榴 いたらば いかじと 申させ給 は是に有と おほせられ けるに。法性房申さ こそ法験をもほどこし。おさへ給ふべきに。 あ 72 をも 報 の せむ むつびは一世の ٤ のどか お b ひしに。御氣 £ は に。禪室 かっ 師壇のちぎり n ちぎりに 多 せ むらに 給ら 妻戶には 其 ば 火は んと かっ せ 申 72 灑 あ b

みてぞれち給ひたりし。

給き。 延 3 ٤ 扨御門を それさは てまつりてぞ。 そろしかりし。 さてとをり給しぞ。法職もめでたく。皇威もを 喜八年十月の へ。宣旨三度までなされしかば。僧正ま は 鴨川の洪水さりのきて陸地になりけり。 か 了 は ざり しば 扨様々にこしらへ。たいらぎた 比 。膏根 付 ぎて、法性房の しはなだめ中たりしが。つ 卿 は あらたに 贈僧正 けころ 0 8 b

験ばか それ といの左右 男敦忠中納言。いづれも~一残らずうせ給 女御。御孫の東宮も。又一男八條 大將保忠。 けり。其時本院の大臣は頓て売給 はやく 怨敵を ほろぼせと ことはりをか 文をつくりて 梵天帝釋にうたへ 中によりて せ給ていのらせたまひけり。其日午刻 種々の才塾ならびなしとて。四月四日請じよ の弟子。善相 れよと。 り。汝が子の淨藏を我降伏せむとす。せい いだして善相公につげていひけるやう。我 に善相公とむら たちにはたらねども。験徳いたりてたうとく。 丞相の靈氣とは 智 りぞ 0) くちなは舌 くき畏て。浮滅につげて の耳より青きくち 公の たすけ給とて。清凉房の 胤子淨藏貴所こそ年いまだは 心のうちに ひに をびろ まい < り給た さとりにし なは とす。善和 ぬ。又御 b やが の頭をさ けれ 玄照律 7 ばか せら 出 公 3: な 111 b 法 \$0

二十四 在柄天神緣記

。さまべくの御祈もしるしなくおぼえて。菅

3

れぬ。同九年三月に本院の

おといなやみ

徃生し 道にい 敦忠の三男兵衞佐佐理。一家の有樣をおもひ 藏の文慶也。 ず。よろづにをそれて。晝夜菅丞相を祈念しま それ給て。大臣にて 六年まで おはしましけれ らせ給たりければ。菅丞相の御事をふか けり。 小松天皇の御孫。延喜の御門にはいとこにて。 もなり給ける。三井寺の心譽。與福寺の扶公。石 いらせてぞおはしける。此家の人なれども。 ども 野社は(北野様型) 給て。家の人々に 月の頃頓死 つらねて、 にくるふと中あひけり。されども其詞ね 大弁公忠と申人おはしけり。延喜廿三年卯 御ありきには御前をだにもぐしたまは たるのみこそかしこくは覺ゆれ りた 大臣顯忠のみこそ 二位の 大臣までな 世中 して。兩三日 この御するのいみじかりけるは。 る君達のみぞ。僧都。法印。僧正 あ つげていひき。我きく人々物で三日といふによみかへり ぢきなしとて。

出家入道して んと < 佛 多 1=

人ならび居たりしが。第二座に居たる人ずこ 調 喜の 御門の しわざども やすからずと様 ろにて。あながちに申ければ。子息信明。 給にき。御門是をきこしめして。おそれ思食 改元もあらばいかいと申されし也と奏申て還 てうたへ 申を耳を そばだてく承りしかば。延 金の文ばさみに文をさしはさみて。さしあ て。門のまへにてしばしみる程に。長一丈 しくは侍れ。公忠頓死して炎魔王宮にま はぎて 出向給ひしに。奏申給やうこそ をそろ よしを奏申給ければ。延喜の御門 かぎりなし。さて四月廿一日 菅丞相をば如、元 しあざわらひて。延喜の帝こそ頗荒凉なれ。若 さとりぬ。其時緋や紫まとひたる 冥官三十よ りなる 人の身には束帶うる はしくし 二人にたすけひかれて。内裏へまいりて。 をつくしてうたへうれへしに。菅丞相とは おどろきさ て。手 信 々に あ け 1

向

ع

13 b ~

0

多

9

2

叉

苦 3 其頃金峯山 御位を第十一の皇子朱雀天皇にゆ つ。たへがたくおはしましければ。九月廿二 ならびに都率の内外院。炎魔王宮。 善巧方便にて。天滿大自在天 程に 八月一日 午刻計に秘密上乘 せて。九月廿九日にぞ 13 四月十六日。笙の岩屋にこもりておこなひ て三界六道みぬ 樂の有樣。 めぐり b 鈴をにぎりながら俄に死 0 けり。十三日にぞよみ おは あらずうつくとも 日毒の氣はじめて 天神をば大正威徳天 しまし 72 日藏上人と中人。 b 聖教 ける。 けれ 所もなく見廻けり。承平四年 12 ども。終に崩 0 地獄と都 御年四十六 ~: 御門の なく かへ 72 中子 3 いり 神のお して。 b 金剛 1-李との ける。 て。 御身に S. 御 72 藏 1b 地 0) 13 金剛 十方 はします所 b つりま E 依正 7 13 b 床 獄などを 共 4 4. か の教 御出 0 滅 のう 13 3 ける。 3 b と夢 往 17 Ŧ T 所 報 日 0 か

第二十四 在柄天神緣記

卷

聖教 を經 はじ 異形 など 給 すまり 思ひしに。教法をあひする心かろからず。顯密 國をひた 資みちみてり。天神日藏上人に仰られける。 のごとく すをば。我なをといめがたき也。 ごとくなり。極樂淨 千の カ 0) て後 めには思き。ながれし 0 は るが。各智 \pm のちからにて。むかしの怨心十分が一は 惡神等。所 19 類 申につけてをそれ有。侍從眷屬の 刨 しほ な かぞへつくべからず。或は 位 國土を建立 其上に徃古の るあ 行 ろぼし。大海となして。八十四 幸の をは |力をつくして 我を すかしなだ 名を明 b A 儀式 10 土の莊嚴のごとし。嚴妙の 或は雷神鬼王 たさず。但 神 して。我すみかとせ にもすぐれ にか 如來法身の 72 から 涙をたくへて日 りて。 O T 一我眷屬十六万 日藏上人此 損害を 此國にみ 夜义羅刹 大士 tz 金剛 達。 異類 かと 71 御 悲 5 P 年 本 我 0 士 形

怨心 響の聲にしたがふがごとしとこそちぎりし 像をあらは 罪人有。其かたちすみの ひぐして 力に乗じて 閻羅王界に したまひければ。日藏上人金剛藏王の に祈こふ事あるならば。我必感應 の時にか此恨を忘るべき。但人信 **尊重すべき。佛にならざらむかぎ** ある床もなくして。むせびかなしむ事 b をおほ くの中に。鐵窟苦所とい たてまつる 事十號世尊の ごとく う。日本國の内には火雷天神と稱して。 を承りはてずうやまひかしこまりて申 あか おは へり。三人ははだ 灰 諸 しますべきと のうへにうつ して。我名號をとなへて ねんごろ 大 地 獄をめ いたりて。王 くまりて。 ふ所有。 (申 ごとし。一人は肩 カコ なり。 りみ 給 ひし 3 火 それ りは。 か なり。 をたれ 心有て。我形 カコ 0) ば に四 上 の 神 尊重 T 一に居た 使 誰 な 0 V む事。 地 ぎり 1= をあ 通 づ ĥ か 3 约 0) め \$2 は ぞ P

なにのぼりけり

藏王 國土

仰 0

3

n

17

る

日職上人其後穢惡の

は りとぞ かっ

13

をふりすてく。清淨の目出蓮のうて

給

れば。種々の善根いとなみ御吊有けり。凡

たてまつりける。

さい變は天神の眷屬のしわざな

がさせ給

けり

日職よみがへりて此よしをくはしく御門に申 共 る お 天慶五年七月十二日西 せ給に。天曆元年六月九日ぞ北野へはうつし て。西の海邊の浪にしづむといへども。潜 にしくはなし。されども 非道の罪を かふ そぶ事多年。みやこのほとりの て。我昔世に有し時。しば一一右 0 に瑞籬を結びて。五ケ年の間 て社をもつくりまいらせで。紫の 御詫宣はあれども。 む。ほくらをかまへ。立寄たよりをえ の所に 行あそぶ 娘あ やこといひ とき許ぞすこし心もな 身のほど しものに 詫宣 京七條二坊に住 0 は 閑勝 あ 1 近の馬塲 から 廬 しまし の地。此 め 0 L ほ ż 4 め し腹 ٤ いさ 1= よと 6 b 憚 か b 所 あ

天曆元年 り。佛含利。玉の帶。銀作の太刀。笏。鏡なども き。我物 L 12 12 具はこれに 子の 近江國比 童の 七歲 良 きたり の宮 12 な にして。 わ 3 し始に 10 穪 御 をけ 詫宜 宜 神 3 のよ あ b

臣 L 菅丞相を 平法皇の とす。ひじり。我をうやまふ事なかれ。我父寬 御門日藏 なし。王の ちたり。汝娑婆に てまいられければ。御門。冥途には罪なきを主 み患た 下なり。 の罪人は すけ給へと申べしとて。なみだをな を なが 御心たがへまいらせ。無實によりて 使をしへて云く。肩をかくしたる 君 延喜の御門なり。 招寄給 も臣 せしつみによりて。此地獄 か 8 ~ へば。うやまひ かしこまり おな りて。我皇子にこの じく苦をうく。延喜の のこり三人は < 13

はつ 共つとめて なら 順恚のほむら

天にみちて。

諸の鬼王は

十万五 たる 松に 天台の 燈油分なむとじめ たりし。其罪ふかく 物ともせず。何れの神々といふとも我をばを まもらん。皆人加茂八幡とのみいひて。我をば 千有。よろづの天變はみな此等がする也。不信 しはながさるべき相なり。松は我像の物也。我 たりしとき。夢に松身におひて 即お らむ處に は甚不調 には松をう à せ給 左右 くし もたせ。含利をば富部 はじ。 松 にをさめ置たれ。老松をして 我居 のものぞ。こくろゆるしなせそ。 のをばけころし。正直 より我と共にきたれるなり。此二人 富部とて。 佛の物 のた 右近 し。但我此界に ね をな 智 の馬塲は我 まか 。二人侍 ん申とどめたる中に。 にもたせた する也。 從 あり すみ あ ならん 6. われ か也。 し時。公事 れぬ 笏を b 告大臣 ક とみ 我居 此等 そこ 0) ば 多 老

みがき。 近の馬塲に向 大法の 賞罸揭焉也。天曆元年 取鎮とあやこが伴類。寺主滿增。星河秋永とち 等に向て。 也。天德三年己未の歳。九條右丞相屋舎をつ からをあはせ。心をひとつにして。叢祠 の中に松おひて。數步の林 にけり。良種此よしの御詫宣を身にそへて。 輩。いかにうれしからむといひて。この童さ れしからん。一大事因縁は 黏將疑、緊、帛。烏頭點着憶、歸、家。此句を にのせられたる 離家三四月と言詩と。 おほか て自 るを。 在 法螺を時々ごとに 吹ならば。い あひだ。御殿をつくり改る事は 松壇の の身と 。事の子細を相議 懺悔のた て 風をあ なるとい 朝日寺の住僧寂鎮。 めに ふき より しける へども。 V となりにける。 不可思議なり。後 法華三昧堂を立 天 る。共 德 あ 後靈驗 至 くる 法儀鎮 るまで しき 五 U) 誦 叉 殊 さて S. せ 鴈 勝 度 70 校 右 め 足 集

圓融院

0)

御時真

元元年より天元五

年に至るま

かなかけるかける にさしをきて。再拜々々し H 正 らに で七 をくり奉 b 條院 未時に 一唇四年八月十九日 太宰府に下りつきて。廿 年が あざ くるとも又 御字。 み 內 り給き。彼位記詔書等。勅使菅原幹正 あ 安樂寺に参りて。御位記 くとむしの三十一字をくひたりけ がきて。 裏 ね ひだ。三度まで內裏焼亡あ 正二位に 0) 0) 板 もやけ 番匠共集参で。兩殿 間 、次の朝に参て見ければ。 0 從一位左 な あ は h てよみ すか n カコ 大臣の は きり あげ給しに の箱を 5 0) B りけり。 裏板 官 案 上 をは j 1=

> しぎとは ひとつ 忽驚 の絶句の詩の化現して有しぞ第 朝使排,荆棘。 おぼえし。をそろしくも侍 官品高加拜。成 b. U) 3

る。 の御心たひらぎて。 大臣の官位をぞ贈り奉り給ける。其度ぞ天 ずと。群議をはりて。同五年のころ正一位太政 誠におぼゆる。今度の勅答。神虚なほ 順 り。弘法大師 件正文は 外記の 局に り。道風が筆跡に 雖悦 世 0 身なりと 。仁思單。遂窟 の菅丞相 しめ すこしも 一の詩を詫宜 し給 は我遺世 おさめられて今に侍 但羞存沒左遷 () たがふ事な 3 0 B 少。 せさせ給 此 心 等 道 よ 風 か かっ 6 T 11 な nill! 我 1)

此詩こそ世の人一度も詠ずるものならば。 生 昨 に七度守護せんとちかひまし 恨 為 死 北 歡 闕被,悲士。 其我奈。 今須。望足護 今作 西都 くけるとは 雪耻尸。

日

ける。 べをかたむくれば。立どころに靈驗あづかり 承れ。無質にかくりたる輩は。歩をはこびかう

北野の み。何事も申にしたがひてかなはぬはなし。お ろおろ申べし。 、凡官位福祿智惠。臨終正念往生極樂ののぞ 宮の御はむ昌村上の御世よりとぞ承は

七日いとまを申うけて。北野にこもりて。此哥 せたり 待賢門院の 后の宮と 申けるとき。女房の衣う をぞよみまいらせたりける ける を あしきさまにいは れける女房

ひいつやなきな立身はうか あら人かみになりしむか りきと しを

治部卿通俊の子にて世尊寺の阿闍梨仁俊と申 きて。鳥羽院の御前にくるひまは ふ牛物のぬすみたりけるが。手づからいたと たりけれは。其日やがてしきしまとい りける。

> める。 女心の あるよしを 讒言し申たりけるに。阿闍 梨やすからずとおもひて。北野にこもりてよ て貴き人お はしき。或女ぼう鳥羽院に 件僧

哀とも神々ならは思ふらむ 人こそ人のみちをたつとも

梨を召出して たすく べきよしの 仰 かふむり ひおどり あせりけれ。院宣にて 北野より阿闍 の禄をぞれびける。 闍梨にはうすずみといふ御馬をなん引て種々 て。一度ごしんし給へばやがてさめにけ にそらごとをいひつけたるむくひよと申 かま腰にまとひつく。手に錫杖をふりて。仁 とよみたりけるとき。かの女房。くれなゐ のは T 阿 狂 俊

所におは 仁和寺なり ける阿闍梨。北野の 御輿西京の りけるに。其牛俄に倒臥て死にけり。 しましけるに。車に りなが [42] 闍 旅

後幸な三ち 十三 籠て Ž, 5 臨 なくく 2 上 24 申 て候。 12 終正念往 T カコ 條院 侍 終 日 僧 ż 無實ば と中 日 しに。 西 此正 申 御字 念と中 通 の霜 はひ 上生極 ける。 曉 伦 百 1 月に熊野那 亦 延久二年九月の 師 さえた 七 お 日 樂の もの 請 干 ٤ ひ 西念は 匠 する 申 Ł V 餘 定 年 3 候 12 3 0) 五十計 日何 事 智山 0 し夜 已に 年來 カコ 老僧 V 2 有 Ł 72 日 T 0) 72 ij に参て。百日籠 0 カコ と言 にて 夢 頃 3 申 b. 額 き御 あ 0 僧 0 事 北 仁和寺の 人 ふ程 をよ 所望か 躰 浪 R 野 御 L ات 10 हे 戶 め あ 1: J. T U ż B 百 L て な 7 九 池 日

みて候 く 出 徃 n < T お ずといへども。往生 b ~ め ~ 二月の 殿より直 し。 ば きなりと。 生は 念佛 もひ は 7 T T L 徃 からひ難 仰らるくやう。汝 とぐる事か さて 其 お V を中 生をとげ 彼岸 時。 P まじう もひ 御 b_. すけ 衣 W ימ は ~ 0 0 御 此 め < かっ しゃい n し 七日 袖計出て。汝が皇中 一参て中 3 僧 示 ごとく かっ 3 7 たし。 事 ども。 、うつ つぎ 現か 北 ひ V な ٤ かっ の心ざし 1: 野 b. 臨 うぶ 我 13 < い Ž 程 0 て有 が中所 臨 の宮に 終 歲 T は か 3 1: 1 終 の件 りて Æ 人 h ともい ~ か 0 Bir 此 しと。 念 念垣 参り 0 b 朝 < 時 彌 曉 徃 H 10 候 智 心 H 0 陀 しば 生の な 期 ٤ 歷 3 事やす t L F 佛 尋行 せば 示 わか b 綠 L ~ 1. 1= 现 H 具香 なく re 70 來 此 3 to 7 0 其程 見 就 び 思 华 か 6 我 かっ かっ 17 す は 御 心

卷第二十四 在柄天神緣記

白

河天皇御宇承保二年。西七條に貧

き銅

細

有

夜ひる 涙をながして。天神たすけさせ給へと らめしくおもひて。姉妹北野に参て籠にけり。 みけり。四五日物をだにもくはせずなんして。 中のならひにて。此機母女をあながちににく せ給なとなくしく申てはかなくなりにけり。 あなかしこ。此子共のありつかむ程。繼母にみ おもひて。おとこに返々契り申様。あなかしこ。 母わづらひけるに。此子共を念頃に 頓て妻にしにけり。妹をは宮仕させける程に。 忠おどろきて。姉をよびよせて。此故をきくて。 あらたにて。参り相こもりたりける播磨守有 程の身ならば。命をめせと申ける程に。御詫宣 うれへ申て。うせにし b くて妻をなんまうけたりけり。今も昔もなさの おとこ契りをきし事をわすれて。其年いく程な けり。女子二人もち のちを くんとなむしけり。人の氣色 もう たりけ 母に孝養報恩をもせ り。十二十四許にて 糸惜しく

> 磨守の御前になりて。思ひのまく祭て。父母 かるべきぞ。北野の御利生に よりて この娘播 念比也とて 感應ありて。我まぼり さいはふ ために堂塔をつくりて。後には出家して。發心 たし歩をはこばん輩は。いか 思さまにぞし侍ける。御詫宣には孝養の心ざし 宮うみまいらせて。 の心にしうじて往生をとげてけり。 しとぞ仰られける。およそ天神に心ざしを 目出 さかへて。 なる望か 父母 む の孝 な

矣。筆者世尊寺行能云々。 右天神之御緣記。鎌倉 荏柄天神社 有之寫

住吉內滅允

摸"之丹青。彰"其奇特。勒成,一部。相幷三軸。聊縡入"幽玄。筆難"觀縷。唯舊談之所。世論之不、忘、天滿天神。利生利物。薩埵之應現。權化之方便。繪卷物與書。

右近將監藤原行長

維之年。玄律大呂朔之朝而已。

此一帖以小野高尚本令書寫於杏花園遂一按了

宇都宮大明神代々奇瑞之事

額文云。 田光山大明神 正一位勳一等

所等,云~。 又被,定:造二季祭禮并法花經最勝兩講之料 又依,綸言:送.紫金字法華經一部。被,納.神殿

卷第一

卷

第

+

號,厚 家為 向、東鳴過。其後不、經,日數。凶徒被,誅 朱雀院 祈精.仍神 部貞任征伐 九以下種々武具等。又奉、寄、進數箇 報賽,被,掛 御字康 殿三ヶ度振動 持鏑矢出,自,神 時。又如"舊例"於"當 · 生贄。加之奉×納御劔并甲胄 平年中。與州 刺 史八幡殿義 祉 有 **製畢**義 降 伏 家

高倉院 致征 起之間。平家西海 伐之所精云 御字治承三年。天下不」靜。源氏東國 流浪之時。賴朝又於。當社 蜂

所

神

領等」云

之內久 進,畢 同 四 野大井手二箇所。為 賴朝又為前 敵誅罸 一个一發 燈油料 大 所 願。當 國

Ti. 後鳥羽院御宇元曆元 家追罸。又於"當社」致" 當國 御 字文治五 地 面 御家人等所役。被 年。 征夷將軍家賴 年。 祈 精。 源右幕下賴朝為。 卽 始 所 朝為 置 願 成 Fi. 以就之 一月會 膝 原 間 頭 平

> 日 生贄狩料所。其外以,森田 加 衡 日 衡 御供料所云 内中 之那須 ·誅罸。又於,當社,有,祈精。仍威應繁多。 被掛 徒 庄內五箇鄉。肥前 誅 生贄。井御釼 な。 。為,報賽。以,生虜樋爪五 以下神寶等奉納 日向田 々司 兩鄉 知行 被定置 被 充 御 郎 季 箇

振動。 大 仁 者。 瑞甚嚴重也。七箇日調 間。社僧等於,當社,屬,御祈禱之忠節,之所。 龜 無禮。有,秋毫之誤,則神忽成、嗔。 神 沒之由。自關 中。兩度異 山院 明天皇御宇承和五年戊午。温左郎曆。奉、懷 明神。奉、移, 矣。於 稱德天皇神 鏑矢出、自,御殿、向、西鳴波。不、幾異賊 御宇文永年 賊 蜂起之時。 之南 東 河內 護景雲元年顯現日 飛脚到來云冬。凡 面 中井 那小寺拳。號,補 有 伏結願日。御殿三箇 為降 道路長。 大覺寺殿 伏被下,勒命 或落馬損 行 當社 御宇 光山。其 人征馬 陀洛大 泛根 弘 安 度 之 明 年

宇都宮大明神代々奇瑞之事

朗。末世不信之掌內。何得, 利生之臺鮮。方今 證炳然也。但上代信仰之眼前。彌雖,威應之月 云々。今社壇是也。當國第一宮也、右於。當社。代 揭焉、哉。仍爲,後代、粗勒,先蹤。 披,此記,各致,信敬之精誠,者。誰不,預,冥應之 々朝敵追罸 之奇瑞分明。時々王臣 崇敬之支 輙難、通之間。則塞,宮南之路。奉、移,山北叢祠 或受病或遇、天。有。種々災難。仍往反之貴賤

文明十六年辰九月卅日

右宇都宮奇瑞記以村井敬義本書校合

三百九

群書類從卷第二十五

神祇部廿五

竹生嶋緣起

競勢爭力。更去。北邊一下,坐海中。其下、海音 姬命。天降坐, 豐葦原水穗國。 箇中氣吹雄命。 宇。看速產命生三見。氣吹雄 皇御宇廿五年乙未。湖水湛 夫當寺者。人皇第 竹篠出生。故云, 竹生嶋。一傳云。行基菩薩當嶋 今云,魚崎。魚集之處也。又召,諸鳥,令,落,殖 都布都布。故云"都布失嶋。即件神凝"水沫, 命下。座後井郡之北邊。爱淺井姬命與氣吹雄 姬命二神。下-座淡海國 積風塵 爲來集之峯也。嚴長成、林時。先其最 -而 化嶋。 七 代大 。又召,諸魚,合,持,重石。 八日本根 坂田郡之東 m 命。坂田 此 鳴顯出 子產太瓊尊號 姬 方。淺井 命。淺井 也 而 草 此 為 云 命 初 木 字 姬 坂 御

也。 生 稱 現 此 出 則可,生長。顧時滋茂如,出生竹。故號, 杖 云。 經行之時 |嶋號。行基菩薩御 號。 也。 寶石上。後召,諸魚。此石周圍疊,重石:隱,寶石 生。 立地。誓云。若此地爲,三寶住持之地,者。此 出 。古老 仍 變大餘一廻。嶋七匝。蟠繞首尾 生。 女下, 坚圧世 說法之金剛座, 也。次竹生嶋, 南說無,相違。淺井姬命や患者釋迦如來化 金剛寶石者自,神代,在之。淺非姬命 兩說 口 金剛寶座石也云々。則行 明 雖似 傳 神 云。此嶋出 重靈應示 有異。 立願後竹生嶋號 。諸鳥從,落殖時,雖有,竹 北战經 地 分云 說。故 相 基所! 此 咋。 州盛·矣。 自。金輪 竹生嶋云 嶋 携 自 下坐 竹

自為 寫岩屋 20世紀之 升 其 載角過 介 天皇成 一蛇所 擲 於 劃 R 亦 瓶 孫 不」動。 神 此 加 鄭云 1 3 往 崎 嶋 顯 品品 始也。 鷲岩屋。 濱。 亚 坐 累世 波 海 1. 聚就鳥 于 な。 學 歷 上。 任 其大蛇 字。 頭 海 時。 件地地小力不,及,龍勢,故 時 今云。虫尾 古 製 於海 有 於 相 嶋上。乃 乔 件 件神從。空取 巖形 彩绘 時 代 八 神 食來宿之人。于 之頭。 岸。 方。今 手 件 奉 大 急失,心神。捧 現 Ш 仕。 神 蛇。長數 今 有点 延頭吞 嶋乾。維是從 躰 殊 尚 奮迅曳之。 冀嶋太神 之 峻 是法花 降 任 表"靈鷲 人皇第十二 大 大大古 岭 神氣、免、舟令 彼 丈 神 以水。爱 今云 孤 瓶。 也 及 ·經提婆品·時。 麻 峙 令如 時 七 在北彼岩 置 Щ 從 各 松 件 伴 所 嶋 二代稚 云 字 in 木 瓶 大蛇 大 前巾 我 本 巖 現驚 小 覆 治 尾 餘 酒 子 行 屋 イモ 神 現 川 及 足 根 舉 是 早遷 之。天 鎮護。 秘 敬 成就 賢圓 留 平 所 狹 入 亦 舟 處 也 泰 傳 奉 平 件 是 詠 -1-也 小 人 司

清取 形

子 fì 共

遙 首 尼 彩 也 匝

彥

辨岩 年戊 叉曲 取我 。于今 神 也 寄 Z 童子 平勝寶二 巖 奉造。長二尺 神 几 同 兩 能 宣 石 人尋 屋龍 龍 故 年 社。 穂積有 寅 與 此 女從 此 次 齊社 年辛卯 此 嶋 草花 太氏 辰 齊置 招提 r‡1 穴。·此岩屋 智惠富貴。故 嶋 勝 年 till 者。 此 泛 AL. 本 巽 地 庚 力 有池。 寺僧 -1. --井 宮 · 凡云。 山 異宮云々 有殺 智辨 到 Ti, 四天王 那 祀 行 從乾 唱 H 行 部。 此 元 Λ 道 自 上有大朽 閑 我居、乾·遠 七 基 行 興寺 怕 顺 國 云智福言當 坚 像 座 iti 到 若 日 奉 浩 方 亦 10 11 造 丁卯日。件 景信泰平 無垢 迎 因之泰 為 H 即 計 此 奉仕 前 N 排 次 聖 嶋 所 落 木。 後 人云。智 九 111 全宮 一於聞 朝安穩 之。出 小堂 成数 出 215 都 是大 改 界 東大寺 初役行 漫 神能 崎是: 賢 應 成 行 犯 就 道 灾 世 有 提 龍 北 Mi 國 穴 学也 計 4 组 迟 嶋 宜 恶 們 15

第

兵政 中臣 之濱 淺非 臣 都 カ 衆一个,相防 五. 返中臣之舟。合、着,高嶋之濱。仍將軍凉太遂 凉太向,嶋神 辰九月十八日。大中臣 惠美仲丸成, 亂逆意, 奇特甚多。今之千手觀音是也。天平寶字八年甲 小 一件觀 位 布失鳴神。左 相戰 ·戊辰。 上勳 首、天下泰平、因之將軍奏。上天皇。奉、授,從 身,云々。于 誰 郡 國。 觀院。今中堂安置藥師如來尊像。修 音 大 八等,是則·神之被知 與 領 傳 于時。天皇差:遣將軍 王民。石山 之時。天皇兵衆在,高嶋郡勝 間 直 乞·發_m神力」助 · 所云。普天之下無不, 王土。卒土 此 敎 兵敗乘、船浮、海指、東而逃。爰將軍 之佛 馬。 大師 時件 神 放 慕 殿。 奉 光。 神赫然發情。急出,東風 大川皆鎮,國王座。彼 行 今驗堂 爲桓 基薫風。造。金 應人之祈 這護天孫之國。分得中 武天 是也。 。國王·始也。 伴凉 皇 念施 同 太。引率 創建 色觀 五. 野濱 年 靈驗。 癸巳 延 海 音 根 吹 <u>-</u>合 士 像 曆 4 發

傳、世。仍施、入珍財、修、造神殿。寬平二年庚戌。 未。 志 運日屋,建立食堂。 山 可滿滿 養,振旦台 嶺之僧侶尊者。今建。皇帝在世之昔者助。月氏之佛,化。智者大 之。今·神殿是也。同十三年。淺 社。慈覺大師手自造山立・神躰。奉送。彼嶋,安心由。辨才天契。誓約。則遣。弟子僧眞靜,今造。改。 師之遺誡,建立文殊樓院。時丑寅方可。鎮 祭供。貞觀二年庚辰六月七日。慈覺大師任,祖 \equiv 拓,佛法相應之靈峯。吾今所,隨喜,也。隨,尊者於 長講 社。慈覺大師 法繁昌。件堂乾方大辨才天女忽然化 佛法 國。 根發,大弘 天台僧尋明。 足 如影隨,形助,化儀。心中三種所 致 也云々。大師于時捧, 也 朝暮 。自今已後住。湖中之靈嶋。可奉、守 願。鑄造湯釜、施、入之。仁和 勤行。奉、祈 慶詮。 同 + 雲晴等。共行 四 聖朝安穩皇帝本 年。 井郡淺井盤稻壞 同 紙。 郡 之老淺 讀 此嶋。智 師。中比 現日。如 本命道場 願 祭文 等如、望 護 年 井 命 此 佛

作是電子 扶春 建立 高五 皆 貞 元 到 造 置於鳴。 金 各施入位 之。法 之沙 與寺 金色 聞 僧 "七間之殿" 此 尺。·同十 經 前帝 程傳 清 柯改造 多實塔 為濟二 嶋。 僧 源 彌 釋 皇即常 世 禪定 千卷。 同 泰 辨 田 分修,三昧。 迦如來像 道 國 則 + 宿 音 六六年 慶。 家 £ 延喜六年一 造 一三年 界六道。普引如識 來 送 法 流世。莊嚴 基。延長 其中 間 建立 臨。滿 井 皇 理 *1 中 之神 常 四 郡 門及 智等。茲行此 行 施入勅旨田參町。諸王諸 大 住 月 撿 躰井三尺四天王。 則入。六 法花 無髪イ 同 般若經二部。納。 殿 元 願 沙 天台僧 校 十一日。寺家僧慶照。 磴 九 召 年 即 彌 佛神 同 三昧 出 橋 年先帝特賜 書寫 Ł 八年越前七 豐祐 木 雲春 月 施入 祚 堂。奉、安置 嶋。辨才 "蒙太 鑄造銅 大 寮。 源。 雄 為 般 泰 蒙勒 改二 財 湛祐 聖 若 大 子 厨子 經 物 朝安 年 天 度者 鐘 永 親 奉 六 間 化 + 同 五 出 王 穩 部 搆 堂 月 雲 П 奉 年 亦 臣

續消休 中成 破 會 其 執行 施入 大辨 時。 傳 第 息 人 別 __ 之儀式 介 當 後 智 口 切 云。 懷姓。 兼内 事 職 仲 神 僧 今 如如 伊 此 此 海 登 見,安。坐海 座 香郡 主 舜 興隆 料 除、怖畏急難 不 中 大 祭 意 垧 為師 者 仍 藏 主 恒 H 絕。 資 師 受戒 會。自文爾 是則 造。大 于二 頭 此 T. 十七 珠。聽龍 者 4 朝 命預 嶋 萬 延 條院 天 朝臣 御 金翅鳥沒後 息殿 中向。大虛開、懷受。日 HJ 大 端。其中六·莲花 國師慈惠大師。 條 胚 酥 母前精大悲觀音。奉新子 已來。 辨才天化 行光 九 寺 三段二百七十步。 意 和領 御字 元 惟 里 僧 年 也 船 窓やイ 仲 之 响 從神 大 J 永 F 於 加行 天 內 势 大下泰平。·五穀豐時 未 祚 師 海中 彼鳥 現也 田 元 [31] 東 代 法 地 初 大 月 年 弟 <u>.</u> 而 台其 **迄**聖 1 心臟隨入 奇 万元 八 华 任 九 執 祭之。 拾 瑞 當場 僧 H 13 隨 則當 行 光云 脒 ms. 代 刀 惟 延 右 别 也 施 恩德 寬 H 多 113 撿 天 時 兵 120 圳 德 相 切

神 神 如 十五童子 子顯現鳴 子 來應跡。 天奇瑞不 者。 為,三界於我 顯神體 上。主、陰主、地八神子者居。在 口 童子中司,陰陽,二神中主陽 勝 計。今 垂跡於處々。一記云。 是大 有 撫 神 四 者 。辨才天女 生於一子。七所 海 主天 釋 泇

第八質月童子。若一王子第七除惡童子。飛龍。

第

召香赤

童

加

子子子

丹 春

生日方

麝

香

童

子。

青

第九慈滿童子。西宮夷。第八質月童子。若一王子。

第十一施願童子。賀茂。

翁

虚

空童子

羽

黑

第十四隨念童子。八幡大菩薩。第十四隨念童子。八幡大菩薩。

身 湖 山 王·所變·而已。溪嵐集 云·同躰一身。或被謂 凡 殿 竹生嶋者 顯 第 海最底四海·流 也 者陰月也。白石 三億六萬眷屬。八萬四千 + 諸神冥。藥師十二神將。 勢多者庭頭 五.)所,居 光 覆手也。 明童子 也 卽 與 也 小嶋號十羅 調折 四 云。湖 竹嶋, 者半月也。 一經也 自,字治, 松尾 伏攝 法爾天然之標。相上生 海 法華十羅 諸護法。 受。眷屬 至海 者琵琶 者撥也 者 形 無非 刹 海老尾 充滿 湖灣鳴海江內 也 女 國 此 或 所 宮

舊記。删繁補、闕錄,正說。則傳,於三際,弘 依 疎 應永廿一年大歲八月。 日參籠。爰當嶋事 早於,叡嶺,集,此綠起,可,奉,賣, " 靈夢之告。令, 登山 人 未 普文頭 知重 一个」勸誘 跡由 陀 詣 來。故敬信 之間。 神 此嶋。 威 之 於十 集,于 七 由 聊

方。後葉 宜,知,素意,而已。

衆緣助 游弁。 寶城。 聖與。 昌府。 隆光。 原鎮。 延 命。 信乘。 眞等。 梵泰。 慶幸 淨 淨 梵 達 貞 眞保 佳 英 阿

> 善應。 祐崇。

增

阿

相 當

外題 仙 洞 宸翰

右吉。

淨

隨。

良

川末流煥章頭陀普文。自身持來奉、安置 永二 - 者也。 一十二年乙未六月 十五 日辛已。 大勸 一于寶 進 小

松風亭判

以異本智福嶋綠起挍了

走 湯山 縁起卷第 帳箱五卷之內。[全海

有。表裏。順、濤浮沈。或夜 帽冠、首薜衲纒、身。手提、柱杖 年三十有除。 送。三箇歲。同 係。松杂。或入。海 適欲、近、之波浪荒暴隱沒海底。又或飛登高拳 展。口絕, 穀漿。只服,松葉與, 茯苓。時人號 金,二處者入,海登山故也。凡無識 或時發,響聲,誤,琴瑟之音曲。視,之為 摸國唐濱礒部海漕。現一 山者。 深設。禮奠。途而 人王十六代應 不、知。何里人誰 御字四年癸 中 點。嶺洛排 照雕波底。仍時人云。 神 九月 放 天 光明 圓 皇二 心腰佩 姓 ifi 鏡 族。 社屋 祝禱 旬。有 年卯辛 徑 įĘ 疑川輪之出 一動刀。 唯 21 為 奇 四 尺 如 足 月。 们 異之 中 其 有 何 欽 餘 Ti 處 東 想 现 ij. 神 111 决 111 H

禮 照禁闕。攝津國難波 大鷦鷯帝廿七年 供之人不知 願滿 八月五 響態 族惟多。 叡 日。忽然此 聞,公臣 奇怪。发武 神机 放

光

则

内

鏡

大瑞。 約謂 隨 河沙羅。 赞語數。爰如來化綠已盡。催,東漸 胤 域 問子細。若是神歟。將又祇歟。仙童答云。神者天 州 加 巫 須 地之精氣。 麗 宿 三韓之時 釋迦文佛之勅。 绅 神人也。又是日輪之精體也。昔西天之月盖 國 一分請" 之吾胤尊可、宰,東征、云《。以,其厚 爲 敷 禰 重此 零沛郡之深 大 亦 。來影于我大日本國 百濟 耳。若欲知 卜占。又可推,靈託。刺 臣 東向。 神託。即時 奏聞 金像 人臣父母。 薗部等兩使 自 樓后 進幸.我 温泉 云 取間 放。下、自高 先 沙湯有。 事 三韓。國。高麗。百濟 皇稚 濟。度蒼生。 實一个、降一宣 神靈附託而自稱云。吾是異 浮檀金,奉,鑄,如來眞 神自 1 承勅 宅深沙湯之許。誘云。 櫻宮 。覆養黎元 無言。若欲知 天原 神人。與" 使諾 東降。見間 御字攻。三 使。依 因之呼 住 此謂。雇,一老 . 月氏 こ之差 皇后, 契降 鎮護 爱 社 韓 神后 吾日 之境 之幸。我 -由 屋。尋 像 國家。 結 臨 時 泊 來 討 沙 苦 依 吾 叉 製 瀨 此

· 坎翠嶺 之岫峻々。水石聳湛。 玩甜子波藻。以,其種子, 兼蒔.植子彼片平鄉。是有綠之地形也。我本自,在, 日 峨。祥樹茂 雲之聳一効 空。到。山頂、係,松杂。爱仙童老巫幷勅 崇者。兼可,卜,靈地。謂湯出州。 此州、雖、逕、多歲。非,有緣之勝地。若公等可 聞"神后誘。承諾已畢。早出"本國。降。臨倭朝,時 金像。 爲。邊畔。然則湯神客來達,于本朝。又所,歸 伏 是 ,化;出靈湯,已託宣事終。神鏡 云」到。 金之巔。 』三國。自今以後以。大養 豐葦原 可、迎前接我朝一云、明王。奉、渡川金像於吾朝。 既達, 叡聞,今勅使尋來 大和 夫為。山之體。望離白浪之海蒼々。 生森 香郁之薰。 靈湯沸涌 國 な。 主 履 第 雜 尋 -。神崛 $\overline{\mathcal{H}}$ 徑 入。當山。 德國 代 帝 香洞 林花 乘飛龍之背翔 斯 爲 谷澤,途而 新礒濱。 君 凡青巖 本 甘心 也。 奇仙 開結。乾 使等。 声 首。以 地。又象 今 ---也 天 以神 巽 側 所 學登 依之 地虎 色 與 但 好 油 崛 虚 於 威 節

が持柱

杖

Ш

印

1

者也

無、間

箇

日以前。

山峯震崩。社殿吟鳴。

又云::勸請 入定後。云 仙人。 開 Ili 和 師

前 宅連

湖

跪云。

。以事實効

欲

經

々。

天

地

之間。無地

干比之。爱宣

一使指,神

鏡

山綠起卷第

拒。

然也。聞已出,木中一點。神社。尊崇權現。奠張供香 舍。內坐。一 金之北山 人王十七代仁德 、眼。告,樵夫、云。松葉仙人旣籠、ൃ西。 |精進之業。致, 與隆之行。一如, 物請仙人 一人。形 一伐,材。其木高大也。中 貌非常。 天皇七十一年。樵夫新磺人二日 宛如 "入定之人"良且 心虛寫。以如是 答云 搖

釵鉾。又蘭脫與一晉晶,俱經,始抖藪。 踏通邊路。於 驚骚。人民愁歎。天子被立官使,捧戲神寶。錦 聳、天。熱灰頻雨。三農營絕。五穀 稻並石藏谷,唱。天下泰平。其音達。叡聞。仍 寧天皇三年氏 三四月。富士淺間 不熟 ili 焼崩。 依之帝 被降 黑 煙

御字已三月四日。仙童人。定于日金之巖崛。其七 者也。爰仙童挑,神威,致,禮奠,凡歷,九十九年,同 土木之功。凡於,, 碏礪,為, 鎮將。於, 蟲蝗,為, 平夷 上達。洛都。當常后有。叡威。當國之土產三分之 娑。右手持,水精念珠。左手把, 錫杖。柔和忍辱。 于時老巫變形示。俗躰。其長八尺。壯齡 五十有 添權現垂跡。王子眷屬。被**催,離別,之傷歎**歟。所 悲和雅也。親拜見之。應為寐應為寤乎。感淚難 徐。頭戴,居士冠子,身着,白素衣裙,係,健陀色架 一。募,永世,被,宣進,畢。宣命在加之課,巧匠,而爲 心魂巨、保。尋る書工。結為相好。納、箱戴頭。 。靈禽垂,翅。奇獸跪、蹄。發,哀聲,流,涕淚。是 「剱刀奉」納神殿。是為 將來龜鏡 又為當 ,奏達。其容儀如何乎。 白雲聳覆 細 兹 也。 清 花。勤 身開 走湯 綠 起第

饍。効 妻室有。佗夫之聞。依之目寮捕。 勅使。 京都。余甕栗宮。仍云。監達。 云有 脫 本名。解,脫我無實之苦。應、時標欄破碎。故以, 欄之內。彼妾悲歎 行人。或云。蘭脫。當國 二紅蘭 驗 名 直阿 無雙。 樹刀 。又云,蘭脫。彼妻妾其名云,蘭女,故也 。幸 染土。深歸,權現。專信,木生。以之奏。達 遇,蘭 或落,飛鳥 無限。 脫 刺史伴目寮館 宣,勅旨。 或逆,河流。時人云,神 合掌云。南無木 弁賜 妻室 新 紫襟一備。 龍置 田之 生仙 保。其 於標 欄 叉 日 급

人入 御字廿三年。 定已。 Ξ 月。相立動詩 仙人之廟 崛 木 生仙

卅一 吉。坐,金地。故 錫杖念珠提之。 見、之。其地方圓一丈餘。皆黃金也 尅,於,日金坤角。有、光如、火。 已忽起,金地 人。白髮係、肩。波皺疊,面。雪眉弓腰。 大地震搖。 代渟名倉 山裂谷填。民 太 1社壇。 問云。蘭脫入定否。答云。 珠敷帝御宇四年北八月十 致歸 人舍顛仆。 依涡 有、音如、螺。 林 仰。偏 一。其地 樹 傾折。 薛衲繼身。 同 然 上有 木生之 人

佐 及補 也 日。 聞

伽藍。 之緣地。 宇。東宮豐聰皇子太子。弘,隆佛法,度 使 高 宇。被,獻,御書於當社。彼御書云。 亦 麗國靈光王 俗情傲慢。就中國臣守屋悖逆盈 權 叡威神威節 現權 生利 現變 獻。鳥羽之文。儒者 物之勝 々被,贻 一人體 分讀之。 境也。 ,祝禱。又太子。 到 然國 小墾田 吾國佛 不"明了"以"宣 僧尼 胸。尤回 前皇 女帝 舊邪 法弘 建立 扩 流 御

民,被,行,臨時祭祀,金銅圓鏡一面。徑二權現御民,被,行,臨時祭祀,金銅圓鏡一面。徑二權現御燒,禁圍。仍被,降, 綸命,課,三箇國河或驗,名戶

礒城

嶋御宇十一年。天下大疫。

人民死亡。又神

水

長而 當山

成

木。號楠又被降皇額。號東明

寺也

權現像是也。

此削屑,棄置新磷之濱。

九尋楠木

也。以之造形佛神之像。謂、吉野光

有

一音如

雷光如日之物。

帝遣 木者。

|動使

和泉國

海

中

權現御外 茅沼

二寸。被込一神殿。此像御衣

命

四

置神殿。凡靈應熾 鏡之面「鑄」千手之像。裏,錦袋、納」金筐。被奉、安」 勒,故實。催、駕上京。有,叡威。如,所現之像。於 座頭金地上人。宣使邦照以,肉眼,親拜, 靈儀。具 之面。金 附,座頭金地上人,上人與,邦照、沐浴靈湯、捧,幣 .排,社戶。跪暢,宣狀,于時千手 神之本地。當國刺史益宣使莅"當山。以」宣 色具十一 號即走湯權 盛。 H 神威超絕也。 坐。青蓮花。但眉間有,堅一眼。 現云々。又有宣 觀音像。浮圓 命 圓 鏡

五穀 等。又此御宇有。遷都之事。奉:為祈請,莊 鼠伏匿。爱被,奉、授,官爵於權現。謂, 正一位勳 甲胄神民庄領。動書在分進,納於當社。不、經 難波豐崎宮御宇白雉 Ш 野。仍被立動使 五 年正 月 排田鳥 鼠爲群 丸。以,弓 黨。損亡 飾鳳輦 旬

口御之儀 式

同 御字九年十月二 日。金地仙人。 相 並南脫之廓

心水。 着湯濱 流出 行者不、堪。隨喜。詣,神所、勤。精進。或 左右 雲。倘道之、雜識。權現靈砌。 達勅,配,流大嶋。行者響,北顧。 庭杖。 其盖。暴風忽止。國中安然也。金杵。水瓶。 秋八月大風吹出。損失果實。行者覆上大石以 行者以,金杵 小 臺。上有 勾戶崎有,毒蛇。常吐。雲霧 十二代文武天皇禪歸戊戌。役優婆塞亦天和國依 清 安置小勾戶之花室 會 水。或抖、數峯頂。 沐浴罪滅。 一欲浴湯泉。靜見温底 天仙。又浮 像。以千 擬之。蛇忽頭沒 。金文一偈。無垢靈湯。 手為 六根清淨云々。 踏行 中臺。葉上 四 降嚴 月上 叉日 山頂常聳。五綵之 顯現八葉金 邊 路。在別記。至又 雹損 旬 金艮 一各有 般 角在 立山國 舶 航 色化

第

此 界。靈湯枯干不、學,微烟。神部僧侶含,悲歎之氣 回之序曆」也 侵、甍頹敗。 如云字。單云云來國一熟。就中我山人信力薄淺。濃國也。以,如來國際密就中我山人信力薄淺。 潤 依 請,神託,之處。 四 所 殿。指 爲親 七 大神 神鉾 簡 天廿心」也。 代元明天皇御字和 北 衞故。以其芳緣一幸,臨來國戶隱山。來國 影 他界。是人力所不 人法 》向。讓 方派 畫夜大風颺 鏡共不、有、在。 巫器 衰 去。神民 然大權 敷 微 地一傍侍,濟度。 宣云。我是地主白 無有,參詣之輩。送, 砂。 現典 。爱知 住 銅三年成二 如,金盤之形,物 侶 及 善光寺 驚恠。開 神化綠已盡 也云 周 な。 四四 社 如來。自 風 道 月。寶 別明神 海 耳 四 。故去 移 自 利 拜 婉 十餘 社 也。 西 生 他 見 轉 搖

佐 出。 高 之人隨喜無限。權 野天皇御宇 沈檀 幸洛 風 都常城于 神 天 平勝 神鉾 時當山震動 現託 寳年中。 , 神童云。 昔神功皇后 飛還在" 八幡大 七箇 本社 日 菩薩 之所。 湯泉 見 溯 字

> 有禮 書 萬僧 與我 保持。頂,戴靈鏡,捧, 維 洛 皇太后太子皆詣,東大寺。以,神鏡,納。 八幡社 寫 那 都。欲,拜 一晉詔。 一切經五千箱,合,施,入根本會,於,當山,有,千僧會,國史 「奠之儀。經』七ヶ日、神鏡 有 深 座 謁。 契。 M (場內。年預尋察。 幷神識。高號彦太。 針持一章,神鏡寶鉾屆,上都,云々。因、之都 然今其尊子八幡菩 神鉾 |上|達洛都。于時太上天 國史弓張藏人統俊 下洛。於,東大寺, 一堂上畢 1陸自 本社,入" 有 殿。

同御字末 見者悲 视 群黨。乘查途,上陸。指社 畔吹。寄一查。長 四 音ニニケ 四十八代稱德天皇御宇神護慶雲。此帝 千基石 之。 以返 傷 社壇 日夜。 煽 當山 聞 塔。其內一 請託宣 者恐懼 搖 然後、失不、知。行方。 鳴動 動 四 神 Ti 基被安置於當 殿 如血 加 尋。廣五六尋。 七ケ日 戶開 之温 殿 大雨 之許之。各々吐 神鏡 夜。巫女宣託云。吾 降。 社司 當。翌 飛翔 猿猴數 山 发住 え 神人民 日 造 二異類 天雲。 + 湯 八萬 獱

受。權 神

現

再 。奉ン還

此

明

神

之 依

祕

計

也

尤可

奉 酒

信 不

191

酮 還 意 國 權

鏡

翔

冷降。

還

入

宮

殿

如如

修舊

发社

御正

是時也。

公等抽 海高麗年 美酒。供 應年中

渴 始

仰 醒

歸

命。 勸 酷

旣

送,多

年。康

寤 盡

輸

請 託 侶

今

現

主之恩,而

於

楠

ılı

之麓 故

勸

詩。

世 職

人 住

號

來 欣 宣

大 感 云 權

明 地

是也

爲權

名現

之來明 奉

神

僧

味 運

之忠貞, 哉

今

帝 主

賜 阴

賞

禄

於弓 大

削。八幡菩薩含

恨

太

為

妖 當

是

地

加

也

神

歸

國

感

之心

如

共

放

試 以 嫉

為

汝等 國 神

涉,高麗。再奉語

權

現云

々。住僧 無効

社

職

勘

弃 閉

移

..高麗.汝等雖

致

, 祈精。 頼以

驗 深

隱。音形。而權現與八幡,芳契最

憑

地

明

神託宣。神

不

、還湯泉無涌。

空送

爱以 當 適 参拜 國刺 刺史承 之次。 史大 學察 諾 詩 粗 大江 記 勒 錄。 」故實。納。帳箱 政 若 文 示 然者將 歸 依 示 異 來 後 隆 于 没 他

定 社 司 師師

職 一旻尋牡栗卓通 藏容念丹田芿智 寺都上藤倫大大 主維座逸秀法法

樹

花開

温泉

所

々涌。

香氣

谷

Þ

薰。

爰緇素歡

兀 雖

十三年星霜。

弘仁元年寅

二月十五

日

當

Щ

松

測

知

權

現還御。爰

地

主明

神

託

巫女云。

我

奉

為

層神等。

現勸

請。

去天

投『高麗。然未、叙』思緒。

以,腥实。醉

之餘。忘

素

綠 起 第

于 大 學 時 弘仁 寮 兼 遠江 Ξ 一年長二 伊 57 月 東 + 史 八 大 日 江 朝 臣 政 文記之。

走湯 Ш 緣 起 卷 第

嵯 禮 之時。於 쨊 天 皇 弘仁 當 國 + 柱 车 谷。 亥已 東 0 顧 寺 與行 大 和 金 尚 剛 法動 界 大號 大 師弘 灌 古 M 迹 紹 巡

三百二十

州 納寶 堂。書一 藏東岳。書寫法華二部,安置兩穴。又資塔一導。寒神鏡,以,九條赤衣。奉、納,南崛。抱,神體, ス 化 像。巡 前 建立之安。妙法華經幷佛舍利。造言立道場。焚八 溜 食電肉 召請善神。定置 曼茶雞香。又 在"松岳之南麓。一在"松岳之東谷。以"神童 所乎。又奉納儀式如何。神童答曰。神崛二所。 八八代 童 神神 人懷弊慢。權現欲隱形。依之神 禮當山 剱。是為 語曰。 兩 崛。和尚 踵 心經秘 那 所 IJ 有 額。根 我等是走湯權現王子也。 精 圖 社 健 崛 伏 進來惟太可也。 進 居 緣 頭、結壇念誦。當,三箇夜。有,二人 法則」始 行法。又和尚於 繪權現本迹之眞影 降 本堂弁 1: 為業。世人云居士聖。 中電 刻影 邪徒 姓竹生。 鳴也。 諸 福 切經 舜 人法 名賢安。 形像。安置 仁明天皇御字。 和尚問云。 藏 中心 也。 鏡寶 自 結界 安 置根 叉 爾時及! 埋 寶 幼少 一种崛 鉾 神崛 同 自 爲 四 回 身 御 寬 奉 珠 域 基 不 甲 本 何 木

中旬。 地 手千眼。汝宿綠不、淺。 行 闂 居 山 育 其 男子,無有,口鼻。父母驚恠云,不祥。竊欲,弄之。 以示之。若可景置 門之惠鏡闍梨。又居士巡撿經,行山上。如入 吻分明也。因此稱,名金春,國史上京。遂入室 夢。有,童子。開,筐賜 承和二年四 上詣當山,盡,信心。窮遇 本迹之御影。殊 也異境也云 業 士幷夫婦赤子精進七箇日。着, 淨衣 之。請,賢安居士、令、加,持之。又相共可、詣,走湯 母夢有,一 ,似,臨,淨刹。忽忘,舊土,獨留 |云々。夢覺隨喜銘、肝。 尋请得賢安居士,暢此 送,四 夢中 異人示云。我是走湯 ケ年。 二月。 童子。告云。所、生子聖智者 々。夢 甲州 同 抽」勇猛信心、精進 醒 者 御 _砂金_云々。明旦口 已隨喜無限。 發,再與之願,訊,我靈儀。 新礒 字承和 仰致前精 住 濱側。靈湯 國之史一義朝臣。 三年 此 權現也。 砌 . 辰丙 感 祈念。同 構草花 二月。欲 **淚難** 鼻開 父母 捧 也。可養 。本地 幣帛。 押 感 匹 運 故 仙 懷 勝 月 山

官。建

温 道云

挑

法

燈。設

享祭。同 勅

二年成造,堂 點八

社

所 珠 人。下 元 本

助

記我化

々。

依

神

勸

進 勿歸

諸

人幷

國

4

庄

山須住此

錫杖告云。汝於我結緣斯深

感。靈夢云。六尺有

除之優婆塞。帶

持

慶元

年

然

大

和

尙

門弟

沙

門隆

保

和

尚

國大 念

葛和

山

亚

行 安

法花

八講。同

三年自,正月一

H

至

于

日

本 立

迹靈體。 伽

自二十二

月十二日

ケ

日。始 $\dot{\mathcal{H}}$

五 走湯山 緣起卷第四

凡數百 月 名 中 松岳 安 堂閣 一然和 。國吏麻續 四 不改之為 ·智惠水·加之講讀經論。解釋章疏。安置 造制 一西谷 П 安置 ス 卷。賢安居士值,大和 尚 滅。 星相谷摸 俗 排。舍房。念誦結壇。 T. 體 朝臣 點社 人。詣當山。 法名。 手 本 地 11, .語.靈夢之旨。仍以 頭 兩軀。構實社 號 文德 西 - 賢安 岳。築,廟 獻 天 佝 皇齊衡 法 開云々。 法施一崇, 神威。 」捨、俗出家。以,俗 師。天安二年寅 所已。大和尚 入俗 二年玄 三麻續 明星入,井 船。 四 為 聖教 1 歸 月

> 日入滅。 座 始 山 王講。 順 行 其外 不 斷 與行 觀音品讀 不追羅線 丽。 又經 耳。他治 配出出工作 曾

R 大 于 一教王 梨。 時 延 喜 護國院。 上 四 綱良宣 年 ф 定 子 額 ナレ 保 僧 月 [in] l W 八 梨家 日 忠記

延

緣 起第三

神 記 第四 雷

摩 化 迹 剛 子 迹 竊 童子。 尼菩薩。 者。 譬如水 無方。凡識 和光之靈驗也 南山 以 指 月。無緣 熊 以 熊 曲 野 折。本地 野走 。安養補 難測。靈應有限 主 。然則 子。東 歸 湯 本宛 Ш 阳 甚深之化 行藏順、時。 落 朋 為 似風 走 為 证 湯 儲 恩情誰推 护 所 雲。抑雷 儀。 居 君 发延 Mi 洪範 迹 也。本 味依 喜五 則 ili 賞 有機 是震 雷電 企. 年 神 金 Ti. TE TE JI Z

Ш 流東漸之擁護。 水 語于法 手蹲踞 此奇瑞。來臨、松石之下,觀之。戴,八輻之輪寶。拱 師 上。九尺之絹素纒身間,于時天台學徒有,龍觀 靈石。端 有。巫覡。名即漢勝。容貌美好。體精利敏。忽然跨 翌年二月望日,移遷當山。彼先兆誠 花葩。釣叟里民為、怪異、靈禽奇獸致、馳翔。 降 食之儀。異香散風。光氣燦爛。五彩之雲霞聳, 石。雖 。智行磨、珠。 戒定研、鏡。 承,勅詔 『臨大嶋之淨濱。謂』其靈瑞。海渚芬芳。沈檀 虹霓列張。迅雷發音。潮水展,錦色。波浪布 。宿緣分、然之境也。就中大神卜宅。佛法 。大嶋淨濱之浦。若相和稱 · 棲紀州南山之岫。 是非,相 謹問 師云。我是靈神也。 坐收, 氣息。逕,七日,之間。 護法 "訊之。且時巫覡開,眉目,含,微笑。 五體 最吾所、望也。 王子之中。 。遊神 雷電 依之試 飛情。 於風雲,馴,情 ,住"當山"具聞" 曾無, 童子出,本 應之地。 不、專。輙 示 自 應 一隱顯 . 睡眠寢 當其 日 於 頭 山 法 時

强軸。 淚連々。途下,靈石之上。築,社壇。點,翠松之下 乘,九仭白龍,即時翻,形示, 尊相, 六臂具足如意 童形。莊嚴一如。天女。左持, 理趣經。右握,利寶劔。 為怳忽或有、聞,香氣。或有、見,光曜。或有、聞,雷 之梢。光炎奪。眼精。鼓掣壞耳根。親拜,神化。心 雷霆響衆器忽碎。雷暉映山海學煙。虹霓階梯 韻。唱, 啓白句義。當,于此時,靄雲靉靆霖 潤 之奇相。拜,本迹之眞體。且喜且懼。 **爱再拜稽賴云。願靈神正示,容儀,須臾圓輪變** 音。或有、無,見聞。除,法師,以外正無,有、見,神 上下。捧,自妙之幣帛。備,紅壘之供膳。調,勸 神 三粒。白浪舶船並,兩艘。爱形勢如,日 勅。隨喜餘,肝膽。信仰春,身心。催,促道俗,勸 利 學,頭欲,再見,在然藏 蒼 生 巾帳窮美。床蓐細氈 - 饒益元 同勒,具子細,發,向洛都 焦。 本 自 .形儀。爱法 所 盡妙。 也云 威心欣々。 經透 輸係 Billi 同年三月 見臨 龍 雨車 雲松 觀 鏡。 軸 進 前 퍔 水

零。 作 承動 照宣 味之病患愈。 泉。 此 驗 佳 劾 · 趁歌。奇 松岳 運 公為"上啓"具有"叡聞 合 奉 天。靈德周 中 聖代祭昌。 如蜜 特 唱 行。當山 戴 或化人 萬歲 糖。衆色更 盡記。靈應豈得語 懸 民煙豐饒, 如如 恒 巴蜀 來致 白 和。露結。草葉 琉 錦 感 一學學 璃 也 禮 帳 歎 霰。 供。或妓 催。叡禁。照宣 。敷 吳郡 叉 疑 而 日 遠 已 枝 金 近 自 條 北 禮 樂無主 終 不 奠 沸 縟 消。 威威 酒 公 不

> 役 現 北

優

心

羯 獨

庙

此

龍

天 慶 年. Ŧī. 月 H

走湯 前 Ш 進 1: 電 推 緣 大 起 題 第 厅 四 伊 帳箱 豆守 五 沓 卷之內 原 氏 胤

地 交 走 底 和 湯 Ill 而 H Ш 回 金 緣 泉 起 其尾漬 洲 第 本名 所 无 此 深 龍 八 秘 兩 根 地 轍 不 之 眼 良 湖 可 Ш 丁井 水 也 披 其 見。 此 真宗 頭 地 在 下 П 赤 H 中也 白 龍 抑

> 現 神

龍

薩示分 之。若 靈杉茂生。 珠是故云 辨寶珠 月精氣降一子 肝 婆塞 鉆 者 師 東 致 鏡 一藏。右眼穴。抱。俗僧 爲 體 輪 萬 杵 也。 西麓各 身為,四代 昔此 喜怒 應 也 善恶之 有 勸 也 也 書云。 豆者 那 身 又千手金剛 請之。當 神 豆此寶珠 此龍 杵類迹也。此間常立尊。此 時 國 113 以 有一 地所 頭 未 俗俗 事 也 Щ 1 鏡 省 訓 藏玉。 穴。此 體 先兆 爲 此 也。 之前 以 ili 處 成 fali 爲 卽 法 。興行 本 藏王 之上 國 所 也 東 込。左 必先震動 權 地 龍 化 身。以 館 ing Hq 名 主 草木自 游 現處 千 一具算 者 此龍 是當。 館 號 陰 1 3 當 手 III 根 也 H 即 有 īÝi 陽 ili 智慧 現 穴。山 {J} 也 茂云 松岳 VII HA 東夷 省 也 鏡 法 生長萬 高 此 17 抑 M 1 珠 為 小 な。可推 山 是也 此 而記 以 懸 内 TF. 伊 金拳藏 境 即 報 折 西 和 同 有 老 所示 龍 運 是此 尚 26 樹 1 1 被 3 Hi.

天 H

魂

神 松

鏡

岳

手 裕

事品。 水。一 自 坎。安置三尺金塔。塔上有,飛空八天塔。中坐,釋 虚空。以,右頭 迦多寶。 叉塔 "彼龍之鼻根」所"涌 華壽量品。其文字金色。高野 王子 此 ·崛東役優婆塞所、穿清水有之。此 謂 指 住 也。又經柱空中顯。 二書。寫之。又新礒之濱上壇有。巖 處 也。二龍 出 也 吐 一精氣。 現 赤白 大和尚 大般 一交。海 问 魔

見之。或時權現示。靈夢云。伊豆者。伊者。惠此豆 [in] 通 路通,戶藏第 院之內別院明鏡院是也。 有"明眼。生身千手千眼也。此山是補陀洛山九峯 此龍有。千鱗。鱗上各顯。千手持物之文繪。鱗下各 者頭也。東境此須也。依、仰、吾神威。於、一天下、 中一示現俗形。從兵不見之。於異 曾湖水。六路通。富士山頂。七路至。淺間之巔。 伊 勢大 州住吉。神后皇宮攝政討,三韓之時。於 、神宮。四路屆,金峯山上。五路通,鎮西 三重巖穴。二路至,諏訪之湖水。三路 此山地底有。八穴道。一 國軍兵:

為頭首也。云本。

紀僧正有,參籠·若,臺染王秘 日金參登之路側。月光童子。松下搆,苍室。

電也。 電也。一番走湯權現。二番女體、三番雷

中馬三疋。一辛夷童子。二岩童子。三櫻童子神馬三疋。一辛夷童子。二岩童子。三櫻童子

走湯山綠起第五世邊門

神 神 垭 根本地主有,二神。一者自 事。或時奏, 伊勢內外。或時 惡吉凶。王臣政務是非。爲,取捨勘定。以,白道 日夜々往一反此八穴道。故早追也。其故於天下 也 也。其體男形也。於,八穴道,明 為。先引。以。早追權現 一者早追權現。女形也。本地大威德也。 引,攝啓來國如來。總當所權現職等。南 「道明神。 為 談頭諏訪 , 使者。今、執行 白 本 放云 地者 住吉等。 1.白道 地藏 明

神託記。 | 浮八埏之地主。故於。日夜十二時,無,間斷,也。

有,巫女、號,初木,以,此二子,養,之如,己子,不,經融。共香氣宛如,龍腦,從,其中,生,一男一女,子時融。共香氣宛如,龍腦,從,其中,生,一男一女,子時以脂膏凝滴如,白雪所,照,日月之光。其中心消

系圖。註二上統一不入載二枝葉。

初山。國也。國

國

月之上旬、入、八穴之道、等。除之。以下旬、等。提當

「人以」之號。神冥、崇重之。此權現氏人之元

第十三帝志賀高穴御字。被定,諸國之堺。至,當

以此二人,所,治,定之,畢。此二人爲,夫婦。以

初木養母。日精女 見津——赤松——安木—

-月神——日向——月景——大谷——蜂木

直木——桑名——名代——若椿岩松藏天天。

延喜四年甲二月十五日。法華長講始、之。承平八年成四月日。延數記、之。

又造,立五間檜皮葺禮堂。奉,立執 金剛神二軀。

事。同六年金春入滅畢。 延斅。承平二年長為。金春上足弟子,執。行大小又經藏一宇修。造之。奉。納五千餘卷聖教,也。

天德 皮葺堂一字幷七間禮堂。棟高四丈。東 五尺。南北廣六丈也。 九年子入。杣山 四年。庚 始建立鐘樓。又講堂破 」取:始材木。同二年造 又金色十 Īī. 壞颓毀。康保 ~ 西長 像 四 八大丈 THI Hell LVZ 柏

三百二十七

走湯山綠起卷第五

卷第二十

İ

佛菩薩七軀。又三間四面 延數為, 勸進, 建,立常行堂,又西廊奉,安,置金身 安和三年已當國太守依智秦永時宿禰為、願主、 觀音像 一軀。 尺。六權 檜皮葺僧坊一字造立 現一躰。為民。安置之。

誦 造立之。破壞之後。 承平七年。 菅野名明朝臣為。 願主。延數為。 文殊之檀像塗餝金 法華經 幷懺法等。 。天祿二年加,修復之功。普賢 泥。又撰,六口供僧。結番修 勸 進

建立實塔一 天祿四年北條大夫平時直為,願主,延數為,勸進 力學 基。安置金色五佛。四年始之。同五

元慶三年起

拳童子顯

現。

不動

明

王

垂 迹也

形

也 皮葺中堂一字。天祿年中終、功已。又七間二面 堂一字。當國 永觀元年奏造。立三間檜皮葺大門。安置 然而 [年改]造御祭所幷禮殿。又造」改三間四面檜 大風顛倒 太 **÷** 本立 延數為。大勸進一造一立之。又唐 身朝臣 天慶四 年所。造立 金剛

> 國本朝摺本寫本經論。人 納之。凡自,天曆之末,至,于永觀之今。三十餘年 興法修營。皆是延數闍梨成 秘所口傳幷權現王子氏人等圖繪影像。 師 功也 述作·合束 八千 在 餘铁 别

峯山金剛藏王之示現也。形像一 祝安,之云々。 貞 傳云。小勾戶菴室役行者本尊也。依蒙。冥告、奉 觀六年申春。岩童子顯 永 延二年戊三月日。 沙門 現 本 延尋 地 如藏王。 彌勒 記 菩 薩 或古老 也。

心此神像顯現也。仍立,其名字,也 金塔。天人為,供養,常來下。殊以,開花之時,來集 上常有。天童。推,神託 櫻童子者。其所有,櫻木,花八重枝條茂盛 之處。此砌有、崛。 崛

跡。本自有,大辛夷木。此樹乾枯之以後。此木夜叉。黄色。右手持二二鈷。左金剛拳也。此社壇

喜五年五 起 權 開 175 現王子。 蓮 搆 也 手 社 雷電顯現。 ·持_{*}寶珠。已上三社者權現之王子也 今則 奉安置 走湯 本地 權現 之。其形天童子也。右 如意輪觀 儲君也。 委細 音。 本是熊 在 手 被終 持 延 野

也 權 權 以 來。 權 祭 所。 現女體 現御坐之時。 現自,日 ,其形 金春造立 現像 連 仍 以 像 金岳 古社 ,雖、安、之。正即女體之宮也。 如一天女。持一天扇。扇中 幽玄而 御 下降湯濱 彼嶺當,東南,此女體 壇 祭所。本是女體。所安。社壇 號本宮。 人不、奉、知、之。 上,之後。以,女體 以御 圖 在所云新 見開合之二蓮。 本 計 知节 日金頂上 壇安之。 彌 移 陀 御 如

追養機構 本 社。是皆依 現今 元年 心其嫉 が 夏比。 左 神託 有神託。 所 後 執 經 行 īE 箇 女體 也 年 入 康 保 御 雷 年 電 還 御 社

沙門延尋記

尋青 創 辻 别 八穴道 龍 御 也 子。 神 早追 雷電所 也。 漕御子。本 權 現母 乘 也 儀 也 地 文殊菩薩 本 地 地 滅 書 也 迹 醉 也 儿 治

取之 謂白 助。于 東隅岩藏谷白 天 云 條祭主等同 平 山 Ťi. 觸 喆 车已六月。 威力也云 神 身背、口 託云 心合 雪 々。爱炎天之尅以。一 降。 JJ 病患平 東 業所威不及力 於當社 深三尺 國 大 愈 疫 修 仍構 過 W.E 华 雖 究 孙 社宅 經 也 術 拟 选 们 夜中。松 111 當 不 初 有 中 國 不消。 神 们 141 伍 庙 北

决定者 花幢 法 七星 以廣 密 傳 利 幡珮。 之輩步行 臺 云。 生 平瑪瑙大石,為,覆蓋。名,坤元·峒。其 也 無 坐 松 摩尼 岳 間 千手觀音。二十八部 斷是則補 南 淨刹之上。除 燈 麓之地底方 燭 奇麗 SE. 落 莊交 十二丈有 Ш 災與 ル 之作 꺠 山冬 樂 森 2 民 刹 177 H 別 1 院 1/1 闕 離 H 是 夜說 心 4

 面授。今歎,廢忘,之故。 年、懼註、之。 弘法大 師 語』眞濟,口 傳 云々。皆在

日精月精其終沒不、知之。仍以,其所棲之卜宅、奉

、祝之也。人云,結護法,是也

藏大日。外金剛界大日。中臺。南 權 神。實珠。西方熊野。蓮花。北方羽黑。羯磨。東方走湯 海底大日印文五箇口傳。中心伊勢大神宮。 現 ni 方高野丹生大 內胎 明

也 天照大神 、照大神處。中心。此海底印文皆在,大龍之背本是大日如來密嚴花藏淨刹也。四佛安,四方 方

眞濟 H 授 傳 云文中。

權 走湯山緣起第五 方也。不,可,令,凝滯,以,一察,萬此謂也 異國 之神。或見本住之神。是神化無 延尋記

右走湯 治 Ш 終 24 月 起以屋代弘賢本校合了 以 P 田家古寫本校合了

忠韶

筥 展山緣起) 幷序

伊 孝安天皇獻,壽于彼山云《熟觀,四 秀峰/爲/座。神仙世祿長藏 排駒形權屏。而 宗。爱人皇第五孝照天皇盖代之始。 蹤。自地 冬。高 利凝。節容。湖平則水面磨。鑑黎,也。降,毒龍 歷讀千山、无勝,彼秀峰。天晴則山色擎、剱。而 佳 絕仙窟。傑而為魁。 原夫扶桑之津。湘江 津。又云。莅,彼境、業障懺悔。 木。西汀名。駿河津。南岸號,伊豆地。東濱名,相 銘」石。波問 山水者。 駿相三州。因分,其域。而良材立,波心。名, 岳莓 神,以來漸記,神德。天子公主亦畧叙,祖 必有人以稱。鍾秀色濃。故有、客云。 苦封, 毘盧長印。 幽磵艸 問點、 釭 為。神仙宮。有人云。泰山 雨常帶,陽臺暮。雲長問,紫 爾不、稱。錄其名,倘矣。諸天 一之西。相州西富郡足柄。有 被岳。因 故稱 木說。醫王 境風致。地 名 泰祿 聖占仙人 府 目 君 陰崖 山 鹏 摸 神 寒

塞。宿 彼嶋。 以當 葛城。 若 皇時。彼湖上有五色細 覽 陀 若寺。次皇極天皇時 乎。箱是般若實相之根源。故名。箱根山。因 山 次 月 山 人戲樂日經。三七日。次安閑天皇時。仙人飛來居 奉 星宿 寺 欽明天皇時。高僧來 洛迦山。又有 頂。碧雲覆。嶺頭。紅霞擁。湖 ,其形如"、梵篋", 豈非", 清凉世界曼殊室 移 々。泰祿 ...彼嶋蘭 嶋 一高麗 山峰自 志峰三岳也。次文武天皇時。有。行者 號東福寺。次齊明天皇時。 同 轉 有 朝吉 于其左右。称之名。 大 北 山者。 準。富士 岩。而自 神 備 面 人云。 和 大臣弁玄昉僧正奉! 怪岩。自是大悲尊 異其名 光 于 峰 。玄利老人管。當山。而改 本 室河津 登被岳 ·當州 以遠。 浪。即 朝有 而 大碳 過 生。資 同 巡行于志山之麓 心。波現青 天下高僧无不 向 東方淨 現 洪跡。 勞峰。因 玄利处。一 加 未三峰。 蓮花。菩薩 天意] 人 也。因 琉 次展 云。 利 瑶 瑠 名 一寺于 柳 名 號 111 琉 金 見 優婆 4 ま H 補

剃髮。 生 光院。 巡行諸州靈崛。于時高野天皇天平勝實元年 山 大士。願以,大慈之智力,示,有綠佛土,即有,瑞夢。 萬卷詣。常州鹿嶋靈社。建,神宮寺。年經,八秋,而 正天皇養老年中。洛邑有"沙彌智仁。不、知"其氏。 七數。豈不、配,忉利四十九院等品,耶。又前朝元 若寺。奉、營造等身文殊大士像,而號,東 昉於』室河津,造』立彌勒尊佛。次行基亦再至,般 臣再來登,彼嶋。復立,一寺,奉、安,措大悲尊像。玄 福院。復 西光寺,矣。又涉旬行 "住持」間。 整津川之間有, 奇偉七石七木名, 別帶記已上七 寺于靈嶋。而名。南 母大奇之。 男兒。襁褓匍匐之際。 次聖武天皇神龜五年四 日 立,一寺於嶋。而名,南 課方廣經看閱 一心所、冀无、他。 弁李歲入"釋門。至"滿 勝寺。同室河津卓。 基菩薩再,與般若寺,號, 一萬卷,故稱。萬卷上 口嫌 南无三世十 勝院。室河津 月廿一日。吉備 葷腥。膚鮮,錦 计而 招提 福寺。又 -方諸 受具 號 大 東

駒形能善左、之右、之。又曩時安閑天皇約、靈夢 於 為動 清潔來,三體。三身同共住,此山。結緣有情同 修大士也。 汝因。慇懃、吾現、此矣。又有。婦女形、云。我 、形矣。又有"宰官形、手持"白拂云。當來導師 次天 有"神仙。 使。萬卷造。立丈六樂師像。而號。 益。萬卷夢醒矣。 矣。三容異口 爲"三世諸佛助" 出世化儀。以,汝心淸淨。 吾今現 身。有"比丘形。左執"如意寶珠。右 夕有" 靈夢。 三輩各告云。 我等斯山之舊 之埀跡也。 平實字可投 錫 社。靈廟各號。箱根三所權現。主賓 願造,姓宮。餝,靈廟 一淨琉璃世界 閱,彼靈地 汝以有 同音唱云。池水清淨浮 汝留令,脩 日數不、幾。彼靈瑞遠達。天 上求下化悲願 于 而栽 乎。奇花異艸各 禄 الله |以||金玉。 谷 練行脩史及 練 神 云 妙樂。 掏 々。 根本 故。 m 三容 獨 1良醫 自 中堂。世 月影。 奉,崇二 站云。我是 我今 爾此 各異 主。 三霜。 是聞 五 雖 聰。 汝 來 權 也 利 意 質 思

鎖。號 -1 婆 无 波 資 遠 佛 乎。 玄利。 聲 所 卷 有 靈光。為,聖為,權為, 則 珠弁錫 速 臨 近老少。无不能當道。 佛詳 新 敘 漏 間 驛 方便之樞機。 以真諦 盛 佛 于 或 達 大 湖 路。毒龍 萬 未 智 深 用 天 時 水 悉 微旨 生則 木幹 子。 杖水瓶。乞欲受降。 源。築工 聰 嵯 增 一个。大智發。解脫 頂 伏 各 峨 風浪 名長男。釋迦 或五 以彼 卽 名 夜 以 四 中 天皇弘仁七 衆生濟度 [輩者 應 浪 以俗 **石臺**而 俗部 ili 栴檀 大 髮。 學雲。 经 士者。 眞為,俗。 脚長 真俗 朝 討其事迹。 論 訓 勅 介稿。 之升 羅木 徃 老子。未成 應化 洋 統 FH 權 衆 年时萬 丽 R 17 真俗 生 質 一、厥形 今以稱 猶 即咒而 华 I 1 又 多不免 酮 應 降 伙 沧 4 也 龙 帯 化。 阆 石 非 则 主 欲 故 南天丛 九頭毒龍 前 聖 未 級。 道 緊之以 聖 pip শ 絕 僧 改形。 10 が 之前 损害 知有 和 十一一一 該 馬 俗 所謂 州 派 利 忧 魏 法 桃 願 14 佛 相 為 2 1 銊 山 11 德 質 11 先

卷

像于本 骨,而 七朝 鄉。佛 郡 于神頭。塞五 **輩驚怖。**于時 、築、靈壇於赤坂。 仁八 ,艸。有,占者,云。 議而云。 稱,其地,號,小箱根,即於 數朝天帝各令。渴 利 年十月二十 像經 萬卷供獻之具。自 敬心 拯 應化。 Щ 長 之而 憑誰 本 月 卷肯 奉衛護資祚。帝夢即 士 不 站于神 空海 各分 怠 生綠旣盡矣。 四 可留。跡於本山。諸經 漸宿霧悉晴。 當、坎大伽藍所、祟也。 不红 H "祐侶三十有餘。上足有"經卷。 而駿 頭駒形 四日 暮 山 一行脚。抵 々巡行次。 口。 仰 因建 齡 豆 北五 神靈自 孝謙 m 儿 相三州 十七七 魂還,本 天 向 有 民戶頗 于豆 | 彼地| 温 民 抽 天 堂。名,桑原 。奇夢。萬 為彼 皇 寄 醒。 示寂。 心无 Ė 酉 刑 尅 附 奉安置 至 山。濟度有情 因 平 弁丈六藥師 H 禄 神 徒 لا 有"勅言"合 安 嵯峨 即奉、返、佛 卷託 風頻 方郡 īfi 掛 也。 弟 來 肅 Ш 拾 之以 為 如 數 分 天 云 同 新 新 神 伏 潰 弘 光

廣 叡 皇昌 衡 興廢。 除字之坊舍輾,其甍,或折,花 殿 任補 中有"天意"以"叡 之間脩。念佛三昧。以 常行三昧勤脩。自,仁壽元年八月十一 以廣、夜。 熊 覺。 經 中 (住,常· 小小六 Щ 年中榮善 野山。登 卷。又建二三所堂 實保僧。仁明天皇承和 樓臺恰如,布、金。 自,七歲 泰初知 惠空僧。于時修禪 座主 具不、及、錄矣。凡所、誌者。淳和 里。 山。勤苦勇猛 次又慈覺巡行諸山之次建。 1金峰 職 東 天 最僧。同延喜 僧。清 西 性聰 後平 長百廿 Ш Ш 閣 。巡行天下佳 和 之職務讓與平信僧。預國 明 四 天皇真 為深艸 信與。叡海。次花王院王子 也 可 又自,延喜十九年, 也 徐町。 調 州郡貴賤。 五大明 年 初 問 中 中雲照 觀 惠命僧。 天 供。 廻 次村 與有天 比 皇弔、次院主 或摘 廊 王前 善 擇 上天皇天 或寄 僧。同五 如僧。 文德 天皇天 之數。 其材。 橋獻者。 後 日 佛 堂。始 圍 海 险 三七 醍醐 天 像。呈 育 唇 皇齊 服 年 長 記 有 曹 B 百 红

駒 於

形

神。

卽

為,國家鎮護

矣。

又徃昔田村丸

奉

東 Ш 學 永 鸄 月

年中源賴朝有

瑞夢。月旦肅詣

神壇

。仍分,文

豆州奈古谷,建。多聞堂一字。而

奉

遷

恭敬

神庭。拜

·:覽佛場。故長寬二年五月十六日

+ 悪 造

 $\dot{=}$

日。

造三所前

殿。東西

九問

高市北

八間。

鴛 四

壇。能善

神 本

殿。 中

同

再

與矣。次安元

二年

間

匹 駒

面 形

根

堂。分安指醫

王像。弁三所

列簷之瓦

翡翠擁犀之簾。宮字翼々然矣。復壽

天旨

命寄附

當社。上人委順後。座主

職

次序

四

世

一的傳。

安慶。

。澄實。

源良。行實也。

行實自則歲

書 積

經

卷。鳥羽太上皇有"叡威。合"彼

上人參

先

奏 為 功

三禄

Ill

神

威。

即就,當州酒輪

鄉

四十八町。

以 朝 將廣嫡

子安慶僧。

禀,

- 豐.覺

護。

弘 刻

三年 衆生癡

任

祿

山

座

職。而

住

祿

山

次

條院

登 寬 祚

平

將

P4

仲

弟

座

主

職。窮,大小乘。法燈欲

介 照 破

闇

Ш

次駿州富士郡有。杏子。時人不、知,其氏。詣,祿

累德。歲經二三秋。碎

骨剝皮。

而造一營佛

徒,同參,于廟堂。專所、祈君王。獻、壽高岳,萬歲无 載之。"復自」為義義朝,以還。別當刺史之官。 ,混,其座。專,豆相州家人等。可,應, 祿山之命。條目 故令、續、踵於賴實。故別當職位之班行與、他不 而滌,煩惱垢。立可、成,二世願力。 豊盍,仰,三所神 願萬民抽, 丹誠志,運,一步于神庭, 者。各々之靈 。題。更所,髸武將震, 威於四夷, 均, 功於九州。次 撰,衆徒百廿人。而爲,供僧。長 有。德行。可、等,神之华德。當山者以,萬卷定規式。 不通當社領一旨有。遺文。外後行實顧。命 天下。動。雄名于古今。復賴朝為。行實,以有,深期。 征之日。 奉、鑄、神像。故及、武威於九夷外、矣。又源義經 料。次與州住侶藤 | 敗脈實。云。累世雖易改。莫達信心於當神 々之衆望。 即以,豆州 奉,納,利剱于王犀,名,薄綠。併施,策略 披,胸霧而染,和光塵。掬,智水 原秀衡緬和和祿山神力。而 山木鄉水田 日勤修別當率。衆 廿町為浮屠脩 永 于 答

他 乎。

建久二年七月廿五日

南都 與福寺住侶信教誌焉

別當行 實

右筥根山綠起以增上寺貞譽大僧正本書寫挍正了

松 浦 廟 宮 先 加 第 并本 緣 起

足薨後。 男。即 太 政 大 男。 給食 臣 四 右 大 門 封 大 中 E 臣 千 已即藤 藤 鎌 戶。倘 原 子 白傳 不 連 五 比等 卷 鎌 如 足 井 朝 時 依 臣 功 鲫 是也。 被 任 大 在 臣 藤 原

左 大 臣 武 智 麻 呂。 南 家 。 大元 部元臣右 卿參。

四 參議 參議 贈 太 大 政 部 京 大 大 卿 E 夫麻 房前。 Œ 呂 位字合。 北 家 武 家。 。議 民 名馬養。

> 雄。 外 右

上

興波 音

等。

為主公

傳

難罪。

觀

寺讀

師能鑒。

執

筆筑

削

ιÝi

겠 1 3

近

少將

從 世

匹

位

F

膝

原

廣

NE

慮

宇 合頗臣在

太宰少貳 從 Ŧī. 位 下 廣 繼。 松 浦

贈 贈 太 太 政 政 大 大 臣 臣 Œ 正 位 位 種 良 総 繼

正 四 呂 內 右 A 臣 繩 贈 正 同 位 時 難 衞 大 將皇 太

傅

田

麻

八 触 議 太 從 太 政 字 位 的 臣 從 箔 JE. 成 位 位 動 百 111 等藏 下 航

如 右 廟 十。男藤原氏者。 先祖纤 故。何 殿原 紫 内 為 後 10

所

il:

1/1

本 綠 起

袓 年 四 式 政 右 介防 父鎌 部 少貳 月 內竪藏 īff 臣 1禦隣 一月爲 足 藤 大 廣 從五位 彼 御 原 1/3 総 敵 太字 朝臣 殿 子 臣 朝 伺 孫 万 鎮 Fi 下。拜式 隙之危。以 字合之第 子 者 奉授 少貳。氣行 非 連鎌 可任 孝德天皇 君 部 足 少輔。 王。功逼。天 外庭之傍臣。 御 文武 將 子也。 殿戶之孫。 Ti 御宇 銀大養德 训 職 IJ. W 抑 Ė 下 天 狼 件 大 名 將 13 215 E 織 र्भिष 守 派 軍 活 III 獨 116 位 同 红

并本

緣

起

點賢奇異之其 所 拜任。 然將 也。 軍 少貳。 於,彼存生時,有, 旣 是天 下 神 五異 妙 七能 聖 哲

謂,五異,者。

云々。

候,字佐 御髻中。 生一 王 殿 頃 寸餘 年 奉社 角。 云諺 「圍碁·此亦希有。」 云々。今按謂·1之世問 本文。今按謂·1之世問 八間之事 で 専邦 で 事事 が 上間 希有で と

近見開甚爲"異體"。 統以足立"一杭"之。遠 統以足立"一杭"之。遠 後,於强草,或時後"大小楉"又其形體尤奇異也。是知言 三。龍 馬 出 ?勞飼之間。漸々登m立四杭?如z此經m數日?字後m大小楉?又其形體尤奇異也。是知m龍駒?之。即以m高直,買取令m勞飼?專不z後n例草?少武任初年冬十二月。郭中闡m一音七度嘶

一。

云。龍出來者有,,峙面,者謂,之氣關,之時9進;,立御馬之前,也。世中云。即被,召奉永主人也。又申中云。即被,召奉永主人也。又申古。故居住何處乎。申云。丹波。这之間。備中國板倉橋爪。立,異 人吾共可、有云々。参候更不、後,,御馬之尻。及,渡,門司即被、召奉永主人也。又申云。誰人洛下鎮两朝夕徃返給改居住何處乎。申云。丹波國永上郡所、生矢田弘麻呂也。。備中國板倉橋爪。立,,異體男。專不、似,例人。于時小貳一面從者不、後,,龍馬,尋,,件龍馬。午上從,都府之務。 面。若謂」之歟。世傳

量堪乎。仍異川常人,也。 花洛 鎭 1/4 朝 夕 往返。姓古今來世人未,有 力 而此 設备 雖異

寸角。 神通 龍 隨重 堪 半斤石以五

> HT 抛 馴

謂七能

二、文籍通 。形體端嚴 達內外 强軟自在。 融 洞。 了知。英、不、研「學之」。世俗文筆法門奥義悉辞 即噴 有無 羽敢

超 戎道 練 不一 ·異.楊由。又十盏挑、燈。面度括,二矢,射放。分π中二

脱物

四 時大 滅刀 五 歌舞和 管粒 之一之。燈 松村 微 雅聽莫不 律呂弗、違。 感 淨暗 土噶 天人諸帝 天可

六。 天文宿 元花容 曜 陰陽 人間希有。 通 達。 能1之中。此業改 事也。但依:|件妻女|蒙:|官責: 勝 也

即有

也。身命 其能 雖多略以明之。

龜二年,入唐。至,于天平二年。經十四 親 衞 凡 門督 此等事以為"希有"是以 R 真吉備朝臣弁 相 共語云。其眞吉備 僧 Ī 道 高 荷為 鏡。 野 姬 又與 朝 皇御學 使 年 少買 御近

漢

野

戲

而

位

也 搜

試 分

明。

多

內

陰陽。

叉

能

年。

若改過 天。 然則 是有。 王。海 + 臣勝、主。此之攻占可、畏也。重以、 其占為、兵。為"大臣。為、民。 故以,己未,爲,界。未,得,經,天而行。經,天則晝 皇之不極。謂。之不韙。 國,一旦之恩。為,燕報、讎。張良思,五世之龍 **榮寵類』於伊周。覆載之思。死而不、朽。豈如** 未申。上有。芒角。最 威,秦。若,斯而已。雖,觸,龍鱗。不,敢不,陳。 及、至,今日。鼎食累世。冠蓋相連。思賞超。於呂 聞,極言。臣子之道。 豊若 不安堵。 、案.劉向五 天平 月廿七日。太白晝 一失。頃少人道長。 內主故置 修 五年 加以昊天誥譴。嗟有。丁寧。群 德。 轉過 記 及 -積 論、日。太白少陰弱。不過,專 至十一年。并六 李 可、畏之。穏 為福。 見。 時 TT. 君子道消。 衙。己。 則昊天示。變丁寧。君 在 斯哉。 知而 主强國弱。 心心度 Ħ. 在 不改天 臣家。 星極 去天平十一 1 1 上下道 簡歲。 Ė 主 Fi Œ 開 心心為 此度。 則罰 上下。 午時 、太白 [4] 弱 1 臣聞 乳荆 為 政 以 强 見 征 見 行 年 徑 軻 R

卷

多二

+

廿九日 弘 著 薩 法漸 象,乎。臣愚一矣。讖記曰。胡法滅國亡。 正月廿九日災可、畏。大史所、知。故不,勞陳。二月 未有 藥 侶 傳 有變者。 ·紫祓袈裟。一頃遠。正法。 今, 諸僧尼 言一字不、得 放 制 如此乎。又諸 內律教禁斷 四果聖人。成集一 |拾妻兒|如著 故 亦何如斯。 颓。最可、畏也 僧尼。 不煩 秘 以五行傳、按之。恐有、賊人奪。君位 主者惡之。 华。 少陰在。心上,而 內挾 重。十二年二月。陰獸登、樹。 地震,蕭牆之內,者又詳 著 』增減。然則增者失音。減者迷 叉出家人者雕出國家,如" 』祗糖之心。外曜1 如來三乘 即苦 Œ 。何則 處,告,誓言。從 雖,魏晉末代 五位色。 使耳。而 不過,畜養奴婢牛 結集正教之日 穀 畫見,也。天平 中。未曾 而今僧正 今玄昉 指施之威 君 此 臣 聞流 私 渐染,邪 結 也 。頭將 同 一玄昉。 制 集以 奪。陽 十一 床 十地 大 馬 字 邪 放 時 者佛 史 道。 律 後 年 11: 僧 恒 書 所

心。天 天 之 六佛眼流。淚。 穢 宛 家 酒 人。當、失,於國位。由、斯 值 見。 無 有。又僧正者佛法綱紀。法與廢緣 法 宅。聚積 護持 滅之漸 身 和 E 遇 如。白衣無戒有情。又十地菩薩非。实眼之所。能 人者一切衆生大導師。 屠 頭陀安居種々威儀。而香華飾、 坐禪靜 哉。 教。今見。玄昉欲絕 主 + 肉 非 亦得 地 不護念。除 惡鬼來入 耕 財寶。釀酒屠、宍。作,漫商侶。一 臣愚 彌易。 法 菩薩。獨言 慮處 作 ,名,天子。三十三天主 商 矯下 贱女子。偽 親近惡人。三十三天衆 二矣。金光明 。外道之跡頓起者。一何悲哉。又出 非婚欲 買。 天成棄捨。國 丽 國。 身證 今玄昉畜養 損上 疾疫逼流行。 所 法 故 緣之境。 最 坐禪 綱 堅制 政 勝 秱 - 也 所 道。 如 Ŧ , 煽勒。豈非 途今 此一僧。然此 威 分 經說日。 奴 象入。花 身愛著女色 普 然詐說 儀。以導, 妙。 大臣。 IJ 咸 介。金 聞 同点白 助 生 與作 大 夫汙 山語 法 身 現身 水 僧 舍

緣

起

振

威

四

海 能第

為 心

四

於

们

隆

邊

城 毛

有烽

哉

一,可、不、勉哉 本。臨.長安而 則先叛 火之驚。豊有、忍。 頃者 打 良將。 馴 亦 云 下 之耻。畜,勾踐之怨。祈請群 Ŀ 木 賢 之 共 人 國 - 則 。臣愚三矣。我聖 天 後實。 具 無虚 徃 並明 威武。服 為 乎 者 臣已沒。 零落殆 古 大唐。豈有,東帝西帝 無兩日。地 俗俗 北 歲 E 歲。 災變或 包括 縱分朝堂有, 旰 也 來 狄 已長也。 嗟乎 父祖. 聖 盡 中 蝦夷。 良將 共 子 萬 識 朝之文敎。 视 報 國 百 無二主。無大 邦。 之宿 朝之爲國 3 興廢之機。 當 有 姓 西戎 父敵。 最爾新羅虎 能 今 一。聖則 對"唐王以 死 崇 怨。忘 練習 散。 集俗 百 孫 者 匿 後 食之急。 姓 也 酬 狼 乎 係 五 零 子 派 服 耐 講 落。 唐 光 兵 孫 加 朝 性 狼 涿 爭 此 為 之臣。屢 寶位。 牧馬。 近江 種滅 庭無維 矣。 謀 愛養死士,不、嗇。 介 聞。 不 撫 四 海 冰。 慰 萬民 備 叉僧正 守下道朝臣 並 維 抑止 茁 唐 恃我 兵法 將 之將 九術。 彭 戎 出 城 相 --一酷政 之固。 割 共 陛 玄明 師 射田 有 解 絕。 欣 下 日 訓 叉 Hall 1157 庸 放 著 從

雄。

但唐王

恒

宅

H 時

挾

窥

稽 我 則

H

本。無日

易 禍 爾

圖

野

心

難

國家

者

日

塘

則

坦歲

。尤智表 疲弊於與作。 天下 ·淡許 備而 知,有人智 介天 康哉 當作 然則 員吉 掌中有。通天之理 萬金之資貨。所 修 租 逐 五 が事像 雖 安。 待 之歌 前 徐偃 遠 后宫 備 位上守右 下積。怨於陛 棟梁之家。 天子心。 偃、武藥、備介。 世 油 易 有 逷 忠戰 。認絕 朝野 然則 近 庶 勇 器 、未見 安 傅子 有 義 同一音。 衞 200八 一个左 竊 解 必 R W. 辨 -ili 下。舉動 危 負 却 從 斗筲 共 屏 豐國富。 行 有 督 此言 贵可,便,武 之 学 兵 國家忘 गि 柱 右 蹈楚 兼 權 小 di 族。 絕 1 1 大 指 分 獨 L 戰 朝 窺 亮 E (4) [/L

忌而 瓶 下 乎我國家宗廟社稷。 大求一乎。 超 山 齊其終始。然為 帝上策。 耳。 所謂 視,日月之光,不為明。 涓水不、塞將 明德。臣熟,視二盜,契爲,比目。雖,陛下撫,育之,恩 一盗。省。薄苛政。以扶,傾連。天下幸甚 心哀哉。 。納。臣思忠。 部 水之中。 市之遺風。意慕,趙高之權謀。所謂有 同位。 傅 謝,吳王。楚子故事。戮晁錯而 口 一朱婁高志。 臣愚五矣。臣聞。 上智者居,高堂之上。 覆國之人也。亦作,玄昉 忠臣義士。以,何面目。戴天蹈,地乎。廷 若不,早除。恐貽, 噬臍之憂,也。 而進退 知,天下之寒暑。 成江 所謂 玄昉姦賊吉備凶豎所謀 周旋猶如 河。 負薪之言。 折檻非,罪。漢文聖德 與"日 兩葉弗、去將、用, 斧柯、夫 目聽,雷霆之動,非為, 鴟鴞山鳥猶惜、毀、巢 月 (餓虎) 臣請 一競"其照臨"與"天 知日 **菊莞之事** 左翼。 賜 先知二盗必有 -倘 月之次序。見 幸 賜」七國 方 而蔽 為姦 甚。 劔 幸照,盆 大公曰 变夷 誅 陛 雄 壤 411

也。 降藏 、恐。是舉、世云。僧正被、殺歟。廣繼朝臣已上才人 前。 志。女已不、宜。破,白單衣。染、翰飛、文。 貳在京妻室命婦。欲,通, 氏寺也。于時玄昉。帝王御恩之餘。矯杰自長。於山少寺。和氣于時玄昉。帝王御恩之餘。矯杰自長。於山少 喜之足。即依, 祈念之應。建立神護寺。 今為, 御願喜之足。即依, 祈念之應。建立神護寺。 在,愛宕山。 復。悲哀睡入。覺悟之次。 冥。返。奏不、容之由。今遭 、船浮、海。得、達、字佐宮。俯伏拜表申云。爲、攝 发商客之船遭,於逆風。來、從,管州·密通 神 為,動使。合、奏、字佐大神宮。專不、憚、帝勘。為、攝 件 擇。 如 罰。返奏,不,容受給 却朝 表奏。可、讓,帝位於玄昉」之由。 天下俊者也。 少貳忽以上洛。高聲放、言。城中之人普聞 [麻呂]斯其手足,已配,流隱岐國。替 庭乃 幸 甚 雖 至斷,身命。即天平十二年九月。 四方。為君爲臣。必致。凶計。不一箭射為 知 此旨 由流 洞 花鳥之氣。以 手足還生 上表。時帝 對。唯 姬 大順。攻,彼清麻 願 以和氣清麻 一。神助不、空。 神驗。如故 更 落 風多情 事 居 R 被 曲 宿 初 神 廳 乘

買 隣 呂 鋒。即 兄勅授 卽 也 逆 誰 道 各 軍 徵 萬 召 騎許。 近去 朝向 人御 此 人豈拒非官軍 承之。 發弩别之。 隼 編 Ti. 軍 坐云 / 弁 召 記 坐。答云。 肥 位 馬 位 兵。以 木 在 11 故 常人等所 為船 谷 於 於板 几 不 R 國 賜當 萬七千 紀 海 人。今、候。御在所。 近 為 從 松 朝 東 J. 良 隨則少貳 衞 倉 波 也 哉 illi 臣 色服 人 Ш 門 不敢 河 橋 李 位 郡 人。 聚 飯 卽 勅 督 河 軍 直 上 值 麻 削 于 之側 委,東人等。持 滅 馮 佐 發 海。 進。其 六 大 加 時佐 呂 却到 伯 竌 出 遣。 身 Ŧ 野 浦 少貮 為 Ш [0] 棄 大 人。陳 冬十 朝 時少 罪 親自 伯 陰 乘龍 夫 畢。 副 言 河 右 臣 汐 下 常 將 画。 式 大臣 ill 東 頂 乃 馬 河 使 率 月 妻子 人。安倍 軍。軍 部少輔 陽 駒 被 人 乘 隼 陳云。 西 節討之。又 少寬 叉 后橋宿 以 遙 南 為 IJ 大 到 親 監 浮 欲 - 為 再 族 叫 來 李 勅 安 中 禰 軍 大 再 前 海 直 移 者 使 Z π 曹 將

鏡宮。雷 經 眞吉 其遺 逐吹 暴浪 也。 像 深。 迷 抑 得 法。 所 和 海 神 廟 N 東 郡 涂 被 况 云 于 震非思。 人。洛 鳥來 備 暫止 門也 以 擇造 又祭 我 41 死 著 日 時 風 三箇 朝 Ī 毎 光照耀 亡甚 是大 小 東 往 居。 伦 宿 值 然 祀 下 風 70 座 也 外。誰 H 勤 祈 144 外 嘉 忠 四 所 簡 西 猶 只依 m 懸虛流 奉,宣 枚 社 鎮 謂 1 境 嶋 牃 風 扇 日 伦 E 人奉 宛 河 風 也 李 鳥 朝 船 共 奉 之如、畫。 行 下 次 臨 旨 著 鵲 彌 神 起。 八能尤勝 公卿 見其 祈 還 留 見 訓鎖 以後。 解除之祓。又 局 鳩等 手 冥豊捨 更 永 神 叫 冷 吹還 足 白 如此 鎮落之所。 1/1 冥 松浦 哉。 妖 影。 也 船 者 很 御 介 感 死 Ŀ 本 槐 鳩者八日 不 我設 橘池。 幣 趣 以。真 之間 提縣 修 叉 計 1 林 4 負 也 多 從 雏 云 降 同 ĮĘ. 。彼御忌日。十 是賴 言 今鏡 敛 門學 勑 何 行 伏 是 名。 因 漂 備 卿 们 前 邪 他 恥 五日 朝 名 1,7 朝 7:11 認 舘 西外 包 國 頓 鴻 臣 稱 业 也 处 社 臨 宗 此

卷

第

云。仍以 經以 之事 年 義 忌 朝 北 來 擔 僧 H 人分置 所 4 Hi 秘 IE 件佛 戒者。 厄里 者 廟 以 佛 幅請 等。不 向 七星之法 傳 依 彼十 聲 九 唱 部 記宣。以 年十 木 4 敦 有 叉同 依 11 一个一造和。 即 Li 卽 體。又 其料 驗 三聚淨 致 僧 披 建 名 雜掌 介始脩 於 定置 害。 立 月。 此 存 夫 僧。 华 書 右 神宮 殿 爲 造工工 六 下也。 唱 時 戒 騰 j 近 乃以 寫 登 上 持佛 十 祈 師 勅 同 金泥 法 被 家御 宮 知)。我心平和也云 大和 符 **承維役三十人。** <u>J</u>. 廟 華 終 識 加 中 也。 法 _ 檜 殿 法 為誓 無怨寺 身 行行 華經。 + 所 國 和 木 華經 於 爲 昧 之僧。 N 高 府 口僧 造立 字。 命 斯 如 三云々。 Щ 父。 度逝 御 講 談 勅 奉 此 誦 奉 修 以持 至 部 說 同 使 為 而 存 靈 分 經 安 向 字 于 三具吉 0 身 調 間 牛 以記宣云。 使。 事。 鎮 証置 始 勤 沒 T-復 彼 六 乘 夫 伏 道 置 金 坐 妙 遠 佛 備 奉 修 次 鐳 後 電

定下 耀 廟 + 几 伍 若 督 廟 臣 國 亦 荷 給 終 以 而 之號。 Fir 卽 如 ml + 町 謂 內 任 被 爲 卽 一個骨。陵 於 含弟 回 經 F 懸 施 心 念 任 間 派 下 不幾 其故 Ē 忽 鉱 十町寺家雜役人三十人料也。マ十町分『監御墓守三十人』料。マ十町分『監御墓守三十人』料。マ二十町位寺料。願僧二十日之經二十町位計傳聖井廟御忌日十八。志三左,是也。 又,沛宮征 野 太 奏聞 最 和 念云。 成 死 弓 國 政 也 175 下 國 脖 去。 何者 就 削 吨 製 大臣。 秱 結炼 于 會 定行 清 以 BID 尅念若 以 如此過 鏡 人。 時 下 ,駒 死 寺 111 郡 然 姬 天 靈忿怒之 勒 廟 别 男弘 天 行 也 平 高 會等。 宮寿 世 PER. 相 皇 |未經 勝 叉 H 人云 野 方。 寵 是 寳 餘 其 山 膝 秋 111 爱 尚 六年 元 時 年 十五 好課 13 陵 幾 又 料料 彼 尚 依 可 將 H 之 是 T 程。 御 也。 怨 藤 北 В 等。 也。 者 ==1 奉 間 先 引 在 次 寺 拜 13 料 ·T. 天 1.1 件 定 將 帝 相 所 寄 配 是累莱 叉 大 宏 任 4; 眞 卽 皇 僧 厚 發。 方丈。 流 證 靈罰 置 発 镇 H 消 金 太 松 企 JE 思 鏡 H 侃 俄 鏡 水 H 圖 14: Will st 士: 然 道 也 照 佐 也 Ш 拾 般 朝 被 奉 北 都 旅 鏡 注,加之,耳。 」之。若於。後代宮寺之間。有。妙希有事,者。 吉備朝臣忠言之潭,哉。然則委尋,其與。大略記 見其所治。若於,世間。無,如,斯大亂 不,研事無,其光,雖,能治之人,無,傷,時者。曾不登,大臣位,多是藤廟助成云々。書云。玉雖,有,映。 目。歸朝以降。廣聞,賢名。是依,佛神之有,助也。遂 此朝臣若冠時者。被,擇為,遣唐使。專,日本之面 箇年,之間。建立施藥院。并始,起種々佛事等。凡 寧非斯哉。 備朝臣一被一術鎮給。可謂心為恩使。 也 門之胤, 然則雖,大惡忿怒。依,彼存時之契。終為,眞吉 勤皇忠臣之烈。仍授,尊號,故稱,鏡 爱真吉備朝臣任,太宰都督。旣歷 者。誰 命依義輕 詳緇 尊廟 知

卷第二十五 松浦廟宮先祖次第并本緣起

群 類 從卷第二十六

一殿儀 定 繭 祇 部

差

造

北 畠 准后 親房 卿

大中 垣。珠垣。鳥非幷四至內地 應。早定置天下諸社 官符 小社 别 神 事 祇 官弁 五 大中 一畿七道 町數 小 神 諸 殿。雜含。 國 司 瑞

從三 正一位正三位以上 一位從 四位 以 Ĺ 一為"大 爲中 社。 社。

正五位從五 位以上 為 小社。

大社 四 至限 九 町

三間 徑九寸。千 木四支。 內外鳥居二基。外一 檜皮葺正殿 一字。 三尺。瑞垣一重。方二丈。根數戶一本。在"堅魚木八 一本。高一丈。口徑九寸。一本。高九尺。口徑九寸。 三間

> 槍皮葺物 七尺。五間外舍二字。高八五間廐 一字。三間草葺 字。高八五間板葺直會 一幣殿 一字。 屋二字。在一左右板葺廊 板高 數一 文一尺。在二 殿二字。爲八萱葺 二字。 五間 草葺 板倉 拜 殿

中社 四 至限 八八 副

板 五 板葺幣殿一字。高七尺。三間板葺拜殿 垣 九。是四尺。千木四支。長一瑞垣一 三間檜皮葺正 · 葺直會屋一字。高七 間 外 重。方三丈五尺。 舍二字。五間板葺舞殿1字。高七 殿 字。高一丈一 內外鳥居 二基。高八尺。 一本。在 堅魚 重。方二丈五尺。 以一字。 高七 木六 三間 珠 間

徑長四尺。 基。高六尺。三間草 間 板 木 E 四 殿 支。長八瑞垣 一字。 聋 拜 敷高 戶尺 殿 本。在 重。 宇。高七三 =板 高五尺。鳥居 堅 魚 間 木 板葺 四 九 舞

物 見 者 幷 右 殿 數一个造進。自今以後不一可 四 被 任 應分社 字。高七五日 片官宜 至 左大 H 數 承 臣 所定如件 司修造。無其勤,者。 知 宣 間 依、宣行、之。 偁。 雜 泰勒。 舍 三字。 宜 諸 符到 抑 尺同 違 國 在 失。若 神 科 奉 國 社 大 司 正 ע 祓 有 殿 破 解 Œ 雑 損 却 稅 舍

寶龜二年二月十三日

造 宮 JE 左 制 四位上 度 史 外 行 左大弁兼右 Œ 六 位上阿 兵衛 陪 督藤原朝 志 斐 連東 臣 百川

倭 則 姬 命 世紀 板 則 目 廣 皇 厚 二神詫宣 禮 是皇天 久 其造 一之昌 宮 之制 運 熨 者。 柱

> 洪 伊勢 之 府 嚴 錄 命 致 啓 命 쥞 天 日。 波古。山 一十鈴原! 移旧 ìF, 介移 造 它宮義 宜 少宮 助 派 则 神 己賓基 宮 大 器之大造 天寶基 女 造 大倭 小少勢 而 利奈即 與神 姬 网 派 命 宮馬 飾 承 皇天 於神 皇

內者 麗氣 捨 献 神 授 日 |秘密灑水神|表。沐浴 除 內 磁 恩不 居。 金剛時夏天。 净 也 外鳥 :懺悔 居。 也。 金剛時冬

陽。 下以事 天地之位 不。同 口 長萬物 事 儀。 書 理。此 聖人 內 日。二所太 於前。 宮 其儀 之法。 陰 神。 秋 式也 外宮 神宮。 在前 冬象 陰。 陽 在 左 神 後祭 右 藏 4 東 英 也 14 四 柳 資 是春 後。 殿 治 所 前 夏 象

也 光濟 木片掞者。 + 者 者 大日孁尊照十 八 洲 星頂 群 陰陽之表 坐 生 亭 -光 護 阴 方誓 願 也 表 世 也 堅 也 六 魚 者 木 者 九 者 老 根 星 心 Ti. 则 象 德 大 也 坐 成 [1]] 表 身 11

卷

天。 焉。無形之中能露心矣。實有之所、飯。衆之所 星也。德善元。客惡起也。鞭懸者天神地祇之 人氣昇、天爲、星。善氣則爲,善星。惡氣則爲,客 木者。木者衆星像也。奄,守天下,比,於列星,也 德,豐受太神班號, 御氣都神,也。向, 上天神 開、口。斯受"月天之一水,利,萬品,緣也。任"水 天地之象也。故則日天之智義也。片換者仰以 集 善乍有。風竅。是則虛空之中無。聲而獨能聞知 、風則不、行不、動。故神聖乘。風雲,而往行。冷然 本紀曰。千木者智義也。搏風也。義者仁也。如 九州因、九之故。為、九々八十一數極、也。寶基 位表也。天四德地五行為、九也。九者五方四維 也。一說云。十者十地之位表也。九者 中府五魂齊也。 而向、下地神合、口 至德一大道之竅也。千木片掞者水火之起 。智則靈也。如,神。風者氣也。夫天地之間非 四者四德表 也。是陰陽化德也。堅魚 也。三者天 但極上之 地 人

> 寶舍。雖、異,其名,而其源一也。 寶舍。雖、異,其名,而其源一也。 與然。衆人之壽命。國之權衡。民之譽策者也。 大智 大於窈冥之門,而君臣上下命、道。遙清淨之 出,入於窈冥之門,而君臣上下命、道。遙清淨之 出,入於窈冥之門,而君臣上下命、道。遙清淨之 出,入於窈冥之門,而君臣上下命、道。遙清淨之 以為、卷、。 與之權衡。 民之譽策者也。

右造殿儀式非無疑然傳世久仍站載于此矣

當 前 H Ξ 箇 未 朋 日 出 御 精進。 御。 ン用!!御輿。 御淨衣。被 FF Z 立

直 幸 近習 点馬 場殿 公卿以下着,滑衣 供 奉。

奉 儀。 社 、馬塲 御 禊 御裝束, 殿 西 面 卷

御 座。 行東 · 六位判官 西 共上 供 西 庭當階 高 麗 端 庇 华 間 御簾。 帖 去 $\mathcal{T}_{\mathbf{i}}$ 枚。北面。 階 間 敷 立 為 小 高 莚 御 被 机

立. 基。 朱 途辛櫃 如例。倚 合。納:金銀數 白 妙 御 作。寬元六捧。文應上京 幣。 幣案南立。八 足 异 机。

奉 其 行 神 院養馬 南 御厩舍人引之。

置

軾

枚

爲

陰陽

師

座。

飯殿南

頭

引立

剋 次 灰 F 如 座 石赤

御 位着御門 供 御笏。 引 文色御御 帶袍。 神

次

馬於

御

幣

条

北

如

北面

四 四位院司三人。參進。於公陰陽師着座。 取 自 妙幣

次 供 御 献 物

陪 膳。 四 位位院際 司朝

御 被始 役 送。 間 π 廳 官 司 沃 清

次 御 被了。 Siz 膳 人降 西 階 酒 進 庭 中。取

大

麻

|傅記供

次 之。 撒 御 贖

约

儀如

供

御創陰 制湯 兩 當部 段。 退 出 御令向

北

云殿

。臨御着座

之或猶

可令

本院仰」者。 返賜 御笏。院司持司參筥盖。自川馬塲

三百 四 + 九

卷

外入御。 若可、為,此儀,數。 外入御。 若可、為,此儀,數。 別,出神馬。

次撤,御禊御麻 食養撒,御幣等.

次公卿列立 御 禊 御座 14 階 尋 南 常 腋。東上 御 座 。直 及11此御 儀者 可

北 殿 液。東上 列 立 飯 殿 前 東面。御隨 身 壺褐 胡衣 發垂 。袴 候 西

次出御。於,階一級一着,御御沓。次院司近將參進。給,御劔。降,西階一候,同南腋。

其俗分不、稱"警蹕"。其人可能等。獻、御谷。太人作為等於其人候"御裙"。其人公卿院、獻、御谷。太人作為等於其人候"御裙"。

次御參宮。殿上人御鹽身等前行口候,樓門南壇此間公卿侍臣跪,地。

先是舞殿 加 ·央傍 高高 麗端 師 座。宮寺儲同第二間 犬防,立、案。倚,立 半帖 為和拜 御座。廳儲 白 敷 拟 御 小 幣

着調御拜御坐。

樓門西腋。共人奉。刷。御裙,退。 健門西腋。共人奉。刷。御裙,退。 御劔役人候

大四立完司二人。住又、日少印次供。御筝。殿人傳」之(皇帝の2)若自次供。御筝。殿人傳」之(皇帝の2)若自然の一次代。帝の2)若自然の一次代。

次同院司一人取,金銀御幣,六本。進,立舞殿克次四位院司二人。進取,白妙御幣,立。

御砌

幣立 公卿院 次同 司取"金 銀 御 幣 -ス 御 座 間 進立 北 頭 取 舞 跪進 殿 白 東 妙

御拜了。 御拜 院 間 御座右。" 拔、笏左 南 司 等置 頭。召 段再拜。 役人參進。 御幣退 記 師 御座左,御。 短退。 給 之 賜 御幣。 候 授了 御 座東南 進立 跪拔、笏退入 御座 砌 邊 西

北

第

祝師退去之間。主典代給、祿。於「榊樹」次申,返祝「拍手。尊儀應」之。俗別當須、置。御幣、申。祝。

祝間 且 廻 神 馬

次入一御 西廊 御 所。自...北面.入御·

院 司 賜御 笏

次撤過拜 人 獻御 四省。入御之後。藏人(藤原孝) (2) 之。

公 卿 着 座。 北西面上

引上 市申 ・従ニ南樓階 入 複出 舞殿 西庭。 神 人受

取 北方。 例不、及,,着座。但近 終頭給一樣。巫女三人。各九人

代取之。 御經 供養。

其前 道導 前 奉社 立机備。香花。同 立 師 机 座。東邊敷,紫端疊二 堂莊嚴。 三前。分置 其儀。 御經。為,題名僧座。 西 |邊敷||高麗端疊 舞殿 枚。題名僧為1高麗 4 央間 立 禮 帖綱

> 御 題名 導 師 石僧建久四日。寬元 座 自 京東方

依奉 行 X 八氣色 導師 着。禮盤。 說法了 參上着 歸著本 座

座

導師

賜

布施

聚 被 物 物 重。參議(三條等利)若 重。

題名僧。

曇物各 以上各自:東方:置、之。

次御誦經

導師曾帝登上。改 舞 殿東庭。 傍大防 誦 文。執事別 敷 小 遊。立 文案積 避晚 物

事依。召 間撿按別當着 東原座

啓白

5

給布

施

取立之。五位院

司

で資本

上州次 首為職员此 人。其人 召,弁仰之。弁仰』其人。 參遊儀前。奉,物賞事。進 一公卿 座 如

次 市 禄 領大

次還:御馬場殿。 已上五位判官代取之。

先,是。公卿降, 西方。隨。御步,前行。 南階 御隨身參遊階下, 一列, 階東邊。北上, 侍臣列,同

昇,自"馬場殿西階,御。 釼進,入簾中。 御隨身發,前聲。役人給,御沓。其人候, 御簾,御

平野行幸次第

前 一兩日奏,宣命草,有,召仰等事,造代多在 日例。治安二。

當日例。承保三。 前 承第治四。

治天承三。

宣命趣事。

寬治天永其狀有"相違"承安有"沙汰"被,用"天 永例了。

召仰之後帶。弓箭 先有"御湯殿事 刻限諸卿參着仗座! 次神寶御覽。其儀如

仰,留守人。

上卿承、仰仰,外記。納言參議之間 弁召,其人,仰,之。承保三土記如,此。 當日有,召仰,者。其次仰之 之中。以。下﨟,爲,留守。寬弘元小記云。以,行 。舊例。見

成

公卿列立。

近衞將監昇。出太刀契。

長元左將監不、候。仍右將監許昇之。

上薦次將開,辇戶,安,御劔寄,御輿,菍花。無,鈴奏。

乘御。 無警蹕。

候,劒種。次將取,御草鞋,給,東竪。

執 次將 此 間 柄 取御 公 於 卿 東 階 運 行 下 安、董 一着、靴。乘車時 騎馬。 問戶退下

次大將前行。不知

御路事。
東興出御。

東門 治安二。 出 建 條 西 春 行 陽 明等 自 野 寺 西 門 西 未造 - 着 御 畢。 社 仍 頭 出

> 執 隆寺 久元。 枫 弁 頓 騎馬 近 宮。治承三。 衛陣 經北 承保三。 諸司弁 西堀河,至]周,堀河北。後例皆如此。 供 介避給。 奉腰與後。或乘 野 公卿 社前。諸司不三至。西堀河 北野伏 經 記 常住 承 悉乍,騎馬,渡北 M 安 禮。 不經典西 寺 [ii] 西 大將軍堂等 介避給 北 着 路。今 御 野前 礼 北行 沈 前以 度依 頭。天 門御與 竹 着 你

車駕着『御社頭』。

門扉 画北 高 南 庭 南 魔帖 引遍 鳥 於"大 怕 代。件部 敷 居 枚。南北其上 以南 經網 八幔外 班 間 枚。其上敷。高麗年帖 幔 西邊 八許丈。馬塲以東工。宇 屋五 帖 神祇官 西 一枚。其 |敷。兩 面有。慢門一慢門。 間 東京商 中央問 獻 面 Ŀ 帖 麻 立。輕 一枚。西面。 一枚。南北為邊銷輕的一枚為御拜座。 同 樂奏 帖 证 : 代 合蔀 ifi 立樂。 枚 其北 北谷 1 為 敷 一字。西 们 御 外 明 細

言少座。 所。御 公卿 宋御屛風數帖。其後引。隔軟障。後屋為 行南 。北 間 南邊 記 史座。 座。立 所南 幄 前 一大盤。兼居、饗。 去數 兩 北面。兼居、膳。外記北 敷 m 帖二枚。東西 兩面 丈 立. 帖 間板屋 枚為 其南立,幄為,弁少納 南北東 關 面史南面。座儲,并 一字正如西 白 三方立渡 座。南北 画 · 表。而 女房 南 候 大

先,是。 立 馬 標。

位標。 御所 許 丈 立五 位 包 上標。樂屋其南 八段許 立

供奉上下 各下 馬。 依 次列 立

卿 立 立其北 門立。 列 31. 御所 左右左南。衛 南幔 中坤 門列 角 北東面。上 立 西 幔 左 外。北上。 右 大將

次

行

事弁。

次

舞

人

陪從。

今案神

馬

何。

次神

馬。

次

使內記持! 如

人馬」敷

御與寄,御在 所 西 面 諸御 卿居、地。

稻荷。字 相 収 中 時。 將 教長 Ŧī. 位 史取之。大弁宰相 取 之。 大 夫 師 他 經 參 傅

> 議 夫史取之。但近代多六位史取之云々。 立 史傳之。 如。舊記、者。 納言傳之。參議

殿 上人 取舞人插頭花。

於北 歟。 冠 宰相取之。治承。 中納言可以 頭。先、之中納言取、之。承 -經 本路 幔外,給之。治安 取歟。而天永。大納言 退下。 可被 宰相 小 中將入。西 入, 南幔門, 歟。可,謂, 記云。 安。 大 納 契 上卿 言 弁 門。挿 E 定 時。 頼 卿 動 之 取

上 次返 卿 介給 安。 起 記。先御 座。 御 参.社 頭。慢出 幣。 次神 門西

次 此 撤 間 神 主 上入御。 脫 御

次 事 仰 社 司賞 於上

山城 國獻 的。近代付!御

執柄 仰,職事。今。幸,社頭事。或遺,

社頭事了。上卿歸參奏,御願平安遂之由

寬治。 于御馬間。上卿歸參。 。天永。雅無。上卿參入路經 按記。上卿已下渡御前。撤,御前幔 承安。 上卿歸參立。南幔 [幔西南。大治。 馳 一之後

主上更着一個御裝束。

外,奏,事由。舞人留

"幔外"

此問撤,御所前西幔,敷,公卿 座

馳衛馬 當。御所南一般之。西西。大幔所司幔共撒之。 了。如本立。

云 可 依』 雨儀 南歟云々。 御所北 敷. 公卿座。東上。宗能記

入,夜者。主殿官人立,門。以,藏人頭,召,諸卿。

承安。五位藏人光雅召之。 座後|着」と。

> 柄 候魔

舞人上。御馬。為此馬南行云々。 上卿歸參以前馳,御馬

馳。御馬。入」夜者所々 長人。 公卿給,祿之後馳,御

卿着座以前馳,御

馬。大治。依

降 雨 公

公卿 起座着、靴

次撤 ,公卿座,如,本引,幔

此間 當座上卿奏,見參。

於慢 門外付職 事

次待從 給 Ŀ 卿下外 通。 非侍從一通。 六位一通。 御覽墨。返

賜 公卿禄

治承。 公卿 辨取 關白祿。依 取線 例。大治。宗能公卿祿。 公卿 列立前。東面。北上 不懸 命 禄 人 頭 取 殿上人取之。 執 柄 被。天永。不引

次

左 右大將立。左右

乘御。安 劔 寄]御輿。

大將始稱。警蹕

乘與出海幔門。 大將前一幔門外

車駕還宮。 一仰』御綱。門也。

還和他所 治安記云。前 例 陣 違 、路。依、暗歟。可、立。柱松 - 歟

法勝寺 天永三。自,大内,出御。還,御六條殿。是永保三。 例 也 御塔供養時。 出。御六條殿 還和堀河

答』仰與。有一警蹕。

次鈴奏。 正歷。 亥二點。還御。有,鈴奏名謁警蹕等。

名調 選綱本 殿。

> 前 後 次第事

獻物。 次諸卿 上卿歸參。 卿歸參。 被 ·祿。列立。 次還御 次奏。見參。次給、祿 次公卿着。御前。次給 次山 禄 城

圆

承保。二東。上卿歸參。次奏,見參,次給,祿。次敷 長久。上卿歸參。奏,見參。給、祿。馳,御馬。還 御

公卿座。即着。次馳,御馬。次還御

寬治。 御。 上卿歸參。諸卿着座。馳,

御馬。給、祿。

還

同。雅 立。柱松。次馳。御馬。次給、祿。 天永。中布。上卿歸參。公卿着座。上,御馬。 一葉。上卿歸參。此問數,公卿座,即着。次上, 次還 御 此 間

同。中內地 大治。 奏』見參。次祿。 馬。次馳。 次奏見參。次還御。 中右。馳,御馬。上卿歸愛後。可」馳」馬。次上 次奏,見參,次祿。次還 御馬。 次還 次公卿 御 着 座。 次上卿歸參。

次

中同 中。道 大治 二则。 東。自為命重 行事弁又分。昇入辛櫃 示。不可 行事 置 = 四 1-欲 置 了弁頭 過之。頭弁雅兼追 、然由。循如、本介、置、案。分、撤、辛櫃 神質。 記中 。內 神御裝束二具。各有"錦次細 置 第准,人說,乎 置身。此 重辛櫃身昇並置。案南 神寶之間 事 二合。取 如何。 出 衛士等誤猥入。 5 。違例 案上 運,平文漆 也 神 頭。 而 辛櫃 寶 。或云可 御 如 弁 裝 盖

上。以 御 賴業。 計 內藏 立 四 平 捧。以,赤布,墨倚 文高 寮官人立 机 脚 案 一脚於 中 薦 上。每次 Ŀ 東 第 行南

置"神寶二具於其上。各有。錦盖一流,獨"其上。北机有"四萬上列。置朱漆細櫃五合。有"平然"南二合称。與一腰,四萬上列。置朱漆細櫃五合。有"平然"南机有法躰御裝束。四萬上列。置朱漆細櫃五合。有"平然"南机有法外御裝束。

治承三。同之。

大臣左右大將不參。

寬治 大臣 言。 余奏。宣 雖今 雨大將.例 "!執申。任"近例,當日被,仰"殿日一上卿也。行事上卿。昨日可 一命草。 已刻。 次余仰, 行幸召仰由 師平 行 注 事左業 申 衞 少行,召仰 門督 然 於 弓 山 藤大 以 納

公卿 長 膳 膳 承保二。賀茂。 供 、數少不、置。留守.例。 人元十 藏 御笏 人少將俊忠役送。先以。後忠一合、供御 ·二月。 同 此 平野。 # 日 三日。 右中將仲實。頭中將同 永承六六。 同 大 北 原 野 派野左 北 少將 同 國 御

袴陪

Pi

承 安 年。 三通之內。六位見參不、奏。返賜 稻 荷 祇 園 行 幸 H 左 大 將 Ch 奏 外 記 見

余申言言

此

事

給、子。先是起座了 枚賜之。分插杖。縱以二六位見參返為外記 取披見。次侍從非侍從見叁二通卷。籠點紙 外記見參可、持由。即入,幔門,持參。向,座下, 扳 」可、奏。即尋,是御一門之御作法, 歟。命云。至 記。次撤,御所幔。仍不,歸着給。 不一可、奏。可,懷中一之由。例即。次起座至,南幔門 、奏,上卿,者。知,此秘說,人雖,誰人,可,用,此說 上卿歸參聞。召使追,前聲。召,召使一被仰 條 殿之例。先人不,奏給。 。付」頭中將,奏之。 仍今夜 返給外

神 馬引 付

疋河原毛。 太神宮內外。為者君樣御元服御祈禱。神馬 件。 可』牽進一之由所、被,仰下 也。依執達如

文明五年十二月十九日 伊勢守

石清 水八幡宮寫 石清 太神宮御 ` 師 御 Élli • 同前

疋

賀茂社 • 水八幡宮 疋

松尾社 御師

疋

平野社 御師

疋

稻荷社 御 師

御 師

正。

卷第二十六 神馬引付	一三條京極寺八幡宮	同六年分。	請取有シ之。	幡	以到來之。	同十八日奉,之。調,御送狀,悉以宛所者御	以上自,傅奏廣橋殿,御注文書。	一神祇官	一鎮守八幡宮	一御靈社	一吉田社	一鴨社	一一一个宫社	一北野社	一祇園社	一日吉社	一春日社御太刀。鼎光。
	正。月毛。 一北野宮寺	+	_	疋 。鹿毛。但此		八	一譽田八幡宮	疋。	正。			疋。 一石清水		疋。 一春日	疋。同	正。 一石清水	正 。鹿毛鮫。
三百五十九	14	十一八恒例。	三條京極寺八幡宮	候	` ` ` `	月十五日	、幡宮為,放生會,神馬	、、、、、、御師	五月八日宮崎,奉上調之。	三條京極寺八幡	後五十六	石清水爲 御析	十一日	御太刀持。	十七日		月八日恒例也。
九	一正,河原飞。		一疋。青毛。		御師此一通。八月十一日以二		一疋。鹿玉。			一正。五川分也。		一正。黑		一正。川毛的恒例。		一正。河原毛。	

八八四十二十五十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	八十五幸。則調上之。 學田八幡宮為,放生會,神馬 一疋。栗毛。	京極寺八幡宮御奉加。 一疋。栗毛。 京極寺八幡宮御奉加。 一疋 男毛。	神送狀事奉」調以。横山	京極寺八幡宮 一疋。栗毛。	今宮社 一 正 。黑。
一石清水八幡宮恒朔。 一疋。月毛。	一春日社 御劍持。 一疋。河原毛。正八正八正八正八二十六日。	御禮進上。 一京極寺八幡 正二 上。	一春日社節分。 御劔持。 一疋。黑。山文明八年。傳奏より直九廿四	一石清水八幡宮 一疋。月毛。	一鎮守八幡宮 一疋。馬。

祇園為

御

方御所樣

Ŧi.

六明

H 為 祭禮

新羅社。為御方御所樣御矢開御祝御 疋鴇毛。可』奉進,之由、、、 祈 稿 神

文明八二廿

馬

新羅社御師民部進上也。

今宮社 讃岐殿。細川 神宮內外 同前

一疋。駿河原毛。與衛進上。自山

疋 右馬頭殿。栗毛。細川

石清水

赤黑。

同

先例云々 一**疋**。平毛。 山名殿。 新部歌大

正。黑。 上以奉三

今宮社

御靈社

北

野

疋。河原毛。

譽田 八 八幡宮為,放生會 H 十五 十二 此 通

太神宮 御師

二正。鹿毛。

疋。五

Ł

九月六日貴殿御自筆。

神馬

正。栗毛。

+

石清水

同 H

京 極 诗八 八以上三通以山宮崎、奉」之。

正。五毛。

正月五日

御

震計:公方様御

新御かか

御太刀。然卷。

正。月毛敏。

文明九年。

幡枝 八 幡同 前

正。鹿毛。

同六日

石清水八幡宮為。年始御祈禱

疋。栗毛。

三百六十

五月三日。一京極寺八幡 御願越生日 今宮社 京極 譽田八幡宮為,放生會 京極寺八幡 牽進,之由、 文明十年 八十五 正卅 寺八幡宮 正八恒例。 十一月廿三日 譽田、 五七祭禮。 五八 御師母以北江 二神馬 正月毛。 **疋**。栗毛。御方 正。鹿毛。 一疋。鹿毛。 疋。月毛。 **疋。鵠毛。可** 一个宮社 一今宮社 石清水八幡宮 同前 太神宮神馬一疋。河原毛。甲自 牽進,之由所,被,仰下,也。仍執達如,件。 五月三日。 五月二日。 石清水八幡宮 同日 三月三日 文明十五十七六御所様御かぶれ 正月廿五日年始之儀也。 五月七日祭禮。 正月八日恒例 御師 御師 御方御所樣 一正。栗毛。 **疋**。月毛。 疋。栗毛。同前。 正。河原毛。 可

同前。

同 日

御 師以上三通貴殿

疋。鹿毛。印雀

。鴨社御遷宮,神馬 月十一日遷宮日也。

就

四

日參籠。以,杉江·奉、之。 就。御師刑部大輔師淳千一春日社

御師號前原口。以前杉江海 疋。鹿毛。

就,天下靜謐之儀 鴇毛。印局前。 可。牽進一之由。所被 御祈禱 太神宮 仰 神 下 馬 一也。仍執 二疋。

八十

御師

太

太神宮 即雀目結。 一神馬

儿 朔 以 上二通。次郎四郎に渡」之。

御靈御方御所より

正。河原毛。 E

十廿八

為。石清水八幡宮放生會 二神馬 二正。用毛駮。

十一十四

文明十一 年。

石清水八幡宮

方御所樣 より。

正世 六

京極寺八幡

正八

為二年始卻祈禱

石清水 正廿

年始分也。

以上二通。三月廿二日調之。

正。河原毛。

今宮社

今宮社御方御所樣。 一十三 正御誕生日御前

疋。

長月

御師 疋。

栗毛。

御

御師

正。黑。

正。镇毛。

疋。鹿毛。

卷第二十六 神馬引付

一春日記月十三日	八幡宮年	後九廿三	一个宮後九廿三	御もう~~によりて也。一石清水	一市宮社湾西宮南	正十六 御送狀日付如	一鴨社五七祭禮。
一 疋。河原毛。	一疋。栗毛。		一疋。月毛。	一疋。鹿毛。	一疋。鹿毛。	(1) 御師 (1) のは、 (1) のは	一疋。栗毛糟毛。
一不行力,相言一不行力,相言正十九現都所謝。	一	一賀茂同前。	一稻荷个度御劔出男十二十七	一春日節分。	一祇園 五八 同日調>之。	一三條京極寺八幡 正十六 但六朔調」之。鈴木。	一鴨社
一疋。栗毛。	· E。 · E · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	一疋。佐月。	一疋。栗毛。	一疋。河原毛。	一疋。月毛。	一正。黑。	一疋。黑。年始

卷第二十六 神馬引付	文明十四年。	十一八但正廿六詞、之。	一同	八々但八廿八調」之。	一京極寺八幡	、、、、、、 御師	八十七個為11年始御祈	一石清水八幡宮	五八恒八十被山引進。	一三條京極寺八幡	正八恒例。	一三條京極寺八幡	二五恒例。	一春日社	正十五	一春日年始。	正廿三
			一疋。鹿毛。		一疋。河原毛。			一疋。距雀。		一疋。鹿毛。		一疋。月毛。		一疋。栗毛。		一疋。河原毛。	
11.	五七祭禮。	一个宮社	文明十五三廿	一石清水八幡御所樣。	文明十五年。	十一十二進之。以,藤田十一十二進之。以,藤田	一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	九八被,引和進之。以	一同前	正八 依,為,恒例日付,如,此。	一三條京極寺八幡	五十九	一石清水	正廿六	一同社 年始。	正八	一春日節分。
三百六十五		一疋。粤毛。		一疋。黑。		1小五郎,奉、之。	一正。河原毛。	藤田小五郎,奉之。	一疋。栗毛。	進之。	一疋。粟毛。		一疋。鹿毛駮。		一疋。河原毛。		一疋。栗毛。

文明十六年	十一八月十	一三條京極寺八幡	以上十一疋。	一壬生地藏	一京極寺八幡	一个宫	一多田院	一祇園	一北野	一御靈	一新羅	印制毛。	一八幡	一太神宮	五八年始。	一石清水八幡宮
	八之調進。兵庫殿御送狀也。 一同十六年八月六日。以, 蟾次, 奉		一下。伊達進上御馬也。御		一	一产	一	一	一正	一正	一		二元	一	*	一
		疋。 栗毛。		疋 。 印局。	印月一	印月司	印同。鹿毛糟毛。	印言	印鴇同毛	印度	正。河河原 同原		の現代という。即後目結の一	正。 市 電 目 結。		疋 。黑。 印雀目結。
一三條京極寺八幡	五七祭禮。	一个宮	ニナニ	一春日	正十六	一八幡 年始。	文明十七年.	+ -	一京極寺八幡五月分。	同前。	奉、之調,進之。	一京極寺八幡 年始分。	九十兵庫殿御送狀。	一春日 年始分。	正月朔日分 神五調	一春日社 節分。
一疋。即同前。		一疋。印同前。		一疋。毛同		一疋。鹿毛糟			一疋。黑鮫。	以上兩通。以,,木村六郎,奉、之。		一疋。鹿毛。		一疋。距毛。	廿五調ī進之。 御送狀。文明十五	一疋。蘆毛。

卷第二十六 神馬引付	一三條京極寺八幡宮年始。 一疋。臨毛。 文明十九年。	一石清水八幡宮年始。 一疋。 即後淵田。 一疋。 東華殿御下書。 御使淵田。 一疋。 東毛。 之 明十七年	·明八東	八六、状。御使燭阿彌。 ・ 一下、栗毛。 一東大寺八幡宮 一疋。栗毛。 一疋。栗毛。 一疋。栗毛。	一个宫 一 一 一 正 。 平 元 糟 毛 。	十一十三御使蒲生。 一石清水八幡宮 一石清水八幡宮 一正。黒。 一正。黒。
三百六十七	一廣田社 一廣田社 一廣田社 一度田社 一度田社 一定。如十三備中殿御送狀。 一定。如後目結。	同日送狀。御使木村。四十二四十二	一春 日 計	一太神宮、、、、、御師御使古市彈正。二月十日。	一石清水八幡宮 一正。應毛。 一正。應毛。	一春日社 年始。 一正。镇毛。 一正。镇毛。

一就,愛宕護社神事。	一祇 園社 一祇 園社	一个宮社 一个宮社 一个宮社 一个宮社 一个宮社 一个宮社 一个写社 一个写社 一个写社 一个写社 一个写社	一野宮社 神事	一就、愛宕護社神事。 一同社 四十三 5% 4% 6% 4% 6% 4% 6% 6% 6% 6% 6% 6% 6% 6% 6% 6% 6% 6% 6%	一石清水八幡宮
一疋。黑月毛。	一疋。背毛。 印雀目結。	一 疋 。與毛。即兩輪違。	一疋。庭毛。	一 疋。河原毛。河原毛。	正
一野宮社神馬	一愛宕社神馬長享三年。	一个宮社・・・・、御師	一石清水八幡宮 、、、、、御師		四月廿七日四月廿七日
一疋。左目。	一疋。鹿毛。柳使窪。	一疋。黑。甲雀目結。	一疋。青駮。	一疋。青毛。	一 E 。特 E 。

尉結

新

卷第二十六

神馬引付

三百六十九

使

	一八番 一正の 一正の 一正の 一正の 一正の 一正の 一正の 一正の 一正の 一正の		一春日社御神馬 一疋。廣毛。 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
一春日社 一疋。與毛。 一疋。與毛。 一疋,與毛。	一 吉田 祖 一 疋 明雀 目 結。 一 元 明雀 目 結。 一 元 『青毛。 一 八幡 宮 一 八幡 宮 一 一 疋 『青毛。 一 八幡 宮 一 八幡 宮 一 八幡 宮 一 八幡 宮 一 八幡 宮 一 元 『青七 』 一 疋 『青毛 』 一 疋 『青玉 』 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『 『	H	一春日 一 一 正。

一祇園社	同五日 第二年始	一春日社	同七日 御祭禮に付参。	2	五月十六日 根盖針八十八日	極寺	四月廿八日	一野宮	四月廿八日	一愛宕社	五月四日	一石清水八幡宮	五月四日	一太神宮	二月廿九日年始分。	一三條京極寺八幡
一正。月毛。		一正。留毛。		一正。鴇毛。	;	一疋。栗毛。	木村民部丞。	一正。河原毛。		一正。印雀目結。		一正。河原毛駮。		一正。明雨目結。	木村民部。	一正。鹿毛。
一八幡	一太神宮	延德四年民正月日	にまいる。	一同御神馬	日にまいる。	一三條京極寺八幡宮	まいる。「えまう	二月五日长進分	まいる。	二月五日未進分。	日日	一石清水八幡宮	六月廿四日	目結。電	一太神宮	同七日
一疋、即雀目結。	二疋即衛日結。	महिल्ला हो व		一疋。明雀目結。	- HV EJ0	一正。	p l	一疋即卷日結。	、 、	正	高島毛。	一正。印雀目結。	可以是		二正。遊順、栗	<u> </u>

卷第二十六

神馬引付

三百七十一

野宮社 愛宕護社 同 四月廿八日 日

疋

即雀目結。

疋。河原毛。

疋。霊雀。

今宮社 五月三日

疋。 市雀目結。

疋。黑毛。

難波。

今宮社

疋。河原毛駮。

下御靈社

同日

御靈社

正。同。同

河井。

正。 即雀目結。

正月十六日

正

一月十九日

一正。蘆毛。

三百七十二

疋。栗毛。 即雀目結。

正。 即雀目結。

印鑑目結。	一就,祇園社遷宮之儀,御劔。宗光。	十二月十八日	一石清水 御劔。景光。御神馬	明應元年。	同日	一祇園社	六月二日	一太神宮	三月廿七日	年分にまいるなり。	一新羅祉	五月廿一日	御使より。月澤。	一岩神社	五月廿一日	一三條京極寺八幡宮。
	光。御神馬一疋。		一疋。黑河原毛。		難波。	一疋。青毛。		二正。可能目結。			一正。五毛。			一疋。明雀目結。	御使より	一疋。黑糟毛。
一加茂社	日日	一同節分。	正月十日	一春日社 年始之御祈禱。	五月一日	一三條京極寺	石清水八幡宮御師	正月八日	由。所、被。仰下、候也。仍執達如、件。	一石清水八幡宮御神馬一正。籍毛。印	太神宮御師 月阿爾	正月八日	牽進,之由。所,被,仰下,候也。	一太神宮為。御祈禱、御神馬二。	明應二年。	十二月廿三日
下。 即 前 前		一疋。即同前。		一疋。鹿毛。		一正。雲雀毛。	御使月阿彌。		外件。	王。印 承進 之	御使。		仍執達如,件。	御神馬二。黑毛。印同前。可		

卷第二十六

神馬引付

三百七十三

之由。所,被,仰下,也。仍執達如,件。 非。御具足一兩。腹卷神馬一疋。葉毛。可,送進,一石清水八幡宮爲,御動座之御祈禱。御劔一腰。	二月朔日 二石清水八幡宮 御太刀三振。港灣。 當河原毛。 一石清水八幡宮 御太刀三振。港灣。 墨道。		一愛宕護社 一疋。即卷目結。 一疋。應毛。	一	一鴨社 一疋。蘆毛。 一 一 一 一 一 正 月 十 九 日	十九九
三甲年。日	一愛宕社 一	一石清水	一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	一太神宮 二 二	一 愛宕社 同日	應二年二月廿一日
疋 。 甲雀 日 結。	疋 。雲雀毛。	疋 。鹿毛糟毛。	疋 。黑毛。	一疋。青毛。即井文字。	疋。 即 管 目 結。	正 。黑鮫。

S 第二十六 神馬引付	一御靈社	明應四年邓正月。	、、、、、、、御師	九月廿四日	一石清水八幡宮	各御師。即判形有之。	十二月廿日	一吉田祉	一北野宮寺	一石清水	就。御元服、叁。	三條京極寺八幡宮御師	十二月十七日	一三條京極寺八幡宮	譽田八幡宮御師	八月十三日	一譽田八幡宮
	一疋。栗毛。				一疋。黒毛。			一疋。栗毛。	一正。鴇毛駮。	一疋。鹿毛。		何也。 別·淵田方	當年始にまいる。	一疋。河原毛。			一疋。栗毛糟毛。
三百七十五	一太神宮為。御祈禱,去年祭司	二月四日	一同前	石清水御師	正月十八日	一石清水八幡宮	明應五年正月。	十一月廿七日	一鴨社	十月十六日	一住吉祉	八月十五日	一疋。	一譽田八幡宮爲,放生會。御太刀一腰。持。御神馬	二月七日	一石清水八幡宮	二月廿一日
十五	去年祭司參籠之時。御釼。		一正。镇毛。			一疋。青玉。		芥川筑後。	一疋。河原毛。	柳硬芥川筑後。	一疋。佐日。			一腰。持。御神馬	作欠中	一正。河原毛。	

せいかりーーーン

节里与有

愛宕社 野宮社 愛宕護祉神事。 野宮社神事。 就,北野宮寺造營 下一也。仍執達如一件。 持。御神馬 明應六。 同日 匹 同 四 四月二日 门月廿日 月廿七日 北野宮寺御師 日 太神宮御師 野宮社御師 愛宕社御師 正。 一定の用金目結の一定の用金目結の一定の用金目により承の伊藤藤の御禮之御馬なりの別には、日本のの一定の用金の別のの一定の日本の一定の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の 甲雀目結。 可。牽進,之由。所。仰 一疋。青毛。 一正。栗毛。 正。青毛。 正。黑鹿毛。 太神宮 野宮社 就,北野宮寺末社白 石清水八幡宮 就,愛宕護社御神事,御神馬 老松社 可引進之由。所被仰下也 明應七正 同日 四月廿日 十一月九日 八月廿六日 同 三月六日 北野宮寺御師 日 野宮御師 北野宮寺御師 為御神馬 為,年始,御神馬 就。遷宮 大夫社遷宮一疋。河原毛。 疋。蘆毛。 一疋。栗毛。 疋。月毛。 一疋。河原毛。 一疋。與毛。

閨

十月廿六日

如件。

十市

進上。

伊

石脂 水 八幡 太神 宮御 Ē 御馬 師

疋

印第

作 在 目 結。

太清筒神芸井 神宮 進 御馬 上

疋 即河 鹿笛目 結

愛冒布

岩

山御馬

施進上。

山殿

進上

園社

御

馬

固

進

上

疋。栗毛。

石清水八幡宮 五 年三月 御 神 世 馬 六日 一疋。鴇毛。可, 牵進, 之由

卷第二十六

神馬引分

所 被仰下 天文五年 也 仍 三月 執 作六 達 如 H 件

愛聞 岩 111 石清水 御 馬 亢 幡

之由。

所

御馬

宇佐八幡宮四世上。 御 神 馬

與福寺學侶衆徒知細川殿進上。 御 4

疋。鴇毛。

文字庭笛

太神宮御 牽進,之由所,被,仰下,也。仍執達為,若君樣御祈禱,御太刀一腰。 来文六年三月廿 月廿一日 細川殿 自山殿 祖川 四下,也"仍執達如,件。 印雀目結。一

天文六年三月廿 太神宮御 Bili 日

·被,仰下,也。仍執達

如件。

神馬

疋

正。青毛。

宮御

師

兵庫助

所来田口 四月十一日 正。河原毛 E

正、凯毛。

結

御馬 供月 代。宛所。 正。回

可 牵進 殿進上。 之山 所

伊勢守

三百七十七

感冒土 石品 一岐殿進上 清 永八 八幡宮御 神馬

太神宮御造上。 神院新宮御神馬

字佐八幡宮御門無編毛。印雀目結。武田殿進上。 神馬 朝倉進上。

神宮御神馬

太神宮御神馬

一疋。趙毛。

一疋。鴇毛。

石清水八幡宮御神馬六角殿進上。

一岐殿進上。

加 新宮 御 神馬 御 神馬

社士神 御公院 神馬

正。黑毛。

正。河原毛。

正。黑鴇毛。

疋。 県栗毛。

一疋。鹿毛。

細川殿進上。 明應以上。

正。河原毛。

同學感養鞍體清 御學神古馬 水 神学院生寺 寺 馬=新 岩山 宮御 神 神 馬 馬 一种馬

天文以下。本云。本書親俊御筆之寫 本云。 本書親元御筆之寫

疋。鹿毛。 疋。鴇毛。

正。青毛。 正。鴇毛。 正。河原毛。

印雀目結。 正。與毛。 正。鹿毛糟毛。

加

御

神 馬

「幡宮

神祇部廿七

太神宮參詣記

坂士佛

がたく侍りしかは。 大神宮参詣の がたく侍りしかは。 かにして。ゆきこえて。あらき 浪風の音しのびるかにして。ゆきこの船人の月に漕こゑ。 旅泊 南三日逗留し 侍りぬ。この津は 江めぐり浦は 南三日逗留し 侍りぬ。この津は 江めぐり浦は 南三日逗留し 侍りね。この津は 江めぐり浦は あかにして。ゆきこれで。 故郷にて 聊見侍りし がたく侍りしかは。

安濃津をいでて。あこぎが浦をすぎ行ほどに。よそなる波にぬるく釉哉。なせ寒き儀やのまくら夢さめて

ひだつ おもひをそへ。友なし千鳥の 鳴まよふりけりとおもひしる。水上より時雨くだる。雲をきくては。跡もさだめぬ 身の たぐひはありけりとおもひしる。水上より時雨くだる。雲上川のはやき 浪をしのぎ。小野のふるえ わたともに 見てゆかましかば。しらぬ みちももとともに見てゆかましかば。しらぬ みちもものうから・じとおもひ出て。 松風いとさむき 三歳の濱にも つきぬ。 はるかなる入海に むかひあて。 旅行の人のやすらふにこととへば。とをも道を めぐらじとて。 汐のひるま をまち侍る き道を めぐらじとて。 汐のひるま をまちける

卷第二十七 太神宮參詣記

申すてぬ。 心に うかむことを 口にまかせて

1-西 かは らましもまちかく。 かたぶく日影には。終にゆくべき我身の 寒潮歸去途程近。 渡 たる古集の歌をおもひいでて、 るを見ては。生死のみちは海にもあり 口 無船 想,樹陰。 沙の 又有"松濤驚"客心。 漁村煙暗日沈々。 みちひの ときの

海に汐ひの山は有けりうきしつむこのみを思ふくるしみの

れのにぎはひたるも。近づきみれば人屋 櫛 なむあらを田のなれるはてよとこたふるを りみちあり。をのづからあふ人にとへば。こ やうにあれ はしく 。すくきかるかやの絶まに。か 川 秵 なりしより。國の みなみは あらぬ處 殿 多 はてく。竹のはやし、杜の木が もすぎて行ほどに。世 りは 中みだり ね お ほ もな < 3

うけ給れども。今は通路もみえず。をきか たる霜の下に枯葉のあさぢのわづかに残 こそ思ひ合せ侍しか。これは近き程 名のみ残 木とのみぞ見てすぎなまし。齋宮と れるを人だにもかくとしらせずは。た たふれて 朽のこりたる 柱のみちに よこ おぼえて。草木の高きところべつあり。鳥居 かりなる露の契りを結びし事も侍けると むかしは又 の女郎花 て花やかなる 風情など ありしかども。芳野 てひさしき跡なりしを。近此 聞に。い 慮のうけ のさくら常なき て。齋宮にまいりね。いにしへの築地のあ <u>ا</u> りて。齊宮の御下りにもおよばず。 あだなる 露に しほれ おぼし めさぬ政なり けりとは 神の か は かぜにさそはれ。嵯峨 いがきをこえし n 3 世 の有さまも 再興 しかば。野宮 < あるべし の事 申 かっ シム 野 は 15 は か 3 此 12 神 原 لح え

今はあたらしきゆめなり。夢の心にうつくを 覺ねば。しらずうつくと思ふも夢にてや侍ら めとな かとすさび給ひけるそのよの夢も雲となり か かっ りし名残よとだにもみえず。ねて りにて。い りて づれ まは 9 なし。むかしはふるきゆ 草こそ秋 のはな カコ 0 3 か 、ほよ め め あ

夢もうつくもおなし世中 あもうつくもおなし世中

則外宮山 連歌 ばげにも杉の むらだちおく ふかげなり。これ ことにひとみやこなり。爱を山田の原と申せ て見れば。このもかのもの里道をひらきて。ま 宮川をわたりて。は山しげやま 家行卿。きくをよびて。みやこの の物が げに侍などさそふ人のありしかば。彼宿 也 三寳院と申僧坊にやどうちか たり など、侍りしところに。 の陰にいたり 傳もき 祠 りて か 官長

所 冊尊。日神をうみ月神をうみ給ひて。あま n すなはち 跡 御垂跡は雄畧天皇の御代也。數百歲 記す。抑內宮御鎮座は垂仁天皇の御宇也。 くおぼえ侍りしか するがごとし。此人をみるに。霜の眉雪の鬢。 顔 て答へ侍しかば。年頃の不審は雲復 0 辞 ひなぎたづね侍りしかども。不堪の所へ行ぬ。長官對面して。花のもとの りといへ共。参詣の 次第によりて 先外宮御 きにとて。草案にも及ばず 筆にまか うかぶ。まことに 太神宮の 氣時にあひ。心の水ことばの泉。弁舌むかしを おほし。 1: のことを記す。當宮をば天照豐受 いまを尋ね 申 のべた 月神な 暫 H 申詞の下に。記 る事もなし。神代 本紀をひきみ 6. ば 2 終夜 れに 0 つきて 祠官なりと有 るに。伊 閑談 錄 もとの をひ のむかし 神 18 せて りな 太神 の前後 書 忘 0 5 た かっ ンす 0 n 風に散 外宫 是を 乖跡 ff1 說 ٤ が D \$2 3 12 原 排 1 1

伊弉諾 葺なして。茅茨きらざりける昔をおもひいづ。 殿には檜皮をもふかず。かやの軒ばしどろに 本誓を表す。みづがきには丹朱をものらす。 鳥居は冠 は 1= 母として。 として 月神の號あり。地神五代は 火德をつか あらず。國常立の尊なり。天神七代は水氣を始 外宮の 宮なり さどり 兩宮 人間とはおぼえず。あらぬさかひに生れ れる心あり。古松老槍のとしをへたるかげ 々として 「真實 伊弉冊のみことのうみ給へる月神には A よそ 木 あ 日 神 云 。水火 げ もそらず。正直 ものさびしく。瑞花異草の霜に ほ のならひなり。参宮の 神御名まします。万物 にてましますことは子細なし。但 々。是はよの 給 0 交會の へり。この日 背々 としていとう ことは 常の説なり。 0 りあり。是まこと もの 神 月 は を照し 道すがら更 神 はれな 陰陽 は 一書云。 內外 給 を父 御 b か 3 0 兩

帝と稱し。帝祖をあが り。偏に大内の構のごとし。出家 b 全の思澤は ゆへなり。宮中に 祭禮をこなはる の杉と申靈木のもとまでまうでて宮中へはま これは是國のわづらひ民の費をあは いらず。是又禁裏の禮義なり。神孫をたて、皇 をおもひついけて 宗廟加護 0 めて太神と號す。國 徳光なり。このことは の輩 1 、殿數多 れびる は五百枝 家安 給 á) کم

皇のはしめと思へは千早振 いせこそ神の都成けれ

跡 も。大儀なればとりのべられぬ。扨 5 けるい 千木鰹木の歳霜をへたる。猶一千餘廻 り。九月中に のこすといへども。宮居鳥井の かき の始をたづぬれば。雄畧天皇の御字。天照太 まだ ほどなれば。造營の 廿年の 山口祭あるべしなど 聞えしか 秋に あはず。當國 延引 雲霧に もこ も當宮御 とは 0 静 か の月 謐 12 b 亚 な 3 35. 18

とは 採 申 尊 け と中 9 は 7 天 ئے 照太 ろ 0 神 不 0 審 御 E 孫 天 C 忍 穗 3 足 知 引之。 賜 宗 Ш 廟 耐 H 稷 原能 宮柱 御 加 廣 ます。

皇孫

尊天

見屋根命。

季 當

な

b

田

原

御遷幸

あ

b

。相殿

に三はしらの

神

ŧ

兒

根質

0

ます

10

へに。 太玉

宮 これ

を宗廟

社.

b 0

神 屋 豐明

と號

共

11

戊

午

秋九

月。

從

離

営

Ш

今

0 今 渡 國

世 處

離 木

宮 4 神

也。

夜

々天

人降 緣

足與

- 于行宫, 三

4 7

月 神

ましま 樂を供

す。 ず。

號

名

宿 給

次伊

穂宮に御二宿。次に伊

鈴 御 奉 比

0

戸御

一宿。 國穴 先

次

山邊行宮に

御一

宿

次 勢 ひて

相

沼 雁 波響の

B ~

1

きを

奏聞 L

給

L

程

0

命 命

を 神 沛中

丹

め

神

勢 帝

國 かっ

õ

2

我

國 大

移

n 勅

٤

ひ

L

かっ

ば

詫 30

神

佐

K

命

12 奉

b

し給

ひ たま

て。

天

照豐

受

太

奉

n 國

لح

勅 下向

0

魚井

原 說

1= あ せ

< b

12

て

御遷

をな

ĺ.

b 沼

则 明を伊

丹波

國 幸

與

謝

郡

ひけ

b

大

和

國

字 b カコ 7 L 示し

多宮 給

E

着せ

王

八十

跡延

創

電公長。然者阿禮登母。運云。荷前糸之。長 曾介岐。然者阿禮登母。運云。荷前糸之。長 鳥井瑞籬。佐丹奴羅須。小茨苅葺。宮造。玉鳥井瑞籬。佐丹奴羅須。小茨苅葺。宮居奈禮。日母阿良弖。伊勢國。沼木鄕社。宮居奈禮。 泊潮。 伊麻勢太御 足。戶指勢奴。五百枝杉之。深綠。如、不,葉替。 懸留賴能。廣前爾。降惠農。雨露於。仰而受 聰明人賢久。御坐母。神之誓登。木綿手強。 不異。思之者。八隅知之。吾大王能。御心能。 農。三角柏之。常盤仁。百官之。仕者。天業仁。 贄。忍穗非之。以、水炊。朝旦佐。奉、饗。氏人 絕藻漸須。豐宇賀能賣農。神爲之。大神酒御 良敞豆。子良毛御母良毛。暇波。日々之御膳 **真**尔志峯農。白雲能。 國土能。百姓裳。粲管。作五。穀物。雖,置 朝倉能。大御門之。勅。最恐久。辭定 世 棚引越志。 太家山。 而

右一

首。奉、讃,外宮天照豐太神,歌也。

反緊歌。

女ちからをよばでおきなが子となりぬ。養父 水をあびてあそびけり。一人の老翁これを見 むかし 丹波國ある 川邊に天女八人くだりて。右一首。奉、題、豊宇賀能賣神、歌也。 けり 馬車につみてをくる程に。富貴の家とな とごとくいゆ。これに りてうるに。この酒を一椀を服すれば百病こ が家の まづしきことを あはれみて。酒をつく わが子になり給へとて。更に衣をかへさず。天 いはく。我に子なし。願はこの國にととまり くされたる天女なげきて衣をこふ。 天女これにさはぎて。みなとびさりぬ。衣をか て。數多の天女の中にひとり、衣をとりかくす。 そののち。象天女をいとふ心ありければ。 よりて もろ おきな の寳を -6

天のむら雲の 忍穂井 0 っ と

不熟

b

0

れな

カジ

御 6

この天女は神明御遷座のとき御供申て。丹波 翁にいとはれて 起居のところなし。常に蒼天 徳をうしなひ。下界に むかしを忍びいまをかなしびてよみ給ける。 たりけるところを奈 をあふげども。ともなひしをとめはみえず。な 家路麻余伊豆。 すみ初ていく世になり たむくるも是やかきりの老 り當國へうつり給 神に名残のをしほ井の むかひてその とすれば。 にふせどもあはれむ人まれなり。 振離見者。 けれ .短歌二首 ば。天女是をうら 久郡 行敞不、知聞 天の羽衣に すまむとすれば 心をとひ給 霞多地 云 へり。天女のなきゐ Z 人 水 かた カコ 别 みは ふ程 3 T 0 養育 飛行 7 天 0 Ŀ 0 冥鑒に 天上の水を くださむとて 天原にのぼこの水は むかし 天村雲命 下界の水は 2 神云々。當宮には巫女なし。子良とて幼稚 ひたりしその中の 一神なり。祠官渡會氏照太神あまくだり給ひし時三十二神御供 外宮にとどめをき給ふ。かの水にて神供の 神 とめのいまだ夫婦のわざもしらぬが。御膳 まらず。是第一の奇持なり。天村雲命と中 膳をかしぐに。くめどもつきず。くまねども ればすなはち職 て。牛漢の水をくみて。馬瑙の鉢にい を隔て高 盧 なふる 12 多賀の御前 そ か な む き山にましますは高ノ宮と申す。古 器用にて召つかはるくば U きぬれば。 n れば。二三十までも と申なり。當宮にい を解す。

<

なく

白屋

天原

の國よ

題。忍穂井水

十一二よりさは

る。

H か

2 b

な

6

10 10

0

祖

給

は

大宮の たつみに

御 3

池 は 1-かっ お

のぼ

らん

きな

<

\$2

なく申

のり

神仙 かずは なひ 粒を調て宴飲す。こゑ耳をおどろかし。みちに 花紅葉の 家に三十六の洞空あり。かれは 道士方術を 行 まり 神宮に れて里に歸りて。かくる は騎をつらねて。富貴の躰めをたのしむ。 神仙遊戯をなす化城なり。神かくしの里とて。な舊窟なり。當山に四十八の靈崛あり。これは よのつねならぬ翁の人に行あふ時もあり。漢 直奏せざる神事 諸社にこの例なし。又當宮の みて侍 とおばえて。石面 うしろの て行 仙 b 四十八といへり。唯今まで人のゐ 奏し給といへり。天子の攝政のごとし 客 遊覽の輩つねにみる家には 山 常にきた たづぬれども見えず。疑なくこれ n E と語れば。 希代の 岩幅あり。諸神爰にあつ のあたいかなる處もあり。又 御 ると申つたへたり。岩屋 神に申せば。 翌日 おもしろき 所をこそ に人おほく この御神又太 あらで 日〈 72 3 0

> きくなれたる心にて をなせり。月讀の御名を思へば神代のことも すれば。森のくち葉跡をか ぎ連綿として たえず、月讀の 宮に 尋行て邑屋をうしなふ。かくのごとくのふ て朋友にかたる。武陵一日の道にあ 仙家なり。劉阮が七世の郷には似ず。か くして 庭の冬草塵 まいりて ひおなじ。 りき

幾年に露の玉かきふりぬらん 神代の秋の月よみ

ば。みやこにちかき其名もなつかしく。外宮 すところもあり。旣に 宇治の里に いた 筆のはしにてのべがたし。或は水煙 山田より 内宮へ まいるみ ちすがら いやしき むすびて。しかすむ 人やあるらんと 覺ゆ りはたつみにあたれる處なれば。爰にも庵 るひは雲氣みちをうづみてみねを千嶺 べて 影を重溟に さかさまにせる處 to 山 あ こぞうか E かっ る山 多 よ <

あび

るとこ

ろなきを 身にけが

內清

とい ずし

子。

潮

3 淨

ところ

Is

とらず。幣帛をもさくげ

就中當宮參詣

といへ

り。內外清淨にな

にか

しれり。故にいま神道に

ت 木

0 0)

身

0

有さまを案ずるに。

十悪 拜れ

心

カコ

たそぎもさだか

には

たが

わきまへがたく。

有漏 わ

のさ

נת U 道 か

をの は

カゞ

12 10

n は る

カコ

٤

人煙

陰なり。檜原 いけ入

くれのこぶ

ינל なれて

3

陰

雲に隣てすでに

無何

0)

里にいた

御 上 贞

手

To

御 3

三百八十八

に。二見の浦となづく。皇女この浦より ぼしめさる、海ありて。 二度 御覽 御尋あり。伊勢の海つらに歴覽あき たらずお 神鏡を いたじき奉りて。御鎮座あるべき 所を 是也。天上根本の神鏡は當國へ御遷幸有。皇女 して大和國 月はじめて大和國城上郡珠城宮を出させ給 やいたりけむ。皇女に詫し給て。天皇廿五年三 神詫をうけたまは 也。天照太神下界に 9 に御裳濯河と名づく。この川のほとりに すその御船よりあまりてぬれさせ給た らはし給し御鏡は かねて 御さだめありて きにさだまりけるとき。この 神道山となづく。一の川あり。五十鈴川これ 河をのぼりに渡御ありけるに。 宇陀郡宇陀の神戸にて重て鑄 内裏におはします。内侍 りし。御郵跡 御垂跡 。種々の神質 ある 神鏡を本躰 あるべ べきところを ありしゆへ をくださ 御裳 御船 き時 りし Щ 故 所 کم 節 あ ٤

> せ給 殿には二神まします。手力雄命栲幡千々姫 故にいすべとなづく。當宮を天照太神 哥をつくる。 に。短才のつたなきことをかへりみず。長句の 記録は 命と申せば。神々の御名は昔をのこし。代々の ひしそのな いまに 経ざり かに 五十の けりとおぼえ侍りし程 鈴 あ bo と中。相 U) 鉛 0

裳。也。伊勢云國爾。垂、跡。御世鎮居。皇御神香也。伊勢云國爾。垂、跡。御世鎮居。皇御神香生仁。千歲乎送。百枝松。朶於奈良佐奴。神風

あ まく 2 72 b る n る世 Ŧi. 十鈴の川 は 神 の瑞 やし るら 飾 0

なし。唯一木の櫻を神躰とすとうけたまは な 立 3 ٢ と申は大宮のまぢかき處にましますが 神と申な L んとき濁るべしと神詫あり。されば五月雨 よりな 水 る にもにごることなし。大宮のいぬわ 0 高きところあり。かしこに まします 故 0 Ŧī. かず 音 1= + ·鈴川 b まことに心ばそし。この 22 b て、深 づ 外宮 は。 n 0 大宮 の高 山 神 木の ٤ ٤ 宮 申 こだ 一內宮 風 の宮との あらはさず。櫻の の荒 か 3 祭宮 川は 陰 72 1: は深 は 10 10 滅 御殿 お すこ 荒 蓝 5 あ Ŋ Ū せ < 宮 秘 b B

洲崎・松杉な・どの帝王御即位の儀式 し殿 替あ をよ 長橋 寳をかしこへ 出し奉りて。 御移 廢にもをよびけれと。例のなみだ 松 のぎて。 うけ給 社 ほどなり。五十鈴の川と 御裳濯 なりとなげ 栢のもとに たるところに松 まい のかげを もましまさす。神外 35 のながれをきるあり。緑 ~ るべき月日も過 いれ奉る。これ ば b る。是則 杉などの 眞木の ね。莓ふかき岩 カコ りに き侍りし したしか。 き侍りしに。世上・擾亂ははらふ。天下の兵革は王 計 葉 て。 式 あり。御遷 宮なりといへり。 しむら 0) なり。又流 お 宮 を河原の御移 ぬれば。甍やぶれて雨 くなる宮居にまうづ。 中 は 軒か へは たて ねづ 水 宮の たぶ 底 ŧ 松たれ 祭 72 る 1= רי 0 川 Ch ありてあ もろ きてあ 御 ば 神 らず。 袖 王道 0) 3 12 0 座 かっ F とな 宗廟 み 7 12 りに お Ł < ち カコ 5 あ 0) 3 風 を望ば やぞ づ 楚 12 \$ 7 河 あ 0 < 神 宫 御 ひ 3 荒 微 W 殷

火は水をえて 內 あ < T 同じ。 あ É るによりて は 2 さずといる事なし。問云。内宮は だくあ 机 こす。故畑はふさがりて見えず。水氣 有によりて ば 事天 神 女 T め は しま 男躰な 感をうごかし。ものごとに 5 7 神 然 へ。南 は 身 男 も陰陽を具足して。 紅葉 なり。水はすき融て明なり。火徳 すべ 0 は 滋をあらはし。 火をもて 护 理 5 なり。水火和合して其徳をあ ימ 冠 をか ば陰におなじくし給ふ。本有 のこりて遊客の心をそむ。所 きに。 也。 多 ざる。是則 日 ゆひ。 是に 神 女躰 りみ なら より かっ 心得 水は火を得て 礼 ば陽 陽 H ば 男きたれば は お T がたし。答 神 高巖 D 水 U 日神女躰。外 也。 る姿也。 興をもよ 0 をもて 2 一。男躰に なみ あ か づ 内に カコ 陽 身 5 氣 3 多

住

の神

陰

もなく陽もなし。

衆生

隨

は我 の心 般若の経 とる。 横竪の板あり。 父母として。 神は 緩に二千餘年なり。 權 神躰とならへり。 ふかし。造宮の爲躰。深義繁多なり。棟梁 b くみ給へり。是一 B 水火をいだすがごとし。玉には水火なけれ 0 出 垂 日にむかひて火をとり。月に對して 一跡には 世して濟度利生し給ふに 神 は 陽 これすなは 算西天に出て一 中に 9 0) 四 のこ 一切 てとり 方 陰をふくみ。月 くろ 0) 萬物 男に現じ 飛 人 かの板に種々の秘密あり。 奉る 生に をは 一陰也一 0 ち因縁 又心の御柱とて。山口祭と申 を出生し 神 利益とをからず 御柱 道 神 女に 代教を説給 とな 12 な 陽な 所生の水火也。 なり。是又深 歸する心 給 現す。 神 B くし給 5 V は S 種々 ることは 陰中に陽 た 兩 秘 ひしこと 宮 3 由來 15 密 の方便 は **b** あ 故 天 は ば あ 是を b F 地 をふ 水 王 大 尤 0 H 2

神

0

德

カコ

5

る時に。

歳う H 多 74 百 を

+

0

瓆

そさ 力杵 h

かっ

給

b

13

か

神

。此冥塵は我らがをろ (時雨で。夕な なをなるときは による きゆ もひ きにつけて こと安し。 こと を 執 己心を琢きて佛性 0 理 のほとけ 侍 お は 我 くする 生 神 な 靈地 もの t れども。 b 0) をば 書 5. び出 機 誠 御 12 0) なり。 この己心を釋 to 10 te 3 1= 柱 度 は一心 かっ をくときは le V B て。 なる心 一六句 常に É 2 13 惜 すること 0 同じ 諸宗の かっ 同 12 斗 5 to 3 空浪 參宮 0) C 0 ^ 禁 0) なれ < 給 きな 商合 1= 0) は C 3 ね 冥慮 4 する 3 致 カラ 0 かい 数 よ 心 E ども。 12 12 法 विष् 柳 12 南 カン 14 を 0) 胀 と稲 は 10 身 4 0 あ 和印 6 8 0) 4 0) 118 外 ili 3 5 1 质 10 か <

ながれ つゐに 伊勢の毎こなげれてる。は高低のかげをわかつことなし。御裳 朝 水 流 してはづかし きよ をむすぶば をくだるほどに。 づけて。なくし たもとのにほ けしきもな 水は 熊巡 をも めきてにぎやかに。民庶のかきほつぐきの 明の願海に ٤ 巨 海隔 は め n 禮 あびず。好みて濁惡の泥にしづみ。心は b 善惡の塵をえらぶことなく。利物の のとも 智 もな ればとよろこぶ色あり。花やかなる こくろざし お かりなり。かやうのことを思ひつ もいらず。かりに清潔のながれ <。 ひ深き人も。はだへをあらはに めたるかほばせも見えず。和光 B 伊勢の海にながれ入ぬれば。 がらこりをかきて。さむげな 麻 境内をいで侍り ひしりなが 祠官 一味平等の法水となる。この 0 衣 のいやしき賤女も。身を の軒をならべたる住居。 ありて。 ら。身 河つらの ń は 彌陀 濯川 の心 み 細 淵 0) る

毒 則本來清 みる。色像 かくる。心は明鏡のごとし。もろく~の色像 この處には 倭姫皇女 家居のよのつねのひなには似ず。香爐 あり。水のぼりのぼらざれども。波浪みな梢 くだりくだらざれども。樹木ことんくく底 みがきなせり。 石をしめて。夜月とこしなへに宮の も。朝日さらに百錬のかげをかくさず。岸下恠 かや。仍鏡宮と申なり。山中に寳殿をつくれ かくる寺々を一見して。朝熊 弘正寺淨場。茶竈煙かすかなり 菩提山の禪 のあかをもとがざれば。 つらせ給て。是より 内宮へうつらせ 給 を送らせ給ひけるとき。神鏡あまた の雲をもぬけざれば。胸月つるに 淨 不生なれば。九界佛界の の鏡なり。 をよそこのところをみ 御 心鏡なが か とじまりあ れども の宮に くくもり。 b 隔 りて。 まい B ひ あらは 鑄 るに。 3 なし。是 ゕ it 12 風薫す 年月 b 五. b ると てま 坊 بخ D 欲 18 Ill r

綠應因 覺真如 哥をつくりて。内外の一理の益をほめたてま おもふ一乗圓融の 初のくげむ はひを たれ りなる影像 好む。 の都 0 かい を出 にしづむ。これに ふ大權方便の利益なりと。 となりて。常沒流轉 この心 て。末世愚鈍 に執着して。 妙理なりと。仍長短二首の はたして の生をすく よりて 色に 六道とな の塵にまじ ふけ 神 われ 明は りて b あ は 随 本 は 5

之。積留山農。高 T 磐振。 農。水農心毛。伊知早久。宮井平出而。有 阿利曾之上乎。 神 世不、替。 朝熊之。阿波丹建留 月母勝而。隱奈貴。鏡宮 耀須。光麻志和流。塵土 瑞

短歌

者。

多補

妬句阿利計

也 日 影

世之。 利鷄

卷第二十七

太神宮參詣記

れ給 なは 朝熊 72 み らしのさは 宮御垂跡 はこくをば立石と申なり。 この浦 嶋 あらず。遠浦眇 に。みやこにてったへ ろざす浦にいたりぬ。この てたづねゆく程 へ侍りしか 手向 り。い あ 峨 ほどに。 n にて。 ふらむと。神虚もありがたく K b かっ 0 のみまさるところなれ ٤ かなる 以前の神也と申つたへたり。室 佐美 0 して み をち ば。このことば ちは ili がしき 國となりしより。おきつ 見 明神 結緣 なりと かっ 百尺のい 々とし 0 に。めにか うづもれて まこ たに 浦は とて あ みゆ て万株 あや いづ りてかい きくしはことのかず はほ 古き神まします。 けし里を過 L 大淀の浦 浦のけしきを ば る里を過て行ば。 くぞとたづ の松煙 月に げ かっ ば。 りを なる人の る浦 おほゆ とに 2 松 に和 ž ばだ に跡 0 しる 丽巾 ね お あ T をし 俗 太 見 侍 5 0 ~ b ば M 13 な あ 加 3 す b

佛前 絕 霜鐘うごかず。徒に 樵路の斧の音の かぜに 3 拂てふるき跡をたづね。青竹に携て はるかな 橋 ٤ ぐふひょきを b 3 とをく たどよひて。 りて。清きなぎさの名をあらはし。青き浪風に 3 のすみ 近く。 みね n D け は磐折にて溪の灣をとかすかなり。黄葉を 申 ると 觀 のさびしく れば。千手 カコ よ 音 めぐれ 步をすくむればしろき砂雪をあざけ 伊勢嶋 いた りて カコ 0 の靈地にまいりぬ。苔ふみ や申侍れども。今世中の 四 あらきはまべのきくを驚す。 のみきく。 る。ちか頃までは僧坊なども 五字あるばかり也。 る入海のかたをたづねて。江寺 千眼の 篝火の波をやく影をのみ見る。 禪 のかたもは なることも。 徒の 止住 ちか 一花一香のつとめ ひもなきがごとし すべき便もなし。蜑 るかにながめやら 人間のをとろふ 寒燈 しづか のぼる石 かし Щ げ な 12 あ

> 案 るゆへなりと。世の哀にうちそへて旅の泪も 御裳濯河のながれのすゑにてこそ侍れ り。若やとたつね侍りしほどに。この入江 とへどもこたへず。船さしのぼるますらお しきりにこぼる。かの寺より麓の浦 おぼえ侍りし程に。後見の一笑をわすれて 僻 ふるをきくて。いといところがらおもしろ きるとやらむ中らん。それはしらず。この しともおばえず。酸ものとる き繪の松なるらむと思へども。た にかけるが ごとし。これなりこの て眺望するに。曲渚浪をへだて、所 の四韻をつくる。 あまのをとめ れに 音 々の に聞 にくだり とこた ક 松繪 凑 をま ふつ は あ

水 浦 松似造 雲起 細流 餘年漂泊處 通海 山 夕陽裏。 高下。 波橫 汇湖 老眼 去 万頃 風景不、如、今。 潮 摩挲費, 苦 來 列 月 淺深。 天

所も 國の 雲の 居る ひす の帆 老のる身はたのみがたくて 特なり。命あらばまたもとこそ思ひ侍れども。 不蓝高嶺は はこの 前の景あり。はるかに東をのぞめば。海門行舟 たは B 鴈金 لح かげ 2 な 3 j なだの名にながれておなじ浪路なり。 か か 2 かっ 12 は ひ 煙 5 0 3. בת 浪まをつたふよそほひ海邊の ね in をな のなみしばらく ろの 万里のなみにとをざかり。 おほくの山をみこして。雲かあら こにやと思ひやり。 一浦 3 ば から をとは。 ð B 0) め の致景となす。このたがふ心もなし。千 ふせこなどの P る 千尋のきしに近 に。伊 は 32 良虞 あまの 7 やう 海 千里 嶋 のさ

が

à

1

風

浦

0) 0 T

名 奇

0 なみ立か 見の浦 0) 名を る き身 も頼 12 ば

比興の

な

12

ども。

感をうごか

す

心

やみ

カジ

老

72

侍

ば。 濱

兎毫をそめて鳥跡

をのこす。

かっ <

12

たつ

荻

0

風に

そよめくをと。沙

ł

與眼

嶋

づ

72

づく。

か

礒山か 世にといまりて。 10 の霞にうつし。淺香山の月の 眼 するもし 0 の秋の水にうかべら。 けるにや。難波津の 一字 を西刹 のすみ侍ける ごき古寺 とをこそ となりしかども。 T 1= 而 官 あ Ó 3 げの 8 0 にかけし 詞 へぎり。名を南浮にといむる今 は草。かきをくすさびば したった め あ ٢ 0 り。安養山と中所 花 道をつたひ行程に。 0 け 舊跡とかやぞうけたまはる ひ侍 風 をこくろに るとぞうけ給 むか をまな 浪間にひろひ 神明崇敬の りしに。 い 梅 しは。四 のにほひを 宮川の歌合 び。 贬 す。 る。 、まは かげを 也。是は 寺 十八願の L 佛 L 0) E かりは。 僧 神道 ろざ し 道 か B 0) 修行 侶 \$2 御裳 西行 此 は。三十 迎 ば ٤ ili によ 0) 彼 福 9 网 0 あ ing

72

き川

な

る

2 D

13 第 二十 t 太神宮參詣記

詠じけるむかしの夢のことばおもひ出し、れたる 浦かぜふき わたりて。なにはの春かと なには江にあらぬ汀の言のはも づ n ~ き道に もあらず。 あ L のは の冬が

ぐ。ふりぬる庭の籬はかくれる蔦にのこり。あ はあやうし。 げにさだめなき 世のならひ かな れ行軒の瓦はかたぶく松におちなむとす。あ く。溪聲昔のごとくにして。雨草庵の中にそく 山色秋をのこして。風錦帳の もこくろの底に近し とびさる こゑをきけば。黄鶴樓の 古きためし へにうかび。あしべのたづのいづくともなく かくれ。鸚鵡洲のあとなき。いにしへも目 をみわたせば。河 やうきはなかく~ひさしくて。人しかるべき あは かれぬれは夢かとそ思ふ れにて。山もととをき湊江の のうき洲はみちくる しほに もとに すさまじ このま か

れども 諸社参籠の 懐帋は常に見きたれ 宮にあり。歌の根本あに我神にあらずや。し ひ立て侍りしに。人々いはく。本朝を大和の國 所 むと申侍りし程に。面目を うしなふ藝を 忘 えたり。一夜の會をのべて累日の席をひら か。今すでに参籠のつゐであり。數寄たより 宮法樂の連歌はいまだ聞 といひ。哥道をやまと詞といへり。國の開闢。當 おりふしなり。宿願の純熟するゆへか し程に。當所の好士あまた て。心肝をついやす席につらなる。着座十餘 あひまし L 笠着群集せり。その中に 垂髪あひまじは げにすくめ侍りしかば。手向 々巡禮の後。山田の三寳院に かへりて 侍り 此 綠蘿菴 地空除山 まさぬか。人のことは 舊絕,蹤跡。 版寞。 昔人 只有。松風 をよばず。神の終 尋きて一折あらま・ 去後 b 0) 智 敲。寺門 心ざし 幾朝昏 ٤ 6. りて. ざる あ 3 兩

といふ句の侍りしに。

人のなみたをおもひいてけり。 人のなみたをおもひいてけり。 は 正 心がけたる身は。明暮きへとり わざのふるきことをのみ つらねて。むねの うちよりい さる まことは更に なきものを。この垂髪のよいる やさしき ことの葉の 聞え侍る ありがたいる やさしき ことの葉の 聞え侍る ありがたいる やさしき ことの葉の 聞え侍る ありがたいる やさしき てんの変の 聞え侍る ありがたいる やさしき てんの変の 聞え侍る ありがたいる やさしき てんの変の 聞え侍る ありがたいる やさしき てんの変の 聞え侍る ありがたいる やさしき てんの変の 聞えける しら おばえしかども。こくろざしを つげ やりねべき 花鳥の つかひもなし でといふ文 やりねべき 花鳥の つかひもなし でといふ文 やりねべき 花鳥の つかひもなし でといる と

の木かげにすみながら。名を和哥のうらの入そぶ道々もおぼえければ。身は山田の原の杉 ずなりぬ。をよそ 此處は天の うきはしをふみ みちは繁昌しけりとおもふに、都のことも忘 大和言葉のひろまりける人のよの跡をもてあ そめ給ひし神代のふみを學ぶ家々絶ずして。 (な) 南宮をあがむべき記錄のたつとき事をしらし すみをつけて。袖の内の質となしぬ。一隅を守 おもむく日。故郷人の家づとにと。 りはつべき身にしもあらねば。歸路のみちに るく程のなごりなりしかども。かくてといま めむがためなり。 る筆作のつたなき事をはぢざるにはあらず。 江の浪に かけくる、徐薫後生に及びて。敷奇の 紙 のうへに

右太神宮參詣記以扶桑拾葉集本換了

社

照院准后義政

平寄戶,乘與蘇西寶子。座定經,程程有季卿乘、與之起、座出。 之由上華 所釋 門廊 被用 H 八 H 正二 晚始神 沙 幡宮。初度儀。任。正長二年八月十七日 11 克 例 市也 汰 之由。 兼日仰 中山大 永和元年三月廿 座。右中將教國朝臣、先聖護院准后 年三月廿七 云 40 與左方 自然相可永和 事。吉田 今度日 持。次土御 座 指 削 直 前 日 次。 座出。當問。 奉 丙 預 出祓。予以"左 色文藤桐 勘解 門三位 七 社 兼 申 之後。兼名卿 九聖護院准后 練傳中山大廳丸浮織物指貫上話也。出桐丸崩黃祀。文松立涌薄出 百 佳 身 天晴。 并 由 固 卿 例 有季 納 小路二 至德 者乎。 經中 言 今 退 親 日 卿淨衣。入一中 二神事 通 位 間 參詣 出 一年八 廊 在 取 內 後 例 # 貞 月 彼 石 出 可 聊 可大 今 四 卿 -11-度

> 授,布 寄見前立輿。出 如排 衣 懸息 於。東上 於。東上 於。東上 返 四 授 校。先是 足 之。 門。致 兼名退入之後。 公卿 國朝 殿上 臣降。庭上。以 一人等 力者 列品 等 劒 進

路 頭 行 列

中

門

南

服

次 番 先 馬。同體 如

人。二覆一重行也被 舍虎 人皮 三切

一人着。 垂豹 皮泥

次 布 伊 伊 伊 海 勢 勢 老名 衣 侍 次 平 三左衞 郎 兵庫 郎 六 左 左 助 衞 衞 薦。以上左 門尉 門 門 季 尉 尉 盛 貞 貞 為上 枚。持、劔歩! 憲 城 藁科 左 近 將 左 監 小亮貞相。 政

次) 東。 左卷 笠持。白張。 雨 皮持。退和 者 左前 三手。十八人也。 **熊**方

藏 左 右 兵 中 夫 左 衞 將 13 同 權 穀 辨 佐 酦 益 朝 永 光 繼 朝 臣 侍 右 從 中 長 將 左 公 清 中 躬 重以 將 紅上 雅 朝 打淨 康 臣 衣衣 朝 臣

重各前 表涉 卿 人。 方一 與列 四

京

大

夫

相

豐

朝

臣。

修

理

大

夫

賴

弘

朝

臣

答 H 中 領 野 條 Ш 右 大 1/3 大 京 納 納 納 大 言 言 夫 資 親 公 勝 綱 綱 通 諸淨衣淨夫淨 兀 朝 大衣諸衣一衣 人騎

次 次 次 侍 小 所 侍 佐 所 佐 細 木 河 民 大 膳 部 ル 夫 輔 六人。 + 具馬 直 垂

東 高 倉 洞 院 南 南 行 行 七 條 條 東 行 西 行 萬 里 宫 小 南 路 行 南 行 九 條 條 西 行 西 行

來

贖

坳

跪

大

納

座

下。大

収

2

押

給 大 方型 車 殿 立 牛 御 餇 + 車 於 所 條 東 召 洞 進 院 11 14 姐 分 見 物

本一履着座式人。淺向圓 次 立 土 水 殿 等 臣 太單 乘 衣 刀物帶 侍 步 御 南 下 馬 次 此 儀 座也。原 本也。 門 行 馬 前 所 條 走 着 IHI 間 特 行 大 如 持 神 入 取 怕 與前。華常時走衆 位 納 前 之剱 馬 爽 Ė 此 而今度 此幣正具 衣 門 劒 有 言 次 文絹 入 巴 此 東 授真 中 公 經 疋 季 桐蘇 尅 所 旅 猶 卵。着:後 躬 店芳 引 度 怕 仰 下着善法 暫 草和。 畠 興 中 致命 進 朝 質 • 扣 立 社家 Ш 帝之處。稱, 出 臣 工幣案南方。廣南本城家,今,用:意之,照表司調:進之。是守山 子 右 爽。 座庭 永 式。 於 八 持 衞 跪 足 総 東 次 之。 八幡 致 門佐 诗。印透 也 殿 下 朝 屏 1,大念之山 國 差 ilii m 間 111 自 1 3 饌 朝 常 取 护 義 入行 簣 111 III 也法 幣。上 此 向衣墨 盤 就 雅 子 乾佳 着 **兼階** 所 1 寄 大 沿流 正成 展 [印] ļķ, 路 益 本首 朝 龍山 浦 25 423 此 MI 也引 作 乾 511 双 光 -11-足 後 於 水 hi 力 持 人 Ai 次 行 彩 朝 腐各土已

筋替持,之。 行。 上,着 出 納 來 面 於疊端。 上人等返a 予 手,取下 之後 長 麻 "藁沓。右 前 神 先 當 自 退 前 參 前。役 櫃 取 進 間 條 百言役〉之。降 问 一高 之 安 經經 各 方。起 行列如 大 申 居 殺國 座 に昇油 置幣 (納言 廻退. 讀子 如拂 社 取 良 砌 本 亩 下大 方 社。立。座 所 那 朝臣 授 取,之持來。予以,右 拍手 納 幷 初 坐 次參石 退 段 懸 益 中 言 之。子 持一奶 地 中 入。 門 納 再 光 息 入,宿院鳥居。於, 子 退。 ·門廊 !"神馬 言降、階 退入 拜 削 可 於門下歌輿。幣 打置 次下家司 盛 清 同 以 J. 跪 脫 相 內 拍手。不冷语 從。經極樂 水 水。乍、着。藁沓 取之。以"上方"為上方。 ※幣授 同 。藁沓,着 柳筥 乍跪 次 出事寄戶 作立 於土 引出 有 中 ŀ 季 俗 返遣 一器。居 1.向、南。 手 取 之。 原 卿 座 別當。俗 取 寺 盛富 秵 北 上幣於大 次予 神 畢 東南 折 詞 門外 歸 Ш 懸 器 畢 敷 以 起 等 别 沓 起 昇 持 座。 幣 出 納 下 持 腰 納 登 前 脫 座

衣侍引,之。一 門 座 神 良高 持 參 坊 九 於 即 **)與。歸」善法** 着,舞殿 左 叉 聊 出樓 岩 門 條 樂座。巫 條大納言 廻 會 勸 申 不 頂 來 東行。 東行。 盃 西 之子 戴 F 所 祝 宮社。自 甞 行參武 座。奉幣。三本其儀 酌 門 與。當役人人 大宮 三獻 女以 予暫着,東廓 降。石階。經 取 . 藁沓 居. 疊端 寺。 三胤。 進寄取 返授 拍 一座後 洞 之起。 北行。 於渡 、公卿 下着之。神樂始之後。吹引出笛 內社。奉 手。 院 此 北 大 着 畢 少之持 兩 中 後 殿 殿 納 起 雅尾纤宿 座 平幣之儀 段 門 於 南 座 條東行。 Ŀ 言 座 參 再 中 人等 。神人等撤 同)前。 |來前。子甞、之如、前 面 寺 之 降 寢殿 拜。 山 左 庭 僧 後 下興 拜 大納言 女牛 同 以。香 T 油 中 起 育 院 殿前 此 巡 座。於三座後 返幣安 座 I 入內。 間 召出 内。於本 若 子座 水預 乘 次參 方。着 叁 引 取 北 輿歸京。 社。於 之。次 幣二 廻 護 坐 透 二藁沓 資 出 所 敷 柿 國 清 起 前 本 馬 次 1

宮 御 衞 府 耐 侍 參。 德 年三月廿八日

伊 長 齊 松 本 伊 勢 次郎 庄 勢 膝 H 七 4 次 + 左 郎 內 郎 郎 郎 左 衞 左 左 左 左 門尉賴 衞 衞 衞 衞 衞 門尉 門尉 14 py 門 尉 尉 尉 連 滿 氏 滿 貞 貞 清

方 御 所 樣。 八幡 宮御 應水十 祉 年三 经 始

綱。同

右

衙門

尉貞熙等勤之。此後

供奉輩

於

所

_對 七

面 郎

各

太刀

如,例。 次於,女中,改, 直垂,

有

御

五獻。今日

天

膳

益光。不改也经经伊勢肥前守盛豐。

儀。先

御

前 歸

物。六本。次贄殿膳。精進也。

預調司進之。

同左京亮

貞

始之後。 神主參

起 神

前

中、祝畢。

返祝拍手予同

拍手

神

座着、沓退出。於、本所、乘

爽。町

北 北

行 行

予跪

取

起。兩段再拜

。畢返之。大納言授

神

納

自一西

方

進

出

取神

主

所,持之幣

-持

來

條東

洞

院

北行。三條東行。萬里

小

路

條

西行

亭。

,于時酉

一初尅

也。

於寢殿

面

記

衞 府 侍

市 伊 曾 勢 我 四 郎 七 平 左 郎 次 貞 衞 右 門 和 衞 尉 門 T 尉 明 滿

#

九日戊戌。今日族門時日

為人々

來 賀

昨

H

社

也 氣 式 會

兼

日示

護持僧

|冷脈

念

畢

快時。

事之

遠亂。神威之至歟。 **伇送同,前。又有**

北所,自

獻

草調司進之。

參無爲之由。各對面。

太刀

如例

禁裏仙

洞

被下二御剱。白。畏申

畢

伊 齊 勢彌 孫 右 九 衞 郎 HE 盛 尉 綱 滿 時

月廿八日

松 熊 田 次郎 三郎 左 左 衞 衞 門 門 尉 尉 滿 直 朝 將

次 郎

伊勢平三。

下 勘解 由左 衞 門 尉 滿 廣

八 幡 宫 為上 帶 刀 侍 卿 御 參向。 應永十九年八月十五日

赤 松 出 羽 守 則 友

赤 赤 松宮 松 左 內 馬 少 助 義 輔 滿 雅

赤 松 松右 左 京亮 M 助 滿 则

赤 勢守貞經 松近 江 守 滿 永

伊 老名 勢七郎 太 郎 左衙門尉 左 衞 門尉

> 伊 伊 伊 勢與 勢 勢 兵 七 庫 郎 左 左 助 衞 貞 衞 門尉 門尉 貞 家 安

伊 伊 勢 勢 平 九 郎 左 右 衞 衞 門尉 門 尉 盛 盛

長佐 富 曾 樫 我 兵部 渡 平 三郎宗 次 持 大 輔 康 滿 信 成

朝 日 因 幡 守 滿 時

佐 佐 佐 佐 N N N R 木 木 木 木 岩 鞍 黑 黑 智 Ш \mathbf{H} 田 美濃守 四 九 備 前守 郎 郎 左 右 秀定。 衙門尉 衞 高 門尉 高 高 清

佐 A N 木 木 加 治 越 賀守高教 部 中 少 79 輔 郎 滿 右 衙門 秀 尉

木

近

II

守

滿

信

高

衞 府 侍

遠松佐 N 和 木 1 郎 隨 郎 右 冶 右 衞 德 Fi 門 郎 門 尉 右 尉 信 衞 持 門 鄉 行 尉 滿

通

勝 Ш 太 郎 左 衛門尉 定長

山

右

馬

助景澄

127

次

郎

左

衞

門

尉

滿

信。

東 郎 左 衞 PH 尉 益 之

安 宮 東 定 部 次 郞 永 滿 盛 氏 廣

小 早 川 四 郎 次 郎 持 平

石 清 水 八 幡 宮 放 生 會 御 叁 问 永享十年八月十五

帶 刀

赤 松 伊 豫守 義 雅

赤 赤 松 松 播磨 左 馬 守滿 助 則 繁

> 赤 宮 干 赤 赤 经 秋 松 松 松 河 R 參 兵 守 部 701 野 部 盛 小 守 13 輔 廣 持 持 輔 忠 献 丽 直 康

宫 宮 Fi. 次 郎 郎 左 左 衞 衞 門 119 尉 尉 盛 致 捷 信

曾

平

次

た

衞

尉

田 我

左

門 14

尉

信 致

朝 康

本 田 松 鄉 村 六郎 美 刑 作 部 大 郎 輔 衞 拤 直

士: 大 土 長 岐 岐 九 和 今峯 郎 肥 左 郎 田 伊 衞 右 郎 門 衞 豆 賴 台 尉 14 持 信 尉 通 持 重 康 清

日

佐 R 木 木 大 大 原 原 近 備 II H 守 守 信 持 盛 綱

四百三

衞府侍。

朝日孫左衞門尉持長。長非太郎左衞門尉元久。

長三郎左衞門尉家連。松田次郎左衞門尉持鄉。

八幡御參詣。 永享十二年十一月十五日

長井太郎左衞門尉元久。

宮五郎左衞門尉盛長。毛利修理亮與元。

本鄉美作六郎。長孫三郎信富。

元通注進

春日社參記

ゆか 難波 との 跡をつぎて。敷嶋の歌撰奉るべきよしのみこ 申あ の侍るは。唯他生の宿縁にこそと。しらぬ して今た れ侍るは たちなれ侍れはにや。此たびか ることわざには。をのづから きしまの 柿 本の陰をしめ。 大將などのはるかなる跡として。 り侍りしにつきて。和哥所の 江の ひ侍 しきのみにぞ侍るや。小一條左舞 かしもしらねど。めに 3 みちにひとり歩むとかや。今の世に へたる 道にしも あ 身にとりて重代 あたりにむ しよしをも 山邊の住家に跡をつぎて。 權中 b つぶるよすがありて。 ·納言基綱 の名に さい あらねに。 かず。淺香山 和哥 ぎり の家に代 も侍らず。ま 寄人に なさ 卵姉小路 0) 大臣 うら 耳 か 1 0 世の る仰 なり なみ Į2 Z あ る 3

となみ侍りしに。勝智院殿と申せし 汰にをよぶ 月 學ぶべきに こそ侍らめ。偖も寛正四の年のずとかやの ふるき詞に 心をいさめて。つと に。とりわ きたてらるくなれば。たづきなき身には此 うぞくありさま。なべてのきらをつくし。みが しもよほされ侍りしに。馬鞍よりはじめて。さ し侍て。お ほく侍れば。せざるなりあたはざるには たつの りとして侍れば。をろかなる身をはちて。 に。されど此道は となみ いよも しくつたなき 名をぞ なげき 思ふ 給へらるく に左大臣殿この社にまうで給ふべきあらま 叶ひ侍る まじき よしいなび のうくし侍らむは。住よし玉つしまふ き仰 なじく ことありしかば。とか ん神の 見そなはすらむも 恐れ 0) むね 御供につかう まつるべきよ 執心をこそ ひとかたのた などこまや くお か は将軍家 な 申侍 もひ 3 御 りし あら いよ い 九 4 沙

め

お

よ

せ給ひ n もひの外なる事 きを。人しくしる所。ふる河野べの過にし年 ば。此たびかならず御ともにつかうまつる まり をかれて。ことし 中ゆすりみちて。新院の に聞へしにこそは。又御位のづりなどとて。 ろ人の の御母うへにておはしまし、が。月頃 とて此たびの めしには へてさまたぐる ゑびすもなくて侍 思ひいとなみ侍りし。すぎし 時よりの 仰な ^ くやみにしを。御ぶくはてば。かならずのやう いたはり給ひて。八月はじめの八日に b ありしかば。さやうの 0) いつくし 日と定められて。又有しやうに ぬれば。 なべ 袖の上にのみしほれは あれば。其よしを み深 おなじき六の年長 ての秋 3 まねかれねるに。か 动 おほ 御幸いしく宝 ほ の露 む心 むいい てつく。その もしぐれも。 歎 そぎに りした。 て。さら 111 月 ع ぞ 11-お L 日 う MJ もく あ 12

卷第二十七 春日社參記

四百五

は後記 その の薬 み奉るこくろに。よし田の ぞおぼえ侍る。 なむひたすら身のいそぎになして。御供にぞ ょ ならず 歌によりて をはこびて。つた おもはずなる人のさ ぞくなどの のほどにて てより ならず つかうまつり b 神 72 御あはれびにもやと まい ほ のなって るまじけれ いざなひ 5 きらくしき。まねびたてんも言 めし め。 有 72 る なくおぼえ侍りしに。宗匠は る 侍 たてられ みか ~ L ~ カコ やら カコ な りし。道すがら もろ人のさう お È なき身の ばもらしつ。かく此た b ほせられしを。此たびの さ山 かりしを。雅康 は お は しかば。か む。 L 神 13 りに 1= 陰 慮もいか 也 その 御社 高 おぼしき しるしど 行末をうれ は は よりて < 5 カコ か は に月毎に あふぎ か のいとなみを 3 いと。 次の中将 B ひに 御 b 1: 0 供 へ申に。 か 宗匠 に侍 いとま もやと 歩び しこ は か C カコ る B 家 か 撰 ね 72

くば る事 多く御覽有けり。此實藏には けれ。是にて東大寺の 人々花をおりて など有て。すぐに公惠僧正の も巡禮し給ひて。戒壇院にては 廿四日は大佛を初てこなたかなたの靈場 り人々おほくまいり集りて。誠に 數を盡してすべ どはこくかしこの かせ給て。その 侍るにや。廿一 をばひらき侍りし。廿五日。猿樂とて。朝よりま い のつぎの B く侍れ れば又延年有。 にて。頭左中弁のぶたね。束帶にてぞ勅 かりなることともは。筆にも ば 日やがて御社参あり。廿三日書の うき今な 日酉 夜風流 めづら き曲 こよひは 僧坊にいらせ 給ひて。夜 の刻 印侍 寳職のふ から の延年とかや侍りね。 かな ば B りしに。 此惣寺より か る物 12 坊にいらせ 給 勅封を りに 0 御受戒の作 るき B 見にこそ侍 蕊 暮 め しがた 寶物 D つけら 8 乘 3 ほ 風 か 院 š ľ. 流 法 b 4 0 t

大明

侍りし。こよひ又延年有べきにて侍りしに。時 たくしのみてぐらなどさくげて。宮めぐりし 草のまくらならねど。此あたりのならひにて。 まし侍りしに。妻とふ くいてつかうまつる程に。とく社参し侍らむ いとめづらかなるたび寐なり。更行まへにい えて。暮行秋の名殘をおしみがほなり。野原の と。心にかけておもふ給へながら。 いりて。暮てぞ宿に歸り侍りし。かやうに隙な みに置て。十三首の法樂をなんよみ侍りの で静まりて。心しづかに侍れば。府 になりぬ。たましていとまあ ふり出て。御庭の舞臺も濡て侍れば。あすの なし。やうしくけさぞ心しづかに参りて。 はしきに。けふまでに ともしびの許にむ とい ふことを。 庭の聲いとちかくきこ 成ね 一文字づつ 五文字の かひて。こくろをす るも れば。とりしつ 神慮 とかくまぎ 無 かすが おば b 0 忘れ侍りぬ。いは らねど。心ざしの もあらず。唯あめ

夜 丽

め

つい

ימ

B,

ど。猶たしかなるうれへのほどをも。神には 侍れば。哥のすがたにめで給ふべき ふしも侍 ばしきをも。共にいひ あらはせる ば **外しくとおもひ。又は** 出すふしをば。かたのやうに書つけ侍りぬ。こ られて。身のむかし身の行する。おもひと思ひ あるべき事なれど。とか へて。行すゑを神にまかせて。うきをもよろこ る。此心ざしひとへに題の心をおもひて。 との葉にいだし侍らずとも らねば。こくろのうち れさらに人に見せてあざけらるべき事 をかざり こくろを たくみて 思 のまくにいひ出しぬるにも侍らず。又ことば のした静に。君 D 深き色にことば 心のうち におもひめぐらして。こ 数ならぬ くすます心にすく をも おなじことな うき身をうれ が代をな ひしづめ 0 2 花な 3 かりにて にも侍 照覽 3 あ きを < 5

られ奉らむとぞ思ひたまふるなり。

天象

秋天泉 なかめつく更れはいとくすみ増る こくろや月の光なるらむ

秋 地儀 むら雲の往來をはやみしくれきて 野分になりぬ秋の暮かた

かきりなくあふく心の色とみよ

種地 儀 三笠の山の秋のちしほを

すきかてに詠てけりな春 お とろの露のあきのさかりを 日の

物

風すさふ草木はあれと荻は そよや秋そと聞つてそなき かり

秋

植

物

のこしをかむ秋の形見か 枝に一むらうすき色かな から錦

秋動物

たちまよふ霧のまきれにくる雁や はなれぬつらも絶まみゆらん

秋動物

いとくしくをしかの聲の哀さも ことしの秋の旅ねにそしる

秋雜物

身のよるへ神はしらせよさほ河の 霧の朝げにまよふ捨升

秋雜物

山のはの月を東にいそけとや この大寺の入あひのかね

秋人事

うきことを何 とはれぬ秋の夕ぐれの空 そといはくこた

長き思ひを神にまかすとしるやいかに寐てもさめてもあきのよの

代々にまちみる秋の手向は むすひをきし契りや深き神と君 秋人事

御 ŧ 葉などえ n 0 流 なきに。けふは若宮の祭禮なるべし。ことに風 廿七日。そらこくろよく晴て。宵の雨 でいたく心けさうして。思ひく~に出たつさ かた 一小直衣に。朽葉のきぬかさねて。香の御さし か きなどきはことなる御さまは。筆にも書の きなどきて。日の のさうぞく なりとて ひしめけば。をりあ b b 衣 ねとは。 やが 1-もいはず こきまぜたる 唐をり物の 馬鞍よりは ž N かさねて。むくらんじのさし て御出なり。御装束は菊 はじめ じめて。わたくしさまま ば か りに 一條院 の名残 紅 1: 多 B

は。こと更に式月にとげらるく事も。庭 れなるとかや。されどか くは霜月にのみをこなはれ いとめづらかなる事どもなり。此祭禮は。ち たるさまべつのわたり物どもおほくみゆる。 わたるに。又ことやうなるあやしきすがたし 大衆見などけさかづきてむれたちたる。 ふきわたしたる。まづめといまる心地するに。 を松杉などのみどりふかき葉にて青やかに はせぬる。たくみどものしわざ見所あり。軒ば まくなるまろ木どもにて。その處 てこくろもをよばずつくりたてぬ るさま。げにもちごのやぶさめ をよばずひろき所にところせげに おひいでたる。なをきをも ぞいらせ まいと興あり。かくて 黑木の御所とかやい 給ひぬる。み山木 く御 まが のをの て式月なる事 まい 12 随兵などとて 5 なに をし るをも がさま る御棧敷に 0 作 72 飐 あ 8) りあ その 院 C もま 0 8 12

引か は 廿八日。後宴 事 け 0) 2 T 5 かっ きま 綠 のさまは かっ の御事 H 四座とかや。 がける所にて。廿五 のは 遊びさまべつの はてく。夜に入ば又御宿坊にて延年有。風流 しこ 3 なひぬ 樂など有て。 へて。うつくしき 3 b から 3 U 1= h おほきおとじの 72 所に 廿三日の夜に事盡ぬるこくちし侍 B b 奉 めとな 今宵 つどひ なりねる んかし。 3 一とて 事 も又御供 は。な さまべ、の興を盡して。はてに はてくぞをのく もまたさまべつの む申侍れ 子 て。 。けふは又きのふ 物見など。名残 0 さて酉 讨 ほ にや。誠に 刻 日 0 杣 神 Z 御まい 人 のやうに。やまと猿 ばか 木どもにて 0) 0) なも。 ば。 のなからばか お たうとさをあ りに かく高きいやし 13 りなどより代 け む 和光同塵 ある心にや。 ぞ還御 まかでぬる。 3 0 事ども多く 御棧敷 白 迄 1 てく作 ろ では結 なり りに お 12 元 樂 1= 3 h B A

將宗 是より 御舟 弁 三條宰和中將 せらる。一艘には公卿殿上人の 殿。なか 6. み。たれもく一催されつく 九 がはしくて。御かへりは に乗もいとお いふ所まで りぬ。いつしか め いと名残 て。わたくしざままで。醉のこくちなどみだ さかづきの ひさ 日。かは ていさみ けふより又故郷となりぬべき 綱 光 前 機朝臣。御飯な其外は武家 言國 おほかり。 左衞門佐經熙。為廣 たれ時よりした」め めさる 幾めぐり ともなく にた あへるさまもい もしろし。御船 ます光 。山科少將。右兵衛佐兼顯。俊量、緣小 と 花の都にかへるべき家 T べきにて。 まつりて。 宇治 頭 左 にて すいろに 1/1 心のい と興 には 朝臣 弁 をの しばし御休 ふし る。廣 0 數 7 。冷泉少將。右 Š の衆 一位 おほ ならの都 みの そが おほ 御坊にま 馬などは 3 橋 かっ ね 少々 大納 舟 1 < 指 3 b_o 納 ども 有 頭 月 とに 8 T E 1 ٤ b b

よほしなれと。 はるくこそ。例

をこ

ましきや。御舟の前にて

の門弟

0)

かたはしなる心

0)

to

むもろこしの遠きためしもおもひ出られて。 せぬる。かの孟津とかやにて。白魚の船に入け おさまれる代のめでたき事 網引などして。おほきなる 鯉をとりて まい のみぞよろこば

ど。かの兵部卿宮のこの

川にて 舟樂などし給

る。雲井に

T 道

そがれ

1

ひし告がたりぞこくろにうかびぬ

ると漕うかべぬるさま。紅葉にてはかざらね いろ~の装束共にて。乗たる舟どもはるば

もとつな。そうじて六七艘侍りしやらむ。

見ゆる

とよめる朝日

山をはじめて。まきの

ぎだになくて。心殊におもふことなき。此たび しき。かくて伏見より又御輿に きくぬる事をいさくかかきつけて。人には見 らねど。かつやりすつべきほんごのはしに。み せることなく。夏の鹿の れど。是も書ついくるつゐでに。秋 此外くはしき事共はべちにしるしを 人はやがて 御はかしまいらせて 各まかでね。 の事ども。めでたさいふばかりなし。御供 る。はるべくの日數をへたるほど。雨風 やみれるになむ。 すべき 物なられば。我こくろといひ あはせて ねれば。

室町殿へは

中の終にぞっ 聲にたつべきことな カコ せ給 10 き信 L のさは の人 0) h 0

ら。い

山の梢ども。くもりなき夕日に染られて。おほ

こくうすく色づきわたりたる。をちこちの野 まさまで一の名所ども。さらでだに有べきに。

かたの秋の哀も身にしむいろをそへぬる折か

とじこくろなき我みをぞ耻ぬる。か

旅の御心の うちも。道すが

數をへたる

はれも。折にふ

12

ことにつけたる おほ

む遊び らの く日

あ

にも。あはれ宗匠のまいらば。仰られかはす一

ふしどもく おほかりねべき ものをと。先おも

類從卷第二十八

H 東家秘傳 北島准后親 房卿

然無,秋毫異。凡厥陰陽之理。造化之端。自,始至 釋典。遠决。支那之書史,耳。予人覽, 我國之舊史。 故欲,明,用心之道,識,理世之術,者。逈訪,印度之 無。窮者。盖此道也。是以粗據,神書之明文。敢聊 因起。其理玄妙。其詔明白。撿,此於異域之道。果 粗了』此道之所在。天地造化之根元。神皇授受之 古來讀此紀一者。或秘而絕」其傳。或暗而失,其致 下終。 人皇四十一代高天原廣野姬天 皇之御字。 品親王奉、詔所、制作,也。上始, 混沌未分之昔。 本書紀者。藤原朝廷天津足根大父天皇御宇 ,五運。五運消息終而又始。當,與,天壤

勒,愚管之所,見。文不,筆削。立、心爲、致。都十箇

天地未,割名,渾沌,條。命曰,東家秘傳, 源海,也

渾沌 此珠天然トシテ含"水火, 池位ニ五大ヲ具定。萬徳同備セリ。一顆ノ無[∞]離ラ名字未√立時ヲ渾沌云ベシ。然モ此 云。猶,浮膏,而漂蕩トモ云。猶,海上浮雪無,所 解日。一物未生ノ前ナレバ。可、字之處ニモ 氣トモ大極太一トモ 云へり。此元氣ハ如.露 光ニ遇ト ヲ見ニ。都ラ一物ヲ蓄ルトハ不」見。若日月 ノ中。水火ノニ徳ヲ具スルガ如シ。 ۲ 根係一云。且取、喻雖、論、之。實二八有,形體一口 ズ。可、象ノ形モ無。如、雞子、溟涬而含、牙ト 渾沌者。天地未、割之理。一物未、生之前 モ不,可,言,之。有,對無名。無,對有,稱也。 Æ 又如、此也。又物未、生ノ時。儒典ニハ キハ。必火ヲ生 トラ ジ水ヲ生ズ。然バ乃 I 此珠ノ體 得可知 也 有 间

德 陰陽 又圓 ス、其 云 萬 放方與云。 ヲ 自陰陽ノ二德隨憂恚心トナル。是故 F アリ。然パ乃男女ハ 成ス。此ヲ天ノ形 ŀ 物 ア 成 B 元來□體上變相也。 = y ニハ非ズ。 ノ所依トス ス ノ氣 ハ ŀ 中 無錯。三角ト見ル 陰陽 未分 つ。方ハ 兩 ノ三 間 箇 徃 圓盖云。 ハ團虚空 ト云ハ水火 ノ理 フ半月 德 來 地 アリ。依 シテ アア軍 彼二ノ 三角ョ合テ ノニ法 形 下云 渾沌 地 也 水ヲ生ズ。 ノ相ト 也 沌 方 一心ノ所變ニシテ 以之水 ノ處ニ 华 三ヲ圓 Æ 也。故 ョ以 卜云。 ヘリ。又三角 天 不、差。彼圓 月 シ ス。故知 テ ٧٠ テ 火二用 圓 性 린 風 トシ。 天 E 物 此 A. = É 地 7 宷 時 = 1 ヌ。空 然川 戴德 7 ノ初 往 = 圓 約 寐 ラ ŀ 施 來 坳 火 ヲ三 illi 7 -形 何 方形 ŀ 本 男 ス 性 = 陰 7 也 談 188 水 ŀ 陽 女 相 F h

リ升

IV

ハ火ノ性也。下リ降

ルハ水ノ性也。

沌

未分

處

八立心者

大ナル象也。

荷モ

其

ッ

バ・天 y

ニ先テ造化

主主

タリ 外ノ

一一神代 アラ得 渾

3 V

此

遣 地

炳焉

タリ。全ク内

典 我

運

所

具ノ

水火ノ二徳。委クスレバ

1

轉

轉

ノ二ノ用アルベシ。

下

轉

ス Ŧi.

v

=

關 沌

カラズ。知與。不知、言與、不言

ナリ。

抑

為

抽

F

・モ云

ヘリ。清陽ナ

ルハ乃火ノ氣也

ベシ。其清

陽

ノ氣

ハ薄靡爲天。重ク

/ 濁氣

淹 ナ 是身

元

ノ濕 ハ心也

生 =

ハ水

也。

水ノ

テ

。六合ニ

充

塞

IV 露

> 此 中

> 水火

ノ

德

7 體

y.

圓

11

ノ中

= 也。

含靈

火

ノ體

三角

沌之形譬如,雞子,也

空 空 也 此 籍 國 道 此

ŀ

生起

ス。無端如

相攝

IV v

7

ŀ

如珠。

更ニ

問

~

シ云々。

風

火

水 下

地

F

次第

シ。上轉

ス

地水

火

風

子者純 圓 ニシテ無、端。譬含、牙者云

八、天然

百十

陀羅 Ħ y ナ ŀ 道 = 各天眞 加ヲ建立 斷 IV 云 無始無終 十二六 撑 ۴ Æ 3/ ~ ス。其義全同。方形 テ天ヲ ノ理ヲ通ジ。 先 + 1 後 心ヲ = = ャ 圓 田 深 表 一、天地 ト云也。 秘云 。圓相一物未生 セ ツ。神道 已分 40 密敦 ルハ萬物 ノ後 ノ玄妙 = 天 = 造 モ。地 ノ前 化 地 曼

陰陽初判 地。 成 及" 其清陽者 精妙之合搏易 地後定。然後神聖生。其中一焉 物 生中也 薄靡 而爲天。 而重濁之凝揭難。故天先 重濁 者 淹滯

而

爲

號國 叉曰。 常立品 天地之中生,一 物。狀如。葦牙。便化為 神

天 ~" 理情識所、不測 ト云。至高 シ。若漢土 天 地 八地 ノ名言 ノ徳。紫の又地上地 シテ無上ノ義也。 文字ニ約シテ義 也 ハ 緣底 一萬物 起 ノ名言 ルヤ。 土也 ヲ立パ。 中 モ又 是ハ ナリ。萬物 ヲ 如此 自 地 然

之形 氣下降 是陰 是名言 書不,明,之。我國在,人民,以來。天ヲ阿麼云。 地相分根元數ヲ以可、知也。混沌 化 Ы 從來ハ不」可,得而 火 美以」之可」知若 ズ 上 ヲ毘尼云。又ハ都知云。便是自然 V = ル義漢朝 バニハ隨テ自在之。其ニトハ。方即地二知。 相應 一ト知。是一氣初テ生ル也。是陽 也 ス 故其清陽氣 ル元 十六 。當體 ノ道也。偶ノ數二相應ス。陽、重重 也 テ下 也。諸音四十七 ス。奇い牛其性ハ ŀ 也。有情非情皆此德 ~ ノ説ニ勝 ナル。然而釋典旨符 ッ。天 ニ在。若方 火 方取,北方 ハ上リ升 知 ر ر ハ非 皆此聲 レ 他 理也。故從、此已往ヲバ タリ・更問 年 ズ。火上升ル聲アリ ノニ取べ 水也。當體 也 切 ラ上ニ ョリ轉生シ。万 地 已= 南方也。其性 [w] ョリ現成。 合 在 徒 シテ ノ道也。 ノ水ニ 初分テ ノ理 泉アルニ。即 ニブ 最初 **卜云理** 甚深 濁 3 反。 卽 此 IJ 物 ルノ 杏 開 如 地

所

ŀ

可

也 何 ノ

也 卽 在 今

故

ヲ =

是風

ナ 知

ッ。

~

已 風

兀 ۶٠

~ 样之。如 函三云ツ 元二也。 ノ徳ア m 來 Ξ 方 地 水 天 此 ŀ 皆 ۲ カ シテ此 用 ヲ ŀ 道中 四 1 1 風 假內 是道 成。 云 y 如 横 理 生 位 7 主 成 水 1 ر ر 中等有 ナ 7 位 是 ヲ 施 タ 此 地 中 非 ジ 水 火 ۲ 理 義二 テ 中 成 IV ナ = = F °生 , 從 又可、知、之。 一者是生 位 定。 = ~ 昧 居 反 動 凡 IV タ 風 中 外 テ 也 一、字 依 丰 ~ テ 萬 ハ 地 明 已二 來。 テ 水 ノ道 物 ナ 此 然 DY 也。 也。 假 造 jν 其 方 元 共 Ŀ 陰 2 ١, 分 極 來 此 意 轉 故 陽 故 ハ 中 是 __ 下 不 火 位 故 字 又 風 天 離 ハ シ パ 3 = 셲 横 天 道 7 此 相 大 ラ 大 IJ 相 ヲ 天帝ト智 叉 狹 神 盛衍 地 計 Ŧi. Ŧī. 奪 元 丰 1 F w 物。狀 也。盈也 ハ大也 氣 也 也 位 タ ス 7 此 ト智ノ義 天禪 最 理 成 F 國 此 中 御 ŋ 後 ヲ 可 立 狹 天 體 若 市申 央 = 萠 水 號 數 日 = 負 也 知 證 ヲ 至 1 7 也 上云。 牙 火 坐 數 也 出 地 1 是 パ 如 國 $\pm i$ 牙 留 3/ ノ密五經 生 = 此 Æ 位 便 = 此 ラ 福 w 五 1 風 非 盈 ス 神 月 周 天 =

極 二ヲ

之

٧٠

生。二ョ

IJ

ナ

立

テー

=

異

物

中 也

= 萬 セ ヲ

物 理 ۲ IV

成

y,

元

造

元

二也

故

字

ヲ

造

IV

分 互

ŀ

1 シ

ı‡î テ

有

道 ナ 升

出 ラ 降

生

ス。

=

法水

耳 造り

具

ズ也。

前上

化。天然

通 德 化 次 星ヲ五天ノニ 地 ズ タル義 Ti 易家 大 常 五 ٦ 第 H 相 為 計 1 ノ ۴ 肵 ヲ 立 神。 大 Æ 應 $\overline{\mathcal{H}}_{i}$ 1 生 ス 化 毛 位 ヲ 申 ۲ 1 = 大 居 3/ V 以 ン位ニ習いない 成 號 也 根 云 ۲ ス。 テ ١٠ ۶۲ 化 約 四 ٢ 不 シ給 身備 云 國 地 陰陽 元 天 小 化 1 可。名之故 稱 御 上云 地 衍 + 常 也。天 1: 初 叉 此 1 Jr. シ Ti. 1 1 此 你 3/ テ 統 ッ。 給 本 主 绅 rþ 數 是 加 領 1 3 ヲ ~ IV r ٢ 1 = 往 此 7 央 F 灾北 ス 也 生 Z 云 K 天 地 IV --島極

地、側生神トモ申ス也。五行成數各著"其德,

邊算。又 矣。奉國 相 久大富道。大富邊。 次一久大戶摩彦。大戶摩修。大戶摩修。大戶摩姬。次一身。沙土根。 参而化"所以 乾 狭义 立。 道 猫 次 成 此 停拿 男女。 成"此純男"次遲滿 面足尊。 次 大月 國之皇 广之道 惶 根 尊。 神 大笘 乾 塗鹽 坤 也反

此 思 代 次第 ヘツ。 7 ハ純男。次三代ハ陰陽形已ニ 日。常説ニ 大 行 數。四一 成 衎 7 秘說 九地 也 ノ數 出 生 五世。再 生 非 ヹ 是五 ハ國常立 4+4 = 上云。 IV ٧, IV ラ 也 故 大 出 國常 往 料 此 此 生 シテ 簡 再 $\exists i$ 位 ョリ次第 中 ス。其數合 立 シ 往 季 央 3 計之 ヲ 奉 1 y 出 Ŧi. 時 IV 生給 $\exists i$ 德 著 ~ ゚ヲ = = 北 1 而 化 テ シ 德 神 無 生。 水火 7 五 w 地 次 = 等 其 テ I = 態 天 前 代

世。 互先後 後 也 生根 心 是ヲ 相 有心然後 3 南方ノニニ威ジテ七トナル 云。次東方 三八卜云。次又 北 y 火 ラ Ť 感 二水和 生ズル也。中陰胎内等ノ義。委 金 21 空 成 元 生 風 3 F 方 心也 ラ生。 成 テ六ト成。 スル ジ身生ズ。 人靈心身 ハ木ト成。 ノニノ卦ヲ以作之。 y 四九 = 是ヲ ノニニ 南 有身ト云ハ、火先が生。水 理ナリ。不二ノ義炳焉 m 肉 ラ心腔,此 方ノ | 1 | ノ卦ヲ 士 1 西方 一水火 ヲ本ト 故空 **卜成。心處中** 然後 Z 感ジ 是ヲ水 亚 次又 1 シニ + テ八 毛髮生 乃木ト云 四 シ 中 1 中 テ國 = 徳アリ。 云。 トナル。是ヲ木 。是ヲ火ノニ七ト ·ŀ 央 感 此 ガ 胎 以 3 +: Ŧī. 如。 作 下云。次 水 水 水 帅 ラ 3 ニハ非ズ 大 五 九 " 先 火 木 相感 凡 自 1 ヲ 中 壞 生 後 五. 1 五 喻 应 成 ナ ジ 於 行 ジ 3 = 也。 月 火 生 ラ 東 IV 叉 相 身 出

神

ナ

w

~

叉

水

火

=

對

揚

ナ

3/

以之可

也。 此 也 **シ**/ = 國常 神 ナ 四大洲等 西方風 然レ IH-4114 五 其泡沫堅 y. IV 行 體 次 地 木ノ ノ 坐 立 者有,形體,皆是地ノ ヲ 第 7 此位 毛 ョリ ス也。 土中 士 徳ヲ 金 一身 生成 色初 生 髮 = ŀ ラ生 þ ズ 生ズ ラ 固 = 成。 成。 ノ上 央 著 足等 男女 叉國 黄 ス 此 = ズ 12 二。各神 故 後 依之金 ル至テ精 シ ヲ 處 皆是 jν 時 ノ五徳。 1 狹 テ 害 ŀ 五 = 也 = 0 形 云 Ĭ. 卜云 付 風 3/ 天 7 虚 水火 難 化 如 水 ŀ 豐國 木 ۱ر 上 生 生 ナル 大德 コトハ。 シ。 開 此 相 空 ヲ 西 1 風 以 主 方 應 ヲ 次 諸 决定 ハ 此 π 0 ノ所 神 國 ハ 也 表 空 轉位 第 1 宮 3/ チ 狭 金 テ 殿 ス 陰陽 = 泡 內 風 = 成 立等 トナ 位 jν 純 沫 合 生 位 典 乃 泡 ŀ 也 也 男 起 沫 至 不 ス = = = 知五 積 也大 質 居 說 須 次 居 加 根 ŀ シ F

> 相 料 對 簡 水 3/ テ 金 化 土 生シ給也。 ١٠ 對 揚 7 w ~ 3/ 故 各 K -陰

陽

欠有神。尹丰若拿尹丰冊陰陽二神產,生人物,也。

滄 下 伊 次 盧 非諾 溟。其 告 嶋 有 無 云 神 尊 矛 國 伊 鋒 歟 外諾 **弉冊** 滴 。西以,天之瓊矛 尊伊弉 瀝之潮。 賃 立。於天浮橋 **#** 疑成二 拿 둪 指 下而 嶋。名之曰 之 探 是獲 研设 底

戈 原 書 T . 云 五百 日 天 秋瑞 市中 謂 穂之地。 伊 排 謡 宜 賃 汝 ff 弉 往 珊 脩之。廼 绾 有

とった。載 火若 1= 。伊 1 水ハ IV 土木 ハユル伊舍那天ナリ 舍那ハ自在ノ義也。 °金 Ŀ 此 此 次 來 Ŧī. 上 ヲ 第 德 1 轉 ィ ス 五 サ 7 V 陰 神 ナ 13 陽 ハ + 下 Ŧi. 陽 抽 イ 行 神 加 水 轉 サ 與,造 1 火 ナ 精 義 德 : 風 妙 1 1 陰 担 空 ナ 火若 神 空風 ノ元 金木出 下或 云云 in 也 處 上下 火 궤 111 八丹非 水 大 云 ノ開

代 魂 卽 3 也 ラ不 y 五 左 也 神 旋 右 七代十一 次 テ 也 第 五 1 是故 二約 一面 謂 行 1 也。 神坐ス ラ七代 會 = 德 陽 天 ラ 地 萬 神 和。 ト稱 ル幸 俱 物 ハ 此魂を気 左 7 神 產 ス 3 v ハ和 生 y 陰陽二神 ۴ 旋。 ス も。 魂 陰 也 實 陽 神 ·, 中 = 荒 右 間 =

|| 乾 || 坤 || 坎 || 紫易五行,建立八卦。

離

三才之理也。故畫,三爻,以 此 二者爲, 陰爻。地 之道 極萬 道 ァ云』八方之卦 北 今此 隨 = 共 テ有 理 八 卦 物之理。無善於此八卦矣。 -スル此故也。 ラ建 此 炳 之象也 也 馬 時 = 也。五 立 至テ。北 ス 者爲,陽爻。天之象 乃乾卦ヲ成。是 IV 方 成 成二。二成三。是 1 我 八卦,也。 位 國 ヲ ノ天 ノ説 成 3/ = 通 T ٧, 也 位 四 不

位 北 居。免 位 央 也 消 喻 北 東 地六位北方居 7 十。此サ六陰トス。九。九。九。九。九。九 生 始 月冬至 だ一年十二月八六陽六陰三。四。此ナ 方ノ 方 南 1 ヲ 成 息 = 天五 起 方 居 國 リ 遷シ 是 3/ ノ卦ヲ成。 || 卦/ テ萬 初。 居。乃震卦 ス = ス。乃艮 極 ノ夜半子 ノ位ハ不動、之。 ラ 居。 地 テ叉生理 子丑寅 南 物 道 也 東南ニ 始終 乃 方 ス。 ブ卦 = 難卦 是澤 陰 一陽 1 可 + 成。 乃坎 地 卯於 ノ初也。 ノ相 ノ剋。 月 ヲ成。是ハ山也。西 居。乃巽卦 也 。是雷也。天 ハ 也。若其生起 ヲ = 封ヲ成 1 已午 成 此一陽 萬 ヲ 至 位 如此 東方天三ノ 表 五 物 テ 陽 是火也。 1 西 行 未 ス 也。是 陰氣 初 南 申 九ノ位西方 成 1 生ズ w テ生ズ。 四 氣 = 酉戌亥 終盡 此サ六場二。 ラ云時 是風也。 水 維 置 神 地 3 也。天 y 遷 方地 位 75 初 ス。 J ラ位 終 坤 次 中 四 東 掛 im

八位者。

根

Ш

面

足

74 百十九

二了。被高 位 天 不動 義 ヲ ヲ 无 ヲ 破テ地底ニ留り給テ。其儀炳焉。天原ニ還給ヒ。伊弉冊尊ハ火ノ神 成 主 行 地國 ~ 八神を 陰 成 五德 神 三ノ配神 所謂五 ハ下方ニ IJ 八方ニ居。 ル。右二記」之了。 ノ神ヲ五方 一德者 居テ 生 。陽神 地 ニ安ジテ。 ヲ 鎮 故 神 神 上 7K 中 ~ ヲ シ 方 水 央 神伊 然後 木 = = 方 居 在 功排 金 テ = 已諾

火

國狹立水 埿土 惶 面 沙 士: 根 根 足 根 木 土

豐國 主

造

肺 7

火

大富

道

邊

大富道 風

モ神依大精ノ神依大精ノ神 央土 斗 四 月火水木金土ノ七曜ト名ク。 說。故七星成。 推之無過失 神 七 重 生 馭 方著。二十八宿ト云。四 神 ラ青龍 曜二十八宿諸星。 無 神 Ŧi. 店 根 或 沙 ス。 經寶 嶋 元 也 神也。其數 方八卦 狹 +: 志 也。五基神トモニ。其智アルベカノ神ヲ玄武ト云。水精ノ大の水精ノ 叉日 降 也 立 根 也。 給テ 云。数三 Ի 水 坂瓊 萬象森羅之因 像 羅縷 此本 配 也 西 八尋殿 曲 惶 資鏡 不 天北斗者水一 命元辰星トス。其徳分 恐是今案也 E 神 遑者也。 神人思云。 和 元起 根 ヲ 作 化 白 Jj テ 依テ六蛇神トモ云。 は、大塚村ノ神也。其敷ニ依テ九地の其敷ニ依テ九地の 立 起 各七 含本 ۱ر 神 此 此 币 パベシの典ニ 刨 鱽 --六相 理 南 然而 故 命 咫 然則北辰 大 星ノ徳。 大富 75 鏡 八 陰 11 如此 合精 神 洲 陽 阿 Ŧi. ŀ 主 邊 叉 儀 行 政

雀

中虎其

北

叉

東

地等 テ 天 = 昇 精 テ。 加 也 甚 深 其 1 蛇 義 ヲ 不 斬 可 シ カ "勝計,矣。 18 0 八ノ 雷 1 成

太神。又 姉 所化 皇 那 火 也 穗耳缭者。 神 加 已上 姬 左 々出見算者 Ŧī. 奉』皇太神勅 手 大 代應五 生也 所 持 日靈尊者。陰陽二神之所、生也。或 號 此 火 生 天神高 一感,日神弟素戔烏神 R 也 _ 日 白 。第三代天津彥々火瓊 出 一行運 赸 神。第二代正哉吾勝 銅 第五 見尊娶 鏡 神 瓊々杵 皇產靈尊女栲幡千々姬 始降 臨章 五代 也 代彥波瀲武鸕鷀 而所生 "海童神女豐玉 尊娶, 也 原中 大山 所獻 此神 國。 々杵尊者 祇 H 心之寳 女木花 第四 速 叉號天 一姬,所 日 所 玉 代 云 示 天 生 開 彦 而 忍 照

y J 今此 H B Ti jν 代 1 ベシ。 神 ス 放天 行運 凡 \overline{I} 行 相應 꺠 ハ水火 シテ。次 天禪日 7 本 1 出 地 セ

シ。更問」之。吾勝深義アルベ吾勝 其冥德稱 金德 葦 始。 中 杵 禪 百秋者為 配當奉五 如此 カ 原千五百秋瑞 尊 也。 月 月 テ 3 分明ナリ。· 葺不合尊土徳 古徃 に二依テ 出 ラ y 子申。是陰陽二相分。 ŀ 所、生日月乃 生 云 給 ズ。世祖 木德 一个來 スル 御 フ 生 人代 是無窮 運 名 ジル神 次第。 シ給。火徳 終テ又始 無有窮 尊 也。 ア フ 下 = 神 y_。 穂國 ナ 三坐ス。 武 至マ 次伊弉諾 火精 更無 水 稱 IV 主 天皇。 日 德 極。 ナリ。天照 ~ デ 宜,汝往脩,之云々。千 タ 月 iv ノ神 也 1 ~ シ。 ッ 故天祖勅シテ日 差異。五行相生終 ノニ 又相 火 神 逐二 但 辛酉年 1 奪 從 = R = 神一 日 坐 H 1 111 是水 坐 日月神 若 不 子申。 太神 一ス。御母木華 云 法 神金德神坐。 見 H 合 坐ス ス 受禪給故。 412 = 尊 木 第十: 17 同 ٠, 人。如此 火 期 勅 生給 伊弉冊 杵 前 非 7 瓊 士 德 ズ F ヲ 五 w N Æ

秘

降 給 フ 是故ニ ヲ 丰 也 元 紹運 祖 F セ 主。 パ 理 無究 木 相 牛 **宁道** ノ徳其意在 金 ッ以天下ヲ 水 ŀ 相 承 ス

相生相剋此為"順逆。

哉

此法ヲ修ス。故な虚空蔵之色如い 五音 順 Ŧi. 云 配 ハ 、黄色。 如次空 3/ 相剋 者 知 Ŧi. 方 香 能 大五 第染 也。次 東 者是道。 五 生之理。五 火 秋色。 方ノ春色。 Ŧi. 金門鳥敏ノ法トモ 地 味 行 用秋冬 最初ノ 季 風 者能 等 次黑色。 順逆之道。悔云之象也 水 Ĭ い夏秋 = 用 生 行者所生之德。 = 次青色。南方夏色。 色 配 所 毛 7 ノ爲ニハ必 ハ 當 受染 北方冬色。是木 當 生 jν Ė 名り ス 也。 y ~ 間 0 中 東南 シ。 ノ次第 五方五 若受染次第 1 央土用トス。 青赤 音 香 中 相 下云。 黄 季 味 生 7 西 144 者 五 Æ 等 北 白 是 7 色

相 道 法 故作 精 Ŧī. 領 7 位 理 シ IV П 息ノ字ハ「恐有版字」 是順 剋 ラ 味脾 魂 藏 以 日 ŀ テ音聲ト 成ト云へり。肺所」生。同經ニハ五氣 ス ۴ 一從」口入テ藏」於」胃野、多。形骸骨肉血トノ所」生。老子經。口チハ犯トモ他ニ主ル 下 E之所 。若人 ス ス。 相 四季 ス 如此 人臣 ٢ 上生。所 年ヲ 也善 生相 V 乃 然 3/ 18 身 Æ ノに官 下云。 ラ 至 M 1 成 ブ上 叉 共 剋 此 天 四 神 次 七十二 和 ノノ道 道 ト心從也。耳野之所 ラ守 季 相 相 文 ハルナの所 其外 ノ = 不 Fi. 剋 = 地 = Ti. 配 7 古ニハ 鼻ノ字蔵 旦テ 是 依 方 IV. 成 到 季 當 = 日 得テ。 逆 ラ = 3 算 Ξi. 着 相 志 ス 中 ラ ズ 都 各 術 色 4 <u>ر</u> ハ v 央土。 認 55 合 一十八 h 生。所 ۶, 巫醫 身ヲ修 1 ノ政 眼 和 害 云 三百六十日 肝 家 上生。所 如 自 自二從精 ŀ 7 也 故 音 7 四 心 ナ ŀ H. 此 成卜云 其 知 Ŧ 樂 X 方 肿 ナ IV ン・生。 心神 合 5 養 農 = 内 四 Adi 三以五 = 歐 和 業 生 配 維 ----肾 從 剋 ヲ 生 若 當 統 是 所 所

火。是相剋 土。智二 y 智害、信土剋、水。義害、仁金剋、木。信害、禮水剋 生ノ道ト云。仁害、智木剋、土。禮害、義火剋、金。 金生、水。信二依テ仁ヲ行バ水生、木。是ヲ相 範 理炳焉。深可、學ナリ。 君 平也。暗 九疇二專此 ヲ行バ木生火。禮ニ依テ ノ五常。 ヲ濟也。 臣 依ラ義ヲ行土生、金、義ニ依テ信ヲ行 ノ法ト云。明王相生ノ術ヲ得 如次 反 王相剋ヲ行テ國家凋弊ス。父子 一夫婦ノ間。乃三才之道也。 、之者亂、世亡、國。 義 木火土金水所、威也。仁 ヲ明。而我國政術神代ヨ 智 所謂 ラ行バ火生 尚書 ラ天 = 禮 依 智

造化之端皆是玄妙也。

、神。號,國常立尊,是三、次國狹槌尊。次豐斟淳尊。地。是二。天地之中生,一物,狀如,葦牙,便化為是一。共清陽者薄靡而為,天、重濁者淹滯而為天地未,割。陰陽不、分。渾沌如,雞子。溟涬而含、牙

々。次生,月神,云々。次生,蛭兒,云々。次生,素戔 艸木。何不、生,天下之主者、歟。於、是共生,日 諾尊伊弉冊尊共議曰。吾已生。大八洲國及山 生,木祖句々廼馳。次生,草祖草野姬。 七。廼生、大八洲國。次生、海。次生、川。次生、 彼嶋。化。作八尋之殿,又化。堅天柱。然後云 潮。結而爲、島。名曰,磤馭盧嶋。是六。二神降居 投、戈求、地。因書。滄海、而引。專之。即戈鋒垂落之 天瓊戈。是五。於是二神立。於天浮橋上。天狹霧中 豐葦原千五百秋瑞穗之地。宜, 汝徃脩之。廼賜 男女。是四。天神謂,伊弉諾尊。伊弉冊尊,曰。有 面足奪。惶根奪。乾坤之道相參而化。所以成 土煮尊。次有、神。大戶之道尊。大苦邊尊。次有、 乾道獨化。 。所以 成此純男。次有、神 。遲土煮算 . 旣而 神云 山 伊 神 是 Ш 弉

治世要道神勅分明也。**+解曰。已上八ケ條可、有。深意,更問、之。

也。宜,爾皇孫就而治,焉。行矣。寳祚之隆當,與,天 曰。葦原千五百秋之瑞穗國。是吾子孫可、王之地 玉。及八咫鏡。 天照太神乃賜 草薙剱。 天津彦彦 三種寶物,云々。因 火瓊々杵尊 八 「勅」皇孫 、坂瓊 曲

도 壤 此寶鏡。 叉曰。天照太神手持 無。窮者矣 當 、雅、親、吾。 .實鏡。授而祝,之日。吾兒視 可,與同,床共,殿以爲,齋鏡

4

平。天下 如,白銅 天皇孫尊。如。八坂瓊之勾玉,以。曲妙治,天下 神皇實錄 -矣。 鏡」以,分明,看,行山川海原,乃提,是靈劔 曰。皇天御中主神與,大日靈尊,盟。 宣

表シ給 解 云。禮 ノ本元ナリ。如如 ニシ 如、玉曲 也。智也。尚書 テ ハ知仁勇ノ 分 妙 明 ナ テ jν jν . در ニハ剛 剛 柔順 達 正直 利 德 ナルハ 決断 ۲ ノ心 柔 ノ心 Æ 正眞三德 云。其義皆 ラ ヲ 表 表 **シ**/ シ ラ心 給 給 ŀ 也 7 Æ 7

> 途乎。 勅ニ至テハ。言訥 典籍千萬 道妙ナル 也 セ 可貴々 テ萬代 タリ・志、道者更問、之。 正直慈悲决斷。 1 17 道 コト凡慮難、測。治世ノ要道豈有。異 ナ 握トシ 7 可仰 傳 **|**-* へ給而 給フ。 々々。 モ。又此二二二 = シ「旨廣ニ 。此事 三ヲバ不」出也。 梵漢 已ナ 具 ラ 二モ べ。 = 不過 此 元 レテ 神 類ナシ。 々集二 旨廣 ナリ 。內外 = M 神 疝 3/

此書。 御所望,介,相傳 北 畠 准 后 親房。 一者也。必慎不」可,外見,焉 雖 為 神 道 秘傳之書 依

右東家秘傳得一本校合學

寶鏡開始

質。爾 真經津 豆 鑄 津 志天自不、尊天不、尊。于時國常立尊所、化神以、天 神 伊 是也。天地 質 銅鏡是也。是國常立尊所、化神天鏡尊。 天上和隨 命 混沌之前 溶白 造 白 勢 子天萬 御量事大神變通 和 兩 時 豐受天降豆。天照太神與一處雙座。于時從 宮鎮座 鏡平鑄造 久 咖 。因、茲萬物之化。若存若亡而 尊 夫 是也 明道 調 開 身寶鏡 傳持給。 自 天地開 清淨,而求之。以,神心,祝之。以相 關之明鏡 本 一賜弖。 一明知 三才內一 表 記 一面。神代天御中主神所、授白 給閉利。 云。 明現。 闢之後。萬物 B 次沫 合 凡神代異物之義。 神 也。三才所 給品。 蕩 月 IHI 天 故 尊 神 文 此 是 八地理 鑄與 三才 所 也。今二 次 已備 伊 化乃眞經 顯之實鏡也。 以 神 諸 相應之三面 而莫,照,於 。月殿 存 明 下々來々 面 栅 矣 猿田 者 質 居 太 主 津鏡 傳 天 所 鏡 鏡 持 田 彦

> 無位。 以 多賀宮御靈一 石凝姥神 因 為 神 明之正 面。已上三 奉、鑄寶鏡。 躰 也。 M 是即 今 案伊 面 案 者 勢 八 面 太神宮也。 百 荒 萬 祭 神 御 達 異與

於天高市,而問之。時有,高皇魂之息思兼 焉。於,是天下恒闇。無, 鑄,銅鏡,者 、鑄鏡不、合,神 也 倭 日录-不、欲無女相 思智乃白曰。 一面者日前 姬隨神 一疑此、康戸。天為,治工。採,天 也。彼右 海,更 也 宮 宜 見。乃入,于天 意。紀 座 1 天 金 語 圖造彼神之像而 神 也 照 者。 太神以 伊 石凝姥神 日 』畫夜之殊。故台,八 即山 國 月 日 所 素素 前 跡 磐窟 化神鏡。 鑄造 國 神 香山 鏡 赐 也 而閉 作 招 命有 鏡 夫石 之金 坐 也 藏 鑄 柿 也 着磐 黑 朝 八十萬 初 疑 也 以 能 神 心 姥 度 作 云 Thi 加 所

、年六百三十餘歲。天皇同座也

此時帝

與神其門

太田

命傳

云。

自

神

定

天皇

· 迄

開

化

天

皇九帝

別一矣。 為。護身種。是踐祚之日所、獻神壓鏡動也 殿不 未 天照太神宣, 天皇。 神裔二氏。取, 天香山白 遠 少安。改更介,忌部氏率,石凝姥 間城 殿 共座以此爲常 入彥五十瓊殖 天鏡尊所鑄圖 銅黑金。更鑄造劔鏡。 天皇。 。故神 物 漸 官物亦 神裔天目 畏,神威。 未 分 以 同

以二

一种為

流鈴以治 敬承, 吾

無夠 有。鏡中

1

手持 神璽。

爾

祖

常

鏡以

分明·看·行 提前剱 次萬類神寶

曲

一妙、御字。且白

銅

山

平

如八

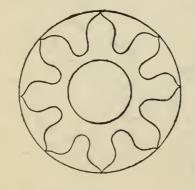
、坂瓊曲玉,以

神 天照太神手持,寶鏡。而授,天忍穗耳尊。 吾兒視,此寶鏡,當,猶,积,吾云々。誠為

> 神財 、鑒之物也。 之輩。幷剃髮不淨等族。敢不。沙汰,也。 許多流 靈妙 以鏡爲第 不測混然無相 重事 世 尤非器無才 故 雖

八咫鏡圖

但寸法有、智。



寶鏡開始

天上 绮。爾 **具經津** 耳。 鑄 津 忠天自不、尊天不、尊。于時 神 伊 是也。天地 尊 銅鏡是也。是國常立尊所、化神 命 混沌之前 溶白 造 白 勢 御量事大神變通 和 子天萬 一御隨 兩 時 豐受天降豆 鏡平鑄造 久 宮鎮座本 神 。因、茲萬物之化。若存若亡而 尊 夫 是也 明道 詞 身實鏡一面。神代天御中主神所,授 開 傳持 自 天地開 清淨,而求之。以,神心,祝之。以相 闢之明鏡 一賜且。 一明知 三才內一 表 記 。天照太神與一處雙座。于時從 給閉利。 云。 何現。 闢之後。萬物 H 次沫 也也 合 凡神代異物之義。 神 給品。 國常立尊所,化神以天 蕩 月 IHI 天 故 三才所 尊 神 文 此 是 地理 天鏡尊。 三才 也 鑄 所 次 已備 題 一。今二 伊 化乃眞經 顯之實鏡也。 以 神 相應 諾 而莫,照,於 。月殿 存 明 下々來 面 栅 矣 猿田 者 角 之三面 居 太 津鏡 天 傳 天 所 白 持 鏡 田 鏡 彦

> 咫鏡。八 無位。 以 多賀宮御靈一 石凝姥神! 因 為 柿 悀 奉、鑄寶鏡。 明 之正 已上三 躰 也。 M 是卽 今 案伊勢太神宮 面 案 者 八 丽 百 荒 萬 祭 神 御 達 也 異與

也 於天高市,而問之。時有,高皇魂之息思兼 焉。於,是天下恒闇。無,晝夜之殊。故台,八 鑄」銅鏡者 〉鑄鏡不、合"神 倭 日录-不、欲無女相 思智乃白曰。 一面者日前 姬隨神 疑姥,康戸。天為,冶工。採,天 也。彼右 誨,更 也 宫 宜 見。乃入,于天 意。紀 座 I 天 鑄造 圖造彼神之像而 神 也 照 者。 太 伊 石凝姥神 日 八神以 即山 國 月 所化神 日 素瓷 跡 前 一整窟 鑄 國 神 香山 鏡 造 赐 也 一而閉 作 命有 招 鏡 夫石 之金 坐 11 藏 鑄 市市 也 着磐 黑 朝 八十萬 初 疑 也 能 神 心 好 度 作 云 卽 加 Mi 所

、年六百三十餘歲。天皇同座也。此時帝與、神其際太田命傳云。 自。神武天皇,迄。開化天皇,九帝。 經

別,矣。 未遠 為。護身璽。是踐祚之日所、獻神璽鏡釼也 神裔二氏。取, 天香山白銅黑金。 更鑄,造剱鏡。 殿不、安。 御間城 同 殿 。改更介,忌部氏率,石凝姥 共座以此為常 入彥五十瓊殖 天皇。 故 神 物 漸 官物亦 神 畏,神威。 裔天目 (未,分 以 同

天下。 山川。 鏡以 曲 如八 天照太神宣, 天皇。 妙 御宇 、坂瓊 分明,看,行 次萬類神寶 提前剱 且白 曲 玉以 平 銅 天鏡尊所鑄圖

祝之日 神代云。 天照太神手持。寳鏡。而授, 天忍穗耳尊。 吾見視,此質鏡,當,猶,君云々。誠為

念。爾

加

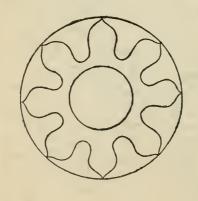
常

有。鏡中

流鈴以治。無窮無

、鑒之物也。 之輩。幷剃髮不淨等族。敢不,沙汰,也。 神別許多。而以鏡爲第一 靈妙 不測混然無相之靈器。 重事,也 尤非器無才 故 雖

八咫鏡圖 但寸法有、智。



以二

一種 為

墾

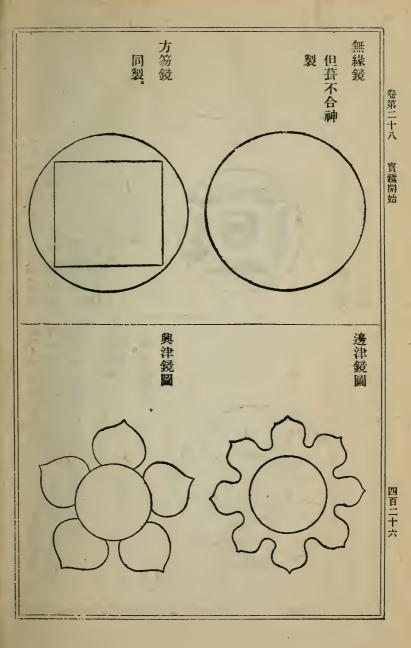
敬

承,吾壽

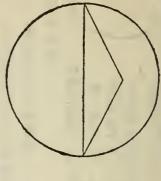
手持 神

卷第二十八 寶鏡開始

四百二十五



日矛鏡

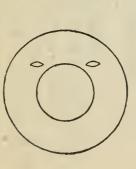


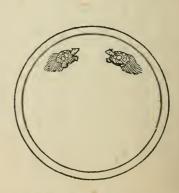
修行壇鏡圖

但有。寸法。

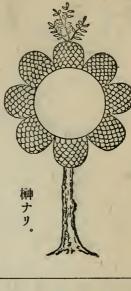
平調。日雙調。月羅計二而可、為星祭鏡圖

有"調子"。本次土金





盤鏡圖 但有"別名"見"兼延神質圖"



祇,也。尤可,有,習者也。

御正躰幷御撫物鏡圖

但御正躰事可、隨、御帳廣、衛正躰事。治工非、神衛正躰事。治工非、神齊。則决不、可、近、爐邊、香。則決不、可、近、爐邊、水碳并重輕

表裏。裏者可、為。石目,乎。 表裏。裏者可、為。石目,乎。 表裏。裏者可、為。石目,乎。 表裏。裏者可、為。石目,子。 表裏。裏者可、為。石目,子。 表裏。裏者可、為。石目,子。 表裏。裏者可、為。石目,子。 表裏。裏者可、為。石目,子。 表裏。裏者可、為。石目,子。

右寶鏡開始以小野高潔本挍合

度會 元長

春

二十首

立春 神 1 代 都 1 空 春 モ今朝 ヤタツ カス ミノ 字治 ムラ ラ山

天照 7 ノ春ヤ立ラン タ 皇太神ハ リ。西行此字治ニテ讀ル 上也。 地 神五代ノ母ニ坐。 御鎮坐 ア山。 歌 都 然者 ノ巽 二是 神 代

城 爱 ノ宇治 毛 叉都 山 コ ッ j テ喜撰 タ カ ツミシ رر V 名字治 カ ソ ラ里 住

Ш

=

法

師

ノ讀

ル歌

我 施い都 世ヲ字治山ト人ヤ云ラン j タ ッ 3 **シ** カ ソ 住

春 1 夜 1 t = ۱ر 無 益雲霞

七葉

1

御

神

次第

麗氣紀二具

也

七

葉

御

霞

7 ケ シ岩戸 ノ空ニ残 レリ

天河 天津 ヲ始 V バ略、之。抑倭比賣命ノ ŀ 1 尊天岩屋ニ藏坐。安河ノ邊也。 ・スル コトカ。長校トナリシ 理アリ。 天岩 戶 紀。天地開 神 コト 化 ト許 闘べ 人皆 安河 今 不 知 ٢ 11 H ナ

ノ歌 =

アリ

ŀ

ナリ。

無益ト書テアヤ

ナ

3/

ŀ

古 IV

、思。日ノ暮。夜ノ明。日

ラ出

IV

義。

万

クタ

ŦŢ!

春 ノ夜ノ闇 1 U コ ハア ソ = P 工 ネ ナ 香 シ ロヤハ隠 柝 ラ花 IV

御裳 濯 河 抄 歌 =

岩戶 櫻ラ 誰 ァ カ ケ 植 3 天 ۷١ 津 3/ メ 尊 ケ 1 當 所

=

若菜。

若菜 日 ハトテ ١٠ 誰 カ 七葉 ツ 3 始 ブ神 4 三備 祭 iv

詠太神宮二所神祇百首和歌

卷第二十八

四百二十九

神 妙覺心地ノ祭文二見工侍

子日。

春 ラフル

百枝ノ松ノイツ 子日トテ引今日ノタメシ 3 リ ヲ カ

意 百枝ノ松ハ。天照太神宮ノ 御神木ノ 由云人 r リ。五百枝ノ杉ハ豐受皇太神ノ御神木也

鴬ソ ヲノ 炒 御 神 カ 栖 ノツ ŀ ク シムル リ置 Ш ケン

伊 土 一ヲ作リ玉フコ 伊弉冊尊トラ トヲ。萬葉ノ歌二首。次書。 二神坐 不 伊弉諾尊 國

妹勢 少御 1 Ш 神 ヲ ッ 見 ゥ ラ IV ッ x ゥ # v シ #

大

穴道少御

神

ノ作

7

何 3 カ Ш ヲ作置

宮 木引津 上長ノ原 ノ春 ノ雪 殘雪。

津 長ノ原 心 トハ Æ 解 内宮 ヌ 跡 = 7 7 3 ル名所ナリ ソ 3

柳。

神路川 春ハイッ岸ノ柳ノ神路川 浪モ緑ノ色ニタチケリ ハ御神前 山 ノ麓ヲ廻ル川也。

山ヲ神

梅。

梅

カ

枝ノ花開姫ノ宮木トラ

山上云。八雲抄五卷二有之。

此御神 內宮 御裳濯河集二有之。 宮同躰ノ由。 坐ス。寳殿マシマサズ。此御神北野ノ櫻葉 ニ坐ス モ 。別ノ御神 フ末社 ŀ 7 恵ノ色ノイチシルキ哉 開 ゾ。櫻大刀神同在所ニ 姬命 花開姬命 奉,申人有之。櫻ノ宮。西行ノ歌 ノ由侍。幷櫻宮是ハ大宮 ト申 中中 トゾ。於神 朝熊 坐ト 宮奉秘御 バノ社ニ 3 フノ邊 坐 1.

ナ 1 サカ

雄

春田。 忘 テ 天 Æ 樋 ノ良田 放 ナセ 1 御種 ソ 久堅 カス u

狭田天ノ邑弁田 移。是御饌料 天 ノ山田田 良田トハ。天上ニテ天津尊ノ御 ノ 原ノ宮崎ノ 錦ノ河内ト 云處 トス。凡天ノ長田天ノ平田 此外坐。依事茂、略之。 田ナリ・ 伊 =

蕨 折 山賤 思へい天ノ益人ソカ ノ身 ニ至マテ

薨玉 テ 益 軻 ラ。 ゥ トハ國土人。人々ノ惣名也。譬バ ッ 火 チ ノ神ヲ三段 ト云火神ヲ産坐。 二切 王 フ 母 陰 ノ 1 昔尊 尊 カ 恨 坐 坐

> 御鎮 ノ字 坐ノ所可、為、天 ヲ付ク。 共 二天 **卜云義也。 萬葉** ノ字 二盆 天 IK

ヲ

置

7

١.

太

前巾

人

讀歌

ノ雅田 同步 71 ザ 1 山 = 入 ヲ P = 1 4 ガ y

西

浮 世トテ月ス 1 カ マス スヘキ天 ナ IV ハノ盆人 コト アラ ۱ر

櫻

櫻太 刀 ノ天ノ往 古 7 殛 テ P

樹自 天 宮樹 ノ花 上降 ノ雲ト 坐ス。日本ノ櫻ノ始也 見ユ ラ

春 雨

太

刀神

二坐。

朝熊

ノ江ニ坐ス。

彼

穂買り 嶽 二霞ル春 ノ雨

天 津空 ヨリ降 ソミ IV

照太神ハ 天原ヲ治テ。筑紫日 间 或 桃 觸

卷第二十八 詠太神宮二所神祇百首和

歌

王

フ。陽神吾千五百頭

可產 頭

ラ。仍益

天

國土

ノ人ヲ

日二

F

J

п ト誓尊

ス

ŀ

歌

10

春駒 嶽 = 天 降 坐 一御事 ノ意 ヲ讀侍也

其 Æ 力 ŧ 春 1 艸 ヲ ャ ス サ 4 ラ

田 面 = 放 ッ 天 , 駮 駒

素盞 神 天 御 1 御 駮 鳴 H 天津 H 駒 ヲ 荒 1 ŀ 罪 春 シ ノカ 王 苗 天 上 フ。然が田 代 也 時 = 在 秋 御 田 馬 面 1 也。 比 = 放卜讀也 馬 タハ 鳥尊。 ナ サ B

歸雁。

心 セ 雲路 3 天 津 = 歸 拿 春 1 幸 1 行 カ ŋ セ カ 3/ ネ

玉 天路歸雁 天 照尊御降臨 ト 云義 1 也。 御 時。 ノ八重雲ヲ分降

菫菜

菫菜 摘 生 X 野 15 ナ ノ 3/ 宫 ス ノ 7 7 w A 赤 リ カ ٦ テ

1 本 申 "天照太神自"筑紫,伊 勢國

天

照

ス

Ш

ッ

シ

花

散

宮 御 ŀ 降 奉 臨 之御時。 申ニ御一宿四ヶ年也 桑名 ノ 行宮ニ坐 ス 其野

杜若。

是ソ 此 澤 女 神 開サノ 杜 若

杜若 メ 讀侍也。 ハ澤女ノ邊ニ生ル 名 E 澤女ノ命ハ 便ア jν ŀ 内宮ノ別宮 ナレ 7 U カ ナ タ 3 ŀ ŋ 申 ヲ 人侍。 Æ

藤花。 花 開 ハ眞名井ノ水ヲ結

F

テ

躑躅 奉リ 田 日 件 向 原二御遷幸。 之宮ニ 移 ノ眞名 1 朝々ノ大饌料 高 藤 井 岡 千 ノ水 山 シ 穗 居置 仍彼 = ハ。自 7 Щ 力 小小ヲ タ = ŀ ラ 居置 天 ナ マフ。豐受 × 膝岡 Ŀ ス。私ニ云。此水ニ付 ナ 給フ。 降 セ Ш 坐 ソ 入太神 ノ麓 共 ス 始 後 勢州 丹 居 波 筑 祝 山 與

春

1

= 太

チ 田山

葉

ヌ

ラ

ン Æ

ŋ

也。夫木ノ歌

=

天照山

ŀ

云

葉ヲ思寄侍リ。

天照山

ŀ

紅

葉

=

春

ノ嵐吹ナリ

椿。

卯杖 年 F 々ノ卯杖 べ。 正 深 Ш 椿 月 ジル花 = Ŀ Æ 1 V サ 卯 丰 テ 日 = 此 1。於。宮 ケ 春 1) Æ 中 其

調 御倉 前 , 古 殿 = テ 曉書、之ト ゾ。 年 號等ヲ

三月蠹

今日 1 マテハ春 事 安キ 日 ノ内外ノ宮柱 ヲ惜 ミッ

天照太 謂 山 御 也 事ヲ 久遠實 其內 古 神 事 ヲ 卜成 記 内 御鎮坐間 = 宮 神坐。故二遠外 ر ر b 內 申 宮 豐受太 奉 h 申謂。 申 h ヲ指 神 也 依 7 テ遠 外 圓 外 宮 地 宮 + 四 ŀ ŀ 申 方 申

> 侍 カ 申 也。 ŀ 申 但 候 此 義 ノ外

h

=

義

坐ヲ

木

秘

テ

如

此

排

夏十五首

首夏。

榊 ŀ w ナ 袖 シ ノ匂 ŀ 妹 ラ誰 カ 恨 = カ Æ. P 毛 セ

·/

\合 卯月一 = 日。 榊ヲ取侍フカト云人ア **y**. 五 + 否

楠 取 卯 平 野 月 j + 森 ヌ ラ = ユ 3/ ウ Ш カ 人 ツ 1 ラ

セ

ŋ

玉红祭串汽"= 是四 御政有ハ リ。帝始ラ南殿 句二當り侍 箇ッ從 月一日 眞*フ
坂*神 万機 也也 ノ旬ト中 日 ニ御出ナル 御り美津かなる。 旬 次 ノ歌 デ _ 也。 H 然 ヲ新 15 旬 4 榊 榊 _ 野ノ 1 収 旬 種 4 1 ヤノ 也 ili 卯 13 V 始 義 F H テ

詠太神宮二所神祇百首和

四百三十三

榊

名也。

榊

1

名

也

卷第二十八

歌

葉 歌

串 神 ノ御賀玉ノ樹 **酢**備 ヘケル 1 鏡葉 カ ナ

御賀玉 不,有。別 樹 ノ木ヲ云 ノコ 1. 古今集 ヵ。三木 *j* = 也。 榊 1 I ŀ =

妹是遠, 等取我 通路 細竹為我通 靡 細竹有而雲居爾所見妹家早將至 步 黑 ト云コ 1. 萬葉ノ歌二首。 原分駒等

更衣。

今 日 ノタ × 御 衣气 織 ラ シ 久堅

1 機殿 夏 Æ + ヌ ラ

降 機殿 ノ機殿 ゾ。御 ニ駿駒ノ事侍由奉、申事坐也。 衣 ヲ ヲ 織 內 玉 宮 エシ事有 = 移 ス。 徃古七夕 彼機 シト也。 古記具 也。天 殿

卯花。

瀧 ノ宮 波 ノ道 1 3 サ w 7 テ タ 開 7 IV = 卯 成 花 ヌ ナ リ

> 瀧宮 ッ。 納置坐ス 御裳濯河原二 ハ寶殿不、坐。 神仙也。 坐御神也。 此 地 戸底 外種 三坐 々納置玉 ス。 天 フ 1 逆 ŀ 見 太 タ 刀

子規。

子規鳴ヌ 音無山、 習ヲ知 ノ名ヲ残ス トラ P ラ

、鳴有處ノ 音無山ハ豐受宮ノ御前成山ノ名也。時鳥不 事ヲ。西行 ノ歌。

不聞共发ラ セ = セ ン時 ·村立 鳥

樗。

山

田

1

原

,

杉

?

ラ 杉 ノ寳殿ノ御事。豊受宮之別宮 夏 ハ 早杉 唉 シタ樗 ン社 ノ花モ散 ア木 1 5 陰 ŋ

ナ

۴

ャ

坐

橘

花

ŀ

3

シ常世

ノ浪

毛

絕

ヌ

ナ

ŋ

橘 ノ江 い神久ニケー 1)

不聞 神宮秘記云。此處ハ常世ノ浪寄ル 國 ト有。譬バ下津岩根 ノ邊 ナ 國 V パ。弓箭 鞆 퍔

書。萬葉ノ歌

ノ器不知

ト云義

也。

次ニ

神祭

ŀ

æ

神久

ŀ

神 祭テ御神 打 出 ル音 セ 1 荒木田 シ Ħ. 十鈴川 ノ宮

手ニ窓持在が去え又顧ン大士 鞆浦廻原ラ

夫木 ノ歌。

引 流 ス ŀ 手 Æ 東 ネ ノ的 ノ弓 ノ矢ヲ ノ鳴 カ ٠, t ス カ 3 ナ

菖蒲。

草奈岐 プ社 F 誰 Æ 合日 ハ 見 3

ノ菖蒲 毛 打 亂 ツ

草奈 處 外宮 岐 ŀ 坐。 云名ヲ以テ 讀 13 ッ。 社 大間トー

早苗

吾六合ニ良田 イ カ セ 早 世 苗 富 移 種 サ ス 花

天 上ノ イ 御 カ Ш 10 ヲ 此 セ ン 秋 ۲ 津 云 洲 義 二移 也 ナナズ 西行歌。

浮世 トテ イ カ 月 > ハ ス ス 7 ス キ天 ナ N ノ金 7 トアラ 人

人ノ名ト云義 アリ

此

歌

ノ心ヲ取

3 3

ケ

jν

ナ

ッ。

富種

花

稻 h 云

義有。

只タノメシ メシ 73 原 1 サ シ モ

ク

サ

打 サ ムレテ高 我世 モグサハ人ノ 1 倉山 中ニ有ン = 惣名 ッ 2 73 物 丰 卜也。萬葉歌 IJ

此

麗氣

記云

彼高倉山ハ此

日本鎮座ノ靈所

新

ナ

IV

世

種

ノ

ハ

ナ

照射。

ノ腔ニ 乗ニシ 古ヲ

四百三十 π

歌

歌

串 神 ノ御賀玉ノ樹 **酢備ヘケル** 1 鏡葉 カ ナ

御賀玉 不,有。別 樹 ノ木ヲ云 ノコ ト。古今集 カ。三木ノー ニハ 也 榊 1 コ ۲ =

妹红遠, 等取我 通路 細竹為我通 靡 細竹為十分為為上午,然為一次,然是是我們是她家早將至 步 黑 ト云コ 1. 萬葉ノ歌二首。 原分駒;

更衣。

今 日 ノタ 機殿 × 御 夏 衣气 ŧ 織 ラ ヌ シ 久堅 ラ

1

+

降 機殿 ノ機殿 ゾ。御 ニ験駒ノ事侍由奉、申事坐也 衣 ラ ヲ 織 內 玉 宮 エシ事有 = 移 ス。徃古七夕彼機 シト也。古記具 八也。天 殿

卯花。 瀧 ノ宮 ノ道 サ 7 タ 7 = 成 ヌ ナ IJ

波

ŀ

3

IV

テ

開

IV

卯

花

瀧宮 ッ。 納置坐ス 御裳濯河原二 ハ寶殿不、坐。 神仙也。 坐御神也。 此 地 外種 戸底 一坐 々納置玉 ス。 天 フ ノ逆 ト見 太

タ 刀

子規。

子規鳴ヌ習ヲ知 音無山ノ名ヲ残ス トテ P ラ

、鳴有處ノ 音無山ハ 豐受宮ノ 御前成山ノ名也。 時鳥不 事ヲ。西行 ラ歌

不 聞共发ラ セ = セ ンド時 村立 鳥

樗。

ノ社 ノ木

山

田

, 原

1

杉

7

夏

ハ 早杉

1

陰

1)

杉ノ寳殿ノ御事。豐受宮之別宮ナド 咲 シを ノ花モ散 5

ャ

坐

ラ

橋 花 ŀ = 3/ 常世 ノ浪 毛 絕 ヌ

ナ

y

書。 不聞 神宮 ノ器不り知 萬葉 秘記云。此處ハ常世ノ浪寄ル 國 橘 ト有。譬バ下津岩根 プ歌 ト云義 ノ江 ハ神人ニケ 也。 次ニ 神祭 ŋ ノ邊 ŀ ナ æ 國 神久 V パ。弓箭 鞆 ۲ 퍔

神 祭テ御神 打 出 ル音 セ 1 荒木田 シ Ħ. 十鈴川 1 宮

子ニ総持在 鞆浦廻 廻原

夫木 ノ歌

引 流 ス ŀ 手 Æ 束 ネ ノ的 ノ弓 ノ鳴 ノ矢ヲ カ ٠, رر ゃ ス カ 3 ナ

菖蒲。 草奈岐 プ社 ノ菖蒲 ŀ 誰 毛 打 Æ 合 亂 日 ۸ ツ 見 3

草奈 處 外宮 岐 h 坐。 云名ヲ以テ 讀 13 " 社 大間ト

> 天 吾六合ニ良田 上ノ イ イ 御 カ カ Ш ٧, ヲ セ 此 セ ~ 早 世 ン 秋 ŀ 津 苗 云 洲 富 移 義 二移 種 サ 也 ス サプ 花 西行歌。

浮世 歌 ノ心ヲ取 トテ 1 カ 月 • ハ ス 3 3 ス ~ ~ ケ ス キ天 jν ナ ナ N プ金 リ。富種 7 トアラ 人 花

稻 ٢ 굸

義有。 人ノ名ト云義 アリ

此

タノメシ 我世 中一 メシ 有 カョ 5 原 73 1 丰 サ シ Æ ク

サ

1

y

打 **シ** ムレテ高 モグサハ人ノ 倉山 = 惣名 ッ 2 物 上也。 。萬葉歌

此

サ

麗氣

記

云

彼高倉山ハ此

日本鎮座

フ震所

新

ナ

IV

世

ノ富

種

1

ハ

ナ

照射。

ノ
施
ニ 乘

ニシ古ヲ

也

ラ ヌ -ヤ 照射 ス IV ラ

云所 勝 雕 地 宫 7 = 定 春日 Ň. 給 H 大明 フ。 給 ヒシ 平 神 尾 ガ。今ハ小俣 座 ヲ 云。初 離宮 ノ時。 ム山 田 田 大治 ト云所 1 平 年 尾 ۴

東門 門 束 比 帶 .東南ニニアリ。宮司ハ南門入坐。禰宜ハ自 離宮院 一入坐ス。以テ三日二宮ノ齋宮拜賀坐 = シ ラ 御神事 タ ガ 七玉 坐ケル。大宮司二宮 ァ。左右 ニ屋形アリ 1ノ禰宜 シ

五月 雨 始 彼處ニ與,木ノ九殿ヲ,御在所ナリ。

彼平尾高

河原

トモ云。昔豐受皇太神宮遷幸

進 ソ。 想 =/ 30 极! 海 海 人命 ヺ 阿 人ノ年魚 他 前 部 以 4 7 龍 1 テ。今モ ス。龍神 才 河原 神 ハセ。 ヲ 坐 二雨 取 ス。 豐受宮 彼川ニ ヌル當 態ニ 年魚 ハ降ケリ ア取 ヤ。當時 出テ 1 所 宮 Æ テ 年 A 八年 御 御 魚 網 神 7 取 A 7 前

> 年魚 凡定 降 Ш 原 ケ N ŀ ナ ヲ F 7 218 ŀ 古記ニ侍。 y_e 掃 申人有。 守氏ノ仁取テ 備へ奉ル 是神態五月也 大川ノ邊ヲ Ŧī. 月三日 也 古老傳 年 = 鮎 備 印 進 部 數

签

螢飛豐宮川ノユ 鵜船 1 籍 サス フ カ ャ ŀ 3 ソ 3 ıν

徃古 喜撰法師 川 出 1 シ。此次デ 名所 此河ニテ 1 1 螢ヲ讀シ歌ヲ t ニ書付侍リ。 鵜 ゥ = ッ 見 カ 工 Ł 侍 4 玉葉 ッ。 jν ニヤ 爱 集披 = 宇治· 見 古 ルノ時見 記 Ш = 鵜

木 ノ間ョリ出 イ サ ル 二海 ルハ谷ノ 士ノ海邊行 签 カ カ æ

Æ

清水

捧 備

小 戶川 H 向 清 國橋 1 水 、誓忌 結 1 テ 小 身 w 戶川 7 ナ キ イ サ 1 3 メ -7 ラ ۲ ~ ナレバ。內外

侍り。行水ハ身業ノ精進ト云人侍リ 神 ナレバ。サノ 祇 如 何 ŀ ミハノク 云 人侍ドモ。 ~ カラズ 伊弉 諾 トテス 宮坐

中ヲ

クル。皆マジ

ナヒ

ナリ。蔀屋作トゾ。大

华

至 ヌ

7

デ

ŀ

云義

ヲ以テ

其身ヲ輪

ヲ取。

度

白 雨 1 雨 ヲ 出 ヤ草ヲ笠 一坐宣 命 = 2

5

ス

رر

ン

夕立。

自。天 第誰 ニ用坐ケルニ Æ 上、素盞烏降坐御時。雨降 知 御事 ナレバ略之。其時草ヲ ヤ ケルニ 結テ笠 t 、其次

氷 室

氷 室 Ŧ 早振神 ŀ 云事 イ ッ 代 ハ。仁徳天皇ノ御時始ト哉 ヲ氷室 Æ 不聞 ノ始ナルラ 皇

押ナヘテ荒 和 ノ神御移]1]

荒和叛。

荒和 神。 六 月 晦 H 神 71 御板 先 ナ ノ事 コ 2 ラ タ ۴ ادر 年

> 御 裏 = Æ 秋二十首 ヲ行ト 其日ハ大阪トラ。朱雀門ニ出ラ百官

早稲

寂早秋 音セヌ風ノ宮木ヲソ吹 ハキニ ケリ 昨 Ħ 芝

侍。 初 宮ノ宮號ノ事ハ神統記ニハ正應六年ト有。 テ神能アリ。就,其種々在ド 被下。御宮號風 風宮級長月澄ノ御事。 い社 ニテ坐ケル 宮宮 ŀ 中奉 ガ。弘安年 朝霧滿タ リキ 略之。私三 此 リシ 宫 中 風 = 事 勅 H 云。風 亦 使 發 IJ P 7

秋霧。

不、審。

龍 田 你許 彦 見 神 路 2 IV ノ山 秋 カ 1 朝 ナ 新 =

四百三十七

立田 秋霧立隱シテ山ノ色不、慥義也 彦神。瀧祭ノ御神分神座 由。申人有。歌 1

七夕ノ夜ノ契モ朝熊

七夕。

守日ノ護ニテ坐 也 書有。彼宮ノ御鏡以上五ケ。內二面朝熊ニ 大朝熊 ノ鏡ニ彼星合 鏡ニウッス影 トラ坐也。二面ハ日天月天。是夜 ノ形寫リ玉 ルソホ ŀ ナ 一ラ由 * 書タル 坐

言止シ艸ノ垣葉ノヲミナメシ

女郎花。

デ、 命有シ御時。素盞鳥尊艸木ニ向テ言止ト御 ヲミ ル時。日神 シ玉 ナ ナメ ۴, へが。艸木物言。石岩吠。海川漂ナドシ タ 讀習 \ \ \ 3/ ŀ 尊黑心坐故ニ。草木マデ風虚宣 ナレトモ誰カ語ラン セル也。言止テ。素盞鳥尊天 女郎花ト 書ナレバ。名二

勅有シニ。上トノ

薄。 御裳濯ノ川邊ニ匂岩薄 昔フレッル袖加登曾見流

倭姬 以テ薄 三吉野ノ川邊 命ノ御裳 ノ袖ナト ラ ニ立ル岩ス、キ 讀侍ル也。 洗坐コト侍リ。左樣之義ヲ 。古哥。

釣スル人ノ袖香登會ミル

雁。

名無雉ノナラ

ヒモ

シラテ天津

雁

天津尊天上二坐時。地祇 今年モキ 又 ル聲ノ ヲナダメン + コユ トテ。 天

ラ 稚彦降坐。應加刺降臨坐處ニ地祇ノ女下照 ンガタメニテ。彼雉ヲ射玉フ。其矢天上ニ メ玉フ。天稚彦見テ。吾振舞ミセシ 太神ノ御前ニ落。其矢ヲ投降玉フ。天稚 ト契。報不」中。其後無名雉ヲ降シ是ヲ見 メザラ 至 セ

中。 中 神 iv 御名ヲ ŀ 7 私 彦國 云。 日本紀 見賀岐津與東見命ト奉 神代 二具也 。無名雉

天稚彦。 但 馬 圆 國 上部ノ宮ト申

庭 下 照姬 肥前 國 階武 ノ宮ト申。

小 男庭 カ スに タヌ タ占ノ道 モ ャ セ ~ 問 ノ遙ケサ コトノ

意 天津尊。天香久山ノ明神ニ詔有ラ御占坐。其 ノ歌 香 久山 7 葉若 カ下 二占 問 3/

カ 久 ヌ ク 庭 1 妻戀 ナセ ソ

暮 w ~ 3/ テ 五 jν ラ ン今日ノ饗忘ル 十鈴ノ原ノ萩 カ花 ナ

萩。

此 宮 忍穂井 = 御饌 ラ今 ヲ饗 日 八十讀 若 水 哥 = 汲初テ 度會家行。

> 五十鈴原ニ萩ヲョ 饗備 祭春 ١٠ 三智 牛 = 1 3/ IJ ス ル様侍

jν

カ

ŀ

云ハ。衣笠中納言ノ歌ニ。 白 露ノ手枕 ノ野ノ女郎 花

誰 = カ セ iv ケサノ除 波 7

手枕 作 例 ヲ尋 野一 侍。例是ヲス。饗ト書テミア 女郎 ルニ不、及トテ。ユ 花讀事如 何 十六 ルサレ 共 (比哥 ケル ~ ŀ ŀ 仙 3 Y 2

露

机。

光源氏物語ニハアルジト饗ヲ讀ト也。

白露 カ何 ソ ŀ 人 1 問 ^ ^ 宮ノ

光ヲ替 ス 居玉 ノ数 12

白 露 ノ哥。伊勢物語ノ哥ノ言寄思キ

槿 百枝 サス 竹 1 3

٠,

Ŀ

Æ

有

ナ

IV

ナ

百枝 刺 竹 ナ 1 齊宮 思 ナ = IV 有 槿 Ti 1 百 ٠, 枝刺 竹田 1 國 ŀ Æ

四百三十九

詠太神宮二所神祇百首和歌

名

天長元年九月。 齊宮 テ植ケル 之事 ŀ 也。 普 竹 齋宮ト云テ物忌ノ宮 天 ノ都ト云。 ノ 香久山 。齊宮 1 竹 ヲ 淳 根 ŀ 和 越 勅 天 = 使 皇 ₹/

苅 書 ハ ン v ŀ ナ ク テ + 亂 w ラ

和

3

IJ

ス

ク

w

又

サ

1

追

風

苅萱

ヲ被

、下。殿舍等ヲ造營ス。神宮ニ屬齋宮ゾ

初 苅 侍り。 萱 王 1 磐屋 フ 亂安 內 光源氏物語 ノ大麻也。 + 藏 坐 物 時 ナ = 然バ太神宮 諸 品神達種 源氏住吉詣 也 麻 K コ 1 ノ時色々 神 物 ŀ 派 ヲ 作 日 = ィ 神 リ

蘭。 麻袋 ト云事侍リ。

宇 禮 繊無油蘭カツ 造志野ト宣命・ 那 セ シ 草 ノ原 =

宇禮 座 志 ノ處 野 伊 7 世ノ名所也 尋行玉フ處ニ。 。倭姬命。天照太神 御鎮座 山

> 御覽給 F 嬉 ス。嬉ト云詞 シサヲ昔ハ袖 今夜ハ身ニ ٢ テ。 此 野 = 古歌 Æ 二級 テ 7 嬉 3 7 ٢ ッ カ ヌ 王 N カ ٤ ナ 3/ 3 y

括录

內 IV 外 茅 コ ŀ 1 カ 宮 侍 軒 撰 ヲ h テ = 葺 パ Ш 3 3 ナ 下 カ H 狤 ヤ 也 ハ P = タ テ 7 奉、苔。 7 3/ ヌ w ラ h 若若 Æ Æ + 相

交

駒迎。

渡會 駒迎 ラ宮 ノミ ス ıν 3 4 P 7 ヤ コ ۲ 改テ カ

F

ナ

九 餘 月 年 十四 豐受ノ宮 = Æ 日。御 t 成 ヌ 1 神馬下リ座 ラ 御 ン。于時寛 神 馬 退轉。 正六年 민 = 己酉秋 百八 +

月。

有

明

ノ月

讀

1

神

ノイ

カ

=

3/

ラ

北ハ月ナキ 方 ŀ " 蘿 虫 1 神 社 > 朝熊 ノ江 = 坐上 慥 =

申

人

侍

菊

ヲ去ル事。北一日一夜ヲ隔ト神

云義 常

也

ノ哥

ノ義

7 N

以テ

演侍

也

北

ナ

空

ニ幸行

ナリ

4

書等ニモ侍ルナリ。只月ト申義ヲ以讀。然バ

上

ニ有明ト置侍り。万葉歌

天

ニ坐月讀男麻

北

和

セ

2 4 - 0

今夜

ノ長伊保夜津紀

古曾

秋ノ菊 一ノ神 ラ花 二白 手 向 酒

取

副

ラ

=

ン

ナ

ス

九月 長月九日。 九日重陽 菊二 ノ宴トス。九い陽ノ數 酒取副。 備 ~ 木 iv 御 4 トス。 侍 IV 也

紅葉。

速秋津 御 衣 日 子ノミヤ 1 錦 ヲ jν カ 7 ŀ ノ Æ ソ ミチ 3 ۱ ヲ

此御 神 秋 ヲ位 坐 ス ŀ

ゾ

セ

ヌ ŀ

九月 盡

瑞籬 ノ ٤ サ + Æ 今日ハ 散 又 ラ

入日ニ 秋ノ聲ナ忘 V ソ

皇元 瑞籬ノ、久キト ルトゾ。瑞年ノ久シ 年正月廿八日。住吉 云義ヲ以テ。ヒ + ト云本 二行 * 哥 サ ノ事 + 時 ヲ 文 ン 御 德 供

1% 天

擣 衣

長月ノ神 砧 E 不清人モ不」聲 祭夜ハ此里

內外 云義 也 ノ御祭。四季二坐事也。其夜ハ音 古歌

月ャ送ル幣伊勢 1 海

波

ノ白

ユ

フ

カ

7

ソ

フラ

蘿 加虫ノ社 松 1 聲 ノ秋 ス w 神 夕 風 久 テ ソ 吹

虫

該太神宮二所神祇百首和歌

五人 ノ中 - 二。業平 中將進出 社壇二奉,近

付玉 と。 一首ノ詠歌奉玉フ。

我見テ キ シ モ久成ヌ住吉 ノ姫松幾代へヌラン

則玉 殿 真志戸君ハ白波瑞籬能 ノ御戶ヲ開。赤衣ノ童子出現。返歌ニ。 **外敷代依祝初天喜**

冬十五首

初冬。

御水雲ノミヤマーニ時雨キテ

御水雲ノ宮。豐受宮ノ内ニ坐ナド 與ヨリ冬ノ立ニャ有ラン 奉,申人有

時雨

松 風ャ小事 ノ磐屋古テタニ

天牟羅雲命ノ岩屋也。渡會ノ氏ノ Æ ラヌ 時雨ノ音ノミ ンソス n 先祖

> シ テ。 外宮錦ノ河内ト云處ニ坐

霜。

霜ヲ蹈星ヲ頭宮人ノ

有如トゾ。 入時霜玉墀曉踏。出時星丹闕合戴 云 3 ハ御板 ハ弓ト知。 視詞申拍手ノ音 ヲヤ ツゲノヲ 可、奉、申 ト云人有、之。譬ハ グシト 云細ト知理リ 1

۲

鞆 7 ۲ 1

霰。

山共。 豐受ノ宮ノ 霰敷玉串ノ葉ニ通フラシ 加利加佐攀卜モ申也。古歌 高佐山邊ノ峯ノ 御前 ノ山ヲ高佐山ト云。 松風

叉高倉

君カ代ニ濁ハアラシ高倉ヤ 麓ニ清キ忍石井ノ水

浪 風 ニ濱ヘノア

≥/ ۲

枯

IV 7

p

= 坐

ろ IV ソ 齊宮ノ別名ト侍。 ノ宮 伊 蘇 内宮ノ別宮坐。五十ノ宮ト ノ宮 人袖 ヤ寒 ラ カ キタ

最 宿 Æ 嶋 カ カ 3/ ケテ コ 3/ 立鵆 心 シ テ ナ ヶ

鵆。

花 宿 天 正 シコキハ恐ル、義也。尤恐ト讀也。譬花山院 成 浦 Ш 照太神二見ノ ノ宿有。仍宿下云。次ノ日御覽玉。然八二見 シ 寺 トモ云。イトモトハモットモノ義也。 人 ニ坐ケル 讀 3 也 歌 浦二遷幸成。 = 都 ニ御所ヲ立移給時。 共 日 幕 ラ 御 カ

万葉 ノ歌 ŀ 云 h = 7 ハ 尤恐花 v þ ナ カ ノ山 ン鳥 = ノ音 E カナ

1

山 フ岩ニ 問 玉 フ 苔生 カ Æ 念不堪國

雪。

神 風 ヤ五百枝 杉 ノシルシ ノ雪ノ春 少シミ 一等 ツ テ

百枝 ケル 記 五百枝ノ杉。豐受ノ宮ノ御 ノ事。往古千枝ノ祭主ト申セシ = 杉ヲ。則干枝 ノ杉之事 。豐受ノ宮 ノ相ト ノ御降臨 カ ナト 神木也。千枝 被中 人ノ 人侍。五 植 Ŧ 1 本 椙 ٤

沙。

祭 ス ル小野ノ古江ニ結手ノ

水 モ 潮 毛 ケサ 氷 ツ

板田 古江 齊宮 御 ノ橋其道 = 出 坐 座 フ時。 テ トゾ 御浴有ケル 太神宮参詣ノ毎 ŀ カ 17 ヤ 彼 小 俣 小 H 野

水鳥。

鴛鳥ノ鏡 番 ガ淵 7 in 床 二影 ヲ ヲ見 テ ッ

鏡 ガ 淵 御裳 濯 川ノ末社 也

網代。

宇治川 網代 や黒木 モヤナモ打へキ物 ノ橋ノナカリセ 7

Ш 宇治川奉、恐以テ羨也。黒木ノ橋內外ノ宮有 城 ノ字治川ニハ。 網代 ナドモ 在ド モ コノ

之。

神樂。

執庭 ノ謌長笛生ノ

聲サエ渡ル夜コソ更ヌ v

人參向。是等龍神本也 冬十二月ノ夜ノ祭ニ。謌長琴生笛生トテ。 役

鷹

イ Ŧi. シメノ内ノ宮人トカ 十鈴 ノ原ニ鷹獵ヤ セ ハメス

ガ 原 ト云 П 質 十二六 へい。鈴ニ 社記 付。原ニ付テ思寄ケルカ。 ニハ。鷹獵禁方有。五十鈴

> 內 榊 宮 持八ノ石壺踏ナラ ۴ 讀哥

君 ロヲソ祈 ル内ノ宮人

炭竈。

炭竈 誰カ下部 1 æ 坂 セ ヌ ノ有テフ Ш =

下部 1 坂ト云處アリ。名所也

埋火

饌者 ナス宮ノ 埋火ニセン寒キ夕合 御新 イサ・ラ

除夜 御饌 也 ゾ。御薪禁ズル 木五種有之。爨トハ 竈ノ名 玉フ中ニロ女ト云魚ニ鉤ヲ食。 見 口女ニ向テ。天ノ孫ノ 饌ニ参ナ ルノ尊鈎 7 ヲ ヲ魚 Æ , 二食。龍宮二尋行玉 ŀ 讀事ハ。日本紀ニ 是ヲ取。 ト云ケ フ。鱗 彦火 龍 7 N

神 集 出

天照豊受ノ神ノ宮人ノ

十二月卅日。灯油トラ り。此外無。子細。天照豐受御降臨記ニ有之。 火 トホスカケニ年二合ケリ 御火ヲトボス **=** トア

初戀。

戀十首。

神ノ世ヲ立初 シ當時 ヲ敎 t

Ի

4

テ 7 文ト成。重ハ 六合ト云ルハ。太初ノ一氣始ラ相別。清ハ天 凡契ノ始ヲ思へパ。二神トヤ奉、申侍ラン 開 ム歌 坐テ哉。 戀ステフコ 又鳥武見尊。妹下照姫ヲ思カ 地理トナリシ ヲキケ 3 リ。天祖初テ氣 我

鳥 羽玉ノ我黒カミモ亂レ ヌ =

是三十一字第二ノ歌也 結定 ョ小夜 レノ手枕

> 我名 道 個 モラサヌ手向ナ ノ神 ナラ

ヤ

衢 ア神 ト奉、申ハ豐受ノ宮ノ別宮ニ サハ 坐。

不遇戀。

ノ而り

隔 ス 思へい = 祭ノ庭 ゥ ス キ我チキ 點分 衣 y 哉

ニ有之。帷帳。コ キヌノ名也。御戶帳ナト、中也。幌ト書。百詠 ŀ ۶,۰ リキヌ トハ。御祭ノ時。御門等 レモ 帳也。 ニカ " ル

初逢 戀

御清 月 繩 = ŀ トハ注進 カ 4 フ 君 テ 汐 カ 心ヲ ノー 1 2 名也 jν 御 末 清繩 小ノ遙ケ サ

後朝戀。

相 見テ 神 シ カ 後 4 ッ 1 朝 in P = 情 行 一成ラン 人

售 戀

力 サテ外具ノ嶋輪 命 ソ人タノメナ ノ長柏 iv

再

拜

1

橋

ŀ

倭

天津算

Ï

御

鎮

坐

ノ山

神女ト 、用、盃トロテ。神女ハ失玉ヒケルトゾ。然バ風 別 日 新御神態ノ 日ハ。必外具ノ 嶋ヨリ 宮 = オ 風 ホ H シクテ。三角柏ヲ持奉坐テ。 前上 中 神態有。 ノ事依、茂略、之。 徃古ノ事也 柏参ケ 是可 彼

吾妹子カ御裳濯川 人ヲ三角ノ柏 ト思 岸 = 生ル IN

ŀ

ゾ。萬葉歌

柏

旅戀。

思事 有テ旅行道敷

道 敷 加 1 神 神名 リ賜ケ h 月ニャ手向 伊弉諾尊帶ヲ投給 jν ヲク ラ t シ ニ。其

1

ナ

ŀ

新津 立 N 名 猶 再 拜ノ 7 IV 橋柱 オ Æ t P p

> 再拜 ラ御覽坐。 ト書テ二度拜スト讀。 彼橋 ニテ拜 有シ事ヲ名トス。

片思。

片割 似 ノ千木モ タ IV = 內外 ŀ ナ N = 我 替 思 ツ カ ナ

|宮ノ千木 片割ノ千木 誓 八同 1 シ伊勢 片 內外 割 替 = 19 替 神 IV 事 垣 ヲ。 h Æ 風 雅 集。朝

恨戀。

1 サ・ラ 岩長 姬 رر 恨 神 jν = 代 ŀ ヲ止テ Æ ゥ 3

神ノ 始姉 吾ヲ留坐バ。産 テ留給。其時姉ノ磐長 不、奉、逢。然以返坐。其後妹ノ木花開屋姬ヲ召 御 ノ岩長 代 = 拿 姬 坐 ト云ヲ召テ御覽ズルニ御 ラ ケル ン子ハ石金 カ。地祇ノ女ヲ召玉 姬恨妬テ。是ヲ詛テ ノ如 クナラ 心

曉。

方二大躍み指示の大躍を指立られる。暗響サストラ打トケモセス時ヲ守曉ヲ待宮人ノ

ハ曉ヲ拂ヒ。タニハ黄昏ニ着。明方二大饌ヲ備奉。夕大饌奉、備コトヲ。朝ニ

松。

シヲ。御降臨ノ御時。彼靈物尋。伊勢ノ玉拾 天照太神自₁ 天上, 三種靈物 國 二御遷幸。其日暮テ御一宿 タ ろ = 千歳ノ松 代フル ŀ ト云テ Æ 神 ケ ソ ヲ投降 シ ıν ノ嶋有。 ラ シ 坐 13 7 宿 礒 관

勢產命少產神、龍宮行去坐。依 彼岩屋二坐神達恐坐テ磐ヲ 宮 ニ。御氣津ノ御 1 高坐山 住所。春戸神石室。此神達。雄畧天皇ノ御代 ノ御神前ノ山也。十二等屋有。伊勢津達命 ト書テタットクマシ 二神度會ノ沼木ニ御降臨ナ 出 マスト 4: 去給 二略之。 トン。伊 3

鹤。

昔葦原ノ中ニ千鳥ノ鳴聲晝夜 介,見,鳥。其長 ヌ。其倭姬命。鳥須良太神 タルヲ食テ鳴。 秋 ノ田 思 Æ 穂落ノ神ノ 外シ鶴ノョ 一丈徐 勅使見時。穂ヲ落 ノ領。 ロツ 古 ラ御 ヲ 稻 代 ノー本 饌 不止。 料 3/ 啪 1 神 木 T. 21 -枝指 الإ Ĥ ラル 7 勅

蘿。

號嶋

F

ト也。又云。札見ノ浦ト云義を有之也

奉、申。次日彼浦御覽坐。故ニ二見ノ浦

ŀ

卷第二十八 詠太神宮二所神祇百首和歌

四百四十八

社朝熊ニ坐事慥也。

帅

鷲日山 是ソ 遙 成鷲 此 トハ太神 神 上不見鷲 川高根 代 1 春 宮御饌坐ノ山ノ名也。舊歌 八花 ノ雲井ョ 日 山 = 殌 櫻 ŋ V y

影和クル月讀ノ森

河

百船ノ度會宮ノ御川成

多ト云義ナルベシ。坐ユへ也。百船度會ト云キ。百舟ト云ハ船ノモ。百船トモ云ハ。昔ノ髯神御舟ニテ通用シ豊受宮ノ御前ヲ流通川侍。今ハアセ 御池ト

万葉歌

通而可往濱有七國 通而可往濱有七國

野

昔湯 調 ヲ作リ。紅ノ糸弦ヲ掛。 = = いラ神前 テ下向。貞觀年中ノコト也。兒手柏ニテ弓 贄掛 ヤ。彼勅使ヲ獵之使ト云。業平中將。此勅使 田野ニテ鴨ノ子ヲ 湯田 志狩之使之道絕 二備 一野爾鴨之子雄屋養育 ヘケ ルト 。其弦ニ 歟 取テ贄ニ備 天 テ鴨 天 牟 IV ノ子ヲ切 事 侍

山家。

國 彼 後伊勢國山田 御 = Ш 居置 井ノ御事。自、天上、結降坐。始ハ筑紫日 井 里 単学朝 新ノ神気ノ ノ水ヲ吞 "其後丹波國氷沼ト云處二奉,移 原二 ノ水ヲ結身 ノ惠トハシ 長田ノ稲 移配置。 倭姬 ノ種ヲ 命 食 紀 二日。天 神

ŀ

毛

7

7

リアリ

今日 トイへ ر ر 田 闽 ノ秋ニ打出テ

稻落ノ神 入川月ノ 穂掛 コト也。 ノ稻ヲ先 神垣 イソカ ニ稻ヲ掛コト有。是ハ ナン

海路。 海 童屋 豐玉 姬 ノ俤 ヲ

ノ神ヨリ發シ御事ト申人有之。

此 段。 具日本紀有之。

三殘

ス

月夜見能神

旅。

賀利 百 爾問宿之衙ノ香壽香壽雄 ノ机ニ備天會見ル

百机 鰭狹毛能等ニャ。種々嚮リ奉備 上云 八。多年机上云義也。 万ノ物ヲ喬。譬

別。

添 タニ 毛 別ノ道ヲ悲テ

關。

泣澤姬之事。珍義不、侍。

泣澤

姫ノ名ヲ残

シ

ツ

祭執伊勢之使之都出テ 今日逢坂ノ關ヤ越ラン

事。春夏秋冬御祭有之。 天照太神宮 豊受太神宮ノ御祭ノ 勅使

下向

橋。

音ニ聞下樋小川ノ橋 引渡 3/ ケ ン御代ノ遙ケサ 初テ

懷舊。 別義不時

齊主ノ神トハ。花表ヲ守玉フ 鳥居ヲ守吾モ老 齊主之神 1 昔ソ遙成

夢。

玉ノ夢ヲ賴ト教置

ゥ

四百四十九

卷第二十八

詠太神宮二所神祇百首和歌

神 惠ヤ ウ ッ 、ナ jν ラ

天 御 世 事 津 这 尊御託宣ノ御停止之御時。 如 10 ٢ 御 尋御中ノ時。夢頼 倭姬皇女。 ~ 末

述懷

1

末 ノ世 殘 モ 三天之日鷲之神態之 遠キ白 和幣哉

種 作給。依事多略之。 H R 神 天岩屋藏 御 能シ 坐時。諸 玉 一フ時。 神達 白和綿ヲ 御戶之前 日鷲之神始 ニシテ。

カ ナキニ 思 久シ モレ 瑞籬 テ老ペテ仕へツ、 ノ内

瑞籬 子細 前書

神祇

神 風 ヤ 級 於長戶產 ノ夷 モ治 ノ昔 = 7 IJ IJ

> 退散ス。是則別宮風宮之神。科長津彦命 現ジ。光ヲ放 為,降伏,太神宮 蒙古亡宣ノ船。消海ニ滿。 人皇九十代帝後宇多之御 Ł 玉フニャ。 飛廉 風發ラ海上鳴動 神風ト云義モ侍也。前 シ。阳候波 二、勅使 ヲ被遣 ヲ上シカバ。異賊忽 旌旗 シ。神威 時。 弘安四年之夏。 。其旨啓自 H グラ顕 ヲ耀 シ。形 141 向 = ヲ

祝

石臺 ト侍モ。古哥二樂々石ヲヨム 智 君 トハ内外宮ノ カ カ代ハ千代ニヤ千代ヲサ、 朝夕祈 代 ハ神樂石臺 jν 數積 神官 ju ノ内 ラ ノ拜所也。 = 3/ 歌 テ 石 神樂石臺

۴. R 4 侍 石 モ ኑ 人有之。 同 義也。石壺。當時ハ七 小 7 ト成テ苔ノムス 石 ノコ ŀ 北 樂 Þ モ 八モ有 波 樂 K

न

7

ラ

水

 ν

千六百 名 坐少 古 ग्रेष 叉 郡 州 交。 十餘町之下 洄 ılı 蛇之窟宅也。 河 自 儞 福武 相 狀之淵 海 山 此 有八 腰 H 何 女 字 潮 道 此 Vir 五 雲 泉 姬 來 出 去 岐 + 往之溪 浦 河 矣。 雲州仁 而 對 到 蛇而 射 年昔 流有 出 我是 其中 上二 斗 去。杵 其女甚美。素戔烏尊問 馮 頭坂麓長者原。但有,老翁 牛 居其中焉。 至自 曲 我名手 焉 一字居 此 多 以樋 大蛇食、敢國 一里有 築海濱 間 也 地主 今大永三年癸未,也。 那 竊按,唇數,二百三十四 今 相 也 三澤 餘 通之河 摩乳。 逢者少也。於越經 也。已得,長 惟 旣 有 ---潤 時 鄉 深 是故八色雲氣 。妻名 許 素戔鳥尊被調 水 樋 溪 東 里也 袞 河 國人將、盡。 故 脚 K E 者 天地 Ħ 摩 。去温 然。為 呼 天 乏 乳 淵 稱 水 何爲哭。 三神 者 嫗。 文 泉 漲 爲 117 常 萬 生 故 樋 河 中 原 起 匹 流 上

重

墻

男。

今 我有八 我 于 女。 歲 歲 八 時始詠三十一 去 可 也 雲起。 以二 が解 者七里。搆,八重墙 兒。經 無由 人 出雲八重墙。 愁 交 宛 脫 年而 一母喜 故 被 文字和 哭。 镃 共 日。諾。素戔鳥 進雄 牲 妻籠 於佐草里。 歌一曰。和歌三十一字 雖 已為 鈴無 然。 ıııi 蛇 伙 如 八重墙作 被 歷 此 约 ilii 光欲 不 ,女於其中。 E 1 Dil R 此 殆 少 女 此 於 女 弘

仰 叉 火 木 共 重 依 見、之以 如 畑。其 見山 作。艾 蛇 墻 火 -也 此 何形 天 而 御 明 偶 頂無端 鳴 舌 詠 如 神 如紅 女 真 響。 日 對 國 是也 装 名出 女 E 爾 月 之置 其 便矯 吞 素戔 光輝。上下 共 TÎÎ 雲盖 支女熱悶。 可怖也 大 後 東 鳥 齊。谷岳。出窟 八 素 尊計 奇計 ili 頭 起 支 頂。其影沈 牙如、交、剱 八页 E. 於 飲八槽。 绵 此 素戔鳥 巡 八 矣 足如 te 置 III 稻 槽 或湯 何. 八 州: H 拔 1 1 原 槽。 槽 新 如它 4115 所 Fill 煌 新 天 73 刑 旭 蛇 如

卷

神 ノ惠 p ウッ 、ナ jν ラ

册 律 及 **鈴御託宣** 如 {nj h ノ御停止之御時。 御尋御申ノ時。夢頼 倭姬皇女。 ベ 末

ŀ

末 1 世 三天之日鷲之神態之

作給。 神 天岩屋藏 依事多略之。 殘 御 毛 態シ 遠キ白和幣哉 坐時。諸神達 王 フ時。 白和綿ヲ 御戶之前ニシテ。

種

カ ナキニ 思 久シ モレ 瑞籬 テ老派テ仕へツ、 ノ内

瑞館 子糾。

神祇

神 風 + 級長 ノ夷 戶产 Æ 治 ノ昔 ニケケ 3 ŋ IJ

P

退散ス。是則別宮風宮之神。科長津 現ジ。光 為"降伏」太神宮 蒙古亡宣 人皇九十 ٤ 玉フニャ 飛廉風發ラ海上鳴動 ラ放 ノ船。浦海 14 。神風上云義 帝後宇多之御 シ。阳候波 二、勅使 三滿。 ヲ被造。其旨啓白之處 ヲ上シカバ。異賊忽 シ。神 モ侍也。前書 旌 時。弘安四年之夏。 旗 威 H ヲ耀 ヲ顯 : 彥命 シ。形 1 间 ヲ

祝

日鷲之神始

ト侍 ۴ R 君 智 侍 カ代ハ千代ニヤ千代ヲサ、 中 石 トハ内外宮ノ 神官 カ モ。古哥二樂々石ヲヨ 朝夕祈 代ハ神樂石臺 ۲ 人有之 同義也。石臺。當時ハ七 少 ト成テ苔 jν キ 數積 石 ノコ ノ内 jν ラ ノム ラ拜所也。 ŀ 也。 = ス シ 樂 ラ N ν テ モ八モ有 波 石 神樂石靈 樂 々水

名 州 交。 古 Ш 河 西 叉 郡 十餘町之下 洄 蛇之窟宅也。 自 派之淵 福武 山 儞 相 海 陰 137 有八 腰 田 何 女 字 潮 道 此 淵而 泉浦 雲 五 來 姬 去河 出 一而泣。其女甚美。素戔烏尊問曰。何爲哭。 岐 + 往 矣 雲州仁 對 到 蛇而 射 之溪 年吉。自《天照皇大神即位甲寅》 流有 出 其中 我是 上二里有 「八頭坂麓長者原。但有」老翁嫗。 斗 去 焉 秤 牛 居其中焉。 焉 曲 我名手 一字居 多 此 以樋 大蛇食、噉國人。 間 築海濱 也 地主 那 竊按,曆數,二百三十四 -也 相逢者少也。於越經 今既 三澤 餘 通 摩乳。 也。已得,長 惟 有 之河 + 潤 時素戔烏尊被調 鄉 深 是故八色雲氣 妻名 許 水 樋 東 溪。名"天 里也 袞 河 國人將、盡。 加摩 故 Ŀ 者之 N 天地 。去温 然。為流 天 呼 乳 淵 水 稱 二神 為 文 泉 1); 常 萬 "生 女 故 樋 泂 中 原 起 匹 流 上

重

墻

男。

今 我有。八 于 我 歲 女。去者七里。搆。八重墙 歲 時始詠三十一 八雲起。 可解 也 以 兒。經 無由 此 出雲八重墙。 V 秋 交 宛 脫 年而 个母喜 故 被 文字和 哭。 犠 其七 日。諾。素戔鳥 進雄 性。 妻籠而。 歌曰 於佐草里。 雖 已爲 貨無然 之例始:此時。 蛇 八重墙作 如此 被 隱,女於其中。 约 m 光欲 不 日 1 Di R 此 殆 女 少 此 业 於 女

如 仰 叉 火 木 其蛇何形 重 依 見之以 見山頂。無端吞。艾女熱問。 畑。其 墙大 作。支偶 火 世 此 m 御 明 鳴 舌 詠 如 神是也 響 女 如紅 H 對 國 一裝 名出 女 日 网 月 其 之置,東 便矯 光輝。上下牙如、交,剱 素戔烏尊計 其大齊,谷岳 in in 可、怖也。八頭八 雲,盖起, 後素戔 八 ili 如 頂。其影沈 鳥館還,長者 於 飲八槽。槽 奇計 出流 此 素戔烏 矣 足如 門 IU 稻 一成。赤 19 八 il: H 拔 E 3 原 槽 槽 新 姚 所 少 家 天 間 75 起 佩 蛇 如

尊奉。一一 之來 瓊々杵尊、降,此國。付三神器、為,國鎮。劍其 釼江州伊 兮我々兮。 分見、之鐵壁猶我々兮巍々兮。又東岸 横塞: 大蛇之熟路云、爾。 今篠竹也茅茨也 淵窟,通,八頭坂。山底之熟路也。 昔長 頂 湖 成 置,八槽,地。乃天淵之坤隅也。中古燒鹽濱也。 流落處。 鳥 累世為" 握剱 剱。盖 東岸是也。 田間之鹽 也島 次八本 乃大社杵 。此杵有『深秘』以定』宮居於杵築濱。土也。素戔根郡十八里山是以定。宮居於杵築濱。素我。 十餘丈 天照太神。太神曰。我屏,天岩屋,時。落,此 謂,之三刀屋尾崎。蛇枕寄處。謂,之草枕。 斬,蛇 國寶。 八雲從此 布貴山。是我神釼也。 杉 東岸有 皆銕塢也。居人謂之銕築地。蛇從 寸 H . 築大明神是也。 寸々蛇流滯所。 其後素戔烏繩,杵緊, 浮,浪山十八 ,矣。腹皮流止處。謂,之皮原。八 々。 悶熱宛 起 至足 矣。 樵 徑。 轉 天叢雲 刄 匍匐黑跡 少缺。 樵徑已上 太神 割,是之中 命,其孫彥火 猶存,岩。 者以"冶銕 Ш 腹 至 有 今 謂 絕 尾

邪神 正年中。 是偏大蛇靈魂所為無疑。又八頭坂左右有。葛根 皇八十代安德帝。尼被、抱件賓劔挿、脇海底沒 也 大蛇燒死。人皆拾骨築、塚云、爾。 前。 廟。 廟 無滴水。蓋蛇窟宅云、爾。又淵 氣雲,云々。抑天淵八岐大蛇由來者。日 築地。俄有」陰雲。雷 上。郡吏三澤遠江 而蔓延。長覃,岳谷。是尚大蛇遺子也云 種生,大蛇,歟。 盤渦之底有三尺餘圓穴。其中 寶య靈威, 良冶石 淵 又村雲剱。 蓋好古人為、之乎。又居人傳語云。八九十 天淵之傍有 也 西岸耳有。脚摩乳廟 當國大守京 依此途 終內裏治。而三種神器其一。當 則素戔鳥尊以, 天火, 。大杉。或時雷落縣。 一守使, 對治給。 剱換 雨頻而人皆飲氣。猶有 極源光祿 , 役吏芟、除草木。歷 打 也。按之上古未有之 人皇十代崇神帝。 舊鱽伊勢 東 渺 為遊 Ш N 往昔靈 燒倒。其中 曲 水 燒 寬 有 也 本正法 太神宮奉 一々。又 到 之言 手摩 蛇之苗 茫 麺 覽 17 恐 傾 蛇 傳 间 河

五 行。 誦 百 叉 還 條 日 剱靈威非,尋常,又 七日。提 袈裟到 熱田 深 心 賴 作 近江 劒出 神 一剱八枚一 祇。 浦 也。 裘 生 /持誦 俄 郡 九 奉、代今末社也 然 條 也 Ŧi. 雲從 袈裟 4 黑黑 日 空來。 遠 叉取 F 到筑紫。 作 道 称之。 劔 収 行持 如

化

欲 念 道

宗募,權 宗之心。醒』 給。以 歸 云。又四十五代聖 逐 是又杵築神 本國 蹴 舟 威。 破 Ш 之處。 船。而 欲取 H 神 尾 本 倩 州 天照太 奪 智 給 道行沒 重增妃 武。 取 多 生代 本。 之 四 郡 神 一十六 志 于 宇 死。 之所作 與 楊家 給 津 時 寶劍又還,熱 代 美浦 H 誠 孝謙帝問 幡 本 illi 一貴妃 也。又八 大 為 兩 歸 11 神。 熱 楊 如 前巾 上 处 失 Ш し
岐
大 H 李 祇 Į. 亂 天 店 給 計:

玄 云 F

塊 4 該

Z

以心治

水

一醒給。

名。醒井。雖然終

惱

崩 而

原。後

白

鳥 其所 。算學」御

消

遙

依斯名

白

鳥 字

也。

其 III

後

欲 時

奪 T.

管

颤

也

足

一蹴殺給。仍毒

氣止 重

伊

布

貴

Ш

麓。

先

八岐蛇靈出,黑雲,為

怨。 惱

地

火。木

倒

H

中

為

·熱水。故

號

熱

田

世。

此 劔

拿

Ŀ

浴 霊 宮

妃許.

御心移。

久留 為東夷

時。

剱掛

松

木給

出

迅飛 言 夷謀 太神

尊

扬

揮

給 子 FL

四方一里。

草木没伏

其

火

ill:

地宜

遊

獵 劒

太

諸

于

時

夷

賊縱

火枯

草。

焰

新

劔

給。

第

景行

帝

宇

東

宮神

劔

賜 冷征

之赴東

武 可

尊

到

駿

河

浮

島

原

本

武

尊

伐

也

奪

東 代

征

之時。

先詣 御

伊

勢

云。

太子

雄

健。

盧

菲 也。

一同

當

為奇

計

卽

自

然止

也

初

此

劔

在足

起雲。

故名,天叢雲。今

至

草薙剱

武

對治

後。

於尾

州

熱

H

國

豐浦

也

杵 來

築神 筑

靈暗託』胎神

功皇后

御

腹

古 癜

塵 尾

輪 借

者 飯

> 紫 四

為

流矢一仲哀

崩。

葬 蛇

長

門 化 資 褒

劔 野

州 化

熱

田

第

+

代

仲哀帝

御

霊

四百五十二 四百五十四

御事也。 一个奉子。誠杵築天照兩神爲,日域普生,哉。難,有 天下大治瑞示也。仍出、釼奉、獻。故神宮祭主至 云。此國靈劔久失。王法國法不行。今寶劔出者。 叁。一旦安濃郡海上有。一光漂,波而來。佇立見者 也。又建武亂後。伊勢國桑名郡何氏。爲。神宮月 將源九郎義經。杵築右方所, 祭門賓之所, 為, 化 海底。寶劔久失。此彼大蛇之所、變也。平家追討 一剱也。帶此到。太神宮,于時山田原託。一小女, 日。長門浦被抱。二位尼帶,寶劒於腰,八歲時人 起"源平鼠。赴"西海。文治元年乙巳三月二十四 為取"此剱。生,八十代高倉院 一言仁。稱一安德 大

右雲州樋河上天淵記以小野高潔本挍合

昭昭昭昭 和和和和 ++ 年年年年 十十四四 月月月月 二十 十五 日 日 日日 三再發印版版 發發 行行行刷

FD 即 刷 刷 者 所

丹

東京市豐島區西巢鴨二丁目

三五五七

PL

沿地

義

堂

印

刷

所

行 者

發

東京市豊島區西集鴨

續東 京市 書島區 ~ 池 從 袋 完工工工目

表不

者地

田 二 藤

會一 150

PU

郎

羽 自二五 誠 七 14 否

地

郎

東京市豊島區 振替東京六二六〇七・電話大塚七 群 池 書 袋二丁目 類 一〇〇八番 從 完 成 地

會

發

行

所

配 紀紀元 淡路町ニノ 九圆 H 本 出 版 配給 株 式會

社

